

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部/学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシツ オオタニガクエン 学校法人 大谷学園								
フリガナ大学の名称	オオタニガク 大阪大谷大学								
大学本部の位置	大阪府富田林市錦織北三丁目11番1号								
大学の目的	本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める大学として学術を研究教授するとともに大乗仏教の精神を尊び、学識、情操、品性にすぐれた人材を育成し、もって社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	心理・福祉学科は、人が生涯にわたり心身的及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間社会学部	年	人	年次人	人		年月第年次	大阪府富田林市錦織北三丁目11番1号	
	心理・福祉学科	4	50	—	200	学士（心理・福祉学）	令和6年4月第1年次		
計		50	—	200					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	文学部 日本語日本文学科 [定員増] (5) (令和6年4月) 文学部 歴史文化学科 [定員増] (5) (令和6年4月) 教育学部 教育学科 [定員減] (△40) (令和6年4月) 人間社会学部 人間社会学科 [定員減] (△20) (令和6年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間社会学部 心理・福祉学科	講義	演習	実験・実習	計	128単位			
教員の組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人間社会学部 心理・福祉学科	4 (4)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	111 (76)
		計	4 (4)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	— (—)
	既設分	文学部 日本語日本文学科	7 (6)	2 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	107 (107)
		歴史文化学科	6 (5)	3 (2)	0 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	102 (102)
		教育学部 教育学科	16 (17)	12 (13)	4 (4)	0 (1)	32 (35)	0 (0)	117 (117)
		人間社会学部 人間社会学科	4 (5)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	128 (128)
		スポーツ健康学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	117 (117)
		薬学部 薬学科	19 (19)	12 (12)	7 (7)	15 (15)	53 (53)	0 (0)	57 (57)
計	58 (58)	35 (36)	16 (18)	15 (16)	124 (128)	0 (0)	— (—)		
合計	62 (62)	40 (41)	18 (20)	15 (16)	135 (139)	0 (0)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		56人 (56)	45人 (46)	101人 (102)					
	技 術 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	8 (8)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	37 (37)	37 (37)					
	計		58 (58)	90 (91)	148 (149)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	68,269.615㎡	0㎡	0㎡	68,269.615㎡					
	運 動 場 用 地	9,283.150㎡	0㎡	0㎡	9,283.150㎡					
	小 計	77,552.765㎡	0㎡	0㎡	77,552.765㎡					
	そ の 他	5,254.235㎡	0㎡	0㎡	5,254.235㎡					
	合 計	82,807.000㎡	0㎡	0㎡	82,807.000㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		45,299.63㎡ (45,299.63㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	45,299.63㎡ (45,299.63㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	53室	30 室	67 室	9 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 1人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		人間社会学部 心理・福祉学科		11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルは学部別での特定が不能なため大学全体共用分を含む。 大学全体 図書468,217〔75,567〕冊、学術雑誌4,869〔122〕冊、視聴覚資料8,463点 機械・器具及び標本は、人間社会学部での共用分。		
	人間社会学部 心理・福祉学科	69459〔12605〕 (63786〔12548〕)	5228〔5101〕 (5228〔5101〕)	5099〔5095〕 (5099〔5095〕)	3363 (3159)	327 (327)	6 (6)			
	計	69459〔12605〕 (63786〔12548〕)	5228〔5101〕 (5228〔5101〕)	5099〔5095〕 (5099〔5095〕)	3363 (3159)	327 (327)	6 (6)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	3,780㎡		378		450,000					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	5365.79㎡		該 当 な し 該 当 な し							
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究図書補助手当(18万円)含む 薬学部を除く3学部全体 大学全体での共用分 電子ジャーナル41988千円、データベース4973千円、その他1998千円(運用コストを含む)
		教員1人当り研究費等		380千円	380千円	380千円	380千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	540千円	660千円	660千円	660千円	660千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	0千円	2,675千円	2,900千円	3,095千円	2,935千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,430千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			法人からの繰入収入をもって、充当する。							

大 学 の 名 称		大阪大谷大学							所 在 地
学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度		
	年	人	年 次 人	人		倍			
文学部						1.08			
日本語日本文学科	4	50	—	200	学士 (日本語日本文学)	1.12	昭和41年度	大阪府富田林市錦 織北三丁目11番1号	
歴史文化学科	4	50	—	200	学士 (歴史文化学)	1.05	平成12年度		
教育学部						0.74			
教育学科	4	230	—	920	学士 (教育学)	0.74	平成16年度		
人間社会学部						0.92			
人間社会学科	4	80	—	320	学士 (人間社会学)	0.83	平成17年度		
スポーツ健康学科	4	100	—	400	学士 (スポーツ健康学)	1.00	平成24年度		
薬学部						0.89			
薬学科	6	140	—	840	学士 (薬学)	0.89	平成18年度		
文学研究科									
国語学国文学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (国語学) (国文学)	0.08	昭和50年度		
国語学国文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0	昭和53年度		
歴史文化学専攻 (博士前期課程)	2	4	—	8	修士 (歴史文化学)	0.25	平成16年度		
歴史文化学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (文学)	0.33	平成16年度		
薬学研究科									
薬学専攻 (博士課程)	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.50	平成31年度		
附属施設の概要	名 称：薬草園 目 的：研究・教育教材の提供 所 在 地：富田林市錦織北三丁目942番1 設 置 年 月：平成18年3月 規 模 等：2,378.03㎡								

既設大学等の状況

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間社会学部心理・福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目（必修）	宗教学A	1前	2			○								兼1
	宗教学B	1後	2			○								兼1
	コンピュータ技術基礎 I	1前	2				○							兼1
	キャリア概論	1前	1			○								兼1
	新入生セミナー	1前	1				○		4	5	2			
	いのちを共に考える	3通	1			○								兼1
	小計（6科目）	—	9	0	0	—	—	—	4	5	2	0	0	兼4
共通教育科目（選択必修）	英語A(コミュニケーション)	1前		1			○							兼6
	英語B(コミュニケーション)	1後		1			○							兼6
	英語A(総合)	2前		1			○							兼4
	英語B(総合)	2後		1			○							兼4
	英会話A	2前		1			○							兼1
	英会話B	2後		1			○							兼1
	英米文化を学ぶ	2前		2		○								兼1
	メディアの英語	3前		2		○								兼1
	ドイツ語入門A	1前		1			○							兼3
	ドイツ語入門B	1後		1			○							兼3
	ドイツ語会話A	2前		1			○							兼3
	ドイツ語会話B	2後		1			○							兼3
	ドイツ文化を学ぶ	2前		2		○								兼1
	フランス語入門A	1前		1			○							兼3
	フランス語入門B	1後		1			○							兼3
	フランス語会話A	2前		1			○							兼3
	フランス語会話B	2後		1			○							兼3
	フランス文化を学ぶ	2前		2		○								兼1
	中国語入門A	1前		1			○							兼6
	中国語入門B	1後		1			○							兼6
中国語会話A	2前		1			○							兼6	
中国語会話B	2後		1			○							兼6	
中国文化を学ぶ	2前		2		○								兼1	
朝鮮語入門A	1前		1			○							兼5	
朝鮮語入門B	1後		1			○							兼5	
朝鮮語会話A	2前		1			○							兼5	
朝鮮語会話B	2後		1			○							兼5	
朝鮮文化を学ぶ	2前		2		○								兼1	
日本語 I	1前		1			○							兼1	
日本語 II	1後		1			○							兼1	
日本文化を学ぶ	2前		1		○								兼1	
小計（31科目）	—	0	37	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼30	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (選択)	保健体育科目 体育 (講義を含む)	1後		2				○							兼2
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
	人文科学系	音楽	1前		2		○								兼1
		考古学	1前		2		○								兼1
		西洋史学	1前		2		○								兼1
		哲学	1前		2		○								兼1
		東洋史学	1前		2		○								兼1
		同和教育	1前		2		○								兼2 オムニバス
		日本史学	1後		2		○								兼1
		日本文化	1後		2		○								兼2
		日本文学	1後		2		○								兼1
		美術史	1後		2		○								兼1
		仏教学	1後		2		○								兼1
		文化人類学	1前		2		○								兼1
		文章表現	1前・後		2				○						兼2
		昔話研究	1前・後		2		○								兼1
		倫理学	1後		2		○								兼1
		ことばの科学	2前		2		○								兼1
		日本の歌謡	2前・後		2		○								兼1
		比較文学	2後		2		○								兼1
小計 (18科目)	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	兼18		
社会科学系	くらしと社会保障	1前		2		○			1					兼1	
	経済と社会	1後		2		○								兼1	
	社会学入門	1前		2		○								兼1	
	現代社会を学ぶ	1後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1前		2		○								兼1	
	福祉教育論	1前		2		○								兼1	
	法学	1後		2		○								兼1	
	防災入門	1後		2		○								兼1	
	メディア論	1前		2		○								兼1	
小計 (9科目)	—	0	18	0	—			1	0	0	0	0	兼6		
自然科学系	宇宙・地球・生命の歴史	1前		2		○								兼1	
	くらしと化学	1後		2		○								兼1	
	現代科学論	1後		2		○								兼1	
	コンピュータ技術基礎Ⅱ	1後		2				○						兼1	
	自然科学への誘い	1前		2		○								兼5 オムニバス	
	数学への誘い	1前		2		○								兼1	
	生活科学	1前		2		○								兼1	
	生命科学入門	1前		2		○								兼2 オムニバス	
	統計学Ⅰ	1後		2		○								兼1	
	ヒトと環境	1後		2		○								兼1	
	自然科学史	2後		2		○								兼1	
	統計学Ⅱ	2前		2		○								兼1	
小計 (12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼14		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目 (選択)	キャリア教育科目	1前		2		○									兼1	オムニバス 集中 集中 集中
	キャリア教育科目	1後		2			○								兼1	
	キャリア教育科目	2前		2			○								兼1	
	キャリア教育科目	2後		2			○			1					兼1	
	キャリア教育科目	1通		2		○									兼1	
	キャリア教育科目	2前		1		○									兼1	
	キャリア教育科目	1前		2		○									兼1	
	キャリア教育科目	3前		2		○									兼1	
	キャリア教育科目	3前		1		○									兼1	
	キャリア教育科目	3後		1		○									兼1	
	キャリア教育科目	3後		1		○									兼1	
	キャリア教育科目	3前		1		○									兼2	
	キャリア教育科目	1前		1			○								兼1	
	キャリア教育科目	1後		1			○								兼1	
	キャリア教育科目	1前・後		2		○									兼3	
	キャリア教育科目	1前・後		2		○									兼3	
	キャリア教育科目	1前・後		2		○									兼1	
	キャリア教育科目	1前・後		2		○									兼1	
キャリア教育科目	小計(18科目)	—	0	29	0	—			0	1	0	0	0	兼7		
教職科目	教職基礎社会	3前		2		○									兼1	共同 共同 共同(一部) 共同(一部) 共同 共同
	教職文章表現	3前		2			○								兼1	
	教職総合ベーシックⅠ	1後		2			○								兼1	
	教職総合ベーシックⅡ	1後		2			○								兼1	
	教職総合アドバンスⅠ	3前		2			○								兼1	
	教職総合アドバンスⅡ	3前		2			○								兼1	
	教職直前対策	3前		2			○								兼3	
	教職教養対策	3後		2			○								兼3	
	教育インターンシップⅠ	2通		1				○							兼4	
	教育インターンシップⅡ	3通		1					○						兼4	
	学校教育演習Ⅰ	3後		2				○							兼2	
	学校教育演習Ⅱ	4前		2				○							兼2	
教職科目	小計(12科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼6		
専門教育科目	専門必修科目	1通	2				○			1	5	2			兼5 オムニバス 共同(一部) オムニバス 共同(一部) オムニバス 共同(一部)	
	専門必修科目	2通	2				○			4	5	2				
	専門必修科目	1前	2			○				1	1					
	専門必修科目	1後	2			○				1	2	1				
	専門必修科目	1前	2			○				4	5	2				
	専門必修科目	3通	4				○			4	5	2				
	専門必修科目	4通	4				○			4	5	2				
	専門必修科目	4通	4					○		4	5	2				
専門教育科目	小計(8科目)	—	22	0	0	—			4	5	2	0	0	兼5		
選択必修科目	基礎コミュニケーション演習	1後		2			○			1	2	1			兼1	共同 オムニバス 共同
	臨床心理学概論	1前		2		○					1					
	心理学的支援法	1前		2		○				1						
	発達心理学	1後		2		○										
	福祉心理学	3前		2		○					1					
	社会福祉概論	1前		2		○				2	0	1				
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1後		2		○					1					
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○										
	社会福祉政策論	2後		2		○				1						
	心理・福祉総合演習	3後		2			○				1	1				
選択必修科目	小計(10科目)	—	0	20	0	—			4	4	2	0	0	兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	心理学概論	1前		2		○				1						
	学習・言語心理学	2前		2		○				1						
	社会・集団・家族心理学A	2前		2		○				1						
	感情・人格心理学Ⅰ	1後		2		○				1						
	感情・人格心理学Ⅱ	2前		2		○			1							
	臨床産業・組織心理学	3前		2		○									兼1	
	教育心理学	2前・後		2		○				1						
	臨床教育・学校心理学	3後		2		○				1						
	公認心理師の職責	2後		2		○			1							
	行動分析学	2後		1		○									兼1	
	産業心理学	3前		1		○					1					
	社会・集団・家族心理学B	2後		2		○									兼1	
	心理学実験ⅠA	2前		1				○							兼1	
	心理学実験ⅠB	2後		1				○							兼1	
	心理調査概論	2前		2		○									兼1	
	心理学統計法	2後		2		○									兼1	
	保育の心理学	2前		2		○									兼1	
	司法・犯罪心理学	2前		1		○									兼1	
	教育相談の理論と実際	3前・後		2		○				1						
	心理学実験Ⅱ	3後		1				○		1						集中
	心理学研究法	3前		2		○				1						
	心理学文献講読	2前		2		○				1						
	心理的アセスメント	3通		2				○		1	1					共同
	心理演習Ⅰ	3前		2				○		1	1					共同
	心理演習Ⅱ	3後		2				○		1	1					共同
	知覚・認知心理学	2後		1		○									兼1	
	心理実習	4通		2				○		2	3	1				共同
	神経・生理心理学	2後		1		○									兼1	
	障害者・障害児心理学	3前		2		○				1						
	人間性心理学	2前		1		○						1				
	メンタルヘルスマネジメント演習	2後		1			○					1				
	健康・医療心理学	2後		2		○				1						
	精神疾患とその治療	3通		2		○									兼1	集中
	公認心理師の関係行政論	3後		2		○						1				
	キャリア心理学	3前		1		○					1					
	キャリア心理学演習	3後		1			○				2	1				共同
	認知行動療法論	3前		1		○				1						
	精神力動論	3前		1		○				1						
	臨床心理学総論	4通		2		○				2	4	1				共同 集中
小計 (39科目)		—	0	64	0			—	2	4	1	0	0	兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	介護概論	1後		2		○				1					兼1
	貧困に対する支援	2後		2		○									
	高齢者福祉論	2前		2		○			1						
	障害者福祉論	2前		2		○			1						
	子ども家庭福祉論	2前		2		○					1				
	社会保障論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	社会保障論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	地域福祉論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2		○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後		2		○			1						
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前・後		2			○					1			
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2前・後		2			○				1				
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2前・後		2			○								兼1
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2前・後		2			○								兼1
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2前		2		○				1					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2通		3			○			1		1			
	人体の構造と機能及び疾病	3後		2		○									兼1
	医療福祉論	3後		2		○					1				
	権利擁護と成年後見論	3後		2		○									兼1
	司法福祉論	3後		2		○									兼1
	社会福祉演習Ⅰ	3通		2			○				1	1			共同
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		2			○			2					共同
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3前		2		○									兼1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後		2		○									兼1
	ソーシャルワーク実習	3通		8				○		2	1	1			兼3
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		2			○			1		1			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		2			○			1		1			
	社会福祉調査論	3後		2		○				1					
	福祉経営論	3後		2		○									兼1
	精神保健の課題と支援	3後		2		○					1				
	スクールソーシャルワーク論	3後		2		○					1	1			オムニバス 共同（一部）
	スクールソーシャルワーク演習	3後		1			○				1	1			共同 集中
	社会福祉演習Ⅱ	4通		2			○			2					共同
	スクールソーシャルワーク実習指導	4通		1			○				1				共同
	スクールソーシャルワーク実習	4通		2				○			1				集中
小計（35科目）		—	0	77	0				2	1	1	0	0	兼9	
社会科学科目群	現代社会学概論	1後		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部） ※演習
	経済学概論A	2前		2		○								兼1	
	経済学概論B	2後		2		○								兼1	
	社会学概論A	2前		2		○								兼1	
	社会学概論B	2後		2		○								兼1	
	グローバル社会体験実習	2通		3				○						兼2	共同
	法と社会A	2前		2		○								兼1	
	法と社会B	2後		2		○								兼1	
	国際社会学A	2前		2		○								兼1	
	国際社会学B	2後		2		○								兼1	
小計（10科目）		—	0	21	0				0	0	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	情報・経営科目群															
	NPO・NGO論	3前		2		○										兼1
	経営学概論	1後		2		○										兼1
	マーケティング論	2後		2		○										兼1
	情報学概論	1前		2		○										兼1
	情報社会学A	2前		2		○										兼1
	情報社会学B	2後		2		○										兼1
小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0		兼4	
社会調査士養成プログラム	社会調査法A	2前		2		○										兼1
	社会調査法B	2後		2		○										兼1
	多変量解析の方法	2後		2		○										兼1 ※演習
	質的な調査と分析の方法	2後		2		○										兼2 オムニバス共同(一部) ※演習
	社会調査実習Ⅰ	3前		2				○								兼1 ※講義・演習
	社会調査実習Ⅱ	3後		2				○								兼1 ※講義・演習
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0		兼3
スポーツ健康系科目群	スポーツ心理学	1後		2		○										兼1
	スポーツキャリアデザイン	2前		2		○										兼1
	スポーツ経営管理学	2後		2		○										兼1
	スポーツ社会学	2前		2		○										兼1
	障がい者スポーツ指導論	2後		2		○										兼1
	スポーツコーチング学Ⅰ	3前		2		○										兼1
	スポーツコーチング学Ⅱ	3前		2		○										兼1
	スポーツコーチング学Ⅲ	3後		2		○										兼1
	スポーツコーチング学Ⅳ	3後		2		○										兼1
	医療福祉システム論Ⅰ	2後		2		○										兼1 集中
	医療福祉システム論Ⅱ	3前		2		○										兼1 集中
小計(11科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0		兼7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	キャリア教育科目群															
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2通		2				○	1	1	2				兼3	共同
	地域社会体験実習(市役所)	3通		2				○							兼2	
	企業研究 I	2前		1		○									兼1	
	企業研究 II	3前		2		○									兼1	
	資格・検定認定(複数型)	1前・後		2		○									兼1	
	資格・検定認定(上級型)	1前・後		2		○									兼1	
	TOEIC入門A	1前		2		○									兼1	
	TOEIC入門B	1後		2		○									兼1	
	TOEIC A	2前		2		○									兼1	
	TOEIC B	2後		2		○									兼1	
	課題発見・解決演習(子どもイベント編)	1通		2			○								兼2	隔年開講 共同
課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	1通		2			○				1				兼2	隔年開講 共同	
小計(12科目)	—	0	23	0	—	—	—	1	2	2	0	0	兼6			
合計(244科目)		—	31	419	0	—	—	4	5	2	0	0	兼111			
学位又は称号	学士(心理・福祉学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係 文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
以下の要件を満たして、卒業に必要な128単位を修得するものとする。																
<p><共通教育科目> 必修科目6科目9単位、選択必修科目の外国語科目1~2か国語4単位以上を修得し、選択科目は人文科学・社会科学・自然科学・キャリア/教職の各系から2単位以上を含む計15単位を修得すること。また、保健体育科目の修得単位は、共通教育科目の選択科目として卒業に必要な単位数に算入することとし、合計28単位以上修得すること。</p> <p><専門教育科目> 専門必修科目22単位、選択必修科目から10単位以上、心理コース選択科目および社会福祉コース選択科目のうち自分が所属するコースから38単位以上を修得し、その他の選択科目(心理コース選択科目・社会福祉コース選択科目のうち自分が所属しないコース選択科目、社会科学系科目群、情報・経営系科目群、社会調査士養成プログラム、スポーツ健康系科目群、キャリア教育科目群)を合わせて、専門教育科目から100単位以上修得すること。</p> <p>履修科目の登録の上限：48単位(CAP除外科目を除く)(但し累積GPAが年度末の時点で3.2以上あれば、次年度の履修登録単位(年間)の上限を56単位とする)</p>						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

教育課程等の概要														
(人間社会学部人間社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目（必修）	宗教学A	1前	2			○			1					兼 兼 ※講義
	宗教学B	1後	2			○		1						
	体育（講義を含む）	1後	2											
	コンピュータ技術基礎 I	1前	2				○							
	小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	
共通教育科目（選択必修）	英語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
	英語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	英語 II A	2前・後		1			○							
	英語 II B	2後		1			○							
	英会話A	2前		1			○							
	英会話B	2後		1			○							
	英米文化を学ぶA	2前		2		○			1					
	英米文化を学ぶB	2後		2		○			1					
	メディアの英語A	3前		2		○								
	メディアの英語B	3後		2		○								
外国語科目（ドイツ語）	ドイツ語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼 兼 兼
	ドイツ語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	ドイツ語 II A	2前・後		1			○							
	ドイツ語 II B	2後		1			○							
	ドイツ文化を学ぶA	2前		2		○								
	ドイツ文化を学ぶB	2後		2		○								
外国語科目（フランス語）	フランス語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼 兼 兼
	フランス語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	フランス語 II A	2前・後		1			○							
	フランス語 II B	2後		1			○							
	フランス文化を学ぶA	2前		2		○								
	フランス文化を学ぶB	2後		2		○								
外国語科目（中国語）	中国語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼 兼 兼
	中国語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	中国語 II A	2前・後		1			○							
	中国語 II B	2後		1			○							
	中国文化を学ぶA	2前		2		○								
	中国文化を学ぶB	2後		2		○								
外国語科目（朝鮮語）	朝鮮語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼 兼 兼
	朝鮮語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	朝鮮語 II A	2前・後		1			○							
	朝鮮語 II B	2後		1			○							
	朝鮮文化を学ぶA	2前		2		○								
	朝鮮文化を学ぶB	2後		2		○								
外国語科目（日本語）	日本語 IA(コミュニケーション)	1前		1			○							兼 兼 兼 兼
	日本語 IB(コミュニケーション)	1後		1			○							
	日本語 II A	2前		1			○							
	日本語 II B	2後		1			○							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 (英語圏) (外国語科目) (選択必修)	海外研修A(英語圏)	1前・後		2		○			1					兼	集中
	海外研修B(英語圏)	1前・後		2		○			1					兼	集中
	海外研修A(朝鮮語圏)	1前・後		2		○								兼	集中
	海外研修B(朝鮮語圏)	1前・後		2		○								兼	集中
	小計(42科目)	—	0	58	0	—			1	1	0	0	0	兼36	
共通教育科目 (選択)	音楽	1前		2		○								兼	メテIA
	西洋史学	1前		2		○								兼	メテIA
	哲学	1前		2		○								兼	メテIA
	東洋史学	1前		2		○								兼	メテIA
	同和教育	1前		2		○								兼	メテIA・ ホムバ
	日本史学	1後		2		○								兼	メテIA
	日本文化	1後		2		○								兼	メテIA
	日本文学	1前・後		2		○								兼	メテIA
	美術史	1後		2		○								兼	メテIA
	仏教学	1後		2		○								兼	メテIA
	昔話研究	1前・後		2		○								兼	メテIA
	倫理学	1後		2		○								兼	メテIA
	考古学	1前		2		○								兼	メテIA
	ことばの科学	2前		2		○								兼	メテIA
	東洋文化史A	2前		2		○								兼	メテIA
	東洋文化史B	2後		2		○								兼	メテIA
	日本の歌謡	2前・後		2		○								兼	メテIA
	日本文化史A	2前		2		○								兼	メテIA
	日本文化史B	2後		2		○								兼	メテIA
	日本民俗学A	2前		2		○								兼	メテIA
	日本民俗学B	2後		2		○								兼	メテIA
	比較文学	2後		2		○								兼	メテIA
	文化人類学	2前		2		○								兼	メテIA
	いのちを共に考える	3通		1		○								兼	メテIA
	地域文化論A	3前		2		○								兼	メテIA
	地域文化論B	3後		2		○								兼	メテIA
	仏教思想A	3前		2		○								兼	メテIA
	仏教思想B	3後		2		○								兼	メテIA
小計(28科目)	—	0	55	0	—			0	0	0	0	0	兼20		
共通教育科目 (選択)	社会科学系	1後		2		○								兼	メテIA
	日本国憲法	1前		2		○					1			兼	メテIA
	福祉教育論	1前		2		○					1			兼	メテIA
	法学	1後		2		○								兼	メテIA
	メディア論	1前		2		○								兼	メテIA
小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	1	0	0	兼		
共通教育科目 (選択)	自然科学系	1前		2		○								兼	メテIA
	宇宙・地球・生命の歴史	1後		2		○								兼	メテIA
	くらしと化学	1後		2		○								兼	メテIA
	現代科学論	1後		2		○			1					兼	メテIA
	コンピュータ技術基礎II	1後		2			○		1					兼	メテIA
	自然科学への誘い	1前		2		○								兼	メテIA・ ホムバ
	数学への誘い	1前		2		○								兼	メテIA
	生活科学	1前		2		○								兼	メテIA
	生物学	1後		2		○								兼	メテIA
	生命科学入門	1前		2		○								兼	メテIA・ ホムバ
	ヒトと環境	1後		2		○								兼	メテIA
自然科学史	2後		2		○								兼	メテIA	
小計(11科目)	—	0	22	0	—			1	0	0	0	0	兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目(選択)	総合系														
	スポーツ運動学	2前		2		○									兼
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼
キャリア教育科目	文章表現A	1前・後		2			○								兼
	TOEIC Practice A	1前		1			○								兼
	TOEIC Practice B	1後		1			○								兼
	教職基礎社会	3前		2		○									兼
	教職文章表現	3前		2			○								兼
	教職総合ベーシックⅠ	1後		2			○								兼
	教職総合ベーシックⅡ	1後		2			○								兼
	教職総合アドバンスⅠ	3前		2			○								兼 集中
	教職総合アドバンスⅡ	3後		2			○								兼 集中
	教職直前対策	3前		2			○								兼 集中
	教職教養対策	3後		2			○								兼
	教育インターンシップⅠ	2通		1				○							兼 集中・共同(一部)
	教育インターンシップⅡ	3通		1				○							兼 集中・共同(一部)
	学校教育演習Ⅰ	3後		2			○								兼 共同
	学校教育演習Ⅱ	4前		2			○								兼 共同
	小計(15科目)	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼
専門教育科目	専門必修科目														
	基礎ゼミⅠ(学習技術)	1通	2				○		4	4	2				
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	2通	2				○		8	3	2				
	人間と社会A	1前	2			○			3	1					兼 2 オムニバス・共同(一部)
	人間と社会B	1後	2			○			2	1	1				兼 2 オムニバス・共同(一部)
	ゼミナールⅠ	3通	4				○		8	4	2				兼
	ゼミナールⅡ	4通	4				○		8	3	2				兼
	卒業研究	4通	4					○	8	3	2				兼
	小計(7科目)	—	20	0	0	—	—	—	9	4	2	0	0	0	兼
専門選択必修科目A群	心理学概論	1前		2		○				1					
	臨床心理学概論	1前		2		○			1						
	地域社会入門	1前		2		○			1						
	現代社会論	1後		2		○			2	1	1				兼 2 オムニバス・共同(一部)
	情報学概論	1前		2		○			1						
	経営学概論	1後		2		○			1						
	社会福祉概論	1前		2		○			2		1				兼 2 オムニバス
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1後		2		○				1					
	小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	7	3	2	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	ロジカルシンキング	1前		2		○			1								
	キャリア概論	1前		1		○			1								
	ロジカルコミュニケーション	1後		2			○		1								
	キャリアデザイン	1通		2		○				1							
	課題発見・解決演習(子どもイベント編)	1前		2			○		1						兼	隔年・集中・ オムニバス・ 共同(一部)	
	課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	1前		2			○		1	1					兼	隔年・集中・ オムニバス・ 共同(一部)	
	資格・検定認定(複数型)	1前・後		2		○			1								
	資格・検定認定(上級型)	1前・後		2		○			1								
	TOEIC入門A	1前		2		○									兼		
	TOEIC入門B	1後		2		○									兼		
	TOEIC A	2前		2		○									兼		
	TOEIC B	2後		2		○									兼		
	インターンシップ入門	2前		1		○			1							集中	
	社会教養基礎	2前		2			○		1								
	数学教養基礎	2後		2			○		1								
	企業研究 I	2前		1		○			1								
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2通		2				○	3	1	2				兼	※講義・演習 共同	
	就活力 I	3前		1		○			1							集中	
	就活力 II	3後		1		○			1							集中	
	採用研究(民間企業)	3後		1		○			1							集中	
	採用研究(公務員)	3前		1		○			2							集中・ オムニバス	
	自治体研究	3前		2		○			1								
	企業研究 II	3前		2		○			1								
小計(23科目)		—	0	39	0	—	—	5	3	2	0	0		兼			
専門選択科目	学習・言語心理学	1後		2		○				1							
	社会・集団・家族心理学A	1後		2		○									兼		
	感情・人格心理学A	1前		2		○			1								
	カウンセリング論	2前		2		○			1								
	心理学的支援法	2後		2		○			1								
	感情・人格心理学B	1後		2		○				1							
	臨床産業・組織心理学	2後		2		○			1								
	教育心理学	2前・後		2		○				1							
	臨床教育・学校心理学	3後		2		○			1								
	行動分析学	2後		2		○									兼		
	産業心理学	3前		2		○			1								
	社会・集団・家族心理学B	2前		2		○									兼		
	心理学実験 I A	2前		1				○							兼		
	心理学実験 I B	2後		1				○							兼		
	心理調査概論	2前		2		○									兼		
	心理学統計法	2後		2		○									兼		
	保育の心理学	2前		2		○									兼		
	発達心理学	2前		2		○									兼		
	司法・犯罪心理学	2前		2		○			1								
	教育相談の理論と実際	3前・後		2		○			1								
心理学実験 II	3後		1				○		1						集中		
心理学研究法	3前		2		○				1								
心理学文献講読	2前		2			○								兼			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	心理的アセスメント	3通		2				○	1	1					共同
	心理演習Ⅰ	3前		2				○	1	2					共同
	心理演習Ⅱ	3後		2				○	1						
	知覚・認知心理学	2前		2		○								兼	共同
	心理実習	4通		2				○	2	2					
	神経・生理心理学	2後		2		○								兼	
	障害者・障害児心理学	2後		2		○				1					
	健康・医療心理学	2後		2		○			1						
	福祉心理学Ⅰ	3前		2		○				1					
	精神疾患とその治療	3通		2		○								兼	集中
	公認心理師の関係行政論	3前		2		○					1				
	心理療法理論	3前		2		○				2	1				オムニバス
	福祉心理学Ⅱ	3後		2		○					1				
	異文化理解	1前		2		○					1				
	グローバル社会入門	1後		2		○					1				
	社会学A	1前		2		○								兼	
	社会学B	1後		2		○								兼	
	政治学A	1前		2		○								兼	
	政治学B	1後		2		○								兼	
	地域社会体験実習Ⅰ	1通		2					○	1		1			共同
	地域社会体験実習Ⅱ	3通		2					○	1		1			共同
	ワークショップ論	1前		2				○						兼	共同
	環境と社会（総合講座）A	2後		2		○								兼	
	環境と社会（総合講座）B	2前		2		○								兼	
	観光・旅行業務演習A	2前		2				○						兼	
	観光・旅行業務演習B	2後		2				○						兼	
	グローバル社会体験学習	2通		3					○	1					集中
	経済学概論A	2前		2		○				1					
	経済学概論B	2後		2		○				1					
	現代社会と人権（総合講座）A	2前		2		○								兼	オムニバス
	現代社会と人権（総合講座）B	2後		2		○								兼	
	国際社会学A	2前		2		○				1					
	国際社会学B	2後		2		○				1					
	社会学概論A	2前		2		○				1					
	社会学概論B	2後		2		○				1					
	身体表現と社会	2前・後		2				○						兼	
	法と社会A	2前		2		○						1			
	法と社会B	2後		2		○						1			
	倫理学概論A	2前		2		○								兼	
	倫理学概論B	2後		2		○								兼	
	NPO・NGO論A	3前		2		○								兼	
	NPO・NGO論B	3後		2		○								兼	
	ジェンダー論（総合講座）A	3前		2		○				1					
	ジェンダー論（総合講座）B	3後		2		○								兼	オムニバス・共同
	自治体行政論A	3前		2		○								兼	
	自治体行政論B	3後		2		○								兼	
	都市社会学A	3前		2		○				1					
都市社会学B	3後		2		○				1						
会計学概論	1後		2		○				1						
表計算処理演習Ⅰ	1後		2				○		1					集中	
簿記論ⅠA	1前		2		○				1						
簿記論ⅠB	1後		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	経営管理論	2前		2		○			1						
	経営戦略論	2前		2		○			1						
	情報科学	2前		2		○			1						
	情報社会学A	2前		2		○								兼	
	情報社会学B	2後		2		○								兼	
	情報処理論	2後		2		○			1						
	ビジネスデータ分析	2後		2			○							兼	
	表計算処理演習Ⅱ	2前		2			○		1					兼	集中
	ファイナンシャルプランナー	2通		8		○								兼	共同
	プログラミング基礎演習	2後		2			○		1						
	簿記特講Ⅰ	2前		2		○			1						集中
	簿記特講Ⅱ	2後		2		○			1						集中
	簿記論ⅡA	2前		2		○			1						
	簿記論ⅡB	2後		2		○			1						
	簿記論ⅢA	2前		2		○			1						
	簿記論ⅢB	2後		2		○			1						
	マーケティング論	2後		2		○			1						
	FP実務演習Ⅰ	3前		2			○							兼	共同
	FP実務演習Ⅱ	3後		2			○							兼	共同
	会計学特講Ⅰ	3前		2		○			1						集中
	会計学特講Ⅱ	3後		2		○			1						集中
	会計実務処理演習A	3前		2			○		1						
	会計実務処理演習B	3後		2			○		1						
	企業会計論A	3前		2		○			1						
	経営実務特講	3前		2		○			1						
	企業会計論B	3後		2		○			1						
	情報技術特講	3前		2		○			1						
	プログラミング実践演習	3前		2			○		1						
	データサイエンスの理論と実践	3後		2		○			1						
	社会福祉政策論	2後		2		○			1						
	介護概論	2前		2		○				1					兼
	公的扶助論	2後		2		○									
	高齢者福祉論	2前		2		○			1						
	子ども家庭福祉論	2前		2		○						1			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前・後		2			○					1			
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2前・後		2			○			1					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2前・後		2			○								兼
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2前・後		2			○								兼
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2前		2		○				1					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2通		3			○		1			1			
	社会保障論Ⅰ	2前		2		○									兼
	社会保障論Ⅱ	2後		2		○									兼
	障害者福祉論	2前		2		○			1						
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○									兼
	地域福祉論Ⅱ	2後		2		○									兼
人体の構造と機能及び疾病	3後		2		○									兼	
医療福祉論	3後		2		○				1						
権利擁護と成年後見論	3後		2		○									兼	
司法福祉論	3後		2		○									兼	
社会福祉演習Ⅰ	3通		2			○			1		1			共同	
ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		2		○			2							
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2		○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（人間社会学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係 文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
共通教育科目は、宗教学A、宗教学B 各2単位、体育(講義を含む)2単位、コンピュータ技術基礎 I 2単位、外国語1カ国語または2カ国語8単位、人文科学、社会科学、自然科学の各系からそれぞれ2単位を含め、32単位以上、専門教育科目は必修科目を含めて 96単位以上、併せて、128単位以上修得しなければならない。 ・履修科目の登録の上限：48単位（年間）						1 学年の学期区分			2学期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会学部心理・福祉学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 (必修)	宗教学A	最初に「宗教」とはいかなるものかという内容について説明を行い、その理解をもって仏教の概観を通し、本学の建学の精神の支柱である全ての人々が平等に救済されるとする「大乘仏教」の精神の形成過程を解説し、自己が無数の「いのち」にささえられていることを教授する。そして、宗教とは何か、生と死とは何かの理解を深めることを目的とする。	
	宗教学B	本学の聖典を基に宗祖親鸞聖人の生い立ちを説明し、聖人が得度した理由とされる後生の一大事との対峙、そしてその克服の仕方を、解説することによって、本学の建学の精神である宗祖親鸞聖人の御教えに関して教授すると共に、仏教の発生から約1000年を経て、日本に伝播した仏教が当初のものとの変容が如何に成されたかを説明する。そして、宗祖親鸞聖人が恩をたずね、感謝の心を捧げつつ生きて行こうとする報恩感謝の意識に如何に至ったかを解説する。また、現代社会において親鸞聖人の教義との関係性についての考察を行う。このような考察を通して、宗教と社会との相互理解を深める。	
	コンピュータ技術基礎 I	情報通信技術を利用する社会における「読み・書き・そろばん」的な素養である「数理・データサイエンス・AI」に関する基本的な知識・技能・態度を習得する。具体的には、まず、情報通信環境の基礎的な内容を理解するとともに、検索エンジンや文献データベースを活用して適切な手段で情報を入手するための方法を学ぶ。次に、AI・データサイエンスの意義や役割を理解し、データの取得・管理・保存などの方法を把握するとともに、文書処理ソフトの活用による知的伝達と生産に向けて、基礎的なデータ活用の技術や態度を身につける。続いて、表計算処理ソフトによるデータの集計、データの特徴を分かりやすく視覚化する方法を学ぶほか、統計の基礎知識を基盤とした統計的なデータ分析の手法を習得する。最終的には、数理・データサイエンス・AIの発展やその利活用による人間社会への影響・課題についてグループワークを行い、プレゼンテーションソフトを用いた発表および議論を通して、諸課題への考察を深める。	
	キャリア概論	アクティブラーニングの一環として、「働く」をキーワードに様々な仕事に従事している人を取り上げ、教員からの質問やディスカッションを通して気づきを促していく。具体的には、現在の自分に至るまでにどのような職業人たちに支えられてきたか、事例で取り上げた人物が仕事に対してどのような姿勢で臨んでいるのか、その姿勢をどのようにして持つようになったかを理解し、そこから自分にとっての仕事、働く意義を考え抜いていくことを目指す。なお、一部の回の授業については学習支援システム（tani-WA）を用いたオンデマンド型遠隔授業で行う。	
	新入生セミナー	本学における学びの強化を目的として、全学の初年次学生に対し、本学で学び、社会へ羽ばたくために必要不可欠な内容について学ぶ。具体的には、大学生活をスタートさせるために必要な履修登録指導や学修システムの活用に加え、本学の教育理念である「自立」「創造」「共生」を理解し、自律的に学ぶことを見通した基本的な学び方を習得する。また、グループでのディスカッション等を通して、自分自身を守り管理していくために必要なセルフマネジメント力を高める。	
	いのちを共に考える	私の「いのち」は、私以外のものの「いのち」によって支えられている。それは、人だけではない。動物や植物など、自然界のあらゆる生きものの「いのち」が私を生かしている。また、私の「いのち」が他者の「いのち」の支えになっていることもある。さらに、今を生きるものの「いのち」は、過去から受け継がれてきた「いのち」であり、未来に繋がるもとなる「いのち」である。昨今の社会情勢に目を向けると、特にコロナ禍以降、「いのち」に関する意識の変容や、他者との関わりが疎遠になりつつある。お互いの「いのち」を見つめる心も疎かになってきている今、あらためて「いのち」の尊さを一人ひとりが見つめ直す教育が必要不可欠と考える。	集中

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 (選 択 必 修)	外国 語 科 目 (英 語) 英語A (コミュニケーション)	英語A (コミュニケーション) では、これまでの教育課程で学んでい た英語基礎力をもとに英語コミュニケーション能力の育成を目指 し、主な到達目標を次の4つとしている。1) コミュニケーションの 基礎となる英文法が説明できる (Grammar)、2) 比較的容易な英語 で書かれたテキストを正確に理解できる (Reading)、3) 英語での 平易な日常会話を聞き取ることができる (Listening)、4) 基本的 な語句や表現を使って英語で発信できる (Writing)。 授業形態は演習形式であり、授業内外の学習では、LMS (Learning Management System) やデジタル教材などのICTを活用しながら、 ペアワークやグループワークなどを積極的に取り入れることで、英 語によるやりとり (Speaking) の機会も設け、日常英語表現を使っ たコミュニケーション力の向上を図ることを目的としている。	
	英語B (コミュニケーション)	「英語A (コミュニケーション)」で確認した英語コミュニケーショ ン基礎力をベースに、英語力の4技能5領域のさらなる向上を目指し ていく。英語A (コミュニケーション) と同様、ICTの利活用を行い ながら、演習形式の授業形態の利点を活かし、ペアワークやグルー プワークで行う日常英会話 (Speaking) のみならず、英語での発表 (Presentation) の機会も設ける。また、日常生活のみならずアカ デミックな英語表現を、読み (Reading)、聴き (Listening)、理 解できる力 (Comprehension) を身につけることを目的としている。	
	英語A (総合)	「英語A (コミュニケーション)」「英語B (コミュニケーショ ン)」で培った英語コミュニケーション力をさらに発展させてい く。具体的には、アカデミック、または専門分野に関する指定のト ピックについてのまとまった英文を、語彙や文法の知識 (Vocabulary & Grammar) をもとに正確に理解でき (Reading & Listening)、そこで学んだ語句や表現を使って英語で発信できるこ と (Writing) を目標とする。 本授業でも、LMSやデジタル教材などのICTを授業内外の学習で利 活用する。さらに、ペアワークやグループワークなどが行える演習 形式の授業であるため、英語によるやりとり (Listening & Speaking) の機会も設定し、英語コミュニケーション力のさらなる 向上も目的としている。	
	英語B (総合)	「英語A (総合)」で学習した内容を継続し、英語コミュニケーショ ン力をさらに発展させていく。アカデミック、または専門分野に関 する指定のトピックについてのまとまった英文を、語彙や文法の知 識 (Vocabulary & Grammar) をもとに正確に理解し (Reading & Listening)、英語で発信できること (Writing) を引き続き目標と している。 また、授業内外の学習でLMSやICTを活用することはもとより、 演習形式の授業であるため、英語によるやりとり (Listening & Speaking) をペアワークやグループワークで行い、英語コミュニ ケーション力のさらなる向上も目的としている。	
	英会話A	(英文) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases, grammar patterns and important vocabulary. You will also do listening and reading activities to support your overall English development. (和訳) 英会話の基礎を紹介する。クラス単位でさまざまなトピ ックに関する会話に参加する。ペアや少人数のグループで取り組むこ ともあるが、一人またはクラス全体で活動することもある。また、 教科書に含まれているさまざまな状況での会話例を取り上げ、便利 なフレーズ、文法パターン、重要な語彙を学ぶとともに、英語力を 総合的に高めていけるように、リスニングとリーディングにも取り 組んでいく。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英会話B	<p>(英文) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases, grammar patterns and important vocabulary. You will also do listening and reading activities to support your overall English development.</p> <p>(和訳) 「英会話A」に続いて英会話の基礎を紹介する。クラス単位さまざまなトピックに関する会話に参加する。ペアや少人数のグループで取り組むこともあるが、一人またはクラス全体で活動することもある。また、教科書に含まれているさまざまな状況での会話例を取り上げ、便利なフレーズ、文法パターン、重要な語彙を学ぶとともに、英語力を総合的に高めていけるように、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。</p>	
	英米文化を学ぶ	<p>小さな島国で話されていた一つの言語からグローバルな言語へと、英語がどのように発展したかを日本語と簡単な英語を使って探る。講義では、英国諸島の歴史から始まり、英国の植民地を通じて、さまざまな政治的、経済的、社会的な動きを見ていく。その過程で、英語を使用するさまざまなコミュニティの物語、アート、音楽を探る。最後に、グローバルコミュニティにおける英語の役割を検証し、その役割が将来どのように発展するかを考察する。この講義を通して、受講生は、英語が使用されるさまざまな方法、英語を使用するコミュニティ、グローバルコミュニティにおける英語が果たす多様な役割、そしてさらに重要である、英語話者の日常生活について、より幅広い知識を得ることができる。</p>	
	メディアの英語	<p>英国テレビ局BBCのニュース番組を教材として取り上げ、英語の聴解力と読解力を培い、メディアで使われる英語表現への理解を深めていく。海外のメディアを通して国際社会と諸外国について情報を得るとともに、日本や諸外国での状況を比較して、複眼的思考の養成をめざす。ニュース番組が取り上げている社会現象と他国での類似の現象についてICTで調べ、その結果を発表して共有し、日本や諸外国での状況比較の材料にする。英語表現を説明するさいに文法用語を用いるので、履修するためには基本的な英語文法の理解を求める。</p>	
外国語科目 (ドイツ語)	ドイツ語入門A	<p>ドイツ語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けるために、ドイツ語の発音、文法、表現の基礎、とりわけドイツ語の現在形の文構造を中心に学習を行い、ドイツ語技能検定試験5級レベルのドイツ語運用力を修得し、自己紹介や簡単な会話ができるようになることを目指す。前期開講となる本科目では、人称代名詞と動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、定冠詞と不定冠詞、不規則動詞の現在人称変化、命令形、名詞の複数形、定冠詞類、不定冠詞類、前置詞、従属接続詞と副文などを取り上げていく。</p>	
	ドイツ語入門B	<p>ドイツ語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けるために、ドイツ語の発音、文法、表現の基礎、とりわけドイツ語の現在形の文構造を中心に学習を行い、ドイツ語技能検定試験5級レベルのドイツ語運用力を修得し、自己紹介や簡単な会話ができるようになることを目指す。後期開講となる本科目では、語法の助動詞、分離動詞、形容詞、zu不定詞、現在完了形、過去人称変化、再帰代名詞と再帰動詞、形容詞・副詞の比較・最上級、関係代名詞などを取り上げていく。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語会話A	ドイツ語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、ドイツ語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、ドイツ語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	ドイツ語会話B	「ドイツ語会話A」に引き続き、ドイツ語会話の基礎のさらなる習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、ドイツ語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、ドイツ語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	ドイツ文化を学ぶ	ドイツの戦前・戦時中の歴史について、特に戦前のドイツが如何にして戦争へ至り、そして敗北したのかを映像を交えながら考え、理解する。また、そこから今の日本がたどってきた道についても合わせて考えられるようになることを目指す。具体的には、ドイツの現代史として民主制の成立と危機、第三帝国の成立、人種主義国家、第二次世界大戦を取り上げていく。	
外国語科目 (フランス語)	フランス語入門A	フランス語の入門・基礎レベルの修得を目標とする。そのために、日常的な表現の単文を構成するのに必要な文法知識を、様々な場面を想定した演習によって体得することを目指す。当科目では、授業内容としてアルファベットの読みかた、発音の規則の基本、主語人称代名詞・etreの活用、名詞と不定冠詞・形容詞の性数一致 定冠詞とer動詞、動詞avoirと否定文について取り上げる。	
	フランス語入門B	フランス語の入門・基礎レベルの修得を目標とする。そのために、日常的な表現の単文を構成するのに必要な文法知識を、様々な場面を想定した演習によって体得することを目指す。当科目では、基本動詞aller, faireの活用・用法、所有形容詞と疑問形容詞、助動詞vouloir, pouvoirの活用と用法について取り上げる。また、フランス映画を通して、実際に運用されているフランス語のみならずフランスでの生活の一端に触れる。	
	フランス語会話A	フランス語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、フランス語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、フランス語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	フランス語会話B	「フランス語会話A」に引き続き、フランス語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、フランス語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、フランス語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	フランス文化を学ぶ	フランス文学のみならず、日本の現代作家の小説、新聞のコラムなども題材にして「読む」という行為のおもしろさを発見すると同時に、テキスト(文字が綴られたもの)を能動的に、注意深く読み、そうして得た解釈を言葉にして他人と語り合う実践を通して、読むことの楽しさも学ぶことを目的とする。授業教材として、モーパッサンの小説「首飾り」「逢いびき」「めぐりあい」「ミス・ハリエット」を取り上げ、内容を理解できるようになることを目指す。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 (中国語)	中国語入門A	中国語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けることを目標とする。始めに中国語の発音と発音表記(ピンイン)を覚え、その後、漢字(簡体字)および基本文型を学習し、自分で使えるように(読む・書く・聞く・話す)練習をする。随時、教科書以外の書籍、音楽、映像なども紹介する。当科目では、人称代名詞「是」、指示代名詞・疑問詞疑問文「的」の用法、動詞・所有の「有」省略疑問などを取り上げていく。	
	中国語入門B	中国語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けることを目標とする。始めに中国語の発音と発音表記(ピンイン)を覚え、その後、漢字(簡体字)および基本文型を学習し、自分で使えるように(読む・書く・聞く・話す)練習をする。随時、教科書以外の書籍、音楽、映像なども紹介する。当科目では、完了の「了」、所在の「在」、助動詞「想」、助動詞「得」、介詞「从」、経験の「過」「是～的」、介詞「跟・給」などを取り上げていく。	
	中国語会話A	中国語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、中国語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、中国語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	中国語会話B	「中国語会話A」に引き続き、中国語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、中国語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、中国語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	中国文化を学ぶ	古典(思想書・歴史書・文学作品等)や、現代中国語(エッセイ・歌曲・映像作品等)を通して、中国の文化について関心・理解を深めることを目標とする。具体的な授業内容として、古典『墨子』『莊子』『淮南子』『三国志』の訓読・現代語訳を行い、概要を理解するとともに、現代中国語のエッセイや歌を取り上げ、発音や文法を理解して日本語訳を行い、内容に関して考察していく。	
外国語科目 (朝鮮語)	朝鮮語入門A	朝鮮語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けることを目標とする。そのために、朝鮮語の仕組みを理解し、文字の読み書きを習得するとともに、教科書の内容にそって、文法や表現などを学び、基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けていく。当科目では、授業内容として基本母音の読み書き、基本子音+激音・濃音、複合母音(子音との組み合わせも含む)、バッチム(終声)の規則、第1課文型について取り上げていく。	
	朝鮮語入門B	朝鮮語の基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けることを目標とする。そのために、朝鮮語の仕組みを理解し、文字の読み書きを習得するとともに、教科書の内容にそって、文法や表現などを学び、基礎的なコミュニケーション言語能力を身に付けていく。当科目では、授業内容として1課の文型や表現、2課で使われる単語や表現の読み方、3課の漢数詞、4課で使われる単語や表現の読み方について取り上げていく。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	朝鮮語会話A	朝鮮語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、朝鮮語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、朝鮮語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	朝鮮語会話B	「朝鮮語会話A」に引き続き、朝鮮語会話の基礎の習得を目指す。少人数のグループを構成し、教員が設定した題材やテーマについて会話を行う。授業時間内にグループの構成メンバーを適宜入れ替え、様々な意見や会話表現に触れられるようにしていく。また、朝鮮語会話の慣用句や文法、重要な語彙を学ぶとともに、朝鮮語の会話力を総合的に高めていくことを目指して、リスニングとリーディングにも取り組んでいく。	
	朝鮮文化を学ぶ	現代韓国の文化・社会・経済などを学び、韓国社会の多様性を理解することを目標とする。韓国社会の記事を講読し、韓国社会の文化・経済などを学び、韓国社会を理解するとともに、文法や文型への理解能力を高めていく。授業内容としては、「シェアハウス」という記事を用いて韓国社会の住環境の多様性に触れるとともに、小学校1年生の保護者の「十時出勤」という記事を用いて現代韓国の教育環境などを理解する。また、「日中韓」「虎作品」「3国3様」「故宮めぐり」「戦争は終わった」などの記事を用いて韓国の歴史を理解する。	
外国語科目 (日本語)	日本語Ⅰ	さまざまな分野の日本語を用いてスピーチ、ディスカッションおよびディベートでの口頭表現を学ぶことを目標とする。社会や生活におけるさまざまな話題・問題に関して理解と考えを深めるとともに、自分の意見をわかりやすく相手に伝えるにはどのようなことが必要なのか、また異なる意見をもつ他者とどのように話し合いを進めていくべきかを理解する。	
	日本語Ⅱ	文字を用いたコミュニケーション、情報伝達のため、メールやレポートや論文の作成などで用いる文体、語彙、構成を基礎から学ぶことを目標とする。メールの書き方やメモの取り方、レポートや論文の語彙、文体、構成の基礎を学ぶとともに、適宜、課題にも取り組む。 授業での学びをまとめたレポートを作成することが最終課題となる。 また、身近な話題の書かれたものを読んだり、日本語で表現する方法について考えたりするミニワークも行う。	
	日本文化を学ぶ	日本社会が長年にわたり形成してきた慣習や政治・経済などさまざまな側面からなる文化を学び、その独自性と多様性の観点から理解することを目標とする。具体的には、日本文化に関するさまざまな時代や分野の資料や文献を読み込み、その内容を正しく理解することで日本語の理解力や表現力を高めるとともに、少人数で構成されたグループでのディスカッションを行うなかで日本文化の伝統や歴史、魅力、特徴などを理解する。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 (選 択)	保健 体育 科目 体育(講義を含む)	生涯を通じて豊かな生活を送るために必要な体づくり、および健康への基礎知識を修得するために基本的な運動習慣を身に付け、余暇活動やスポーツを「楽しく」「安全に」行うために必要な知識や技能を学ぶことを目的とする。そのために、個々の目的に応じてスポーツを实践し、スポーツ科学の理論を生かし安全で効果的な身体運動の实践能力を育成すると共に、スポーツを行う喜びを体験する。また、生涯スポーツへの理解を深めるため、適切なレクリエーション的なスポーツを楽しく行えるようにすることで、健康・スポーツ科学の理論を生かして安全かつ効果的な身体運動の实践能力を身につけ、各種目の実践を通じてその特性を理解し、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を習得することを目指す。	
	人文 科学 系 音楽	西洋音楽の世界を広く知るために、バロック音楽から現在に至るまでの音楽の基幹について、豆知識やウラ話を交えながら習得し、音楽の興味に深みと広さを習得することを目指す。具体的には、バッハなどバロック時代の音楽やモーツァルトなど古典派時代の音楽、ショパン・ドビュッシーなどロマン派・印象派時代の音楽、オーケストラの楽器構成と交響曲、オペラ、バレエ、アメリカ音楽ジャズ、クラシック音楽、劇中の名曲などミュージカル、西洋音楽と邦楽の歴史などを取り上げていく。	
	考古学	古代特有の都城遺跡や官衙遺跡などを中心に取り上げ、歴史的背景を交えながら考えることを通して、今まで気づかなかった身近な遺跡の存在を知り、幅広い教養を身につけるとともに、遺跡の見方と歴史的な位置づけを幅広い視点で理解できることを目指す。具体的には、都城遺跡である飛鳥宮、藤原宮、藤原京、平城宮、平城京、難波宮、近江大津宮、恭仁宮、紫香樂宮の位置関係と構造および造営の背景、離宮・行宮である吉野離宮や竹原井行宮の位置および都城の宮殿との違い、さらには国府および国分寺・国分尼寺の位置および都城遺跡との違いなどを取り上げていく。	
	西洋史学	視覚資料とともに「ヨーロッパ」を考えることをテーマとし、異なる時代・文化が生み出したイメージの比較によって、中世から現代にかけてのフランスと、その周辺諸国との関係を主題別に学び、ヨーロッパの歴史を多元的・多面的に理解することを目的とします。具体的には、宗教と権力、キリスト教世界と国家、カトリック共同体とプロテスタント共同体、歴史のなかの男女と家族のかたち、歴史のなかの日常と非日常、戦争と平和について取り上げていく。	
	哲学	「私」についてさまざまな角度から検討を加えることによって、人間存在の全体像を把握するために有効な哲学的思考の一端に触れ、それを自ら遂行できる論理的思考能力を身につけていくことを目指す。当科目では、自我についての典型的な二つ理論(デカルト、カント)が示され、それらに共通する問題が明示される。その問題を乗り越える理論を参照して、自我についての考察が、身体、感情の考察へと展開していく。とりわけ身体についてのユニークな見方は、意識の限界を認めることによって初めて理解される理論である。本講義を通して哲学的思考が身につけ、今度は自ら問題を見つけ、論理的に思考を展開することができるようになる。	
東洋史学	中国の先史・古代史について学ぶ。中国は、世界四大文明の一つである中国文明の成立にはじまり、常に高度な文化を保ち続け、東アジア地域全体に強い影響力をもってきた。日本の歴史も中国の存在を抜きにしては語れない。本授業では、環境論や資料論などの基礎的な問題をまず検討し、その上で先史時代から初期国家の成立を経て専制国家が成立するまでの歴史をたどる。特に、近年増加がめざましい考古学資料を積極的に取り入れて、対象とする各時代の立体的把握を目指す。		

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	同和教育	<p>(概要) 反差別と共生の視点からの同和教育における普遍性について、人権に関わるさまざまなテーマを通じて差別の現実から深く学び、人間が人間らしく生きるうえで欠くことのできない自他の人権尊重についてともに考えていく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (108 松村徳子／10回) 前近代の差別(部落差別の発生や歴史を中世、近世の差別)、在日コリアンの渡日史)、DV(ドメスティックバイオレンス)とデートDV、多様な性(セクシュアリティを人権課題としてとらえ、DVの現状と背景)、戦争と女性(女性たちが受けた戦争被害と、加害の実態)などを取り上げ、同和教育における普遍性について学習を行う。</p> <p>(116 梁千賀子／5回) 体罰・労働者としての人権の歴史や現状を考えるとともに、日本の植民地支配と抵抗、サハリンに取り残されたコリアン、定住外国人の人権、アイヌ問題・沖縄問題と日本などをテーマとして取り上げ、同和教育における普遍性について学習を行う。</p>	オムニバス方式
	日本史学	<p>武将中心ではなく城という遺構を中心に、その発達過程や地域差などから、戦国動乱の展開と収束について実態に即して考えていくことを目指す。特に、城の平面プランを図示した縄張図から、実際の姿を頭の中でイメージできるようにすること、戦国時代から江戸時代に至るまでの社会の変化と城の発展段階について説明できるようになることを目的としている。具体的な題材として、東国大名の城および織豊期の城のそれぞれの特徴と相違、古文書の特徴からみた戦国期権力の相違、辺境地域における特徴的な城の分布、近畿周辺の特徴的な城の分布、戦国時代の社会・権力の変化と城の相関関係などを取り上げていく。</p>	
	日本文化	<p>(概要) 日本文化についてより知識を深めるとともに、過去と現在の文化の共通点、相違点などを考える視点を養い、幅広い教養を深める。</p> <p>クラス1 (120 ランカシャ) 日本の上演芸能(音楽・舞・演劇)を通して日本の文化を理解するために、日本の歴史をたどりつつ、それぞれの時代の音楽はどのように当時の文化的な背景に応じたかを検討し、または日本にある異なる民族の音楽はどのように自分のアイデンティティを表現しているか、ということも検討する。</p> <p>クラス2 (60 岡田 高志) 自然豊かな日本の風土において、四季折々の季節にふさわしい生活を送ることが何より教養あるものとされてきた王朝人がさまざまな思いを表現してきた和歌を取り上げ、身近な百人一首や年中行事を通してその感性を学び、和歌制作などを通して考えを深めていく。</p>	
	日本文学	<p>日本における現存最古の歴史書である『古事記』(和銅5年=712年成立)に記された神話・伝説を読み解く。『古事記』は、いにしえより日本に伝えられてきた物語や詞章(歌・祝詞など)を、天皇の歴史を語るという理念のもとに構成した書物であり、その伝承には、文字伝来以前の口頭文芸の痕跡が遺るものもある。古代日本人が漢籍(中国の古典)の学習に努めたことを考慮すると、大陸思想の影響が見られることも留意しなければならない。漢籍の表現・発想に学びつつ、日本独自の伝承を記そうとする——、この「和」と「漢」とは、日本文学の底流を為す要素であり、そのような視点から『古事記』の伝承を読み解くことが、本講義の目標である。</p>	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美術史	ヨーロッパの美術は、異文化間の活発な交流の中でさまざまな造形言語を生み出してきた。本講義では、異なる時代・文化によって生成されたイメージを多元的・多面的に考察する中で、造形言語の「文法」や「語彙」を修得することを目的とする。具体的には、まず「造形言語」とは何かについて取り上げ、続いて自己表象である「私」のさまざまなあり方やさまざまな扮装肖像が意味するもの、人の「想い」や「望み」、時間の推移の表象、「記録」の表象および「記憶の表象」との違い、作品を構成する諸要素の関係を取り上げていく。	
	仏教学	親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観を探究していく。『歎異抄』は、親鸞の書いたものではないが、前半部分は親鸞の言葉として表されているため、言葉の一つひとつに親鸞の心が如実に表されていることがうかがえる。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していく。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられるものである。本講義では、『歎異抄』の前半部分（第1条～第10条）を読みながら、親鸞の仏教観に触れていく。	
	文化人類学	文化人類学の学問的体系（目的と役割、発展過程など）について概説していくとともに、文化の進化論・伝播論・変容に着目しつつ、人類にとって身近な「衣」の文化について、地域や時代による違いや変化を概説し、あわせて日本との交流について考察していくことを目指す。具体的には、紐の用途と衣や身体装飾の効果、人間と衣服との関わり、初期の布づくり、巻衣と縫製服、古代ギリシャやアジアの民族衣装、16世紀から20世紀前半までのヨーロッパの装いとその特徴などを取り上げていき、身にまとう「衣」の文化について体系的に理解することを目的とする。	
	文章表現	<p>（概要）書き手の意図が読み手に的確に伝わる、社会で求められる的確な文章の書き方を学ぶ書き手の意図が読み手に的確に伝わる、社会の様々な局面で求められる文章表現について学ぶ。</p> <p>クラス1（61 岡崎昌宏） 相手に伝えたいことを正確に理解される的確な表現を選び、頭にあることを過不足なく文章の形にして書く、あるいは話すことができるようになることを目指す。本授業では書く表現を中心に、自分の考えを的確に表現するための基礎的な知識や技術を確認し、実際に表現の練習を行う。</p> <p>クラス2（53 井上新子） 適切な語句や文章表現を用い、自分の考えや思いを誤解なく受け手に伝えることは、現代社会を生きていく際にさまざまな場面で必要とされる能力である。こうした要請に応えるため、正確に文章を書き、正確に文章を読みとる練習を積み重ねることにより、論理的で説得力のある文章を書く能力を身につけることを目指す。文章作成課題については、添削し返却する。</p>	
	昔話研究	日本の昔話には、その源を古代文献に記された「伝承」にまで辿り得るものがある。古代の伝承については、口承で伝播・流布する過程や筆録される段階において、異国の影響が加わったと見られるものも多い。伝承の類型や異国由来の要素を考慮しつつ、古伝承が諸要素を融け合わせ、人々にどのような教訓を語ろうとしたかを推察する必要がある。また、古代の伝承が、中世「御伽草子」や現代の昔話に接続していく過程で、どのように継承され、一方で、その時代の要請をうけて、どのように変容を遂げていったかを考えていくことが本講義の目指すところである。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	倫理学	倫理学（道徳哲学）は、「よい（善）/悪い（悪）」や「正/不正」や「すべき/すべきでない/してもよい」といった規範（法律、慣習、戒律など）にまつわる事柄を扱う哲学の一分野である。我々人間がなんらかの文化ないし社会に属して生活するがぎり、このような規範から逃れることはできない。しかし、倫理学は、我々が特定の規範に従っている（いない）という事実よりむしろ、そのような規範に従う（わない）根拠であり、その正当化のプロセスを重視している。以上のような観点を踏まえて、本講義では、倫理学の基本的な学説とその応用事例への理解を通して、「倫理的な自己吟味」の方法論を身につけることを目的とする。	
	ことばの科学	ことばはいつ発生し、どのように発展したのか。また、ことばが生まれたことにより、文化、メディア等にどのような影響があったのかを深掘りし理解するとともに、言語習得の過程を理解し、第2言語・外国の習得研究を考えることを目的とする。具体的には、ことばの起源に関する仮説とその証明、動物の伝達手段と人間の伝達手段の違い、母語習得の条件から習得過程、日本語の母音の口と舌の位置関係、言語と脳との関係、第2言語・外国語の習得研究の理論、言語学とその周辺領域について取り上げていく。	
	日本の歌謡	歌謡は、実際に声に出して歌われた「うた」のことで、古代から脈々と続く歴史がある。本講義では、古典文学研究の立場から、日本に昔から伝わる歌謡を取り上げ、時代的な背景や歌の発想、表現などの諸問題について講じていくとともに、古代から現代までの歌謡、より具体的には奈良時代の歌垣や記紀歌謡、平安時代の雅楽・催馬、田楽・今様、室町時代の猿楽、風姿花伝などを取り上げる。また、謡曲『高砂』や住吉明神と能、小町の能、『通小町』、江戸時代の歌謡 歌舞伎、近代・現代の歌謡を取り上げ、詞章面からそのよさ、おもしろさを味わい、現代にも通じる歌の力について考えていく。	
	比較文学	日本文学と西欧文学の比較を授業テーマとし、三島由紀夫、トーマス・マン、川端康成、谷崎潤一郎、カフカ、安部公房など、主にヨーロッパ（とくにドイツ語圏）の作家の文学作品と日本の作家の文学作品とを比較しながら、あるいは文学と他の芸術や学問分野とを比較しながら、現代社会における文学の意味と価値と機能を考えていく。具体的な題材としては、三島由紀夫『潮騒』とトーマス・マン『トニオ・クレーゲル』、三島由紀夫『音楽』と精神分析、トーマスマン『ヴェニスに死す』と三島由紀夫『金閣寺』の愛の死、トーマス・マン『魔の山』と堀辰雄『風立ちぬ』と宮崎駿『風立ちぬ』、変身カフカ『変身』と安部公房『赤い繭』、侵犯カフカ『審判』と安部公房『友達』などを取り上げていく。	
社会 科学 系	くらしと社会保障	人びとの生活と密接な関わりをもつ医療や介護、年金などの社会保障、生活保護や社会手当などの所得保障、そして社会福祉サービスに着目していく。人びとが豊かで安心できる生活を営み続けていくためには、これらの社会保障と福祉に関する制度の活用が必要不可欠となる。本講義では、社会保障と福祉の制度体系や基本的な仕組みについて触れていくとともに、事例を用いた現状把握などを踏まえつつ、今後の社会保障と福祉の課題と方向性について検討していく。	
	経済と社会	経済学の視点を中心に、日本および国際社会の諸問題の背景とその現状を学習し、解決に向けて考えることを目的とする。具体的には、まず、経済学の基本事項を学んだうえで、現代日本社会における諸問題のなかから、労働、税、社会保障について経済学の分析手法を中心に隣接諸科学も視野に入れながら学習していく。続いて、世界規模の問題としてグローバルイゼーション、世界の貧困、環境問題を順次取り上げて検討する。そして、これらの内容をふまえて、福祉の経済学についての講義を行う。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会学入門	社会学の基礎知識の修得を経て、主な学説を学ぶことから始めるとともに、この学びのなかで得られた知見をもとに、地域から国際社会まで視野をひろげて社会現象を観察し、その意味や問題点を適正に把握するための力を養っていく。そして、現代社会の特性やその問題点について、「ゆたかさ」をキーワードにして考察を進めていく。現代における日本社会の豊かさがもつ意味と、そこにはらんでいる矛盾について、事例を用いて検討していく。	
	現代社会を学ぶ	日常生活における受講者自身の体験、受講者がインターネットやテレビなどを通じて取得する情報などの身近な事柄に着目して、「いま何が起きているのか」をあらためて理解し、それにより先入観や思い込みを問い直し、「社会とは何か」という問題に対しての興味関心を広げていくことを目標とする。具体的な学習題材として、ジェンダーとセクシュアリティ（男らしさ・女らしさ）や若者と子ども、家族、労働・職場、グローバル社会とエスニシティなどをめぐる社会学について取り上げていく。	
	日本国憲法	日本国憲法の基礎を学ぶことを目的とする。講義内容は人権規定が中心であり、具体的には、基本的人権の保障、外国人の人権、人権規定の私人間効力、幸福追求権、法の下での平等、信教の自由と政教分離、表現の自由、検閲と事前抑制、経済的自由権、生存権と社会保障制度、教育を受ける権利、刑罰・刑事手続について取り上げていく。また、統治機構として選挙権の平等と選挙制度、議院内閣制と衆議院の解散、裁判所と司法権、違憲立法審査制、地方自治、平和主義などについても取り上げていく。そして、これらの題材について具体的な事例に即して多面的・多角的な見方ができるようなることを目指す。	
	福祉教育論	学校・地域等で展開される「福祉教育・ボランティア学習」をさまざまな角度から考察し、総合的に学習していくことを目的とする。具体的な学習内容としては、第一に、社会福祉の基本理念である日本国憲法第25条(生存権保障)、第13条(幸福追求権)を取り上げ、これらの規定を根拠とする福祉について「平和」「民主主義」「人権」「ノーマライゼーション」の意義を再認識するとともに、「自立」「共生」の意味を学んでいく。第二に、教育協働支援学である「チームとしての学校」の背景と教育支援人材育成の今日的意義について学ぶ。第三に、ウィズコロナ社会における福祉ボランティア実践の意義と課題について言及していく。	
	法学	法学の基礎を学ぶことを目的とする。法学は単に条文を暗記するものではなく、法が社会においてどのように機能しているか、あるいはしていないかを広く学ぶ学問である。そのため、大学生の日常生活に即して、法の役割について考察を深めることを意図している。具体的な授業内容としては、大学生の法的立場、契約と消費者トラブル、学生生活と法の関連、労働問題、就職活動と法律、就職活動と法律、結婚、子どもの権利・子育て、生活設計、罪と罰、公的医療保険・介護保険制度、年金・相続などについて取り上げていく。	
	防災入門	日本は地理的条件や気象条件のため、地震や津波、豪雨、火山噴火といった自然現象を誘因とした自然災害が発生しやすい場所に位置している。このような自然災害を防止・軽減するためには、それら自然現象の実態や発生メカニズムを理解し、現在行われているハードおよびソフト対策についての知識を身につける必要がある。本講義では、自然災害について、過去の発生事例、発生メカニズム、ハード・ソフト対策の基本について解説を行い、今後の対策（防災・減災）について共に考える。	
	メディア論	メディアの歴史とメディアの理論を概説しながら、テクノロジーと社会の関係を考えるための手がかりとしていくことを目的とする。具体的な授業内容として、メディアとしての肖像写真や報道写真の歴史と倫理性、映画やアニメが産業化された経緯、監視映像の有効性や意味、電話ネットワークの歴史とコミュニティ形成、電話が補聴器に応用された経緯、コンピュータの発明、パソコンが普及した経緯と知性の関係、インターネットの歴史と自由について取り上げていく。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然 科学 系	宇宙・地球・生命の歴史	宇宙・地球・生命の歴史をふまえ、ヒトが今ここにいる不思議について考えていくことを目的とする。宇宙の歴史、地球の歴史と生命の誕生及び生命の誕生は深く関係しているとともに、地球に生命圏が存在するようになった前提・自然科学は、常に発展途上のものであること・自然科学で明らかになったことは私たちに新しい世界の見方を与えてくれることへの気づきを得ることが目標となる。具体的な内容として、宇宙の始まりを巡る理論や宇宙に存在する時間と空間のスケール、宇宙の誕生以降を説明する様々な理論、太陽系と地球の誕生の過程、地球型生物の定義と誕生の歴史、初期地球の環境と生命誕生の関係などを多角的に取り上げていく。	
	くらしと化学	現代社会において極めて重要な役割を果たしている化学について、身の回りの事象・物質を通して学ぶことを目的としている。そして、化学の目から見た身の回りの事象を平易に解説できるようになることを目指していく。具体的には、まず、有機化学を履修していない学生のために化学の基礎的事項を取り上げる。次に、食品から健康食品、医薬品、抗生物質、耐性菌、規制されている薬物（違法ドラッグ、大麻、麻薬など）、身のまわりの毒（植物、動物など）、環境と化学物質（環境汚染、規制など）、高分子（ポリエチレン、ナイロン、ペット（PET）やプラスチックなど）の化学などを取り上げ、日常生活で出会う化学的現象について化学的な解釈を行う。	
	現代科学論	現代の科学技術について、(1)身の周りの科学、(2)社会と科学、(3)情報通信技術（ICT）と科学の3つの概括的なテーマを設定し、それぞれ具体的な題材を取り上げ、それらに関する知識を修得するとともに、そこに潜む社会的課題を考察していく。また、各テーマの最終回には、それまでの学習およびオープンコースウェア（他大学が公開している教材）による学習を基にしたグループディスカッションを通して、各自が考察した内容や獲得した視点を共有し、知識や考え方の幅を広げてレポートにより言語化する。これらの学習活動を通して、現代科学の本質を理解することを目的とする。	
	コンピュータ技術基礎Ⅱ	実践的なコンピュータ活用技術を学び、大学での学びや社会での活動の場で、より満足にICTの利活用ができるような知識や技能を身につけることにある。前半の授業では、表計算ソフトウェアにより、さまざまなデータ分析手法を学ぶ。後半の授業では、文書作成技術を中心に、情報発信の実践的な演習を行う。講義とコンピュータによる演習が中心となるが、数名の小集団によるグループワーク（議論を通じた課題の解決）による演習も随時行う。このような学修活動を通して、ソフトウェアの適切な使用方法だけでなく、情報の収集、分析・加工・編集、表現の能力を身につけ、総合的な情報活用能力の修得を目指す。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然科学への誘い	<p>(概要) 生物・化学・物理の各分野から身の回りのトピックや不思議、解明されていない命題を紹介する。新たな知識を得るとともに、自ら科学的に考える力を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (36 田中高志／1回) 生物の形と遺伝子 生物の発生について概説し、生命現象と遺伝子のかかわりについて理解を深める。 (46 山田佳太／1回) 生命を構成する糖の性質について説明するとともに、生命現象と糖鎖の関わりや翻訳後修飾の重要性について概説する。 (24 西中徹／1回) 生命活動に不可欠な酵素について、身近なトピックスを例に挙げて、その性質と機能について概説する。 (38 朴 炫宣／4回) 食品の機能と成分の関係、成分と適した分析方法および分析機器、代表的な薬用植物と医薬品として使われている天然有機化合物を具体例をあげて説明する。 (41 渡部 勇／8回) 光の理解の歴史および光の直進と反射の性質、波動現象、屈折の法則(スネルの法則)について取り上げる。また、光の三原色について目の構造と関連づけて説明するとともに、光速の測定の歴史について、科学技術の進歩との関連づけて説明する。さらには、電磁波としての光、偏光現象、量子電磁力学的な光の諸性質について説明する。</p>	オムニバス方式
	数学への誘い	<p>数学の活用を通して、課題解決方式により数学の有用性を体験することによって数学への興味関心を高めることを目的とする。具体的な授業内容として音楽と数学、メディアのコンテンツの中の数学、数学の文化史(数学的遠近法からみた絵画)、自然の中の数学(フィボナッチ数列、形、秩序)、エッシャーの数学(敷き詰め絵の理論および製作)、確率・統計(ベストパートナーを選ぶ方法、血液型性格診断、モンテカルロ法)、社会と数学(第1次産業革命～第4次産業革命における数学の社会への貢献、AIと数学の関係)などを取り上げていく。</p>	
	生活科学	<p>人体のしくみ(欲求の根源)について概説するとともに、「暮らし」の基本である食生活や衣生活、住生活について取り上げ、人が生活を営む生活環境について幅広く科学的な知識と思考力を身につけるとともに、自己の存在と関連付けて理解できるようになることを目指している。具体的な題材として、人体のしくみと機能(中枢神経、ホルモン、感覚器、循環器と血液、呼吸器、腎臓、筋肉と骨格系、消化器官と栄養素の吸収および食欲)、食生活(エネルギーをもつ栄養素、ビタミン、ミネラルと水)、栄養バランスと食の安全性、目的に応じた被服とその安全性、被服の管理、住まいに求められる機能について取り上げていく。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生命科学入門	<p>体のしくみ、病気と医療の話題を例にして根拠に基づく科学の考え方を学ぶとともに、生命科学に関する基礎的知識を修得することにより、身近な生命現象を科学的に理解する姿勢を身につけ、社会にあふれる情報に混在する疑似科学的記事に惑わされない力を身につけることを目指していく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (65 小野史郎／9回) 人体を構成する約37兆個の細胞に共通する構造と働きを概説するとともに、食べ物が体内で利用される仕組み、生命を支える物質やエネルギーをつくる仕組み、遺伝子、遺伝のしかた、遺伝病、さらには感染症とそれを防御する免疫系、およびワクチンの果たす役割、移植医療とそれに伴う生命倫理上の問題点、がんの概念およびがん細胞に特異的に働く分子標的薬、自己免疫疾患やアレルギーとその治療薬としての生物学的製剤の働くしくみについて概説する。</p> <p>(81 寺田知行／6回) 体のしくみ、はたらきと病気について取り上げる。具体的には、神経系・循環器系・呼吸器系・消化器系のそれぞれのしくみとその病気について概説するとともに、内分泌器系と生殖器系のしくみとその病気、皮膚と骨格系のしくみとその病気について取り上げ、概説する。</p>	オムニバス方式
	統計学 I	<p>社会福祉学、心理学における諸課題を科学的に分析し、解決策を企画できることを目指して、統計学の基礎知識である記述統計である尺度水準、代表値、散布度、クロス集計、さらには相関係数など、データ・サイエンスにおける基本的な概念と推計学の基礎について、知的理解だけでなく、表計算ソフトの操作・実習を通じた技術的側面からも演習・講義する。なお、本講義では、クラウドを通じた資料配信、スライド呈示、授業への参加確認、表計算ソフトの操作などにおいて、ICT技術を活用することも想定している。</p>	
	ヒトと環境	<p>生命が地球にいる背景・生命の歴史をふまえた上で、地球環境の変化と生命の歴史は深く関係していること、生命は空間軸・時間軸において他の生物とのつながりの中に生きていることを学ぶ。その上で、ヒトを取り巻く環境の現状について考え、持続可能な社会を形成するために私たち人間に何が求められているのかを考える。そのための具体的な講義内容として、地球環境の変化と生命の歴史、種の多様性、生態系、環境問題としての地球温暖化や化学物質汚染、さらには持続可能な社会について取り上げていく。</p>	
	自然科学史	<p>古代から現代までの自然科学の歴史について、偉大な科学の巨人達から学ぶことを講義のテーマとする。講義は古代ギリシャの天動説から始め、古典力学の完成およびその後の量子力学、相対性理論への発展を主に物理学の視点から概観していく。また、教科書で見てきた理論が、どのように誕生し、どのような積み上げの中で練り上げられてきたかを知り、そこからいかに人間社会は先人たちの積み上げによって成り立っているのか、現代の生活にどのように応用されているのかを考えていく。</p>	
	統計学 II	<p>データ・サイエンスの基本である母集団、サンプル、仮説検定、帰無仮説、p 値、有意水準など、推計学の概念ならびに主成分分析、クラスタ分析、重回帰分析など、代表的な多変量解析について、知的理解だけでなく、表計算ソフトの操作を通じた技術的側面からも授業する。なお、本講義では、クラウドを通じた資料配信、スライド呈示、授業への参加確認、表計算ソフトの操作などにおいて ICT 技術を活用することを想定している。「統計学 I」で主に学習する記述統計の手法や推計学の考え方の学習から一段ステップアップし、多変量解析を含めた複数の推測統計の手法の考え方の学習と実践を行う。</p>	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	ロジカルシンキング	社会人として働くうえで、様々な方々（顧客、取引先、上司、同僚、部下、他部署など）とのコミュニケーションは不可欠である。そのためには、相手に自分の考えを理解していただき、納得していただくための、伝える力（話す、書く）が必要となる。社会ではそのための考えの「整理の仕方」、「整理したものの伝え方」に共通する文法がある。この文法を身に付けずにコミュニケーションを図ろうとしても、信頼は得られない。そこで、本授業では演習を通して、伝える内容の組み立て方と伝え方（書く、話す）の基本を学習していく。なお、課題レポートは学習支援システム（tani-WA）のレポート機能を使って行う。	
	ロジカルコミュニケーション	前期の「ロジカルシンキング」で学習したことを基に、さらに伝える力の高度化を図る内容となっている。まず、ロジカルシンキングの復習を行い、その後、短時間での「要点整理⇒書く⇒話す」ができるための演習を行い、まずは一人称での書く、話すという「伝える力」を習得する。次に、グループディスカッションの演習を積み、様々な考えを持つ人たちと議論をして合意形成を図る力を習得する。最後に、パワーポイントによる的確な資料作りとプレゼンテーションの演習を行い、聴衆に向けた伝え方を習得する。なお、課題レポートは学習支援システム（tani-WA）のレポート機能を使って行う。	
	社会教養基礎	SPIなどの実践的な演習を通して、社会人に求められる一般教養、言語能力、論理的思考力、自己理解を深めるための方策を学ぶ。そして、文章で表現すること、コミュニケーション時の言葉を整理することを通して、他者との関わりを深める方策について考察を深め、キャリア形成を自主的に行うことを目指す。基本事項の説明後、演習（練習問題）を中心に行い、各項目の理解を再確認していく。なお、演習だけでなくアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークやその内容を受講者全体に共有を図るペアワーク・グループワークを行うことがある。また、スマートフォンをクリッカーとして使用し、受講生の意見を取り入れた、ICT活用による双方向型授業を展開していく。	
	数学教養基礎	SPIなどの実践的な演習を通して、社会人にも求められる数的推理能力、数学的思考力、自己理解を深めるための方策を学ぶ。そして、文章で表現すること、コミュニケーション時の言葉を整理することを通して、他人との関わりを深める方策について考察を深め、キャリア形成を自主的に行うことを目指す。基本事項の説明後演習（練習問題）を中心に行い、各項目の理解度を再確認していく。なお、アクティブ・ラーニングの一環としてグループワークやその内容を受講者全体に共有を図るワークを行うことがある。また、スマートフォンをクリッカーとして使用し、受講生の意見を随時取り入れたICT活用による双方向型授業を展開していく。	
	キャリアデザイン	長い人生の中で「大学時代」が持つ意味を理解し、その先の人生を見通そうとする姿勢を養うことをねらいとして、「社会人になる事についての誤解」を解き、前向きな気持ちで社会に出るための準備を大学生活を通して行うきっかけになることを目指していく。授業の具体的内容として、働くことの意義、業種・職種と採用のシステム、大学生活の考え方、資格取得についての考え方、キャリアに関連する学内施設の利用法、学歴の考え方、キャリアデザインとキャリアドリフト、キャリアデザインシートの作成などについて取り上げるとともに、演習方式を適宜取り入れながら授業を展開していく。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インターンシップ入門	私たちが知っている企業の多くは、日常使っている物や食べ物、飲み物などを製造している製造業であったり、それらを販売している小売店などであろう。実際には元々の原材料を製造したり、それを運送したり、卸売業者が介在したり、さらには保管する倉庫業なども関わっている。本授業では、私たちが日ごろ口にするお菓子を事例に、その原材料の調達から輸送、製造、卸、小売店を中心に業種およびそれに属する企業の存在と役割を理解していく。そして、自分でこのような業界があるかもしれないと想像し、調査するスキルを演習を通して習得していく。また、関心を抱いた業種および企業のインターンシップに参加する準備を、就活支援会社の指導の下に行う。	
	簿記入門	「ビジネスの言語」と言われる簿記は、企業におけるさまざまな経済活動を、定められた帳簿に継続的に正しく記録・計算・整理して、企業の財政状態（財産の有り高）及び、経営成績（儲け）を明らかにすることである。その企業の経営状態のよしあしを判断し、将来の経営方針をたてるための資料、つまり企業の成績表（財務諸表）を作成・理解することができる。本講義では、初学者を対象として、簿記の基本的なルールや手続き、簿記用語について学ぶ。	
	自治体研究	自治体の取り組みに関する知識・関心を深め、それに従事する公務員としてのキャリア形成の基盤となる知見、すなわち公務員にとっての「常識」、いわば「公務員語」の基礎を獲得することを目的としている。そこで、①本学の専任教員が指導する通常スタイルの講義・文献読みに加え、②市議会の傍聴を行なうことをつうじて、地域やそこに生活する市民の課題解決・緩和のために働くということはどういうことなのか、より自分に接近させて考える機会を提供し、公務員になることを漠然とした「憧れ」から具体的な「将来の進路」へと昇華させる支援を行っていく。	
	就活力Ⅰ	就職に際して重要なインターンシップについて、自己分析、インターンシップ先の探し方、エントリーの手続き方法、エントリー・参加に際しての準備など、トータルな内容を提供していく。そして、キャリアセンターのインターンシップ準備講座に繋げていくことを目的とする。授業の具体的内容として、自己分析、リクナビやマイナビの特性、求人検索ナビ登録、インターンシップ時の保険の扱い、業界・企業の調べ方、インターンシップの参加手続き、インターンシップのプレエントリー、インターンシップ向けのエントリーシートを作成などを取り上げていく。	
	就活力Ⅱ	民間企業の就職活動に臨むに際して準備すべきことを体系的に学ぶ。まず、企業の標準的な選考プロセスの一連の流れを知り、次に、その一つひとつの選考方法が何のための実施されているのかを理解していく。そして、それらの対策について紹介する。また、本授業の中で自身のエントリーシートを作成し、それを添削して後日返却する。本授業で就職活動の概略をしっかり押さえ、キャリアセンターの主催するセミナーを活用してしっかり準備し、就職活動本番に繋げていくことが求められる。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	採用研究（民間企業）	<p>企業が求める人材要件は画一的なものではない。業界の違い、同じ業界でも企業のステージの違いなどによって、求める人材要件は異なる。また、同一業界でも各企業の経営理念によって価値観は異なるため、応募者とのその価値観のマッチングも考えなければならない。</p> <p>このようなことを踏まえて、企業の採用姿勢は採用活動に反映される。つまり、エントリーシートで求められる記載事項、面接におけるその回数、面接官のタイプ、質問内容、筆記試験やWEB試験の内容などに現れてくるのである。本授業では、本学学生が多くが志望する金融業、流通業、製造業の採用について、先輩たちが残してくれた記録をも交え分析するとともに、それを踏まえた対策を考えていく。また、これまでに本学の学生を採用いただいた企業の方を招き、各社の採用に対する考えを紹介いただく。</p>	
	採用研究（公務員）	<p>（概要）人間が社会と職業的にかかわる1つの方法として「公務員」というものがある。そのため、本授業では、「公務員」とはどのような職業であるのか、また、どのような能力をもつことが求められるのかについて学び、自己の学習計画を立案する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （13 岡島克樹／4回） 警察や市役所（消防を含む）OBまたは現役職員（本学卒業生を含む）をゲストスピーカーとして招き、彼らからその仕事の内容や採用試験対策について学ぶ。また、エントリーシートの書き方や筆記試験・面接対策について理解する。</p> <p>（14 尾川信之／4回） これからの公務員の姿を考え、エントリーシートや面接のヒントを掴むとともに、公務員と民間企業の併願の有用性について理解する。また、SPI性格検査やSPI言語・非言語を受験するとともに、インターンシップの必要性について学ぶ。さらに、本学キャリアセンター等、学内リソースの活用についても知識を得る。</p>	オムニバス方式
	TOEIC Practice A	<p>TOEIC検定試験に向けて、TOEIC特有のテスト形式に慣れるとともに、リスニング・セクションとリーディング・セクションのそれぞれについて練習問題をこなし、学習する。TOEICの検定試験で500点達成を目標にする。授業の具体的な内容として、動作についての写真問題、英語の時制の使い分け、Yes-No疑問文とWH疑問文のそれぞれの答え方、3人の会話について関係性とやりとり、進行形、完了形、応答の予測、冠詞の適切な使い方、時制の一致、音節の省略、名詞の用法、使い分け、チャットスタイルの英文、図表を伴う広告、不定詞と動名詞などを取り上げる。</p>	
	TOEIC Practice B	<p>TOEIC検定試験に向けて、TOEIC特有のテスト形式に慣れるとともに、リスニング・セクションとリーディング・セクションのそれぞれについて練習問題をこなし、模擬テストを行う。TOEICの検定試験で500点達成を目標にする。授業の具体的な内容として、英語の音声変化（音の連結、脱落）、可算名詞と不可算名詞の使い分け、簡略化して発音される英語の音の聞き取り、動詞の時制の正確な使い分け、音の同化のしくみ、形容詞の限定用法と叙述用法の正確な使い分け、使役動詞の使い方、音の弱化（接続詞、前置詞）、受動態の特殊な使い方、リエゾンとコントラクションなどを取り上げる。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外研修A（英語圏）	<p>（概要）海外の本学提携校での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。事前研修では、現地の歴史や、現地での研修時（空港やホテル、受入先大学、日本文化紹介セッション）に必要な英語表現を再確認する。事後研修では、研修全体をふりかえり、新たに得た体験の意味を整理するとともに、それらに対し教職員によるフィードバックを行い、今後の学習計画を考える。</p> <p>クラス1（13 岡島克樹） フィリピンのレトラン学院大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p> <p>クラス2（39 Beh Siewkee） カナダのランガラ大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p> <p>クラス3（37 中島悠介） 米国のモラビアン大学その他の現地教育機関（高校や幼稚園）で日本文化紹介授業を行うとともに、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p>	集中
	海外研修B（英語圏）	<p>（概要）海外の本学提携校での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。事前研修では、現地の歴史や、現地での研修時（空港やホテル、受入先大学、日本文化紹介セッション）に必要な英語表現を再確認する。事後研修では、研修全体をふりかえり、新たに得た体験の意味を整理するとともに、それらに対し教職員によるフィードバックを行い、今後の学習計画を考える。</p> <p>クラス1（13 岡島克樹） フィリピンのレトラン学院大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p> <p>クラス2（39 Beh Siewkee） カナダのランガラ大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p> <p>クラス3（37 中島悠介） 米国のモラビアン大学その他の現地教育機関（高校や幼稚園）で日本文化紹介授業を行うとともに、そのために本学内で事前・事後研修を行う。</p>	集中
	海外研修A（朝鮮語圏）	<p>大韓民國京畿道龍仁市に所在する壇國大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。事前研修では、現地の歴史や、現地での研修時（空港や宿泊施設、受入先大学）に必要な基礎知識を学び確認する。事後研修では、研修全体をふりかえり、参加者ディスカッションを通じて互いに新たに得た体験の意味を整理するとともに、今後の学習計画を考える。</p>	集中
	海外研修B（朝鮮語圏）	<p>大韓民國京畿道龍仁市に所在する壇國大学での語学研修・文化交流と、そのために本学内で事前・事後研修を行う。事前研修では、現地の歴史や、現地での研修時（空港や宿泊施設、受入先大学）に必要な基礎知識を学び確認する。事後研修では、研修全体をふりかえり、参加者ディスカッションを通じて互いに新たに得た体験の意味を整理するとともに、今後の学習計画を考える。</p>	集中

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 職 科 目	教職基礎社会	日本史、政治・経済を中心にして、様々な社会科分野の基礎的な流れを解説し、理解させ、教養試験対策だけでなく、教職についた後にも活かせるような知識の定着を目指す。そのために、毎回、講義の最初に前回の講義内容に関する簡単な復習小テストを課す。具体的な授業内容として、日本国憲法と民主政治、日本国憲法の基本原理、日本の政治機構、現代の経済と国民福祉、国際社会の現状と課題、日本政治史、日本経済史、外交関係、宗教、教育・思想・学問、美術・文学・芸能、日本の中の世界遺産、大阪の歴史・産業などを取り上げる。	
	教職文章表現	教育に関する小論文を作成する。いくつかのテーマに分けて具体的な問題を取り上げ、説明を聞いたうえで、それぞれのテーマに関する自分の考えを小論文にまとめる。そして、教育に関する小論文を書く際の注意事項をふまえ、正しい日本語を用いて、自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができることを目標とする。まず、文章表現の基礎となる正しい日本語表記や原稿用紙の使い方、文章の構成意識について学び、応用した文が書けるようになることを目指す。次に、学習指導や生徒指導、学校や教師の在り方、教育課題などを文章の題材とし、自分の意見を文章に書くことができるようにする。	
	教職総合ベーシックⅠ	教員採用試験（思考力・判断力を問う問題など）で出題される「文章理解」「判断推理」「資料解釈」「数的処理」の課題を対象に、合格に必要な知識・教養の基礎知識及び実践力を習得していく。そのために、各自治体の教員採用試験の出題傾向を押さえながら、思考力・判断力を問う問題の頻出分野を知り、筆記試験突破に向けて、まずは解法への基礎知識を身に付け、自主学習の仕方やポイントを掴むことを目指していく。そして、解説を聞き、解き方を理解できるようになった後は、自力で解けるところまで力を高めていく。	
	教職総合ベーシックⅡ	教員採用試験（一般教養・小学校全科）のうち「国語」「数学（算数）」「理科」「社会」「英語」を対象に必要な基礎的知識および解法の修得を目指す。基礎からしっかりと知識を積み上げることで、苦手科目の克服につなげる。演習（練習問題）を中心に各項目に対する理解を深めることで、自己の弱点・得意分野を知り、今後の学習方針を確立することを目標とする。	
	教職総合アドバンスⅠ	大阪府下の自治体の教員採用試験一次試験で実施される「判断推理・数的処理・資料解釈・文章理解」では、知識だけでなく「思考力」「判断力」等の論理的思考力が問われる。そのため問題演習を中心とした授業・演習で頻出問題を用いて制限時間内に回答できる力を養う。	
	教職総合アドバンスⅡ	全国ほとんどの自治体で実施される「教員採用試験・一般教養」の問題演習を中心とした授業。各自治体で実際に出題された頻出問題を解くことで応用力と実践力を養い、正確に回答する力を養う。	
	教職直前対策	教員採用試験対策を目的とする授業で、近年の教員採用試験の傾向を踏まえ、教育時事や学校現場で生じる様々な問題への対応力を演習を通して養う。また、教員採用試験では一人一人の人物評価が重視されることから、演習を通して「なぜ教員を混ざすのか」自己分析を深め、自分の志望動機と教職の使命の一致点を探ることを目指す。	共同

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教職教養対策	<p>教員採用試験対策を目的とする授業です。近年の教員採用試験の傾向を踏まえ、教育時事等、教職についての知識の必要性を、演習を通して学ぶ。また、教員採用試験に向けた自己目標を設定し、演習を通して、自己分析を深め、自分の志望動機と教職の使命の一致点を探ることを目指す。</p> <p>さらに教員採用試験の近年の傾向や、社会の動向、教育の動向を踏まえ、教員を目指す上での、自分の強みについて説明できることや、自己課題と具体策を説明できることを目標とする。</p>	共同
	教育インターンシップ I	<p>(概要) 教育現場の実際に触れることで、教職への意欲を高めるとともに、5日間、学校現場の教育活動に接することを通じて、教職への意欲を高揚させることを目的とする。活動前にはインターンシップの意義と心構えを理解することを目的に授業を行い、個々の活動の目的を明確にしてインターンシップの活動に臨む。活動後は、自分が学んだことを整理し、グループワークやディスカッションなどで学びを深め、その後の自己課題設定につなげる。</p> <p>クラス1 (12 岩井晃子・18 芝本哲也) 小学校での教育インターンシップの目的と意義を理解し、活動の準備を行うとともに留意点を理解する。そして、事前の学習を活かして積極的にインターンシップの活動に取り組み、日々の気づきや体験など、日誌にまとめるとともに、自己の活動目標の達成状況や活動校における気づきや学びを整理し、今後の自己課題についてまとめる。</p> <p>クラス2 (15 奥菌みどり) 幼稚園での教育インターンシップの目的と意義を理解し、活動の準備を行うとともに留意点を理解する。そして、事前の学習を活かして積極的にインターンシップの活動に取り組み、日々の気づきや体験など、日誌にまとめるとともに、自己の活動目標の達成状況や活動校における気づきや学びを整理し、今後の自己課題についてまとめる。</p> <p>クラス3 (28 松下 廣伸) 中・高等学校でのボランティア実習(中学校は5日間、高校は3日間)を体験することで、教員像を明確にするとともに、教員に求められる資質能力を知り、自身の教職への適性を探り、教育実習前に現場を体験する。また、大学生として社会貢献を行い、キャリアデザインを形成し、キャリアモデルに出会うことを通して実習終了後の学びのモチベーションを高めていく。</p>	共同 (一部)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育インターンシップⅡ	<p>(概要) 教育現場の実際に触れることで、教職への意欲を高めるとともに、5日間、学校現場の教育活動に接することを通じて、教職への意欲を高揚させることを目的とする。活動前にはインターンシップの意義と心構えを理解することを目的に授業を行い、個々の活動の目的を明確にしてインターンシップの活動に臨む。活動後は、自分が学んだことを整理し、グループワークやディスカッションなどで学びを深め、その後の自己課題設定につなげる。</p> <p>クラス1 (12 岩井晃子・18 芝本哲也) 小学校での教育インターンシップの目的と意義を理解し、活動の準備を行うとともに留意点を理解する。そして、事前の学習を活かして積極的にインターンシップの活動に取り組み、日々の気づきや体験など、日誌にまとめるとともに、自己の活動目標の達成状況や活動校における気づきや学びを整理し、今後の自己課題についてまとめる。</p> <p>クラス2 (15 奥菌みどり) 幼稚園での教育インターンシップの目的と意義を理解し、活動の準備を行うとともに留意点を理解する。そして、事前の学習を活かして積極的にインターンシップの活動に取り組み、日々の気づきや体験など、日誌にまとめるとともに、自己の活動目標の達成状況や活動校における気づきや学びを整理し、今後の自己課題についてまとめる。</p> <p>クラス3 (28 松下廣伸) 中・高等学校でのボランティア実習(中学校は5日間、高校は4日間)を体験することで、教員像を明確にするとともに、教員に求められる資質能力を知り、自身の教職への適性を探り、教育実習前に現場を体験する。また、大学生として社会貢献を行い、キャリアデザインを形成し、キャリアモデルに出会うことを通して実習終了後の学びのモチベーションを高めていく。</p>	共同 (一部)
	学校教育演習Ⅰ	<p>教員採用選考テストの面接の実態を知るとともに、面接演習をとおして、何が面接で問われるのか、なぜその質問がされるのか、将来、学校教育に携わろうとする者に求められる資質や能力とは何か、自分のどのようなところが教員に向いているのかについて自己分析を深め、教員としての適性に気づくことを目指していく。そして、自己の資質や能力をどのように表現すれば面接官に理解されやすいのかについて、各種面接や集団討論などの演習を通して学んでいく。</p>	共同
	学校教育演習Ⅱ	<p>学校現場で起こるさまざまなシーンについて、教師としてどのように対応できるのかが問われているなか、本授業では、教員として必要な資質や能力について学ぶとともに、自己の資質や能力をどのように表現すれば面接官に理解されやすいのか、各種面接や集団討論などの演習を通して学んでいく。毎回、グループディスカッション、討論、グループワーク、プレゼンテーション等の演習を行い、その成果を個人またはグループごとに発表し、学びを深めていく。また、教育委員会の指導主事等ゲストティーチャーを招き、教育現場の最新の状況や対策等についての講義を受け、教育課題について学びを深めていく。</p>	共同

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	専 門 必 修 科 目		
	基礎ゼミⅠ(学習技術)	本科目は初年次教育の一環として位置づけられ、大学レベルで求められる学習技術を身につけることを授業の目的とする。大学レベルの授業に参加し、そこでより多くの学びを得るために必要な「学習技術」やこれを支える積極的な「学習態度」をとりあげて学ぶ。具体的には、人間社会学部で作成する教科書にもとづき、大学生に求められる態度や、読む力・聴く力、調べる力、考える力、発表する力、書く力という「学習技術」を向上させる課題に個人およびグループワークで取り組むことで学んでいく。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、パーソナリティ心理学や臨床心理学を学習するための知識および方法論を得ることを目的とし、個人差心理学を学ぶ。1年次までに学ぶ心理学各領域の知識を前提とし、配布資料や各自が収集した資料をもとに発表及ディスカッションを行い、多様な心理学的事象を理解する。これより、個人差の心理学に関する基礎的な知識と技能を習得し、学修者としての姿勢を学ぶ。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、将来心理職として対人援助を行うための基礎知識を得ることを目的とし、臨床心理学の主要なテーマを学ぶ。1年次までに学ぶ心理学各領域の知識を前提とし、配布資料や各自が収集した資料をもとに発表及ディスカッションを行い、様々な心の現象を臨床心理学の視点で理解する。これより、心理支援の基礎的な知識と技能を身に付け、支援者としての姿勢を学ぶ。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	基礎ゼミⅠ(学習入門)において学んだスタディスキルに基づき、研究の基礎を身に付けていく。本科目では、心理学を日常生活と結びつけるセンスを身につけることをテーマとする。前期では、心理学・社会福祉学に共通する研究手法である観察法を、日常生活に取り入れるための技術を体験的に身に付ける。後期では、書籍に記載されている心理学実験をグループごとに1つ選び、再現実験を行う。この活動を通して、実験手法を体験的に身に付けていくと共に、心理学研究における再現性の問題について各自で考える機会を提供する。取り組みの成果として、プレゼンテーションを行う。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本授業の目的は臨床心理学、心理療法、福祉心理学の領域で学生自身が興味を抱いたことについて知る力、学ぶ力を実践的に身につけていくことである。また、心理療法やコミュニケーションの基礎として傾聴を体験的に学習する。①臨床心理学、心理療法、福祉心理学の分野から各自が興味を持つことについて深く調べる力、読む力、まとめる力、発表する力を身につける。②心理療法の基礎として傾聴の基礎を実践できるようになる。③臨床心理学や福祉心理学の理論と実践を結びつけて考えられるようになるの以上①から③を授業の目標とする。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は、少人数ゼミナール形式で実施する。1年次で学んだ心理学領域の知識をもとに、学生自身が興味・関心を持った様々な心理的事象について、基礎知識を得て臨床心理学視点から理解を深めることを目標とする。方法としては、学生が関心を持った心理学的な事象について自らテーマを選び、資料の作成、発表及びディスカッションを行う。また、障害者支援技術において支援者側・被支援者側の両方を体験することを通して、対人援助職として求められる姿勢を学ぶ。	
基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は、少人数ゼミナール形式で実施する。1年次で学んだ心理学領域の知識をもとに、学生自身が興味・関心を持った様々な心理的事象について、基礎知識を得て臨床心理学視点から理解を深めることを目標とする。方法としては、学生が関心を持った心理学的な事象について自らテーマを選び、資料の作成、発表及びディスカッションを行う。これより、心理的支援の基礎的な知識や技能、態度を身に付け、対人援助職者としての姿勢を学ぶ。		

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は少人数のゼミナール形式で実施する。1年次で学んだ心理学の各領域の知識をもとに、学生自身が興味・関心を持った対人援助に関する様々な心理的事象について、臨床心理的視点から理解を深め、「知を探求する」姿勢を身につけることを目的とする。自ら選んだテーマについて調べ、資料作成、発表およびディスカッションを行う。これにより、対人援助における臨床心理学についての基礎的な知見を整理する力と、そこから考察する力をつけていく。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は、基礎ゼミⅠ(学習入門)において学んだスタディスキルを実際に活用し、研究の基礎を身につけていくことを目的とする。授業のテーマは、「私たちの暮らしと社会について協同的に学ぶ」と設定し、具体的には、新聞記事など多様な情報媒体から、暮らしの現状、社会の現状を把握し、社会的な課題について、グループワークやディスカッションを通して、理解を深めていく。ゼミ活動では、読む、書く、調べる、考える、発表する等のスキルを実際に用いることになり、体験的に身につけていけるよう指導する。取組の成果としてレポート作成、プレゼンテーションを行う。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	人びとの日常生活を取り巻くさまざまな福祉問題(介護、子育て、障害、貧困、年金、医療等)に目を向けていく。そして、ゼミ学生一人ひとりが興味・関心のあるテーマを設定し、その内容に関わる資料や文献等を幅広く収集し、レビューしていく。また、社会福祉実践現場への訪問による社会福祉士(ゼミ卒業生など)へのインタビュー調査や参与観察などにも取り組むことにより、社会人として必要不可欠なリサーチやディスカッション、プレゼンテーションの能力の習得をめざしていく。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は、社会福祉(ソーシャルワーク)とその周辺の実践活動とその貢献可能性について、ともに学んでいくことを目標とする。具体的には、現代社会では様々な生活問題・社会問題が生じているが、そのような中で暮らす各人個々が、素朴に日常の生活のなかから様々な問いを大切にしていきながら、実際の活動につなげていけるよう、ともに考えていくことを目指す。取り上げる題材は、教員が提供する情報・資料の他、各自が関心のある社会福祉問題、そして福祉の臨床・活動・実践である。例えば、「様々な疾病・障害を持ちながら施設や地域でくらす人たちの暮らしとその支援のあり方」「様々な状況・環境により生きづらさを抱える人たちの暮らしとその支援のあり方」など種々あげられるが、より具体的な事例や実際に支援する現場に迫っていけるよう学んでいく。また、将来つきたいと考える福祉とその周辺のしごと/活動について、考えていく。	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	本科目は、少人数制のゼミナール形式で実施し、子ども家庭福祉における現代社会が抱える課題を考えることで自身の関心のあるテーマを模索し研究の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、子ども家庭福祉の分野において、大きな社会問題となっている「子ども虐待」や「子どもの貧困」をテーマとして扱い、これらの課題を抱えた家族や子どもたちを支援する仕組みとして児童養護施設や乳児院、里親などの社会的養護の仕組みも踏まえ、子ども家庭福祉分野の社会福祉専門職としてのイメージをつかめるよう、発表やグループによるディスカッション、専門職へのインタビュー等を通じて学びを深める。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間と社会A	<p>本授業は、人間社会学部における4年間の学びの基礎をなす、①学際性の意義に関する基礎的な知識・関心の獲得、②スタディスキルの向上という2つを目的とする、本学部の初年次教育プログラムの一部を構成するものである。そのため、本授業では、まず社会の構造やそのなかで人間がかかえる諸課題を多角的な視点をもって探求することの意義や面白さを知るために、15回を通して複数のテーマを用意し、異なる学問領域の角度から授業を展開する。具体的には、各テーマについて、3人の教員がそれぞれ異なる学問領域の知見や方法を用いた授業を行ない、学問領域ごとの関心事やアプローチがあることに触れる機会を提供する。また、本授業では、スタディスキルのなかでもとくにつまずきが少なくない「書く」力に着目し、毎回「書く」課題を課すとともに、「レポート作成教室」と題した授業を2回配置し、基礎ゼミナールIとの相乗効果をねらった取組を行なう。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 井手沙織/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働やSDGsについて心理学の観点から論じる。 <p>(13 岡島克樹/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働や少子高齢化について政策学やジェンダー論の観点から論じる。 <p>(31 小林未季代/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動についてスポーツ健康学の観点から論じる。 <p>(22 中村雅司/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動について情報学の観点から論じる。また、アカデミックライティングについて講義する。 <p>(27 藤原崇/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働やSDGsについて経営学の観点から論じる。 <p>(4 船本淑恵/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動と少子高齢化について社会福祉学の観点から論じる。 <p>(30 吉川眞由美/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化やSDGsについて医学の観点から論じる。 <p>(6 井手沙織・13 岡島克樹・31 小林未季代・22 中村雅司・27 藤原崇・4 船本淑恵・30 吉川眞由美/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学際的なものの見方とその意義について総括的な講義を行う。 	オムニバス方式 共同 (一部)
	人間と社会B	<p>本科目は、人間と社会Aおよび心理・福祉学入門で学んだ知識をもとに、心理学・社会福祉学を学ぶための基盤を固めることを目的とする。具体的には初年次教育プログラムの一環として、学科を構成する2つの学問領域(心理学、社会福祉学)に関する基本および、心理コース、社会福祉コースの目指すところや主要な関心事、キャリア、アプローチ等を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 安田傑・5 浅野浩子・3 秦康宏・11 谷俊英/3回) 共同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会Aおよび心理・福祉学入門での学びをもとに心理学、社会福祉学における学びの基礎を知る。 ・心理コースおよび社会福祉コースにおける学びやキャリアについての特徴を知る。 ・人間と社会Bにおける学びの振り返りを行う。 <p>(9 安田傑/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理コースでの学びと心理学における非臨床系キャリア(非専門職)の概観を学ぶ。 <p>(5 浅野浩子/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理コースでの学びと心理学における臨床系キャリア(専門職)の概観を学ぶ。 <p>(3 秦康宏/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉コースでの学びと社会福祉の関連領域(医療機関や教育機関、司法機関等)における福祉専門職のキャリアを学ぶ <p>(11 谷俊英/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉コースでの学びと社会福祉の専門領域(社会福祉機関・施設等)における福祉専門職のキャリアを学ぶ 	オムニバス方式 共同 (一部)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理・福祉学入門	<p>本科目は、心理・福祉学科における4年間の学びの概観を学ぶことを目的とする。具体的には、心理・福祉学科全専任教員から、それぞれの専門性を活かした心理学、社会福祉学の魅力や特徴、人間や社会との関係性を伝えることで、心理学・社会福祉学への関心を高め、4年間における学びのイメージを図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 小西宏幸・2 田沢晶子・9 安田傑・8 上西裕之・6 井手沙織・5 浅野浩子・10 河崎俊博・4 船本淑恵・3 秦康宏・7 植木是・11 谷俊英/2回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理・福祉学科における学びの概観を知る。 心理学領域、社会福祉学領域をもとに心理・福祉学科での学びや特徴について振り返る。 <p>(1 小西宏幸・2 田沢晶子・9 安田傑・8 上西裕之・6 井手沙織・5 浅野浩子・10 河崎俊博/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学領域における学びを振り返る。 <p>(4 船本淑恵・3 秦康宏・7 植木是・11 谷俊英/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉領域における学びを振り返る。 <p>(1 小西宏幸/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学におけるカウンセリングの位置づけについて学ぶ。 <p>(2 田沢晶子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談(思春期・青年期)における心理支援を学ぶ。 <p>(9 安田傑/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア形成への心理学の活かし方について学ぶ <p>(8 上西裕之/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なこころの病を知ることを通して臨床心理学と社会福祉学の交差点について概観する <p>(6 井手沙織/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者心理の視点を通して、共生社会の考え方を学ぶ。 <p>(5 浅野浩子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心と身体の不調に対する心理的理解を学ぶ。 <p>(10 河崎俊博/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の問題を理解するための考え方を学ぶ。 <p>(4 船本淑恵/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉の変遷を題材に社会福祉の歴史を学ぶ。 <p>(3 秦康宏/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者保健福祉領域から社会福祉の役割と機能を学ぶ。 <p>(7 植木是/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーカー/相談援助の活動(実践事例)から各領域に必要な共通基盤について概観する。 <p>(11 谷俊英/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭福祉領域から社会福祉学の概観を学ぶ。 	オムニバス方式 共同(一部)
	ゼミナールⅠ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、心理専門職や非専門職など、多様な場面で役に立つ、心理学的支援の方法、臨床心理学の各理論について学ぶことを目的とする。2年次までに学ぶ心理学各領域の知識を前提とし、各自が興味を持つ心理学に関する文献を収集し、まとめ、発表し、ディスカッションを行い、臨床心理学の理論と技法の理解をさらに深める。これより、次年度のゼミナールⅡに繋がる研究テーマを探る。</p>	
	ゼミナールⅠ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、将来心理職として対人援助を行うために、心理学的支援の方法、臨床心理学の各理論について学ぶことを目的とする。2年次までに学ぶ心理学各領域の知識を前提とし、各自が興味を持つ臨床心理学に関する文献を収集し、まとめ、発表し、ディスカッションを行い、心理療法の理論と技法の理解をさらに深める。これより、次年度のゼミナールⅡに繋がる研究テーマを探る。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナール I	本科目では、心理専門職を目指さない学生がキャリア形成に心理学を活かす姿勢と技術を修得する事を目的とする。具体的には、キャリア心理学や心理学的アセスメントの理論を自己分析に、そして産業心理学の理論を業界・企業分析に応用する。加えて、企業等が主催するインターンシップへの参加を、ゼミの教育方針として推奨する。これにより、「自己と業界・企業」そして「理論と現実」が柔軟にマッチするキャリアアダプタビリティの育成を図る。この取り組みの成果として、プレゼンテーションを行う。	
	ゼミナール I	本授業では、卒業研究に向けて臨床心理学や福祉心理学の領域で学生自身が興味を抱いていることを中心に、文献検索、先行研究のレビュー、統計解析などの研究法、研究の立案、論文の構成と書き方などを意識しながら段階的に進めていく。また、認知行動療法やフォーカシングなど心理療法について、体験を通して学習を進めていく。次の3つ点を目標とする。①臨床心理学や福祉心理学の分野から各自が興味を抱いていることについて、上記の卒業研究を行うための基礎的なスキルを身につける。②各人が興味を持った心理療法について実践的に学ぶ。③臨床心理学や福祉心理学の理論と研究、実践を結びつけて考察できるようになる。	
	ゼミナール I	本科目は、少人数ゼミナール形式で実施する。2年次までに学んだ臨床心理学の知識や理解をもとに、学生自身が関心を持つテーマについて、文献を収集する力、内容を要約する力、発表する力を身につけることを目標とする。方法としては、関心のあるテーマについて文献を収集し、内容を要約して発表する。また、発表された文献内容についてディスカッションを行い、疑問点や別の考察について検討を行う力を養うことで、次年度のゼミナールⅡに繋がる研究テーマを探る。	
	ゼミナール I	本科目は、少人数ゼミナール形式で実施する。2年次までに学んだ臨床心理学の知識や理解をもとに、学生自身が関心を持つテーマについて、文献を収集する力、内容を要約する力、発表する力を身につけることを目標とする。方法としては、関心のあるテーマについて文献を収集し、内容を要約して発表する。研究の立案や論文の構成と書き方などを意識しながら段階的に進めていく。また、発表された文献内容についてディスカッションを行い、疑問点や別の考察について検討を行う力を養うことで、次年度のゼミナールⅡに繋がる研究テーマを探る。	
	ゼミナール I	本科目は少人数のゼミナール形式で実施する。2年次までに修得した知識や技術をもとに、対人援助における臨床心理学について主体的に探究することを目的とする。各自が興味をもつテーマについて、学術的な文献を検索し、整理しながら先行研究としてまとめ、発表を行う。発表内容をグループでディスカッションすることを通して相互理解を深め、批判的思考を養う。また、テーマに沿った予備調査を実施することで、次年度のゼミナールⅡにおける研究や実践の準備を行う。	
	ゼミナール I	本科目は、大阪の社会福祉の歴史を共通の題材として設定し、卒業研究作成に向けた力をつけることを目的としている。具体的には、文献講読、資料収集・分析に取り組み、読む、書く、報告する、考える、質問する力をつける。毎回、調べた内容の報告、討議を行い、理解を深めていく。加えて、大阪の社会福祉の歴史に関するフィールドワークを行い、歴史的事象と現在の社会福祉実践が繋がっていることを体験的に理解する。また、4回生で取り組む卒業研究のテーマ設定の検討も行う。	
	ゼミナール I	大学卒業後に、社会福祉士として良質なソーシャルワークを実践していくための基盤の形成を目指していく。前期は、ゼミ学生一人ひとりの興味・関心に基づいて日常生活上の様々な福祉問題を幅広く取り上げ、ソーシャルワーク実践による問題解決の方法について多角的に探究していく。後期は、前期での学びや知見を活かしてソーシャルワーク実践に関する研究テーマを個々に設定し、主体的に研究活動を行うとともに、卒業論文の作成に取り組んでいく。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナールⅠ	<p>本科目は、社会福祉（ソーシャルワーク）とその周辺の実践活動とその貢献可能性について、ともに学んでいくことを目標とする。具体的には、現代社会では様々な生活問題・社会問題が生じているが、そのような中で暮らす各人個々が、素朴に日常の生活のなかから様々な問いを大切にしていきながら、実際の活動につなげていけるよう、ともに考えていくことを目指す。各自が関心のある福祉に関わる問題と現場について自覚的に取り組んでいく。具体的には資料・情報収集とプレゼンテーションである。そのなかで、①支援実践として関心のある対象・領域、②ソーシャルワーカーの実践活動、③及びその周辺の領域・活動、についてともに考え、将来つきたいと考える福祉とその周辺のしごと/活動についても考えていく。また課題・発表を通して、各自が将来つきたいと考える福祉職、福祉専門職/社会福祉士とその周辺のしごとをイメージしていけるよう、取り組んでいく。</p>	
	ゼミナールⅠ	<p>本科目は、少人数のゼミナール形式で実施し、子どもや家庭に関する支援の実際や現状、課題を学び、自身の関心のある研究テーマを考えることを目的とする。具体的には、現代社会が抱える子どもや家庭に関するさまざまな課題の背景を探るとともに、その支援方法や社会福祉専門職の実践、役割、専門性を考えることで学びを深める。そして、子ども家庭福祉分野にかかわる社会福祉専門職や当事者の声を聞くことで、支援の実際を具体的にイメージしながら、次年度のゼミナールⅡにつながる研究テーマを探る。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、卒業研究に選んだテーマについて、関連する文献を収集・読み込みを行う。毎回レジュメを作成、プレゼンテーションを行い、ゼミ内でのディスカッションを行なう。これらを通して自分の研究テーマについての理解を深め、関連する知識を習得する。テーマにあった研究方法を吟味・決定し、研究を遂行する。以上の研究活動より、臨床心理学に関する専門知識を用いて、多様な場面で他者と協働する基本的な技能と態度を身に付ける。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、卒業研究に選んだテーマについて、関連する文献を収集・読み込みを行う。毎回レジュメを作成、プレゼンテーションを行い、ゼミ内でのディスカッションを行なう。これらを通して自分の研究テーマについての理解を深め、関連する知識を習得する。テーマにあった研究方法を吟味・決定し、研究を遂行する。以上の研究活動より、臨床心理学に関する専門知識を用いて、地域社会で他者と協働する基本的な技能と態度を身に付ける。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>4年間の学びの集大成として、各自の興味・関心に基づいたテーマを設定し、卒業研究に取り組み、学びの到達点を確認する。研究を通して、学術的な知識の深化や論理性の育成を目指すと共に、ゼミ生同士の協働・連携を重視する指導を行い、チームワークや課題遂行能力の育成も目指す。また、心理学の理論をグループワークやマーケティングに活かす力、そして主体性の育成を目的としたPBL教育として、大学祭での企画・出店等をゼミ活動の一環として取り入れ、プレゼンテーションによる成果発表について指導する。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナールⅡ	<p>本授業では、臨床心理学や福祉心理学を主題とした卒業研究のための研究計画の立案から実施、卒業論文等の成果物の執筆や作成に向けた具体的な指導を行う。また、臨床心理学の実践について体験的な学習を行い、深める。</p> <p>卒業研究についてはそれぞれの学生の進度に合わせて、①研究計画の確認、②論文の構成及び書き方の学習、③実験や調査の実施、④論文等の執筆や作成について具体的に指導していく。特に、最終的な論文執筆の段階から逆算的に研究計画を立案することを考え、計画を作成する。また、実験や調査の実施やその統計学的処理を実践的に解決できる基礎的な力を身につけることを目標とする。また心理臨床実践については、傾聴する力に加えて、来談者中心療法やフォーカシング、認知療法などの態度や技術的实践をはじめ、各人が興味を抱いている心理療法について体験的な学びを行う。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は、少人数ゼミナール形式で実施する。ゼミナールⅠから引き続き、ゼミ内でのディスカッションを通して、自身の研究テーマについて理解を深めることを目標とする。方法としては、ゼミナールⅠで収集した文献をもとに、最終的に関心を抱いたテーマについて関連する先行研究をまとめ資料を作成し、発表及びディスカッションを行う。また、他者の発表を聴く、他者の意見に質問することを通して、傾聴の姿勢やアサーションスキルについて学ぶ。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、卒業研究に選んだテーマについて、関連する文献を収集・読み込みを行う。毎回レジュメを作成、プレゼンテーションを行い、ゼミ内でのディスカッションを行なう。これらを通して自分の研究テーマについての理解を深め、関連する知識を習得する。テーマにあった研究方法を吟味・決定し、計画的に研究を遂行する。以上の研究活動より、臨床心理学に関する専門知識を用いて、多様な場面で他者と協働する基本的な技能と態度を身に付ける。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は少人数のゼミナール形式で実施し、卒業研究に選んだテーマについて、卒業論文執筆に向けた具体的な指導を行う。先行研究のまとめ、研究計画の立案、予備調査、本調査、分析、考察のプロセスにおいて、適時プレゼンテーション、グルーディスカッションを行い、相互の意見交換を通じて自分の研究テーマについて理解を深める。対人援助における臨床心理学の専門知識を深めると共に、一連の流れについてゼミ生同士のグループワークを促進することで、多様な場面において他者と協働的に活動する基本的な技能と態度を身につける。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>本科目は、ゼミナールⅠで培った学び、および4年間の学びの集大成として、各自の興味・関心に基づいたテーマを設定し、卒業研究に取り組み、学びの到達点を確認する。テーマ設定の際には、社会福祉の視点を意識するよう指導する。完成まで計画的に取り組んでいけるように、授業では各自の卒業研究の進捗状況の報告と討議を行い、受講生の進捗状況と課題の理解に応じて適宜指導を行う。また、他のゼミ生に対する指導内容の中で、該当する点について共有できるよう説明する。</p>	
	ゼミナールⅡ	<p>ソーシャルワーク（社会福祉）実践に関するテーマで卒業論文等の成果物の作成に取り組むとともに、その進捗状況および成果に関する発表およびグループ討議を行う。前期は、卒業論文の書き方（様式と体裁、作成方法と手順）について学ぶとともに、参考文献・資料の収集と活用方法、社会福祉調査の方法、卒業論文の章構成、卒業論文の提出と研究発表までの流れについて理解していく。また、卒業論文の進捗状況について、レジュメやパワーポイント等を用いて発表を行う。後期は、卒業論文の提出と研究発表に向けた発表・討議及び指導を中心に行う。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナールⅡ	本科目は、社会福祉（ソーシャルワーク）とその周辺の実践活動とその貢献可能性について、ともに学んでいくことを目標とする。ゼミⅠでの学びを土台としながら、発展的・応用的にものごとを捉え直し、ともにより良い社会の実現に向けて、具体的な実践のあり方について、考えていくことを目指す。ゼミナールⅠでの学びを土台としながら、①各自が関心のある社会福祉問題、②支援実践として関心のある対象・領域、③社会福祉/社会福祉士の実践活動、についてともに考えていく。また、将来つきたいと考える福祉とその周辺のしごと/活動について、ともに考えていく。卒業研究ならびに卒後の活動をイメージしながら、日頃のお互いの主体的な学びあいを大切に、課題・発表を通して、各自が将来つきたいと考える福祉職、福祉専門職/社会福祉士とその周辺のしごとをより具体的にイメージしていけるよう、取り組んでいく。	
	ゼミナールⅡ	本科目は、ゼミナールⅠでの学びを踏まえ研究テーマを決め探求するとともに、卒業研究論文等の成果物の作成のための発表及び指導を行うことを目的とする。具体的には、ゼミナールⅠで学んだことを踏まえながら、社会福祉に関係する各自の興味、関心のあるテーマに基づいて探求するとともに、各自で設定したテーマに基づいて、卒業研究への取り組みと連動しながら、授業を進める。そして、このゼミナールⅡで学んだことをもとに、その研究成果についての発表を行うことで学びを深める。	
	卒業研究	本科目は、自身の関心のあるテーマに基づき、研究活動を行い卒業研究論文等の4年間の学習活動の集大成となる成果物を作成することを目的とする。卒業研究は4年間の学習活動の集大成として位置付けられており、それまでの学習成果をベースとして新たな研究課題を見つけ、研究活動を行ない、その結果を卒業研究論文等の成果物として主体的に創造する。また卒業論文等の成果物の作成を通して、自身の研究テーマに関する専門性の高い知識や研究方法を習得するとともに、プレゼンテーションの能力を身につける。	
選 択 必 修 科 目	基礎コミュニケーション演習	大学生の日常生活における基礎的なコミュニケーションスキルの育成を目的とする。前半の授業では、マイクロカウンセリングの理論に基づき、言語的・非言語的コミュニケーションの効果を体験する。後半の授業では、世代別の相手（同世代、子供と保護者、社会人）に対するコミュニケーションの要点に関する理論を学び、演習形式で体験的にスキルを身につける。テーマごとに、講義と演習を繰り返して進めることで、学問と実生活の結びつきを実感することも目的の一つである。このような学修活動を通して、心理学と社会福祉学に共通した専門性である相談スキルの基盤となるコミュニケーションスキルの修得を目指す。	共同
	臨床心理学概論	公認心理師の指定科目として、臨床心理学の諸理論と、その根拠となる心の基本的なメカニズムについて幅広く学習し、臨床心理学の全体像をつかむ事を目的とする。また、臨床心理学の知見が適用可能な専門的・日常的な場面において、課題を見出し、他者と協働しする能力を養う。具体的な授業内容としては、臨床心理学の歴史、心の発達、パーソナリティ、心理的アセスメントの理論と技法、ストレスとメンタルヘルス、行動理論と行動療法、人間性心理学と人間中心アプローチ、認知理論と認知行動療法、心理療法の効果評価などについて、講義形式により学習する。	
	心理学的支援法	公認心理師の指定科目として、心理職として社会に貢献するための基礎的な技能の育成を目的とする。具体的には、心理に関する支援（相談、助言、指導その他の援助）を実践するの基本的態度や職業倫理、代表的な心理療法、心理カウンセリング（訪問支援や電話によるカウンセリングを含む）について学習する。その上で、クライアントのニーズに合わせた心理療法、支援法を選択し、または組み合わせる統合的アプローチについて理解を深める。クライアントはもとより、その関係者への支援を視野に入れ適切な支援方法について、講義形式で学習する。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達心理学	人の生涯にわたる心身の発達と心理、および心理社会的な課題と支援について学び、公認心理師の指定科目として、心理面における生涯発達についての理解を深めることを目的とする。具体的な授業内容としては、愛着、情動、認知、社会性、自我同一性、キャリア発達、発達障害、死への態度の発達の变化などを扱う。誕生から死に至るまでの連続的な変化である発達について、胎生期から老年期までのライフサイクルの各時期に分け、獲得や喪失も含めた生涯にわたって起こる変化として考察する。主として講義形式であるが、生涯発達し続ける存在としての自己について、授業内容を踏まえて振り返るというワークを適時実施する。	
	福祉心理学	公認心理師の指定科目として、社会福祉学と心理学の学問領域における諸課題に積極的に関与する知識と技術、態度を身に着けることを目指す。前半の授業では、児童、家庭、高齢者、障がい者、その他の福祉現場における課題とその支援を目指した心理学の実践について扱う。後半の授業では、こころの病（主に精神科領域）と社会福祉分野の境界領域について、歴史・理念・制度を踏まえながら、精神疾患およびその治療法、精神保健福祉、児童虐待、DV、トラウマ臨床（PTSDなど）、医療保護法、薬物依存症の現場における課題とその支援を目指した心理学の実践について扱う。授業は主に講義形式であるが、学生の発表を含めた演習形式も随時行われ、福祉現場における心理学的支援について学生が自ら意欲的に調べ、要点を分析し、その概要を発表できるようになる力を育成する。	
	社会福祉概論	本科目は、保健医療ソーシャルワーカーおよび社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、現代社会における社会福祉の現状、役割、機能、構造と深刻化する生活問題に対応するための社会福祉実践を体系的に学ぶことを目的とする。社会福祉実践の主要な領域と視点について具体例を示しながら講義する。 （オムニバス方式/全15回） （3 秦康宏/5回） ・「高齢者福祉関係」、「ソーシャルワーク関係」、について、視覚的教材や資料等を活用しながら講義を行う。 （4 船本淑恵/5回） ・「社会福祉概論で学ぶ内容の全体像」、「障害者福祉関係」、「低所得者関係」、「地域福祉関係」について、視覚的教材や資料等を活用しながら講義を行う。 （11 谷俊英/5回） ・「児童福祉関係」、「社会福祉の歴史（日本・欧米）」、「社会福祉実践を支える思想と哲学」についてを視覚的教材や資料を使用しながら講義を行う。	オムニバス方式
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	社会福祉援助・相談援助を行う社会福祉士が身につけるべきソーシャルワークの基本的な専門的な知識・技能（社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程、ソーシャルワークの価値規範と倫理）について学ぶ。社会福祉士受験資格取得のための必修科目となっているため、アクティブラーニングを活用し、コミュニケーション支援、コミュニケーション労働、感情労働、社会福祉援助技術、相談援助技術、面接の技法等のキーワードを意識ながら講義を行う。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域福祉論 I	地域福祉の理論と実践についての基礎的理解を深めること授業の目的とする。地域における福祉活動では住民主体の原則に則り、住民の主体形成を進めていくことが求められる。その方法としての地域福祉の考え方や、ボランティア活動、福祉教育などを含めた実践を中心に講義を行う。このなかで理論的な知識学習だけでなく、実践事例の解説等も取り入れ、私たちの生活と身近に関連している事例内容を紹介するなどにより授業を展開する。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっており、地域福祉の理論と実践から地域福祉の基本的理解を図るとともに、地域における福祉活動やソーシャルワーク実践に対する意識を高める。	
	社会福祉政策論	社会福祉政策と社会福祉の思想を理解するために、現代社会における社会福祉の現状、役割、機能、構造を学び、その全体像を理解することを授業の目的としている。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっているため、社会福祉の発展過程、社会福祉の思想と哲学、社会福祉の理論、社会福祉と関連領域、社会福祉政策の国際比較を学ぶことで、深刻化する生活問題に対応するための社会福祉実践を理解し、基礎的・本質的側面の学習を行う。	
	心理・福祉総合演習	心理職と社会福祉職が互いの立場や役割、考え方を理解しあい、連携してケースに対応する能力を育成すること目的とする。本学科は心理コースと社会福祉コースから構成されており、それぞれ異なる専門領域を扱いながらも、同じ学科の所属学生として共に学びあう機会が存在することが特色と言える。この特色を授業内でも最大限に活かせるよう、教育・福祉現場において、心理職と社会福祉職の双方が協働して同じクライアントに対応する方法について体験的に身に着けられるよう、事例検討を用いた演習形式により学習する。	共同
心理コース選択科目	心理学概論	心理学の諸理論と、その根拠となる人間の心の基本的なメカニズムについて幅広く学習し、公認心理師の指定科目として、心理学の全体像と科学性を理解することを目的とする。具体的な授業内容としては、心理学の歴史・知覚・ゲシュタルト・認知・進化と感情・社会・脳や神経と関連する心の働きについて扱う。授業は主に講義形式で進められるが、一部に心理学実験を体験する機会も設けることで、心の不思議に科学的に取り組む事の興味関心と姿勢を養う。	
	学習・言語心理学	行動主義の観点から心を理解すると共に、環境・経験により人の行動が変化する過程についての知識を修得することを目的とする。また、環境との関わり合いの中で、人が言語をどのように学習していくかについても焦点を当てる。本科目は公認心理師の指定科目であることに加え、本学の独自の発展科目である行動分析学や認知行動療法論へとつながる基本的知識の修得、そして行動科学として心理学を捉える視座を育成する。授業の大半は講義形式であるが、授業内容の体験的学習を目的としたPC実習を一部に含む。	
	社会・集団・家族心理学A	対人関係や集団の中での人の態度や意識、行動の傾向を理解し、社会・集団・家族の構造が個人の態度・意識・行動に及ぼす影響について学ぶ。社会・集団・家族心理学は公認心理師の指定科目であるが、Aでは比較的小規模の集団を対象とし、主に社会心理学や家族心理学の知見から、対人関係や家族関係にかかわるテーマを扱う。人が自分の周囲についてどのように認識しているか、友人や家族といった人間関係の特徴とそこから受ける影響、そしてシステム論に基づく家族療法などについて、主に講義形式で学習する。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	感情・人格心理学Ⅰ	感情や人格の分類やメカニズム、行動や対人関係への影響など、公認心理師の指定科目として必要とされる感情や人格に関する諸理論の基本について扱う。本科目では主に、感情や人格の生理・神経的基盤や文化的基盤など、比較的普遍性の高い要素について学習する。授業は主に講義形式で進められるが、学生が自分自身で心理テストを体験し、自らの行動や感情の傾向について客観的指標を利用して把握する体験的学習も一部に取り入れる。	
	感情・人格心理学Ⅱ	感情・人格心理学Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、感情や人格・知能の測定に関する理論や、文化人類学・臨床心理学・精神医学と個人差の関連、パーソナリティ障害等に関する知識を修得することを目的とする。授業は主に講義形式で進められるが、一部に心理アセスメントの体験等の演習形式での学習も行われる。また、「知能とは何か?」「性格の心理学的定義」「心理検査における信頼性と妥当性」など、課題解決型学習のレポートも随時取り入れる。	
	臨床産業・組織心理学	本科目は公認心理師の指定科目であり、産業・組織領域の実践心理学に関する知識や技術、態度の育成を目的とする。具体的には、職場うつ病、通勤時でのパニック障害の発症や職場におけるハラスメント、職務上のバーンアウトやPTSD、復職支援、キャリア・カウンセリング、ストレスチェック、従業員支援プログラムなど、心理職による社会人のメンタルサポートを中心としたテーマを扱う。授業は主に講義形式により進行されるが、産業カウンセリングに関する演習も随時取り入れる。	
	教育心理学	本科目は、他者に影響を与え成長を促すことに関連した心理学の諸理論の学びを目的とする。具体的には、幼児・児童・青年期における運動発達・言語発達・認知発達、動機づけや集団作り、学習方法や教育の効果測定に関する諸理論について、講義形式で学習する。なお、本科目は他学科に所属する学生にとっては教員免許状取得の必修科目として共修開講されるが、本学科のように教職を目指さない学生にとっても有益なものとなるよう、学校教育の範囲にとどまらず、家庭や職場などの日常的・社会的な場面での教育活動にも適用可能な心理学理論を取り扱う。	
	臨床教育・学校心理学	学校現場（大学や学内の相談施設も含む）における心理専門職の役割を、実践心理学の観点から考察する。具体的には、いじめ・不登校・非行・虐待・発達障害・特別支援教育などに対し、心理職がどのように貢献できるかについて、学生相談や保護者・教職員対応などの事例紹介も含めながら考察する。本科目は公認心理師の指定科目であり、主に講義形式で進められるが、学生相談をテーマとするディスカッションなどの演習活動も随時取り入れる。	
	公認心理師の職責	公認心理師の指定科目として、各分野における公認心理師の業務と役割、多職種との連携について学習する。具体的には、公認心理師としての基本的な職務を学び、職責を自覚するために、公認心理師の役割、法的義務・倫理、心理に関する支援を要する者等の安全、守秘義務及び情報共有、情報の適切な取り扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における具体的な業務の内容、問題解決力と生涯学習について理解する。加えて、各テーマの学びを通して、公認心理師の持つべき倫理観を培い、多職種との連携の仕方を事例をもとに討議を行い理解を深める。	
	行動分析学	本科目では、学習・言語心理学で学んだ理論の応用方法として、行動分析学による行動統制を学び、自らの行動をコントロールするために必要な知識とスキルの修得を目的とする。具体的なテーマとして、行動観察、実験的行動分析、行動形成法、行動連鎖、言語行動について扱う。前半の授業では、日常生活に含まれている強化随伴性を分析する上で必要となる知識を、講義形式で学習する。後半の授業では、行動に関する法則を自らのコントロールに応用する演習を展開する。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	産業心理学	本科目では、労働や消費にかかわる人々の心と行動の特性や、組織で見られる様々な現象の特徴、組織全体の生産性との関係性を学ぶことを目的とする。産業領域における心理学の4領域のうち、特に働く人の安全を守る安全衛生と、消費者の心理や行動の特性を明らかにする消費者心理学について扱い、心理学をビジネスに応用する上で有効な知識の修得を目的とする。なお、残りの領域である人事と組織行動に関しては、主に臨床産業・組織心理学やキャリア心理学にて扱うものとする。	
	社会・集団・家族心理学B	本科目では集団のダイナミクスに焦点を当て、社会、集団、文化などの中で人の行動がどのように左右され、また、人がそれらに対してどのように作用しているのかを学ぶことを目的とする。社会・集団・家族心理学は公認心理師の指定科目であるが、本科目では比較的大規模の集団を対象とした心理学を扱うこととし、人と人のダイナミックな関係の中で心はどのように揺れ動くことになるか、主に社会心理学の立場から明らかにする。具体的には、集団力学、社会現象、メディアの影響や文化の影響について、講義形式で学習する。	
	心理学実験 I A	実験を通じて、心に関する科学的なものの見方や思考方法を身に着ける。また、グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報収集能力を養う。前提として必要な研究知識は、同時開講の心理調査概論で修得し、そこで学んだ知識を演習形式で実践する。また、心理学実験IBの前段階として、統計的な知識をあまり必要としないテーマを扱う。具体的には、行動観察、ストループ効果、楽観性の実験、調査法の4テーマを扱うものとし、それぞれのテーマに関して、1週目には計画立案、2週目には実験実施、3週目には結果の考察を行う。この他に、テーマに応じた研究倫理、レポート作成指導も行うことで、心理学的な実験を遂行する基礎的な能力を幅広く身につける。	
	心理学実験 I B	実験を通じて、心に関する科学的かつ統計的な思考方法を身に着ける。心理学実験IAよりも専門性の高い発展的内容を扱い、特に、実験の計画立案、遂行、PCを用いた統計的分析、レポート作成能力を育成する事を目的とする。前提として必要となる統計学の知識は、同時開講の心理学統計法で修得し、そこで学んだ知識を演習形式で実践する。本科目では心理学実験IAとは異なり、公認心理師の指定科目として、実験の計画立案に加え、基礎的な統計知識の活用を、授業内容に含む。具体的には、学習の転移、短期記憶実験、逆ストループ効果、質問紙法の4テーマを扱うものとし、それぞれのテーマに関して、1週目には計画立案、2週目にはデータ収集、3週目には統計的なデータ分析を行う。この他に、この他に、テーマに応じた研究倫理、レポート作成指導も行うことで、心理学的な実験を遂行する発展的な能力を幅広く育成する。	
	心理調査概論	本科目では、社会科学としての心理学がこれまで蓄積してきた主な研究方法を学び、研究論文の作成方法についても修得する事を目的とする。具体的には、観察法、面接法、実験法、調査法、尺度構成法、反応時間測定法、精神物理的測定法について扱う。さらに、研究倫理や研究手法の発展に伴う心理学史について、講義形式で学習する。なお、本科目で学んだ内容は、同時開講の心理学実験IAにて、演習形式で体験的に身に着けることを前提とする。	
	心理学統計法	公認心理師の指定科目として、心理学で扱う統計手法と、統計に関する基礎的な知識の修得、そして主観ではなくデータに基づき人間の行動や心理を理解しようとする態度の育成を目的とする。主なテーマは、質的データと量的データ、記述統計、有意差検定、相関分析、因子分析であり、これらの原理や適用可能範囲について、データの分析例を紹介する講義形式で学習する。なお、本科目で学んだ内容は、同時開講の心理学実験IBで演習形式で体験的に身に着けることを前提とする。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保育の心理学	<p>発達のプロセスや他者とのかかわりや初期経験の重要性について、生涯発達の観点から心理学的な知識を修得する。具体的には、乳幼児期の運動、言語、愛着や親子関係、認知、情動や自我の発達などのテーマについて、講義形式で学習する。本科目は、教育学科により主担当として開講される保育士養成を目的とした科目ではあるが、心理・福祉学科においても、保育サービスは福祉活動であり、保育を前提とした内容の心理学を扱うという観点に基づき学習する。</p>	
	司法・犯罪心理学	<p>心理学のアプローチからみた犯罪・非行現象を解説し、医療、教育、司法、私設心理相談室など、多様な臨床場面での非行および犯罪の事象を、精神鑑定、いじめと犯罪、反社会性人格障害、サイコパス・ソシオパス、犯罪被害・加害、暴力、裁判などの観点から、講義形式で学習する。これにより、公認心理師の指定科目として求められている、多様な犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識の修得、そして、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に対する支援の知識の修得を目指す。加えて、現象の諸側面について、心理学の隣接科学である精神医学や社会病理学などの知見について対比しながら学習する。</p>	
	教育相談の理論と実際	<p>主として、心理専門職に限らず活用可能な、中学生と高校生に対する指導および不適応状態への対応のための知見を学ぶ。加えて、本科目は他学科に所属する学生にとっては教員免許状取得の必修科目として必修開講される事を鑑み、教職員が他の専門職（例、スクールカウンセラーなど）と協働して、生徒の問題行動を改善・解決する際に、必要な対象に関する知識（トラウマ関連性障害や強迫性障害、うつ病、発達障害、人格障害、希死念慮など）と方法論に関する知識を臨床心理学的見地から学習する。さらに、生徒指導や進路指導場面において、心理学的なカウンセリングの知識を活用する方法について学ぶ。</p>	
	心理学実験Ⅱ	<p>本科目では卒業研究の前段階として、先行研究の追試を行い、研究の全体像を把握することを目的とする。具体的には、研究テーマの設定、先行研究論文の収集と分析を行い、その後心理実学実験IA/IBで修得した心理学の実験計画の立案、遂行、データ収集、統計的分析の知識とスキルに基づき、学生自身で実験を遂行する。そして、学会大会での口頭発表を模した研究発表を行うことで、研究における一連の流れを短期的・簡略的に体験する。これにより、科学的手続きに基づく完遂する力を身に着ける。</p>	集中
	心理学研究法	<p>これまでに提唱されてきた様々な心理学の研究理論について学習する。具体的には、公認心理師の指定科目として育成すべき能力とされる、量的研究と質的研究に関する理解、データに基づく実証的な思考、研究倫理などについて、心理学領域における学術論文を利用しながら学ぶ。授業は主に講義形式で進められるが、一部にグループディスカッション（研究法の限界や、データの解釈など）を含む。これらの授業内容を通して、先行研究と研究倫理を深く理解した上で、心を科学的・実証的に研究する上で必要となる、知識・技術・態度を養うことを目的とする。</p>	
	心理学文献講読	<p>卒業研究指導を視野に入れた心理学領域の英語論文の内容理解、そして、心理学系大学院の入学試験の英語問題への対策を目的とし、臨床心理学をテーマとした英語文献講読の初歩的訓練を行う。授業の進行は、受講者の担当制によるプリントテキストの精読と発表、英語表現の構文解釈・和訳の仕方についての講評が中心となる。さらに英語特有の構文を、日本語と比較しながら読解できるよう訓練する。授業は主に講義形式により進められるが、毎回の小テストや発表により理解度を確認する。</p>	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理的アセスメント	臨床心理学やパーソナリティ心理学などの個人差をあつかう心理学の領域において、心理アセスメントに関する講義と実習および演習を、心理面接法および心理検査などを用いながら展開する。具体的には、発達検査や知能検査、性格検査などの心理検査を中心に、行動観察、事例定式化のためのアセスメント面接なども付加し、総合的な心理アセスメントに関する実習を通じて、心理アセスメントの実際にもふれる。授業では、検査場面のロールプレイや、検査報告書の執筆を取り入れる。これらの授業内容を通して、公認心理師の指定科目として求められる、心理的アセスメントの目的及び倫理の理解、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告のスキルの修得を目指す。	共同
	心理演習 I	公認心理師の指定科目として、心理師に求められる知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とし、医療機関、福祉施設、教育機関等で心理師が行う心理支援の具体的場面を設定した演習を実施する。これにより、心理面接、心理検査、地域支援、事例検討等を行う上で必要な知識や技能の修得を修得する。また、要心理支援者等の理解とニーズの把握、支援計画の作成、要心理支援者の現実生活を視野に入れたアプローチ、多職種連携及び地域連携、心理職としての職業倫理及び法的義務の理解について、ロールプレイや事例検討を行い、これらに関する基本的な知識及び技能を修得する。	共同
	心理演習 II	心理演習 I で修得した心理師に求められる基本的な水準の知識および技能、そして認知行動療法理論と社会・集団・家族心理学Aで修得した心理療法に関する理論を踏まえた上で、認知行動療法および家族療法の過程において用いる心理学的技法を体験的に学修する。授業の進行は、ロールプレイやセルフモニタリングなどを含めた演習形式で行う。また、支援者役とクライアント役の双方を体験学習した後は、感想等のディスカッションを実施し、学びの振り返りを行う。	共同
	知覚・認知心理学	感覚・知覚・言語・記憶・思考などについて日常例を交えながら、情報科学的な視点に基づき心の仕組みを考察する。これにより、公認心理師の指定科目として求められる、人の感覚・知覚等の機序及びその障害、そして、人の認知・思考等の機序及びその障害についての理解を促進する。なお、授業は主に講義形式で進められるが、受講者同士で講義内容の理解を深め、様々な意見交換を行うことを目的として、個人発表やグループディスカッションを随時取り入れる。	
	心理実習	公認心理師の指定科目として、実践領域の関連施設での実習を行い、心理職に求められる知識と技能を身に付ける。教育機関である適応指導教室での継続的な現場実習に多くの時間が割り当てられており、児童・生徒に対して相談、対話、遊びを通じた心理支援を行う。現場実習後、授業時に活動記録を提出する。実習後は、毎回実習担当教員によるスーパーヴィジョンを受ける。また、保健・医療、司法・犯罪領域においては、実習指導教員の引率により、関連施設での心理職の業務説明や施設見学を行う。一連の活動により、各専門機関の種類と目的及び機能、心理支援を要する者の心理的問題の理解と支援、心理支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携・地域連携、心理臨床に携わる専門職としての職業倫理と法的義務等に関する知識・技能を、継続的な現場実習及び施設見学実習とその事前・事後指導を通じて修得する。	共同
	神経・生理心理学	神経・生理活動が、人間の心的活動に与える影響に関する基礎理論、そして精神医学・臨床心理学・健康心理学などの応用領域と関連する神経・生理活動について学ぶ。授業は主に講義形式で進められるが、毎回の授業の終盤では各テーマに関するグループディスカッションを行い、主体的な学習を促進する。以上の授業内容に基づき、公認心理師の指定科目として、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要についての知識の修得を目指す。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	障害者・障害児心理学	心理職と社会福祉職の学問的基盤として、各種障害に関する知識と、その心理的支援についての理論の習得を目指す。具体的には、知的障害、精神障害、発達障害、身体障害の概要を理解し代表する基礎的な疾患名や症状に関する専門用語を理解できるようになること、そして、各種障害における、心理社会的課題に対して必要な心理学的支援についての知識習得を目指す。授業は主に講義形式で進行するが、ディスカッションを含む演習も随時取り入れる。これらの授業内容により、公認心理師の指定科目として求められる、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援に関する基礎理解を促進する。	
	人間性心理学	C. ロジャースによって創始された来談者中心療法やエンカウンターグループ、E. ジェンドリンが考案したフォーカシングや体験過程理論の知識や方法を学び、人間性心理学の立場から他者やクライアントにアプローチするために必要となる基本的な知識や態度の修得を目的とする。方法としては、講義形式が中心となるが、来談者中心療法のグループ実践であるPCAGIP法といった数名の小集団によるグループワークによる演習も随時行うことで、体験的な学びを促進する。	
	メンタルヘルスマネジメント演習	心理学を専門的に学んだ者に期待される事柄の一つに、他者のメンタルヘルスのサポートがあげられるが、それと同時に、自らのメンタルヘルスを管理することも重要である。本科目では、人間性心理学の科目で学んだフォーカシングや体験過程理論に基づき、自身のメンタルヘルスの管理に活かすスキルの修得を目指し、演習形式による体験的な学びを行う。これにより、自らのメンタルヘルスの管理する能力と共に、他者に対するフォーカシングの実践に必要なスキルも身に着ける。	
	健康・医療心理学	健康・医療に関する心理学の理論と実際を学び、心理職の役割を理解すると共に、専門的知識により社会に貢献するための基礎を作る。具体的には、健康心理学（予防アプローチ、ストレスマネジメント、各種新心理療法を含む）、医療現場における心理社会的課題と必要な支援（精神科、身体科ほか）、産業保健領域、地域保健活動、チーム医療と多職種連携について学習し、臨床現場において問題意識をもって課題に臨む姿勢をつくる。以上の授業内容により、公認心理師の指定科目として必要となる、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要心理に関する支援に関する知識の修得を目指す。	
	精神疾患とその治療	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解することを目的とする。具体的には、精神医学・精神疾患の全体を概観した後、重要な精神疾患の種類、精神疾患の理解に必要な脳の機能・構造、心身相関、こころのはたらきなどについて学ぶ。また、精神疾患の重要な治療法である薬物療法と精神療法に、精神医療のシステムや制度、専門職の特徴などについても学習する。以上の授業内容に基づき、公認心理師の指定科目として求められる、精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携に関する知識の修得を目指す。	集中
	公認心理師の関係行政論	公認心理師は法的な根拠の上に国家資格として成立している。また、公認心理師が関与する実践領域についても、当該領域における法行政の制度を理解することが必要である。そこで、本科目は公認心理師の指定科目として、日本の法体系と条文の読み方に関する基礎知識ならびに公認心理師法と医療／教育／福祉／司法／産業分野の心理実践における法的根拠について学習する。授業は主に講義形式で進められるが、グループワークによる演習を随時取り入れる。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	キャリア心理学	現代社会におけるキャリアについてのデータや、キャリア理論の変遷、キャリア相談について、心理学理論に基づき考察するために必要な知識を修得を目的とする。具体的には、現代社会・経済の動向、キャリア形成支援の種類、キャリア理論、キャリア相談の技法と倫理について理解する。本科目は主に講義形式で進められるが、グループディスカッションによる演習形式も随時取り入れた体験的学習を行う。また、本科目の授業内容は、キャリア心理学演習の科目でロールプレイ等を用いて発展的に学習する。	
	キャリア心理学演習	キャリア心理学の内容に基づき、自らのキャリアを考えると共に、他者のキャリアの悩みに対してサポートを行うために必要なスキルの修得を目的とする。前半の授業では、キャリア心理学の諸理論に基づき、自らのキャリアを振り返ると共に、将来を考えるスキルを修得する。後半の授業では、キャリア心理学の諸理論に基づき、他者のキャリア相談に乗るスキルを修得する。授業は主に、ロールプレイとディスカッションを中心とした演習形式で進行する。	共同
	認知行動療法論	不安や抑うつ状態に対する心理療法としてエビデンスの認められた、認知行動療法の諸理論に関する知識の修得を目的とする。具体的には、行動的技法、認知的技法、ACT、行動活性化や活動スケジュール表、社会的スキル訓練、マインドフルネス技法、弁証法的行動療法、集団心理療法等について扱うものとする。授業は主に講義形式で進められるが、グループワークやディベートなどの演習も随時取り入れる。また、本科目の授業内容は、心理演習Ⅱの科目でロールプレイ等を用いて発展的に学習する。	
	精神力動論	S. フロイトによって創始された精神分析学の基本概念、治療技法、治療過程で起こる諸現象を学ぶ。フロイトから影響を受け、新たな理論を作り上げたC. G. ユングとA. アドラーの理論、さらにフロイト以後の精神分析家、特にM. クライン、D. W. ウィニコットの理論に注目しながら、精神分析の理論の発展について学習する。これにより、S. フロイトの精神分析学に代表される、心的なエネルギーのダイナミズムとして心の動きをとらえる精神力動の立場から、心の仕組み、心の発達、心の病、治療過程の理解を目的とする。	
	臨床心理学総論	大学での4年間の学びの集大成として、臨床心理学の知識・研究力・実践力の育成と統合を目的とした集中講義を行う。具体的には、心理的アセスメントや心理療法の諸理論、臨床心理学と実験心理学の関連性、臨床心理学で用いられる研究手法や統計法、公認心理師としての心得について、統合的に学習する。授業は主にディスカッションや質疑応答を中心とする演習形式で行われる。公認心理師の資格取得が可能な大学院受験の合格水準にまで理解を深める。	共同 集中
社会 福祉 コース 選択 科目	介護概論	社会福祉の実現に必要な領域である介護福祉の理解と介護・福祉に関する専門的な知識・技能についての理解を深めるための講義を行う。介護福祉の理念・目的とその実践について、さまざまな問題、現場から実践過程をみていくことで介護・福祉の理解を深める。また適宜、ゲストスピーカーとして、疾病・障害当事者、家族、支援者等を招き、その話を通じて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、アクティブラーニングを活用しながら講義を進める。	
	貧困に対する支援	貧困に対する支援と生活保護制度についてを理解するために、公的扶助の概念・対象・歴史、現代社会における貧困問題、日本の生活保護の制度上の仕組み、公的扶助の対象者である生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動および自立支援プログラムの位置づけとその策定について学ぶ。社会福祉士国家資格指定科目であるため、国家試験対策も含めて解説も行うとともに、貧困に対する支援についてイメージし易いように事例を交えながら講義を行う。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高齢者福祉論	超高齢社会の日本における高齢者とその家族の生活実態（住居、世帯構成、所得、就労など）、およびこれを取り巻く社会環境（老老介護、8050問題、高齢者虐待など）について取り上げるとともに、高齢者とその家族に対する福祉・保健・介護など多様な領域からなる支援やサービスの種類と内容について体系的に学習する。社会福祉士受験資格取得のための必修科目となっているため、これらの学習活動を通して、社会福祉士としての適切な高齢者支援のあり方について実践事例などを踏まえつつ理解できるようになることを目的とする。	
	障害者福祉論	障害者の暮らしの現状と社会的施策を学ぶために、障害者の暮らしの実態と暮らしを支える仕組みについて理解し、障害者福祉に関する法制度や視聴覚教材等の資料を用いて講義を行う。社会福祉士受験資格取得のための必修科目となっているため、障害者福祉に関する基本的な考え方と障害者施策の基本的知識の習得を目的とし、障害者の暮らしに関わる社会的施策の現状と課題を理解する。また障害者福祉施策に関する歴史・社会的動向を理解するとともに障害者福祉施策の形成過程を学び、現状と課題についての歴史・社会的理解を深める。	
	子ども家庭福祉論	現代社会における子どもと家庭の諸課題を見つけ、多角的かつ論理的に分析して、解決策を企画することができるようになるために、現代社会における子ども・家庭の動向や生活実態と、これを取り巻く社会情勢、また子どもの福祉理念である権利擁護と自己実現への支援という基本理念を理解し、子どもと家庭を取り巻く福祉の法制度や施策、その実践、特に相談支援の観点からの取り組みについて体系的に学ぶ。社会福祉士受験資格取得のための必修科目となっているため、子どもへの福祉サービスの課題とその解決策を考えることができるように、グループによるディスカッション等のグループワークを交えながら、子ども家庭福祉の理念や体制、実践等を学んでいく。	
	社会保障論Ⅰ	社会保障は、「国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民にすこやかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである」といわれており、社会保障の概念、社会保障の歴史（欧米・日本）、社会保障の財源、社会保障の役割、機能、生活保護について概括的に把握したのち、医療保険（健康保険・国民健康保険・高齢者医療制度）などの個別の制度の仕組み、現状、課題について理解を深める。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっており、日本の社会保障制度について、最新の動向も踏まえながら、現状と課題を考える。	
	社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅰに続いて、介護保険の保険者・被保険者・権利保護・保険料・給付内容・介護報酬・介護提体制、年金制度の概要、国民年金、老齢基礎年金、厚生年金、老齢厚生年金、年金給付の水準、企業年金、雇用保険、労働者災害補償保険など個別の制度の仕組み、現状、課題について理解を深める。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっており、日本の社会保障制度について、最新の動向も踏まえながら、現状と課題を考える。	
	地域福祉論Ⅱ	本科目は、社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっているため、社会福祉士国家試験受験を視野に入れ、地域福祉領域でのソーシャルワーカーとしての理論や専門知識と技術の習得を目指すことを授業の目的とする。なお、講義は地域福祉Ⅰで培った基礎的知識を元に、地域福祉の応用力と実践力の修得を目指し、事例検討やワークショップも取り入れ、一人ひとりの学びを深めるよう授業を行うことで、地域福祉の専門性についての理解と、地域におけるソーシャルワーク実践に必要な知識・技術を修得する。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	本科目は、ソーシャルワークの展開過程、そしてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの内容や特徴を学習していくことにより、ソーシャルワークの体系的な知識と技術の修得を授業の目的とする。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっているため、個人や家族、地域社会などが直面している問題の解決ないし緩和につなげられるようソーシャルワークの展開過程、実践モデルとアプローチについて理解する。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	本科目では、ソーシャルワーク実践を豊かに展開するための方法論であるケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的、方法について学習していくことにより、ソーシャルワークの体系的な知識と技術の修得を授業の目的とする。社会福祉士受験資格取得のために必修科目となっているため、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰで培った知識をもとにソーシャルワーク実践を豊かに展開するための方法論について理解する。	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉士として専門的援助技術を展開していくために必要な知識と技術について、演習形式により実践的に習得することを目的とする。子ども領域における福祉的課題や子どもを取り巻く現状、子どもに関するソーシャルワーク活動の実践を取り上げながら、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術に関して、そのアセスメントとプランニングについて模擬事例を用いながら学ぶ。特に児童虐待等の家庭問題により、施設に入所している子どもに対して深い関心を持ち、支援を求める子どもや家庭に共感的態度で接することができるようになるために、自立援助計画の策定を模擬事例の検討や模擬カンファレンスを体験しながら、アセスメントとプランニングの実際を理解する	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉士として専門的援助技術を展開していくために必要な知識と技術について、演習形式により実践的に習得することを目的とする。地域におけるソーシャルワーク活動の実践を事例にし、ソーシャルワークを展開していくために基礎となる相談援助技術の具体的な面接やアセスメントなどの技法について学ぶ。ソーシャルワークに必要な基本的な価値・知識・技術の原則と援助過程を実践的に理解を深めていくために、事例課題を通して、ロールプレイングやディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを用い実践的に学びを深める。	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉士として専門的援助技術を展開していくために必要な知識と技術について、演習形式により実践的に習得することを目的とする。高齢者領域における福祉的課題や高齢者を取り巻く現状、高齢者に関するソーシャルワーク活動の実践を取り上げながら、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について学ぶ。特に総合的かつ包括的な援助に関わる高齢者領域における具体的なソーシャルワークの方法を事例等の検討などを実践的に行うことで学びを深める。	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉士として専門的援助技術を展開するために必要な知識と技術について実践的に習得することを目的とする。ソーシャルワークを行うときの基礎となる面会技法や生活問題のアセスメントのための技法等について、その基本原則と援助過程を実践的に理解するために、障害分野の事例をもとにロールプレイやグループワークなどの演習形式で授業を行うことで、具体的な相談援助事例等を活用し、総合的包括的な援助について学ぶ。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ソーシャルワークの基盤と 専門職Ⅱ	社会福祉援助を行う社会福祉士が身につけるべきソーシャルワークの基本的な専門的な知識・技能（社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容）について学ぶ。社会福祉士受験資格取得のための必修科目となっているため、アクティブラーニングを活用し、ソーシャルワークの諸モデル、社会福祉専門職における倫理、バイステックの原則、面接における援助技法をキーワードを意識しながら講義を進める。	
	ソーシャルワーク実習指導 Ⅰ	ソーシャルワーク実習に向けての基礎学習を目的とした授業である。授業を通じて、ソーシャルワーク実習の意義を理解し、実習に向けての基礎学習と各自の実習課題の明確化を図る。社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、施設・機関・団体、サービス利用者に関して総合的に学習するとともに、現場経験の豊富な教員の講義や施設見学、現場職員からの講義、実習経験者の報告を聴講し、現場実習をイメージし、実習分野の現場理解と利用者理解を深め、各自の実習に向けての課題を明確にする。また、PBLの手法を用いて実施し、主体的・能動的学習の方法として、グループワーク、リサーチワーク、プレゼンテーション、ドラマワーク、ロールプレイ、インタビュー、フィールドワークを取り入れ、学生の学びの成果報告を他教員担当のクラスと合同で実施し、振り返りを行う。	
	人体の構造と機能及び疾病	公認心理師の資格認定及び社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、人体の構造と機能・疾病および国際生活機能分類による健康の概念などを理解することを授業の目的とする。対人援助を行う上で、人と社会に関する諸課題を見つけ、多角的かつ論理的に分析して、解決策を企画することができ、自分の専門的知見を他者に分かりやすく説明し、人と社会に関する諸課題の解決に向けて協働することができることは、心理職やソーシャルワーカーとしての重要な資質となる。特に健康への理解と疾病に関する医学的な基礎知識は、医療関係者との連携を図ったり、クライアントの健康状態を理解する上で重要である。本科目では、人の成長・発達、心身機能と身体構造といった基礎的な学びを踏まえ、人が罹患する疾病や障害、健康およびリハビリテーションのあり方についての知見を深める。	
	医療福祉論	社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、保健医療サービスの基本構造について学習し必要とされる専門的な知識・技能と保健医療サービスにかかわる現場とそこで活動する社会福祉専門職の役割について理解することを授業の目的とする。社会福祉士の連携には、福祉サービス提供者だけでなく、「医師その他の保健医療サービスを提供する専門職」があげられる。これは、社会福祉の支援対象者には保健医療サービスを必要としている場合が少なくないからである。そのため、本科目では、保健医療サービスを支える制度、施設等の知識を深め、実践事例を検討することによって、保健医療に関する実践を理解する。	
	権利擁護と成年後見論	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉実践の基本理念である「権利擁護」を理解し、そのための法制度の内容や社会福祉実践への適用について理解することを授業の目的とする。社会福祉士には権利擁護の理念を理解し法的な裏付けを明確にして、利用者の相談援助を行うことが求められている。そのため相談援助職をめざす学生に対して、高齢・障害・児童・地域のどの分野でも共通に必要な権利擁護における知識や技術について講義や実践事例をもとに伝えていく。また、成年後見制度利用促進法、民法改正の流れなどにも触れながら理解を深める。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	司法福祉論	本科目は、社会福祉士の専門性を発揮する領域として期待される分野である司法福祉（刑事司法や少年司法、更生保護制度、医療観察制度、犯罪被害者支援）についての理論を体系的に学習するとともにその実践についても理解することを授業の目的とする。また、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、国家試験合格に必要な基礎知識の定着を図りながら、司法福祉の概要について理解するとともに、社会福祉士として担うべき役割についても理解を深める。	
	社会福祉演習Ⅰ	社会福祉士資格取得をめざし、国家試験合格に向けての動機を高め、受験に必要な知識を習得し、学習方法を身につけることで、ソーシャルワーカーとしての自己啓発に関する基礎的な力を付けることを授業の目的とする。学生による過去問解説作業を中心とする演習形式で実施し、適宜、教員から解説を加え学びのヒントを提供する。実際の試験問題から学ぶことで、想起・記銘・保持というかたちで知識を広げていく。また学生同士の相互学習を行うことで、自身の知識を確認するとともに協力しあう関係を形成しながら学びを深める。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉士に必要とされる相談援助に係るスキルを実践的に習得することを授業の目的とする。ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで培った知識と技術をもとにして、具体的な相談援助事例等を活用し、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形式により、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。各回ともにグループワーク、あるいはプレゼンテーションを行う。また、本科目の一部は、PBLの手法を用いて実施する。	共同
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、相談援助専門職の人材像の形成と相談援助技術の理解を促すことを授業の目的とする。相談援助専門職を取り巻く社会状況と現状を学びながら、相談援助専門職の実際と職務内容、相談援助を展開するための基礎的知識・技術を理解する。生活困窮者、障がい者、児童等の具体的な生活課題へのアプローチや野宿生活者へのアウトリーチ等の事例を通して、その援助課題の解決策を模索する等、実践的な授業を展開する。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで培った知識をもとに、相談援助専門職の人材像の形成と相談援助技術の理解について更なる学びを深めることを授業の目的とする。相談援助専門職を取り巻く社会状況と現状を学びながら、相談援助専門職の実際と職務内容、相談援助を展開するための基礎的知識・技術を理解する。適宜、事例を活用しながら、演習形式を取り入れた授業を行う。また、視覚教材を活用し、課題に取り組む。	
	ソーシャルワーク実習	本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉現場から相談援助実践について実地体験学習を通じて学ぶことを目的とする。社会福祉施設・機関・団体などにおける現場実習を通して、社会福祉専門職として必要な知識、技術、倫理などについて実践的に理解を深める。実習を通じて「利用者理解およびニーズ把握と援助計画の作成」、「利用者やその関係者との専門的援助関係の形成」、「利用者やその関係者への援助のあり方とその評価」、「施設・機関・団体等における多職種連携などチームアプローチの実際」、「社会福祉士の職業倫理」、「就業規定および組織の一端としての役割と責任、施設・機関・団体等の経営、管理運営の実際」、「施設・機関・団体等の地域社会における役割および地域社会への働きかけの具体的内容」を理解できるような実習内容とする。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、ソーシャルワーク実習において、社会福祉士としての知識および技術、価値を効果的に学び、自身の資質を高められるよう実習前の事前学習を行うことを授業の目的とする。この事前学習では、ソーシャルワーク実習の目的と意義を理解し、それぞれの分野に応じた実習課題を明確にするとともに、ソーシャルワーク実習に向けての心構えや注意点などを理解する。ソーシャルワーク実習における学びを深められるようソーシャルワーク実習担当教員と協力しながら学習を進め、それぞれの実習に関する発表とディスカッションを中心にすすめる。同時に、他の実習生の発表を通じて、様々な実習分野についても理解を深める。</p>	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、ソーシャルワーク実習で得た経験や知識を振り返るとともに、実習の評価と今後の課題の整理を行うことで社会福祉士としての自身の資質を効果的に高めることができるようソーシャルワーク実習の事後学習を行うことを目的とする。この事後学習では、各実習先の内容に関する発表とディスカッションを中心にすすめるとともに、他の実習生の発表を通じて、様々な実習分野についても理解を深められるようソーシャルワーク実習担当教員と協力しながら学習を進める。</p>	
	社会福祉調査論	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、社会福祉調査を行うために必要な知識と技術、倫理的事項を学習することを目的とする。社会福祉士には、社会福祉サービスや支援を必要とする人の生活課題や地域社会が直面している問題を多角的に把握し、適切な支援計画の作成と社会資源の利用につなげていくことが求められる。社会福祉調査に関する知識および技術は、社会福祉士が場当たりの実践や経験則を超えて実証的かつ科学的な根拠に基づいた援助を実践するとともに、実践の質を向上させていくために必要不可欠な力量の一つを形成しています。そのため、本授業では、社会福祉実践のなかで活用される社会福祉調査に関する基本的なスキルの修得を目指す。</p>	
	福祉経営論	<p>本科目は、社会福祉士受験資格取得の必修科目のため、現代の福祉専門職にとって理解が不可欠である、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について学習することを目的とする。授業を通じて「国と自治体との関係、行政の仕組みなどの福祉行政」、「国・地方自治体の財政の仕組みなどの福祉財政」、「福祉の相談過程とこれを支える専門機関や地域レベルでの相談システム」「市町村を念頭においた福祉計画の意義とその技法」、「さまざまな福祉計画の実際」などについて理解を深める。</p>	
	精神保健の課題と支援	<p>本科目は、スクールソーシャルワーカー認定資格に関する指定科目となるため、現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉領域で活動する対人援助職・ソーシャルワーカーの役割について理解することを目的とする。子どもが多くの時間を過ごす学校教育の場において、生活を支援する視点に基づき、教育環境を整え、成長・発達に貢献するスクールソーシャルワーカーは今後一層重要な役割を求められるため、精神の健康（精神衛生、精神保健）についての基本的考え方と精神保健の視点を持った対人援助のあり方について学びを深める。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スクールソーシャルワーク 論	<p>本科目は、スクールソーシャルワーカー認定資格に関する指定科目となるため、学校教育の場で社会福祉の視点を持って子どもを支援するスクールソーシャルワーカーの役割と実践についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回) (7 植木直・11 谷俊英/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についての概要を学ぶ。 (7 植木直/7回) スクールソーシャルワークの発展過程、海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、スクールソーシャルワークの実践モデル、スクールソーシャルワークの支援方法、スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンを学ぶ。 (11 谷俊英/7回) 今日の学校教育現場における課題と児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の実態、児童生徒の生活を地域で支える社会資源と取り組み、スクールソーシャルワークの価値・倫理を学ぶ。 	オムニバス方式 共同 (一部)
	スクールソーシャルワーク 演習	<p>本科目は、スクールソーシャルワーカー認定資格に関する指定科目となるため、スクールソーシャルワークの実際について、事例を用いたグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通じて実践的に体験し、スクールソーシャルワーカーに求められる実践力の基礎を身につけることを目的とする。スクールソーシャルワークの実践例をもとに個別事例アセスメント、地域アセスメント、学校アセスメント、スクールソーシャルワーク実践におけるメゾプラクティス、マクロプラクティス、スクールソーシャルワーク実践における記録の意義と方法を体験的に学ぶ。</p>	共同 集中
	社会福祉演習Ⅱ	<p>本科目は、社会福祉士国家試験合格を目的とした社会福祉系科目の総合的な学習を目的とする。社会福祉士国家試験の指定科目について、(財)社会福祉振興・試験センターが公表している科目別出題基準に基づき、過去問題や模擬問題、受験用テキストや参考書などを活用した総合的な学習を行うことで学びを深める。具体的には、毎回、担当箇所について調べ、プレゼンテーションを行う。あわせて、社会福祉士有資格者としての専門性を涵養していく。</p>	共同
	スクールソーシャルワーク 実習指導	<p>本科目は、スクールソーシャルワーカー認定資格に関する指定科目となるため、スクールソーシャルワーク実習における事前・事後学習を目的とする。事前学習では、スクールソーシャルワーク実習の目的と意義について理解するとともに、実習テーマ・課題を明確にし、実習計画を立てる。また、実習生としての態度や心構え、留意すべき事項等について理解する。</p> <p>実習期間中の巡回指導では、実習生・実習担当教員・実習先の実習指導者で実習前に作成した実習計画の達成状況について検討を行うとともに、実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>事後学習では、実習テーマ・課題の達成状況について検証を行い、具体的な学びの内容を総括するとともに、今後の課題について整理する。なお、事前・事後学習ともにグループディスカッションを積極的に取り入れ、グループごとの発表や質疑応答、ピアレビューなどを行う。</p>	集中

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スクールソーシャルワーク 実習	本科目は、スクールソーシャルワーカー認定資格に関する指定科目となるため、学校現場からスクールソーシャルワーク実践について学ぶことを目的とする。学校や教育委員会等での実習を通して、スクールソーシャルワーカーとして必要な知識、技術、倫理などについて実践的に理解を深める。実習を通じて、「子ども、教職員、教育委員会、学校関係者との基本的コミュニケーション等による人間関係の形成」「ニーズ把握と支援計画の作成」「子どもと家庭、教職員、教育委員会、学校関係者との連携および援助関係の形成」「権利擁護の実践および学校、教育委員会等へのエンバワメント支援」「校内ケース会議・学年会議でのケース検討およびその進め方の実際」「多職種によるチームアプローチの実際」「学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際」「ネットワーキングの実際と社会資源の活用、調整および開発に関する理解」を学ぶ。	
社会科学 科目群	現代社会学概論	現代社会は、少子高齢化や格差拡大、孤立・孤独、差別等、さまざまな課題を生み出しており、個々の人間はそこから多様な生活上の困難を経験している。本授業では、そうした困難がどのような社会的な背景の中で生じてきたのかを学ぶとともに、現代社会の中で実施されている、異なるアプローチからする改善のための取組に関する知識・関心を向上させる。 (オムニバス方式/全15回) (13 岡島克樹/2回) 現代社会の課題と取組について政策学の観点から論じる。 (44 久保山力也/2回) 現代社会の課題と取組について教育学の観点から論じる。 (32 Myles Grogan/2回) 現代社会の課題と取組について異文化理解・多文化共生の観点から論じる。 (13 岡島克樹・44 久保山力也・32 Myles Grogan/5回) (共同・演習) 現代社会における諸課題の解決・改善に不可欠な「交渉」「対話」について本学教員が開発したPBL教材を用いて展開する (13 岡島克樹・44 久保山力也・32 Myles Grogan/4回) (共同) 現代社会の課題と取組について共同で総括的な講義を行う。	オムニバス方式 共同 (一部) 講義10時間 演習 5時間
	経済学概論A	経済学、経済統計の基本的概念を習得することにより、経済現象や景気動向を自分の頭で系統立てて理解するために必要な「視点」を身に付けることを目指す。「経済についての見方・考え方」の基礎を構築することに重点を置き、特に、資本主義経済・市場経済に関して、市場に現れる「価格」を指標・指針として成長する過程において、なぜ、どのように発展・変化したのかについて深く学びつつ、経済指標の読み方、景気や経済動向の見方、経済政策の考え方などの理解を目標とする。	
	経済学概論B	経済社会が持つ具体的な諸側面(国民経済と経済政策、戦後の日本経済、国際経済、現代の経済的諸問題等)について、豊かでより良い生活を求めて経済を発展させてきた過程を「経済についての見方・考え方」で理解する。特に、経済政策や経済的諸問題については、時系列的に要点を整理して、それらの課題を提示し、客観的な情報を軸にグループ内討論や発表などを交え、論理的・批判的に考察することの必要性を体感しながら、体系的に理解することを目標とする。	
	社会学概論A	本授業は毎時間、社会的教養の育成、社会を解釈する上で必要とされる基礎的な社会学思考、代表的な社会学者の理論の理解と応用といった3項目で構成される。社会を社会学の視点から理解することが本講義の目指すところである。社会学の特性は多くの社会科学の領域にとらわれず、様々な手法を用いて社会を分析し、理解することである。本講義においては具体的な例を挙げて社会を社会学の視点から分析して理解する方策を用いて授業を進めて行く。そして、私達の周囲で生じている様々な社会現象のメカニズムを明らかにする知識と応用力の養う。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会学概論B	本授業は毎時間、日本社会を理解する上で必要とされる知識の習熟、日常世界における様々な社会現象を社会学の理論で読み解く技術の修得といった2項目で構成される。社会学の特性は、学問としての領域を有しないことである。したがって、社会学は独自に発達することもあれば、他の学問と共に問題の解決にあたることも可能である。このような社会学の特性を理解し、様々な社会現象を分析することが本講義の主たる目的である。毎時間、社会学の理論を示し、その理論が誰によって提唱されたか、どのような背景が存在したのか等について、ディスカッションする。	
	グローバル社会体験実習	本授業では、グローバル化の中で変化する世界の動きを深く理解するとともに、そのような世界の中で自己の存在や学びをどのように位置づけるのかを考えることを目的とする。そのため、具体的には、1週間程度の期間、海外に渡航し、調査活動やインターンシップに取り組む。また、事前学習をつうじて、渡航国の歴史や現状を知るとともに、事後学習では、メジローの変容的学習理論にもとづきデザインされたリフレクションプロセスを経て、学びを言語化する。	共同
	法と社会A	法社会学の基礎を学ぶ。法社会学は、法と社会をつなぐ学問である。実体法のみならず、法が機能する社会とはどういうものか、また逆に社会がどのように法をコントロールするのかにつき、知見を深める。特に法社会で機能するプレイヤー（弁護士、弁護士以外の法専門家、検察官、裁判官など）、紛争解決（裁判と裁判外の解決システム）、犯罪ならびに非行処理、訴訟の種類（民事訴訟、行政訴訟、犯罪と非行処理）、法変動ならびに社会変動（震災と法システム、ジェンダーと法システム）などについて扱う。	
	法と社会B	法社会学の知見を応用し、朝鮮半島の法と社会の諸問題を読み解くことを目指す。授業で対象とする朝鮮半島には「大韓民国」と「朝鮮民主主義人民共和国」とを含む。韓国における司法の政治化や財閥、外国人労働者問題、徴用工訴訟、朝鮮における改革開放問題を通じ、法制度がどのように両国社会において機能し、あるいは機能していないのか、法社会学の観点から理解することを目標とする。また同時に、日本社会との関係を常に意識し、俯瞰的に東アジアの法と社会を見通す力を育む。	
	国際社会学A	中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」答申にあるように、どのような学問領域を専攻しようとも、大学教育において「多文化・異文化に関する知識の理解」を獲得することは重要である。そのため、本授業では、国際社会学の基礎として、「国際社会や「グローバル化」といった用語の多様な定義を紹介しながら、今日の世界が経験する急速な変化とは何か、それが日本とどのようにつながっているのか・つながっていないのかを知り、また、考える。なお、本授業では、アクティブラーニング教材を積極的に活用し、実感のともなう理解を獲得するとともに、知る・考えるだけでなく行動するという視野に入れた学習機会を提供する。	
	国際社会学B	本授業は、グローバル化する世界・日本において生じる諸課題を解決・緩和する取組の1つとして、「国際開発」「国際協力」とは何かを学ぶ。具体的には「開発」とは何か、それが歴史的に遂げてきた理論的変遷と日本社会との関係を検討する。また、日本と開発途上国を結ぶ行為の1つとして「国際協力」をとりあげ、その多様な定義や動機・目的（SDGsに関する解説を含む）、政府やNGO（非政府組織）が行なう取組の諸特徴について解説する。さらに、国際協力事業の参加型企画手法や、昨今の評価、について学ぶ機会を提供する。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報・経営科目群	NPO・NGO論	現代社会は、国・自治体、企業のほか、サード・セクターとも呼ばれる市民団体から構成されているが、本授業では、そのサードセクターのうち、NPO・NGOと呼ばれる諸団体に関する基礎的な知識と関心を身につけることを目的とする。具体的には、NPO・NGOの役割や歴史、関連する法令、具体的な活動内容、さらにNPO・NGOが抱える諸課題についての知識を獲得する。また、学生にできる参加・貢献とはどのようなものかを考える中で、それらと自己がどのように関係するのかを検討する。	
	経営学概論	人間社会学科の経営コース（仮称）で学ぶ全体像把握と各分野への基礎的な理解を目標とする。具体的には、経営学総論（経営戦略論・経営組織論）、会計・ファイナンスに関する基礎理論、マーケティング基礎理論の3分野について、実例を挙げつつ、基礎的な概念と理論を順次解説することを計画する。授業形態は各分野専門教官によるオムニバス講義形式を基本とするが、必要に応じてケーススタディや問題演習などの手法も用いる。	
	マーケティング論	マーケティング理論全般につき基本的な理解を得ることを目標とする。具体的には、基本的なマーケティング戦略の総論と各論、消費者行動分析、デジタル・マーケティングなど多様なマーケティングについて、順次実例を挙げつつ、基礎的な概念と理論を解説し、その現実への応用についてワークを行うことを計画する。授業形態は、講義形式を基本とするが、理論に関する現実場面への適用については、ケーススタディや問題演習などの手法も用いる。	
	情報学概論	DXが進む現代社会において、ICTの正しい知識と適切な利活用をするためのリテラシーが求められている。本授業では、講義のほかグループワークも交えながら、ICTに支えられた現代社会の現状を分析するとともに、社会におけるICTの利活用について考察する。具体的には、(1)ICTの進展と現状について知識を獲得し、(2)ICTの社会に対する影響について分析を行い、(3)データサイエンスを基盤とした社会のあり方について考察を深める。	
	情報社会学A	ICTは社会に深く関わりを持ち続けており、新たな価値創造のためのツールとして認識されつつある。本授業では、社会におけるICTの利活用状況について基礎的な知識のほか、法的・倫理的な側面についての知識や態度を涵養する。具体的には、社会インフラとしての情報システムやネットワークの構成、IoT・クラウドコンピューティング・データサイエンスなどの産業界での活用、情報セキュリティや情報モラル、ICTが関与する法制度について学ぶ。	
	情報社会学B	ICTは社会に深く関わりを持ち続けており、新たな価値創造のためのツールとして認識されつつある。本授業では、実社会で利用されている情報システムの事例を理解するとともに、これらを構成する個々の要素の組合せによる機能と効果について学ぶ。具体的には、システム思考と課題解決、情報システム開発および安全性と信頼性の確保の方法、生産システムにおけるICTの役割などを知識として学び、応用事例として、Eコマース、メディア活用システム、組み込みシステムなどについて考察を深めることで、ICTと社会の関わりを学ぶ。	

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会調査士養成プログラム	社会調査法 A	本授業は、社会調査の意義や目的、その方法について基本的な事項を概括的に講義する科目である。具体的には、社会調査が必要とされる背景や理由、社会調査の種々の手法やその特徴のほか、公的統計資料や学術調査や世論調査などを題材として社会調査の活用事例について、さらには社会調査の実施にあたって遵守すべき倫理的事項などを学ぶ。加えて、リサーチクエストと仮説を立てて調査を行い、量的分析・質的分析により仮説の検証に関する基礎的な演習も行う。これらの学修活動を通して、社会調査のための基礎的リテラシーを獲得する。	
	社会調査法 B	本授業は、社会調査法 A で学んだ内容を基盤として、社会調査の設計や実施方法に関する知識及び技術を修得する科目である。具体的には、調査目的による調査方法の選択、調査の企画及び設計、調査対象者の選定、調査票および質問文の作り方、調査の実施方法、調査データの整理などを学ぶ。加えて、受講者自らがリサーチクエストと仮説を立てて、適切な調査方法を選択してデータ分析を行い、各自が結論を導出する。これらの活動を通じた報告書をまとめることで、社会調査の設計や実施方法について理論的かつ体験的に学ぶ。	
	多変量解析の方法	データサイエンスの基盤をなす統計学のなかでも、多変量解析は数的処理の方法として極めて重要かつ根本的な手法である。本授業では、社会科学に関するデータを題材として、多変量解析の原理や方法論を修得する。具体的には、多変量解析の基礎概念を学んだ上で、複数の計量モデル（重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析等）の原理を学び、目的に応じた手法の選択、PCによる実際の分析を行い、分析結果から結論を導く技術を獲得する。	講義9時間 演習6時間
	質的な調査と分析の方法	データサイエンスにおいて、量的データとともに質的データを分析する手法が重要視されている。本授業では、質的データに関する調査方法や分析方法について理解を深め、技術を身につけることを目的とする。具体的には、質的データの収集（参与観察やインタビュー等）についての、目的に応じた計画や実践について学び、ライフストーリー分析、会話分析、ドキュメント分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等、質的データの分析法について学ぶ。さらには、PCを用いたテキストマイニングに関する演習を行い、質的データの調査および分析について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (32 Myles Grogan/8回) 質的データ収集のための調査法について、講義及び演習を行う。 (22 中村雅司/4回) 質的データの分析のための方法論について、講義および演習を行う。 (32 Myles Grogan・22 中村雅司/3回) (共同) 質的データの読解に関する講義のほか、本授業の総括を行う。	オムニバス方式 共同 (一部) 講義10時間 演習 5 時間
	社会調査実習 I	本授業は、社会調査の全過程のうち、問いの設定から調査の企画までを体験することで、これまで関連する科目の受講を通じて獲得してきた社会調査に関する知識・スキルをより高次の理解へとつなげることを目指すものである。具体的には、本授業では、問うに値する問いを探ること、仮説を設定すること、さらに質問項目を考え、質問紙を作成すること、そして、対象者・地域を選定し、実際にサンプリングを行なうことを体験し、最終的には調査提案書の作成までを行なうものである。	講義7時間 演習4時間 実習4時間
社会調査実習 II	本授業では、社会調査の全過程のうち、調査の実施から集計・分析を経て報告書作成や発表までを体験することで、これまで関連する科目の受講を通じて獲得してきた社会調査に関する知識・スキルをより高次の理解へとつなげることを目指すものである。具体的には、質問紙の配布や回収、聞き取りの実施やフィールドノート作成・エディティング、そして、アプリケーション・ソフトを活用した集計や分析、仮説の検証、さらには報告書の執筆から発表までを行なう。	講義2時間 演習3時間 実習10時間	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ 健康系 科目 目群	スポーツ心理学	<p>スポーツ心理学に関する基礎知識の理解とともに、現場での指導力を身につけ、健康スポーツ・競技スポーツ場面の選手やコーチの心理学的意義とその効果について学習することを本科目の目的とする。</p> <p>スポーツ心理学とはスポーツに関する人間の心理的現象を扱う心理学の一領域と位置づけられる。本講義ではスポーツに関する心理学的基礎、スキルの獲得に関する運動学習、スポーツと健康、スポーツに関わる様々な問題等、広範囲に心理的現象を取り上げて概説する。</p>	
	スポーツキャリアデザイン	<p>本科目は、子どもから高齢者まで、全ての世代の生涯学習や生涯スポーツの意義・役割を理解することを通して、スポーツと健康に関わる専門知識を活用し、スポーツの魅力を社会に広げる力を身につけることを目的とする。特に、課題の多い社会の中で、わが国のスポーツ振興の歴史や仕組みを知り、その施策をふまえてSDGsのめざす持続可能な社会を実現できるよう、アスリートがスポーツで培った経験を子ども達へつなぎ、次世代育成につながるより魅力的な学びの場を創造するなど、具体的な方策を提案する力を養う。</p>	
	スポーツ経営管理学	<p>スポーツ事象を経営学の視点から捉え、その基礎理論を理解するとともに、スポーツ環境を取り巻く様々なスポーツ事業（総合型地域スポーツクラブ育成・運営、健康ビジネスなど）を事例にしながら、マーケティングとイノベーションの基本的機能からスポーツマネジメントの実践的なあり方について考えていく。そしてスポーツとは何か、マネジメントの基本的な在り方にはどのようなものがあるか、スポーツの本質と基礎的な経営理論を理解した上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実際のスポーツビジネス・シーンに応用できることを到達目標とする。</p>	
	スポーツ社会学	<p>スポーツの現状とその課題について、社会学的視点から学習する。生涯スポーツや競技スポーツの現場での諸現象について、社会学的立場から批判的、実証的にその現象を説明、分析しながら、これからのスポーツ振興・推進に関する施策のあり方（課題や展望）について考えていく。テーマとしては、現代スポーツの社会的役割と特性、スポーツと教育、スポーツの社会化、遊びの概念とスポーツ、スポーツの経済的・文化的側面、スポーツと社会集団、スポーツと加齢、スポーツとライフスタイル、スポーツと生活の質などを扱い、これらの諸課題について理解を深める。</p>	
	障がい者スポーツ指導論	<p>障がいのある人がスポーツをおこなう意義・目的を正しく理解し、障がいのある人に対応するための基本的な技術を学ぶ。そして、運動やスポーツの楽しさやその意義、価値を伝えられ、身近な地域での障がい者スポーツ振興を支える人材となることめざす。</p> <p>具体的な授業内容としては、障がいとそのスポーツについて学び、現状や課題に対してディスカッションを行う。また、当事者との交流や実技での体験など実習を行う。さらに、グループワークにて指導者としての資質やコミュニケーション方法を実践的に学ぶ。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツコーチング学Ⅰ	スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる者を育成する。Ⅰでは、総合型地域スポーツクラブや課外活動スポーツの指導を意識し理想とするスポーツ指導者に近づくために必要な知識を学ぶ。具体的にはスポーツ指導の基礎的知識と指導法を課題として取り上げる。	
	スポーツコーチング学Ⅱ	スポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツライフスタイルを構築していくという社会を実現するために、総合型地域スポーツクラブや課外活動スポーツの指導を意識し、理想とするスポーツ指導者に近づくために必要な知識を学び、プレーヤーのやる気を導きだし、自立したプレーヤーを育てることが課題の1つとなる。Ⅱでは、スポーツに関する法的理解を深める。具体的には、法律問題の基礎的知識、体育・スポーツ活動による事故・事件の判例、インテグリティ（暴力・ドーピング・不祥事・不正行為・ガバナンス等）の発生事例について学ぶ。教職やスポーツ関係職（スポーツ指導者、団体運営者、クラブ経営者）の職域をめざすために必要なマネジメント能力を習得する。	
	スポーツコーチング学Ⅲ	本科目は指導者としての競技者に対する育成方法を学ぶことを授業の目的とする。授業を通じて、生涯スポーツ社会を実現するために総合型地域スポーツクラブや課外活動スポーツの指導を意識し、理想とするスポーツ指導者に近づくための必要な知識を学ぶ。スポーツ指導者は、プレーヤーのやる気を導きだし、自立したプレーヤーを育てることが重要であり、指導者の役割が課題となる。具体的には、スポーツにおける心理、トレーニング論をテーマとしてあつかうとともに、各テーマごとに演習的な課題も行い、実践的な力を身につける。	
	スポーツコーチング学Ⅳ	本科目は、競技者の指導を意識し、指導者に求められる指導の基本事項を学ぶことを目的とする。21世紀の国民スポーツ振興を図るに当たって、いわゆる生涯スポーツ社会の実現のために総合型地域スポーツクラブや課外活動スポーツの指導を意識し、理想とするスポーツ指導者に近づくために必要な知識を学ぶ。スポーツ指導者は、プレーヤーのやる気を導きだし、自立したプレーヤーを育てることが重要であり、競技者育成の高度な知識が課題となる。具体的には、身体の仕組みと働き、トレーニング論、スポーツ指導者に必要な医学的知識をテーマとしてあつかう。	
	医療福祉システム論Ⅰ	本科目は、保健医療ソーシャルワーカーおよび医療管理秘書士能力認定試験に必要な科目となるため、医療秘書への理解を深め、患者心理や接遇を学ぶことを目的とする。医療秘書に求められる資格要件は、常に患者の心理を理解し、すべての行為について患者サービスを常に念頭に置かなければならない。故に一般的事務能力、医学常識の知識のみならず商経学に立脚した医療事務の倫理的知識、病院・企業における営業役割と医療に関する統制と質的改善の役割、業務統計作成の役割等が求められる。本講座においては、疾病・患者・家族間共闘に関する理解、そして医師を中心とするメディカルスタッフまで、あらゆる面からの情報をとらえる専門知識を学ぶ。	集中
	医療福祉システム論Ⅱ	本科目は、医療管理秘書士能力認定試験に必要な科目となるため、医療保険のしくみや診療報酬請求事務に関する知識と技術を学ぶことを目的とする。近代医療の高度化が進む中で、医療事務に対する専門性と必要性は、医療機関では高く評価されてきている。講義は、健康保険法をはじめとする各種医療保険・公費負担制度に対する保険診療や診療費の請求事務の仕組みなどに関する諸規制、医療事務に関する諸規制についての知識を修得する。医療技術が進歩し、さらに複雑になっていく中である程度の医学知識を身につけ診療録（カルテ）から医師の診療行為を読み取り、正しい点数の算出、料金算定を的確に行う技術力を養う。	集中

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目群	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	大学進学率が50%を超えるとともに、雇用状況が悪化する今日、大学は社会人一步手前の教育機関としてますます大きな役割を果たすことを期待されるようになってきている。そのため、本学部では、行政や企業、非営利セクターといった社会のさまざまな部分についてより深い理解を持つとともに、人と協働するために必要な積極性やコミュニケーション能力等を身につける「課題発見・解決演習」「ロジカルシンキング」「キャリアデザイン」「企業研究」などからなる「キャリア教育プログラム」を用意している。社会研究実習は、そのプログラムの中核をなす科目として、学生それぞれが実習先やスタディツアーを選択し、現場で実習を体験し、そこで得た学びを報告書のなかで表現することをつうじて社会人として求められる基礎力を向上させるものである。	
	地域社会体験実習(市役所)	本授業は、今日の自治体行政をとりまく地域課題とその解決・緩和の取組に関する知識を現場に近いところで獲得するとともに、とくに卒業後の進路として自治体職員を検討している学生がその進路選択の意義について深く考える機会を提供するものである。そのため、具体的には、1週間程度の期間、本学近隣自治体の市役所を受入先とする実習に取り組む。また、事前学習では、心理専門職が勤務する可能性の高い部署あるいは社会福祉に関連する部署の業務について文献読解をつうじて基礎的な知識を確認する。事後学習では、座学で学んできた専門知識が現場でどのように活用されているのか・されうるのか、また、地方公務員として求められる諸能力に照らし自己の能力は現在どのような状態にあるのかを検討するなどのふりかえりを行なう。	共同
	企業研究Ⅰ	企業経営に関して、体験を通じた具体的な理解を深めることを目標とし、今後の進路選択につなげる。具体的な企業活動(特に経営理念の展開・浸透や継承)につき、講義で理論を学んだ上で、企業見学など体感できる場を持つことを計画する。授業形態は、DVD等動画視聴と講義で実例と理論を学んだ上で、体験的な学びを得るため、企業見学や企業博物館訪問を行う。	
	企業研究Ⅱ	企業や業界の具体的な事例を通じて、各企業・業界のビジネスモデルや実際に行われている職務・職種等について理解し、今後の進路検討への活用できることを目標とする。毎回特定の企業や業界を取り上げ、具体的な事業活動や組織体制、職種・職務につき、学ぶことを計画する。授業形態は、DVD等動画や報道資料等当該企業・業界に関する様々な具体事例を提示した上で、解説講義を加え、それら基に毎回演習(レポート作成)を行う。	
	資格・検定認定(複数型)	本授業は、(1)自身が所属するコースに関する基礎的な知識・スキルを体系的かつ確実に学ぶこと、あるいは、(2)将来、社会人として活躍するために求められる幅広い知識・スキルを獲得することを奨励する目的で開講している。具体的には、心理学や社会福祉学の基礎的な知識・スキルを有すること、あるいは、英語力、時事問題に関する知識、ICTに関する知識・スキル等を有することを証明する、複数の資格・検定を受験・合格したことを示す書類を提出することで単位認定する。	
	資格・検定認定(上級型)	本授業では、(1)自身が所属するコースに関する基礎的な知識・スキルを体系的かつ確実に学ぶこと、あるいは、(2)将来、社会人として活躍するために求められる幅広い知識・スキルを獲得することを奨励する目的で開講している。具体的には、心理学や社会福祉学の一定程度高次の知識・スキルを有すること、あるいは、一定程度高次の英語力、時事問題に関する知識、ICTに関する知識・スキル等を有することを証明する、1つの資格・検定を受験・合格したことを示す書類を提出することで単位認定する。	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	TOEIC入門A	実際に使える英語を身につけるため、英語の4技能（聞く、書く、読む、話す）を総合的に学習する。テキストの英文を正確に理解し、テキスト内の文法項目について正確に説明し、基本語彙とフレーズを習得して英語で発信できる能力の開発を目指す。視聴覚教材を積極的に活用して、TOEIC検定の写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文問題などそれぞれの出題方法に慣れ、解答を導き出す力をつける。さまざまなシチュエーションにおける「実際に使える英語」の習得を重視するが、特に聴く能力の向上をはかり、TOEICスコア400を目指す。	
	TOEIC入門B	実際に使える英語を身につけるため、英語の4技能（聞く、書く、読む、話す）を総合的に学習する。テキストの英文を正確に理解し、テキスト内の文法項目について正確に説明し、基本語彙とフレーズを習得して英語で発信できる能力の開発を目指す。視聴覚教材を積極的に活用して、TOEIC検定の短文穴埋め問題、長文穴埋め問題、読解問題などそれぞれの出題方法に慣れ、解答を導き出す力をつける。さまざまなシチュエーションにおける「実際に使える英語」の習得を重視するが、特に読む能力の向上をはかり、TOEICスコア450を目指す。	
	TOEIC A	TOEIC特有のテスト形式に慣れつつ、人物の動作、現在時制、疑問文、過去時制、進行形、完了形、冠詞、時制の一致、名詞の用法、形容詞の用法、不定詞、動名詞、助動詞、使役動詞、知覚動詞などの習得をはかる。英語を用いてのスマートフォンによる買い物、3名の会話について関係性ややりとりの把握、図表を伴う広告の理解など実践力を身につける。リスニング・セクションとリーディング・セクションを分け、体系的に学習する。受講生にはTOEIC検定試験の受験を求め、スコア500を目指す。	
	TOEIC B	TOEIC特有のテスト形式に慣れつつ、英語の基本5文系、疑問詞、食事・食材・健康に関する英語表現、スポーツに関わる英語表現、間違いやすい前置詞、道順・交通情報・公共輸送機関に関する英語表現、特殊な助動詞の用法、広告・販売促進分野における英語表現、使役動詞・知覚動詞、就職・労働条件に関する英語表現、関係詞、コンピューターや携帯電話の使用方法に関する英語表現、自然と環境・燃料エネルギーに関する英語表現、仮定法、ビジネスシーン・苦情に関する英語表現など実践力を身につける。リスニング・セクションとリーディング・セクションを分け、体系的に学習する。受講生にはTOEIC検定試験の受験を求め、スコア500を目指す。	
	課題発見・解決演習（子どもイベント編）	今日の社会は急速に変化し、知識の賞味期限がこれまでになく早く訪れる時代が到来している。そのような社会にあっては、自分で課題を探し、それをどのように解決するのか、他人と協働しながら考え抜き、取組を実践していく「ジェネリックスキル」がますます求められるようになってきている。そのため、本授業はアクティブラーニングとして授業展開し、(1)「考える」ということはどういうことなのか、現代社会における子どもがおかれた状況とはどのようなものなのか、基本的な知識を確認したあと、(2)テキストにあるフォーマットにしたがって、子どもを対象としたイベント案をグループで企画し、結果を発表し、コメントを得て、また考え抜くというプロセスを体験する。本授業は、数多くの子どもイベントを企画・実施してきたNPO法人と連携して実施する。	隔年開講 共同
	課題発見・解決演習（地域コミュニティ編）	今日の社会は急速に変化し、知識の賞味期限がこれまでになく早く訪れる時代が到来している。そのような社会にあっては、自分で課題を探し、それをどのように解決するのか、他人と協働しながら考え抜き、取組を実践していく「ジェネリックスキル」がますます求められるようになってきている。そのため、本授業はアクティブラーニングとして授業展開し、(1)「考える」ということはどういうことなのか、また、昨今の多様な地域課題とはどのようなものなのか、基本的な知識を確認したあと、(2)テキストにあるフォーマットにしたがって、グループで注目する地域課題を決め、原因分析を行ない、これを解決・緩和する企画を考え、結果を発表し、コメントを得て、また考え抜くというプロセスを体験する。本授業は、本学の近隣自治体の市役所と連携して実施する。	隔年開講 共同

学校法人大谷学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪大谷大学				大阪大谷大学				
文学部				文学部				
日本語日本文学科	50	-	200	日本語日本文学科	55	-	220	定員変更(5)
歴史文化学科	50	-	200	歴史文化学科	55	-	220	定員変更(5)
教育学部				教育学部				
教育学科	230	-	920	教育学科	190	-	760	定員変更(△40)
人間社会学部				人間社会学部				
人間社会学科	80	-	320	人間社会学科	60	-	240	定員変更(△20)
				心理・福祉学科	50		200	学科の設置(届出)
スポーツ健康学科	100	-	400	スポーツ健康学科	100	-	400	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	140	-	840	薬学科(6年制)	140	-	840	
計	650	-	2880	計	650	-	2880	
教育専攻科				教育専攻科				
	25	-	25		25	-	25	
計	25	-	25	計	25	-	25	
大阪大谷大学大学院				大阪大谷大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
国語学国文学専攻(M)	6	-	12	国語学国文学専攻(M)	6	-	12	
国語学国文学専攻(D)	3	-	9	国語学国文学専攻(D)	3	-	9	
歴史文化学専攻(M)	4	-	8	歴史文化学専攻(M)	4	-	8	
歴史文化学専攻(D)	2	-	6	歴史文化学専攻(D)	2	-	6	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	3	-	12	薬学専攻(4年制D)	3	-	12	
計	18	-	47	計	18	-	47	

1 (書類等の題名)

校地校舎等の図面 (1 ページ)

- ・ 都道府県内における位置関係の図面

2 (出典)

株式会社 昭文社

3 (引用範囲)

大阪府を中心とした近畿地方の部分を引用

4 (その他の説明)

本学の校地、校舎の位置関係を示すため、地図上に所要の事項を記入した。

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



近鉄「大阪阿部野橋」駅	約35分	近鉄長野線「滝谷不動」駅	約500m 徒歩 7分	大阪大谷大学
JR「大阪」駅	約56分			
南海「なんば」駅	約36分			
JR「奈良」駅	約50分			
JR「和歌山」駅	約82分			
JR「京都」駅	約87分			

※所要時間は目安です。また乗り換え・待ち時間は含みません。



1 (書類等の題名)

校地校舎等の図面 (3 ページ)

- ・校舎、運動場等の配置図

2 (出典)

Mapion 都道府県地図

3 (引用範囲)

大阪府富田林市錦織地区周辺を引用

<https://www.mapion.co.jp/m2/34.49943167,135.59720807,19>

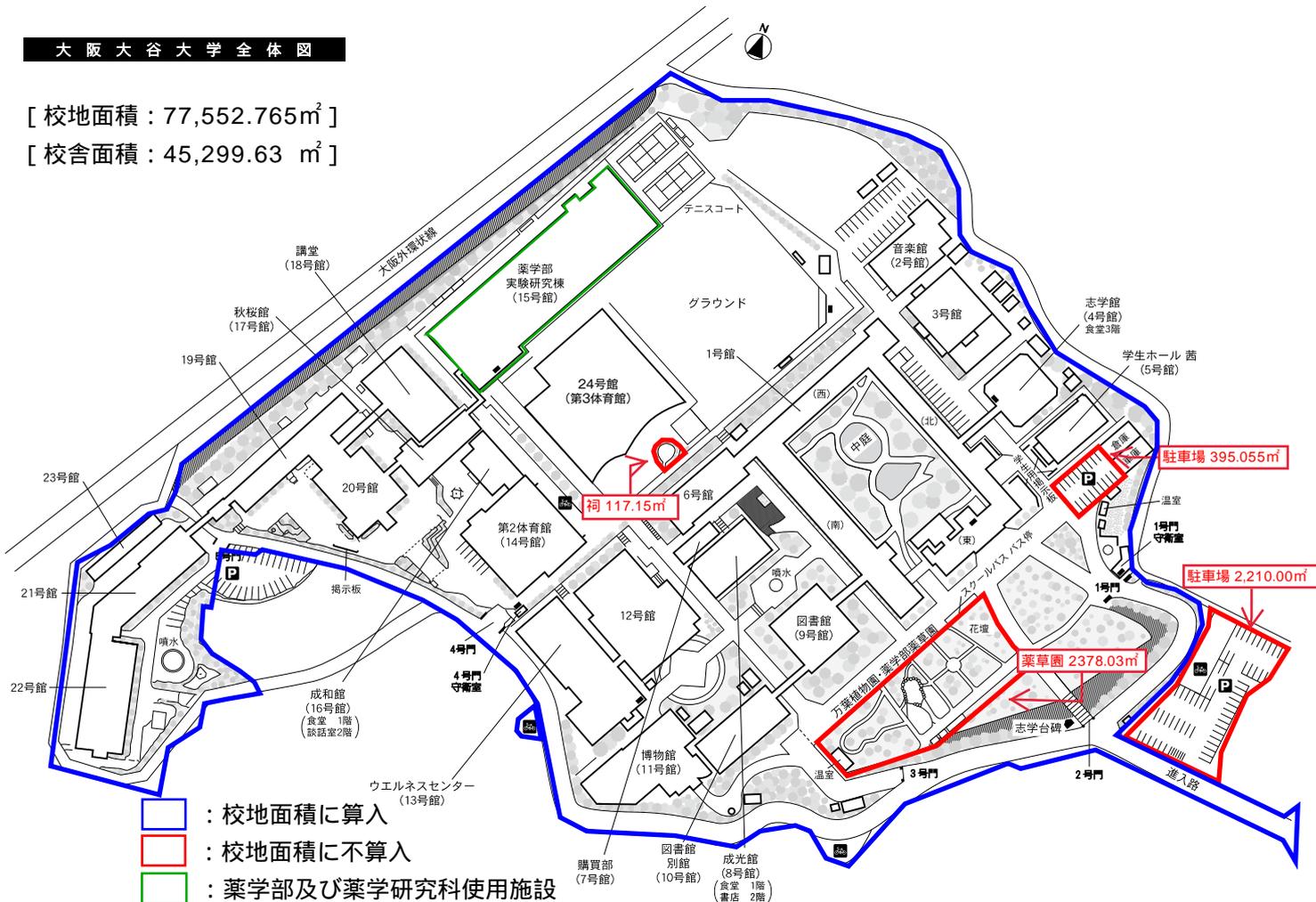
4 (その他の説明)

本学の校舎、運動場等の位置関係を示すため、地図上に所要の事項を記入した。

大阪大谷大学全体図

[校地面積 : 77,552.765m²]

[校舎面積 : 45,299.63 m²]



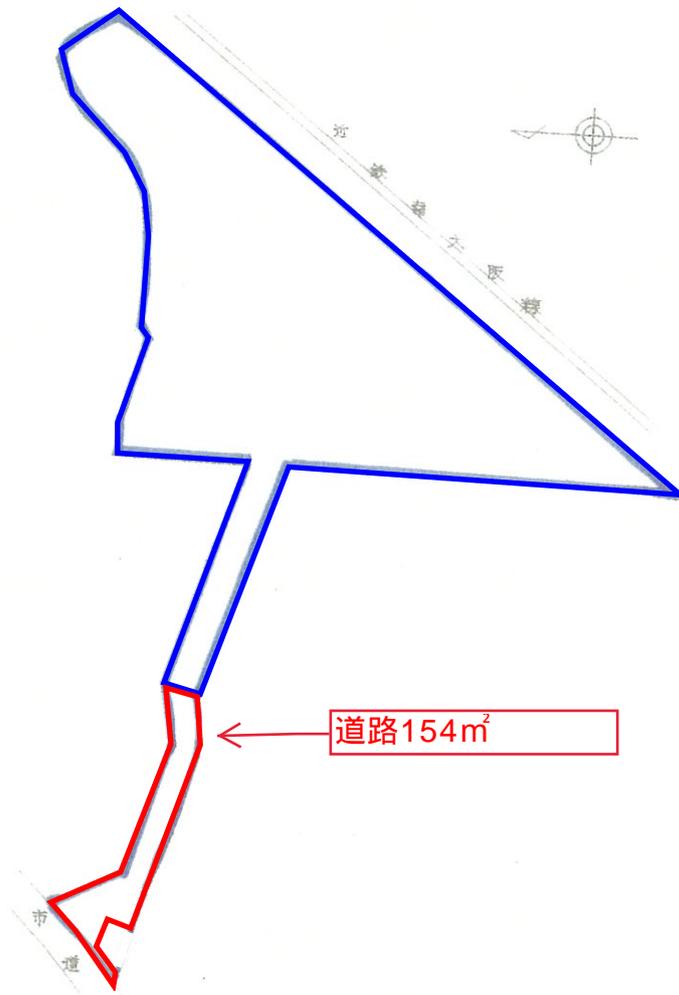
: 校地面積に算入

: 校地面積に不算入

: 薬学部及び薬学研究科使用施設

それ以外 : 他学部と共用

 校地面積に算入



大阪大谷大学学則

昭和41年4月1日制定

令和6年4月1日改正

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める大学として学術を研究教授するとともに大乘仏教の精神を尊び、学識、情操、品性にすぐれた人材を育成し、もって社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究水準の向上を図り、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

2 前項の自己点検・評価実施に関して必要な事項は、別に定める。

(学部および学科)

第3条 本学に次の学部および学科を置く。

文 学 部

日本語日本文学科

歴史文化学科

教 育 学 部

教 育 学 科

人間社会学部

人 間 社 会 学 科

ス ポ ー ツ 健 康 学 科

心 理 ・ 福 祉 学 科

薬 学 部

薬 学 科

(学部の教育研究上の目的および学科の教育目的)

第3条の2 前項の各学部の教育研究上の目的および各学科の教育目的は次のとおりとする。

(1) 文学部

文学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、社会の発展と文化の向上に寄与すべく、文学・言語・歴史など多様な人間文化の探究を課題とし、普遍的かつ創造的な思考力と表現力の研鑽を図り、人間と社会に対する洞察力を備えた人材を育成する。そして、これからますます多様化する社会に対して、文学・言語・歴史の魅力を発信し、研究成果を社会に還元していく。

(i) 日本語日本文学科は、幅広い教養と正確な情報分析に基づく考察力や判断力、そして豊かな表現力を習得させる。

(ii) 歴史文化学科は、過去の人間の歴史や文化についての理解を深め、歴史的な視点から現在および未来における人間・社会について洞察できる人材を育成する。

(2) 教育学部

教育学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、教育の原理・基本概念と多様化する社会との関係を理解した上で、予測困難な社会を生き抜く人材を育成するための教育を実践できる教員養成をめざす。高い専門性と優れた実践力を持ち、常に向上し続ける教育者を育成する。そのため、現代社会の諸問題を広い視野から多角的にとらえ、教育学の立場からの分析・対策を深く追究する。

(3) 人間社会学部

人間社会学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会

の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与する。

- (i) 人間社会学科は、経営学・データサイエンス・現代社会学の一つを軸にしつつ関連する学問領域の基礎知識を学際的に身につけ、国際的かつ地域的な視点を備えた人材を養成する。
- (ii) スポーツ健康学科は、スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な知識及び技能を修得し、加えて「人と社会」の関係を科学の視点から探究することにより多角的にスポーツにかかわる人材を育成する。
- (iii) 心理・福祉学科は、人が生涯にわたり心身的及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。

(4) 薬学部

薬学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、生命科学・医療科学的専門知識と技能、自主的な判断力と問題解決能力、実践力と研究能力を備え、高い倫理観を有する人間性豊かな薬剤師を養成し、もって国民の健康・福祉の向上に寄与する。

(収容定員)

第 4 条 各学部の収容定員は次のとおりとする。

文 学 部

日 本 語 日 本 文 学 科 収容定員 220名 入学定員 55名

歴 史 文 化 学 科 収容定員 220名 入学定員 55名

教 育 学 部

教 育 学 科 収容定員 760名 入学定員 190名

人 間 社 会 学 部

人 間 社 会 学 科 収容定員 240名 入学定員 60名

ス ポ ー ツ 健 康 学 科 収容定員 400名 入学定員 100名

心 理 ・ 福 祉 学 科 収容定員 200名 入学定員 50名

薬 学 部

薬学科 収容定員 840名 入学定員 140名

(大 学 院)

第 5 条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別に定める。

(専攻科および収容定員)

第 6 条 本学に教育専攻科を置く。

2 前項の専攻科の収容定員は次のとおりとする。

教 育 専 攻 科 収容定員 25名 入学定員 25名

3 教育専攻科に関する規程は別に定める。

第 2 章 修業年限、学年、学期および休業日

(修 業 年 限)

第 7 条 学部の修業年限は4年とする。ただし、薬学部にあつては6年とする。

2 学部の在学年限は8年とする。ただし、薬学部にあつては12年とする。

(学 年)

第 8 条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第 9 条 学年を分けて次の2期とする。

前期 4月 1日から9月30日まで

後期 10月 1日から3月31日まで

(休 業 日)

第 10 条 休業日は次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する日

(2) 日曜日

- (3) 本学園創立記念日（10月14日）
- (4) 春季休業日 3月21日から3月31日まで
- (5) 夏季休業日 8月1日から9月19日まで
- (6) 冬季休業日 12月23日から翌年1月6日まで

2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて、臨時に休業日を定めることができる。

（授業期間）

第11条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週以上にわたることを原則とする。

第3章 入学、退学、転学、除籍、休学、復学、および転学部・転学科

（入学の時期）

第12条 入学の時期は毎年4月とする。

（入学資格）

第13条 本学の第1学年に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) その他本学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（受験の手続）

第14条 入学志願者は、所定の書類に、別表2に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出された書類および入学検定料は事情を問わず、これを返還しない。

（入学者の選考）

第15条 前条の入学志願者については別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続および入学許可）

第16条 選考に合格した者は、指定の期日までに、誓約書および必要な書類を提出するとともに定められた納付金を納入しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（保証人）

第17条 在学保証人は父母とする。父母のない場合はこれに代わる親族等とする。

2 保証人は本学の教育に協力してその学生が在学中における一切の責に任ずべきものとする。

3 保証人に異動があった時または死亡した時には直ちに届け出なければならない。

（再入学）

第18条 第20条により退学した者または第20条の2第2号または第3号により除籍された者が本学へ再入学を希望するときは、選考の上、教授会の議を経て、再入学を許可することがある。

2 再入学に関して必要な事項は、別に定める。

（編入学）

第19条 本学に編入学を希望する者がいるときは、選考の上、教授会の議を経て、編入学を許可することができる。

2 編入学に関して必要な事項は、別に定める。

（退学および転学）

第20条 退学しようとする者および他の大学に転学しようとする者は、その理由等を記し、保証人との連署のうえ、所定の様式により退学願を提出し、許可を受けなければならない。

(除籍)

第 20 条 の 2 次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

- (1) 第 7 条第 2 項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第 21 条第 2 項に定める休学の期間を超えてなお復学できない者
- (3) 納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 長期にわたり所在不明の者
- (5) 成業の見込みがないと認められる者
- (6) 法に定める在留資格が得られない者
- (7) 死亡した者

(休学および復学)

第 21 条 病気その他やむを得ない理由により、引き続き 6 ヶ月以上欠席しようとする者はその理由等を記し、保証人との連署のうえ、所定の様式により休学願を提出し、許可を受けなければならない。

2 休学期間は通算して第 7 条に規定する修業年限を超えることができない。

3 休学期間は在学期間に含まない。

4 休学に関して必要な事項は、別に定める。

第 22 条 休学者が復学しようとするときは、保証人との連署のうえ、所定の様式により復学願を提出し、許可を受けなければならない。

(転学部・転学科・転専攻)

第 23 条 本学の学生で、第 3 条に定める他の学部、学科に転学部、転学科、教育学部においては転専攻を希望する者は、選考の上、教授会の議を経て、転学部、転学科および転専攻を許可することがある。

2 転学部、転学科および転専攻に関して必要な事項は、別に定める。

第 4 章 授業科目および単位

(授業科目の区分)

第 24 条 授業科目は、共通教育科目、専門教育科目とキャリア教育科目とに分ける。

2 共通教育科目と専門教育科目は、それぞれ必修科目と選択科目とに分ける。

(授業科目および単位数)

第 25 条 授業科目および単位数は別表 1 のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要と認めるときは、別表 1 に規定する授業科目の他に、教授会の議を経て授業科

目を開設することができる。

(授業科目の履修)

第 26 条 授業科目の履修に関して必要な事項は、別に定める。

(卒業の要件)

第 27 条 卒業の要件は、第 7 条に規定する修業年限以上在学し、次の各号により学部、学科ごとに定める単位を修得

しなければならない。

(1) 共通教育科目は必修科目を含めて文学部の日本語日本文学科は 28 単位、歴史文化学科は 30 単位、教育学部教育学科は 30 単位、人間社会学部の人間社会学科は 28 単位、スポーツ健康学科は 28 単位、心理・福祉学科は 28 単位、薬学部薬学科は 32 単位以上を修得しなければならない。

(2) 専門教育科目は必修科目を含めて文学部の日本語日本文学科は 100 単位、歴史文化学科は 98 単位、教育学部教育学科は 98 単位、人間社会学部の人間社会学科は 100 単位、スポーツ健康学科は 100 単位、心理・福祉学科は 100 単位、薬学部薬学科は 158 単位以上を修得しなければならない。

(3) 最終学年において文学部日本語日本文学科、教育学部教育学科、人間社会学部の人間社会学科、スポーツ健康学科、心理・福祉学科は卒業研究を、文学部歴史文化学科は卒業論文を、薬学部薬学科は薬学研究を提出しなければならない。

(授業の方法)

第 27 条 の 2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行うものとする。

- 2 教授会が必要と認めた場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。
- 3 教授会が必要と認めた場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎および附属施設以外の場所（外国を含む）で行うことができる。

第 5 章 単位の認定

(単 位)

第 28 条 授業科目の単位数は、1 単位、45 時間の学修を行うことを標準とし、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- (1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、15 時間から 30 時間の範囲で行われる授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実験、実習および実技については、30 時間から 45 時間の範囲で行われる授業をもって 1 単位とする。

(単位の認定)

第 29 条 単位の認定は試験その他の方法による。試験に合格した者には所定の単位を与える。

第 30 条 試験の方法は、筆記、口述、実技および論文によるものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第 31 条 学生が入学する前に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位および文部科学大臣が別に定める学修を、入学後の本学における授業科目の履修とみなし、修得した単位とすることができる。その場合の単位の認定は教授会の議を経て、学長が認定する。

- 2 前項により認定する単位数は、編入学の場合を除き、60 単位以内とする。
- 3 入学前の既修得単位の認定に関して、必要な事項は別に定める。
- 4 文部科学大臣が別に定める学修の単位認定に関して、必要な事項は別に定める。

(他の大学または短期大学における授業科目の認定)

第 32 条 学生が他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。その場合の単位の認定は教授会の議を経て、学長が認定する。

- 2 前項により認定する単位数は、60 単位以内とする。
- 3 前二項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。
- 4 他の大学または短期大学における授業科目の認定に関して、必要な事項は別に定める。

第 6 章 卒業および学位

(卒業の認定)

第 33 条 学部第 7 条で規定する修業年限以上在学し、第 27 条に定める所定の単位を修得した者は、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 前項の規定にかかわらず、第 19 条の規定により入学した場合、他の大学または短期大学における修業年限を加算して、4 年以上在学し、第 27 条に定める所定の単位を修得した者は、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(卒業証書および学位)

第 34 条 卒業を認定された者には卒業証書および学士の学位を授与する。

第 7 章 免許状および資格の取得

(免許状および資格の課程)

第 35 条 免許状および資格取得のために、教育職員養成課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程、学芸員課程、社会教育主事課程、保育士養成課程、社会福祉士国家試験受験資格課程を置く。

(教育職員免許状)

第 36 条 教育職員免許状を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

- 2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。

3 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。

- | | |
|--------------------|---|
| (1) 文学部日本語日本文学科 | 中学校教諭1種免許状「国語」
高等学校教諭1種免許状「国語」
高等学校教諭1種免許状「書道」 |
| (2) 文学部歴史文化学科 | 中学校教諭1種免許状「社会」
高等学校教諭1種免許状「地理歴史」 |
| (3) 教育学部教育学科 | 幼稚園教諭1種免許状
小学校教諭1種免許状
中学校教諭1種免許状「国語」
高等学校教諭1種免許状「国語」
中学校教諭1種免許状「英語」
高等学校教諭1種免許状「英語」
特別支援学校教諭1種免許状 |
| (4) 人間社会学部人間社会学科 | 中学校教諭1種免許状「社会」
高等学校教諭1種免許状「公民」 |
| (5) 人間社会学部スポーツ健康学科 | 中学校教諭1種免許状「保健体育」
高等学校教諭1種免許状「保健体育」 |

4 教育職員免許状の取得に関して、必要な事項は別に定める。

(司書)

第37条 図書館「司書」の資格を得ようとする者は、第27条の定めによるほか、図書館法、同法施行令、同法施行規則の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位は別表1のとおりとする。

3 司書課程に関して必要な事項は、別に定める。

(司書教諭)

第38条 学校図書館「司書教諭」の資格を得ようとする者は、第27条の定めによるほか、学校図書館法および学校図書館司書教諭講習規程の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位は別表1のとおりとする。

3 司書教諭課程に関して必要な事項は、別に定める。

(学校司書)

第38条の2 学校司書の資格を得ようとする者は、文部科学省の通知に従い、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位は別表1のとおりとする。

3 学校司書課程に関して必要な事項は、別に定める。

(学芸員)

第39条 博物館「学芸員」の資格を得ようとする者は、第27条の定めによるほか、博物館法、同法施行令、同法施行規則の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位は別表1のとおりとする。

3 学芸員課程に関して必要な事項は、別に定める。

(社会教育主事)

第40条 社会教育主事任用資格を得ようとする者は、第27条の定めによるほか、社会教育法および社会教育主事講習会等規程の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位は別表1のとおりとする。

3 社会教育主事課程に関して必要な事項は、別に定める。

(保育士)

第41条 教育学部教育学科において保育士の資格を得ようとする者は、第27条の定めによる

ほか、児童福祉法施行規則の定めによって本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

- 2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。
- 3 保育士養成課程を履修することができる者は、1 学年あたり 80 名とする。
- 4 保育士養成課程に関して必要な事項は、別に定める。

(社会福祉士国家試験受験資格)

第 42 条 人間社会学部心理・福祉学科において社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、社会福祉士及び介護福祉士法第 7 条第 1 号の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。

- 2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。
- 3 社会福祉士国家試験受験資格に関して必要な事項は、別に定める。

第 8 章 入学検定料および納付金

(入学検定料)

第 43 条 入学志願者は入学検定料を、薬学部研究生志願者は薬学部研究生検定料を、所定の期日までに納付しなければならない。

- 2 入学検定料、薬学部研究生検定料は、別表 2 に定めるところによる。

(納付金)

第 44 条 学生は、納付金を所定の期日までに納付しなければならない。

- 2 納付金とは入学金、授業料、施設費、履修料・聴講料・研究料および実験実習料をいう。
- 3 納付金の額は別表 2 に定めるところによる。
- 4 実験実習料は別に定める。

(除 籍)

第 45 条 (削除)

(納入義務および減額措置)

第 46 条 納付金は出席の有無にかかわらず学籍のある間は、これを納めなければならない。

- 2 休学中の納付金は、その休学期間が各期の全日にわたる場合に限り、実験実習料を除き、別表 2 に定めるところとする。

(納付金の延納)

第 47 条 納付金を延納しなければならない事情があるときは、保証人との連署のうえ、所定の様式により延納願を提出し、許可を受けなければならない。

(納付金の不返還)

第 48 条 既納の納付金はいかなる事情があろうともこれを返還しない。

- 2 前項にかかわらず、別表 3 に定める入学試験による合格者が所定の入学辞退期間内に入学辞退の手続きを完了した場合に限り、入学金以外の納付金は返還することができる。

第 9 章 科目等履修生、聴講生、高大連携・育成プログラム履修生および薬学部研究生

(科目等履修生)

第 49 条 本学の学部学生以外の者で、本学における授業科目の一部を履修しようとする者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、科目等履修生として当該科目の履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生として履修を許可された者は、履修料を所定の期日までに納付しなければならない。
- 3 履修料の額は、別表 2 に定めるところによる。
- 4 科目等履修生については、学則及び履修に関する諸規程を準用する。
- 5 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(聴 講 生)

第 50 条 本学の学部学生以外の者で、本学における授業科目の一部を聴講しようとする者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、聴講生として当該科目の聴講を許可することができる。

- 2 聴講生として聴講を許可された者は、聴講料を所定の期日までに納付しなければならない。
- 3 聴講料の額は、別表 2 に定めるところによる。
- 4 聴講生については、学則及び履修に関する諸規程を準用する。

5 聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(高大連携・育成プログラム履修生)

第 50 条の 2 本学の高大連携・育成プログラムを受講しようとする者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、当該科目の受講を許可することができる。

2 受講を許可された者の学修の評価が合格と認められ、本学に入学した場合、受講した当該授業科目を、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。

3 高大連携・育成プログラム履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(薬学部研究生)

第50条の3 本学の学部学生以外の者で、薬学部において特定の専門事項について研究しようとする者は、所定の書類に、別表2に定める検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出された書類及び検定料は事情を問わず、これを返還しない。

3 薬学部研究生志願者は、選考の上、薬学部教授会の議を経て、受入を許可することができる。

4 薬学部研究生として受入を許可された者は、別表2に定める研究料を所定の期日までに納付しなければならない。

5 薬学部研究生については、学則及び研究に関する諸規程を準用する。

6 薬学部研究生に関して必要な事項は、別に定める。

第 10 章 外国人留学生

(外国人留学生)

第 51 条 外国人で本学に入学を希望する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、外国人留学生として、入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第 11 章 海外留学

(海外留学)

第 52 条 学生で外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に留学を希望する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、海外留学を許可することができる。

2 前項により留学した期間は、学則第 7 条の修業年限に算入することができる。

3 第 1 項により許可された留学生の授業料および施設費については、学則第 44 条の規定にかかわらず、免除することができる。

4 海外留学に関して必要な事項は、別に定める。

5 前 4 項の規定にかかわらず、薬学部薬学科での海外留学は認めない。

第 12 章 公開講座

(公開講座)

第 53 条 本学は公開講座を開設し、学生ならびに社会人の教養を高め、文化の向上に資する。

第 13 章 賞 罰

(表 彰)

第 54 条 学生として他の模範となる者に対しては、教授会の議を経て、これを表彰することができる。

(懲 戒)

第 55 条 学生が本学の規則に違反し、または学生の本分に反する行為のあったときは、学長は教授会の意見を聞き、これを懲戒する。

2 前項の懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込がないと認められた者

(2) 成績不良で改善の見込がないと認められた者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反する行為のあった者

4 懲戒に関して必要な事項は別に定める。

第 14 章 職員組織、協議会および教授会

(職員組織)

- 第 56 条 本学に教育職員および事務職員を置く。
- 2 教育職員を分けて教授、准教授、講師、助教とする。
- 第 57 条 本学に学長、副学長および学部長を置く。
- 2 学長は、校務を掌り所属教職員を統督する。
- 3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務を掌る。
- 4 学部長は、当該学部の学務を管掌する。

(協議会)

- 第 58 条 本学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として協議会を置く。
- 第 59 条 学長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 2 協議会は、学長、副学長、学部長、研究科長、その他協議会規程に定める者をもって構成する。
- 第 60 条 協議会は、次の事項を審議・調整する。
- (1) 教育課程編成の基本的方針に関する事項
 - (2) 学則および諸規程の制定、および改廃に関する事項
 - (3) 予算に関する事項
 - (4) 組織に関する事項
 - (5) 教育職員の人事に関する事項
 - (6) 学部・学科の新設・改廃に関する事項
 - (7) 学生募集に関する重要な事項
 - (8) 学生の厚生補導および賞罰等、その身分に関する事項
 - (9) 学生定員に関する事項
 - (10) その他大学の運営に関し、学長が必要と認めた事項
- 2 協議会に関して必要な事項は別に定める。

(教授会)

- 第 61 条 本学の各学部に教授会を置く。
- 2 学部長は、当該教授会を招集する。
- 3 教授会は、教授、准教授および専任講師をもって構成する。
- 第 62 条 教授会は、当該学部の次の事項を審議する。
- (1) 学生の入学、卒業および課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 学部の教育課程および授業に関する事項
 - (4) 教員の研究業績の審査に関する事項
 - (5) 学部・学科の新設・改廃に関する事項
 - (6) 学生の厚生補導および賞罰等、その身分に関する事項
 - (7) 学則および諸規程の制定および改廃に関する事項
 - (8) 教育研究予算に関する事項
 - (9) 教員組織ならびに学部長の選出に関する事項
 - (10) 学生募集に関する事項
 - (11) 学生の留学および休学その他の認定に関する事項
 - (12) 学生定員に関する事項
 - (13) 科目等履修生および聴講生に関する事項
 - (14) その他学部の運営に関し、学部長が必要と認めた事項
- 2 当該学部の教授会に関して必要な事項は別に定める。

(学長への意見の陳述)

- 第 63 条 学部教授会は、前条第 1 号および第 2 号に定める事項ならびに前条第 3 号から第 13 号までの事項のうちあらかじめ学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 2 学部教授会は、前項に規定する場合のほか、前条各号に掲げる事項について、学長等の求めに応じ

意見を述べ、または、必要に応じ審議した結果を学長等に述べることができる。

第 15 章 付 属 施 設

(図 書 館)

第 64 条 本学に図書館を設置し、教職員、学生の教育研究の向上に資する。

2 図書館に関して必要な事項は、別に定める。

(博 物 館)

第 65 条 本学に博物館を設置し、教職員、学生の教育研究に資するとともに、地域文化の向上に努める。

2 博物館に関して必要な事項は、別に定める。

(情報教育センター)

第 66 条 本学に情報教育センターを設置し、教職員、学生の教育研究に資するとともに、情報文化の向上に努める。

2 情報教育センターに関して必要な事項は、別に定める。

(教職教育センター)

第 67 条 本学に教職教育センターを設置し、教職課程の充実に資するとともに教員養成の向上に努める。

2 教職教育センターに関して必要な事項は、別に定める。

(英語教育センター)

第 67 条の 2 本学に英語教育センターを設置し、英語教育カリキュラムの充実に資するとともに学生の英語基礎力の向上に努める。

2 英語教育センターに関して必要な事項は、別に定める。

(キャリアセンター)

第 67 条の 3 本学にキャリアセンターを設置し、キャリア教育の充実に資するとともに、学生のキャリア開発支援に努める。

2 キャリアセンターに関して必要な事項は、別に定める。

(教育・学修支援センター)

第 67 条の 4 本学に教育・学修支援センターを設置し、大学教育の充実に資するとともに全学的な教育・学修活動の支援に努める。

2 教育・学修支援センターに関して必要な事項は、別に定める。

(学 寮)

第 68 条 (削除)

(保 健 室)

第 69 条 本学に保健室を置き、教職員、学生の健康管理を行う。

附 則

この学則は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

この学則は、昭和 43 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 44 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 45 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 46 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 47 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 48 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 49 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から改正施行する。ただし、第 5 条別表に新しく開設した授業科目については、第 2 年次以上の学生にもこれを適用する。

この学則は、昭和 51 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 52 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 53 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 55 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から改正施行する。

この学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 58 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 59 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成元年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 2 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 3 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 3 年 7 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 4 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 5 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から改正施行する。
この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から改正施行する。

1. この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 第 20 条、第 21 条、第 23 条、第 24 条、第 29 条の規定および別表 1 は、平成 6 年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 1. この学則は、平成 10 年 4 月 1 日から改正施行する。
 2. 第 23 条の規定および別表 1 は、平成 7 年度以降平成 9 年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 3. 第 20 条、第 21 条、第 23 条、第 24 条、第 29 条の規定および別表 1 は、平成 6 年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 1. この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から改正施行する。
 2. 第 31 条、第 38 条の規定および別表 1 は、平成 10 年度の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 3. 第 23 条の規定および別表 1 は、平成 7 年度以降平成 9 年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 4. 第 20 条、第 21 条、第 23 条、第 24 条、第 29 条の規定および別表 1 は、平成 6 年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
 1. この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から改正施行する。
 2. 改正前の国文学科、英文学科、幼児教育学科は、第 3 条の規定にかかわらず当該学科に在学する学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
また、当該学科の平成 12 年度から平成 14 年度までの入学定員は次のとおりとする。

国文学科	160 名
英文学科	160 名
幼児教育学科	160 名
 3. 前項の規定により存続する学科または在学する者については、本学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 1. この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から改正施行する。
 2. 第 3 条の規定にかかわらず平成 12 年度の入学定員は次のとおりとする。

日本語日本文学科	入学定員	110 名
英語英米文学科	入学定員	110 名
教育福祉学科	入学定員	160 名
文化財学科	入学定員	50 名
コミュニティ関係学科	入学定員	50 名
 1. この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から改正施行する。
 2. 第 23 条の規定および別表 1 は、平成 13 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規程を適用する。

1. この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 第 3 条の規定にかかわらず平成 13 年度と平成 14 年度の入学定員は次のとおりとする。

日本語日本文学科	収容定員	400 名	入学定員	100 名
英語英米文学科	収容定員	400 名	入学定員	100 名
教育福祉学科	収容定員	720 名	入学定員	180 名
文化財学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名
コミュニティ関係学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名
3. 第 34 条、第 39 条の規定および別表 1 は、平成 14 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規程を適用する。

1. この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 改正前の文学部教育福祉学科は、第 3 条および第 4 条の規定にかかわらず当該学科に在学する学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
 また、第 3 条および第 4 条の規定にかかわらず平成 15 年度の入学定員は次のとおりとする。

日本語日本文学科	収容定員	280 名	入学定員	70 名
英語英米文学科	収容定員	280 名	入学定員	70 名
教育福祉学科	収容定員	960 名	入学定員	240 名
文化財学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名
コミュニティ関係学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名
3. 第 26 条、第 35 条、第 40 条、第 41 条、第 57 条、第 58 条、第 59 条、第 60 条、第 61 条、第 62 条の規定および別表 1 は、平成 14 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規程を適用する。

1. この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 改正前の文学部コミュニティ関係学科は、第 3 条および第 4 条の規定にかかわらず当該学科に在学する学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
 また、第 3 条および第 4 条の規定にかかわらず平成 16 年度の入学定員は次のとおりとする。
 文学部

日本語日本文学科	収容定員	280 名	入学定員	70 名
英語英米文学科	収容定員	280 名	入学定員	70 名
文化財学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名
コミュニティ関係学科	収容定員	200 名	入学定員	50 名

教育福祉学部

教育福祉学科	収容定員	960 名	入学定員	240 名
--------	------	-------	------	-------

3. 第 41 条、第 42 条、第 58 条、第 59 条、第 60 条、第 61 条、第 62 条、第 63 条の規定および別表 1 は、平成 14 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規程を適用する。
4. 第 27 条、第 36 条、第 43 条の規定および別表 1 は、平成 15 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規程を適用する。
5. 第 43 条の規定および別表 1 は、平成 16 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧規定を適用する。
1. この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 大阪大谷大学学則は、平成 17 年度以前の入学生に対しては、これを適用せず、旧学則を適用する。
 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から改正施行する。
 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から改正施行する。
 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から改正施行する。
 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から改正施行する。ただし、別表 1 のキャリア教育科目については、平成 21 年度以前入学生にもこれを適用する。
 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則（文学部英米語学科の募集停止、教育福祉学部教育福祉学科の名称変更、スポーツ健康学科の設置、入学定員の変更、教育課程の改訂）

1. この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から改正施行する。
2. 平成 23 年度以前に入学した学生については、なお従前の学則による。

3. 平成24年度からの収容定員は、第4条の規定にかかわらず次の通りとする。

学 部	学 科	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
文 学 部	日本語日本文学科	200人	200人	200人	200人
	英米語学科	150人	100人	50人	—人
	文化財学科	200人	200人	200人	200人
教育学部	教育学科	950人	940人	930人	920人
人間社会学部	人間社会学科	440人	400人	360人	320人
	スポーツ健康学科	100人	200人	300人	400人
薬学部	薬学科	840人	840人	840人	840人

4. 文学部英米語学科は、第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日に在籍する者が在学しなくなるまで存続するものとする。

この学則は、平成25年4月1日から改正施行する。

附 則（文学部文化財学科から文学部歴史文化学科の名称変更）

- この学則は、平成26年4月1日から改正施行する。
- 平成25年度以前に入学した学生については、なお従前の学則による。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から改正施行する。
- 文学部英米語学科は平成27年3月31日付で廃止する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から改正施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から改正施行する。

附 則

- この学則は、平成30年4月1日から改正施行する。
- 第27条、第35条、第38条の2の規定および別表1は、平成29年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- この学則は平成31年4月1日から改正施行する。
- 第27条の規定および別表1は、平成30年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- この学則は令和2年4月1日から改正施行する。
- 別表1は、平成31年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。
- 別表2は平成31年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。編入学生および再入学生は、編入学・再入学する学年の納付金額を適用する。

附 則

- この学則は令和3年4月1日から改正施行する。
- 別表1は、令和2年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- この学則は令和4年4月1日から改正施行する。
- 第27条第3号、別表1および別表3は、令和3年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- この学則は令和5年4月1日から改正施行する。
- 別表1は、令和4年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- この学則は、令和6年4月1日から改正施行する。
- 令和5年度以前に入学した学生については、なお従前の学則による。
- 令和6年度からの収容定員は、第4条の規定にかかわらず次の通りとする。

学部	学科	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
文学部	日本語日本文学科	205名	210名	215名	220名
	歴史文化学科	205名	210名	215名	220名
教育学部	教育学科	880名	840名	800名	760名
人間社会学部	人間社会学科	300名	280名	260名	240名
	スポーツ健康学科	400名	400名	400名	400名
	心理・福祉学科	50名	100名	150名	200名
薬学部	薬学科	840名	840名	840名	840名

別表 1

授 業 科 目 表

共通教育科目 文学部 教育学部 人間社会学部

	授業科目	単位	備考
必修科目	宗教学 A	2	
	宗教学 B	2	
	コンピュータ技術基礎 I	2	
	キャリア概論	1	
	新入生セミナー	1	
	いのちを共に考える	1	
選択必修科目	英語 A (コミュニケーション)	1	
	英語 B (コミュニケーション)	1	
	英語 A (総合)	1	
	英語 B (総合)	1	
	英会話 A	1	
	英会話 B	1	
	英米文化を学ぶ	2	
	メディアの英語	2	
	ドイツ語入門 A	1	
	ドイツ語入門 B	1	
	ドイツ語会話 A	1	
	ドイツ語会話 B	1	
	ドイツ文化を学ぶ	2	
	フランス語入門 A	1	
	フランス語入門 B	1	
	フランス語会話 A	1	
	フランス語会話 B	1	
	フランス文化を学ぶ	2	
	中国語入門 A	1	
	中国語入門 B	1	
	中国語会話 A	1	
	中国語会話 B	1	
	中国文化を学ぶ	2	
	朝鮮語入門 A	1	
	朝鮮語入門 B	1	
	朝鮮語会話 A	1	
	朝鮮語会話 B	1	
	朝鮮文化を学ぶ	2	
	日本語 I	1	
	日本語 II	1	
	日本文化を学ぶ	1	

	授業科目	単位	備考
人文科学系科目	音楽	2	
	西洋史学	2	
	哲学	2	
	東洋史学	2	
	同和教育	2	
	日本史学	2	
	日本文化	2	
	日本文学	2	
	美術史	2	
	仏教学	2	
	昔話研究	2	
	倫理学	2	
	考古学	2	
	ことばの科学	2	
	日本の歌謡	2	
	比較文学	2	
	文化人類学	2	
	文章表現	2	
	社会科学系科目	くらしと社会保障	2
経済と社会		2	
社会学入門		2	
現代社会を学ぶ		2	
日本国憲法		2	
福祉教育論		2	
法学		2	
メディア論		2	
防災入門		2	
課題発見・解決演習(子どもイベント編)		2	※☆◇
課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	※☆◇	

	授業科目	単位	備考	
自然科学系科目	宇宙・地球・生命の歴史	2		
	くらしと化学	2		
	現代科学論	2		
	コンピュータ技術基礎Ⅱ	2		
	自然科学への誘い	2		
	数学への誘い	2		
	生活科学	2		
	生命科学入門	2		
	ヒトと環境	2		
	自然科学史	2		
	統計学Ⅰ	2		
	統計学Ⅱ	2		
	キャリア科目	ロジカルシンキング	2	
		ロジカルコミュニケーション	2	
		社会教養基礎	2	
数学教養基礎		2		
キャリアデザイン		2		
インターンシップ入門		1		
簿記入門		2		
自治体研究		2		
就活力Ⅰ		1		
就活力Ⅱ		1		
採用研究(民間企業)		1		
採用研究(公務員)		1		
TOEIC Practice A		1		
TOEIC Practice B		1		
海外研修A(英語圏)		2		
海外研修B(英語圏)	2			
海外研修A(朝鮮語圏)	2			
海外研修B(朝鮮語圏)	2			
教職科目	教職基礎社会	2		
	教職文章表現	2		
	教職総合ベーシックⅠ	2		
	教職総合ベーシックⅡ	2		
	教職総合アドバンスⅠ	2		
	教職総合アドバンスⅡ	2		
	教職直前対策	2		
	教職教養対策	2		
	教育インターンシップⅠ	1	□	
	教育インターンシップⅡ	1	□	
	学校教育演習Ⅰ	2		
学校教育演習Ⅱ	2			
保健体育科目	体育(講義を含む)	2	☆	

共通教育科目 薬学部

	授業科目	単位	備考
必修科目	宗教学	2	
	死生学	2	
	生命倫理学	2	
	新入生セミナー	1	
	基礎生物学演習	1	
	基礎数学演習	1	
	基礎物理学演習	1	
	基礎化学演習	1	
	情報薬学基礎演習	2	
	化学実習	1	
	生物学実習	1	
	数学・統計学	2	
	英語A(コミュニケーション)	1	
	英語B(コミュニケーション)	1	
	英語A(総合)	1	
	英語B(総合)	1	
	いのちを共に考える	1	

	授業科目	単位	備考
選択科目	ドイツ語入門A	1	
	ドイツ語入門B	1	
	フランス語入門A	1	
	フランス語入門B	1	
	中国語入門A	1	
	中国語入門B	1	
	朝鮮語入門A	1	
	朝鮮語入門B	1	
	自然科学への誘い	2	
	自然科学演習	1	
	体育(講義を含む)	2	
	哲学	2	
	法学	2	
	経済学	2	
	倫理学	2	
	英会話A	1	
	英会話B	1	
	日本語表現	2	
	コミュニケーション論	2	
	社会福祉論	2	
	心理学	2	
	地域ネットワーク論	2	
	看護学	2	
国際文化交流	2		

◎日本語日本文学科以外の入学生のみ適用

△歴史文化学科以外の入学生のみ適用

□教育学科以外の入学生のみ適用

※人間社会学科以外の入学生のみ適用

☆スポーツ健康学科以外の入学生のみ適用

◇心理・福祉学科以外の入学生のみ適用

専門教育科目
文学部日本語日本文学科

	授業科目	単位	備考
必修科目	研究基礎 A	2	
	研究基礎 B	2	
	日本文学講読 I	2	
	日本文学講読 II	2	
	日本文学講読 III	2	
	日本文学講読 IV	2	
	日本文学講読 V	2	
	基礎ゼミナール I	2	
	基礎ゼミナール II	2	
	日本語学概論 A	2	
	日本語学概論 B	2	
	日本語学講読 A	2	
	日本語学講読 B	2	
	日本語史 A	2	
	日本語史 B	2	
	ゼミナール I	4	
	ゼミナール II	4	
	卒業研究	4	

	授業科目	単位	備考
選択必修科目	古典入門 (詩歌)	2	4科目 必修
	古典入門 (物語)	2	
	くずし字入門	2	
	現代文学入門	2	
	漢字漢文入門	2	
	日本語教育学入門	2	4科目 必修
	図書館情報学入門	2	
	日本文学史 I	2	
	日本文学史 II	2	
	日本文学史 III	2	
	日本文学史 IV	2	
	日本文学史 V	2	
	日本文学史 VI	2	
	中国文学講読 I	2	
	中国文学講読 II	2	
	日本語音声学 A	2	2科目 必修
	日本語音声学 B	2	
	日本語文法論 A	2	
	日本語文法論 B	2	

	授業科目	単位	備考
選択科目	日本語教育学概論	2	
	児童文学論 A	2	
	児童文学論 B	2	
	日本文学演習 I	2	
	日本文学演習 II	2	
	総合講座①	4	
	総合講座②	4	
	芸能鑑賞法	2	
	美術鑑賞法	2	
	基礎書道 A	2	
	基礎書道 B	2	
	出版学概論	2	
	図書館概論	2	
	フィールドワーク IA	2	
	フィールドワーク IB	2	
	フィールドワーク IIA	2	
	フィールドワーク IIB	2	
	フィールドワーク IIIA	2	
	フィールドワーク IIIB	2	
	言語学概論 A	2	
	言語学概論 B	2	
	書道 A	2	
	書道 B	2	
	漢字古典研究 A	2	
	漢字古典研究 B	2	
	かな古典研究 A	2	
	かな古典研究 B	2	
	書道史 A	2	
	書道史 B	2	
	書論・鑑賞 A	2	
	書論・鑑賞 B	2	
	図像学	2	
	文学理論	2	
	日本語教育文法研究 A	2	
	日本語教育文法研究 B	2	
	日本語教育法 A	2	
	日本語教育法 B	2	
	日本語教育のための第二言語習得論	2	
	児童生徒のための日本語教育	2	
	国語科教育法	4	
国語科教材研究①	4		
書誌学 A	2		
書誌学 B	2		
文献学	2		
異文化コミュニケーション	2		
映像文化	2		
情報サービス論	2		
情報サービス演習 A	2		
情報サービス演習 B	2		

	授業科目	単位	備考
選択科目	国際社会学 A	2	
	現代社会研究	2	
	プレゼンテーション研究	2	
	中国文学史 A	2	
	中国文学史 B	2	
	日本語日本文学特殊講義 I A	2	
	日本語日本文学特殊講義 I B	2	
	日本語日本文学特殊講義 II A	2	
	日本語日本文学特殊講義 II B	2	
	日本語日本文学特殊講義 III A	2	
	日本語日本文学特殊講義 III B	2	
	日本語日本文学特殊講義 IV A	2	
	日本語日本文学特殊講義 IV B	2	
	日本語日本文学特殊講義 V A	2	
	日本語日本文学特殊講義 V B	2	
	情報メディア研究 I	2	
	情報メディア研究 II	2	
	メディア編集実践演習 A	2	
	メディア編集実践演習 B	2	
	文章表現実践演習 A	2	
	文章表現実践演習 B	2	
	国語科教材研究②	4	
	国語科授業研究	4	
	創作 A	2	
	創作 B	2	
	日本語教育実習 A	2	
	日本語教育実習 B	2	
	書道科教育法 A	2	
	書道科教育法 B	2	

文学部内他学科履修科目

	授業科目	単位	備考
選択科目	日本史概説 A	2	
	日本史概説 B	2	
	西洋史概説 A	2	
	西洋史概説 B	2	
	東洋史概説 A	2	
	東洋史概説 B	2	
	日本美術史概説 A	2	
	日本美術史概説 B	2	
	西洋美術史概説 A	2	
	西洋美術史概説 B	2	
	考古学概説 A	2	
	考古学概説 B	2	

専門教育科目

文学部歴史文化学科

授業科目	単位	備考
基礎ゼミ 1A	1	
基礎ゼミ 1B	1	
基礎ゼミ 2A	1	
基礎ゼミ 2B	1	
歴史文化フィールドワーク A	1	
歴史文化フィールドワーク B	1	
歴史学入門	2	
考古学入門	2	
美術史学入門	2	
大阪の歴史と文化	2	
ゼミナール 1A	2	
ゼミナール 1B	2	
ゼミナール 2A	2	
ゼミナール 2B	2	
卒業論文	4	

授業科目	単位	備考
日本史概説 A	2	
日本史概説 B	2	
西洋史概説 A	2	
西洋史概説 B	2	
東洋史概説 A	2	
東洋史概説 B	2	
考古学概説 A	2	
考古学概説 B	2	
日本美術史概説 A	2	
日本美術史概説 B	2	
西洋美術史概説 A	2	
西洋美術史概説 B	2	
歴史観光学概説	2	
歴史学資料論	2	
考古学資料論	2	
美術史学資料論	2	
歴史学実習 I	1	
歴史学実習 II	1	
考古学実習 I	1	
考古学実習 II	1	
美術史学実習 I	1	
美術史学実習 II	1	
歴史学特殊講義 A	2	
歴史学特殊講義 B	2	
考古学特殊講義 A	2	
考古学特殊講義 B	2	
美術史学特殊講義 A	2	
美術史学特殊講義 B	2	
歴史観光学特殊講義	2	
文化財科学特殊講義 A	2	
文化財科学特殊講義 B	2	
博物館学特殊講義 A	2	
博物館学特殊講義 B	2	

授業科目	単位	備考
日本文化史 A	2	
日本文化史 B	2	
東洋文化史 A	2	
東洋文化史 B	2	
西洋文化史 A	2	
西洋文化史 B	2	
日本仏教史 A	2	
日本仏教史 B	2	
古文書学 A	2	
古文書学 B	2	
日本民俗学 A	2	
日本民俗学 B	2	
地理学 A	2	
地理学 B	2	
歴史地理学	2	
地誌学 A	2	
地誌学 B	2	
文化財行政論	2	
歴史学情報論	2	
地域文化論 A	2	
地域文化論 B	2	
世界遺産論	2	
歴史観光フィールドワーク	1	
生涯学習概論 A	2	
生涯学習概論 B	2	
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
教育原理	2	
図書館概論	2	
図書館サービス概論	2	
図書館情報資源概論	2	
法学概論 A	2	
法学概論 B	2	
政治学概論 A	2	
政治学概論 B	2	
社会学概論 A	2	
社会学概論 B	2	
経済学概論 A	2	
経済学概論 B	2	
倫理思想	2	
仏教思想 A	2	
仏教思想 B	2	
宗教学概説 A	2	
宗教学概説 B	2	

文学部内他学科履修科目

授業科目		単位	備考
選択科目	日本文学講読Ⅰ	2	
	日本文学講読Ⅱ	2	
	日本文学講読Ⅲ	2	
	日本文学講読Ⅳ	2	
	日本文学講読Ⅴ	2	
	日本文学史Ⅰ	2	
	日本文学史Ⅱ	2	
	日本文学史Ⅲ	2	
	日本文学史Ⅳ	2	
	日本文学史Ⅴ	2	
	日本文学史Ⅵ	2	

専門教育科目
教育学部教育学科

授業科目		単位	備考	授業科目		単位	備考
必修科目	基礎ゼミⅠ	2		特別活動の指導法	2		
	基礎ゼミⅡ	2		総合的な学習の時間の指導法	2		
	ゼミナールⅠ	4		学校教育特論(科学・技術)	2		
	ゼミナールⅡ	4		学校教育特論(協働)	2		
	生涯発達と教育	2		学校教育特論(言語)	2		
	卒業研究	4		学校教育特論(文化)	2		
選択科目	基礎ゼミⅢ	2		教育社会学	2		
	基礎ゼミⅣ	2		日本語学概論 A	2		
	教育原理	2		日本語学概論 B	2		
	幼児教育課程論	2		日本文学概論Ⅰ	2		
	幼児教育の方法と技術	2		日本文学概論Ⅱ	2		
	教科音楽	2		中国文学講読Ⅰ	2		
	教科図画工作	2		中国文学講読Ⅱ	2		
	教育の方法と技術(ICT活用を含む)	2		日本文学史Ⅰ	2		
	ピアノⅠA	1		日本文学史Ⅱ	2		
	ピアノⅠB	1		日本語音声学 A	2		
	遊び指導法Ⅰ	2		日本語音声学 B	2		
	遊び指導法Ⅱ	2		日本語史	2		
	遊び論	2		日本語学演習	2		
	遊び研究	2		中等国語科特講Ⅰ	2		
	子どもの保健	2		中等国語科特講Ⅱ	2		
	子どもの健康と安全	2		中等国語科特講Ⅲ	2		
	子どもの食と栄養	2		中等国語科特講Ⅳ	2		
	保育内容総論	2		書道 A	2		
	保育内容(健康)	2		書道 B	2		
	保育内容(人間関係)	2		日本文学演習Ⅰ	2		
	保育内容(環境)	2		中等教育実践特論(国語1)	2		
	保育内容(言葉)	2		中等教育実践特論(国語2)	2		
	保育内容(表現)	2		中国文学史 A	2		
	保育内容の理解と方法	2		中国文学史 B	2		
	教職論	2		中等国語科教育法Ⅰ	2		
	教科初等国語(書写を含む)	2		中等国語科教育法Ⅱ	2		
	教科社会	2		国語科教材研究ⅠA	2		
	教科算教	2		国語科教材研究ⅠB	2		
	教科理科	2		国語科教材研究ⅡA	2		
	教科生活	2		国語科教材研究ⅡB	2		
	教科家庭	2		国語科教材研究ⅢA	2		
	教科体育	2		国語科教材研究ⅢB	2		
	教科英語	2		国語科授業研究 A	2		
	児童文学	2		国語科授業研究 B	2		
	初等国語科教育法	2		Reading A	2		
	初等英語科教育法	2		Reading B	2		
	社会科教育法	2		English Communication Practice A	2		
	算数科教育法	2		English Communication Practice B	2		
	理科教育法	2		英語の規則 A	2		
	生活科教育法	2		英語の規則 B	2		
	音楽科教育法	2		Writing A	2		
	図画工作科教育法	2		Writing B	2		
	家庭科教育法	2		発音クリニック	2		
	体育科教育法	2		Speaking A	2		
	授業実践特論(初等国語)	2		Speaking B	2		
	授業実践特論(社会)	2		Listening A	2		
	授業実践特論(算数)	2		Listening B	2		
	授業実践特論(理科)	2		英語学概論 A	2		
	授業実践特論(音楽)	2		英語学概論 B	2		
	授業実践特論(図画工作)	2		英語文学概論 A	2		
	授業実践特論(初等英語)	2		英語文学概論 B	2		
	授業実践特論(体育)	2		英語文学演習	2		
授業技術基礎	2		異文化理解	2			
道徳教育の指導法	2		英語科教育法 A	2			

授業科目			単位	備考	授業科目			単位	備考
選択科目	英語科教育法 B	2		選択科目	子ども理解連携	2			
	英語科教材研究 A	2			児童理解・指導の方法 (進路指導論を含む)	2			
	英語科教材研究 B	2			心理リハビリテーション実践演習	2			
	第二言語習得論	2			保育指導技術演習 I	2			
	TOEIC 演習	2			保育指導技術演習 II	2			
	中等教育実践特論 (英語)	2			社会資源論	2			
	海外保育・教育研修 A	1			社会福祉	2			
	海外保育・教育研修 B	1			遊び文化実践演習	2			
	留学英語	2			自然教育実践演習	2			
	Basic Presentation Skills	2			子育て支援実践演習	2			
	Basic Reading Skills	2			遊び指導実践演習	2			
	Extensive Reading	2			保育原理 I	2			
	Oral Communication (Discussion)	2			保育原理 II	2			
	Oral Communication (Presentation)	2			社会的養護 I	2			
	Oral Communication (Speech)	2			社会的養護 II	2			
	Reading & Discussion	2			乳児保育 I	2			
	Reading Topics in Education	2			乳児保育 II	1			
	生徒指導論 (進路指導論を含む)	2			教育行政学	2			
	特別支援教育論 I	2			特別支援教育インターンシップ演習 I	2			
	特別支援教育論 II	2			特別支援教育インターンシップ演習 II	2			
	知的障害者の心理・生理・病理	2			特別支援教育インターンシップ演習 III	2			
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2			特別支援教育観察演習	1			
	自立活動指導論	2			環境教育論	2			
	特別支援教育コーディネーター論	2			自然遊び指導実践演習	2			
	特別支援教育指導法演習 I	2			自然体験実践指導技術 I	2			
	特別支援教育指導法演習 II	2			自然体験実践指導技術 II	2			
	知的障害者の教育	2			保育園芸	2			
	肢体不自由者の教育	2			ピアノ II A	1			
	障害児保育	2			ピアノ II B	1			
	病弱者の心理・生理・病理	2			ピアノ III A	1			
	保育社会学	2			ピアノ III B	1			
	子どもと絵本	2			ピアノ IV A	1			
	子どもと家族	2			ピアノ IV B	1			
	子どもと環境	2			病弱者の教育	2			
	子どもと健康 A	2			重複障害教育総論	1			
	子どもと健康 B	2			発達障害教育総論	2			
	子どもと言葉	2			教育インターンシップ I	1			
	子どもと社会	2			教育インターンシップ II	1			
	子どもと植物	2			教育インターンシップ III	1			
	子どもと動物	2			保育技術基礎 I	2			
	子どもと人間関係	2			保育技術基礎 II	2			
	子どもと表現 A	2			保育技術基礎 III	1			
	子どもと表現 B	2			保育技術基礎 IV	1			
	子ども家庭福祉	2			子育て支援	2			
	点字と手話	1			特別な教育的ニーズのある 幼児児童生徒の理解と支援	2			
子ども家庭支援論	2								
子育て支援ゼミナール	2								
教育相談の理論と実際	2								
特別支援教育特論	2								
心理学 I	2								
心理学 II	2								
教育心理学	2								
子どもの理解と援助	1								
保育の心理学	2								
子ども家庭支援の心理学	2								
幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む)	2								

専門教育科目

人間社会学部人間社会学科

授業科目		単位	備考
必修科目	基礎ゼミ I (学習技術)	2	
	基礎ゼミ II (研究入門)	2	
	人間と社会 A	2	
	人間と社会 B	2	
	PBL 入門	2	
	現代社会学概論	2	
	情報学概論	2	
	経営学概論	2	
	ゼミナール I	4	
	ゼミナール II	4	
	卒業研究	4	

授業科目		単位	備考
選択科目	基礎数学	2	
	情報科学	2	
	プログラミング入門	2	
	表計算処理演習	2	
	情報処理論	2	
	ビジネスデータ分析	2	
	情報社会学 A	2	
	情報社会学 B	2	
	プログラミング基礎演習	2	
	プログラミング実践演習	2	
	データサイエンス	2	
	データベース演習	2	
	ネットワーク技術論	2	
	データエンジニアリング概論	2	
	データエンジニアリング	2	
	データサイエンスと社会科学 A	2	
	データサイエンスと社会科学 B	2	
	AI 概論	2	
	データサイエンス・AI 演習	2	
	データサイエンスの応用	2	
	データサイエンス実践演習	2	
	データサイエンス概論	2	
	会計学概論	2	
	簿記論 I A	2	
	簿記論 I B	2	
	経営管理論	2	
	経営戦略論	2	
	ファイナンシャルプランナー	8	
	簿記特講 I	2	
	簿記特講 II	2	
	簿記論 II A	2	
	簿記論 II B	2	
	簿記論 III A	2	
	簿記論 III B	2	
	マーケティング論	2	
	マーケティングリサーチ	2	
	マーケティング論応用	2	
	リテールマーケティング論	2	
	経営実務特講	2	
	現代社会と企業	2	
	ビジネス法務	2	
	FP 実務演習 I	2	
	FP 実務演習 II	2	
	会計学特講 I	2	
	会計学特講 II	2	

授業科目		単位	備考
選択科目	会計実務処理演習	2	
	企業会計論	2	
	リテールマーケティング実務演習	2	
	異文化理解	2	
	グローバル社会入門	2	
	社会学 A	2	
	社会学 B	2	
	政治学 A	2	
	政治学 B	2	
	地域社会体験実習 (ボランティアセンター)	2	
	ワークショップ論	2	
	環境と社会 (総合講座) A	2	
	環境と社会 (総合講座) B	2	
	グローバル社会体験実習	3	
	課題発見・解決演習 (子どもイベント編)	2	
	課題発見・解決演習 (地域コミュニティ編)	2	
	現代社会と人権 (総合講座) A	2	
	現代社会と人権 (総合講座) B	2	
	国際社会学 A	2	
	国際社会学 B	2	
	社会学概論 A	2	
	社会学概論 B	2	
	身体表現と社会	2	
	法と社会 A	2	
	法と社会 B	2	
	倫理学概論 A	2	
	倫理学概論 B	2	
	NPO・NGO 論	2	
	現代社会学実践演習	2	
	ジェンダー論 (総合講座) A	2	
	ジェンダー論 (総合講座) B	2	
	自治体行政論 A	2	
	自治体行政論 B	2	
	都市社会学 A	2	
	都市社会学 B	2	
	地域社会体験実習 (長期)	4	
	経済学概論 A	2	
	経済学概論 B	2	
	心理学概論	2	
	発達心理学	2	
	社会・集団・家族心理学 A	2	
	社会・集団・家族心理学 B	2	
	産業心理学	1	
	臨床心理学概論	2	
	学習・言語心理学	2	
	保育の心理学	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2	
貧困に対する支援	2		
高齢者福祉論	2		
障害者福祉論	2		
子ども家庭福祉論	2		
社会福祉政策論	2		
社会保障論 I	2		
社会保障論 II	2		
福祉経営論	2		
社会福祉概論	2		
地域福祉論 I	2		
介護概論	2		

	授業科目	単位	備考
選択科目	地理学A	2	
	地理学B	2	
	西洋史概説A	2	
	西洋史概説B	2	
	東洋史概説A	2	
	東洋史概説B	2	
	日本史概説A	2	
	日本史概説B	2	
	日本仏教史A	2	
	日本仏教史B	2	
	地誌学A	2	
	地誌学B	2	
	歴史地理学	2	
	社会調査法A	2	
	社会調査法B	2	
	多変量解析の方法	2	
	質的な調査と分析の方法	2	
	社会調査実習I	2	
	社会調査実習II	2	
	スポーツ心理学	2	
	スポーツキャリアデザイン	2	
	スポーツ経営管理学	2	
	スポーツ社会学	2	
	障がい者スポーツ指導論	2	
	スポーツコーチング学I	2	
	スポーツコーチング学II	2	
	スポーツコーチング学III	2	
	スポーツコーチング学IV	2	
	医療福祉システム論I	2	
	医療福祉システム論II	2	
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2	
	地域社会体験実習(市役所)	2	
	企業研究I	1	
	企業研究II	2	
	資格・検定認定(複数型)	2	
	資格・検定認定(上級型)	2	
	TOEIC 入門A	2	
	TOEIC 入門B	2	
	TOEIC A	2	
	TOEIC B	2	

専門教育科目

人間社会学部スポーツ健康学科

	授業科目	単位	備考
必修科目	基礎ゼミ I (学習技術)	2	
	基礎ゼミ II (研究入門)	2	
	人間と社会 A	2	
	人間と社会 B	2	
	ゼミナール I	4	
	ゼミナール II	4	
	卒業研究	4	
	スポーツ健康学	2	
	スポーツ生理学 A	2	
	基礎栄養学	2	
	健康管理学	2	
	スポーツ社会学	2	
	スポーツ心理学	2	
	体育原理	2	
	スポーツアナリスト論	2	
	スポーツ運動学	2	
	スポーツバイオメカニクス	2	

	授業科目	単位	備考
選択必修科目	社会学 A	2	
	社会学 B	2	
	法と社会 A	2	
	法と社会 B	2	
	臨床心理学概論	2	
	心理学概論	2	
	社会福祉概論	2	
	地域社会入門	2	
	TOEIC 入門 A	2	
	TOEIC 入門 B	2	
	TOEIC A	2	
	TOEIC B	2	
	統計学 I	2	
	統計学 II	2	
	ロジカルシンキング	2	
	キャリアデザイン	2	
	課題発見・解決演習 (子どもイベント編)	2	
	グローバル社会体験学習	3	
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2	
	健康産業施設等現場実習	2	
	地域社会体験実習	2	
	社会教養基礎	2	
	数学教養基礎	2	
	ロジカルコミュニケーション	2	
	キャリア概論	1	
	インターンシップ入門	1	
	企業研究 I	1	
	企業研究 II	2	
	就活力 I	1	
	就活力 II	1	
	採用研究(民間企業)	1	
	採用研究(公務員)	1	

	授業科目	単位	備考
選択科目	スポーツキャリアデザイン	2	
	スポーツ指導方法論	2	
	子どものスポーツ	2	
	中高年のスポーツ	2	
	生涯学習特講	2	
	障がい者スポーツ指導論	2	
	トレーニング論	2	
	スポーツコーチング学 I	2	
	スポーツコーチング学 II	2	
	スポーツコーチング学 IV	2	
	スポーツアナリティクス演習	2	
	スポーツ社会学特論	2	
	スポーツ政策論	2	
	スポーツマーケティング論	2	
	運動処方	2	
	スポーツ栄養学	2	
	エアロビックダンス演習	2	
	スポーツトレーニング演習	2	
	生活習慣病 (成人病)	2	
	生活習慣病と食生活	2	
	健康食育論	2	
	栄養と機能食品論	2	
	健康栄養調理実習	2	
	食品・栄養学実験	2	
	体力診断演習	2	
	運動負荷試験演習	2	
	健康運動演習	2	
	ストレンクス&コンディショニングスペシャリスト特論	2	
	健康経営企業研究	2	
	クラブビジネス・マネジメント演習	2	
	救急処置法演習	2	
	スポーツ障害と予防	2	
	メンタルトレーニング演習	2	
運動プログラムとリハビリテーション演習	2		
スポーツ指導方法演習	2		
スポーツ産業論	2		
食環境衛生学	2		
フードコーディネーター論	2		
栄養と機能食品実習	2		
スポーツ栄養調理実習	2		
食品流通論	2		
食品の官能評価・鑑別論	4		
フードスペシャリスト論	2		
ライフステージ栄養学	2		
医療福祉システム論 I	2		
医療福祉システム論 II	2		

	授業科目	単位	備考
選択科目	学校保健A	2	
	学校保健B	2	
	特別支援体育論	2	
	保健体育実践演習	2	
	生理解剖学A	2	
	生理解剖学B	2	
	スポーツ生理学B	2	
	衛生・公衆衛生学	2	
	レクリエーション演習	2	
	スポーツ経営管理学	2	
	発育・発達と老化	2	
	生涯学習概論A	2	
	生涯学習概論B	2	
	基礎食品学	2	
	健康と調理	2	
	課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	
	自治体研究	2	
	環境と社会(総合講座)A	2	
	環境と社会(総合講座)B	2	
	ジェンダー論(総合講座)A	2	
	ジェンダー論(総合講座)B	2	
	社会・集団・家族心理学A	2	
	社会・集団・家族心理学B	2	
	学習・言語心理学	2	
	産業心理学	2	
	保育の心理学	2	
	発達心理学	2	
	地域福祉論I	2	
	国際協力論A	2	
	国際協力論B	2	
	社会調査法A	2	
	社会調査法B	2	
	スポーツデータサイエンス演習	2	
	健康運動指導士・実践指導者特論	2	
	体づくり運動演習	2	
	スポーツプログラミング論	2	
	STEAM スポーツ入門	2	
	スポーツビジョン演習	2	
	スポーツ方法(ソフトボール)	1	
	スポーツ方法(テニス)	1	
	スポーツ方法(水泳)	1	
	スポーツ方法(サッカー)	1	
	スポーツ方法(マリンスポーツ)	1	
	スポーツ方法(トレーニング)	1	
	スポーツ方法(陸上競技)	1	
	スポーツ方法(器械運動)	1	
スポーツ方法(バレーボール)	1		
スポーツ方法(バスケットボール)	1		
スポーツ方法(キャンプ)	1		
スポーツ方法(スキー)	1		
スポーツ方法(ダンス)	1		
スポーツ方法(柔道)	1		
スポーツ方法(剣道)	1		

専門教育科目

人間社会学部心理・福祉学科

授業科目		単位	備考
必修科目	基礎ゼミⅠ(学習技術)	2	
	基礎ゼミⅡ(研究入門)	2	
	人間と社会A	2	
	人間と社会B	2	
	心理・福祉学入門	2	
	ゼミナールⅠ	4	
	ゼミナールⅡ	4	
	卒業研究	4	

授業科目		単位	備考
選択必修科目	基礎コミュニケーション演習	2	
	臨床心理学概論	2	
	心理学的支援法	2	
	発達心理学	2	
	福祉心理学	2	
	社会福祉概論	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅰ	2	
	社会福祉政策論	2	
	心理・福祉総合演習	2	

授業科目		単位	備考
選択科目	心理学概論	2	
	学習・言語心理学	2	
	社会・集団・家族心理学A	2	
	感情・人格心理学Ⅰ	2	
	感情・人格心理学Ⅱ	2	
	臨床産業・組織心理学	2	
	教育心理学	2	
	臨床教育・学校心理学	2	
	公認心理師の職責	2	
	行動分析学	1	
	産業心理学	1	
	社会・集団・家族心理学B	2	
	心理学実験ⅠA	1	
	心理学実験ⅠB	1	
	心理調査概論	2	
	心理学統計法	2	
	保育の心理学	2	
	司法・犯罪心理学	1	
	教育相談の理論と実際	2	
	心理学実験Ⅱ	1	
	心理学研究法	2	
	心理学文献講読	2	
	心理的アセスメント	2	
	心理演習Ⅰ	2	
	心理演習Ⅱ	2	
	知覚・認知心理学	1	
	心理実習	2	
	神経・生理心理学	1	
	障害者・障害児心理学	2	
	人間性心理学	1	
	メンタルヘルスマネジメント演習	1	
	健康・医療心理学	2	
	精神疾患とその治療	2	
	公認心理師の関係行政論	2	
	キャリア心理学	1	
	キャリア心理学演習	1	
	認知行動療法論	1	
	精神力動論	1	
	臨床心理学総論	2	

授業科目		単位	備考
選択科目	介護概論	2	
	貧困に対する支援	2	
	高齢者福祉論	2	
	障害者福祉論	2	
	子ども家庭福祉論	2	
	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3	
	人体の構造と機能及び疾病	2	
	医療福祉論	2	
	権利擁護と成年後見論	2	
	司法福祉論	2	
	社会福祉演習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク実習	8	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	
	社会福祉調査論	2	
	福祉経営論	2	
	精神保健の課題と支援	2	
	スクールソーシャルワーク論	2	
	スクールソーシャルワーク演習	1	
	社会福祉演習Ⅱ	2	
	スクールソーシャルワーク実習指導	1	
	スクールソーシャルワーク実習	2	
	現代社会学概論	2	
	経済学概論A	2	
	経済学概論B	2	
	社会学概論A	2	
	社会学概論B	2	
グローバル社会体験実習	3		
法と社会A	2		
法と社会B	2		
国際社会学A	2		
国際社会学B	2		
NPO・NGO論	2		
経営学概論	2		
マーケティング論	2		
情報学概論	2		
情報社会学A	2		
情報社会学B	2		
社会調査法A	2		
社会調査法B	2		
多変量解析の方法	2		
質的な調査と分析の方法	2		
社会調査実習Ⅰ	2		
社会調査実習Ⅱ	2		

	授業科目	単位	備考
選択科目	スポーツ心理学	2	
	スポーツキャリアデザイン	2	
	スポーツ経営管理学	2	
	スポーツ社会学	2	
	障がい者スポーツ指導論	2	
	スポーツコーチング学Ⅰ	2	
	スポーツコーチング学Ⅱ	2	
	スポーツコーチング学Ⅲ	2	
	スポーツコーチング学Ⅳ	2	
	医療福祉システム論Ⅰ	2	
	医療福祉システム論Ⅱ	2	
	課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2	
	課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2	
	地域社会体験実習(市役所)	2	
	企業研究Ⅰ	1	
	企業研究Ⅱ	2	
	資格・検定認定(複数型)	2	
	資格・検定認定(上級型)	2	
	TOEIC 入門A	2	
	TOEIC 入門B	2	
	TOEIC A	2	
	TOEIC B	2	

専門教育科目 薬学部

授 業 科 目		単 位	備 考
必修科目	薬学概論	1	
	早期臨床体験	1	
	化学通論	2	
	機能形態学A	2	
	機能形態学B	2	
	基礎コミュニケーション演習	1	
	医療倫理学演習	1	
	医療コミュニケーション演習Ⅰ	1	
	医療コミュニケーション演習Ⅱ	1	
	薬学英語A (基礎薬学)	1	
	物理化学A	2	
	物理化学B	2	
	分析化学	2	
	物理系薬学実習	1	
	基礎化学	2	
	有機化学Ⅰ	2	
	有機化学Ⅱ	2	
	医薬品化学	2	
	化学系薬学実習	1	
	天然薬物学Ⅰ	2	
	生化学A (細胞生物学)	2	
	生化学B (代謝生物学)	2	
	生化学C (分子生物学・遺伝子工学)	2	
	分子生体情報学	2	
	微生物学	2	
	免疫・生体防御学Ⅰ	2	
	毒性学	2	
	生物系薬学実習	1	
	公衆衛生学	2	
	食品安全学	2	
	衛生薬学実習	1	
	基礎薬理学	2	
	薬理学A	2	
	薬理学B	2	
	薬物動態学Ⅰ	2	
	病態検査学	2	
	薬物治療学A	2	
	薬物治療学B	2	
	薬物治療学C	2	
	薬物治療学D	2	
	薬理学C	2	
	生理・薬理学実習	1	
	製剤化のサイエンスⅠ	2	
	製剤化のサイエンスⅡ	2	
	薬剤・薬物動態学実習	1	
医薬品開発学A	2		
医療情報薬学	2		
医薬安全情報学	2		
臨床薬学Ⅰ	2		
臨床薬学Ⅱ	2		
薬事法規と制度	2		

授 業 科 目		単 位	備 考
必修科目	基礎演習Ⅰ	1	
	基礎演習Ⅱ	1	
	応用薬学演習	4	
	総合薬学演習A	4.5	
	総合薬学演習B	4.5	
	実務前実習	4	
	病院実習	10	
	薬局実習	10	
	薬学研究Ⅰ	2	
	薬学研究Ⅱ	6	
薬学研究Ⅲ	4		

授 業 科 目		単 位	備 考
選択科目	薬学英語B (医療薬学)	1	
	機器分析学	2	
	臨床分析化学	2	
	生物有機化学	2	
	天然薬物学Ⅱ	2	
	免疫・生体防御学Ⅱ	2	
	健康食品論A	1	
	健康食品論B	1	
	栄養学	2	
	環境安全学	2	
	薬物動態学Ⅱ	2	
	医薬品開発学B	2	
	チーム医療・地域医療薬学	2	
	社会と薬学	2	
	先端有機化学	2	
	天然物化学特論	2	
	医療薬物科学特論	2	
	分子栄養学・免疫学特論	2	
	衛生薬学特論	2	
	薬物治療学ゼミナール	2	
	薬物投与設計学	2	
	臨床試験概論	2	
	老年薬学	2	
	処方解析学	2	

キャリア教育科目 薬学部

授 業 科 目		単 位	備 考
選択科目	ロジカルシンキング	2	
	ロジカルコミュニケーション	2	

文学部日本語日本文学科
「中学校教諭」課程（「国語」）

中学校一種免（国語）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等			本学設置科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学講読 B	2	音声言語及び文章表現に関するものを含む。
			日本語学概論 A	2	
			日本語学概論 B	2	
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学講読 I	2	
			日本文学講読 II	2	
			日本文学講読 III	2	
			日本文学講読 IV	2	
			日本文学講読 V	2	
			日本文学史 I	2	
			日本文学史 II	2	
		日本文学史 III	2		
		日本文学史 IV	2		
		日本文学史 V	2		
		日本文学史 VI	2		
	漢文学	中国文学講読 I	2		
		中国文学講読 II	2		
	書道(書写を中心とする。)	書道 A	2		
		書道 B	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法	4		
		国語科教材研究①	4		
必要履修単位数			44 単位		

「高等学校教諭」課程（「国語」）

高等学校一種免（国語）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学講読 B	2	} 音声言語及び文章表現に関するものを含む。
			日本語学概論 A	2	
			日本語学概論 B	2	
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学講読 I	2	
			日本文学講読 II	2	
			日本文学講読 III	2	
		日本文学講読 IV	2		
		日本文学講読 V	2		
		日本文学史 I	2		
		日本文学史 II	2		
		日本文学史 III	2		
		日本文学史 IV	2		
		日本文学史 V	2		
		日本文学史 VI	2		
	漢文学	中国文学講読 I	2		
		中国文学講読 II	2		
		中国文学史 A	2		
		中国文学史 B	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法	4		
必要履修単位数			40 単位		

「高等学校教諭」課程（「書道」）

高等学校一種免（書道）・教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める科目区分等			本学設置科目				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等		
			必	選			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	書道（書写を含む。）	書道A 2 書道B 2 漢字古典研究A 2 漢字古典研究B 2 かな古典研究A 2 かな古典研究B 2		2	必修34単位に加え 選択科目全ての内から 2単位以上を履修 すること。	
		書道史	書道史A 2 書道史B 2				
		「書論、鑑賞」	書論・鑑賞A 2 書論・鑑賞B 2 書誌学A 2 書誌学B 2		2		
		「国文学、漢文学」	日本文学史Ⅰ 2 日本文学史Ⅱ 2 日本文学史Ⅲ 2 日本文学講読Ⅰ 2 日本文学講読Ⅱ 2 日本文学講読Ⅲ 2 日本文学講読Ⅳ 2 中国文学講読Ⅰ 2 中国文学講読Ⅱ 2				
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	書道科教育法A 2 書道科教育法B 2				
	必要履修単位数			40単位			

文学部歴史文化学科
「中学校教諭」課程（「社会」）

中学校一種免（社会）・教科及び教科の指導法に関する科目								
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等			
			必	選				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史概説A 日本史概説B 考古学概説A 考古学概説B 日本文化史A 日本文化史B 日本仏教史A 日本仏教史B 西洋史概説A 西洋史概説B 東洋史概説A 東洋史概説B 西洋文化史A 西洋文化史B 東洋文化史A 東洋文化史B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必修 30 単位に加え、選択科目すべての内から4単位以上を履修すること		
		地理学（地誌を含む。）	地理学A 地理学B 地誌学A 地誌学B 歴史地理学 地域文化論A 地域文化論B	2 2 2 2 2 2	 2 2 2			
		「法学、政治学」	法学概論A 法学概論B 文化財行政論 政治学概論A 政治学概論B	2 2 2 2	 2 2 2			
		「社会学、経済学」	経済学概論A 経済学概論B 世界遺産論 社会学概論A 社会学概論B	2 2 2 2	 2 2 2			
		「哲学、倫理学、宗教学」	倫理思想 仏教思想A 仏教思想B 宗教学概説A 宗教学概説B	2 2 2 2 2	 2 2 2 2			
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		社会科教育法Ⅰ（地理歴史） 社会科教育法Ⅲ （地理歴史・公民）	4 4		 	
		必要履修単位数			42 単位			

「高等学校教諭」課程（「地理歴史」）

高等学校一種免（地理歴史）・教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等		
			必	選			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史	日本史概説A 日本史概説B 考古学概説A 考古学概説B 日本文化史A 日本文化史B 日本仏教史A 日本仏教史B	2 2 2 2 2 2	 2 2 2 2 2 2	必修 20 単位に加え、選択科目すべての内から 14 単位以上を履修すること	
		外国史	西洋史概説A 西洋史概説B 東洋史概説A 東洋史概説B 西洋文化史A 西洋文化史B 東洋文化史A 東洋文化史B	2 2 2 2 2 2 2 2	 2 2 2 2		
		人文地理学・自然地理学	地理学A 地理学B 歴史地理学	2 2 2	 2		自然地理学を含む。
		地誌	地誌学A 地誌学B 地域文化論A 地域文化論B	2 2 2 2	 2 2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法 I（地理歴史）	4				
必要履修単位数			38 単位				

教育学部教育学科

「幼稚園教諭」課程（領域に関する専門的事項）

幼稚園一種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分	各科目に含めること が必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
領域に関する専門的事項	健康	子どもと健康A	2		
		子どもと健康B	2		
	人間関係	子どもと人間関係	2		
	環境	子どもと環境	2		
	言葉	子どもと言葉	2		
	表現	子どもと表現A	2		
		子どもと表現B	2		
領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
必要履修単位数			14単位		

「幼稚園教諭」課程（保育内容の指導法）

幼稚園一種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分		授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	2		
		保育内容（健康）	2		
		保育内容（人間関係）	2		
		保育内容（環境）	2		
		保育内容（言葉）	2		
		保育内容（表現）	2		
必要履修単位数			12単位		

「小学校教諭」課程（教科に関する専門的事項）

小学校一種免・教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目				
科目区分	各科目に含めること が必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	
			必	選		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	教科初等国語（書写を含む）	2		
		社会	教科社会	2		
		算数	教科算数	2		
		理科	教科理科	2		
		生活	教科生活	2		
		音楽	教科音楽 ピアノ I A ピアノ I B		2 1 1	} いずれか2単位 必修
		図画工作	教科図画工作	2		
		家庭	教科家庭	2		
		体育	教科体育	2		
		外国語	教科英語	2		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を 合わせた内容に係る科目						
必要履修単位数			20単位			

「小学校教諭」課程（各教科の指導法）

小学校一種免・教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目				
科目区分	各科目に含めること が必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	
			必	選		
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語（書写を含む。）	初等国語科教育法	2		
		社会	社会科教育法	2		
		算数	算数科教育法	2		
		理科	理科教育法	2		
		生活	生活科教育法	2		
		音楽	音楽科教育法	2		
		図画工作	図画工作科教育法	2		
		家庭	家庭科教育法	2		
		体育	体育科教育法	2		
		外国語	初等英語科教育法	2		
必要履修単位数			20単位			

「中学校教諭」課程（「国語」）

中学校一種免（国語）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等			本学設置科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論A	2	音声言語及び文章表現に関するものを含む。
			日本語学概論B	2	
			日本語史	2	
			日本語学演習	2	
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学概論Ⅰ	2	
			日本文学概論Ⅱ	2	
			日本文学史Ⅰ	2	
			日本文学史Ⅱ	2	
			日本文学演習Ⅰ	2	
			日本文学演習Ⅱ	2	
	漢文学	中国文学講読Ⅰ	2		
		中国文学講読Ⅱ	2		
	書道（書写を中心とする。）	書道A	2		
		書道B	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等国語科教育法Ⅰ	2		
		中等国語科教育法Ⅱ	2		
		国語科教材研究ⅠA	2		
		国語科教材研究ⅠB	2		
必要履修単位数			36単位		

「高等学校教諭」課程（「国語」）

高等学校一種免（国語）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論A	2		音声言語及び文章表現に関するものを含む。
		日本語学概論B	2		
		日本語史	2		
		日本語学演習	2		
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学概論Ⅰ	2		
		日本文学概論Ⅱ	2		
		日本文学史Ⅰ	2		
		日本文学史Ⅱ	2		
		日本文学演習Ⅰ	2		
		日本文学演習Ⅱ	2		
漢文学	中国文学講読Ⅰ	2			
	中国文学講読Ⅱ	2			
	中国文学史A	2			
	中国文学史B	2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		中等国語科教育法Ⅰ	2		
		中等国語科教育法Ⅱ	2		
		国語科教材研究ⅡA	2		
		国語科教材研究ⅡB	2		
必要履修単位数			36単位		

「中学校教諭」課程（「英語」）

中学校一種免（英語）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等			本学設置科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学	英語学概論A	2		
		英語学概論B	2		
		英語の規則A	2		
		英語の規則B	2		
	英語文学	英語文学概論A	2		
		英語文学概論B	2		
		英語文学演習	2		
	英語コミュニケーション	発音クリニック	2		
		ReadingA	2		
		ReadingB	2		
ListeningA		2			
ListeningB		2			
WritingA		2			
WritingB		2			
SpeakingA		2			
SpeakingB	2				
異文化理解	異文化理解	2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語科教育法A	2		
		英語科教育法B	2		
		英語科教材研究A	2		
		英語科教材研究B	2		
		第二言語習得論	2		
必要履修単位数			44単位		

「高等学校教諭」課程（「英語」）

高等学校一種免（英語）・教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	
			必	選		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論A	2		
			英語学概論B	2		
			英語の規則A	2		
			英語の規則B	2		
		英語文学	英語文学概論A	2		
			英語文学概論B	2		
			英語文学演習	2		
		英語コミュニケーション	発音クリニック	2		
			ReadingA	2		
			ReadingB	2		
		ListeningA	2			
		ListeningB	2			
		WritingA	2			
		WritingB	2			
		SpeakingA	2			
		SpeakingB	2			
	異文化理解	異文化理解	2			
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	英語科教育法A	2			
		英語科教育法B	2			
		英語科教材研究A	2			
		英語科教材研究B	2			
		第二言語習得論	2			
必要履修単位数			44単位			

人間社会学部人間社会学科
「中学校教諭」課程（「社会」）

中学校一種免（社会）・教科及び教科の指導法に関する科目								
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等			
			必	選				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史概説A 日本史概説B 西洋史概説A 西洋史概説B 東洋史概説A 東洋史概説B 日本仏教史A 日本仏教史B	2 2 2 2 2 2	2 2	必修 32 単位に加え、選択科目すべての内から2 単位以上を履修すること		
		地理学（地誌を含む。）	地理学A 地理学B 地誌学A 地誌学B 歴史地理学	2 2 2 2	2			
		「法学、政治学」	法と社会A 法と社会B 自治体行政論A 自治体行政論B 政治学A 政治学B	2 2	2 2 2 2			
		「社会学、経済学」	経済学概論A 経済学概論B 都市社会学A 都市社会学B ジェンダー論(総合講座)A ジェンダー論(総合講座)B 環境と社会(総合講座) A 環境と社会(総合講座) B 国際社会学A 国際社会学B 社会学概論A 社会学概論B	2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
		「哲学、倫理学、宗教学」	倫理学概論A 倫理学概論B	2 2				
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法Ⅱ(公民) 社会科教育法Ⅲ (地理歴史・公民)	4 4				
		必要履修単位数			42 単位			

「高等学校教諭」課程（「公民」）

高等学校一種免（公民）・教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	
			必	選		
教科及び教科の指導法に関する科目	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法と社会A	2		国際法を含む。	
		法と社会B	2			
		自治体行政論A		2		
		自治体行政論B		2		
		政治学A		2		
	「社会学、経済学(国際経済を含む。）」	政治学B		2	国際政治を含む。	
		経済学概論A	2			国際経済を含む。 必修12単位に加え、選択科目すべての内から22単位以上を履修すること
		経済学概論B	2			
		都市社会学A		2		
		都市社会学B		2		
ジェンダー論(総合講座)A		2				
ジェンダー論(総合講座)B		2				
環境と社会(総合講座)A		2				
環境と社会(総合講座)B		2				
国際社会学A		2				
国際社会学B		2				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	社会学概論A		2			
	社会学概論B		2			
	倫理学概論A	2				
	倫理学概論B	2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	心理学概論			2		
	臨床心理学概論			2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法Ⅱ（公民）	4				
必要履修単位数			38単位			

人間社会学部スポーツ健康学科
「中学校教諭」課程（「保健体育」）

中学校一種免（保健体育）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技	体づくり運動演習	2	必修を含め 11 単位以上を選択のこと。 ただし、下記の要件を満たすこと。 1.スポーツ方法（バスケットボール・サッカー）から 1 科目以上を選択のこと。 2.スポーツ方法（バレーボール・テニス）から 1 科目以上を選択のこと。 3.スポーツ方法（柔道・剣道）から 1 科目以上を選択のこと。
		スポーツ方法（器械運動）	1		
		スポーツ方法（陸上競技）	1		
		スポーツ方法（水泳）	1		
		スポーツ方法（バスケットボール）	1		
		スポーツ方法（サッカー）	1		
		スポーツ方法（バレーボール）	1		
		スポーツ方法（テニス）	1		
		スポーツ方法（ソフトボール）	1		
		スポーツ方法（柔道）	1		
スポーツ方法（剣道）	1				
スポーツ方法（ダンス）	1				
スポーツ方法（スキー）	1				
スポーツ方法（キャンプ）	1				
スポーツ方法（マリンスポーツ）	1				
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	スポーツ運動学	2	運動方法学を含む。 必修を含め 6 単位以上を選択のこと。 ただし、下記の要件を満たすこと。 1.スポーツ心理学・スポーツ経営管理学・スポーツ社会学から 1 科目以上を選択のこと。		
体育原理	2				
スポーツ心理学	2				
スポーツ経営管理学	2				
スポーツ社会学	2				
スポーツバイオメカニクス	2				
運動処方	2				
発育・発達と老化	2				
生理学（運動生理学を含む。）	スポーツ生理学A	2	必修を含め 8 単位以上を選択のこと。		
スポーツ生理学B	2				
生理解剖学A	2				
生理解剖学B	2				
スポーツ障害と予防	2				
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	2		
健康管理学	2				
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健A	2	小児保健・精神保健を含む。 学校安全を含む。		
学校保健B	2				
救急処置法演習	2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	保健体育科教育法A	2			
	保健体育科教育法B	2			
	保健体育科教材研究A	2			
	保健体育科教材研究B	2			
必要履修単位数			41 単位		

「高等学校教諭」課程（「保健体育」）

高等学校一種免（保健体育）・教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教科に関する専門的事項	教科及び教科の指導法に関する科目	体育実技	体づくり運動演習	2	必修を含め 11 単位以上を選択のこと。 ただし、下記の要件を満たすこと。 1.スポーツ方法（バスケットボール・サッカー）から 1 科目以上を選択のこと。 2.スポーツ方法（バレーボール・テニス）から 1 科目以上を選択のこと。 3.スポーツ方法（柔道・剣道）から 1 科目以上を選択のこと。
		スポーツ方法（器械運動）	1		
		スポーツ方法（陸上競技）	1		
		スポーツ方法（水泳）	1		
		スポーツ方法（バスケットボール）	1		
		スポーツ方法（サッカー）	1		
		スポーツ方法（バレーボール）	1		
		スポーツ方法（テニス）	1		
		スポーツ方法（ソフトボール）	1		
		スポーツ方法（柔道）	1		
スポーツ方法（剣道）		1			
スポーツ方法（ダンス）		1			
スポーツ方法（スキー）		1			
スポーツ方法（キャンプ）	1				
スポーツ方法（マリンスポーツ）	1				
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	スポーツ運動学	2	運動方法学を含む。 必修を含め 12 単位以上を選択のこと。 ただし、下記の要件を満たすこと。 1.スポーツ心理学・スポーツ経営管理学・スポーツ社会学から 1 科目以上を選択のこと。		
体育原理	2				
スポーツ心理学	2				
スポーツ経営管理学	2				
スポーツ社会学	2				
スポーツバイオメカニクス	2				
運動処方	2				
発育・発達と老化	2				
生理学（運動生理学を含む。）	スポーツ生理学A	2	必修を含め 8 単位以上を選択のこと。		
スポーツ生理学B	2				
生理解剖学A	2				
生理解剖学B	2				
スポーツ障害と予防	2				
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	2		
健康管理学	2				
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健A	2	小児保健・精神保健を含む。 学校安全を含む。		
学校保健B	2				
救急処置法演習	2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	保健体育科教育法A	2			
保健体育科教育法B	2				
保健体育科教材研究A	2				
保健体育科教材研究B	2				
必要履修単位数			47 単位		

文学部 日本語日本文学科・歴史文化学科・人間社会学部 人間社会学科・スポーツ健康学科
「中学校教諭・高等学校教諭」課程

中学校一種免・高等学校一種免・教育の基礎的理解に関する科目等					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)を含む。
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育社会学	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)				
道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2		中1免のみ
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2		
	・総合的な探究の時間の指導法				
	・特別活動の指導法	特別活動の指導法	2		
	・教育の方法及び技術	教育の方法と技術(ICT活用を含む)	2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(進路指導論を含む)	2		
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と実際	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導	1		事前・事後の指導を含む 中1免必修(中1免、高1免を合わせて取得する人は、教育実習Iを履修すること。) 高1免のみ必修
		教育実習I	4		
		教育実習II	2		
	学校体験活動				
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2		
必要履修単位数			中1免 29単位	高1免 25単位	

高等学校一種免・大学が独自に設定する科目等				
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目		
科目区分	授業科目	単位数		履修方法等
		必	選	
大学が独自に設定する科目	道徳教育の指導法		2	

教育学部教育学科
「幼稚園教諭」課程

幼稚園一種免・教育の基礎的理解に関する科目等					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む。
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学 教育行政学		2 2	} いずれか必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	幼児教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	幼児教育の方法と技術	2		
	・幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論及び方法（教育相談を含む）	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導 教育実習Ⅲ	1 4		事前・事後の指導を含む
	学校体験活動				
	教職実践演習	教職実践演習（幼・小）	2		
必要履修単位数			幼1免23単位		

幼稚園一種免・大学が独自に設定する科目等				
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目		
科目区分	授業科目	単位数		履修方法等
		必	選	
大学が独自に設定する科目	ピアノⅠA	1		
	ピアノⅠB	1		
	保育内容の理解と方法	2		

「小学校教諭」課程

小学校一種免・教育の基礎的理解に関する科目等					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む。
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学 教育行政学		2 2	} いずれか必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズのある 幼児児童生徒の理解と支援	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2		
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2		
	・特別活動の指導法	特別活動の指導法	2		
	・教育の方法及び技術	授業技術基礎	2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む
		教育の方法と技術（ICT 活用を含む）	2		
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	・生徒指導の理論及び方法	児童理解・指導の方法 （進路指導論を含む）	2		
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と実際	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導 教育実習Ⅲ	1 4		事前・事後の指導を含む
	学校体験活動				
	教職実践演習	教職実践演習（幼・小）	2		
必要履修単位数			小1免31単位		

「中学校教諭・高等学校教諭」課程

中学校一種免・高等学校一種免・教育の基礎的理解に関する科目等					
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む。 いずれか必修
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学 教育行政学		2 2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2		中1免のみ
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2		
	・総合的な探究の時間の指導法				
	・特別活動の指導法	特別活動の指導法	2		
	・教育の方法及び技術	教育の方法と技術（ICT活用を含む）	2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（進路指導論を含む）	2		
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と実際	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導 教育実習Ⅰ	1 4		事前・事後の指導を含む 中1免必修（中1免、高1免を合わせて取得する人は、教育実習Ⅰを履修すること。） 高1免のみ必修
		教育実習Ⅱ	2		
	学校体験活動				
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2		
必要履修単位数			中1免 29単位 高1免 25単位		

高等学校一種免・大学が独自に設定する科目等				
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目		
科目区分	授業科目	単位数		履修方法等
		必	選	
大学が独自に設定する科目	道徳教育の指導法		2	

教育学部

学科	特別支援教育に関する科目	左の科目に含めるべき科目	授 業 科 目	必修	選択	備 考	
教育学科	特別支援教育の基礎理論に関する科目		特別支援教育論 I	2			
	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	2			
			肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理	2 2			
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者の教育	2			
			肢体不自由者の教育 病弱者の教育	2 2			
自立活動指導論 特別支援教育指導法演習 I 特別支援教育特論			2 2 2	2 2	1 科目選択		
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複障害教育総論	1				
		発達障害教育総論	2				
		特別支援教育論 II	2				
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習			教育実習 (事前・事後の指導を含む)	3			

教育学部

学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考
教育学科	教養科目	宗教学 A		2	「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上 選択必修
		宗教学 B		2	
		日本国憲法		2	
		社会学入門		2	
		現代社会を学ぶ		2	
		心理学 I		2	
		心理学 II		2	
		同和教育		2	
		英語 A (コミュニケーション)		1	
		英語 B (コミュニケーション)		1	
		ドイツ語入門 A		1	
		ドイツ語入門 B		1	
		フランス語入門 A		1	
		フランス語入門 B		1	
		中国語入門 A		1	
		中国語入門 B		1	
		朝鮮語入門 A		1	
朝鮮語入門 B		1			
体育 (講義を含む)	2				
生涯発達と教育		2			

学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考
教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 I	2		6 単位以上 選択必修
		教育原理	2		
		子ども家庭福祉	2		
		社会福祉	2		
		子ども家庭支援論	2		
		社会的養護 I	2		
		教職論	2		
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2		
		子ども家庭支援の心理学	2		
		子どもの理解と援助	1		
		子どもの保健	2		
		子どもの食と栄養	2		
	保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2		
		保育内容総論	2		
		保育内容 (健康)	2		
		保育内容 (人間関係)	2		
		保育内容 (環境)	2		
		保育内容 (言葉)	2		
		保育内容 (表現)	2		
		ピアノ IA	1		
		ピアノ IB	1		
		保育内容の理解と方法	2		
		乳児保育 I	2		
		乳児保育 II	1		
		子どもの健康と安全	2		
		障害児保育	2		
		社会的養護 II	2		
子育て支援	2				

学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考
教育学科	保育実習	保育所実習	2		
		施設実習	2		
		保育実習指導 I A	2		
		保育実習指導 I B	1		
	総合演習	基礎ゼミ II	2		

学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考
教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 II		2	6 単位以上 選択必修
		知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む)		2	
	保育の対象の理解に関する科目	病弱者の心理・生理・病理		2	
		子どもと絵本		2	
		子どもと植物		2	
		子どもと家族		2	
		保育技術基礎 I		2	
	保育の内容・方法に関する科目	保育技術基礎 II		2	
		遊び文化実践演習		2	
		自然教育実践演習		2	
		子育て支援実践演習		2	
保育実習		保育実習 II		2	いずれか 2 単位 選択必修
	保育実習 III		2		
	保育実習指導 II	1		必修	

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	司書資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論B	2		
		図書館概論	2		
		図書館情報技術論	2		
		図書館制度・経営論	2		
		図書館サービス概論	2		
		情報サービス論	2		
		児童サービス論	2		
		情報サービス演習A	2		
		情報サービス演習B	2		
		図書館情報資源概論	2		
		情報資源組織論	2		
		情報資源組織演習A	2		
		情報資源組織演習B	2		
		図書館基礎特論及び演習		2	
		図書館サービス特論及び演習		2	
		図書館情報資源特論及び演習		2	
		図書館実習		2	

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 共 通	司書教諭に関する 専 門 科 目	学校経営と学校図書館	2		
		学校図書館メディアの構成	2		
		学習指導と学校図書館	2		
		読書と豊かな人間性	2		
		情報メディアの活用	2		

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考	
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	学校司書資格に 関する専門科目	学校経営と学校図書館	2			
		図書館情報技術論	2			
		図書館情報資源概論	2			
		情報資源組織論	2			
		情報資源組織演習 A	2			
		情報資源組織演習 B	2			
		学校図書館サービス論	2			
		情報サービス論	2			
		学校教育概論		2		日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学科、人間社会学科、スポーツ健康学科は学校教育概論の1科目、もしくは教育原理、教育心理学および特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援の3科目を修得しなければならない。 心理・福祉学科は学校教育概論を修得しなければならない。
		教育原理		2		
		教育心理学		2		
		特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援		2		
		学習指導と学校図書館		2		
		読書と豊かな人間性		2		

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考	
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	学芸員資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論 A	2			9科目 19単位を修得しなければならない。
		博物館概論	2			
		博物館経営論	2			
		博物館資料論	2			
		博物館資料保存論	2			
		博物館展示論	2			
		博物館教育論	2			
		博物館情報・メディア論	2			
		博物館実習	3			
	考古学			2		選択必修科目から考古学 2 単位を含む 4 科目 8 単位以上を修得のこと。
	日本文化史 A			2		
	日本文化史 B			2		
	東洋文化史 A			2		
	東洋文化史 B			2		
	西洋文化史 A			2		
	西洋文化史 B			2		
	文化人類学			2		
	美術史			2		
	日本民俗学 A			2		
日本民俗学 B			2			
自然科学史			2			
宇宙・地球・生命の歴史			2			
ヒトと環境			2			

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考	
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	社会教育主事に 関する専門科目	生涯学習概論A	2			
		生涯学習概論B	2			
		生涯学習支援論A	2			
		生涯学習支援論B	2			
		社会教育経営論A	2			
		社会教育経営論B	2			
	現代社会と人権(総合講座)A		2		8 単位以上選択	
	現代社会と人権(総合講座)B		2			
	図書館概論		2			
	博物館概論		2			
	生涯学習特講		2			
	教育原理		2			
	教育心理学		2			
	社会教育実習	1				
	社会教育演習	2				
	図書館実習		2		1 単位以上選択	
	博物館実習		3			
	地域文化論A		2			
	地域文化論B		2			
	地域福祉論I		2			

人間社会学部

学科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
心 理 ・ 福 祉 学 科	社会福祉士に関する 専 門 科 目	社会福祉概論	2		
		社会福祉政策論	2		
		高齢者福祉論	2		
		障害者福祉論	2		
		子ども家庭福祉論	2		
		社会保障論Ⅰ	2		
		社会保障論Ⅱ	2		
		貧困に対する支援	2		
		地域福祉論Ⅰ	2		
		地域福祉論Ⅱ	2		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2		
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2		
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	2		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2		
		ソーシャルワーク実習	8		
		人体の構造と機能及び疾病	2		
		心理学概論	2		
		社会学概論 A	2		
		社会学概論 B	2		
		権利擁護と成年後見論	2		
		司法福祉論	2		
	医療福祉論	2			
	社会福祉調査論	2			
	福祉経営論	2			

別表 2

入学検定料・納付金

種別	摘要	金額
入 学 検 定 料	(公 募 制 推 薦 ・ 一 般 利 用 の 場 合) (大 学 入 学 共 通 テ ス ト 利 用 の 場 合)	35,000 円 (30,000 円) (10,000 円)
入 学 金	文学部・教育学部・人間社会学部	320,000 円
	薬学部	400,000 円
	教育専攻科	200,000 円
授 業 料	文学部・教育学部・人間社会学部	910,000 円 (年額)
	薬学部	1,410,000 円 (年額)
	教育専攻科	500,000 円 (年額)
施 設 費	文学部	200,000 円 (年額)
	日本語日本文学科	
	歴史文化学科	
	教育学部	210,000 円 (年額)
	教育学科	
	人間社会学部	200,000 円 (年額)
	人間社会学科	
	スポーツ健康学科	
	心理・福祉学科	
	薬学部	400,000 円 (年額)
	薬学科	
教育専攻科	100,000 円 (年額)	
履 修 料 (科 目 等 履 修 生)	10,000 円 (1 単位)	
聴 講 料 (聴 講 生)	14,000 円 (通年)	
	7,000 円 (半期)	
検 定 料 (薬 学 部 研 究 生)	10,000 円	
研 究 料 (薬 学 部 研 究 生)	20,000 円 (月額)	
在 籍 料 (休 学 中 の 納 付 金) 文学部・教育学部・人間社会学部・薬学部	60,000 円 (各期)	

別表 3

公募制推薦 ((前期) A 日程・(前期) B 日程・(後期))
特別推薦入試 (専門学科・総合学科対象)
一般 (前期・中期・後期)
大学入学共通テスト利用 (前期・中期・後期)
社会人
編入学一般
編入学学士 (学内・一般)
編入学社会人
外国人留学生 (前期・後期)
編入学外国人留学生

大阪大谷大学 学則の変更事項を記載した書類

1.変更の事由

人間社会学部心理・福祉学科設置に伴う学則変更。

2.主な変更点

①学則本文

- ・上記、変更の事由に伴う、学部および学科、学科の教育目的、収容定員、卒業要件、免許状および資格の課程に関する規定の整備と新たに収容定員に関する附則を追加した。
- ・その他、既設学部等に関しても、学科の教育目的など、同様の規定の整備と附則を追加した。

②学則別表

- ・上記、変更の事由に伴う、授業科目および単位（別表1）および納付金（別表2）に関する事項を追加した。
- ・その他、既設学部等に関しても、授業科目および単位（別表1）の変更を行った。

3.変更箇所

別紙、大阪大谷大学学則 変更部分の新旧対照表を参照。

4.施行日

令和6年4月1日 改正施行

以上

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (2024 年度)	旧 (2023 年度)
<p style="text-align: center;">大阪大谷大学学則</p> <p style="text-align: right;">昭和 41 年 4 月 1 日制定 令和 6 年 4 月 1 日改正</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総 則</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(学部および学科)</p> <p>第 3 条 本学に次の学部および学科を置く。</p> <p>文 学 部 日本語日本文学科 歴史文化学科</p> <p>教 育 学 部 教 育 学 科</p> <p>人間社会学部 人間社会学科 スポーツ健康学科 <u>心理・福祉学科</u></p> <p>薬 学 部 薬 学 科</p> <p>(学部の教育研究上の目的および学科の教育目的)</p> <p>第 3 条の 2 前項の各学部の教育研究上の目的および各学科の教育目的は次のとおりとする。</p> <p>(1) 文学部 文学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、社会の発展と文化の向上に寄与すべく、文学・言語・歴史など多様な人間文化の探究を課題とし、普遍的かつ創造的な思考力と表現力の研鑽を図り、人間と社会に対する洞察力を備えた人材を育成する。そして、これからますます多様化する社会に対して、文学・言語・歴史の魅力を発信し、研究成果を社会に還元していく。</p> <p>(i) 日本語日本文学科は、幅広い教養と正確な情報分析に基づく考察力や判断力、そして豊かな表現力を習得させる。</p> <p>(ii) 歴史文化学科は、過去の人間の歴史や文化についての理解を深め、歴史的な視点から現在および未来における人間・社会について洞察できる人材を育成する。</p> <p>(2) 教育学部 教育学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、教育の原理・基本概念と多様化する社会との関係を理解した上で、予測困難な社会を生き抜く人材を育成するための教育を実践できる教員養成をめざす。高い専門性と優れた実践力を持ち、常に向上し続ける教育者を育成する。そのため、現代社会の諸問題を広い視野から多角的にとらえ、教育学の立場からの分析・対策を深く追究する。</p> <p>(3) 人間社会学部 人間社会学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与する。</p> <p>(i) 人間社会学科は、<u>経営学・データサイエンス</u>・現代社会学の一つを軸にしつつ関連する学問領域の基礎知識を学際的に身につけ、国際的かつ地域的な視点を備えた人材を養成する。</p> <p>(ii) スポーツ健康学科は、スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な知識及び技能を修得し、加えて「人と社会」の関係を科学の視点から探究することにより多角的にスポーツにかかわる人材を育成する。</p> <p>(iii) <u>心理・福祉学科は、人が生涯にわたり心身の及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理</u></p>	<p style="text-align: center;">大阪大谷大学学則</p> <p style="text-align: right;">昭和 41 年 4 月 1 日制定 令和 5 年 4 月 1 日改正</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総 則</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(学部および学科)</p> <p>第 3 条 本学に次の学部および学科を置く。</p> <p>文 学 部 日本語日本文学科 歴史文化学科</p> <p>教育学部 教 育 学 科</p> <p>人間社会学部 人間社会学科 スポーツ健康学科</p> <p>薬 学 部 薬 学 科</p> <p>(学部の教育研究上の目的および学科の教育目的)</p> <p>第 3 条の 2 前項の各学部の教育研究上の目的および各学科の教育目的は次のとおりとする。</p> <p>(1) 文学部 文学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、社会の発展と文化の向上に寄与すべく、文学・言語・歴史など多様な人間文化の探究を課題とし、普遍的かつ創造的な思考力と表現力の研鑽を図り、人間と社会に対する洞察力を備えた人材を育成する。そして、これからますます多様化する社会に対して、文学・言語・歴史の魅力を発信し、研究成果を社会に還元していく。</p> <p>(i) 日本語日本文学科は、幅広い教養と正確な情報分析に基づく考察力や判断力、そして豊かな表現力を習得させる。</p> <p>(ii) 歴史文化学科は、過去の人間の歴史や文化についての理解を深め、歴史的な視点から現在および未来における人間・社会について洞察できる人材を育成する。</p> <p>(2) 教育学部 教育学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、教育の原理・基本概念と多様化する社会との関係を理解した上で、予測困難な社会を生き抜く人材を育成するための教育を実践できる教員養成をめざす。高い専門性と優れた実践力を持ち、常に向上し続ける教育者を育成する。そのため、現代社会の諸問題を広い視野から多角的にとらえ、教育学の立場からの分析・対策を深く追究する。</p> <p>(3) 人間社会学部 人間社会学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与する。</p> <p>(i) 人間社会学科は、<u>心理学・経営情報学・社会福祉学</u>・現代社会学の一つを軸にしつつ関連する学問領域の基礎知識を学際的に身につけ、国際的かつ地域的な視点を備えた人材を養成する。</p> <p>(ii) スポーツ健康学科は、スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な知識及び技能を修得し、加えて「人と社会」の関係を科学の視点から探究することにより多角的にスポーツにかかわる人材を育成する。</p>

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

<p><u>学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。</u></p> <p>(4) 薬学部 薬学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、生命科学・医療科学的専門知識と技能、自主的な判断力と問題解決能力、実践力と研究能力を備え、高い倫理観を有する人間性豊かな薬剤師を養成し、もって国民の健康・福祉の向上に寄与する。</p> <p>(収容定員) 第 4 条 各学部の収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>文 学 部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語日本文学科</td> <td>収容定員</td> <td>220名</td> <td>入学定員 55名</td> </tr> <tr> <td>歴史文化学科</td> <td>収容定員</td> <td>220名</td> <td>入学定員 55名</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育学科</td> <td>収容定員</td> <td>760名</td> <td>入学定員 190名</td> </tr> <tr> <td>人間社会学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間社会学科</td> <td>収容定員</td> <td>240名</td> <td>入学定員 60名</td> </tr> <tr> <td>スポーツ健康学科</td> <td>収容定員</td> <td>400名</td> <td>入学定員 100名</td> </tr> <tr> <td>心理・福祉学科</td> <td>収容定員</td> <td>200名</td> <td>入学定員 50名</td> </tr> <tr> <td>薬学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>薬学科</td> <td>収容定員</td> <td>840名</td> <td>入学定員 140名</td> </tr> </table> <p>(略)</p>	文 学 部				日本語日本文学科	収容定員	220名	入学定員 55名	歴史文化学科	収容定員	220名	入学定員 55名	教育学部				教育学科	収容定員	760名	入学定員 190名	人間社会学部				人間社会学科	収容定員	240名	入学定員 60名	スポーツ健康学科	収容定員	400名	入学定員 100名	心理・福祉学科	収容定員	200名	入学定員 50名	薬学部				薬学科	収容定員	840名	入学定員 140名	<p>(4) 薬学部 薬学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、生命科学・医療科学的専門知識と技能、自主的な判断力と問題解決能力、実践力と研究能力を備え、高い倫理観を有する人間性豊かな薬剤師を養成し、もって国民の健康・福祉の向上に寄与する。</p> <p>(収容定員) 第 4 条 各学部の収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>文 学 部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語日本文学科</td> <td>収容定員</td> <td>200名</td> <td>入学定員 50名</td> </tr> <tr> <td>歴史文化学科</td> <td>収容定員</td> <td>200名</td> <td>入学定員 50名</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育学科</td> <td>収容定員</td> <td>920名</td> <td>入学定員 230名</td> </tr> <tr> <td>人間社会学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間社会学科</td> <td>収容定員</td> <td>320名</td> <td>入学定員 80名</td> </tr> <tr> <td>スポーツ健康学科</td> <td>収容定員</td> <td>400名</td> <td>入学定員 100名</td> </tr> <tr> <td>薬学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>薬学科</td> <td>収容定員</td> <td>840名</td> <td>入学定員 140名</td> </tr> </table> <p>(略)</p>	文 学 部				日本語日本文学科	収容定員	200名	入学定員 50名	歴史文化学科	収容定員	200名	入学定員 50名	教育学部				教育学科	収容定員	920名	入学定員 230名	人間社会学部				人間社会学科	収容定員	320名	入学定員 80名	スポーツ健康学科	収容定員	400名	入学定員 100名	薬学部				薬学科	収容定員	840名	入学定員 140名
文 学 部																																																																																					
日本語日本文学科	収容定員	220名	入学定員 55名																																																																																		
歴史文化学科	収容定員	220名	入学定員 55名																																																																																		
教育学部																																																																																					
教育学科	収容定員	760名	入学定員 190名																																																																																		
人間社会学部																																																																																					
人間社会学科	収容定員	240名	入学定員 60名																																																																																		
スポーツ健康学科	収容定員	400名	入学定員 100名																																																																																		
心理・福祉学科	収容定員	200名	入学定員 50名																																																																																		
薬学部																																																																																					
薬学科	収容定員	840名	入学定員 140名																																																																																		
文 学 部																																																																																					
日本語日本文学科	収容定員	200名	入学定員 50名																																																																																		
歴史文化学科	収容定員	200名	入学定員 50名																																																																																		
教育学部																																																																																					
教育学科	収容定員	920名	入学定員 230名																																																																																		
人間社会学部																																																																																					
人間社会学科	収容定員	320名	入学定員 80名																																																																																		
スポーツ健康学科	収容定員	400名	入学定員 100名																																																																																		
薬学部																																																																																					
薬学科	収容定員	840名	入学定員 140名																																																																																		
<p>第 2 章 授業科目および単位</p> <p>(授業科目の区分) 第 24 条 授業科目は、共通教育科目、専門教育科目とキャリア教育科目とに分ける。 2 共通教育科目と専門教育科目は、それぞれ必修科目と選択科目とに分ける。</p> <p>(授業科目および単位数) 第 25 条 授業科目および単位数は別表 1 のとおりとする。 2 前項の規定にかかわらず、教育上必要と認めるときは、別表 1 に規定する授業科目の他に、教授会の議を経て授業科目を開設することができる。</p> <p>(授業科目の履修) 第 26 条 授業科目の履修に関して必要な事項は、別に定める。</p> <p>(卒業の要件) 第 27 条 卒業の要件は、第 7 条に規定する修業年限以上在学し、次の各号により学部、学科ごとに定める単位を修得しなければならない。</p> <p>(1) <u>共通教育科目は必修科目を含めて文学部の日本語日本文学科は 28 単位、歴史文化学科は 30 単位、教育学部教育学科は 30 単位、人間社会学部の人間社会学科は 28 単位、スポーツ健康学科は 28 単位、心理・福祉学科は 28 単位、薬学部薬学科は 32 単位以上を修得しなければならない。</u></p> <p>(2) 専門教育科目は必修科目を含めて文学部の日本語日本文学科は 100 単位、歴史文化学科は 98 単位、教育学部教育学科は 98 単位、人間社会学部の人間社会学科は 100 単位、スポーツ健康学科は 100 単位、<u>心理・福祉学科は 100 単位、薬学部薬学科は 158 単位以上を修得しなければならない。</u></p> <p>(3) 最終学年において文学部日本語日本文学科、教育学部教育学科、人間社会学部の人間社会学科、スポーツ健康学科、<u>心理・福祉学科</u>は卒業研究を、文学部歴史文化学科は卒業論文を、薬学部薬学科は薬学研究を提出しなければならない。</p>	<p>第 2 章 授業科目および単位</p> <p>(授業科目の区分) 第 24 条 授業科目は、共通教育科目、専門教育科目とキャリア教育科目とに分ける。 2 共通教育科目と専門教育科目は、それぞれ必修科目と選択科目とに分ける。</p> <p>(授業科目および単位数) 第 25 条 授業科目および単位数は別表 1 のとおりとする。 2 前項の規定にかかわらず、教育上必要と認めるときは、別表 1 に規定する授業科目の他に、教授会の議を経て授業科目を開設することができる。</p> <p>(授業科目の履修) 第 26 条 授業科目の履修に関して必要な事項は、別に定める。</p> <p>(卒業の要件) 第 27 条 卒業の要件は、第 7 条に規定する修業年限以上在学し、次の各号により学部、学科ごとに定める単位を修得しなければならない。</p> <p>(1) <u>共通教育科目は、文学部日本語日本文学科、歴史文化学科および教育学部教育学科にあつては宗教学 A、宗教学 B 各 2 単位、体育（講義を含む）2 単位、コンピュータ技術基礎 I 2 単位、外国語 1 カ国語または 2 カ国語 8 単位、人文科学、社会科学、自然科学、総合の各系からそれぞれ 2 単位を含め、40 単位以上を、人間社会学部人間社会学科にあつては宗教学 A、宗教学 B 各 2 単位、体育（講義を含む）2 単位、コンピュータ技術基礎 I 2 単位、外国語 1 カ国語または 2 カ国語 8 単位、人文科学、社会科学、自然科学の各系からそれぞれ 2 単位を含め、32 単位以上を、人間社会学部スポーツ健康学科にあつては宗教学 A、宗教学 B 各 2 単位、コンピュータ技術基礎 I 2 単位、外国語 1 カ国語または 2 カ国語 8 単位、人文科学、社会科学、自然科学の各系からそれぞれ 2 単位を含め、32 単位以上を、薬学部薬学科にあつては、宗教学 2 単位、死生学 2 単位、生命倫理学 2 単位、基礎生物学演習 1 単位、基礎数学演習 1 単位、基礎物理学演習 1 単位、基礎化学演習 1 単位、情報薬学基礎演習 2 単位、化学実習 1 単位、生物学実習 1 単位、数学・統計学 2 単位、外国語の英語 IA (コミュニケーション)、IB (コミュニケーション)、各 1 単位、英語 II A、II B、各 1 単位を含め、36 単位以上を修得しなければならない。</u></p> <p>(2) 専門教育科目は必修科目を含めて文学部の日本語日本文学科は 88 単位、歴史文化学科は 88 単位、教育学部教育学科は 88 単位、人間社会学部の人間社会学科は 96 単位、スポーツ健康学科は 96 単位、薬学部薬学科は 156 単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(3) 最終学年において文学部日本語日本文学科、教育学部教育学科、人間社会学部の人間社会学科、スポーツ健康学科は卒業研究を、文学部歴史文化学科は卒業論文を、薬学部薬学科は薬学研究を提出しなければならない。</p>																																																																																				

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

<p>(略)</p> <p>第 3 章 免許状および資格の取得 (免許状および資格の課程)</p> <p>第 35 条 免許状および資格取得のために、教育職員養成課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程、学芸員課程、社会教育主事課程、保育士養成課程、社会福祉士国家試験受験資格課程を置く。 (教育職員免許状)</p> <p>第 36 条 教育職員免許状を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 文学部日本語日本文学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」</td> </tr> <tr> <td>(2) 文学部歴史文化学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育学部教育学科</td> <td>幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状</td> </tr> <tr> <td>(4) 人間社会学部人間社会学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」</td> </tr> <tr> <td>(5) 人間社会学部スポーツ健康学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」</td> </tr> </table> <p>4 教育職員免許状の取得に関して、必要な事項は別に定める。</p> <p>(略)</p> <p>(保 育 士)</p> <p>第 41 条 教育学部教育学科において保育士の資格を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、児童福祉法施行規則の定めによって本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 保育士養成課程を履修することができる者は、1 学年あたり <u>80</u> 名とする。</p> <p>4 保育士養成課程に関して必要な事項は、別に定める。 (社会福祉士国家試験受験資格)</p> <p>第 42 条 人間社会学部<u>心理・福祉学科</u>において社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、社会福祉士及び介護福祉士法第 7 条第 1 号の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 社会福祉士国家試験受験資格に関して必要な事項は、別に定める。</p>	(1) 文学部日本語日本文学科	中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」	(2) 文学部歴史文化学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」	(3) 教育学部教育学科	幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状	(4) 人間社会学部人間社会学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」	(5) 人間社会学部スポーツ健康学科	中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」	<p>(略)</p> <p>第 3 章 免許状および資格の取得 (免許状および資格の課程)</p> <p>第 35 条 免許状および資格取得のために、教育職員養成課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程、学芸員課程、社会教育主事課程、保育士養成課程、社会福祉士国家試験受験資格課程を置く。 (教育職員免許状)</p> <p>第 36 条 教育職員免許状を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 文学部日本語日本文学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」</td> </tr> <tr> <td>(2) 文学部歴史文化学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育学部教育学科</td> <td>幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状</td> </tr> <tr> <td>(4) 人間社会学部人間社会学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」 <u>高等学校教諭 1 種免許状「福祉」</u></td> </tr> <tr> <td>(5) 人間社会学部スポーツ健康学科</td> <td>中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」</td> </tr> </table> <p>4 教育職員免許状の取得に関して、必要な事項は別に定める。</p> <p>(略)</p> <p>(保 育 士)</p> <p>第 41 条 教育学部教育学科において保育士の資格を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、児童福祉法施行規則の定めによって本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 保育士養成課程を履修することができる者は、1 学年あたり <u>120</u> 名とする。</p> <p>4 保育士養成課程に関して必要な事項は、別に定める。 (社会福祉士国家試験受験資格)</p> <p>第 42 条 人間社会学部<u>人間社会学科</u>において社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第 27 条の定めによるほか、社会福祉士及び介護福祉士法第 7 条第 1 号の定めによって、本学が設置している科目および単位を修得しなければならない。</p> <p>2 前項の授業科目および単位は別表 1 のとおりとする。</p> <p>3 社会福祉士国家試験受験資格に関して必要な事項は、別に定める。</p>	(1) 文学部日本語日本文学科	中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」	(2) 文学部歴史文化学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」	(3) 教育学部教育学科	幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状	(4) 人間社会学部人間社会学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」 <u>高等学校教諭 1 種免許状「福祉」</u>	(5) 人間社会学部スポーツ健康学科	中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」
(1) 文学部日本語日本文学科	中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」																				
(2) 文学部歴史文化学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」																				
(3) 教育学部教育学科	幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状																				
(4) 人間社会学部人間社会学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」																				
(5) 人間社会学部スポーツ健康学科	中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」																				
(1) 文学部日本語日本文学科	中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「書道」																				
(2) 文学部歴史文化学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「地理歴史」																				
(3) 教育学部教育学科	幼稚園教諭 1 種免許状 小学校教諭 1 種免許状 中学校教諭 1 種免許状「国語」 高等学校教諭 1 種免許状「国語」 中学校教諭 1 種免許状「英語」 高等学校教諭 1 種免許状「英語」 特別支援学校教諭 1 種免許状																				
(4) 人間社会学部人間社会学科	中学校教諭 1 種免許状「社会」 高等学校教諭 1 種免許状「公民」 <u>高等学校教諭 1 種免許状「福祉」</u>																				
(5) 人間社会学部スポーツ健康学科	中学校教諭 1 種免許状「保健体育」 高等学校教諭 1 種免許状「保健体育」																				

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

(略)

附 則

- 1. この学則は令和5年4月1日から改正施行する。
- 2. 別表1は、令和4年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

附 則

- 1. この学則は、令和6年4月1日から改正施行する。
- 2. 令和5年度以前に入学した学生については、なお従前の学則による。
- 3. 令和6年度からの収容定員は、第4条の規定にかかわらず次の通りとする。

学部	学科	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
文学部	日本語日本文学科	205名	210名	215名	220名
	歴史文化学科	205名	210名	215名	220名
教育学部	教育学科	880名	840名	800名	760名
人間社会学部	人間社会学科	300名	280名	260名	240名
	スポーツ健康学科	400名	400名	400名	400名
	心理・福祉学科	50名	100名	150名	200名
薬学部	薬学科	840名	840名	840名	840名

(略)

附 則

- 1. この学則は令和5年4月1日から改正施行する。
- 2. 別表1は、令和4年度以前の入学生に対してはこれを適用せず、旧規程を適用する。

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (2024 年度)				旧 (2023 年度)			
別表 1 授業科目表				別表 1 授業科目表			
共通教育科目 文学部 教育学部 人間社会学部				共通教育科目 文学部 教育学部 人間社会学部			
	授業科目	単位	備考		授業科目	単位	備考
必修科目	宗教学 A	2		必修科目	宗教学 A	2	
	宗教学 B	2			宗教学 B	2	
	コンピュータ技術基礎 I	2			体育 (講義を含む)	2	☆
	キャリア概論	1			コンピュータ技術基礎 I	2	
	新入生セミナー	1			英語 I A (コミュニケーション)	1	
	いのちを共に考える	1			英語 I B (コミュニケーション)	1	
					英語 II A	1	
選択必修科目	英語 A (コミュニケーション)	1		英語 II B	1		
	英語 B (コミュニケーション)	1		英会話 A	1		
	英語 A (総合)	1		英会話 B	1		
	英語 B (総合)	1		英米文化を学ぶ A	2		
	英会話 A	1		英米文化を学ぶ B	2		
	英会話 B	1		メディアの英語 A	2		
	英米文化を学ぶ	2		メディアの英語 B	2		
	メディアの英語	2		ドイツ語 I A (コミュニケーション)	1		
	ドイツ語入門 A	1		ドイツ語 I B (コミュニケーション)	1		
	ドイツ語入門 B	1		ドイツ語 II A	1		
	ドイツ語会話 A	1		ドイツ語 II B	1		
	ドイツ語会話 B	1		ドイツ文化を学ぶ A	2		
	ドイツ文化を学ぶ	2		ドイツ文化を学ぶ B	2		
	フランス語入門 A	1		フランス語 I A (コミュニケーション)	1		
	フランス語入門 B	1		フランス語 I B (コミュニケーション)	1		
	フランス語会話 A	1		フランス語 II A	1		
	フランス語会話 B	1		フランス語 II B	1		
	フランス文化を学ぶ	2		フランス文化を学ぶ A	2		
	中国語入門 A	1		フランス文化を学ぶ B	2		
	中国語入門 B	1		中国語 I A (コミュニケーション)	1		
	中国語会話 A	1		中国語 I B (コミュニケーション)	1		
	中国語会話 B	1		中国語 II A	1		
	中国文化を学ぶ	2		中国語 II B	1		
	朝鮮語入門 A	1		中国文化を学ぶ A	2		
	朝鮮語入門 B	1		中国文化を学ぶ B	2		
	朝鮮語会話 A	1		朝鮮語 I A (コミュニケーション)	1		
	朝鮮語会話 B	1		朝鮮語 I B (コミュニケーション)	1		
	朝鮮文化を学ぶ	2		朝鮮語 II A	1		
	日本語 I	1		朝鮮語 II B	1		
	日本語 II	1		朝鮮文化を学ぶ A	2		
	日本文化を学ぶ	1		朝鮮文化を学ぶ B	2		
				日本語 I A (コミュニケーション)	1		
				日本語 I B (コミュニケーション)	1		
				日本語 II A	1		
			日本語 II B	1			
			海外研修 A (英語圏)	2			
			海外研修 B (英語圏)	2			
			海外研修 A (朝鮮語圏)	2			
			海外研修 B (朝鮮語圏)	2			

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新				旧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
(略)				(略)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
専門教育科目 人間社会学部人間社会学科				専門教育科目 人間社会学部人間社会学科																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基礎ゼミⅠ(学習技術)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>基礎ゼミⅡ(研究入門)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>PBL 入門</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経営学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅠ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅡ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>4</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	基礎ゼミⅠ(学習技術)	2		基礎ゼミⅡ(研究入門)	2		人間と社会 A	2		人間と社会 B	2		PBL 入門	2		現代社会学概論	2		情報学概論	2		経営学概論	2		ゼミナールⅠ	4		ゼミナールⅡ	4		卒業研究	4		<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>会計実務処理演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>企業会計論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>リテールマーケティング実務演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>異文化理解</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>グローバル社会入門</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>政治学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>政治学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域社会体験実習(ボランティアセンター)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ワークショップ論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>環境と社会(総合講座)A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>環境と社会(総合講座)B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>グローバル社会体験実習</td><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(子どもイベント編)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会と人権(総合講座)A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会と人権(総合講座)B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>国際社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>国際社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>身体表現と社会</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>法と社会 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>法と社会 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>倫理学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>倫理学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>NPO・NGO 論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会学実践演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ジェンダー論(総合講座)A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ジェンダー論(総合講座)B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>自治体行政論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>自治体行政論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>都市社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>都市社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域社会体験実習(長期)</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>経済学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経済学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>発達心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会・集団・家族心理学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会・集団・家族心理学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>産業心理学</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>臨床心理学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>学習・言語心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>保育の心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>貧困に対する支援</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>高齢者福祉論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>障害者福祉論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>子ども家庭福祉論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会福祉政策論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会保障論Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会保障論Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>福祉経営論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会福祉概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域福祉論Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>介護概論</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	会計実務処理演習	2		企業会計論	2		リテールマーケティング実務演習	2		異文化理解	2		グローバル社会入門	2		社会学 A	2		社会学 B	2		政治学 A	2		政治学 B	2		地域社会体験実習(ボランティアセンター)	2		ワークショップ論	2		環境と社会(総合講座)A	2		環境と社会(総合講座)B	2		グローバル社会体験実習	3		課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2		課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2		現代社会と人権(総合講座)A	2		現代社会と人権(総合講座)B	2		国際社会学 A	2		国際社会学 B	2		社会学概論 A	2		社会学概論 B	2		身体表現と社会	2		法と社会 A	2		法と社会 B	2		倫理学概論 A	2		倫理学概論 B	2		NPO・NGO 論	2		現代社会学実践演習	2		ジェンダー論(総合講座)A	2		ジェンダー論(総合講座)B	2		自治体行政論 A	2		自治体行政論 B	2		都市社会学 A	2		都市社会学 B	2		地域社会体験実習(長期)	4		経済学概論 A	2		経済学概論 B	2		心理学概論	2		発達心理学	2		社会・集団・家族心理学 A	2		社会・集団・家族心理学 B	2		産業心理学	1		臨床心理学概論	2		学習・言語心理学	2		保育の心理学	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		貧困に対する支援	2		高齢者福祉論	2		障害者福祉論	2		子ども家庭福祉論	2		社会福祉政策論	2		社会保障論Ⅰ	2		社会保障論Ⅱ	2		福祉経営論	2		社会福祉概論	2		地域福祉論Ⅰ	2		介護概論	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基礎ゼミⅠ(学習技術)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>基礎ゼミⅡ(研究入門)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅠ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅡ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>4</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	基礎ゼミⅠ(学習技術)	2		基礎ゼミⅡ(研究入門)	2		人間と社会 A	2		人間と社会 B	2		ゼミナールⅠ	4		ゼミナールⅡ	4		卒業研究	4																																																																																																																								
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
基礎ゼミⅠ(学習技術)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
基礎ゼミⅡ(研究入門)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
PBL 入門	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経営学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅠ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅡ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
卒業研究	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
会計実務処理演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
企業会計論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
リテールマーケティング実務演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
異文化理解	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
グローバル社会入門	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
政治学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
政治学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域社会体験実習(ボランティアセンター)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ワークショップ論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
環境と社会(総合講座)A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
環境と社会(総合講座)B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
グローバル社会体験実習	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会と人権(総合講座)A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会と人権(総合講座)B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
国際社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
国際社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
身体表現と社会	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
法と社会 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
法と社会 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
倫理学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
倫理学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
NPO・NGO 論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会学実践演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ジェンダー論(総合講座)A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ジェンダー論(総合講座)B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
自治体行政論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
自治体行政論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
都市社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
都市社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域社会体験実習(長期)	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経済学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経済学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
発達心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会・集団・家族心理学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会・集団・家族心理学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
産業心理学	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
臨床心理学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
学習・言語心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
保育の心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
貧困に対する支援	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
高齢者福祉論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
障害者福祉論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
子ども家庭福祉論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会福祉政策論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会保障論Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会保障論Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
福祉経営論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会福祉概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域福祉論Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
介護概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
基礎ゼミⅠ(学習技術)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
基礎ゼミⅡ(研究入門)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅠ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅡ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
卒業研究	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
(削除)				(略)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基礎数学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報科学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>プログラミング入門</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>表計算処理演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報処理論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ビジネスデータ分析</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>プログラミング基礎演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>プログラミング実践演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンス</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データベース演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ネットワーク技術論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データエンジニアリング概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データエンジニアリング</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンスと社会科学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンスと社会科学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>AI 概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンス・AI 演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンスの応用</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンス実践演習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>データサイエンス概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>会計学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅠA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅠB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経営管理論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経営戦略論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ファイナンシャルプランナー</td><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>簿記特講Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記特講Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅡA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅡB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅢA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅢB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>マーケティング論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>マーケティングリサーチ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>マーケティング論応用</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>リテールマーケティング論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経営実務特講</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会と企業</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ビジネス法務</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>FP 実務演習Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>FP 実務演習Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>会計学特講Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>会計学特講Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	基礎数学	2		情報科学	2		プログラミング入門	2		表計算処理演習	2		情報処理論	2		ビジネスデータ分析	2		情報社会学 A	2		情報社会学 B	2		プログラミング基礎演習	2		プログラミング実践演習	2		データサイエンス	2		データベース演習	2		ネットワーク技術論	2		データエンジニアリング概論	2		データエンジニアリング	2		データサイエンスと社会科学 A	2		データサイエンスと社会科学 B	2		AI 概論	2		データサイエンス・AI 演習	2		データサイエンスの応用	2		データサイエンス実践演習	2		データサイエンス概論	2		会計学概論	2		簿記論ⅠA	2		簿記論ⅠB	2		経営管理論	2		経営戦略論	2		ファイナンシャルプランナー	8		簿記特講Ⅰ	2		簿記特講Ⅱ	2		簿記論ⅡA	2		簿記論ⅡB	2		簿記論ⅢA	2		簿記論ⅢB	2		マーケティング論	2		マーケティングリサーチ	2		マーケティング論応用	2		リテールマーケティング論	2		経営実務特講	2		現代社会と企業	2		ビジネス法務	2		FP 実務演習Ⅰ	2		FP 実務演習Ⅱ	2		会計学特講Ⅰ	2		会計学特講Ⅱ	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>保育の心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>発達心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>司法・犯罪心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教育相談の理論と実際</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学実験Ⅱ</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>心理学研究法</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学文献講読</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理的アセスメント</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理演習Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理演習Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>知覚・認知心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理実習</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>神経・生理心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>障害者・障害児心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>健康・医療心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>福祉心理学Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>精神疾患とその治療</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>公認心理師の関係行政論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理療法理論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>福祉心理学Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>異文化理解</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>グローバル社会入門</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>政治学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>政治学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域社会体験実習Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域社会体験実習Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ワークショップ論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>環境と社会(総合講座)A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>環境と社会(総合講座)B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>観光・旅行業務演習 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>観光・旅行業務演習 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>グローバル社会体験学習</td><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>経済学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経済学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会と人権(総合講座)A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会と人権(総合講座)B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>国際社会学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>国際社会学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>身体表現と社会</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>法と社会 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>法と社会 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>倫理学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>倫理学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 C</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 D</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 E</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 F</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 G</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 H</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 I</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 J</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 K</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 L</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 M</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 N</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 O</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 P</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 Q</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 R</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 S</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 T</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 U</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 V</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 W</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 X</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 Y</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会学概論 Z</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	保育の心理学	2		発達心理学	2		司法・犯罪心理学	2		教育相談の理論と実際	2		心理学実験Ⅱ	1		心理学研究法	2		心理学文献講読	2		心理的アセスメント	2		心理演習Ⅰ	2		心理演習Ⅱ	2		知覚・認知心理学	2		心理実習	2		神経・生理心理学	2		障害者・障害児心理学	2		健康・医療心理学	2		福祉心理学Ⅰ	2		精神疾患とその治療	2		公認心理師の関係行政論	2		心理療法理論	2		福祉心理学Ⅱ	2		異文化理解	2		グローバル社会入門	2		社会学 A	2		社会学 B	2		政治学 A	2		政治学 B	2		地域社会体験実習Ⅰ	2		地域社会体験実習Ⅱ	2		ワークショップ論	2		環境と社会(総合講座)A	2		環境と社会(総合講座)B	2		観光・旅行業務演習 A	2		観光・旅行業務演習 B	2		グローバル社会体験学習	3		経済学概論 A	2		経済学概論 B	2		現代社会と人権(総合講座)A	2		現代社会と人権(総合講座)B	2		国際社会学 A	2		国際社会学 B	2		社会学概論 A	2		社会学概論 B	2		身体表現と社会	2		法と社会 A	2		法と社会 B	2		倫理学概論 A	2		倫理学概論 B	2		社会学概論 A	2		社会学概論 B	2		社会学概論 C	2		社会学概論 D	2		社会学概論 E	2		社会学概論 F	2		社会学概論 G	2		社会学概論 H	2		社会学概論 I	2		社会学概論 J	2		社会学概論 K	2		社会学概論 L	2		社会学概論 M	2		社会学概論 N	2		社会学概論 O	2		社会学概論 P	2		社会学概論 Q	2		社会学概論 R	2		社会学概論 S	2		社会学概論 T	2		社会学概論 U	2		社会学概論 V	2		社会学概論 W	2		社会学概論 X	2		社会学概論 Y	2		社会学概論 Z	2	
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
基礎数学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報科学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
プログラミング入門	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
表計算処理演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報処理論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ビジネスデータ分析	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
プログラミング基礎演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
プログラミング実践演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンス	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データベース演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ネットワーク技術論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データエンジニアリング概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データエンジニアリング	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンスと社会科学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンスと社会科学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
AI 概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンス・AI 演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンスの応用	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンス実践演習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
データサイエンス概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
会計学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅠA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅠB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経営管理論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経営戦略論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ファイナンシャルプランナー	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記特講Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記特講Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅡA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅡB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅢA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅢB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
マーケティング論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
マーケティングリサーチ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
マーケティング論応用	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
リテールマーケティング論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経営実務特講	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会と企業	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ビジネス法務	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
FP 実務演習Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
FP 実務演習Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
会計学特講Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
会計学特講Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
保育の心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
発達心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
司法・犯罪心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
教育相談の理論と実際	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学実験Ⅱ	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学研究法	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学文献講読	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理的アセスメント	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理演習Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理演習Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
知覚・認知心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理実習	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
神経・生理心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
障害者・障害児心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
健康・医療心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
福祉心理学Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
精神疾患とその治療	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
公認心理師の関係行政論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理療法理論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
福祉心理学Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
異文化理解	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
グローバル社会入門	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
政治学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
政治学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域社会体験実習Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域社会体験実習Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ワークショップ論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
環境と社会(総合講座)A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
環境と社会(総合講座)B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
観光・旅行業務演習 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
観光・旅行業務演習 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
グローバル社会体験学習	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経済学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経済学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会と人権(総合講座)A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会と人権(総合講座)B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
国際社会学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
国際社会学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
身体表現と社会	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
法と社会 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
法と社会 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
倫理学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
倫理学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 C	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 D	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 E	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 F	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 G	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 H	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 I	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 J	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 K	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 L	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 M	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 N	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 O	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 P	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 Q	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 R	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 S	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 T	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 U	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 V	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 W	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 X	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 Y	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会学概論 Z	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基礎ゼミⅠ(学習技術)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>基礎ゼミⅡ(研究入門)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>人間と社会 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅠ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>ゼミナールⅡ</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>4</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	基礎ゼミⅠ(学習技術)	2		基礎ゼミⅡ(研究入門)	2		人間と社会 A	2		人間と社会 B	2		ゼミナールⅠ	4		ゼミナールⅡ	4		卒業研究	4		<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>心理学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>臨床心理学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>地域社会入門</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>現代社会論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>情報学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>経営学概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会福祉概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ロジカルシンキング</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>キャリア概論</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>キャリアデザイン</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(子どもイベント編)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>資格・検定認定(複数型)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>資格・検定認定(上級型)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>TOEIC 入門 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>TOEIC 入門 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>TOEIC A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>TOEIC B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>インターンシップ入門</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>社会教養基礎</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>数学教養基礎</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>企業研究Ⅰ</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>社会研究実習(事前事後の指導を含む)</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>就活力Ⅰ</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>就活力Ⅱ</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>採用研究(民間企業)</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>採用研究(公務員)</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>自治体研究</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>企業研究Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	心理学概論	2		臨床心理学概論	2		地域社会入門	2		現代社会論	2		情報学概論	2		経営学概論	2		社会福祉概論	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		ロジカルシンキング	2		キャリア概論	1		ロジカルコミュニケーション	2		キャリアデザイン	2		課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2		課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2		資格・検定認定(複数型)	2		資格・検定認定(上級型)	2		TOEIC 入門 A	2		TOEIC 入門 B	2		TOEIC A	2		TOEIC B	2		インターンシップ入門	1		社会教養基礎	2		数学教養基礎	2		企業研究Ⅰ	1		社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2		就活力Ⅰ	1		就活力Ⅱ	1		採用研究(民間企業)	1		採用研究(公務員)	1		自治体研究	2		企業研究Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																	
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
基礎ゼミⅠ(学習技術)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
基礎ゼミⅡ(研究入門)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
人間と社会 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅠ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ゼミナールⅡ	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
卒業研究	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
心理学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
臨床心理学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域社会入門	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
現代社会論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
情報学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
経営学概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会福祉概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ロジカルシンキング	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
キャリア概論	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ロジカルコミュニケーション	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
キャリアデザイン	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
資格・検定認定(複数型)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
資格・検定認定(上級型)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
TOEIC 入門 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
TOEIC 入門 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
TOEIC A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
TOEIC B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
インターンシップ入門	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会教養基礎	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
数学教養基礎	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
企業研究Ⅰ	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
就活力Ⅰ	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
就活力Ⅱ	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
採用研究(民間企業)	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
採用研究(公務員)	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
自治体研究	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
企業研究Ⅱ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>学習・言語心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会・集団・家族心理学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>感情・人格心理学 A</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>カウンセリング論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学的支援法</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>感情・人格心理学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>臨床産業・組織心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教育心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>臨床教育・学校心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>行動分析学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>産業心理学</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>社会・集団・家族心理学 B</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学実験ⅠA</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>心理学実験ⅠB</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>心理調査概論</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>心理学統計法</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	学習・言語心理学	2		社会・集団・家族心理学 A	2		感情・人格心理学 A	2		カウンセリング論	2		心理学的支援法	2		感情・人格心理学 B	2		臨床産業・組織心理学	2		教育心理学	2		臨床教育・学校心理学	2		行動分析学	2		産業心理学	2		社会・集団・家族心理学 B	2		心理学実験ⅠA	1		心理学実験ⅠB	1		心理調査概論	2		心理学統計法	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>簿記論ⅠA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅠB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅡA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅡB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅢA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅢB</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>表計算処理演習Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅠA</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>簿記論ⅠB</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>				授業科目	単位	備考	簿記論ⅠA	2		簿記論ⅠB	2		簿記論ⅡA	2		簿記論ⅡB	2		簿記論ⅢA	2		簿記論ⅢB	2		表計算処理演習Ⅰ	2		簿記論ⅠA	2		簿記論ⅠB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																								
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
学習・言語心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会・集団・家族心理学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
感情・人格心理学 A	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
カウンセリング論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学的支援法	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
感情・人格心理学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
臨床産業・組織心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
教育心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
臨床教育・学校心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
行動分析学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
産業心理学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
社会・集団・家族心理学 B	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学実験ⅠA	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学実験ⅠB	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理調査概論	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
心理学統計法	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
授業科目	単位	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
簿記論ⅠA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅠB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅡA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅡB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅢA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅢB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
表計算処理演習Ⅰ	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅠA	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
簿記論ⅠB	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新

旧

授業科目	単位	備考
地理学 A	2	
地理学 B	2	
西洋史概説 A	2	
西洋史概説 B	2	
東洋史概説 A	2	
東洋史概説 B	2	
日本史概説 A	2	
日本史概説 B	2	
日本仏教史 A	2	
日本仏教史 B	2	
地誌学 A	2	
地誌学 B	2	
歴史地理学	2	
社会調査法 A	2	
社会調査法 B	2	
多変量解析の方法	2	
質的な調査と分析の方法	2	
社会調査実習 I	2	
社会調査実習 II	2	
スポーツ心理学	2	
スポーツキャリアデザイン	2	
スポーツ経営管理学	2	
スポーツ社会学	2	
障がい者スポーツ指導論	2	
スポーツコーチング学 I	2	
スポーツコーチング学 II	2	
スポーツコーチング学 III	2	
スポーツコーチング学 IV	2	
医療福祉システム論 I	2	
医療福祉システム論 II	2	
社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2	
地域社会体験実習(市役所)	2	
企業研究 I	1	
企業研究 II	2	
資格・検定認定(複数型)	2	
資格・検定認定(上級型)	2	
TOEIC 入門 A	2	
TOEIC 入門 B	2	
TOEIC A	2	
TOEIC B	2	

選択科目

授業科目	単位	備考
経営管理論	2	
経営戦略論	2	
情報科学	2	
情報社会学 A	2	
情報社会学 B	2	
情報処理論	2	
ビジネスデータ分析	2	
表計算処理演習 II	2	
ファイナンシャルプランナー	8	
プログラミング基礎演習	2	
簿記特講 I	2	
簿記特講 II	2	
簿記論 II A	2	
簿記論 II B	2	
簿記論 III A	2	
簿記論 III B	2	
マーケティング論	2	
FP 実務演習 I	2	
FP 実務演習 II	2	
会计学特講 I	2	
会计学特講 II	2	
会計実務処理演習 A	2	
会計実務処理演習 B	2	
企業会計論 A	2	
経営実務特講	2	
企業会計論 B	2	
情報技術特講	2	
プログラミング実践演習	2	
データサイエンスの理論と実践	2	
社会福祉政策論	2	
介護概論	2	
公的扶助論	2	
高齢者福祉論	2	
子ども家庭福祉論	2	
ソーシャルワーク演習 I	2	
ソーシャルワーク演習 II	2	
ソーシャルワーク演習 III	2	
ソーシャルワーク演習 IV	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2	
ソーシャルワーク実習指導 I	3	
社会保障論 I	2	
社会保障論 II	2	
障害者福祉論	2	
地域福祉論 I	2	
地域福祉論 II	2	
人体の構造と機能及び疾病	2	
医療福祉論	2	
権利擁護と成年後見論	2	
司法福祉論	2	
社会福祉演習 I	2	
ソーシャルワーク演習 V	2	
ソーシャルワークの理論と方法 I	2	
ソーシャルワークの理論と方法 II	2	
ソーシャルワークの理論と方法 III	2	
ソーシャルワークの理論と方法 IV	2	
ソーシャルワーク実習	8	
ソーシャルワーク実習指導 II	2	
ソーシャルワーク実習指導 III	2	
社会福祉調査論	2	
福祉経営論	2	

選択科目

授業科目	単位	備考
社会福祉演習 II	2	
社会福祉総合実習指導	2	
社会福祉総合実習	3	
スクールソーシャルワーク論	2	
スクールソーシャルワーク演習	1	
スクールソーシャルワーク実習指導	1	
スクールソーシャルワーク実習	2	
精神保健の課題と支援	2	
統計学 I	2	
統計学 II	2	
社会調査法 A	2	
社会調査法 B	2	
地理学 A	2	
地理学 B	2	
西洋史概説 A	2	
西洋史概説 B	2	
東洋史概説 A	2	
東洋史概説 B	2	
日本史概説 A	2	
日本史概説 B	2	
日本仏教史 A	2	
日本仏教史 B	2	
地誌学 A	2	
地誌学 B	2	
歴史地理学	2	
スポーツ心理学	2	
スポーツキャリアデザイン	2	
スポーツ社会学	2	
スポーツ経営管理学	2	
障がい者スポーツ指導論	2	
医療福祉システム論 I	2	
医療福祉システム論 II	2	
スポーツコーチング学 I	2	
スポーツコーチング学 II	2	
スポーツコーチング学 III	2	
スポーツコーチング学 IV	2	
公認心理師の職責	2	※

選択科目

※卒業単位とならない

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (略)				旧 (略)			
専門教育科目 人間社会学部心理・福祉学科				(新設)			
必修科目	授業科目	単位	備考	選択科目	授業科目	単位	備考
	基礎ゼミ I (学習技術)	2			介護概論	2	
	基礎ゼミ II (研究入門)	2			貧困に対する支援	2	
	人間と社会 A	2			高齢者福祉論	2	
	人間と社会 B	2			障害者福祉論	2	
	心理・福祉学入門	2			子ども家庭福祉論	2	
	ゼミナール I	4			社会保障論 I	2	
	ゼミナール II	4			社会保障論 II	2	
卒業研究	4		地域福祉論 II		2		
選択必修科目	授業科目	単位	備考		ソーシャルワークの理論と方法 I	2	
	基礎コミュニケーション演習	2			ソーシャルワークの理論と方法 II	2	
	臨床心理学概論	2			ソーシャルワーク演習 I	2	
	心理学的支援法	2			ソーシャルワーク演習 II	2	
	発達心理学	2			ソーシャルワーク演習 III	2	
	福祉心理学	2			ソーシャルワーク演習 IV	2	
	社会福祉概論	2			ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2			ソーシャルワーク実習指導 I	3	
	地域福祉論 I	2			人体の構造と機能及び疾病	2	
	社会福祉政策論	2			医療福祉論	2	
	心理・福祉総合演習	2			権利擁護と成年後見論	2	
	選択科目	授業科目	単位		備考	司法福祉論	2
心理学概論		2			社会福祉演習 I	2	
学習・言語心理学		2			ソーシャルワーク演習 V	2	
社会・集団・家族心理学 A		2			ソーシャルワークの理論と方法 III	2	
感情・人格心理学 I		2			ソーシャルワークの理論と方法 IV	2	
感情・人格心理学 II		2			ソーシャルワーク実習	8	
臨床産業・組織心理学		2			ソーシャルワーク実習指導 II	2	
教育心理学		2			ソーシャルワーク実習指導 III	2	
臨床教育・学校心理学		2			社会福祉調査論	2	
公認心理師の職責		2			福祉経営論	2	
行動分析学		1			精神保健の課題と支援	2	
産業心理学		1			スクールソーシャルワーク論	2	
社会・集団・家族心理学 B		2			スクールソーシャルワーク演習	1	
心理学実験 I A		1			社会福祉演習 II	1	
心理学実験 I B		1			スクールソーシャルワーク実習指導	1	
心理調査概論		2			スクールソーシャルワーク実習	2	
心理学統計法		2			現代社会学概論	2	
保育の心理学		2			経済学概論 A	2	
司法・犯罪心理学		1			経済学概論 B	2	
教育相談の理論と実際		2			社会学概論 A	2	
心理学実験 II		1			社会学概論 B	2	
心理学研究法		2			グローバル社会体験実習	3	
心理学文献講読		2			法と社会 A	2	
心理的アセスメント		2			法と社会 B	2	
心理演習 I		2		国際社会学 A	2		
心理演習 II		2		国際社会学 B	2		
知覚・認知心理学		1		NPO・NGO論	2		
心理実習		2		経営学概論	2		
神経・生理心理学		1		マーケティング論	2		
障害者・障害児心理学		2		情報学概論	2		
人間性心理学		1		情報社会学 A	2		
メンタルヘルスマネジメント演習		1		情報社会学 B	2		
健康・医療心理学		2		社会調査法 A	2		
精神疾患とその治療		2		社会調査法 B	2		
公認心理師の関係行政論		2		多変量解析の方法	2		
キャリア心理学		1		質的な調査と分析の方法	2		
キャリア心理学演習		1		社会調査実習 I	2		
認知行動療法論		1		社会調査実習 II	2		
精神力動論		1					
臨床心理学総論		2					

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新			旧
選択科目	授業科目	単位	備考
	スポーツ心理学	2	
	スポーツキャリアデザイン	2	
	スポーツ経営管理学	2	
	スポーツ社会学	2	
	障がい者スポーツ指導論	2	
	スポーツコーチング学Ⅰ	2	
	スポーツコーチング学Ⅱ	2	
	スポーツコーチング学Ⅲ	2	
	スポーツコーチング学Ⅳ	2	
	医療福祉システム論Ⅰ	2	
	医療福祉システム論Ⅱ	2	
	課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2	
	課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	
	社会研究実習(事前事後の指導を含む)	2	
	地域社会体験実習(市役所)	2	
	企業研究Ⅰ	1	
	企業研究Ⅱ	2	
	資格・検定認定(複数型)	2	
	資格・検定認定(上級型)	2	
TOEIC 入門A	2		
TOEIC 入門B	2		
TOEIC A	2		
TOEIC B	2		
			(新設)

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (略)	旧 (略)																																																																																																									
<p>(削除)</p>	<p>キャリア教育科目 文学部 教育学部 人間社会学部</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">授業科目</th> <th style="width:10%;">単位</th> <th style="width:85%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ロジカルシンキング</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>社会教養基礎</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>数学教養基礎</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>キャリアデザイン</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>キャリア形成Ⅰ</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>キャリア形成Ⅱ</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>企業研究Ⅰ</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>企業研究Ⅱ</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>自治体研究</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>就活力Ⅰ</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>就活力Ⅱ</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>採用研究(民間企業)</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>採用研究(公務員)</td><td>1</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>文章表現A</td><td>2</td><td>◎</td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(子どもイベント編)</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)</td><td>2</td><td>☆※</td></tr> <tr><td>TOEIC Practice A</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>TOEIC Practice B</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>教職基礎社会</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職文章表現</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職総合ベーシックⅠ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職総合ベーシックⅡ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職総合アドバンスⅠ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職総合アドバンスⅡ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職直前対策</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教職教養対策</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>教育インターンシップⅠ</td><td>1</td><td>□</td></tr> <tr><td>教育インターンシップⅡ</td><td>1</td><td>□</td></tr> <tr><td>学校教育演習Ⅰ</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>学校教育演習Ⅱ</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>◎日本語日本文学科以外の入学生のみ適用 □教育学科以外の入学生のみ適用 ☆スポーツ健康学科以外の入学生のみ適用 ※人間社会学科以外の入学生のみ適用</p> <p>キャリア教育科目 薬学部</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">授業科目</th> <th style="width:10%;">単位</th> <th style="width:85%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ロジカルシンキング</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>2</td><td></td></tr> </tbody> </table>	授業科目	単位	備考	ロジカルシンキング	2	☆※	ロジカルコミュニケーション	2	☆※	社会教養基礎	2	☆※	数学教養基礎	2	☆※	キャリアデザイン	2	☆※	キャリア形成Ⅰ	1	☆※	キャリア形成Ⅱ	1	☆※	企業研究Ⅰ	1	☆※	企業研究Ⅱ	2	☆※	自治体研究	2	☆※	就活力Ⅰ	1	☆※	就活力Ⅱ	1	☆※	採用研究(民間企業)	1	☆※	採用研究(公務員)	1	☆※	文章表現A	2	◎	課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2	☆※	課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	☆※	TOEIC Practice A	1		TOEIC Practice B	1		教職基礎社会	2		教職文章表現	2		教職総合ベーシックⅠ	2		教職総合ベーシックⅡ	2		教職総合アドバンスⅠ	2		教職総合アドバンスⅡ	2		教職直前対策	2		教職教養対策	2		教育インターンシップⅠ	1	□	教育インターンシップⅡ	1	□	学校教育演習Ⅰ	2		学校教育演習Ⅱ	2		授業科目	単位	備考	ロジカルシンキング	2		ロジカルコミュニケーション	2	
授業科目	単位	備考																																																																																																								
ロジカルシンキング	2	☆※																																																																																																								
ロジカルコミュニケーション	2	☆※																																																																																																								
社会教養基礎	2	☆※																																																																																																								
数学教養基礎	2	☆※																																																																																																								
キャリアデザイン	2	☆※																																																																																																								
キャリア形成Ⅰ	1	☆※																																																																																																								
キャリア形成Ⅱ	1	☆※																																																																																																								
企業研究Ⅰ	1	☆※																																																																																																								
企業研究Ⅱ	2	☆※																																																																																																								
自治体研究	2	☆※																																																																																																								
就活力Ⅰ	1	☆※																																																																																																								
就活力Ⅱ	1	☆※																																																																																																								
採用研究(民間企業)	1	☆※																																																																																																								
採用研究(公務員)	1	☆※																																																																																																								
文章表現A	2	◎																																																																																																								
課題発見・解決演習(子どもイベント編)	2	☆※																																																																																																								
課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)	2	☆※																																																																																																								
TOEIC Practice A	1																																																																																																									
TOEIC Practice B	1																																																																																																									
教職基礎社会	2																																																																																																									
教職文章表現	2																																																																																																									
教職総合ベーシックⅠ	2																																																																																																									
教職総合ベーシックⅡ	2																																																																																																									
教職総合アドバンスⅠ	2																																																																																																									
教職総合アドバンスⅡ	2																																																																																																									
教職直前対策	2																																																																																																									
教職教養対策	2																																																																																																									
教育インターンシップⅠ	1	□																																																																																																								
教育インターンシップⅡ	1	□																																																																																																								
学校教育演習Ⅰ	2																																																																																																									
学校教育演習Ⅱ	2																																																																																																									
授業科目	単位	備考																																																																																																								
ロジカルシンキング	2																																																																																																									
ロジカルコミュニケーション	2																																																																																																									

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (略)					旧 (略)							
「高等学校教諭」課程（「公民」）					「高等学校教諭」課程（「公民」）							
高等学校一種免（公民）・教科及び教科の指導法に関する科目					高等学校一種免（公民）・教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			施行規則に定める科目区分等		本学設置科目					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数			
			必	選					必	選		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法と社会A	2	国際法を含む。	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法と社会A	2	国際法を含む。		
			法と社会B	2				法と社会B	2			
		自治体行政論A	2	国際政治を含む。	自治体行政論A		2					
		自治体行政論B	2		自治体行政論B		2					
		政治学A	2	国際政治を含む。	政治学A		2					
		政治学B	2		政治学B		2					
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	国際経済を含む。	経済学概論A	2		必修12単位に加え、選択科目すべての内から22単位以上を履修すること	国際経済を含む。	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	経済学概論A	2	必修12単位に加え、選択科目すべての内から22単位以上を履修すること
				経済学概論B	2					経済学概論B	2	
				都市社会学A	2					都市社会学A	2	
				都市社会学B	2					都市社会学B	2	
ジェンダー論（総合講座）A	2			ジェンダー論（総合講座）A	2							
ジェンダー論（総合講座）B	2			ジェンダー論（総合講座）B	2							
環境と社会（総合講座）A	2			環境と社会（総合講座）A	2							
環境と社会（総合講座）B	2			環境と社会（総合講座）B	2							
国際社会学A	2			国際社会学A	2							
国際社会学B	2			国際社会学B	2							
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	国際社会学A	倫理学概論A	2	国際社会学B	国際社会学A	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	倫理学概論A	2	国際社会学B			
		倫理学概論B	2				倫理学概論B	2				
		心理学概論	2				カウンセリング論	2				
		臨床心理学概論	2				心理学的支援法	2				
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」		社会科教育法II（公民）	4			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」		社会科教育法II（公民）	4			
必要履修単位数			38単位		必要履修単位数			38単位				

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新		旧																																																																																																																															
(削除)		<p>「高等学校教諭」課程（「福祉」）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">高等学校一種免（福祉）・教科及び教科の指導法に関する科目</th> </tr> <tr> <th colspan="2">施行規則に定める科目区分等</th> <th colspan="3">本学設置科目</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">科目区分</th> <th rowspan="2">各科目に含めることが必要な事項</th> <th rowspan="2">授業科目</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">履修方法等</th> </tr> <tr> <th>必</th> <th>選</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">教科及び教科の指導法に関する科目</td> <td rowspan="7">社会福祉学（職業指導を含む。）</td> <td>社会福祉概論</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="7">職業指導を含む。 いずれか1科目 選択必修</td> </tr> <tr> <td>社会福祉政策論</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会保障論Ⅰ</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会保障論Ⅱ</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>公的扶助論</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域福祉論Ⅰ</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域福祉論Ⅱ</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉</td> <td>高齢者福祉論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>子ども家庭福祉論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>障害者福祉論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">社会福祉援助技術</td> <td>ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護理論・介護技術</td> <td>介護概論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）</td> <td>社会福祉総合実習</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉総合実習指導</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解</td> <td>人体の構造と機能及び疾病</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加齢に関する理解・障害に関する理解</td> <td>生涯発達と教育</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）</td> <td>福祉科教育法A</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>福祉科教育法B</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">必要履修単位数</td> <td>39単位</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				高等学校一種免（福祉）・教科及び教科の指導法に関する科目					施行規則に定める科目区分等		本学設置科目			科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等	必	選	教科及び教科の指導法に関する科目	社会福祉学（職業指導を含む。）	社会福祉概論	2		職業指導を含む。 いずれか1科目 選択必修	社会福祉政策論	2		社会保障論Ⅰ		2	社会保障論Ⅱ		2	公的扶助論		2	地域福祉論Ⅰ		2	地域福祉論Ⅱ		2	高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉	高齢者福祉論	2			子ども家庭福祉論	2			障害者福祉論	2			社会福祉援助技術	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2			介護理論・介護技術	介護概論	2			社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	社会福祉総合実習	3			社会福祉総合実習指導	2			人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	人体の構造と機能及び疾病	2			加齢に関する理解・障害に関する理解	生涯発達と教育	2			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	福祉科教育法A	2			福祉科教育法B	2			必要履修単位数			39単位	
高等学校一種免（福祉）・教科及び教科の指導法に関する科目																																																																																																																																	
施行規則に定める科目区分等		本学設置科目																																																																																																																															
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		履修方法等																																																																																																																												
			必	選																																																																																																																													
教科及び教科の指導法に関する科目	社会福祉学（職業指導を含む。）	社会福祉概論	2		職業指導を含む。 いずれか1科目 選択必修																																																																																																																												
		社会福祉政策論	2																																																																																																																														
		社会保障論Ⅰ		2																																																																																																																													
		社会保障論Ⅱ		2																																																																																																																													
		公的扶助論		2																																																																																																																													
		地域福祉論Ⅰ		2																																																																																																																													
		地域福祉論Ⅱ		2																																																																																																																													
	高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉	高齢者福祉論	2																																																																																																																														
		子ども家庭福祉論	2																																																																																																																														
		障害者福祉論	2																																																																																																																														
社会福祉援助技術	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2																																																																																																																															
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2																																																																																																																															
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2																																																																																																																															
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2																																																																																																																															
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2																																																																																																																															
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2																																																																																																																															
介護理論・介護技術	介護概論	2																																																																																																																															
社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	社会福祉総合実習	3																																																																																																																															
	社会福祉総合実習指導	2																																																																																																																															
人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	人体の構造と機能及び疾病	2																																																																																																																															
加齢に関する理解・障害に関する理解	生涯発達と教育	2																																																																																																																															
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目																																																																																																																																	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	福祉科教育法A	2																																																																																																																															
	福祉科教育法B	2																																																																																																																															
必要履修単位数			39単位																																																																																																																														

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新 (略)						旧 (略)																																																																																																																																																																																													
教育学部						教育学部																																																																																																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17">教育学科</td> <td rowspan="17">教養科目</td> <td>宗教学 A</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="17">「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修</td> </tr> <tr><td>宗教学 B</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>日本国憲法</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>社会学入門</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>現代社会を学ぶ</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>心理学 I</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>心理学 II</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>同和教育</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>英語 B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語入門 A</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語入門 B</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>フランス語入門 A</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>フランス語入門 B</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>中国語入門 A</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>中国語入門 B</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>朝鮮語入門 A</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>朝鮮語入門 B</td><td></td><td>1</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>体育(講義を含む) 生涯発達と教育</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	教養科目	宗教学 A		2	「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修	宗教学 B		2	日本国憲法		2	社会学入門		2	現代社会を学ぶ		2	心理学 I		2	心理学 II		2	同和教育		2	英語 A (コミュニケーション)		1	英語 B (コミュニケーション)		1	ドイツ語入門 A		1	ドイツ語入門 B		1	フランス語入門 A		1	フランス語入門 B		1	中国語入門 A		1	中国語入門 B		1	朝鮮語入門 A		1	朝鮮語入門 B		1			体育(講義を含む) 生涯発達と教育	2	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学科</td> <td rowspan="2">保育実習</td> <td>保育所実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総合演習</td> <td>基礎ゼミ II</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育実習	保育所実習	2			施設実習	2				総合演習	基礎ゼミ II	2			<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17">教育学科</td> <td rowspan="17">教養科目</td> <td>宗教学 A</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="17">「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修</td> </tr> <tr><td>宗教学 B</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>日本国憲法</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>社会学 A</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>社会学 B</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>心理学 I</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>心理学 II</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>同和教育</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 I A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>英語 I B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語 I A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語 I B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>フランス語 I A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>フランス語 I B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>中国語 I A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>中国語 I B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>朝鮮語 I A (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>朝鮮語 I B (コミュニケーション)</td><td></td><td>1</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>体育(講義を含む) 生涯発達と教育</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	教養科目	宗教学 A		2	「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修	宗教学 B		2	日本国憲法		2	社会学 A		2	社会学 B		2	心理学 I		2	心理学 II		2	同和教育		2	英語 I A (コミュニケーション)		1	英語 I B (コミュニケーション)		1	ドイツ語 I A (コミュニケーション)		1	ドイツ語 I B (コミュニケーション)		1	フランス語 I A (コミュニケーション)		1	フランス語 I B (コミュニケーション)		1	中国語 I A (コミュニケーション)		1	中国語 I B (コミュニケーション)		1	朝鮮語 I A (コミュニケーション)		1	朝鮮語 I B (コミュニケーション)		1			体育(講義を含む) 生涯発達と教育	2	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学科</td> <td rowspan="2">保育実習</td> <td>保育所実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総合演習</td> <td>基礎ゼミ II</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育実習	保育所実習	2			施設実習	2				総合演習	基礎ゼミ II	2												
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	教養科目	宗教学 A		2	「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修																																																																																																																																																																																														
		宗教学 B		2																																																																																																																																																																																															
		日本国憲法		2																																																																																																																																																																																															
		社会学入門		2																																																																																																																																																																																															
		現代社会を学ぶ		2																																																																																																																																																																																															
		心理学 I		2																																																																																																																																																																																															
		心理学 II		2																																																																																																																																																																																															
		同和教育		2																																																																																																																																																																																															
		英語 A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		英語 B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		ドイツ語入門 A		1																																																																																																																																																																																															
		ドイツ語入門 B		1																																																																																																																																																																																															
		フランス語入門 A		1																																																																																																																																																																																															
		フランス語入門 B		1																																																																																																																																																																																															
		中国語入門 A		1																																																																																																																																																																																															
		中国語入門 B		1																																																																																																																																																																																															
		朝鮮語入門 A		1																																																																																																																																																																																															
朝鮮語入門 B		1																																																																																																																																																																																																	
		体育(講義を含む) 生涯発達と教育	2	2																																																																																																																																																																																															
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育実習	保育所実習	2																																																																																																																																																																																																
		施設実習	2																																																																																																																																																																																																
	総合演習	基礎ゼミ II	2																																																																																																																																																																																																
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	教養科目	宗教学 A		2	「体育(講義を含む)」を含め 8 単位以上選択必修																																																																																																																																																																																														
		宗教学 B		2																																																																																																																																																																																															
		日本国憲法		2																																																																																																																																																																																															
		社会学 A		2																																																																																																																																																																																															
		社会学 B		2																																																																																																																																																																																															
		心理学 I		2																																																																																																																																																																																															
		心理学 II		2																																																																																																																																																																																															
		同和教育		2																																																																																																																																																																																															
		英語 I A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		英語 I B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		ドイツ語 I A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		ドイツ語 I B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		フランス語 I A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		フランス語 I B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		中国語 I A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		中国語 I B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
		朝鮮語 I A (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																															
朝鮮語 I B (コミュニケーション)		1																																																																																																																																																																																																	
		体育(講義を含む) 生涯発達と教育	2	2																																																																																																																																																																																															
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育実習	保育所実習	2																																																																																																																																																																																																
		施設実習	2																																																																																																																																																																																																
	総合演習	基礎ゼミ II	2																																																																																																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17">教育学科</td> <td rowspan="17">保育の本質・目的に関する科目</td> <td>保育原理 I</td> <td>2</td> <td></td> <td rowspan="17">6 単位以上選択必修</td> </tr> <tr><td>教育原理</td><td>2</td></tr> <tr><td>子ども家庭福祉</td><td>2</td></tr> <tr><td>社会福祉</td><td>2</td></tr> <tr><td>子ども家庭支援論</td><td>2</td></tr> <tr><td>社会的養護 I</td><td>2</td></tr> <tr><td>教職論</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="5">理解に関する科目</td> <td>保育の心理学</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>子ども家庭支援の心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの理解と援助</td><td>1</td></tr> <tr><td>子どもの保健</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの食と栄養</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="10">保育の内容・方法に関する科目</td> <td>幼児教育課程論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>保育内容総論</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(健康)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(人間関係)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(環境)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(言葉)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(表現)</td><td>2</td></tr> <tr><td>ピアノ I A</td><td>1</td></tr> <tr><td>ピアノ I B</td><td>1</td></tr> <tr><td>保育内容の理解と方法</td><td>2</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 II</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子どもの健康と安全</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>障害児保育</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>社会的養護 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子育て支援</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 I	2		6 単位以上選択必修	教育原理	2	子ども家庭福祉	2	社会福祉	2	子ども家庭支援論	2	社会的養護 I	2	教職論	2	理解に関する科目	保育の心理学	2			子ども家庭支援の心理学	2	子どもの理解と援助	1	子どもの保健	2	子どもの食と栄養	2	保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2			保育内容総論	2	保育内容(健康)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(言葉)	2	保育内容(表現)	2	ピアノ I A	1	ピアノ I B	1	保育内容の理解と方法	2			乳児保育 I	2				乳児保育 II	1				子どもの健康と安全	2				障害児保育	2				社会的養護 II	2				子育て支援	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学科</td> <td rowspan="2">保育の本質・目的に関する科目</td> <td>保育原理 II</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="17">6 単位以上選択必修</td> </tr> <tr> <td>知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">理解に関する科目</td> <td>保育の心理学</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>子ども家庭支援の心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの理解と援助</td><td>1</td></tr> <tr><td>子どもの保健</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの食と栄養</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="10">保育の内容・方法に関する科目</td> <td>幼児教育課程論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>保育内容総論</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(健康)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(人間関係)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(環境)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(言葉)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(表現)</td><td>2</td></tr> <tr><td>ピアノ I A</td><td>1</td></tr> <tr><td>ピアノ I B</td><td>1</td></tr> <tr><td>保育内容の理解と方法</td><td>2</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 II</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子どもの健康と安全</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>障害児保育</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>社会的養護 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子育て支援</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 II		2	6 単位以上選択必修	知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族		2	理解に関する科目	保育の心理学	2			子ども家庭支援の心理学	2	子どもの理解と援助	1	子どもの保健	2	子どもの食と栄養	2	保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2			保育内容総論	2	保育内容(健康)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(言葉)	2	保育内容(表現)	2	ピアノ I A	1	ピアノ I B	1	保育内容の理解と方法	2			乳児保育 I	2				乳児保育 II	1				子どもの健康と安全	2				障害児保育	2				社会的養護 II	2				子育て支援	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学科</td> <td rowspan="2">保育実習</td> <td>保育所実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総合演習</td> <td>基礎ゼミ II</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育実習	保育所実習	2			施設実習	2				総合演習	基礎ゼミ II	2		
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 I	2		6 単位以上選択必修																																																																																																																																																																																														
		教育原理	2																																																																																																																																																																																																
		子ども家庭福祉	2																																																																																																																																																																																																
		社会福祉	2																																																																																																																																																																																																
		子ども家庭支援論	2																																																																																																																																																																																																
		社会的養護 I	2																																																																																																																																																																																																
		教職論	2																																																																																																																																																																																																
		理解に関する科目	保育の心理学	2																																																																																																																																																																																															
			子ども家庭支援の心理学	2																																																																																																																																																																																															
			子どもの理解と援助	1																																																																																																																																																																																															
			子どもの保健	2																																																																																																																																																																																															
			子どもの食と栄養	2																																																																																																																																																																																															
		保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容総論	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(健康)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(人間関係)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(環境)	2																																																																																																																																																																																															
保育内容(言葉)	2																																																																																																																																																																																																		
保育内容(表現)	2																																																																																																																																																																																																		
ピアノ I A	1																																																																																																																																																																																																		
ピアノ I B	1																																																																																																																																																																																																		
保育内容の理解と方法	2																																																																																																																																																																																																		
		乳児保育 I	2																																																																																																																																																																																																
		乳児保育 II	1																																																																																																																																																																																																
		子どもの健康と安全	2																																																																																																																																																																																																
		障害児保育	2																																																																																																																																																																																																
		社会的養護 II	2																																																																																																																																																																																																
		子育て支援	2																																																																																																																																																																																																
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 II		2	6 単位以上選択必修																																																																																																																																																																																														
		知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族		2																																																																																																																																																																																															
理解に関する科目	保育の心理学	2																																																																																																																																																																																																	
	子ども家庭支援の心理学	2																																																																																																																																																																																																	
	子どもの理解と援助	1																																																																																																																																																																																																	
	子どもの保健	2																																																																																																																																																																																																	
	子どもの食と栄養	2																																																																																																																																																																																																	
保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容総論	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容(健康)	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容(人間関係)	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容(環境)	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容(言葉)	2																																																																																																																																																																																																	
	保育内容(表現)	2																																																																																																																																																																																																	
	ピアノ I A	1																																																																																																																																																																																																	
	ピアノ I B	1																																																																																																																																																																																																	
	保育内容の理解と方法	2																																																																																																																																																																																																	
		乳児保育 I	2																																																																																																																																																																																																
		乳児保育 II	1																																																																																																																																																																																																
		子どもの健康と安全	2																																																																																																																																																																																																
		障害児保育	2																																																																																																																																																																																																
		社会的養護 II	2																																																																																																																																																																																																
		子育て支援	2																																																																																																																																																																																																
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育実習	保育所実習	2																																																																																																																																																																																																
		施設実習	2																																																																																																																																																																																																
	総合演習	基礎ゼミ II	2																																																																																																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17">教育学科</td> <td rowspan="17">保育の本質・目的に関する科目</td> <td>保育原理 II</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="17">6 単位以上選択必修</td> </tr> <tr> <td>知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">理解に関する科目</td> <td>保育の心理学</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>子ども家庭支援の心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの理解と援助</td><td>1</td></tr> <tr><td>子どもの保健</td><td>2</td></tr> <tr><td>子どもの食と栄養</td><td>2</td></tr> <tr> <td rowspan="10">保育の内容・方法に関する科目</td> <td>幼児教育課程論</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>保育内容総論</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(健康)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(人間関係)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(環境)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(言葉)</td><td>2</td></tr> <tr><td>保育内容(表現)</td><td>2</td></tr> <tr><td>ピアノ I A</td><td>1</td></tr> <tr><td>ピアノ I B</td><td>1</td></tr> <tr><td>保育内容の理解と方法</td><td>2</td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 I</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>乳児保育 II</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子どもの健康と安全</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>障害児保育</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>社会的養護 II</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>子育て支援</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 II		2	6 単位以上選択必修	知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族		2	理解に関する科目	保育の心理学	2			子ども家庭支援の心理学	2	子どもの理解と援助	1	子どもの保健	2	子どもの食と栄養	2	保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2			保育内容総論	2	保育内容(健康)	2	保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2	保育内容(言葉)	2	保育内容(表現)	2	ピアノ I A	1	ピアノ I B	1	保育内容の理解と方法	2			乳児保育 I	2				乳児保育 II	1				子どもの健康と安全	2				障害児保育	2				社会的養護 II	2				子育て支援	2		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>保育士に関する科目</th> <th>授業科目</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育学科</td> <td rowspan="2">保育実習</td> <td>保育所実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設実習</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総合演習</td> <td>基礎ゼミ II</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考	教育学科	保育実習	保育所実習	2			施設実習	2				総合演習	基礎ゼミ II	2																																																																																													
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理 II		2	6 単位以上選択必修																																																																																																																																																																																														
		知的障害者の心理・生理・病理 幼児理解の理論及び方法 (教育相談を含む) 病弱者の心理・生理・病理 子どもと絵本 子どもと植物 子どもと家族		2																																																																																																																																																																																															
		理解に関する科目	保育の心理学	2																																																																																																																																																																																															
			子ども家庭支援の心理学	2																																																																																																																																																																																															
			子どもの理解と援助	1																																																																																																																																																																																															
			子どもの保健	2																																																																																																																																																																																															
			子どもの食と栄養	2																																																																																																																																																																																															
		保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程論	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容総論	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(健康)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(人間関係)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(環境)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(言葉)	2																																																																																																																																																																																															
			保育内容(表現)	2																																																																																																																																																																																															
			ピアノ I A	1																																																																																																																																																																																															
			ピアノ I B	1																																																																																																																																																																																															
			保育内容の理解と方法	2																																																																																																																																																																																															
		乳児保育 I	2																																																																																																																																																																																																
		乳児保育 II	1																																																																																																																																																																																																
		子どもの健康と安全	2																																																																																																																																																																																																
		障害児保育	2																																																																																																																																																																																																
		社会的養護 II	2																																																																																																																																																																																																
		子育て支援	2																																																																																																																																																																																																
学科	保育士に関する科目	授業科目	必修	選択	備考																																																																																																																																																																																														
教育学科	保育実習	保育所実習	2																																																																																																																																																																																																
		施設実習	2																																																																																																																																																																																																
	総合演習	基礎ゼミ II	2																																																																																																																																																																																																

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	司書資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論 B	2		
		図書館概論	2		
		図書館情報技術論	2		
		図書館制度・経営論	2		
		図書館サービス概論	2		
		情報サービス論	2		
		児童サービス論	2		
		情報サービス演習 A	2		
		情報サービス演習 B	2		
		図書館情報資源概論	2		
		情報資源組織論	2		
		情報資源組織演習 A	2		
		情報資源組織演習 B	2		
		図書館基礎特論及び演習		2	
		図書館サービス特論及び演習		2	
		図書館情報資源特論及び演習		2	
		図書館実習		2	

(略)

旧

文学部・教育学部・人間社会学部

学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 共 通	司書資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論 B	2		
		図書館概論	2		
		図書館情報技術論	2		
		図書館制度・経営論	2		
		図書館サービス概論	2		
		情報サービス論	2		
		児童サービス論	2		
		情報サービス演習 A	2		
		情報サービス演習 B	2		
		図書館情報資源概論	2		
		情報資源組織論	2		
		情報資源組織演習 A	2		
		情報資源組織演習 B	2		
		図書館基礎特論及び演習		2	
		図書館サービス特論及び演習		2	
		図書館情報資源特論及び演習		2	
		図書館実習		2	

(略)

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新						旧							
文学部・教育学部・人間社会学部						文学部・教育学部・人間社会学部							
学 科	授 業 科 目		必修	選択 必修	選択	備 考	学 科	授 業 科 目		必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	学校司書資格に 関する専門科目	学校経営と学校図書館	2				日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 共 通	学校司書資格に 関する専門科目	学校経営と学校図書館	2			
		図書館情報技術論	2						図書館情報技術論	2			
		図書館情報資源概論	2						図書館情報資源概論	2			
		情報資源組織論	2						情報資源組織論	2			
		情報資源組織演習 A	2						情報資源組織演習 A	2			
		情報資源組織演習 B	2						情報資源組織演習 B	2			
		学校図書館サービス論	2						学校図書館サービス論	2			
		情報サービス論	2						情報サービス論	2			
		学校教育概論		2					学校教育概論		2		学校教育概論の 1 科目、もしくは教育原理、教育心理学および特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援の 3 科目を修得しなければならない。
		教育原理		2					教育原理		2		学校教育概論の 1 科目、もしくは教育原理、教育心理学および特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援の 3 科目を修得しなければならない。
		教育心理学		2					教育心理学		2		
		特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援		2					特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と支援		2		
		学習指導と学校図書館		2					学習指導と学校図書館		2		
		読書と豊かな人間性		2					読書と豊かな人間性		2		

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新						旧					
文学部・教育学部・人間社会学部						文学部・教育学部・人間社会学部					
学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考	学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	学芸員資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論 A	2		9 科目 19 単位を 修得しなければ ならない。	日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 共 通	学芸員資格に関する 専 門 科 目	生涯学習概論 A	2		9 科目 19 単位を 修得しなければ ならない。
		博物館概論	2					博物館概論	2		
		博物館経営論	2					博物館経営論	2		
		博物館資料論	2					博物館資料論	2		
		博物館資料保存論	2					博物館資料保存論	2		
		博物館展示論	2					博物館展示論	2		
		博物館教育論	2					博物館教育論	2		
		博物館情報・メディア 論	2					博物館情報・メディア 論	2		
		博物館実習	3					博物館実習	3		
	考古学		2	選択必修科目か ら考古学 2 単位 を含む 4 科目 8 単位以上を修得 のこと。	考古学		2	選択必修科目か ら考古学 2 単位 を含む 4 科目 8 単位以上を修得 のこと。			
	日本文化史 A		2		日本文化史 A		2				
	日本文化史 B		2		日本文化史 B		2				
	東洋文化史 A		2		東洋文化史 A		2				
	東洋文化史 B		2		東洋文化史 B		2				
	西洋文化史 A		2		西洋文化史 A		2				
	西洋文化史 B		2		西洋文化史 B		2				
	文化人類学		2		文化人類学		2				
	美術史		2		美術史		2				
	日本民俗学 A		2		日本民俗学 A		2				
日本民俗学 B		2	日本民俗学 B		2						
自然科学史		2	自然科学史		2						
宇宙・地球・生命の歴 史		2	宇宙・地球・生命の歴 史		2						
ヒトと環境		2	ヒトと環境		2						

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新						旧								
文学部・教育学部・人間社会学部						文学部・教育学部・人間社会学部								
学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考	学 科	授 業 科 目	必修	選択 必修	選択	備 考			
日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 心理・福祉学科 共 通	社会教育主事に 関する専門科目	生涯学習概論 A	2			日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科	生涯学習概論 A	2						
		生涯学習概論 B	2											
		生涯学習支援論 A	2											
		生涯学習支援論 B	2											
		社会教育経営論 A	2											
		社会教育経営論 B	2											
	共 通	現代社会と人権(総合講 座)A		2	8 単位以上選択	日本語日本文学科 歴史文化学科 教育学科 人間社会学科 スポーツ健康学科 共 通	現代社会と人権(総合講 座)A		2	8 単位以上選択				
		現代社会と人権(総合講 座)B		2										
		図書館概論		2										
		博物館概論		2										
		生涯学習特講		2										
		教育原理		2										
		教育心理学		2										
		社会教育実習	1											
		社会教育演習	2											
		図書館実習		2			1 単位以上選択	現代社会と人権(総合講 座)B				2	1 単位以上選択	
		博物館実習		3										
		地域文化論 A		2										
		地域文化論 B		2										
地域福祉論 I		2												

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新						旧						
人間社会学部						人間社会学部						
学科	授業科目	必修	選択必修	選択	備考	学科	授業科目	必修	選択必修	選択	備考	
心理・福祉学	社会福祉士に関する専門科目	社会福祉概論	2			人間社会学科	社会福祉士に関する専門科目	社会福祉概論	2			
		社会福祉政策論	2				社会福祉政策論	2				
		高齢者福祉論	2				高齢者福祉論	2				
		障害者福祉論	2				障害者福祉論	2				
		子ども家庭福祉論	2				子ども家庭福祉論	2				
		社会保障論Ⅰ	2				社会保障論Ⅰ	2				
		社会保障論Ⅱ	2				社会保障論Ⅱ	2				
		貧困に対する支援	2				公的扶助論	2				
		地域福祉論Ⅰ	2				地域福祉論Ⅰ	2				
		地域福祉論Ⅱ	2				地域福祉論Ⅱ	2				
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2				ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2				
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2				ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2				ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2				ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2				ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2				
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2				ソーシャルワーク演習Ⅲ	2				
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2				ソーシャルワーク演習Ⅳ	2				
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2			ソーシャルワーク演習Ⅴ	2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2						
	ソーシャルワーク実習	8			ソーシャルワーク実習	8						
	人体の構造と機能及び疾病	2			人体の構造と機能及び疾病	2						
	心理学概論	2			心理学概論	2						
	社会学概論A	2			社会学A	2						
	社会学概論B	2			社会学B	2						
	権利擁護と成年後見論	2			権利擁護と成年後見論	2						
	司法福祉論	2			司法福祉論	2						
	医療福祉論	2			医療福祉論	2						
社会福祉調査論	2			社会福祉調査論	2							
福祉経営論	2			福祉経営論	2							

大阪大谷大学学則の変更部分の新旧対照表

新		旧		
別表 2 入学検定料・納付金		別表 2 入学検定料・納付金		
種別	金額	種別	金額	
入学検定料 (公募制推薦・一般利用の場合) (大学入学共通テスト利用の場合)	35,000円 (30,000円) (10,000円)	入学検定料 (公募制推薦・一般利用の場合) (大学入学共通テスト利用の場合)	35,000円 (30,000円) (10,000円)	
入学金	文学部・教育学部・人間社会学部	320,000円	文学部・教育学部・人間社会学部	320,000円
	薬学部	400,000円	薬学部	400,000円
	教育専攻科	200,000円	教育専攻科	200,000円
授業料	文学部・教育学部・人間社会学部	910,000円(年額)	文学部・教育学部・人間社会学部	910,000円(年額)
	薬学部	1,410,000円(年額)	薬学部	1,410,000円(年額)
	教育専攻科	500,000円(年額)	教育専攻科	500,000円(年額)
施設費	文学部	200,000円(年額)	文学部	200,000円(年額)
	日本語日本文学科		日本語日本文学科	
	歴史文化学科		歴史文化学科	
	教育学部	210,000円(年額)	教育学部	210,000円(年額)
	教育学科		教育学科	
	人間社会学部	200,000円(年額)	人間社会学部	200,000円(年額)
	人間社会学科		人間社会学科	
	スポーツ健康学科		スポーツ健康学科	
	心理・福祉学科	400,000円(年額)	薬学部	400,000円(年額)
	薬学部		薬学科	
薬学科	薬学科			
教育専攻科	100,000円(年額)	教育専攻科	100,000円(年額)	
履修料(科目等履修生)	10,000円(1単位)	履修料(科目等履修生)	10,000円(1単位)	
聴講料(聴講生)	14,000円(通年)	聴講料(聴講生)	14,000円(通年)	
	7,000円(半期)		7,000円(半期)	
検定料(薬学部研究生)	10,000円	検定料(薬学部研究生)	10,000円	
研究料(薬学部研究生)	20,000円(月額)	研究料(薬学部研究生)	20,000円(月額)	
在籍料(休学中の納付金) 文学部・教育学部・人間社会学部・薬学部	60,000円(各期)	在籍料(休学中の納付金) 文学部・教育学部・人間社会学部・薬学部	60,000円(各期)	
別表 3		別表 3		
公募制推薦((前期)A日程・(前期)B日程・(後期))		公募制推薦((前期)A日程・(前期)B日程・(後期))		
特別推薦入試(専門学科・総合学科対象)		特別推薦入試(専門学科・総合学科対象)		
一般(前期・中期・後期)		一般(前期・中期・後期)		
大学入学共通テスト利用(前期・中期・後期)		大学入学共通テスト利用(前期・中期・後期)		
社会人		社会人		
編入学一般		編入学一般		
編入学学士(学内・一般)		編入学学士(学内・一般)		
編入学社会人		編入学社会人		
外国人留学生(前期・後期)		外国人留学生(前期・後期)		
編入学外国人留学生		編入学外国人留学生		

設置の趣旨等を記載した書類

【目次】

1. 設置の趣旨及び必要性	P.2
2. 学部・学科等の特色	P.5
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	P.7
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	P.8
5. 教育方法，履修指導方法及び卒業要件	P.14
6. 多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の 具体的計画	P.19
7. 実習の具体的計画	P.20
8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する 場合の具体的計画	P.26
9. 取得可能な資格	P.29
10. 入学者選抜の概要	P.30
11. 教員組織の編製の考え方及び特色	P.33
12. 研究の実施についての考え方，体制，取組	P.35
13. 施設，設備等の整備計画	P.36
14. 管理運営及び事務組織	P.38
15. 自己点検・評価	P.39
16. 情報の公表	P.40
17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.41
18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.42

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 大阪大谷大学および人間社会学部人間社会学科の沿革

① 大学全体の沿革

大阪大谷大学（以下、「本学」という）は、1909（明治42）年4月に開校した「大谷裁縫女学校」を前身とし、1966（昭和41）年4月に文学部国文学科および英文学科の1学部2学科で開設された。大乘仏教の精神に基づく大学として「報恩感謝」を建学の精神に掲げ、それを具体化する「自立」「創造」「共生」という教育理念の下、「学識、情操、品性にすぐれた人材を育成し、もって社会の発展と文化の向上に寄与する」（大阪大谷大学学則第1条）ことを社会的使命としてきた。

その後、本学は、上記の基本理念に則りつつ、社会の動向に応じて、本学が取り組む教育研究の内容と範囲を拡充する努力を続け、2006（平成18）年には、長く培ってきた女子教育の伝統を基盤としながら男子学生にも門戸を開き、共学の道を歩み始めた。今日では、文学部（日本語日本文学科、歴史文化学科）、教育学部（教育学科）、人間社会学部（人間社会学科、スポーツ健康学科）、薬学部（薬学科）の4学部6学科を設置するに至った。

② 人間社会学部人間社会学科の沿革

人間社会学部（以下、「本学部」と表記する）の前身は、2000（平成12）年4月に開設した文学部コミュニティ関係学科である。コミュニティ関係学科の設立は、急速に変化する地域社会とそこから生まれる多様なコミュニティを研究対象とし、理論的・実践的な学習をつうじて社会の課題に積極的に関わることができる人材の育成を目的とし、4領域（①地域ネットワーク、②情報コミュニティ、③図書館文化、④コミュニティスポーツ）を設け、学生と社会のニーズに応じてきた。

その後、2005（平成17）年4月に開設された本学部人間社会学科においては、「人と社会」の新しい関係を科学の視点から探究することを通して、自立しながらかつ他者と共生できる、社会に有為な人材を育成することを目的とし、①コミュニティ（地域・国際）、②情報・ビジネス、③心理・カウンセリング、④健康・スポーツの4コースを設けた。そして、健康・スポーツコースを軸としてスポーツ健康学科を設立した2012（平成24）年以降、人間社会学科は、①現代社会コース、②経営情報コース、③心理コース、④社会福祉コースの4コース制をとっている。

人間社会学科心理コースでは、対人援助やビジネスの実践において求められる心理学的な社会生活スキルの修得を目指してきた。従来から設置されてきた学会認定資格である臨床心理士の取得に向けた教育プログラムに加えて、2018（平成30）年以降は、新しい国家資格である公認心理師への対応も可能な教育プログラムへと展開し、臨床心理士・公認心理師養成大学院への進学や公認心理師実務経験実施施設（公認心理師法第7条第2号に規定する施設）への就職に対する支援を充実させてきている。

また、人間社会学科社会福祉コースでも、同様に対人援助やビジネス分野において、社会学・社会福祉学的理解に基づき課題を発見し解決する対人援助・地域援助技術の獲得を目指してきた。2019（令和元）年には、従来から設置されてきた国家資格の社会福祉士養成課程に加えて、スクール（学校）ソーシャルワーカー養成課程（日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定。以下、スクールソーシャルワーカーをSSWと表記する）を設置するなど、卒業後、乳幼児から高齢期まで、すべてのライフステージにおいて横断的に専門職として活動展開していけるよう、保健医療・社会福祉・教育・行政関連機関等への就職支援を充実させてきている。

(2) 心理・福祉学科設置の必要性

現在の4コース体制の整備を行った2012(平成24)年以来、10年が経過したため、あらためて人間社会学科の成果や課題、さらには最近の社会動向や学生ニーズについて検討を行った。結果、以下3つに分けて説明する理由から、本学部人間社会学科の心理コース・社会福祉コースを軸にして本学部内に心理・福祉学科を設置することとした。

第一に、昨今の社会的変化から生じる必要性である。日本社会は、2000年代前後、グローバル化に伴う激しい国際競争の下、雇用の非正規化が進み、(子どもを含む)貧困の顕在化が指摘されるようになってきた。また、人口の減少や高齢化もあり、地域社会の弱体化や人間関係の希薄化、個人の孤立化も加速的に進行するようになっている。こうした構造的な課題の上に、現在、新型コロナウイルスの流行や、ロシアによるウクライナ侵攻という地政学的危機、デジタルトランスフォーメーションといった諸要因が複雑に絡み合い、人々の生活のさらなる不安定化、それゆえに、メンタルヘルスや社会福祉上の課題の広範化と深刻化が生起している。今後は、より多くの、専門性の高い心理・福祉人材を輩出する必要がある。

第二に、専門性の高い心理・福祉人材のニーズの増加を反映し、心理・福祉人材に求められる学際性の再考とそれを踏まえたカリキュラムを有する学科設置の必要性である。本学部人間社会学科は、既述のとおり、心理コースや社会福祉コースのほか、社会科学系のコースを有し、これらのコースが連携して学際性あるカリキュラムを提供してきた。しかし、本学部人間社会学科の心理コース・社会福祉コースで学んできた学生による学びは、実際には学際性において一定の制約があった。具体的に言えば、公認心理師や社会福祉士の養成課程として求められる専門教育がボリュームを増す一方で、学際的な学びに関する科目の履修はアトランダムなものになりがちであった。今後は、心理学や社会福祉学を学ぶ学生が得べき社会科学的知識・スキルを精査し、より系統的な学際性を念頭においたカリキュラムを有する学科の設置が求められている。

第三に、学生ニーズの多様性に対する、より制度化された対応の必要性である。本学部人間社会学科のこれまでの経験によると、心理コース・社会福祉コースの学生が志望する進路は多様である。いずれのコースに所属する学生も、それぞれの分野の専門職として就職を志す者が一定数いる一方、一般企業への就職を志望する者も少なくない。そのため、今後は、心理学や社会福祉学の専門的知見が専門職以外の職業に就く学生にとってどのような付加価値をもたらすのかを踏まえ、非専門職志望の学生に向けた心理学・社会福祉学の専門教育カリキュラムを整備し、それに基づき学習機会を提供することが必要である。

(3) 心理・福祉学科において養成する人材像

本学部は、これまで、本学の建学の精神と教育理念に基づき、人と社会の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を養成することをつうじて、社会の発展と文化の向上に寄与することをその教育研究の目的としてきた。

心理・福祉学科においても、本学部の教育目的を継承しつつ、以下のような人材を養成することを目指す。

「人が生涯にわたり心身的及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材」

そして、上述の教育目的を達成するために、心理・福祉学科の学生が卒業までに獲得すべき資質・能力、

すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のように設定する。

【報恩感謝の心と幅広い教養】

- ・互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。
- ・文化や社会、自然に関する幅広い教養を身につけ、自己の存在と関連づけて理解できる。

【専門的な知識・技能】

- ・心理と福祉に関する諸課題に取り組むための専門的な知識・技能を修得している。

【問題解決能力】

- ・心理と福祉に関する諸課題を見つけ、多角的かつ論理的に分析して、解決策を企画することができる。
- ・自分の専門的知見を他者に分かりやすく説明し、心理と福祉に関する諸課題の解決に向けて協働することができる。

【自律的・主体的・共感的態度】

- ・心理と福祉に関する諸問題に関して深い関心を持ち、積極的に関与する態度を備えるとともに、多様な人々に共感的態度で接することができる。

【実践力】

- ・大学での学びをもとに、よりよい社会の創造と人々の幸福の実現のために、主体的かつ積極的に行動し、実社会で協働していく力を身につけている。

なお、5（3）において詳述するとおり、学位授与には、①学部にて4年以上在学すること、②教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、128単位以上を修得していること、③卒業論文を作成して審査に合格することが要件となっている。

また、上述の教育理念・目的やディプロマ・ポリシー、4で詳述するカリキュラム・ポリシー、10で詳述するアドミッション・ポリシーとの間の関係については、【資料1】にも示してあるが、基本的には、教育理念・目的を踏まえて設定した養成する人材像を5つの能力要素に分解し、これら能力要素の達成のために、科目の設置やその実施方法等、教育内容を決めるとともに、その能力要素の基礎条件としてアドミッション・ポリシーを設定している。

（4）組織として研究対象とする中心的な学問分野

心理・福祉学科では、（2）で記した学科設置をめぐる学内外の状況、（3）で記した学科の教育目的等を踏まえつつ、心理学と社会福祉学を中心的な学問分野として研究を行っていく。具体的には、公認心理師業務および社会福祉士業務に必要な学問分野が対象となる。

ただし、心理学の諸分野において、公認心理師に求められる資質・能力に一对一の関係で対応する「公認心理師学」というものは存在せず、実践的な心理支援法を支える臨床心理学を軸としつつ、医療、教育、福祉、産業、司法・犯罪の各領域で展開される学問分野が主たる方法論を提供するものとなる。もちろん、このような応用心理学は実証的な基礎心理学が土台になっており、その意味で、心理・福祉学科における心理学研究はとくに統計学的視点も不可欠なものとして取り込まれる。

上に見た、学問としての心理学と公認心理師との関係性は、社会福祉学と社会福祉士との関係性にも当てはまり、「社会福祉士学」というものも存在しない。社会福祉学は、個人への具体的な福祉支援に直接に資する実践的な知を提供するとともに、人権と正義を理念とする福祉社会の実現を目指し、他学問領域

で生まれた知見も活用しながら、個別の支援を、集団・組織と地域・社会の文脈・関係性のなかで〈ミクロメゾマクロ〉に体系化してきたものである。心理・福祉学科においては、社会福祉士による、個別の支援の充実と、より公正な社会の実現の両方を視野に入れた社会福祉学研究を追求していく。なお、心理学に関して上述した統計学的視点は、エビデンスに基づく思考と実践が求められる今日、社会福祉学研究においても重要であることは言うまでもない。

また、心理・福祉学科においては、心理学と社会福祉学とのシナジーがもつ可能性にも注目しながら、研究活動を行い、その結果を教育活動や社会貢献につなげていく。この2つの学問分野の相互作用がもたらす可能性としては、たとえば、以下のようなものがある。心理学、とくに社会心理学や産業心理学が有する集団力学（グループダイナミクス）に関する知見は、社会福祉学や社会学の知見と合わさることで、個々の人間（自己）と他者、社会との関係、家庭から地域コミュニティ、国家まで、さまざまな制度の諸相の分析において、より包括的で複眼的な視点を提供することができる。あるいは、コンサルテーション・リエゾンが唱えられる今日、異なる対人援助職間の連携がもつ重要性が強く認識されるようになっているが、心理・福祉学科においては、公認心理師と社会福祉士を含む多職種連携が個々人への支援と家族システムへの介入、コミュニティ援助をどのように包括的に進めていくのか、より効果的に研究を進めていくことができると期待される場所である。同様に、学生の関心が比較的高いスクールカウンセラーとSSWとの連携についても、心理学と社会福祉学が同一の学科内に存在することにより、より効果的に探求することができると思料される。

2. 学部・学科等の特色

（1）教育目的上の特色

これまで記してきたように、心理・福祉学科は、①心理学と社会福祉学という2つの学問領域における専門人材を輩出することを軸にしつつも、②心理学と社会福祉学、さらに異なる学問領域の諸特徴を相互補完的に融合させ、総体として、個々の人間のウェルビーイングと社会の発展の双方を追求しようとするものである。換言すれば、心理・福祉学科は、①心理学あるいは社会福祉学のいずれかに軸足を置きつつも、②心理的課題がいかなる社会的な背景を有し、その課題の解決・緩和にはどのような社会的制度・資源の活用が可能であるのか、福祉的な課題に対応する援助においてカウンセリング・マインドとスキルをもつことがどのような意義を有するのか、さらにはメンタルヘルスや育児・介護の負担が新たな経営リスクとして認識され、企業がこれらにどう対応するかがビジネスの生き残りを左右すると言われる今日、心理学や社会福祉学の知見がその他の学問分野が探求しようとする事象の分析や改善にどのような有効性をもつのか等を検討しながら、社会に貢献する人材を育成しようとするものである。このように設定された学科の教育目的はそれ自体が特徴的であると考えられる。

（2）教育内容上の特色

上述の教育目的を実現するために編成する教育内容としては、1の（1）で説明した本学部の沿革も踏まえ、以下の4つの特色がある。

ア. 初年次教育の継続・強化

2012（平成24）年、スポーツ健康学科の設立を機に、本学部においては、（学外の業者・非常勤講師等に委託するのではなく）円滑な科目運営を目指し、学部所属の専任教員のほぼ全員がかかわる形で「初年次教育ワークブック」を作成した。以来、省察と改訂を重ねながら、これを用いてスチューデントスキルとスタディスキルを陶冶する「基礎ゼミナールⅠ」他から構成される初年次教育プログラムを実施してき

た。心理・福祉学科でも、これを継承し、1年次において、大学での学びにとって必須である学生技術・学習技術を向上する取組を行う。この初年次教育プログラムにおいては、調べる技術、それに関連して、剽窃の問題を含む研究倫理の視点も学修する取組を行ってきており、心理・福祉学科でもこの内容を継承していく。

また、本学では、初年次教育の強化に取り組むとの方針を立て、2024（令和6）年から、学生間の人間関係の構築や、自身の汎用的能力の把握等を図るため、「新入生セミナー」という科目を全学的に開講することになっている。心理・福祉学科においても、この方針に沿い、同名称の科目を設置する。

さらに、昨今の大学教育のアクティブラーニング化を念頭に、心理・福祉学科の初年次教育プログラムでは追加的に「基礎コミュニケーション演習」という科目を開講することとしている。対人関係に不可欠な社会生活スキルの向上は心理学や社会福祉学の専門家だけでなく一般企業などで活躍する人材にも不可欠であり、SST（社会生活スキル訓練）の活用は初年次から重要であるとの考えからである。

イ. 専門性の担保

本学部人間社会学科の心理コースと社会福祉コースにおいては、それぞれ関連する法令にしたがい、公認心理師あるいは社会福祉士を養成する4年制大学の課程にふさわしいプログラムを形成・実施してきた。心理・福祉学科においても、これを継承する。

なお、将来、専門職として現場でより効果的に活躍することを目指して、国家資格の受験資格としては必須科目ではないものの、心理専門職や社会福祉専門職に不可欠なメンタルヘルスおよび問題解決の文脈からの方法論的な体系、たとえば、国際的に有効性が認められている認知行動療法や家族療法（とくに短期療法およびシステム論）の知見を教授するなど、内容を追加して教育課程を構成するようにする。

さらに、下のエ等においても記述するとおり、心理や社会福祉の分野の専門職ではなく、一般企業でのキャリアを志向する学生のニーズを踏まえ、彼らにとっての「専門性」を確保するため、心理学あるいは社会福祉学の基礎的理解を基盤としつつ、加えて、本学部の社会学系であるという特性を活かし、複雑な社会現象を的確に理解するためのカリキュラムや、実験や調査、そして、それらの方法によって得られたデータを分析する統計法を学ぶカリキュラム等も体系的に整備し、履修モデルとして提示している。

ウ. 体験型学習プログラムの充実

本学部人間社会学科においては、その前身である文学部コミュニティ関係学科以来、学内外での体験をつうじた主体的・対話的で深い学びを学生に提供してきた。当初は、3年次、民間企業や市民団体等を受入先として行う実習およびその前後の学習を科目化したものが軸となっていたが、最近では、2つの方向性をもって強化を図ってきた。心理・福祉学科では、この人間社会学科での取組を継承して教育実践に活かしていく。

第一の方向性とは、複数科目化して学外での学びの機会を量的に増やすとともに、質的にも系統化を進め、2年次の「社会研究実習（事前事後の指導を含む）」を学外での学びの「導入」として位置づけ、3年次以降、ジェネリックスキルをさらに向上させる「地域社会体験実習（市役所）」「グローバル社会体験実習」、心理・福祉分野の専門的な知識・スキル・態度を陶冶する「ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」「心理実習」につなげるというものである。

第二の方向性とは、学内で開講されている通常科目のアクティブラーニング化である。具体的には、ジェネリックスキルの向上を図るとともに、専門科目で学んだ知識・スキルを実際に活用して専門分野の理解の深化を目指し、学生が数名ずつで1つのチームを構成し教員から付与される課題に取り組むPBLを

取り込んだ科目を増やしてきた。心理・福祉学科で開講する科目のうち、これに該当する科目としては「課題発見・解決演習（地域コミュニティ編）」「課題発見・解決演習（子どもイベント編）」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅴ」「心理演習Ⅰ」「心理演習Ⅱ」「心理的アセスメント」などがある。

エ. 学際的な学びの系統化

1の(2)において既述したとおり、本学部人間社会学科の心理コース・社会福祉コースにおいては本学部の特徴である学際性を活かした教育に取り組んできたものの、心理学・社会福祉学分野における専門教育のボリュームの増加とともに、学生ニーズの多様化を考慮し、今後は学際的な学びの精選化・系統化が必要である。そのため、心理・福祉学科においては、「社会科学科目群」「情報・経営科目群」「社会調査士養成プログラム」「スポーツ健康系科目群」を設け、学際的な学びを系統的に提供することになっている。

「社会科学系科目群」では、教養教育ではなく専門教育の一部として、心理や生活上の諸課題が生じる背景となっている、国内外の社会的動向や取組をどのように考えればよいのか、理論的な理解を深め・広げる科目を精選して配置している。

「情報・経営科目群」では、心理分野や社会福祉分野の専門職に就く卒業生がそのミッドキャリアにおいて求められる知識・スキル、あるいは、心理学や社会福祉学の専門知識を活かして民間企業での活躍を目指す学生のニーズを踏まえて、社会科学の中でもとくに情報学や経営学の基礎を精選して学ぶ科目を集めて科目群として配置している。

「社会調査士養成プログラム」は、ますますエビデンスに基づいた思考・行動が求められるようになってきていることを考慮し、本学部にある、心理・福祉学科を含む3学科を横断するプログラムとして設置するものである。プログラム名にあるように、社会調査協会の社会調査士の資格取得を念頭に置き、定量的・定性的調査の企画から報告書作成まで一連の流れを理解し、調査に関する基礎力をもった人材を輩出する。

「スポーツ健康系科目群」は、本学部内にあるスポーツ健康学科と連携し、スポーツ健康学が有する知見、すなわち、スポーツが個々人のウェルビーイングの改善において果たしうる役割等について学ぶとともに、心理や福祉の現場の一部で有効な日本スポーツ協会「公認スポーツ指導者資格」や「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得をより容易にするものである。これは、他大学の心理・福祉系学部・学科等には見られない独自性を有するプログラムとなっている。

さいごに、心理・福祉学科では、それが属する人間社会学部として進めているキャリア教育も1つの特色をなすと考えているが、これについては、18において詳述する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

心理・福祉学科では、人が生涯にわたり心身的に健康で豊かな生活を送るために、心理学および社会福祉学の基礎的な専門知識・スキルを修得し、それに基づき、多角的視点を持ちながら、主体的に他者と協働し、社会に貢献できる人材を養成するカリキュラムを展開する。より具体的には、卒業後の進路として、公認心理師カリキュラムのある大学院への進学、または、社会福祉関連施設、学校・教育および保健・医療等の関連諸機関、さらには民間企業、公務員等を想定し、そこで求められている心理学と社会福祉学の専門知識・スキル、さらには、心理学・社会福祉学を架橋するとともに、それらに広い視点をもたらす

学際的な学びを獲得する機会を設ける。そのため、このような専門性および学際性の双方を追求するという学科の特性を表現する必要を踏まえ、以下のとおり、学部・学科の名称、学位の名称を設定する。

(1) 学部・学科の名称

学部・学科の名称は、「人間社会学部」「心理・福祉学科」とする。英語表記は、それぞれ「Faculty of Human and Social Sciences」「Department of Psychology and Social Welfare」である。

(2) 学位の名称

学位の名称は「学士(心理・福祉学)」とする。英語表記は、「Bachelor of Psychology and Social Welfare」である。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の考え方(カリキュラム・ポリシー)

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、心理・福祉学科では、心理および福祉の課題に適切に対応するために、「人と社会」および「心理と福祉」の関係について科学的視点をもって探究することを目的としてカリキュラムを編成している。具体的には、「心理コース」「社会福祉コース」の2コースを設置し、それぞれの学問領域を深く探究できるような学習活動を行わせるとともに、教養と人間性を重視しつつ、基礎的な学習技術、社会人として必要となる実践力、多角的に考える力の形成にも重点を置いたカリキュラム編成としている。

カリキュラムの構成としては、以下に記すような目的と構成をもつ「共通教育科目」と「専門教育科目」を配置する。

「共通教育科目」は、豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また、「選択科目」の中には、社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていく「キャリア科目」も配置している。

「専門教育科目」としては、「必修科目」と「選択必修科目」、および「選択科目」を配置している。「必修科目」は、「心理・福祉」に関する基盤的な学びを形成する講義形式の授業と4年間を通して少人数制で行う演習形式の授業(ゼミナール)から構成される。「選択必修科目」は、各コースの入門的な科目群と社会人基礎力を形成する科目群から構成される。「選択科目」は、専攻するコースの専門知識を深め、関連する資格や免許の取得をめざす「コース選択科目」とコースを越えて多角的な知識の獲得をめざす「その他の選択科目」から構成される。

以上のような科目区分で構成される開講科目を、あらためて、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を構成する項目ごとに書き換えると、以下ようになる。

【報恩感謝の心と幅広い教養】

本学では、互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うこと、ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に貢献できるように、1年次配当科目として「宗教学A」「宗教学B」を、3年次配当科目として「いのちを共に考える」を必修科目として開講している。幅広い学びを保障し、多角的な視点を身につけられる教養教育を実践するため、人文・社会・自然科学などを含む多様な学問領域を学べるように科目を設置する。

また、文化や社会、自然に関する幅広い教養を身につけ、自己の存在と関連づけて理解できるように、まず、「外国語科目」を必修として設定している。具体的には、1～2年次配当科目として「外国語科目」（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、日本語（日本語は留学生のみが受講可能）。31科目）を開講している。そして、人文・社会・自然科学などを含む多様な学問領域を学べるように科目を設置している。具体的には、1～2年次配当科目として「人文科学系」（18科目）、「社会科学系」（9科目）、「自然科学系」（12科目）、「保健体育科目」（1科目）を開講している。さいごに、情報通信技術の利活用が進む社会において適切に機能するため、「数理・データサイエンス・AI」に関する基本的な知識・技能・態度を習得する「コンピュータ技術基礎Ⅰ」を1年次配当科目として開講している。

【専門的な知識・技能】

心理・福祉学科では、心理と福祉に関する諸課題に取り組むための専門的な知識・技能を修得するための科目を配置している。

初年次には、心理学について基礎心理学に関する知識を獲得するとともに、応用心理学に対する関心を醸成する科目を配置する。具体的には、前者に該当する科目として、「心理学概論」や「感情・人格心理学Ⅰ」「発達心理学」等を、後者に該当する科目として「臨床心理学概論」「心理学的支援法」を配置する。社会福祉学についても、同様に、現代社会における社会福祉の現状、役割、機能、構造と深刻化する生活問題に対応するための社会福祉実践を体系的に学ぶことを目的として「社会福祉概論」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を配置している。

また、心理学と社会福祉学を統合的に学ぶことがどのような学術的および実践的意義を持つのかを理解することを目的として、「心理・福祉学入門」を必修化している。

2年次以降は、2つのコースに分かれて学ぶことになるが、初年次に身につけた専門的知識・技能を土台として、心理コースの心理専門職を目指す履修モデルでは国家資格に対応した「学習・言語心理学」や「公認心理師の関係行政論」「精神疾患とその治療」「司法・犯罪心理学」等を配置している。また、民間企業などで心理学を活用する履修モデルでは社会心理学および産業心理学の内容を重視した「キャリア心理学」や「キャリア心理学演習」などを中心とした科目を開講する。

社会福祉コースにおいても、2年次には、社会福祉士養成に関するものとして「社会福祉政策論」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」「高齢者福祉論」「子ども家庭福祉論」「障害者福祉論」等、3年次以降には、「医療福祉論」「権利擁護と成年後見論」「司法福祉論」等、専門的な価値・知識・技術を獲得するための科目を置いている。また、SSW養成に関連する科目として「スクールソーシャルワーク論」「精神保健の課題と支援」等も開講している。また、上で見た資格取得に必須ではないが、現代社会における介護問題やそれをめぐる支援とその現場について学ぶ専門科目として「介護概論」が2年次に配置されている。

【問題解決能力】

心理と福祉に関する諸課題を見つけ、多角的かつ論理的に分析して、解決策を企画することができるように、また、自分の専門的知見を他者に分かりやすく説明し、心理と福祉に関する諸課題の解決に向けて協働することができるように、心理・福祉学科では、【専門的な知識・技能】でも記したように、初年次に必修科目として「心理・福祉学入門」を配置しているが、この科目においては複眼的な視点を持って問題を見出し、解決を目指すことの意義を学ぶ機会を付与する。また心理学と社会福祉学に共通した専門性である相談スキルの陶冶、さらには協働の基盤となるコミュニケーションスキルの向上を目指す科目と

して「基礎コミュニケーション演習」を配置している。

2年次以降については、心理コースにおいて「心理学研究法」や「心理学実験Ⅱ」等、問題解決場面で不可欠な方法論を学ぶ科目を配置している。また、効果的な協働にとって不可欠な情報の収集・分析に取り組み、その結果を他者に伝達することができるように、「心理学統計法」「心理学実験ⅠB」「心理的アセスメント」といった授業も用意している。

社会福祉コースにおいては、2年次以降で「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ」、「スクールソーシャルワーク演習」等、支援現場における問題発見と課題解決に向けた〈アセスメントからプランニング〉、そして〈支援の実施とモニタリング〉までに至る「支援プロセス」（支援にかかるPDCAサイクル）について、学ぶ科目を配置している。

さらに、3年次後期には「心理・福祉総合演習」を開講し、それまで獲得してきた専門的な知識を活用し、心理職と社会福祉職が協働して行うケース対応をシミュレーションし、協働的な問題解決能力を育成することを旨とする。

【自律的・主体的・共感的態度】

心理と福祉に関する諸問題に関して深い関心を持ち、積極的に関与する態度を備えるとともに、多様な人々に共感的態度で接することができるように、初年次においては、「新入生セミナー」および「キャリア概論」を配置する。このような科目をつうじてなされる自律的・主体的・共感的態度の形成は、心理および社会福祉分野の専門職を目指す学生はもとより、民間企業等で非専門職としての活躍を志す学生にとっても不可欠である。そして、2年次以降では、心理コースでは、「心理演習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、社会福祉コースでは、「ソーシャルワーク演習Ⅲ・Ⅳ」を開講している。

【実践力】

大学での学びをもとに、よりよい社会の創造と人々の幸福の実現のために、主体的かつ積極的に行動し、実社会で協働していく力を身につけるように、初年次においては、グループで課題に取り組みながら学修技術の向上に取り組む「基礎ゼミⅠ」や、実社会に存在する課題の解決に資する取組をチームに分かれて企画し、学外関係者の前で発表する、隔年開講の「課題発見・解決演習（子どもイベント編）」と「課題発見・解決演習（地域コミュニティ編）」等の科目を配置する。

そして、2年次以降では、両コースともに「社会研究実習」を開講している。また、心理コースでは、「メンタルヘルスマネジメント演習」や「臨床産業・組織心理学」「心理実習」などの多様な社会場面に応用可能な授業内容を用意している。社会福祉コースでは、「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅴ」を配置している。

こうした科目は、現場に入る〈前・中・後〉の連続性のなかで、心理または福祉にかかる専門的な価値・知識・技術を深めるとともに、個人の実践とその省察、（実習先によっては）集団的学びとしてのピアスーパービジョン、そして、教員と実習先からのフィードバックをつうじて、ジェネリックかつスペシフィックな実践力が向上することを意図している。従って、このような実践力は、既述の自律的・主体的・共感的態度と同様、専門職・非専門職のいずれを目指す学生にとっても、重要な社会生活スキルの一部を構成するものである。

（2）履修順序（配当年次）の考え方

心理・福祉学科で実施する教育課程は、「共通教育科目」「専門必修科目」「専門選択必修科目」「専門選

択科目（コース選択科目）」「専門選択科目（その他の選択科目）」の5つに区分される。

心理・福祉学科の開講科目は、初年次から年次を重ねるにしたがって、学修の積み上げが可能となるよう、基礎的な事項からはじまり、徐々に発展的な学びにつながるよう配置されている。

すなわち、1年次では、共通教育科目および専門教育科目の基礎となる科目を配置するとともに、大学での学修に必要なスキルと態度の習得や基本的な知識・技能の獲得を促す。2年次から3年次では、専門教育科目を充実させ、卒業後の進路に応じたキャリアデザインを考慮した選択ができるように科目を設置している。とくに「専門教育科目（コース選択科目）」では、公認心理師と社会福祉士それぞれの資格取得を目指すカリキュラム、および民間企業への就職を目指すカリキュラム等、履修モデルを参考にしながら、学生が自らの学びの関心・目的に合わせてキャリアデザインを行うことができる科目を配置している。また、3年次から4年次に、実践的な学修および実習を重ねることができるよう段階的に演習・実習科目を順次配置し、少人数指導を行いながら、一貫性のある発展的な教育を実現する。

また、「共通教育科目」と「専門教育科目」の構成と考え方、特色は次のとおりである。

（3）「共通教育科目」

心理・福祉学科の「共通教育科目」は、必修科目（9単位）と外国語科目（4単位）、選択科目（15単位）に区分される。

必修科目は、1年次に「宗教学A・B」「コンピュータ技術基礎Ⅰ」「キャリア概論」「新入生セミナー」を配置し、3年次に「いのちを共に考える」の6科目を配置している。

「コンピュータ技術基礎Ⅰ」「キャリア概論」「新入生セミナー」は1年次前期に配置され、大学生生活を円滑にスタートするとともに、学修のためのスキルを高め、初年次からキャリア形成の意識づけを行う。また、本学の建学の精神である「報恩感謝」の思想を学ぶため、1年次に「宗教学A・B」、3年次に「いのちを共に考える」を配置している。

外国語科目は、学修効果の向上をはかるため、1年次から2年次にかけて連続開講する。英語では「英語A・B（コミュニケーション）」「英語A・B（総合）」「英会話A・B」「英米文化を学ぶ」「メディアの英語」の8科目を配置する。あわせて、英語以外の外国語コミュニケーション能力の向上を企図し、ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語の4言語を「初修外国語」として位置づけ、それぞれの言語に「入門A」「入門B」「会話A」「会話B」「文化を学ぶ」の5科目を配置する（留学生は日本語も選択可）。英語およびそれ以外の言語と文化を学ぶことで、語学能力のみならず、各言語の機能や文化についての理解を深め、グローバル社会のなかで世界を深く考察する視座を培う。

選択科目では、「保健体育科目」「人文科学系」「社会科学系」「自然科学系」「キャリア教育科目」「教職科目」の6つの系列の科目が配置され、多角的な視点を身につける教養教育を学修することができる。

「保健体育科目」では、学生生活における運動習慣の維持および健康増進を考慮し、1年次後期に「体育（講義を含む）」を配置する。「人文科学系」では18科目、「社会科学系」は9科目、「自然科学系」では12科目が、1年次から2年次にかけて配置されており、科学に関する教養を高め、学修の幅を広げる科目が配置されている。また、「キャリア教育科目」では、1年次前期から「キャリアデザイン」などの18科目が配置され、初年次からのキャリア形成を促している。「教職科目」では、「教育インターンシップⅠ・Ⅱ」など12科目が1年次後期から3年次にかけて開講され、スクールカウンセラーやSSWを目指す学生に対し、学校教育現場をより深く理解するための科目が配置されている。

(4) 専門教育科目

ア. 専門必修科目

心理・福祉学科では、心理学および社会福祉学の専門的な学びの基礎およびその実践的な応用を身につけることを目的に、専門必修科目として、初年次から4年次にかけて、「基礎ゼミⅠ（学習技術）」「基礎ゼミⅡ（研究入門）」「人間と社会 A・B」「心理・福祉学入門」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「卒業研究」の8科目を配置する。

① 基礎ゼミⅠ（学習技術）・基礎ゼミⅡ（研究入門）

1年次に「基礎ゼミⅠ（学習技術）」を配置し、初年次教育として、大学生生活に求められる生活習慣や学習習慣等の確立、学習技術の獲得・活用、ディスカッションや協働作業等とおした汎用的技能や実践力の向上を行う機会を設けている。続いて、2年次には「基礎ゼミⅡ（研究入門）」を配置し、心理学および社会福祉学分野の関心領域における課題について調べる力を身につける。2年次のゼミナールでは、3年次以降に続くゼミナールでの研究活動を射程に入れ、必要な資料を手に入れ、その内容を理解してまとめ、プレゼンテーションを行うなど、研究活動の基礎となる能力を身につける。

② 人間と社会 A・B

「人間と社会 A」は、1年次前期に配置され、心理・福祉学科が属する人間社会学部の全学科に共通して開講される科目である。人間と社会に関するいくつかのテーマを設定し、そのテーマについて、心理学、社会福祉学以外にも、現代社会学、経営学、情報学、スポーツ・健康科学等、様々な学問領域の視点から論じることで、多角的な視点の意義を理解することを意図している。引き続き、1年次後期に配置された「人間と社会 B」では、1年次前期に配置された人間と社会 A で学修した多角的な視点、また、心理・福祉学入門で学修した心理学と社会福祉学に関する基本的な理解を基に、人間社会学を構成する学問領域のうち心理学と社会福祉学という学問が目指すところや主要な関心事、アプローチ等をより深く学ぶ。

③ 心理・福祉学入門

1年次前期に配置されており、心理・福祉学科における4年間の学びの概観を学ぶことを目的とする科目である。具体的には、心理・福祉学科全専任教員から、それぞれの専門性を活かした心理学、社会福祉学の魅力や特徴、人間や社会との関係性を伝え、心理学・社会福祉学への関心を高め、4年間における学びのイメージを図るとともに、心理学と社会福祉学の2つを統合的に学ぶ意義について理解を図る。

④ ゼミナールⅠ・Ⅱ

「ゼミナールⅠ」は3年次に配置されており、卒業研究を行うための助走段階に該当する。心理学および社会福祉学の関心領域においてテーマを選定し、卒業研究に向け、指導を受けながら資料の収集、研究計画の立案、データ解析に取り組む。「ゼミナールⅡ」は最終学年である4年次に配置されており、ゼミナールⅠで選定したテーマと初期的な文献調査等の結果に基づき、卒業研究を実施し、一定の水準まで精度を高めて卒業論文を執筆するための指導を受けるものである。また、専門職を目指す者には、進学や資格取得のために必要な知識や技術の教育を行う。

⑤ 卒業研究

4年次に配置され、ゼミナールでの指導を踏まえて選定したテーマに基づき研究活動を行い、4年間の学修活動の集大成となる成果物として、卒業論文を作成することを目的とする。また、卒業論文という成果物の作成を通して、自身の研究テーマに関する専門性の高い知識や研究方法を習得するとともに、プレゼンテーションの能力を身につける。

イ. 専門選択必修科目

心理・福祉学科では、「専門選択必修科目」として、初年次から3年次にかけて、心理学、社会福祉学に関する専門科目群を配置する。

初年次は、初学者向けの概説科目として「臨床心理学概論」「社会福祉概論」等を開講する。さらに、対人支援専門職に求められる相談技術の基盤となる「基礎コミュニケーション演習」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」の科目を配置する。

2年次から3年次にかけては、「地域福祉論Ⅰ」「社会福祉政策論」「福祉心理学」を配置し、より実践に即した心理学と社会福祉学の専門的な学びを深める。また、3年次後期に配置される「心理・福祉総合演習」では、それまでの専門的な学びをもとに、心理職と社会福祉職が協働してケース対応する能力を育成することを目指す。このように、専門選択必修科目においては、概論から応用的、実践的な内容へと順次、心理学、社会福祉学のそれぞれの専門性を高め、学修が深化するような科目配置を設計している。

ウ. 専門選択科目（コース選択科目）

心理コースの選択科目では、初年次から2年次にかけて、心理学の基礎から応用分野へ、発展的に展開するための科目が配置されている。初学者向けの科目である「心理学概論」「感情・人格心理学Ⅰ」を初年次に配置し、学問的な基礎を固めた上で、2年次と3年次では「学習・言語心理学」「知覚・認知心理学」「神経・生理心理学」「感情・人格心理学Ⅱ」「心理学実験ⅠA・ⅠB・Ⅱ」等の基礎心理学に関する科目、「心理調査概論」「心理統計法」などのデータサイエンス系の科目、「心理学研究法」「心理学文献講読」の心理学研究法に関する科目、「臨床産業・組織心理学」「社会・集団・家族心理学A・B」「産業心理学」などの社会心理学に関する科目、「教育心理学」「保育の心理学」「教育相談の理論と実際」「臨床教育・学校心理学」の教育・教職に関する科目、「メンタルヘルスマネジメント演習」「健康・医療心理学」「精神疾患とその治療」の保健医療に関する科目、「公認心理師の職責」「公認心理師の関係行政論」の公認心理師関連法規科目、社会福祉学との交差領域となる「障害者・障害児心理学」「司法・犯罪心理学」、キャリア形成を促す「キャリア心理学」「キャリア心理学演習」を開講する。さらに、公認心理師科目として、心理療法に関する「人間性心理学」「認知行動療法論」「精神力動論」「行動分析学」、臨床心理学の実践的な基盤を形成する「心理演習Ⅰ・Ⅱ」「心理的アセスメント」の発展的かつ体験的な科目を開講する。また、実際の心理臨床現場の見学や実習およびそのスーパービジョンを通して学修する「心理実習」、臨床心理学の知識・研究力・実践力の育成と統合を目的とした「臨床心理学総論」を4年次に開講し、4年間の学びを実践的かつ統合的に総括する。

社会福祉コースの選択科目では、イで記述した社会福祉系の選択必修科目の履修により入門的・概説的な学びを踏まえたうえで、2年次から3年次にかけて、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な①共通科目、②専門科目、③社会福祉関連領域科目（社会福祉士国家試験受験資格取得に必須でない）が学年順に履修段階を踏まえて配当されている。①共通科目としては「障害者福祉論」「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「人体の構造と機能及び疾病」「権利擁護と成年後見論」「司法福祉論」、

②専門科目としては「高齢者福祉論」「子ども家庭福祉論」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」「貧困に対する支援」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ」「医療福祉論」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」「福祉経営論」、③社会福祉関連領域科目としては「介護概論」「社会福祉演習Ⅰ」「スクールソーシャルワーク論」「スクールソーシャルワーク演習」（後者2科目はSSWに関する科目）等があげられる。4年次開講科目としては③社会福祉関連領域科目として「社会福祉演習Ⅱ」「スクールソーシャルワーク実習指導」「スクールソーシャルワーク実習」（後者2科目はSSWに関する科目）である。

エ. 専門選択科目（その他の選択科目）

「専門選択科目（その他の選択科目）」は、心理・福祉学科に配置されたコース選択科目のうち、自分が所属していない方のコース選択科目、および心理・福祉学科が所属する人間社会学部の他学科が開講する数多くの専門科目の中から、心理学あるいは社会福祉学を専攻する学生がもつべき「学際的な視点」の形成、より高度で専門的な知識との接触を図ることで交差的な知の形成が期待されるものを厳選して学修するものである。具体的には、心理・福祉学科内の所属外コース選択科目と、「社会科学科目群」「情報・経営科目群」「社会調査士養成プログラム」「スポーツ健康系科目群」の4つの科目群にある科目がこれに該当する。

「社会科学科目群」では、「現代社会学概論」「経済学概論A・B」「社会学概論A・B」の概論科目から「法と社会A・B」「国際社会学A・B」などの専門科目、また、実践的な科目として「グローバル社会体験実習」を、1年次から2年次に亘り開講する。

「情報・経営科目群」では、「経営学概論」「情報学概論」の概論科目を基礎に、「NPO・NGO論」「マーケティング論」「情報社会学A・B」を開講し、人間と社会との関連を意識する科目が1年次から2年次に配置されている。

「社会調査士養成プログラム」では、2年次後期から3年次において「社会調査法A・B」の調査法、「多変量解析の方法」「質的な調査と分析の方法」のデータ解析法を踏まえ、「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」という実践的な社会調査科目を3年次に開講する。

「スポーツ健康系科目群」では、1年次後期に「スポーツ心理学」、2年次と3年次では「スポーツキャリアデザイン」「スポーツ経営管理学」「スポーツ社会学」等のスポーツと社会の関係に関する科目、「障がい者スポーツ指導論」「医療福祉システム論Ⅰ・Ⅱ」等のスポーツと医療福祉領域に関する科目、「スポーツコーチング学Ⅰ～Ⅳ」のスポーツコーチングの発展的な科目群を開講する。

これらの科目は、心理学や社会福祉学を学び、人と社会を結びつけて考えていく上で、幅の広い学びと深い専門性を拡充するものであり、人間社会学部の専門領域を横断する学際的な教育を実現するものである。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

これまで教育理念・目的、養成する人材像、これを達成するためのカリキュラム編成について記してきた。以下では、とくに教育の方法（講義や演習、実習等）に関する考え方や履修指導の方法、卒業要件、履修モデル等について記す。

（1）教育方法

心理・福祉学科は、学生の定員が50名（1学年）であり、それに対する専任教員数が11名となってい

る。そのため、とくにゼミナールなど、極めて双方向性の高い授業では少人数指導が可能な体制を敷いていることが1つの特色となっている。なお、ゼミナールの基本定員は原則7名としている。

また、心理コースでは「心理的アセスメント」の授業は、単なる講義形式でなく、通年の30コマを設定しており、心理検査の実習および実験的な方法の体験学習も含まれている。このようなアクティブラーニングの性質が極めて強い授業においても、教育効果の保証という観点から、履修定員を20名としている。さらに、3回生担当の「心理演習Ⅰ」の単位取得は4回生担当の「心理実習」履修の必要最低限の条件としており、少人数の指導を徹底するために、これらの授業の定員も20名としている。

社会福祉コースでも、社会福祉士を目指す学生に丁寧な指導を行えるように、30名の定員を設けている。社会福祉士国家試験受験資格取得のためには、各学年での演習・実習系の科目が不可欠であり、これら科目の効果的機能を実現するという意味でも定員を設けることは重要である。

こうした少人数指導という観点は、さらに、非専門職を志望する学生のための教育にも貫かれている。たとえば、「キャリア心理学」は「キャリア心理学演習」を併設することによって、アクティブラーニングをつうじて、自己発見、課題解決につながる教育方法を展開していく計画であるが、演習という性質も踏まえて、24名という定員を設定するなどの工夫を行っている。

(2) 履修指導方法

本学部においては、学生自らが学修の短期的・中長期的な目的を設定し、それら目的を達成するための計画を立て、それを着実に実行していきながら、適宜、省察し、自らの学修の目的と方法を修正するという学びのPDCAを自律的に回していく能力を身につけることが大学生の学びのなかで非常に高い重要性を有すると考えてきた。そのため、ウェブポータルにおけるシラバスの公開、教務課の窓口や、学科ごとに設けられた共同研究室の窓口、学生一人ひとりへの個別対応を可能にするアドバイザー制度、専任教員によるオフィスアワーの設定等を通じた助言提供という全学共通の取組に加え、学部としても、より適切な履修支援を可能にする仕組みを構築してきた。この学部独自の支援フレームワークは、大別して以下の2つの要素から構成されるが、これらすべてについて、心理・福祉学科においても継承して取り組んでいく予定である。

第一に、学修の計画策定をサポートするものである。具体的には、入学直後に「履修マニュアル」を配布するとともに、「フレッシュャーズミーティング」を開催し、その「履修マニュアル」や他資料を用いて、学科の教育目的やこれを達成するカリキュラムの概要・特徴、履修モデル、具体的な履修方法の理解を図る取組である。このような取組は全学的に行われており、それに加えて本学部独自のアプローチとして、ピア（peer）の視点からする確認や助言が高い効果を持つことに着目して、「フレッシュャーズミーティング」において基礎ゼミナールⅠごとに分かれて仲間づくりを行いつつ、さらに上級生ボランティアの協力を得て、彼らからの助言を活用している。また、本学部の各学科では2年次からコースに分かれて学ぶため、初年次の後期においては、「コース選択説明会」を開催し、そこであらためて学科の教育目的と履修モデル等を解説し、カリキュラム体系についての理解を深める機会を設けている。さらに、2年次以降では、前期開始直前に「在校生オリエンテーション」を開催し、履修上の注意事項を口頭およびオンラインで説明し、理解の徹底を図っている。その中で、学生個々の学びの到達状況、資格等取得や卒業後の進路希望を踏まえた履修指導を行っている。さらに、特定の科目（「社会研究実習」）の履修を促す目的で、同時期に「社会研究実習履修登録直前説明会」を開催している。

第二に、それまで行ってきた学びの省察をサポートするものである。とくに本学部は、2の学部・学科等の特色や、4の教育課程の編成の考え方および特色他において述べてきたように、学内外における体験

的な学びのプログラムを数多く科目化し、実践してきた。そのため、そうした体験的な学びの要素を組み込んだ科目では、体験のリフレクションを行う際、今後の学びに関する計画を具体的に検討する機会を設けている。

加えて、本学の全学的方針とも合致する形で、初年次前期と3年次後期にジェネリックスキルを測定するテストを行っている。そこでは、とくにジェネリックスキルに関する、これまでの成長についてふりかえり、これからの成長を企図する解説会を開催している。説明会后に、アドバイザー教員がそのふりかえりに基づき、その後の学習計画作成の助言を行っている。

なお、ここで、学生の過剰な履修登録を防ぎ、登録した科目における適切な学習時間を確保するために、48単位を年間登録単位数の上限とするCAP制度を設けていることにも言及しておく。これは言うまでもなく、学ぶべき授業科目を精選し、適正な学修時間を確保する仕組みである。ただし、累積GPA3.2以上の成績を収めた場合は、次年度の履修登録単位数の上限を56単位とし、学生の意欲に応じて更なる学びを保障する仕組みも設けている。

また、単位互換制については、本学は「南大阪地域大学コンソーシアム」に加盟し、他加盟大学が単位互換科目として提供する科目の履修を学生に勧めている。単位互換の科目については、「在校生オリエンテーション」において告知している。

(3) 卒業要件

人間社会学部心理・福祉学科の卒業要件は、①学部に4年以上在学すること、②教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、128単位以上を修得していること、③卒業論文を作成して審査に合格することが要件となっている。

そのうち、②については、共通教育科目より28単位以上（必修科目6科目9単位、選択必修科目の外国語科目1～2か国語4単位以上、選択科目の人文科学・社会科学・自然科学・キャリア／教職の各系から2単位以上を含む計15単位以上。なお、保健体育科目の修得単位は共通教育科目の選択科目として卒業に必要な単位数に算入する）、専門教育科目より100単位以上（専門必須科目22単位、選択必修科目から10単位以上、心理コース選択科目および社会福祉コース選択科目のうち、所属コースから38単位以上、その他の選択科目（心理コース選択科目・社会福祉コース選択科目のうち所属外コース選択科目、社会科学系科目群、情報・経営系科目群、社会調査士養成プログラム、スポーツ健康系科目群、キャリア教育科目群）修得することとなっている。

また、③の卒業論文の作成については、4回生担当の授業科目の1つである「ゼミナールⅡ」とは別に「卒業研究」の科目を用意している。量的な基準として12000字相当以上を設定しており、さらに、その質保証のために、所属担当ゼミ教員だけでなく他の教員や学生が閲覧可能な卒業研究の要旨集を人間社会学部では毎年発行してきた。また、学内で組織している「人間社会学会」の年次大会において卒論発表会を毎年開催してきた。心理・福祉学科もこのような制度を継承する。加えて、卒論完成までの過程において、複数のゼミナールが合同ゼミを開催し、学生が卒業研究の進捗に関して報告し、自分のゼミ以外の教員や学生から質問・コメントを受ける形で、質の向上をはかるという取組も行う予定である。

科目区分	種別	授業科目	単位数		卒業要件単位数
共通教育科目	必修科目	宗教学A	2	9	28
		宗教学B	2		
		コンピュータ技術基礎Ⅰ	2		
		キャリア概論	1		
		新入生セミナー	1		
		いのちを共に考える	1		
	選択必修科目	外国語科目	4	4	
	選択科目	人文科学系科目	2	15	
		社会科学系科目	2		
		自然科学系科目	2		
		保健体育科目	-		
キャリア科目		2			
教職科目					
専門教育科目	必修科目	基礎ゼミⅠ（学習技術）	2	22	100
		基礎ゼミⅡ（研究入門）	2		
		人間と社会A	2		
		人間と社会B	2		
		心理・福祉学入門	2		
		ゼミナールⅠ	4		
		ゼミナールⅡ	4		
		卒業研究	4		
	選択必修科目	-	10		
	選択科目	コース専門科目	38	78	
		社会科学科目群			
		情報・経営科目群			
		社会調査士養成プログラム			
		スポーツ健康系科目群			
キャリア教育科目群					
合計					128

（４）履修モデル

これまで記してきたように、心理・福祉学科は、心理と社会福祉分野における専門職に対する社会的ニーズの高まりとともに、個々の学生ニーズの多様化を踏まえつつ、その教育理念・目的を達成するため、次の5つの履修モデルを作成して、履修指導を行う【資料2】。

<公認心理師の資格取得を志望する場合の履修モデル>

公認心理師を志望する学生においては、初年次に基礎科目となる「心理学概論」「臨床心理学概論」、「心理学的支援法」「発達心理学」「感情・人格心理学Ⅰ」を、2年次には専門科目である「知覚・認知心理学」「神経・生理心理学」「健康・医療心理学」「心理統計法」「公認心理師の職責」等の基礎心理学科目や応用心理学科目の中でも総論な内容の科目を履修する。3年次には「心理的アセスメント」、「障害者・障害児心理学」「福祉心理学」「臨床産業・組織心理学」「臨床教育・学校心理学」「公認心理師の関係行政法」「精神疾患とその治療」といった、より専門性の高い科目や、実践的な技術や知識を学ぶ「心理演習Ⅰ」を履修し、4年次には実習を伴う実践的な指導を受ける「心理実習」を履修する。（社会福祉コース配当科目の「人体の構造と機能及び疾病」を加え）これらを履修することにより、公認心理師の受験資格を得るための学部水準の単位取得を目指すことができる。

<社会福祉士の資格取得を志望する場合の履修モデル>

社会福祉士を志望する学生は、大学で実施する履修指導に沿って「社会福祉士国家試験受験資格課程」

登録したうえで、「社会福祉に関する科目を定める省令（令和2年文部科学省・厚生労働省令第1号）」に定める「社会福祉士国家試験受験資格」に必要な指定科目（以下、社会福祉士指定科目と表記する）に対応した、心理・福祉学科の開講科目を履修することが求められる。

具体的には、以下に示すように、基礎的学びから実習の事前事後における発展的学びにいたる、系統的な履修モデルで社会福祉士国家試験受験資格に必要な単位修得を目指すことになる。1年次開講科目として「社会福祉概論」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」「心理学概論」を、2年次開講科目として「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「子ども家庭福祉論」「社会福祉政策論」「貧困に対する支援」「社会保障論Ⅰ」「社会保障論Ⅱ」「地域福祉論Ⅰ」「地域福祉論Ⅱ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅳ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「社会学概論A」「社会学概論B」を履修する。3年次開講科目として「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」「人体の構造と機能及び疾病」「医療福祉論」「権利擁護と成年後見論」「司法福祉論」「社会福祉調査論」「福祉経営論」「ソーシャルワーク演習Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」「ソーシャルワーク実習」を履修する。これらを単位修得（見込み）すると社会福祉士国家試験受験資格（単位取得見込み）を発行することが可能となり、在学中、4年次の年度末に実施される社会福祉士国家試験を受験することが可能となる。

<公認心理師と社会福祉士のダブルライセンスを志望する場合の履修モデル>

公認心理師と社会福祉士のダブルライセンスの取得を志望する学生は、1年次前期には「臨床心理学概論」「社会福祉学概論」「心理学概論」など概論科目、後期には「心理学的支援法」「発達心理学」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」「感情・人格心理学Ⅰ」の入門的科目を履修する。2年次には、基礎とより専門的な内容を取り結ぶ科目として、社会福祉系では「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「子ども家庭福祉論」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ」「貧困に対する支援」等、心理系では「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」「健康・医療心理学」「心理学実験Ⅱ」「心理学統計法」「公認心理師の職責」「社会・集団・家族心理学A・B」「司法・犯罪心理学」の科目を履修する。3年次には、社会福祉系では「ソーシャルワーク実習」等の実習科目に基づき実習が展開されるとともに、「医療福祉論」「司法福祉論」「社会福祉調査論」「権利擁護と成年後見論」等の、より専門性の高い科目を履修する。また、心理系においても「精神疾患とその治療」「障害者・障害児心理学」「公認心理師の関係行政論」「臨床産業・組織心理学」「臨床教育・学校心理学」「心理学研究法」の専門性の高い科目や、4年次の「心理的アセスメント」「心理演習Ⅰ」に備え、心理学的な技術の修練を図る科目を履修する。4年次には心理学と社会福祉学の双方の特性を持つ「福祉心理学」を履修するとともに、「心理実習」を履修し、実際の臨床現場の見学実習や現地での実習をつうじて、これまで学修してきた知識と技術の深化・統合を図る科目を履修する。

<心理コースに所属し、民間企業への就職を志望する場合の履修モデル>

心理学を中心に学修し、民間企業への就職を志向する学生は、1年次には「心理学概論」「臨床心理学概論」「発達心理学」「感情・人格心理学Ⅰ」「心理・福祉学入門」等、入門的な心理学を学ぶと同時に、「キャリアデザイン」「ロジカルシンキング」「課題発見・解決演習（子どもイベント編）」「経営学概論」等の民間企業でのキャリア形成を意識した、学部横断的な学びを得られる科目を履修する。また、2年次には「社会・集団・家族心理学A・B」「感情・人格心理学Ⅱ」「学習・言語心理学」「知覚・認知心理学」

「心理学実験ⅠA・ⅠB」といった基礎的な心理学に加えて、「健康・医療心理学」「行動分析学」「メンタルヘルスマネジメント演習」「心理調査概論」「心理学統計法」「企業研究Ⅰ」「経済学概論A・B」「社会調査法A・B」といった、就職後にも応用可能な科目を履修する。さらに、3年次には「就活力Ⅰ・Ⅱ」「キャリア心理学」「キャリア心理学演習」「産業心理学」「臨床産業・組織心理学」「教育相談の理論と実際」「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」「企業研究Ⅱ」等、民間企業でのキャリア形成を考える上で有効な科目に並行して、「心理学研究法」「心理学実験Ⅱ」等、4年次での卒業研究を視野に入れた科目を履修する。4年次には、3年次までの幅の広い学修と知識を活用して、各自が就職活動をするとともに、「ゼミナールⅡ」では、卒業研究を一定の水準まで高められるように指導を受ける。

<社会福祉コースに所属し、民間企業への就職を志望する場合の履修モデル>

社会福祉学を中心に学修し、民間企業への就職を志向する学生は、初年次には「心理・福祉学入門」「社会福祉概論」「介護概論」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」等、入門的な社会福祉学を学ぶとともに、「心理学概論」「情報学概論」「経営学概論」「基礎コミュニケーション演習」等、民間企業でのキャリア形成を意識した学部横断的な学びを得られる科目を履修する。2年次には、「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「子ども家庭福祉論」「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「貧困に対する支援」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、さらに「社会・集団・家族心理学A」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」の履修によって社会福祉学への理解を深化させると同時に、キャリア形成を意識し、「医療福祉システム論Ⅰ」や、「経済学概論A・B」「マーケティング論」「企業研究Ⅰ」等を履修する。また、3年次には、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」「人体の構造と機能及び疾病」「医療福祉論」「権利擁護と成年後見論」「司法福祉論」「社会福祉調査論」「福祉経営論」等に加えて、「就活力Ⅰ・Ⅱ」「採用研究(民間企業)」「NPO・NGO論」「企業研究」等、就職活動につながる科目、「産業心理学」「キャリア心理学」「キャリア心理学演習」「臨床産業・組織心理学」といったキャリア形成に関連する心理学領域の科目を履修し、民間企業への就職活動に活かす。4年次には、各自が就職活動をするとともに、「ゼミナールⅡ」では、卒業研究を一定の水準まで高められるように指導を受ける。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、授業のオンライン化を進め、一定の収束を見ている今日、以下のような方針の下、多様なメディアを用いて授業を展開している。

まず、基本的に、現在のところ、原則対面授業を実施するが、履修者人数が200名を超える講義等における感染予防対策のため、共通教育科目選択科目のみオンデマンド授業として実施している。なお、当該授業により修得する単位数は60単位を越えないこととしている(学則第27条の2第2項)。今後、新型コロナウイルス感染対策が緩和されたとしても、反転授業や予習・復習等、個々の学生の自律的な学修を促進するためにオンデマンド機能の活用は継続する。

学生の自律的な学修のために、①2021年度入学生より、推奨するノートパソコン(以下、PC)のスペックを示しつつ、入学時に学生一人ひとりが個人でPCをもつことを求めるとともに、②本学情報通信係を中心に学内の情報通信環境の整備に努め、フリーwi-fiのアクセシビリティを改善してきている。具体的には、ホールや教室の一部をラーニング・コモンズとして設定し、学内においてオンライン授業等を受講したり、グループで課題に取り組んだりすることができる場を確保している。

さらに、家庭などを含め、遠隔学習を可能とする学習環境の支援整備として、本学においては、Microsoftの動画提示機能(Stream)やビデオ会議システム(Teams)、さらに、2013年度から、クラ

ウド型の学習支援サービスを **tani-WA** と呼称し、導入・展開してきている。これにより、オンデマンド授業や授業資料および課外学習に必要な参考資料の取得、そして各授業における課題学習の提示と提出を円滑に行えるようになっている。

なお、こうしたシステムを効果的に用いて教授活動が行えるよう、学内の教員研修では、オンライン学習あるいはオンライン・対面のハイブリッド学習に関するトピックを積極的に取り上げ、教授方法の向上を図っている。

また、学生に対しては、従来の「コンピュータ技術基礎 I」（初年次前期に配当）に加え、2022 年度から、入学後のオリエンテーションにおいて正課外で「デジタルキャンパススタートアップセッション」と題する時間を設け、新入学生全員に出席を求め、クラウド型学習支援サービスの利用方法を理解・活用できるように取り組んでいる。今後は、こうしたオンライン学習ツールを使いこなす能力も大学生として学ぶ上で必須の学修技術の一部をなすとの考えに基づき、心理・福祉学科が発足する 2024 年度からは「新入生セミナー」という科目を開講し、そこでさらに効果的に関連する知識・スキルの獲得を図る。

7. 実習の具体的計画

(1) 心理実習

ア. 実習の目的

公認心理師の資格取得を目指す学生に、同資格の学部指定科目として「心理実習」（80 時間以上）を行う。この授業では、公認心理師として活躍するために必要な知識および技法、実践力を、実習を通して養うことを目的とし、この目的を達成するために、次の 1) ～ 3) について学習する。

1) 公認心理師の職責

公認心理師の役割や法的義務を理解し、倫理を身につける。心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、守秘義務の重要性と適切な情報の管理、共有ができること、さらに保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における具体的な業務の内容について理解し説明できることを目的とする。

2) 問題解決能力と生涯学習

課題発見と自己学習によりその課題を解決するための能力の伸長、社会の変化を捉えながら生涯にわたり自己研鑽を積む（重ねる）ことができる態度を身につけられるようになることを目的とする。

3) 多職種連携・地域連携

多職種連携・地域連携による支援の意義の理解、チームにおける公認心理師の役割について説明でき、支援を行う関係者の役割の理解とチームの一員としての自覚を持てるようになることを目的とする。

また、本学の建学の精神に基づき、本学科では以下のようにディプロマ・ポリシーを設定している。

すなわち、①「報恩感謝の心」を深く理解し、幅広い教養を身につけること、②人と社会に関する諸課題に取り組むための専門的な知識・技能を修得すること、③人と社会に関する課題を発見し、多角的かつ論理的に分析して自分の専門的知見を他者に分かりやすく説明でき、また、課題の解決に向けて協働することができること、④人と社会の諸問題に関して深い関心を持ち、積極的に関与する態度を備えるとともに、多様な人々に共感的態度で接することができる、⑤大学での学びをもとに、よりよい社会の創造のために実践力を身につけていることができる。これらは、いずれも公認心理師を目指す者にとって重要な要件であり、心理実習の目的にも合致するものである。

なお、「心理実習」の受講には成績、面接などにより適性を見極める選抜を行う。

さらに、実習先は本学通学圏内を目安に契約しており、通学が不可能な遠隔地では設定しない。

イ. 実習先の確保の状況

「心理実習」の実習先は、大阪南部（富田林市、河内長野市、堺市）を中心に大阪市、豊中市において、7施設からの承諾を得ている。保健医療分野3施設、教育分野2施設、福祉分野1施設、司法・犯罪分野1施設である。これらの施設は、本学より時間30分以内の交通圏内にあり、実習施設に通うことへの支障はない【資料3】【資料4】。なお、保健医療機関、司法関連施設については、いずれも見学実習が中心であり、教育分野施設、福祉分野施設については継続的な実習を予定している。

実習参加人数は希望者より選抜の上、20名を予定している。毎年各施設と相談の上、状況を見て判断することとしている。実習参加者数が受入人数を超過する場合には、実習先が複数あるため、分散して対応することが可能である。

ウ. 実習先との契約内容

「心理実習」では、実習施設と「実習施設承諾書」を交わしており、次の事項を実習生の遵守義務としている。①実習先のサービス規程を遵守すること。②実習によって知り得た個人情報および秘密を実習後も含め第三者に漏洩しないこと、および施設が求める場合には「個人情報保護に関する誓約書」を提出すること。③実習期間中の事故に備え、本学が指定する保険に加入することである。

また、事故防止に関して、事前指導において勝手な行動を慎むことや施設の設備にみだりに触らないことなどの注意を促し、施設利用者と実習施設に対する慎重な配慮と尊重の重要性を自覚させ、実習に臨むように指導している。

エ. 実習水準の確保の方策

「心理実習」では、学生が各実習施設において次の(ア)～(エ)を習得できるように指導を行う。(ア)各施設の特徴と心理に関する支援を要する者にどのような支援がなされているのかについての理解。(イ)各施設における多職種連携のあり方、チームアプローチについての理解。(ウ)各施設の地域との連携についての理解。(エ)公認心理師としての職業倫理および法的義務の理解。それぞれの理解を深められるように情報収集やグループ学習を行い、実習における実習生各自の目標を設定する。

継続的な施設での実習中には、実習担当教員が実習生の実習状況を把握し、実習施設および講義において実習の実践的な指導を行う。

施設の見学実習では、各施設での実際の心理支援やアプローチについて体験的に学ぶ。

事後指導として、実習での学びや体験を深めるために振り返りを行い、実習での気づきなどについて討論し、発表を行う。また、レポートを作成し、実習を通して学んだ内容の総括を行う。

なお、新型コロナウイルス感染状況によっては、オンラインでの見学実習を実施する可能性がある。実習担当教員は、事前に実習指導者と打ち合わせを行い、オンライン形式であっても、動画や映像などを使用しながら、本来現地施設で予定していた内容と相違ない水準の内容の実習ができるようするなど、必要な実習水準を確保できるように努め、訪問による見学実習の場合と遜色のない学びの機会を確保する。また、オンライン実習の他にも大学に実習指導者を招聘して上記の内容の補完を行う。

オ. 実習先との連携体制

実習先とは、実習前より実習担当教員と実習指導者との間で実習に対する考え方、目的、指導方針などについて協議し、共有する。実習実施時においては、実習担当教員は、実習施設と適宜連絡を取り、学生

指導を行う。実習中に問題が生じた場合は、実習施設の実習指導者と実習担当教員がすみやかに対応する。学生に急病、事故、忌引等の事態が発生した場合には、学生は速やかに実習担当教員および実習施設の実習指導者に連絡をする。いずれの場合も、状況について実習担当教員から心理・福祉学科学科長に報告する。

カ. 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

実習に先立ち、学生には健康診断を受診していることを確認した上で、感染予防対策として実習先が指定する検査（麻疹、風疹、ムンプス、水痘、新型コロナ感染症など）を受けることを義務付ける。また、実習期間の前後2週間および実習中は毎日検温を行い、健康チェックシートに記録し、体調管理を徹底する。実習中に体調不良が生じた場合には、行動履歴を記録するように指導し、とくに新型コロナウイルス感染への罹患の可能性がある場合には接触者が特定できるようにする。実習に関する事故等に対して、すべての学生が加入する「学生教育研究災害補償保険（学研災）」および「学研災付帯賠償責任保険」において、実習中の傷害、損害補償にて対応している。

また、実習の事前指導において、実習において知り得た情報、公共の場所における話題、SNSの利用に関する注意など守秘義務および倫理の指導を行い、情報管理および守秘義務の遵守の実践を周知徹底する。

キ. 事前・事後における指導計画

「心理実習」の事前指導においては、各実習施設に関する基本的な知識や実習先で行われている心理的支援やアプローチ、支援対象者の理解、支援における多職種連携・チームアプローチ、地域連携の意義、公認心理師の職責と法的義務について講義を行い、理解を深める。

また、実習に関する心構えや態度、マナー、ならびに実習中に知り得た施設や対象者に関する情報についての守秘義務についての指導を徹底する。

事後指導においては、学生の実習中の体験や学んだことを振り返り、疑問点・問題点を整理する。それらを踏まえて各自発表を行い、議論・検討することで各実習施設における公認心理師としての支援のあり方、多職種連携・地域連携のあり方、実習の領域や施設特有の配慮事項、職責について理解の定着を図る。また、それらを踏まえ「実習報告書」を作成し、実習担当教員へ提出する。

ク. 教員および助手の配置ならびに巡回指導計画

実習担当教員は心理・福祉学科の専任教員6名である。各実習施設での見学実習には、実習担当教員が1名以上同行し、事前指導、実習引率、事後指導を行う。保健医療施設については、1回に2名～10名の実習を複数回実施するため、毎回1名または2名の実習担当教員が引率する。司法・犯罪分野の施設については、1回に20名の実習生を実習担当教員2名が当該施設に引率する。教育機関における適応指導教室等での継続的な実習については、実習担当教員が施設ごとに担当を決め、巡回指導のローテーションを組み、実習指導を実施する。福祉施設の巡回指導については、実習担当教員1名が行うが、継続的な実習については、講義期間中は、実習担当教員の負担を考慮し、講義担当のローテーションを組むように配慮する。なお、実習先への巡回指導は、公共交通機関、あるいは自動車にて移動し、実施する。

ケ. 実習施設における指導者の配置計画

「心理実習」の実習指導は各実習施設の実習指導者または実習担当教員が行う。各実習施設における実習指導者は公認心理師の資格取得者であり、公認心理師法第2条の各号に掲げられている行為に5年以上

従事または従事した経験のあるものが指導に当たる。

実習担当教員は公認心理師の有資格者であり、心理系実習演習科目の教授経験が3年以上ある者を配置している。

学生の実習にあたっては、それぞれの実習先の領域に適合した実習担当教員が実習を担当し、指導に当たる。原則として、各実習施設では実習指導者が指導に当たるが、実習先の都合等でそれが難しい場合や実習生が15名を超過する場合には、実習先や実習分野に長けた実習担当教員が現場で指導に当たる。

コ. 成績評価体制および単位認定方法

「心理実習」における成績評価は、実習への出欠状況、学内の授業（事前、事後指導）における発表ならびに討議への参加態度、学生自身の振り返り評価、実習の目標の到達の程度に関する実習先指導者の評価を踏まえ、実習担当教員が総合的に評価する。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者に対して行う。

（2）ソーシャルワーク実習

ア. 実習の目的

「ソーシャルワーク実習」は、社会福祉士指定科目の一つであることはもちろんのこと、対人援助の現場で専門的な支援を行う職業人として必要な現場実践力、すなわち専門職としての価値・知識・技術の基盤を獲得・形成していくことを目標とするものでもある。こうしたことから、この実習のねらいは、次の5点が示されている。①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施およびその評価を行う。④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。このねらいに基づき、本学では「実習の手引き」【資料5】において、「実習の目標」「実習の内容と到達目標」を提示し、共通理解を図っている。そして、具体的な評価の観点を「実習評価票」に記載し、到達度を確認できるようにしている。

また、既述のとおり、本学科では、建学の精神に基づき、「報恩感謝の心と幅広い教養」「専門的な知識・技能」「問題解決能力」「自律的・主体的・共感的態度」「実践力」の5つからなるディプロマ・ポリシーを設定している。これらはいずれも社会福祉士を目指す者にとっては、重要な要件であり、当該実習の目的にも合致するものである。

イ. 実習先の確保の状況

「ソーシャルワーク実習」の実習先確保の状況は、2022年4月現在、77か所の機関・施設等に実習の受入を承諾してもらっている。これらの実習先は、社会福祉士指定科目に関する「科目省令」に定める基準を満たしている施設等であるとして、「実習等承諾書」を受領し、文部科学大臣、近畿厚生局に提出している。受入機関・施設等の種別は、相談機関、児童福祉施設、高齢者福祉施設、障害者福祉施設、社会福祉協議会等と多岐にわたり、履修学生の希望に応じて実習を依頼することが可能である【資料6】【資料7】。なお、実習先は本学通学圏内や学生の居住地を目安に契約しており、それが困難な遠隔地の実習先は依頼していない。

ウ. 実習先との契約内容

実習先に対して学長名で「実習依頼書」を送付し、実習先から施設長等の責任者名にて「実習承諾書」を受領している。そのほか、実習生は実習先に「誓約書」を提出し、その中では実習先の就業規則等の厳守、守秘義務の厳守、「社会福祉士の倫理綱領」の遵守を誓約している。また、「実習の手引き」を作成し、実習期間中における実習生に対する指導体制等を共有している。

エ. 実習水準の確保の方策

実習水準は「実習等承諾書」等の受領をつうじて、基本的な条件は確保できている。具体的には、ソーシャルワーク専門職養成校が加盟する組織である「ソーシャルワーク教育学校連盟」（以下、ソ教連と表記する）が指定した基準、すなわち、厚生労働省が認定する国家資格基準を満たす日本社会福祉士会認定「社会福祉士実習指導者講習会」（国家資格取得後3年以上の実務経験を有するものが対象）を修了した社会福祉士有資格者が実習指導者として在籍していることが実習施設の要件である。当該実習指導者によって、実習目的に即した実習プログラムの作成や実習中の指導を実施する体制が整備されている。加えて、大学、実習先、実習生の3者を対象に「実習連絡会」を実施し、実習内容、実習プログラム等の共有を図り、実習中の指導についての共通理解を深めている。また、「実習の手引き」を作成し、同じく3者がそれに基づいて実習に取り組むことができるようにしている。

オ. 実習先との連携体制

実習の事前・事後指導は「ソーシャルワーク実習指導」担当教員、実習中は「ソーシャルワーク実習」担当教員が実習先を分担して担当し、窓口の一本化を図り、随時連絡が取れる体制を構築している。「実習の手引き」を共有し、事前・事後指導も含めて、共通理解のもとで実習中の指導を行えるよう取り組んでいる。また、年に1回の「実習連絡会」において、実習先と意見交換を行い、連携を強化する機会を設けている。

実習の主な具体的内容と、それをつうじて身につけることを想定している知識・技能は、次のようなものである。社会福祉士業務に同行し、対象者への相談場면을観察し、座学で学んだ知識や技術の実際を理解する。実習先の福祉サービス利用者とのコミュニケーションを図ったり、多様な角度からの情報収集をつうじて、生活上の課題（ニーズ）を把握したりする方法を身につける。把握した生活上の課題（ニーズ）を分析し、支援計画を作成することにより、課題解決の方策を理解する。実習先が地域住民を対象に実施している事業に参加し、交流を図ることで地域における役割を理解する。他施設・他機関が参加する会議等に同席し、社会福祉士の関わり方や連携方法を観察し、その具体的内容を理解する。このように、実習目的を明確に設定し、それを達成するための実習内容を実習指導者とともに指導することによって、大学教育にふさわしい実習水準を適切に確保できる体制と仕組みを構築している。

カ. 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

実習希望者は、大学で実施している定期健康診断を受診するよう指導し、実習を遂行できる健康状態であることを確認している。また、実習前後の体調管理把握のために、実習前後10日間は体調等の記入を指導している。実習先からの細菌検査等の指示に基づいて、実習生が各自で検査等を受け、その結果を実習先に報告している。検査結果によっては、実習期間の延期等の対応を行っている。実習に関する事故等に対して、すべての学生が加入する「学生教育研究災害補償保険（学研災）」および「学研災付帯賠償責任保険」において、実習中の傷害、損害補償にて対応している。

また、実習の事前指導において、実習において知り得た情報、公共の場所における話題、SNS の利用に関する注意など守秘義務および倫理の指導を行い、情報管理および守秘義務の遵守の実践を周知徹底している。

キ. 事前・事後における指導計画

実習の事前・事後指導は、「実習の手引き」に基づき、各実習先に応じた実習先理解、実習目的設定、実習の振り返りを行っている。実習生と実習指導担当教員でディスカッションを行いながら実習目的を設定し、実習に臨んでいる。また、実習後は、他の実習生からの報告も聴講し、新たな視点を得られるような授業計画を設計している。加えて、実習での学びを実習報告書として作成し、実習体験の理論化、一般化に取り組んでいる。

ク. 教員および助手の配置ならびに巡回指導計画

実習の事前・事後指導は、実習先種別ごとに二クラスに分け、それぞれ専門領域の教員が担当している。実習中は、7名の教員が4か所程度の実習先を分担して巡回指導を担当する。実習先への巡回指導は、1週間に1回程度、公共交通機関、あるいは自動車にて移動し、実施する。実習先は学生の通学圏内相当で通える場所を選定しており、遠隔地ではないため、訪問することに困難はない。また、訪問日時は、当該実習先を担当する教員が、直接実習指導者と日程調整を行うため、通常業務に支障のない範囲で設定することが可能である。そして、基本的には実習先において、実習指導者と実習生の3者で面談し指導を行う。その際、「実習の手引き」や実習生が事前に作成した「実習計画書」を振り返りの指標として利用する。

ケ. 実習施設における指導者の配置計画

実習施設には、ソ教連が指定した基準、すなわち厚生労働省が認定する国家資格基準を満たす日本社会福祉士会認定「社会福祉士実習指導者講習会」（国家資格取得後3年以上の実務経験を有するものが対象）を修了した社会福祉士有資格者が実習指導者として在籍していることが実習施設の要件である。実習指導者は、所定の単位を修めており、また、適宜、日本社会福祉士会より研修が実施されている。当該指導者の指導に基づき、実習が行われる。そして、一人の実習指導者につき指導できる実習生は、同期間に5名という上限が設定されている。実習指導者の在籍について、大学と実習施設が定期的に連絡を取り合い、常に実習施設としての要件を充足できているか確認している。

実習先との実習の達成目標等の共有については、年に1回開催している「実習連絡会」において、「実習の手引き」を配布し、それに基づく説明を実施することで図っている。また、実習中は、実習担当教員が実習先を適時訪問し、達成目標等について、各実習先に即して説明を行う機会がある。そして、実習終了後に「実習報告書」を作成し、実習生の達成状況を示し、指導の成果を共有することで次年度以降の指導の参考にしてもらっている。このように、達成目標等を文書で共有し、さらに個別に説明する機会も設けている。

コ. 成績評価体制および単位認定方法

「ソーシャルワーク実習指導」の成績評価は、2名の教員が担当しているため、同一のシラバスを作成し、到達目標、評価の観点、基準等の共通化を図って行っている。そして、採点時には担当教員間で評価のずれが発生しないように、受講態度、提出物、実習記録、報告書等を共同で確認している。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者に対して行う。

「ソーシャルワーク実習」は、ソ教連の「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン（2021年8月改訂版）」を参考にして、本学が作成した「実習評価票」を用いて評価を行っている。「実習評価票」は、実習終了後に実習指導者に記入してもらっている。その「実習評価票」に基づき、実習担当教員間で協議し評価を行っている。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者となる。

サ. その他特記事項

心理・福祉学科では、社会福祉士国家試験受験資格に加え、SSW 認定資格を取得することができる。そのための実習として、「スクールソーシャルワーク実習」を設置している。「スクールソーシャルワーク実習」は、ソーシャルワークの現場を教育現場に特化したものであるが、その考え方や進め方は上述の「ソーシャルワーク実習」の「ア～コ」と基本的に同様になっている。SSW 認定資格を取得するためには、在学中にソ教連が認定する教育課程を修了するとともに、社会福祉士国家試験に合格し、資格登録を受けたのち、教育課程修了証の交付を受け、ソ教連に申請する必要がある【資料8】【資料9】【資料10】。

8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学部では、2の「学部・学科等の特色」等でも既述のとおり、学外の実習先における体験に、事前の準備学習と事後のふりかえりと報告書作成を加えたものを比較的早期から単位化しはじめ、現在では2年次配当科目「社会研究実習（事前事後の指導を含む）」を「導入」とし、そこから「地域社会体験実習（市役所）」「グローバル社会体験実習」、さらには心理または福祉分野における専門的な実習へと発展的につなげるようにしている。後者の専門的な実習については9の「実習の具体的計画」で記したので、以下では、「社会研究実習（事前事後の指導を含む）」「地域社会体験実習（市役所）」「グローバル社会体験実習」の3つの科目について記す。

（1）社会研究実習（事前事後の指導を含む）

ア. 実習先の確保の状況

社会研究実習の実習先としては、社会の中に存在する多様なアクターとそのつながり、活動の内容やその背景を学ぶために、【資料11】のとおり、民間企業や、心理・福祉分野を含む、多様な活動を行う市民公益活動団体等が含まれている。

イ. 実習先との連携体制

科目担当教員と実習先との間では、毎年、シラバスを作成する時期に翌年度の実習受入の可否を確認する。その際、実習の目的や内容などについて協議・共有する。

そして、実際に履修学生が特定の実習先での実習を希望し、担当教員の指導を踏まえて、履修学生が実習先の目的や活動内容、その背景等を調べ、また、何を目的として実習するのかを考え、エントリーシートに書き込むことができた場合は、学長名での依頼書とともにそのエントリーシートを送付し、実習先からは受入承諾書を得て、実習が開始されることになる。なお、実習期間は40時間であり、その間に問題が生じた場合は、実習先受入担当者と担当教員が学内関係者と情報共有しつつ、すみやかに対応できるよう緊急連絡先を共有し、実習を実施している。

ウ. 成績評価体制および単位認定方法

成績評価は、実習先で体験してきたことだけではなく、そこから得られた学びに対して単位を与えるこ

とを基本方針とし、具体的には、担当教員による半構造的なファシリテーションに基づくリフレクション、担当教員らが作成した「報告書作成教室テキスト」を参照しながら、まとめられた報告書を軸に、事前学習への取組状況、実習中の実習日誌への記載を総合的に踏まえ、実習指導担当教員が行うようにしている。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者に対して行う。

（2）地域社会体験実習（市役所）

ア. 実習先の確保の状況

地域社会体験実習（市役所）は、本学が位置する富田林市の市役所であり、本学と市が締結した連携協力に関する基本協定がその根拠となっている。実際の実習人数については、実習先との協議を踏まえ、公務員志望の学生を5名までとなっている。

イ. 実習先との連携体制

担当教員と実習先との間では、毎年、シラバスを作成する時期に翌年度の実習受入の可否を確認する。その際、実習の目的や内容などについて協議・共有する。

そして、担当教員の指導の下、市の中長期計画文書を読み、市の課題と市役所の部署構成を理解した上で、エントリーシートに志望動機と実習希望部署を書き込み、学長名で作成した依頼書を送付し、市から承諾書の返送があれば実習が開始される。なお、実習期間は40時間であり、その間に問題が生じた場合は、実習先受入担当者と担当教員が学内関係者と情報共有しつつ、すみやかに対応できるよう緊急連絡先を共有し、実習を実施している。

ウ. 成績評価体制および単位認定方法

成績評価は、実習先で体験してきたことだけではなく、そこから得られた学びに対して単位を与えることを基本方針とし、具体的には、担当教員による半構造的なファシリテーションに基づくリフレクション、担当教員が作成した「報告書作成教室テキスト」を参照しながら、まとめられた報告書を軸に、事前学習への取組状況、実習中の実習日誌への記載を総合的に踏まえ、実習指導担当教員が行うようにしている。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者に対して行う。

（3）グローバル社会体験実習

ア. 実習先の確保の状況

実習先とは、実習前より担当教員と実習先受入担当者との間で、実習に対する考え方、目的、指導方針などについて協議し、これらの基本事項について共有することができる場所のみを実習先としている。年度ごとに異なるが、これまでは、台湾の民間企業、あるいは、カンボジアのNGOを実習先として実施してきており、今後も、基本的に同じ実習先からの協力を得て、実習を実施する予定である。

イ. 実習先との連携体制

実習実施期間内においては、担当教員は、実習生とともに活動し、適宜、学生指導を行う。なお、実習期間は60時間以上であるが、この実習への参加は、担当教員が運営委員をつとめるネットワーク団体「大学教育における海外体験学習研究会」での調査研究等に基づき、リスクコミュニケーションという考えを取り入れてデザインされた事前セッションの受講、海外旅行保険への加入等を条件とし認めることとし、また、学内関係者や学外の旅行代理店等との緊急連絡体制を整備した上で実施する。

ウ. 成績評価体制および単位認定方法

成績評価は、実習先で体験してきたことだけではなく、そこから得られた学びに対して単位を与えることを基本方針とし、具体的には、担当教員による半構造的なファシリテーションに基づくリフレクションの結果、報告書作成指導を踏まえながら、まとめられた報告書を軸に、事前学習への取組状況等を総合的に踏まえ、実習指導担当教員が行うようにしている。単位の認定は、60点以上の成績を収めた者に対して行う。

なお、心理・福祉学科では、単位化はされていないが、以下に記す形で、学生の学外での体験的な学習を促していく。

(4) インターンシップ（単位化されていないもの）

ア. 実習先の確保の状況

近隣の保健医療機関・総合病院にて、保健医療に関する地域連携・院内連携の現場体験の機会（医療事務、医療秘書、一般事務、医療ソーシャルワーカーなどの職種連携の場）として、インターンシップ活動に参加することができる。なお、対象は主として社会福祉士養成課程に所属する学生で、ソーシャルワーク実習を修了した者とする。

イ. 実習先との連携体制

インターンシップ活動をするにふさわしいとインターン先があった場合は、学長からの依頼書をもとに、インターン先とインターンシップ活動の具体的な実施期間と内容に関する協定を結ぶ。インターン先とは、実習前より担当教員とインターン先指導者との間でインターンシップ活動に対する考え方、目的、指導方針などについて協議し、共有する。活動実施期間内においては、担当教員は、インターン先指導者と適宜連絡を取り、学生指導を行う。インターンシップ活動中に問題が生じた場合は、インターン先指導者と担当教員がすみやかに対応する。学生に急病、事故、忌引等の事態が発生した場合には、学生は速やかに担当教員およびインターン先指導者に連絡をする。いずれの場合も、状況について担当教員から心理・福祉学科学科長に報告する。

ウ. 成績評価体制および単位認定方法

この取組は成績評価および単位認定の対象とはしていないが、①「インターンシップ活動エントリーシート」、②「誓約書」とともにインターン先に提出し修了後に返却される、③「インターンシップ活動勤務実績簿」により、指定された期間のインターンシップ活動を大学公式の取組として修了したことを証明し、このインターンシップ活動を修了した経験が就職活動や社会活動に役立てることができるように支援している。

(5) 海外研修

本学においては、国際交流室が海外での語学習得や異文化体験をつうじた視野の拡大を意図したプログラムを開発・実施してきている。具体的には、「海外研修 A（英語圏）」「海外研修 B（英語圏）」「海外研修 A（朝鮮語圏）」「海外研修 B（朝鮮語圏）」の4科目がある。渡航先は、英語圏としてはカナダのランガラ大学、ニュージーランドのワイカト大学、アメリカのモラビアン大学、フィリピンのレトラン大学、朝鮮語圏としては、韓国の壇國大学と慶熙大学であり、英語圏・朝鮮語圏それぞれで2つの研修参加まで単

位取得が可能で、共通教育科目として扱われている。実際の単位付与は、2時間×3回の事前・事後研修、危機管理セミナーへの参加が義務づけられおり、上述の提携先大学からの修了証等を条件として行われる。

9. 取得可能な資格

学部横断的に取得できる資格・免許のほか、心理・福祉学科では、主として対人援助に関する資格・免許として以下のものを想定する（資格種別として国家資格、民間資格、2つに大別される）。

*以下のものはすべて受験資格を得られるものである。そのためには各資格取得に必要な科目を選択して履修し、所定の単位を得る必要がある。資格取得は卒業・修了要件ではない。

・公認心理師

ア 国家資格、イ 受験資格（*大学院進学および学部卒業後指定された要件の実務経験が必要）

ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、公認心理師関連科目の履修が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。

・社会福祉士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・認定心理士

ア 民間資格、イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・認定心理士（心理調査）

ア 民間資格、イ 資格取得が可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・社会福祉主事任用資格

ア 民間資格、イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・カウンセリング実務士

ア 民間資格、イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・スクールソーシャルワーカー

ア 民間資格、イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・医療管理秘書士

ア 民間資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

・保健医療ソーシャルワーカー

ア 民間資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

なお、公認心理師の実際の資格取得には、学卒後、①公認心理師プログラムに対応した大学院への進学、

②所定の要件を満たす実務経験プログラム指定施設における3年の勤務経験が必要であることを、入学前のオープンキャンパスや入試説明会で説明している。また、入学後は、初年次前期、入学直後のオリエンテーション、初年次後期のコース選択説明会、その他、公認心理師プログラム履修説明会などで、説明しており、希望者には随時、個別説明の対応も実施している。

また、SSW認定資格の取得においても、在学中にソ教連が認定する教育課程を修了するとともに、社会福祉士国家試験に合格し、資格登録を受けた後、教育課程修了証の交付を受ける必要がある。具体的には、以下の条件をすべて満たすことで認定資格を取得できる。①社会福祉コースを専攻し、社会福祉士国家試験受験資格課程に資格登録すること、②社会福祉士指定科目として設置された所定の科目を履修し、単位を修得すること、③ソ教連が認定する「スクール（学校）ソーシャルワーク専門科目」として設置された所定の科目を履修し、単位を修得すること、④ソ教連が認定する「教育関連科目群」として設置された所定の科目を履修し、単位を修得すること、⑤ソ教連が認定する「追加科目」として設置された所定の科目を履修し、単位を修得すること、⑥社会福祉士国家試験に合格し、資格登録を受けること、である。以上のことを、SSW取得を希望する学生に対して、2年次に説明会や個別説明を実施し、理解を図っている。

10. 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

本学部は、既述のように、「人と社会」の関係について科学的視点を持って探究し、人と社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた、社会の発展に有為な人材を育成する」（大阪大谷大学学則第3条第2項（3））ことを目的にしている。そのため、大学レベルの学習を行うのに必要な一定以上の学力を有するとともに、心理・福祉学科においても「人と社会」の関係のほか、心理や社会福祉に関する興味関心を持ち、これを満たすための努力をいとわない人物を選抜する。

(2) 具体的な選抜の方法

アドミッション・ポリシーは、心理と福祉に関する諸問題を解決するために必要とされる専門的な価値、知識、技術を身に付け、これを応用し、課題を発見し、解決できる人材の育成をめざすこととしている。そして、次の5点を入学者に求める資質として設定している。

入学者に求める資質	
AP①	高等学校の教育課程を幅広く修得し、とくに国語、社会、英語、体育に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
AP②	基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考え、わかりやすく説明することができる。
AP③	自主的に学習する習慣を持っており、主体的・協力的な取り組み姿勢・態度を身につけている。
AP④	心理や福祉に高い関心があり、企業、行政、医療、福祉、教育の現場などの職場で社会に貢献するために、積極的に学びたいという意欲をもっている。
AP⑤	多様な人々と協働して人と社会の課題に関わり、取り組むことができる。

心理・福祉学科は、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試等を実施し、多様な入学生を選抜する仕組みを設けている。学校推薦型選抜入試は、「指定校推薦」「学内推薦」「同窓（ファミリー）」「スポーツ推薦」「特別推薦（専門学科・総合学科対象）」「公募推薦」の入試がある。また、一般選抜入試は、「一般」「大学入学共通テスト利用」の入試がある。募集人員の割合は、総合型選抜入試10.0%、学校

推薦型選抜入試 54.0%、一般選抜入試 32.0%、その他 4.0%である。そして、入学者の選抜は全学体制で実施し、人間社会学部教授会において合否判定を行う。以下、入試区分別に募集人員、選抜方法と該当するアドミッション・ポリシー、選抜基準を示す。

① 総合型選抜入試

募集人員は5名であり、第2次選考まで実施する。課題型試験と自己推薦型試験のいずれかを選択することができる。共通の選抜方法は、エントリーシート（AP④）、高校調査書（AP①⑤）、面接（AP②③④⑤）である。そして、課題型試験は小論文（AP①②）、自己推薦型試験は取得資格等の書類（AP③⑤）とプレゼンテーション（AP②④⑤）を課している。これらを総合的に評価し、選抜する。

② 指定校推薦入試

募集人員は6名であり、対象となる受験生は、推薦基準以上の学習成績を収め、出身学校長の推薦のある者である。選抜方法は、高校調査書（AP①⑤）、小論文（AP①②）、面接（AP②③④⑤）である。これらを総合的に評価し、選抜する。

③ 学内推薦入試

募集人員は4名であり、対象となる受験生は、本学と同法人の大谷高校、東大谷高校において、推薦基準以上の学習成績を収め、出身学校長の推薦のある者である。選抜方法は、高校調査書（AP①⑤）、小論文（AP①②）、面接（AP②③④⑤）である。これらを総合的に評価し、選抜する。

④ 同窓（ファミリー）入試

募集人員は若干名であり、対象となる受験生は、本学の卒業生あるいは在学生の3親等以内の者である。選抜方法は、高校調査書（AP①⑤）、小論文（AP①②）、面接（AP②③④⑤）である。これらを総合的に評価し、選抜する。

⑤ スポーツ推薦入試

募集人員は若干名であり、スポーツ活動において優れた能力と実績がある者を対象としている。選抜方法は、スポーツ活動の実績を含む高校調査書（AP①⑤）、小論文（AP①②）、面接（AP②③④⑤）である。これらを総合的に評価し、選抜する。

⑥ 特別推薦（専門学科・総合学科対象）入試

募集人員は若干名であり、専門学科・総合学科の者を対象としている。選抜方法は、高校調査書（AP①⑤）、小論文（AP①②）、面接（AP②③④⑤）である。これらを総合的に評価し、選抜する。

⑦ 公募推薦入試

本学独自の学力試験と多様な能力を持つ入学生を選抜するため、心理・福祉学科のアドミッション・ポリシーに即した活動・資格検定の実績を有する者を対象とした入試も実施している。

入試区分	募集人員	選抜方法
公募制推薦入試 (前期 A 日程)	8 名	英語、国語、体育：いずれか 1 科目、あるいは 2 科目を選択する。(AP①②)、調査書 (AP①⑤)
公募制推薦入試 (前期 B 日程)		英語、国語、体育：いずれか 1 科目、あるいは 2 科目を選択する。(AP①②)、調査書 (AP①⑤)、活動・資格検定 (AP①)
公募推薦入試 (後期)	6 名	英語、国語、体育：いずれか 1 科目、あるいは 2 科目を選択する。(AP①②)、調査書 (AP①⑤)

⑧ 一般入試

本学独自の学力試験に加え、高等学校における取組等を評価するため高校調査書を選抜方法に設定した入試も実施している。また、志望理由書の提出を求め、心理・福祉学科のアドミッション・ポリシーを理解し、学ぶ意欲の高い者を選抜する入試も設け、多様な入学生を選抜する入試を実施している。

入試区分	募集人員	選抜方法
一般入試 (前期)	7 名	国語、英語、日本史：国語に加え、英語あるいは日本史から 1 科目選択する。(AP①②)
一般入試 (中期)	3 名	国語、英語、日本史：国語に加え、英語あるいは日本史から 1 科目選択する。(AP①②)、調査書 (AP①⑤)、志望理由書 (AP④)
一般入試 (後期)	2 名	英語、国語：いずれか 1 科目選択する。(AP①②)

⑨ 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストを利用した入試である。試験科目の選定は、心理・福祉学科のアドミッション・ポリシーにおいて設定している科目をもとに行っている。

入試区分	募集人員	選抜方法
大学入学共通テスト利用入試 (前期)	1 名	C1 (1 科目型) ・国語、外国語：高得点 1 科目採択 (AP①②)
大学入学共通テスト利用入試 (中期)	1 名	C2 (2 科目型) ・国語、外国語：高得点 1 科目採択 (AP①②)
大学入学共通テスト利用入試 (後期)	1 名	・国語、地理歴史・公民、数学、理科、 外国語：高得点 1 科目採択 (ただし、国語、外国語の内採 択教科を除く) (AP①②)

⑩ その他

・外国人留学生入試

募集人員は若干名であり、日本語能力試験の N1 または N2、あるいは日本留学試験の証明書等の提出を求めている。経費の支弁能力は、経費支弁者に「経費支弁書」の提出を求め、経済的に修学が可能な状況であるか確認している。そして、所属学科と連携しながら、国際交流室において留学生の在籍管理を所管している。選抜方法は、日本語能力証明書を含む高校調査書 (AP①⑤)、小論文 (AP①②)、面接 (AP

②③④⑤)である。これらを総合的に評価し、選抜する(大阪大谷大学外国人留学生規程)。

・社会人入試

募集人員は若干名であり、対象となる社会人は、社会人としての経験を5年以上有し、入学時の満年齢が23歳以上の者としている。選抜方法は、小論文(AP①②④)、面接(AP③④⑤)である。これらを総合的に評価し、選抜する。また、入学前に他の大学等で修得した単位は、60単位以内を認定する。入学後に既修得単位を認定するにあたり、対象科目のシラバスの提出を求め、本学設置科目の学習内容に該当するものであるか判断する。

・科目等履修生・聴講生

科目等履修生は、教授会にて選考のうえ、開講している科目をすべて履修することが可能となっている。ただし、本学学生の授業に支障のないように、次の2点が定められている。実験、実習、実技の科目は、本学卒業生、本学大学院生および大学院修了者、本学専攻科生および専攻科修了者以外の履修を認めていない。また、1年間に履修できる単位数は、20単位以内としている(大阪大谷大学科目等履修生規程)。

聴講生は、教授会にて選考のうえ、指定された科目のみを聴講することができる。そして、1年間に受講できる科目数は、10科目以内に限定されている(大阪大谷大学聴講生規程)。

11. 教員組織の編制の考え方及び特色

心理・福祉学科の教員組織は、学科の教育目的を達成するため、11名の専任教員で構成される。このうち、心理学を専門とする教員は、既存学科の教員5名に新規採用の2名を加えた7名であり、心理・福祉学科の心理コースに所属する。社会福祉学を専門とする教員4名であり、心理・福祉学科の社会福祉コースに所属する。

11名の専任教員の職位と年齢の内訳は以下である。

教授 (60代) 1名、(50代) 3名

准教授 (40代) 5名

講師 (40代) 1名、(30代) 1名

このように、教員の年齢構成が特定の範囲に偏ることなく各年代にバランスよく配置している(心理・福祉学科の完成年度までに定年を迎える教員はいない)【資料12】。学位の構成は、博士6名、修士5名であり、後述するように、いずれも高い見識と豊富な経験を有する研究者である。今後、さらに教育実績を積み上げ、研究活動の活性化を図り、その経験や業績を踏まえて職位の昇格等を検討する。

心理コースの教員7名は、それぞれ公認心理師(国家資格)、臨床心理士(日本臨床心理士資格認定協会)、キャリアコンサルタント(国家資格)を取得しており、上述の教育研究上の目的、養成する人材像に鑑み、関連科目ならびにキャリア形成を含む基礎から応用まで幅広い心理学に関する科目を担当することができる。心理コース教員の専門領域は次の通りである。すなわち、保健・医療分野では、精神科、心療内科、心理的アセスメント、コンサルテーション・リエゾン、トラウマティック・ストレス回復支援の研究・実践家が在籍している。教育分野では、スクールカウンセリング、学生相談、特別支援教育の研究・実践家が在籍している。福祉分野では、発達障害児・者のアセスメントと支援、高齢者心理アセスメ

ントと支援の研究・実践家が在籍している。産業・労働分野では、キャリアカウンセリング、従業員支援プログラム、精神障害者リハビリテーション、対人援助者支援に関する研究・実践家が在籍している。

心理コース教員の教育研究活動としては、「臨床心理学」「パーソナリティ心理学」「学習心理学」「心理学研究法」「心理測定法」「感情心理学」「社会心理学」「産業心理学」「カウンセリング心理学」「教育心理学」「医療心理学」等に関する教育・研究経験を有しており、基礎心理学から応用心理学までの幅広い科目の担当が可能である。さらに、公認心理師の資格を有する教員は、家族療法・短期療法（解決志向アプローチ等）、認知行動療法、来談者中心療法、フォーカシング指向心理療法、EMDR、力動的心理療法ほか、幅広い心理的支援方法の実践家であり、実践的な指導を行うことができる。心理コースの実習指導教員は上述の臨床実践や研究実践の経験、実習・演習科目の教授経験を活かし、実習生が多様な領域の実習経験を積めることや、実習受入人数等の基本的枠組みを考慮しながら、幅広い教養を基盤に深い専門的な知識や実践力、多職種協働、多角的視点の形成を志向した実習指導を行う。

社会福祉コースの教員4名全員が社会福祉士（国家資格）を取得しており、上述の教育研究上の目的、養成する人材像に鑑み、関連科目ならびにキャリア形成を含む基礎から応用まで幅広い社会福祉学に関する科目を担当することができる。

社会福祉学教員の専門領域は次のとおりである。①高齢者福祉分野では、高齢者福祉援助実践・方策、介護保険制度、認知症ケアなど、②障害者福祉分野では、障害者福祉実践・政策、地域生活支援実践・方策、地域福祉援助実践・方策など、③子ども家庭福祉分野では、社会的養護、児童虐待、里親支援など、④保健・医療福祉分野では、地域ケア・施設ケア、在宅介護・地域包括支援、精神保健福祉・メンタルヘルス、④教育福祉分野では、子ども家庭支援、スクールソーシャルワーク、特別支援・療育等支援などの研究・実践家が在籍している。

社会福祉コース教員の教育研究活動としては、「社会福祉概論」「介護概論」「社会福祉政策論」「社会福祉調査論」「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「子ども家庭福祉論」「医療福祉論」「精神保健の課題と支援」「ソーシャルワークの理論と方法」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「スクールソーシャルワーク論」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習」などの教育・研究経験を有しており、社会福祉学の共通基盤科目から専門領域科目までの幅広い科目の担当が可能である。

社会福祉コースの演習・実習指導教員は上述の臨床実践や教育・研究実践の経験、そして厚生労働省指定の社会福祉士養成にかかる実務経験および指導教員講習会を修了している。これらを踏まえて社会福祉学教員とりわけ演習・実習指導教員は、地域の専門・関連機関や専門職能団体と協働しながら社会福祉専門職の人材育成の貢献につとめ、実習生が多様な領域の実習経験を積めることや実習の受入人数等の基本的枠組みを考慮しながら、ソーシャルワーク専門職に必要とされる専門的な価値・知識・技術の修得を目指して、実践力、多職種協働、多角的視点の形成を志向した実習指導を行う。

以上、心理・福祉学科の教員は、社会福祉コースと心理コースの連携により、福祉的視点を持った公認心理師、心理的視点を持った社会福祉士を養成する布陣となっている。

なお、ここで、中核的な位置づけを有する科目の担当に関する基本的な考え方を記しておく。共通教育科目のうち、必修科目である「宗教学・A、B」や生命の尊さを一人ひとりが見つめ直す機会として開講する「いのちを共に考える」については、兼任教員もしくは本学の専任教員であった兼任教員が担当する。また、語学力向上とグローバルな視点の形成に資する英語教育8科目については少人数教育を実現可能とする数の兼任教員もしくは兼任教員を配置している。大学での学修スキルの定着からキャリア形成までの一貫した大学生活の基盤となる「新入生セミナー」「コンピュータ技術基礎Ⅰ」「キャリア概論」については専任教員、兼任教員が担当する。

また、専門教育科目では、1年次には、初年次教育の基盤となる「基礎ゼミⅠ（学習技術）」、心理学および社会福祉学の基礎を学ぶ「心理学概論」「社会福祉概論」「臨床心理学概論」は専任教員が担当する。心理学・社会福祉学を学ぶ上での人間的素養を育む「基礎コミュニケーション演習」については、心理・社会福祉両コースの専任教員4名が共同担当する。2年次には、専門教育の学問的基盤を構築する「基礎ゼミⅡ（研究入門）」「心理学実験ⅠA・ⅠB」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、実践的基礎を固める「メンタルヘルスマネジメント演習」「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」などの演習科目、実験・実習科目についても専任教員が中心となって担当することとする。3年次では、学生の進路に合わせて5つの履修モデルに基づいた専門科目を開講するが、「ゼミナールⅠ」については専任教員から関心領域に関する研究の指導を受ける。また、社会福祉コースでは「ソーシャルワーク実習」が展開されるが、これは専任教員4名、兼任教員3名が実習指導を行う。4年次には、その前年の「ゼミナールⅠ」を担当した、同じ専任教員の指導のもと、卒業研究に関する指導を受け、卒業論文を完成させる。心理コースにおいては「心理実習」を展開し、専任教員6名が実習施設への引率や教室での事前事後指導を含む指導を行う。なお、3年次、4年次において、社会福祉コースと心理コースの連携により、福祉的視点を持った公認心理師、心理的視点を持った社会福祉士を養成する専任教員の配置も行っている。

12. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学は、大学の大きな使命の一つである社会貢献を果たすため、研究の円滑で効果的、公正な実施を促進するため、以下に記す体制を整備している。

まず、総務課内に研究支援を業務とする「研究支援係」を置き、①学内資金や外部資金の獲得にかかる支援といったプレアワード業務、②資金獲得後の予算管理等のポストアワード業務等を担っている。

本学における研究活動における研究倫理への対応については、文部科学省通知「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の趣旨に基づき、大阪大谷大学研究活動上の不正行為の防止および対応に関する規程を制定している。本規程は、本学における研究活動上の不正行為の防止および、学内外からの通報に対する適切な取扱いを含め、研究活動上の不正行為が生じた場合における適正な対応についての体制整備等に必要な事項を定めるとともに、本学における研究倫理の向上を目的としている。また、学長を統括責任者とし、各学部長が推薦した当該学部の教員1名（計4名）を、部局における研究倫理教育について実質的な責任と権限を持つ研究倫理教育責任者と定め、学部の研究者等に対し研究倫理に関する教育を定期的に行わなければならないことを定めており、全教員参加型の研究倫理教育の受講実施も進めている。さらに、本規程に定められた研究公正委員会を適宜開催し、本学における研究倫理体制の構築および研究倫理の向上等に関する事項についての審議を行っている。

心理・福祉学科における研究の多くが該当する「人を対象とする研究」における研究倫理の確保については、これまでも文学部・教育学部・人間社会学部における「人を対象とする研究」にかかる審査を行う研究倫理委員会を設置してきている。そこでは、研究者から提出された申請書を複数名の研究者がピアレビューし、出てきた審査結果を当該委員会委員が再確認するという形で、本学研究者が関与する、人を対象とする研究が人権・倫理基準を満たすものであるようにしている。

また、知的財産の創出と適切な管理・活用を確立すべく、知的財産に係る産学官の連携、施策を推進することを目的に、大阪大谷大学知的財産ポリシーを策定している。本ポリシーは、本学の教職員によって創出された知的財産の取り扱いに関する基本的な考え方や、産学官連携活動への全学的な取組姿勢を学内外に示して理解を求め、研究・教育成果の効果的な社会還元をその目的としている。また、本ポリシーに基づき、副学長を中心とする組織体制および運営等を定めた大阪大谷大学発明委員会規程を制定して

いる。本委員会では届出のあった発明等について本学が承継するか否かの判断、本学が承継した発明等について出願、権利化および権利維持するか否かの判断、それ以外の本学の発明に関する重要事項等を審議し、ポリシーの定める基本方針に基づいて具体的な任務を遂行している。

同じく、本学教職員が利益相反を懸念することなく産学官連携活動を行うことができる環境を整備し、本学の社会的信頼を維持し産学官連携活動を円滑に推進するために、大阪大谷大学利益相反マネジメント規程を策定し、具体的なマネジメントの対象となる連携活動にともなう本学の社会的信頼の確保に努めている。さらに、大阪大谷大学利益相反マネジメント委員会規程を策定し、本学における利益相反マネジメントに関する事項等について審議できる体制を整備している。なお、本委員会は、学長が指名する副学長（各研究科長、各学部長、および事務局長以外に、科学研究について専門知識を有する者（1名）、科学研究における行動規範について専門知識を有する者（1名）ならびに法律の知識を有する者（1名）で構成されており、より実質的な対応が可能となっている。

研究資金に関しては、本学では、教授（特任教授を含む）、准教授、専任講師（特任講師を含む）および助教の学術研究活動を支援することを目的として個人研究費を支給している。これは、一人当たり原則、20万円（年間）を限度に助成する制度である。個人研究費の用途範囲は、学会・研究会の年会費、教育研究用機器備品費、用品費、消耗品費、印刷製本費、通信費、雑給、研究旅費（交通費を含む）、その他研究に要する諸費全般を対象と広範囲に及んでいる。助成を受ける者に対しては、当該年度のはじめに研究計画書を学長に提出することを義務付け、計画的かつ効果的な使用を促している。

また、公募制である特別研究費は、大阪大谷大学特別研究費助成規程に基づき運用しており、研究および教育の進展に寄与するため、文学部、教育学部および人間社会学部の専任教員が、研究期間を2年とし、一人または共同して行う学術研究活動を支援することを目的としている。助成の対象は、専門分野における独創性や、本学における教育活動の向上に対する貢献性を備え、とくにすぐれた成果が予想される研究であり、総額 600万円を 1 件につき 50万円以上 150万円以下で助成する制度である。

さいごに、図書館は、学術研究活動全般を支える、重要な学術情報基盤の役割を有している。本学の図書館の蔵書数は約47万冊であり、幅広い研究分野の文献、資料を有する。図書館内には蔵書検索システムOPAC（Online Public Access Catalogue）用端末、インターネット環境端末、CD-ROM 専用端末を配置している。図書館システムは LAN と結ばれ、OPAC の他、上記データベース検索、電子ジャーナル・電子書籍の閲覧、My Libraryサービス（図書の購入・予約、文献複写・貸借申込み等）が学内外から利用できる。その他、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやディスカバリーサービスに該当する文献検索ツールも導入している。

13. 施設、設備等の整備計画

（1）校地、運動場の整備計画

本学のキャンパスは、富田林市の南西、大阪狭山市と隣接する錦織地区に位置している。校地および運動場の用地の整備について、既存学部との校地を共用するため、新たな校地の所有および借用は予定していない。校地面積は 77,552.765 m²（うち運動場用地の面積は 9,283.150 m²）を有し、校舎の延床面積は 45,299.63 m²で、大学設置基準を上回っており、人間社会学部心理・福祉学科設置後も、既設学部とは十分に共用可能である。

学生の休息スペースについては、学生食堂を3箇所設置している。座席数は志学館3階約300席、成光館1階約370席、成和館1階約170席あり、食事のみならず学生の相互交流や自習にも活用できるスペースとなっている。また、万葉植物園、1号館中庭をはじめ、キャンパスのいたるところに樹々や芝生等

の緑化空間を配置し、噴水広場、ウッドデッキスペースを設けるなど、学生の憩いの場が確保されている。

運動場としても、総合グラウンドとテニスコートを2面備え、課外活動以外でも多くの学生が利用している。他にも、体育施設として、体育館4施設（アリーナを含む）、トレーニングルームおよび屋外プール等を整備しており、各種の授業や課外活動で使用している。なお、令和2（2020）年11月に竣工した新体育館は、講堂機能と体育館機能からなる多機能施設であり、最大約1,500席を収容できるメインアリーナ、ミーティングルーム、多目的スタジオ（兼柔道場）を完備している。災害時には、本学学生・教職員はもとより、地域の避難所となることも想定し、耐震安全性の高い構造とユニバーサルデザインを採用している。

（2）校舎等施設の整備計画

教室の整備計画については、講義室53室、演習室30室、実験演習室67室、情報処理学習施設9室、語学学習施設2室が既に整備されている。今回、新設する人間社会学部心理・福祉学科は、基礎となる人間社会学部人間社会学科4コースのうち、心理コース、社会福祉コースの2コースを学科独立させるものであること、また、大学全体の収容定員の調整（大学の収容定員の総数の増加を伴わない）も予定していることから、現有の校舎施設等を活用することで、学生の収容力に問題はなく、授業の実施について支障は生じないと考えている。

研究室については、専任教員に1人1室（合計11室）を確保している。教員の研究活動の他、オフィスアワー等による学生への学修指導も可能なスペースが確保され、情報管理等のための気密性も担保されている。

（3）図書館等の資料および図書館の整備計画

図書館は、キャンパスのほぼ中央に位置し、学生、教職員にとって利活用しやすい場所にある。面積は、3,780㎡有し、閲覧座席数は378席を備えている。平日は午前9時から午後7時30分（土曜日は午後3時）まで開館している。日曜祝日、創立記念日、学生登学禁止日、学園一斉休業期間、蔵書点検期間を除き、授業が無い期間でも平日は19時30分まで開館している。

大学全体の図書数は、すでに一部記述したように、約47万冊、学術雑誌（電子ジャーナルを除く）は4,900冊あり、既に多くの心理学、社会福祉学等に関する図書が保有されている。また、日本図書館協会公表の「大学図書館集計I（2021）」によると、国公私立大学全体での蔵書数は331,224,000冊、学生数が5,650,843人となっていることから、1人あたりの蔵書数は58.6冊となる。本学の在籍者数2,719人に58.6冊を掛けると159,333冊となる。本学の蔵書数は約470,000冊であるので、平均を遥かに上回っている。さらに、人間社会学部心理・福祉学科設置後も学科として、毎年、約1,400冊の図書が追加され、学術雑誌（電子ジャーナルを除く）についても約130種が保有される見込みとなっている【資料13】。

蔵書検索システム（OPAC）は、大学ホームページからアクセスでき、学内外を問わず図書館の蔵書を検索することができる。また、各種データベース・電子ジャーナル・デジタル化した貴重図書もインターネットから閲覧でき、国内外の研究利用に供している。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始し、絶版等の理由で入手が困難な資料を館内で利用できるようにしている。さらに、多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保するため、ディスカバリーサービスに該当する文献探索ツールを導入している。

他の大学図書館との協力については、国立情報学研究所のILL（図書館間相互利用）サービスに参加しており、必要な資料が学内にない場合は、それを所蔵している他大学図書館等に閲覧・複写・貸出の依頼を

することができる。

なお、学修のアクティブラーニング化を支えるため、令和4（2022）年10月からは、図書館の一部をラーニング・コモンズとして整備している。広さとしては、38.50 m²で、学生のグループ課題等への取組に備え、3台のパソコンを設置し、Wi-Fiも完備している。さらに、図書館以外の施設ではあるが、志学館1階（416.02 m²）にもラーニング・コモンズ機能を持たせ、学生の使用に供している。

14. 管理運営及び事務組織

本学では、教学面における管理運営の体制として、大学全般にわたる教育研究に関する重要事項を審議する「協議会」（学則第58条）、学部の教育研究に関する事項を審議する「教授会」（学則第61条）を設置している。

【協議会】

協議会は、大学全般にわたる教育研究に関する重要事項を審議するための機関として設置されており、学長、副学長、学長特別補佐、文学研究科長、薬学研究科長、文学部長、教育学部長、人間社会学部長、薬学部長、図書館長、教務部長、学生部長、入試対策室長、キャリアセンター長、事務局長をもって構成されている（協議会規程第2条）。

なお、協議会は、学長が招集し議長となり、構成員の3分の2以上の出席をもって成立することとしている。開催頻度は、原則として月1回であり、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程編成の基本的方針に関する事項
- (2) 学則および諸規程の制定、および改廃に関する事項
- (3) 予算に関する事項
- (4) 組織に関する事項
- (5) 教育職員の人事に関する事項
- (6) 学部・学科・研究科・専攻の新設・改廃に関する事項
- (7) 学生募集に関する重要な事項
- (8) 学生の厚生補導および賞罰等、その身分に関する事項
- (9) 学生定員に関する事項
- (10) その他大学・大学院の運営に関し、学長が必要と認めた事項

【教授会】

教授会は、学部の教育研究に関する事項を審議するための機関として設置されており、学部専任の教授・准教授・講師をもって構成されている（教授会規程第4条）。

なお、教授会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立することとしている。開催頻度は、原則として月1回であり、次の事項を審議する。

- (1) 学生の入学、卒業および課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 学部の教育課程および授業に関する事項
- (4) 教員の研究業績の審査に関する事項

- (5) 学部・学科の新設・改廃に関する事項
- (6) 学生の厚生補導および賞罰等、その身分に関する事項
- (7) 学則および諸規程の制定および改廃に関する事項
- (8) 教育研究予算に関する事項
- (9) 教員組織ならびに学部長の選出に関する事項
- (10) 学生募集に関する事項
- (11) 学生の留学および休学その他の認定に関する事項
- (12) 学生定員に関する事項
- (13) 科目等履修生および聴講生に関する事項
- (14) その他学部の運営に関し、学部長が必要と認めた事項

なお、教授会は、教授会に対する企画・立案については「運営委員会」に、大学入学者選抜試験に関する業務上の事項についての審議は「入試実行委員会」に付託している。

また、教授会は、学長に対し以下の事項について意見が述べられると定められており、また、教授会審議事項各号に掲げる事項についても、学長等の求めに応じ意見を述べ、または、必要に応じ審議した結果を学長等に述べることができる。

- (1) 学部の教育課程および授業に関する事項
- (2) 教員の研究業績の審査に関する事項
- (3) 学部・学科の新設・改廃に関する事項
- (4) 学生の厚生補導および賞罰等、その身分に関する事項
- (5) 教育職員組織に関する事項
- (6) 学生募集に関する事項
- (7) 学生の留学および休学に関する事項
- (8) 科目等履修生および聴講生に関する事項

大学の組織に関する必要な事項は、学校法人大谷学園組織規程に規定され、各部署の事務分掌は、学校法人大谷学園事務分掌規程によって規定されている。

大学の事務組織体制については、大学事務局長の統括の下に、総務課、大学企画課、教務課、学生課、入試対策課、キャリア支援課、教職支援課、地域連携課、大学広報課、教育・学修支援係、情報通信係、図書係を設置し、それぞれ専任職員等を配置している。

また、学生の福利厚生に関することや学生の課外活動に関すること、その他、学生生活に関することを審議する組織として、学生委員会を設置している。本委員会は、学生部長を委員長とし、学生部長補佐、大学の各学部から選出された委員、学生課長で構成され、委員会の所管は、学生課となっている。

15. 自己点検・評価

本学では、「大阪大谷大学内部質保証に関する規程」に基づき、自己点検・評価活動を統括するため、学長を委員長とする「内部質保証推進委員会」を設けており、同委員会の下に、「大学自己点検・評価委員会」、各学部・研究科、事務局等における組織ごとの自己点検・評価を行うための「部局自己点検・評価委員会」を設置している。

自己点検・評価については、原則として3年ごとに実施する自己点検・評価と、毎年実施する自己点検・評価に区分している。実施方法については、まず、「部局自己点検・評価委員会」で課題の把握や改善計画の立案・推進を行い、その結果について、大学自己点検・評価委員会に報告する。次に、「大学自己点検・評価委員会」が、各部局からの自己点検・評価結果を全学的な観点で点検・評価し、事実説明、改善・向上方策の妥当性等の検証を行い、その結果を反映した自己点検評価書を内部質保証推進委員会に上程する。「内部質保証推進委員会」は、本学における内部質保証の推進に責任を負う組織として、大学自己点検・評価委員会からの報告に基づき、大学の諸活動を定期的に検証したうえで、学長が、とくに改善が必要と思われる事項については、部局長に対して改善実施を求めることができる体制が構築されている。

また、自己点検・評価活動の客観性および公平性を担保するとともに、大学運営の改善を図るため、学外の有識者による「外部評価委員会」を設置している。「外部評価委員会」は、自己点検評価書を基に点検・評価を行うこととし、使命・目的、教育、経営・管理、自己点検・評価、社会連携等の状況に対する本学の対応状況を評価対象としている。さらに、「外部評価委員会」とは別に、自己点検・評価の内容について、学外者から意見を聴取しなければならないことも規定している。これにより、原則として3年ごとに実施する自己点検・評価については、自己点検評価書を基に外部評価を受けることとし、毎年実施する自己点検・評価については、自己点検・評価報告書（チェックシート）を基に学外者の評価を受けることとしている。

自己点検・評価の結果は、内部質保証推進委員会で審議したうえで、大学ホームページに公表している。

本学の自己点検・評価の評価項目としては、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める基準項目や評価の視点に準拠し、その中でも、入学者選抜、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学修成果に関する点検評価、教育目的や3つのポリシー、教育研究組織、内部質保証に関する内容については、毎年点検を行っている。

16. 情報の公表

本学は、以前から、大学ホームページ (<http://www.osaka-ohtani.ac.jp>) 等をつうじて、広く社会に向けて積極的な情報の公表に努めてきた。とくに、学校教育法第 113 条および学校教育法施行規則第 172 条の 2 への対応として、大学ホームページに「情報の公表」のページを設け (<http://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/>)、以下のような内容を公表している。

- (1)教育研究上の目的に関すること
- (2)教育研究上の基本組織に関すること
- (3)教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位および業績に関すること
- (4)入学者に関する受入方針および入学者の数、収容定員および在学する学生の数、卒業又は修了した者の数
- (5)授業科目、授業の方法および内容ならびに年間の授業の計画に関すること
- (6)学修の成果に係る評価および卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- (7)校地、校舎等の施設および設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- (8)授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- (9)大学が行う学生の修学、進路選択および心身の健康等に係る支援に関すること

- (10)設置申請・届出関係書類に関すること
- (11)認証評価および自己点検・評価に関すること
- (12)社会貢献活動に関すること
- (13)学則等に関すること
- (14)財務情報について
- (15)沿革について
- (16)教職課程に関すること
- (17)大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に関する申請書の公表について
- (18)ガバナンスコード

17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、内部質保証推進委員会の下部組織としてFD部会を組織しており、教育・学修支援センター長が部会長となり、副学長、教務部長、学部長、学科長のほか各学科から選出された教員が部会員として構成され、毎月会議を開催している。本学におけるFD活動は、年度当初に協議会により方針や予定が示されるほか、すべてのFD活動はFD部会で合議した上で実施される。これまでのFD活動としては、①学生による授業評価、②教員参加による授業公開・参観制度、③FD講演会・研修会の3つの取り組みを実施してきている。

学生による授業評価については、ゼミナールや受講者が10人未満の少人数科目、実習等の実施が難しい科目を除いて、Webシステムによるアンケートにより実施している。授業日程後半の授業回において学生が回答した後、集計したうえで、集計結果および自由記述項目を担当教員にフィードバックしている。さらに、その回答結果に対して担当教員がどのように評価したか、前年度の結果と比べてどの程度改善が図られたか、さらに自由記述に対するコメントを考察シートとしてまとめている。また、回答に協力した学生へのフィードバックも実施し、次年度以降の学生の履修登録の参考となるように、科目ごとの集計結果を学内のWebシステムにおいて、学内に限定して公開している。

教員による授業評価は、①教員が担当する授業を1コマ、映像として記録し、その映像から教員自身が自己評価するものと、②教員参加による授業参観を実施している。前者は、当該年度の新任教員のほか、前回実施から一定期間経過した教員を対象に合計20人程度実施している。対象となった教員は自己評価の後、学部長に報告をし、学部長は当該学部の自己評価を取りまとめて、総括を学長に報告することになっている。他方、後者の教員参加による授業参観に関する取り組みでは、授業参観後にアンケート調査を行い、この調査結果を踏まえて、授業公開した教員がその授業改善に具体的な方向性をもって努められるようにしている。これらの教員による授業評価については、毎年度のFD部会において、実施方法について意見を聴取し、見直しを図っている。

FD講演会・研修会については、大学全体または各学部学科単位にてそれぞれ、毎回テーマを設定し実施している。いずれも講演者の了解のもとビデオ撮影を行い、欠席者に対しては後日ビデオを閲覧するよう案内している。

その他の取り組みとして、年に一度、学生による授業評価に基づき、本学のカリキュラム内容、教育環境、授業方法等について学生と意見交換を行い、その意見を本学の教育の質や環境の改善に反映させることを目的に学生教育改善会議を開催している。この会議には、学長、副学長、各学部長、各研究科長、教務部長、大学事務局長が、各学科代表学生として各学科・専攻から選出された学生委員から意見の聞き取りを行っている。学生からの意見に対しては、大学としての見解をまとめ、学生および教員への周知を図

るとともに、学外に向けて公表している。

また、学長裁量経費による教育改革推進プロジェクトにも取り組んでいる。毎年各学部・学科から申請がなされたプロジェクトの中から、その計画の実現可能性が高く教育改革を推進することが期待されるものが採択される。採択されたプロジェクトについては、全教員を対象とした最終報告がFD研修会としてなされ、その趣旨や方法、効果を共有している。

さらに、令和2（2020）年度には、全学的な教育活動の継続的な改善(FD)、教育のプロセスと結果の分析（教学IR）および学修支援に関する施策の企画・開発を行い、大学教育の充実と発展に寄与することを目的とした教育・学修支援センターも設置している。

大学の教職員に対するSD研修については、毎年4月の協議会において、本学の教職員の人材育成の目標・方針として、大阪大谷大学SD実施方針を明確にしたうえで実施している。本学独自のSD研修として、建学の精神を学ぶ（6月）、教育改革（8月）、学生厚生補導（5月）、南大阪地域大学コンソーシアム主催のミドルリーダー養成（8月）、その他、ハラスメント防止関連等も継続することでSD研修の充実を図っている。また、令和3（2021）年度より新たな取り組みとして、大学教育の高度化・多様化に対応するための人材育成、職員の能力・資質向上を図るべく、一般社団法人主催の大学SDフォーラムへの参加を大学専任職員と法人の職員に義務付けている。本フォーラムは、4つのコース毎に（管理職・専門分野別・スキル別・事例発表）参加対象とテーマが設定され、大学組織の実情に沿った内容で、マネジメント・リーダーシップ・業務知識・ビジネススキルなど職員力向上に必要なプログラムが、年間25種類以上提供されている。また、日本私立大学協会が主催する経営・財政基盤強化に関する協議会や事務局長相当者研修会を始めとする職務別研修会等にも積極的に参加している。その他、学外の研修についても、業務や大学運営に関するものまで幅広く参加できるよう配慮している。それらの成果は報告書にまとめて、各部署にフィードバックするとともに関連部門に有用な資料についても供覧して、その成果を共有できるようにしている。

18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）キャリア教育に対する本学部および心理・福祉学科の基本的な考え方

本学部においては、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において言及される「汎用的技能」や経済産業省を中心とする「社会人基礎力」の議論およびその社会的背景に鑑み、これまでキャリア教育の充実に取り組んできた。心理・福祉学科設置に関する議論を機にさらに検討を重ね、結果、改めてキャリア教育の目的を学生の「社会人リテラシー」の向上に置き、さらに新しい取組を加えて「キャリア教育プログラム」とし、心理・福祉学科を含む学部全体として実施継続することとなった。

「社会人リテラシー」とは、将来、学生がどのような職業を選択しようとも社会人として自分が所属する組織や社会全体に貢献するために求められる知識・能力・スキル・態度の集合を言い、本学部では「垂直的学び」「水平的学び」「基盤的学び」という3要素に分類して考えている。この3要素と中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」にある「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力」を構成する諸要素との関係については、以下の表を参照のこと。

「社会人リテラシー」 構成要素	説明	「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への 円滑な移行に必要な力」構成要素との関係
垂直的学び	育成する人材像とそこに含まれる具体的な職業において業務執行に求められる知識・技能や倫理に関するものであり、大学教育をつうじて高めたり深めたりする縦方向の学び。	専門的な知識・技能 職業観
水平的学び	自己理解を深めるとともに、他者、広くは社会と、どのようにコミュニケーションし、つながっていくのかに関するもので、いわば人としての幅を広げる横方向の学び。	基礎的・汎用的技能 論理的思考力 創造力 意欲・態度 勤労観
基盤的学び	PCの操作や報告書作成、プレゼンテーションの方法等、すべての職業において必要とされる能力に関するもので、社会人として生活するうえで基盤となる学び。	基礎的・基盤的な知識・技能

※上表は、「社会人リテラシー」の構成3要素それぞれが「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力」の構成要素のうち主にどの構成要素に対応するかを示したにすぎず、そのため、たとえば「垂直的学び」が「論理的思考力」「創造力」等と無関係であることを主張するものではない。

（２）教育課程内の取組

上述したようなキャリア教育に関する考え方を実現するために、心理・福祉学科では、教育課程内で多様な取組を行うことにしている。このうち、単位認定の体験型学習プログラムの軸となっているのは、8の「企業実習」で詳述したとおり、2年次以降に履修が可能な「社会研究実習（事前事後の指導を含む）」である。これは、本学部において長年開講してきた既存の科目であるが、実習先には心理や福祉に関する対人援助の現場の他、民間企業や多様な市民公益活動団体が含まれ、40時間以上の現場・職場体験型の実習をつうじて、自身のキャリア形成につなげるものである。これは、基礎的・汎用的技能や勤労観の涵養といった水平的な学びのみならず、実習先の選択によっては、3年次以降に開始される専門職資格取得を前提とした種々の実習の導入過程としても有益な垂直的な学びの基盤を得る機会としても実践されてきている。そのため、このような実践を継続するとともに、それに求められる、地域社会との連携を引き続き図っていく。なお、こうした実習後にはリフレクションとその結果を他者に伝えるための報告書作成やパワーポイントによる発表の機会が設けられており、基盤的な学びの獲得機会ともなっている。

「キャリア教育プログラム」を構成する科目としては、上述の「社会研究実習（事前事後の指導を含む）」とその後に続く専門的な実習が軸となっている。このほかにも、学内の教室で実施される科目の中でもとくに体験的な性質を持つ科目、すなわち、初年次に配置されている「基礎ゼミⅠ」や2年次に配置されている「基礎ゼミⅡ」も、キャリア教育的要素をもつものであり、同プログラムを構成するものとして捉えている。

（３）教育課程外の取組

教育課程外の取組としては、大別して、以下の3つの種類が存在する。

第一は、対人援助に関する資格取得や専門職になりたい学生への支援である。実際の対人援助に関する現場を訪問し、現場やそこで生まれるさまざまな人間関係や社会関係に触れ、実際の支援の現場に参加することをつうじて、対人援助職や社会活動家に求められる資質・能力とは何か、それらをどう身につけていくのかを考えさせながら、対人援助に関する資格取得や専門職に対する漠然とした憧れをより明確なき

キャリア意識に変換させる種々のボランティア活動（有償・無償）や社会活動（自主探索型・要請応答型）への参加とそのふりかえりをとおして、漠然とした「人や社会のためになる」ということから、具体的なイメージや目的をもって「対人援助」活動に参加するという態度変容を支援する。

第二に、下（４）で説明する本学部キャリア開発支援室を軸にした取組である。これは、学部の予算で関連書籍を購入し、希望者に貸し出しを行ったり、就職活動を終えた上級生の体験談を聴講する機会を設けたりするものである。また、これまでの公務員試験合格の実績を基盤にしつつ、2020年度からは、学部として公務員養成プログラムを立ちあげ、放課後や休暇中に「小論文作成教室」や「グループディスカッション練習教室」「受験スケジュール作成教室」を開催するなどもしている。

第三に、同じく下（４）で説明するキャリアセンターを中心にする取組がある。これは、学生、保護者、企業、大学の４者連携に重点を置き、相互の交流の機会を設けるとともに、学生が充実した就職活動を進められるよう取り組んでいるものである。

より具体的には、入学時に「就職ハンドブック」を配付するとともに、1年次からキャリア説明会を定期的実施している。1～2年次の就職説明会では、ゲーム形式での自己分析やグループワーク等を通して、勤労観・職業観の涵養を図っている。3年次からは、ほぼ毎月キャリア説明会を実施し、履歴書・エントリーシート の書き方、模擬面接、就職ナビの活用方法、先輩による就職体験談や外部講師による講演会等といった内容の取組を行っている。4年次においても、同様に、ほぼ毎月就職説明会を実施するとともに、学生個別に就職・進路が決定するまでの活動をきめ細かく支援している。

これらに加えて、各種セミナーや模擬試験等も行っている。また、保護者、企業、大学のさらなる連携を図るため、「合同学内説明会（企業、官公庁、福祉施設等）」「保護者対象就職説明会」「企業との就職に関する説明・懇談会」も実施している。

（４）運営体制

上述した取組を効果的に実施していくために、本学はキャリアセンターを設置しており、学生、保護者からの相談・助言に対応している。施設については、キャリアセンター窓口（キャリア支援課）に隣接するキャリアサポートルームに、学生が検索に使用するための情報機器（PC）や就職関連書籍等が整備されている。また、最近増加傾向にある企業のWEB面接に対応すべく、必要な機器・備品を備えたオンライン面接ブースも用意している。相談・助言を受けるためには、窓口もしくはWEBを介した就職支援システムを通して事前申し込みの手続きを行い、日時調整後にキャリアサポートルームで対応している。相談内容は、この就職支援システムに記録してキャリア支援課内で共有し、後日別の者が応対しても円滑に対応できるようにしている。就職活動の開始後についても、この就職支援システムを通して各学生の就職活動状況を把握し、指導に活かしている。

また、本学部においては、キャリア教育がもつ重要性を踏まえ、「キャリア開発支援室」を学部独自の取組として設置してきた。これまでは学部を構成する人間社会学科とスポーツ健康学科から委員を出し、運営してきた。今後は、心理・福祉学科設置にあたり、3学科から出る委員で、全学的な取組を補完していく。

設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

- ・資料1 教育理念・目的・養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの相関
- ・資料2 履修モデル
- ・資料3 心理実習施設一覧
- ・資料4 実習施設承諾書
- ・資料5 ソーシャルワーク実習 実習の手引き等
- ・資料6 ソーシャルワーク実習施設一覧
- ・資料7 実習施設等承諾書
- ・資料8 スクールソーシャルワーク実習の手引き
- ・資料9 スクールソーシャルワーク実習施設一覧
- ・資料10 実習指定施設等の概要
- ・資料11 社会研究実習施設一覧
- ・資料12 大阪大谷大学・大学院定年規程
- ・資料13 心理・福祉学科関連学術雑誌リスト

教育理念・目的・養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの相関

教育理念・目的・養成する人材像

【人間社会学部】 本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与する。

【心理・福祉学科】 人が生涯にわたり心身的及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。

AP

本学は、建学の精神である「報恩感謝」に基づく教育理念として、「自立・創造・共生」を掲げている。この教育理念のもと、心理・福祉学科は、心理と福祉に関する諸問題を解決するために必要とされる専門的な価値、知識、技術を身に付け、これを応用し、課題を発見し、解決できる人材の育成を目指します。そのために、心理・福祉学科は、総合型選抜入試、指定校推薦入試、特別推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、社会人入試、外国人留学生入試などを行い、以下のような資質を持った勉学意欲の高い学生を受け入れます。

入学を定める要項	高等学校の教育課程を幅広く修得し、特に国語、社会、英語、体育に関する基礎的・基本的な知識をもっている。
	基礎的・基本的な知識に基づいて論理的に考え、わかりやすく説明することができる。
	自主的に学習する習慣を持っており、主体的・協力的な取り組み姿勢・態度を身につけている。
	心理や福祉に高い関心があり、企業、行政、医療、福祉、教育の現場などの職場で社会に貢献するために、積極的に学びたいという意欲をもっている。
	多様な人々と協働して人と社会の課題に関わり、取り組むことができる。



CP

編成の方針
建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、心理・福祉学科では、心理および福祉の課題に適切に対応するために、「人と社会」および「心理と福祉」の関係について科学的視点をもって探究することを目的としてカリキュラムを編成している。具体的には、「心理コース」「社会福祉コース」の2コースを設置し、それぞれの学問領域を深く探究できるような学習活動を行わせるとともに、教養と人間性を重視しつつ、基礎的な学習技術、社会人として必要となる実践力、多角的に考える力の形成にも重点を置いたカリキュラム編成としている。

カリキュラムの構成
1)豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていく「キャリア科目」も配置している。
2)専門教育科目として、「必修科目」と「選択必修科目」、および「選択科目」を配置している。「必修科目」は、「心理・福祉」に関する基礎的な学びを形成する講義形式の授業と4年間を通して少人数制で行う演習形式の授業（ゼミナール）から構成される。「選択必修科目」は、各コースの入門的な科目群と社会人基礎力を形成する科目群から構成される。「選択科目」は、専攻するコースの専門知識を深め、関連する資格や免許の取得をめざす「コース選択科目」とコースを越えて多角的な知識の獲得をめざす「その他の選択科目」から構成される。

教育内容・方法

(報恩感謝の心と幅広い教養)	(専門的な知識・技能)	(問題解決能力)	(自律的・主体的・共感的態度)	(実践力)
<ul style="list-style-type: none"> 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持つる学生を育てるために、「宗教学」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。 幅広い学びを保障し、多角的な視点をも身につけられる教養教育を実践するため、「外国語科目」を必修として設定するとともに、人文・社会・自然科学などを含む多様な学問領域を学べるように科目を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2コースそれぞれの基盤となっている学問領域の基本的知識・技能を獲得し、卒業研究につなげるために、学科共通科目のほか、学問領域ごとに専門性を高める科目を体系的に配置する。 現代社会とそこに生きる人間にかかわる課題の複雑さに対応するために、2コースの基盤となっている学問領域の連携を進め、かつ人間社会学部の学科横断的な学際的な学びを実現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「心理・福祉」に関する情報を的確に収集・分析することで問題を発見し、その解決をめざす力を獲得するための科目を配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学の主体的な学習に必要なスキルと自律的な態度を育成するために、学部共通の初年次教育プログラムを設ける。 ゼミナールを中心として、少人数編成の科目を初年次から最終学年まで段階的に設置することにより、教員や学生同士が互いに理解しあい、ともに学びあうことを重視した教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が自己の特性を知り、自身にあった職業選択を可能とするとともに、社会人に必要な知識やスキルを身につけるためにキャリア教育を実施する。 実社会の現状への理解を促し、社会参加に必要なスキルと態度を育成するために、学内において初年次から系統的に配当されたPBL科目を開講する。また、学外での体験学習を実施する。



学生に保証する基本的な資質・能力

(報恩感謝の心と幅広い教養)	(専門的な知識・技能)	(問題解決能力)	(自律的・主体的・共感的態度)	(実践力)
<ul style="list-style-type: none"> 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 文化や社会、自然に関する幅広い教養を身につけ、自己の存在と関連づけて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理と福祉に関する諸課題に取り組むための専門的な知識・技能を修得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理と福祉に関する諸課題を見つけ、多角的かつ論理的に分析して、解決策を企画することができる。 自分の専門的知見を他者に分かりやすく説明し、心理と福祉に関する諸課題の解決に向けて協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理と福祉に関する諸課題に関して深い関心を持ち、積極的に関与する態度を備えるとともに、多様な人々に共感的態度で接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学での学びをもとに、よりよい社会の創造と人々の幸福の実現のために、主体的かつ積極的に行動し、実社会で協働していく力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

- ・学部にて4年間以上在籍すること。
- ・教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、128単位以上を修得していること。
- ・卒業論文を作成して審査に合格すること。

DP



進路

心理コース	【一般企業】 人材業界、教育業界、流通・小売業界、不動産業界など	【ダブルライセンス】 大学院進学、心理系・福祉系公務員、社会福祉法人、医療福祉法人など
	【公認心理師】 大学院進学、公認心理師法第7条第2号認定施設、医療機関、心理系公務員など	
社会福祉コース	【社会福祉】 児童相談所などの社会福祉専門職、児童養護施設や社会福祉協議会などの社会福祉施設、医療機関など	
	【一般企業】 民間企業、福祉系企業、医療機関など	

※以下では、「臨床心理学」の分野の科目を中心に履修

【資料2】

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数									
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
共通 教育 科目	必修科目	宗教学A	2	宗教学B	2			いのちを共に考える[通 年]	0.5	いのちを共に考える[通 年]	0.5			29				
		コンピュータ技術基礎Ⅰ	2															
		キャリア概論	1															
		新入生セミナー	1															
	外国語科目	英語A (コミュニケーション)	1	英語B (コミュニケーション)	1	英語A (総合)	1	英語B (総合)	1									
	選 択 科 目	保健体育科目																
		人文科学系		文章表現	2													
		社会科学系	くらしと社会保障	2			法学	2										
		自然科学系		統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2											
		キャリア教育科 目	キャリアデザイン[通 年]	1	キャリアデザイン[通 年]	1												
ロジカルシンキング			2	ロジカルコミュニケーション	2													
教職科目																		
専 門 必 修 科 目	基礎ゼミⅠ (学習技 術) [通 年]	1	基礎ゼミⅠ (学習技 術) [通 年]	1	基礎ゼミⅡ (研究入 門) [通 年]	1	基礎ゼミⅡ (研究入 門) [通 年]	1	ゼミナールⅠ [通 年]	2	ゼミナールⅠ [通 年]	2	ゼミナールⅡ [通 年]	2	22			
	人間と社会A	2	人間と社会B	2							卒業研究[通 年]	2	卒業研究[通 年]	2				
	心理・福祉学入門	2																
選 択 必 修 科 目	臨床心理学概論	2	基礎コミュニケーション演習	2				福祉心理学	2	心理・福祉総合演習	2			14				
	社会福祉概論	2	心理学的支援法	2														
			発達心理学	2														
専 門 教 育 科 目	心理コース選 択 科 目	心理学概論	2	感情・人格心理学Ⅰ	2	社会・集団・家族心理 学A	2	社会・集団・家族心理 学B	2	心理的アセスメント[通 年]	1	心理的アセスメント[通 年]	1	心理実習[通 年]	1	59		
						感情・人格心理学Ⅱ	2	神経・生理心理学	1	精神疾患とその治療[通 年]	1	精神疾患とその治療[通 年]	1	臨床心理学総論[通 年]	1		臨床心理学総論[通 年]	1
						学習・言語心理学	2	知覚・認知心理学	1	心理演習Ⅰ	2	心理演習Ⅱ	2					
						心理調査概論	2	健康・医療心理学	2	臨床産業・組織心理学	2	心理学実験Ⅱ	1					
						心理学実験ⅠA	1	心理学統計法	2	心理学研究法	2	公認心理師の関係行政 論	2					
						心理学文献講読	2	心理学実験ⅠB	1	精神力動論	1	臨床教育・学校心理学	2					
						人間性心理学	1	メンタルヘルスマネジ メント演習	1	認知行動療法論	1	教育相談の理論と実際	2					
						司法・犯罪心理学	1	行動分析学	1	障害者・障害児心理学	2							
							公認心理師の職責	2										
							教育心理学	2										
社会福祉コース 選 択 科 目										人体の構造と機能及び 疾病	2			2				
社会科学科目群														0				
情報・経営科目群														0				
社会調査士養成プログラム														0				
スポーツ健康系科目群														0				
キャリア教育科目群	課題発見・解決演習(子 どもイベント編)[通 年]	1	課題発見・解決演習(子 どもイベント編)[通 年]	1	社会研究実習(事前事後 の指導を含む)[通 年]	1	社会研究実習(事前事後 の指導を含む)[通 年]	1						4				
修得単位数	24	22	18	20	16.5	17.5	6	6	130									

黄色網掛け：公認心理師国家試験受験資格課程科目 上記履修モデルにより取得が見込まれる資格等：公認心理師国家試験受験資格(学部科目)、認定心理士、認定心理士(心理調査)、カウンセリング実務士、社会福祉主事任用資格

◆心理・福祉学科 社会福祉コース「社会福祉士を取得し福祉専門職を目指す」履修モデル（卒業後の進路）児童相談所などの社会福祉専門職、児童養護施設や社会福祉協議会などの社会福祉施設、医療機関など

※以下では、「社会福祉学」の分野の科目を中心に履修

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数													
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
共通教育科目	必修科目	宗教学A	2	宗教学B	2			いのちを共に考える[通年]	0.5	いのちを共に考える[通年]	0.5											
		コンピュータ技術基礎Ⅰ	2																			
		キャリア概論	1																			
		新入生セミナー	1																			
	外国語科目	英語A(コミュニケーション)	1	英語B(コミュニケーション)	1	英語A(総合)	1	英語B(総合)	1													
	選択科目	保健体育科目																				
		人文科学系		倫理学	2																	
		社会科学系	くらしと社会保障	2																		
			福祉教育論	2			法学	2														
		自然科学系		人と環境	2																	
キャリア教育科目		キャリアデザイン[通年]	1	キャリアデザイン[通年]	1																	
教職科目	ロジカルシンキング	2	ロジカルコミュニケーション	2																		
専門教育科目	専門必修科目	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅡ(研究入門)[通年]	1	基礎ゼミⅡ(研究入門)[通年]	1	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2					
		人間と社会A	2	人間と社会B	2									卒業研究[通年]	2	卒業研究[通年]	2					
		心理・福祉学入門	2																			
	選択必修科目	社会福祉概論	2	基礎コミュニケーション演習	2	地域福祉論Ⅰ	2	社会福祉政策論	2	福祉心理学	2	心理・福祉総合演習	2									
				ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2																	
	コース選択科目	心理コース選択科目	心理学概論	2																		
		社会福祉コース選択科目		介護概論	2	高齢者福祉論	2	貧困に対する支援	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	社会福祉演習Ⅱ	1	社会福祉演習Ⅱ	1					
						障害者福祉論	2	社会保障論Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習	4	ソーシャルワーク実習	4									
						子ども家庭福祉論	2	地域福祉論Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2									
					社会保障論Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	社会福祉演習Ⅰ	1	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2										
					ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2			人体の構造と機能及び疾病	2										
					ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2			医療福祉論	2										
					ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2			権利擁護と成年後見論	2										
					ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2					司法福祉論	2										
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1					社会福祉調査論	2												
									福祉経営論	2												
									社会福祉演習Ⅰ	2												
社会科学科目群			社会学概論A	2	社会学概論B	2														4		
情報・経営科目群																				0		
社会調査士養成プログラム																				0		
スポーツ健康系科目群																				0		
キャリア教育科目群				社会研究実習(事前事後の指導を含む)[通年]	1	社会研究実習(事前事後の指導を含む)[通年]	1													2		
修得単位数	23	19	24	23	13.5	28.5	5	5	141													

黄色網掛け：社会福祉士国家試験試験課程科目 上記履修モデルにより取得が見込まれる資格等：社会福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格

※ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、社会研究実習（事前事後の指導を含む）はCAP制除外科目

◆心理・福祉学科 心理コース・社会福祉コース「公認心理師と社会福祉士のダブルライセンスを目指す」履修モデル (卒業後の進路) 大学院進学、心理系・福祉系公務員、社会福祉法人、医療福祉法人など

※以下では、「公認心理師」と「社会福祉士」の資格関連科目を中心に履修

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数								
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
共通教育科目	必修科目	宗教学A	2	宗教学B	2	いのちを共に考える[通年]	0.5	いのちを共に考える[通年]	0.5	28							
		コンピュータ技術基礎Ⅰ	2														
		キャリア概論	1														
		新入生セミナー	1														
	外国語科目	英語A(コミュニケーション)	1	英語B(コミュニケーション)	1												
		中国語入門A(コミュニケーション)	1	中国語入門B(コミュニケーション)	1												
	選択科目	保健体育科目		体育(講義を含む)	2												
人文科学系					文章表現	2											
社会科学系		くらしと社会保障	2														
自然科学系			統計学Ⅰ	2													
キャリア教育科目		キャリアデザイン[通年]	1	キャリアデザイン[通年]	1	採用研究(公務員)	1										
		ロジカルシンキング	2	ロジカルコミュニケーション	2												
教職科目																	
専門教育科目	専門必修科目	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅡ(研究入門)[通年]	1	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2	22	
		人間と社会A	2	人間と社会B	2					卒業研究[通年]	2	卒業研究[通年]	2				
		心理・福祉学入門	2														
	選択必修科目	臨床心理学概論	2	基礎コミュニケーション演習	2	地域福祉論Ⅰ	2	社会福祉政策論	2			福祉心理学	2	心理・福祉総合演習	2	20	
		社会福祉概論	2	心理学的支援法	2												
				発達心理学	2												
					ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2											
	コース選択科目	心理コース選択科目	心理学概論	2	感情・人格心理学Ⅰ	2	社会・集団・家族心理学A	2	社会・集団・家族心理学B	2	心理的アセスメント[通年]	1	心理的アセスメント[通年]	1	心理実習[通年]	1	38
							学習・言語心理学	2	神経・生理心理学	1	精神疾患とその治療[通年]	1	精神疾患とその治療[通年]	1			
									健康・医療心理学	2	知覚・認知心理学	1	心理演習Ⅰ	2	公認心理師の関係行政論	2	
								心理学統計法	2	司法・犯罪心理学	1	臨床産業・組織心理学	2	臨床教育・学校心理学	2		
								心理学実験ⅠB	1	公認心理師の職責	2						
社会福祉コース選択科目						高齢者福祉論	2	貧困に対する支援	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2				
						障害者福祉論	2	社会保障論Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習	4	ソーシャルワーク実習	4				
						子ども家庭福祉論	2	地域福祉論Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2				
						社会保障論Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2			ソーシャルワーク演習Ⅴ	2				
						ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2			人間の構造と機能及び疾病	2						
						ソーシャルワーク演習Ⅰ	2			医療福祉論	2						
						ソーシャルワーク演習Ⅲ	2			権利擁護と成年後見論	2						
						ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			司法福祉論	2						
						ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1			社会福祉調査論	2						
										福祉経営論	2						
社会科学科目群															0		
情報・経営科目群															0		
社会調査士養成プログラム															0		
スポーツ健康系科目群															0		
キャリア教育科目群															0		
修得単位数	24	24	25	28	23.5	30.5	7	7	169								

黄色網掛け：公認心理師国家試験受験資格課程科目・社会福祉士国家試験試験課程科目 上記履修モデルにより取得が見込まれる資格等：公認心理師国家試験受験資格(学部科目)、社会福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格

※ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、心理実習、精神疾患とその治療はCAP制除外科目

◆心理・福祉学科 社会福祉コース「社会福祉学を学び民間企業での活躍を目指す」履修モデル〔卒業後の進路〕民間企業、福祉系企業、医療機関など

※以下では、社会福祉学や産業心理学、キャリア心理学の分野の科目を中心に履修

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
共通教育科目	必修科目	宗教学A	2	宗教学B	2					いのちを共に考える[通年]	0.5	いのちを共に考える[通年]	0.5					28
		コンピュータ技術基礎Ⅰ	2															
		キャリア概論	1															
		新入生セミナー	1															
	外国語科目	英語A(コミュニケーション)	1	英語B(コミュニケーション)	1													
		朝鮮語入門A(コミュニケーション)	1	朝鮮語入門B(コミュニケーション)	1													
	選択科目	保健体育科目																
		人文科学系		文章表現	2													
		社会科学系				くらしと社会保障	2											
		自然科学系						コンピュータ技術基礎Ⅱ	2									
キャリア教育科目		キャリアデザイン[通年]	1	キャリアデザイン[通年]	1					就活力Ⅰ	1	就活力Ⅱ	1					
		ロジカルシンキング	2	ロジカルコミュニケーション	2							採用研究(民間企業)	1					
教職科目																		
専門教育科目	専門必修科目	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅠ(学習技術)[通年]	1	基礎ゼミⅡ(研究入門)[通年]	1	基礎ゼミⅡ(研究入門)[通年]	1	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅠ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2	ゼミナールⅡ[通年]	2	22
		人間と社会A	2	人間と社会B	2									卒業研究[通年]	2	卒業研究[通年]	2	
		心理・福祉学入門	2															
	選択必修科目	社会福祉概論	2	基礎コミュニケーション演習	2	地域福祉論Ⅰ	2	社会福祉政策論	2									10
				ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2													
	選択科目	心理コース選択科目	心理学概論	2		2	社会・集団・家族心理学A	2			臨床産業・組織心理学	2	キャリア心理学演習	1				11
											産業心理学	1						
											キャリア心理学	1						
		社会福祉コース選択科目			介護概論	2	高齢者福祉論	2	貧困に対する支援	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2				38
							障害者福祉論	2	社会保障論Ⅱ	2			人体の構造と機能及び疾病	2				
						子ども家庭福祉論	2	地域福祉論Ⅱ	2			医療福祉論	2					
						社会保障論Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2			権利擁護と成年後見論	2					
							ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2			司法福祉論	2						
							ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			社会福祉調査論	2						
											福祉経営論	2						
社会科学科目群				経済学概論A	2	経済学概論B	2									4		
情報・経営科目群	情報学概論	2	経営学概論	2			マーケティング論	2	NPO・NGO論	2						8		
社会調査士養成プログラム																0		
スポーツ健康系科目群							医療福祉システム論Ⅰ	2	医療福祉システム論Ⅱ	2						4		
キャリア教育科目群					企業研究Ⅰ	1			企業研究Ⅱ	2						3		
修得単位数	22		22		22		19		15.5		19.5		4		4		128	

上記履修モデルにより取得が見込まれる資格等：社会福祉主事任用資格、医療管理秘書士、保健医療ソーシャルワーカー

※企業研究Ⅰ、医療福祉システム論Ⅰ・ⅡはCAP制除外科目

【資料3】

NO	分野	実習先名称	所在地	受入可能 人数
1	保健・医療	地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター	堺市西区家原寺町1丁1番1号	2
2	保健・医療	医療法人杏和会 阪南病院	大阪府堺市中区八田南之町277	15
3	保健・医療	宋こどものこころ醫院	大阪府中央区玉造1-5-7	5～6
4	教育	富田林市教育委員会 富田林市適応指導教室	大阪府富田林市常盤町1-1	3～4
5	教育	河内長野市教育委員会 河内長野市適応指導教室	大阪府河内長野市原町一丁目1番1号	3～4
6	司法・犯罪	大阪少年鑑別所	大阪府堺市堺区田出井町8-30	15
7	福祉	一般社団法人 おおさかメンタルヘルスケア 研究所	大阪府大阪府中央区瓦町4丁目6-15 本町プレタビル5階	3～5

【資料 4 実習施設承諾書】

別添資料として、【資料 3 心理実習施設一覧】の実習施設の承諾書 7 枚を添付した。

ソーシャルワーク実習 実習の手引き (年度)

学籍番号 _____ 第 _____ 学年

ふりがな
氏名 _____

大阪大谷大学
人間社会学部
心理・福祉学科

〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号
電話・FAX: 0721-24-1042 (心理・福祉学科共同研究室)

この「実習の手引き」は、本学におけるソーシャルワーク実習指導の指針として作成しました。社会福祉施設・機関での実習に向け、個々の学生がこの「実習の手引き」を活用しながら実習の意義と目的を理解し、加えて、実習中に限らず実習前後における総合的な学習を通して、より幅広く高度な学習へと発展させていくことを目指すための羅針盤となるものです。また、実習生、実習・実習指導担当教員、実習先の実習指導者等が、この「実習の手引き」を共有することで、本学におけるソーシャルワーク実習指導について共通理解を深め、有意義な実習となるように協力・連携していくことを目指しています。

これから実習に行く学生は、この「実習の手引き」を実習のハンドブックとして、さらには実習を補完する専門科目の学習のための参考書として有意義に活用してください。

実習指導担当教員（船本・谷）：連絡先_____

目次	ページ
I. 実習の目的とねらい	1
1. 実習の目標	1
2. 実習の内容と到達目標	2
3. 実習段階別のねらい	3
II. 実習前の諸準備	5
1. ソーシャルワーク実習の流れ	5
2. 健康診断と追加検査	5
3. 交通手段と実習用通学定期	6
4. 事前オリエンテーション	7
5. 巡回訪問依頼書	8
6. 欠席届	9
7. 感染症への対策	9
III. 実習ノートについて	11
1. 実習生個人票	11
2. 実習計画書	11
3. 実習記録	14
4. 実習機関・施設の概要	17
5. 実習生出勤簿	18
6. 巡回指導記録	19
7. 実習の振り返り	19
IV. 実習中の留意点	20
1. 実習態度と心構え	20
2. 実習中の諸注意	22
V. 実習後の学習	24
1. 実習後の手続き等	24
2. 事後学習	25
3. 『ソーシャルワーク実習報告書』の作成	25
4. 実習記録などの整理	26

I. 実習の目的とねらい

本学における実習教育の意義

大阪大谷大学は大乗仏教の精神にもとづいて設立され、「報恩感謝」を建学の精神としています。すべての生きとし生けるものが、それぞれの個性を最大限に発揮し、最高の輝きを得られるよう、ともに助けあい励ましあって成長してゆけるような社会の実現をめざしています。そのような建学の精神のもとで、本学では高い学識と豊かな情操を持った人材を育成することを目的としています。また、「自立」「創造」「共生」を現代に対応する教育理念として定め、社会の発展と文化の向上に寄与する人材を輩出することをめざしています。

建学の精神を基礎にしながら、人間社会学部は、社会の諸問題について深い関心を持ち、知識と理論を理解し、社会の諸課題を的確に分析し、その解決策を企画できる社会人を育成することを目指しています。そこで、心理・福祉学科では人間が抱える複雑な課題に対応するため、社会福祉士を養成する社会福祉コース以外に、心理コースを設置し、隣接する学問領域を包含する、学際的な学びを実現できるようにしています。実習教育は、そのような学部の教育目的の一環として実施されるものであり、建学の精神を内在化させるための教育実践です。

ソーシャルワーク実習について

ソーシャルワーク実習は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な指定科目となっています。法令の定めにより、異なる機関・事業所の2カ所以上で実習を行うこととし、1つの機関・事業所において実務(休みを除く)で240時間以上(180時間以上+60時間以上)の実習が必要です。実習機関・施設の勤務体制等によっては異なる場合がありますが、一日における実務実習時間は原則として8時間です。なお、本学のソーシャルワーク実習は、文部科学省・厚生労働省の「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針」の「5 教育に関する事項」における「ソーシャルワーク実習の目標と内容」に基づいたものとなっています。

実習の目標と内容

1. 実習の目標

- 1) ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。
- 2) 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。
- 3) 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォー

マル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。

- 4) 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。
- 5) 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

2. 実習の内容と到達目標

1) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成

- ①クライアント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる

2) 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成

- ①クライアント等との援助関係を形成することができる

3) 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価

- ①クライアント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確にすることができる
- ②地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる
- ③各種計画の様式を使用して計画を作成・策定及び実施することができる
- ④各種計画の実施をモニタリングおよび評価することができる

4) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価

- ①クライアントおよび多様な人々の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる

5) 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解

- ①実習施設・機関等の各職種の機能と役割を説明することができる
- ②実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる
- ③地域住民、関係者、関係機関等と連携・協働することができる
- ④各種会議を企画・運営することができる

6) 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ

- ①地域社会における実習施設・機関等の役割を説明することができる
- ②地域住民や団体、施設、機関等に働きかける

7) 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解

- ①地域における分野横断的・業種横断的な社会資源について説明し、問題解決への活用や新たな開発を検討することができる

8) 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）

- ①実習施設・機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる
- ②実習施設・機関等の法的根拠、財政、運営方法等を説明することができる

9) 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解

- ①実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践及びジレンマの解決を適切に行うことができる
- ②実習施設・機関等の規則等について説明することができる

10) ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解（アウトリーチ・ネットワークング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）

- ①ソーシャルワーク実践に求められる技術（アウトリーチ・ネットワークング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）について目的、方法、留意点を説明することができる

※「実習の内容と到達目標」については、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン（2021年8月改訂版）」を参照している。

3. 実習段階別のねらい

ソーシャルワーク実習は、①職場実習、②職種実習、③ソーシャルワーク実習に区分されています。ただし、各区分は、図1に示すように厳密に段階を踏んで行われる

べきものではなく、現場の実践状況や行事、相談等のタイミングに合わせて、緩やかに移行するものであり、場合によっては、区分を往来したり、複数の区分を並行したりすることもあります。

1) 職場実習

職場実習は、実習する機関・施設がどのような地域にあり、どのような人を対象として、何を目的に設置され、どのような体制で援助が行われているかを理解することです。組織の全体像や地域の概要などを学ぶ段階です。実習開始までに関連する資料を収集し、学習したことを実習先で確認することも含まれます。

2) 職種実習

職種実習は、ソーシャルワーカーとして働く生活相談員、専門員、各福祉司などが担っている業務全般を体験する段階です。社会福祉士資格制度の中でのソーシャルワーカーの実態を学ぶことも含まれます。また、ソーシャルワーカーが働く上で、関連・派生する業務（「図 1 ソーシャルワーク実習の組み立て」の【職種実習の例】参照）などについて学びます。

3) ソーシャルワーク実習

ソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーカーの専門的業務（「図 1 ソーシャルワーク実習の組み立て」の【ソーシャルワーク実習の例】参照）を体験し、現場での援助技術実践を学ぶ段階です。

図1 ソーシャルワーク実習の組み立て

1 週目	2 週目	3 週目	4 週目	5 週目
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: left;">①職場実習</p> <p style="text-align: center;">②職種実習</p> <p style="text-align: right;">③ソーシャルワーク実習</p> </div>				
<p>【①職場実習の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場のミッションや援助方針の理解 ・機関・施設の運営管理(年次目標、事業計画、予算、役職員組織、研修体系、利用者権利擁護、等)の理解 ・全職種の役割の理解 ・「利用者理解」把握の視点 ・専門職同士の相互理解 ・職場内での多職種連携(チームアプローチ)の理解 ・各種会議等への参加・同席 ・地域や地域資源の理解とその連携のあり方 他 	<p>【②職種実習の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活相談員、生活支援員、専門員、各福祉司の担当する業務の理解 ・その他の職種の業務の理解 ・実習指導者が行う業務の理解(ケアワーク、修理、運転、書類管理、電話応対、見学受入・説明、起案等事務手続き、等)の理解 他 	<p>【③ソーシャルワーク実習の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握のための手立て・調査 ・相談面接、アセスメント、援助実施、モニタリング、評価の理解 ・説明、契約、サービスの調整場面への同席 ・カンファレンスへの同席 ・個別援助計画の作成 ・家族や関係機関との連絡調整 ・苦情対応、財産管理、第三者評価 ・運営管理、職員研修 ・政策立案、代弁、ソーシャルアクション ・事業計画や地域福祉計画への参画 ・非制度的資源の開発・調整 ・記録、事例研究 ・専門職団体活動、自己研鑽 他 		

参考：社団法人社会福祉士養成校協会編、『相談援助実習指導・現場実習 教員テキスト』、中央法規、2009年、p.157。

Ⅱ. 実習前の諸準備

1. ソーシャルワーク実習の流れ

1 回生 12 月	社会福祉士国家試験受験資格課程申し込み (申し込み者が定員 (30 人) を超えた場合は、指定科目の成績による選抜を行う。)
2 回生 4 月	社会福祉士国家試験受験資格課程登録 (課程登録に関する説明と実習についての説明を行う。) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ履修登録・受講 (実習指導Ⅰの単位を取得していなければ、実習指導Ⅱ・Ⅲ、実習の履修はできない。)
2 回生 9 月～11 月	実習先希望調査と実習先決定 (実習先・実習期間の確定が次年度になる場合もある。)
3 回生 4 月	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ履修登録・受講 ソーシャルワーク実習履修登録 (指定科目等の単位取得が不足であれば実習を開始しない。) 実習巡回担当教員へ巡回訪問依頼と面談
3 回生 5 月～9 月	実習事前オリエンテーション (実習開始の約 1 カ月前に実習先で行われる。)
3 回生 6 月～10 月	実習開始 (実習期間は、実習先によって異なる。) 実習中の指導 (実習担当教員が巡回指導や帰校指導を行う。巡回指導等の日時については担当教員が実習先ごとに調整する。)
3 回生 7 月～1 月	実習事後学習
3 回生 11 月～12 月	実習報告書作成・原稿提出
3 回生 1 月	実習報告会、実習ファイル提出

2. 健康診断と追加検査

健康診断、追加検査等については、下記の注意事項を確認してください。

- ①学内で行われる健康診断は必ず受診してください。
- ②健康診断証明書はオリエンテーション時に各自で実習先に提出してください。
- ③実習先から指定された検査項目については、保健所・病院等で追加検査を受けてください。

④心身の状況に関して気になることがある場合は、必ず事前に実習指導担当教員に相談してください。

<実習年度に学内健康診断を受けた者>

証明書自動発行機で健康診断証明書を交付→実習先へ各自提出

<学内健康診断を受けていない者・追加検査を指示された者>

保健所・病院等で受診→診断書・検査結果受領→実習先へ各自提出

注意事項

- ①証明書自動発行機での健康診断証明書の交付は、4月末からです。オリエンテーションに間に合わない場合は、実習指導担当教員に相談してください。
- ②保健所・病院等への受診・検査、診断書作成にかかる費用は自己負担となります。指定された検査項目の検査を行っている保健所・病院等と検査受付日を確認し、受診・検査を受けてください。なお、受診から検査結果が出るまで最低一週間は必要となるので、期間に余裕をもって受診してください。
- ③実習先が指定した追加検査を受診しなかった場合や、検査の結果によっては、実習を中止、もしくは延期する場合があります。

3. 交通手段と実習用通学定期

1) 実習中の交通手段

実習中の交通手段は、公共交通機関の利用を原則とする。

ただし、実習場所、出勤・退勤時間などによってその利用が困難な場合は、実習先と相談し、通勤方法を決めてください。同時に、大学と実習指導担当教員に、決定した通勤方法を報告してください。通勤方法と移動経路は、保険の補償に関わるので大学で把握しておく必要があります。

2) 実習用通学定期の取得

ソーシャルワーク実習のための通勤は、実習用通学定期券を利用できます。本学への通学経路区間は、通常の通学用定期券を購入してください。通常の通学経路区間と異なる場合、自宅から実習先までの交通機関と経路を確認し、実習用定期券を購入できるかどうか確認してください。購入が可能な場合で、かつ経路や日数によって定期券を購入したほうが安価であり、購入を希望する場合は、購入申し込みの期日を学生課の掲示で確認してから申し込んでください。申し込み期日と手続き方法については、大学ホームページにて確認してください。手続き方法は、「学生生活ハンドブック」に記載されています。「学生生活ハンドブック」は、「凛ウェブ」からも閲覧可能です。

4. 事前オリエンテーション

1) 事前オリエンテーションの目的と意義

実習前に実習先で行われる事前オリエンテーションは、実習先やその地域の雰囲気を知り、実習のイメージを作るよい機会です。同時に、実習中の通勤経路と交通機関の確認も行います。

このオリエンテーションは、実習生と実習指導者の初顔合わせです。実習指導者の顔と名前を覚え、実習生の顔と名前を覚えてもらう機会です。わからないことは質問し、不安なことを伝えておくと、実習をスムーズに始めることができますでしょう。

今回の実習で何を学びたいのかを伝えるために、実習計画書を提示します。計画書の実習課題が、その実習機関・施設において実施可能なかを確認してもらいます。実習計画書の内容が適当でなければ、助言をもらい、実習開始までに新しい計画書を作成しておきます。

以上のように、事前オリエンテーションは、実習生が実習のイメージを作り、実習指導者が実習内容を具体的に考えるための場として設定されています。

2) 持ち物・提出書類・服装

(1) 持ち物

筆記用具、実習ファイル（実習の手引き、実習ノート）、上履き、持参するよう指定されたもの

(2) 提出書類

オリエンテーションの1週間前には、提出書類を確認し、必要な事項を記入して準備してください。記入漏れが無いように事前に作成しておきます。実習先に提出する書類となりますので、汚損や折れのないよう保管してください。

①共同研究室で保管しているもの

あいさつ文、お願い文、感染症への対策、ソーシャルワーク実習評価票、返信用レターパック、実習先用実習ファイル

※受け取った封筒内の書類の順番は入れ替えないでください。②③の書類等は、①の後ろに並べ、封筒に同封してください。

※オリエンテーションの日時が確定したら、共同研究室に申し出て受け取ってください。

※書類作成に要する時間と共同研究室の開室時間を計算して、余裕を持って準備してください。

②実習ファイルから抜き出し各自で準備する書類等

実習生個人票、実習計画書、誓約書、実習指導者からの総評

※実習生個人票、実習計画書、誓約書をコピーして、実習生が控えとして保管しておきます。また、実習生個人票と実習計画書は、巡回を担当する教員にも提出するので2部コピーしておく必要があります。

③各自で準備するもの

健康診断証明書、指定された提出物

(3) 服装

スーツが望ましいですが、あいさつを目的とした訪問にふさわしい服装を心がけてください。また、頭髪の色、髪形、持ち物等にも気を配ってください。

3) 訪問の手順等について

実習開始の約1ヶ月前に、実習生が実習先に電話連絡を行い、実習指導者と事前オリエンテーションの日程調整を行います。電話連絡では、事前オリエンテーションを行う日時を相談し、場所、持ち物等を確認します。同じ実習機関・施設、同じ期間に複数の学生が実習する場合、必ず一緒に訪問してください。なお、同じ実習機関・施設で異なる期間の実習である場合は、オリエンテーションを一緒に受けるのか確認してください。また、実習先から事前オリエンテーションの日時が指定される場合があります。可能な限り、指定の日時にてオリエンテーションを受けてください。

日程調整の電話連絡を行う時から実習は始まっています。電話で伝える内容や確認すべき事項を事前に準備してから連絡を行ってください。

約束した訪問時間の10分前に到着できるよう交通機関、経路等を確認し、移動時間を計算しておいてください。

事前オリエンテーション終了後、その内容を整理し、準備が必要な事項を確認して、実習の準備を進めてください。

5. 巡回訪問依頼書

事前訪問オリエンテーション後に「巡回訪問依頼書」を作成し、巡回を担当する実習担当教員に依頼書を渡し、巡回指導を依頼してください。同時に、「実習計画書」と「実習生個人票」のコピーも提出してください。実習中の指導を的確に受けられるようにします。同時に、実習担当教員の連絡先と連絡方法を確認しておきます。緊急の場合の連絡や実習状況の報告などのやり取りのために必要となってくる場合があります。

す。巡回訪問の依頼以外に、実習担当教員との面談も行われることもあります。実習担当教員からの指示に従ってください。なお、事前訪問オリエンテーション前に実習担当教員との面談が行われる場合は、その際に「巡回訪問依頼書」等を提出してください。

6. 欠席届

実習や事前オリエンテーションで大学の授業を欠席する場合は、「欠席届」を作成し、事前に当該授業担当教員に直接提出してください。「欠席届」は、「実習ノート」に原本をファイルしてあります。各自で必要部数をコピーして利用してください。非常勤の先生は担当授業時間以外不在ですので、早めに準備しておくことが望ましいです。

実習や事前オリエンテーションを終えて大学に戻ってきたら、巡回担当教員へのあいさつと報告、実習指導担当教員への報告、欠席した講義科目担当の教員への報告も忘れずに行いましょう。欠席した期間の授業資料受け取りや課題の有無等について、担当教員に確認してください。

7. 感染症への対策

1) 実習の実施について

実習先と緊密に連絡を取り、感染予防に十分配慮しながら実習を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況は、刻々と変化するため、場合によっては、大学の判断により、実習を中断し、自宅待機させる等の対応を取ることがあります。大学ホームページに掲載されている「新型コロナウイルス感染に関わる登学フローチャート」を確認してください。このフローチャートは随時更新される可能性があるため、定期的に確認してください。

2) 新型コロナウイルス感染防止のための健康管理について

- ① 不要不急の外出を控え、規則正しい生活習慣（睡眠時間の確保、バランスのよい食事、適度な運動）を心がけること
- ② 特に実習の開始 2 週間前からは、可能な限り外出を控えること
- ③ 小まめな手洗い、うがいを行い、マスクを着用するなど咳エチケットの対策を図ること
- ④ 三密状態を避けるよう努めること ※密閉、密集、密接

3) 学生の行動指針について

- ① 上記「新型コロナウイルス感染防止のための健康管理について」の内容および、実

習先の感染防止対策を遵守し、健康上の安全に配慮すること

- ②実習開始の2週間前より、終了後2週間までは、毎朝検温を行い、健康管理表に記録し、体調管理を怠らないよう留意すること
- ③実習開始の2週間前より、終了後2週間までは、実習のための外出を除き、外出の際は、外出先、接触者等について行動記録を残しておくこと
- ④発熱、悪寒、咽頭痛、咳、嘔吐、下痢などの症状がある場合は、実習先に行かず、実習先および、本学に連絡の上、自宅で休養すること
- ⑤発熱、倦怠感、息苦しさ等の症状がある場合や体調に不安を感じた際は、実習先および本学に連絡の上、かかりつけ医や「受診・相談センター」に連絡し、指示を仰ぐこと
- ⑥実習中に同居の家族が新型コロナウイルスに感染した場合は、実習先および本学に連絡の上、原則自宅待機すること
- ⑦実習先で新型コロナウイルス感染が確認された場合は、保健所および実習先の指示に従うこと

4) 実習の中止・延期等の判断

以下の場合、大学が実習の中止・延期の判断を行います。

- ①実習生が実習前、実習中に発症し、ウイルス検査で陽性の確定診断が出たとき
- ②実習生が濃厚接触者である、またはその可能性があるとき
- ③実習先での感染が危惧されるとき
- ④その他、新型コロナウイルス感染症をめぐる大学および実習先の状況を踏まえ、実習を中止・延期することが適当であると大学、または実習先が判断したとき

Ⅲ. 実習ノートについて

1. 実習生個人票

1) 個人票作成の目的

実習先に対して、実習生を理解してもらうための基礎資料として個人票を作成します。実習中は、実習先にて保管していただき、実習指導の参考資料や緊急の連絡事項が発生した場合などに使用します。実習終了後は、実習生に返却します。

2) 個人票の項目

<自己紹介>

実習生の長所や短所、得意なことや不得意なこと、実習に対する意欲、実習にどのような姿勢で取り組むのかなどを記入します。実習生のこれまでの活動が、どのような点で実習に役立つのかをまとめてもよいでしょう。

<施設見学やボランティア活動等の経験>

見学した施設の種別、ボランティア活動の内容、参加した時期などを記入します。実習生のこれまでの社会福祉現場における見学やボランティア活動等の経験を実習担当者に把握していただき、実習中の指導や助言に役立てていただきます。

<社会福祉士国家試験受験資格取得に関する科目の受講状況>

社会福祉に関する専門知識や技術を、どの程度習得しているのかの目安になります。実習に行く前に、履修済みの科目について具体的にどのようなことを学んだのか、実習担当者に説明できるようにまとめておくとよいでしょう。

2. 実習計画書

1) 実習計画書の3つの目的

①実習のなかで「学びたいことを伝えるための道具」

実習期間中、実習指導者より指示されたことだけを行い漫然と過ごしてしまうと、実習の目的である「専門的知識」「専門援助技術」「関連知識」の理解を深め、専門職に求められる資質・能力・技術を習得することはできません。そこで、実習に臨むに当たり実習期間中に学びたいこと、収集したい資料などを整理しておき、計画的に学習をすすめることが必要となります。

②実習に対する「意欲を示すための道具」

実習機関・施設は、多忙な日常業務のなかで、実習生を受け入れ、実習指導という負担を引き受けていただいています。社会福祉士国家試験受験資格を取得するためだけに、仕方なく実習に行くというのでは、利用者や実習指導者に対して大変失礼であり、迷惑となります。実習での学びに対する高い意欲をもち、それを実習の場面で具

体的に発揮しようとする姿勢が求められます。

③実習中およびその前後における「学びの道具」

実習は、その期間中だけが学ぶ機会ではありません。実習中の学びを深めるためには、援助のあり方を理解する手がかりが必要となります。実習で何を学びたいのかを明確にしておくことは、実習後の振り返りを行うときにも必要であり、援助のあり方を深めるための手がかりとなります。

実習計画書は実習前に作成しますが、実習中に内容を変更する必要がでてくるかもしれません。その場合は、実習指導者と相談しながら、実習テーマ、実習課題を見直したうえで実習に臨んでください。

2) 実習計画書作成の要点

実習計画書は、次の点を意識しながら作成します。

①実習において学ばなければならないこと

ソーシャルワーク実習は、「実習の目標と内容」に示していることを学ぶ専門職養成のための実習です。

②実習生自身が学びたいこと

実習は、自分自身が知りたいこと、学びたいこと、身につけたい知識・技術を体験する機会です。

③現場から示された課題

実習生に、実習指導者から「知ってほしい」「見てください」「経験してください」などのような形で提示される場合があります。

実習においては、何より自分自身の問題意識から出てくる課題の設定が実習の成否を分けます。これまでの学習を通じて、疑問に思ったこと、理解したいことなどを掘り下げて実習計画書を作成します。

3) 実習計画書の項目

<実習テーマ>

実習で何を学びたいのか、なぜそれを学びたいのか、学んだことが今後どのようなことに役立つのかを文章化します。実習する機関・施設の設置目的や利用児・者に即したテーマを考えてください。

<実習課題>

実習テーマを達成するために、どのような体験（実習）をすれば実現するのかを記述します。実習課題は、実習テーマと連動しています。

実習生がどのような実習を望んでいるのかを実習指導者に理解してもらい、その機会を設定してもらうために、「具体的に学びたいこと」や「学ぶための具体的な方法」について整理します。箇条書きにしておくとうわかりやすいでしょう。ただし、実習期間は限られています。その期間で取り組める内容であるかどうか、慎重に設定する必要があります。

実習先によっては、実習課題で提示した内容のすべてを実施できるとは限りません。そこで、課題の優先順位を考えておくとう惑うことなく取り組むことができます。また、その課題を実習期間のどの時期に取り組むのか、時期や順番を決めておくとう混乱が少なくなり、見通しを持って実習を行うことができます。課題に取り組む時期や順序は、それらの関連や体系を考慮しながら設定します。

また、ソーシャルワーク実習は1回目の実習では、約5週間という期間があります。その中で、最初から専門的な実践に関わることは難しいです。そこで、実習をおおよそ3期に区分し、その中でのねらいを意識しておくとういいでしょう。たとえば、下のようない区分とねらいが考えられます。

前期：1週目

機関・施設の概要を把握する。実習期間を通じて学ぶ内容を確認する。利用児・者との関わり方を学ぶ。

中期：2週目～3週目

専門的援助技術について理解する。援助技術を実践し、援助技術の獲得を目指す。チームアプローチについて職員の実践から学ぶ。

後期：4週目～5週目

実習課題を振り返り、不十分な点に取り組む。

<実習に向けて大学で学んだ内容>

個人票で記載した受講状況とは異なり、ここでは経験したことではなく、そこから何を学んだか（わかったこと、役に立ったこと、疑問に思ったこと、現場で知りたいことなど）に重点をおいて記述します。学んだ内容を実習テーマや実習課題へと発展させていくことが理想的です。

※2回目の実習は、1回目の実習で学んだことを活かし実習計画書を作成しましょう。

3. 実習記録

1) 実習における記録の意義

社会福祉の援助は、実践と反省の積み重ねの上に展開しますが、日々の実践記録がなければ適切な援助を続けていくことは難しくなります。そこで専門職は、適切な援助を行うために援助過程を記録し、実践を振り返りながら展望を見据え、より適切な援助を模索します。学生の実習記録といえども、そのような記録と位置付けて取り組む必要があります。ただ、専門職の記録と異なるところは、実習記録は実習生の学びを目的としているという点です。

実習記録は、日々の実習を実りあるものにすると同時に、将来あなたが専門職として実践を行うための基礎的な資質を養うという重要な意味があります。実習を記録することで、自分自身の行動を振り返ることができ、次の実習目標の設定や課題の発見につながります。また、実習指導者や実習担当教員、実習指導担当教員に実習内容を示し、指導や助言を受けるための資料になります。このように実習記録は、実習生の備忘録ではなく、実習指導者、実習担当教員、実習指導担当教員に学びの過程とその成果を伝えるために作成します。

「書く」という行為は、「自分自身との対話」です。誠実に対話することによって、自分自身を深く知ることができ、それが援助のあり方に影響します。実習記録のための記録ではなく、実習生自身の自己覚知につながる作業であることを理解して取り組んで下さい。

2) 実習記録の項目

<基本的事項>

いつ、どこで、誰の指導を受けながら実習を行ったのかを書きます。「担当者」欄は、その日に指導を受ける職員を記入します。

<課題・目標>

当該実習日において、重点的に取り組む課題やその日の実習目標を記述します。実習テーマ・実習課題に即した内容や前日の反省に基づいた具体的な内容がよいでしょう。その日の課題や目標を設定していると、体験（実習）すべき事柄が明確となり、実習中の活動への反応が鋭敏になり、実習を計画的に進めることができます。また、実習課題の進捗状況を確認する目安になります。

<時間>

実習事項に対応した時間を記録します。時間を記録することで、実習先での業務の流れを把握しやすくなります。また、どのような実習をどの程度行ったのか確認する目安になります。

<実習事項>

どのような実習場面で何を行ったのか簡潔に記録します。経験した事項を確認することができます。一日の実習事項は、すべて記録しておきます。

<活動の記録>

実習事項に対応させて、実習生の活動、利用児・者の活動、職員の活動、環境など、見たこと、聞いたことを記録します。また、その場面で実習生が感じたこと、考えたことなどを簡潔に記録してもよいでしょう。

実習事項すべてに対応した記録は難しいので、実習テーマや実習課題、その日の課題・目標に絞って記録すると整理しやすいでしょう。

<考察>

活動の記録に基づき、実習テーマ・実習課題やその日の課題・目標に即した考察を行います。なぜそのようなことが起こったのか、なぜそのように判断したのかの根拠や理由、実習生・利用児（者）・職員の活動と環境との関係性、そこから導き出される援助を展開するための課題、今後の活動の方向性などが考察記録として考えられます。

実践を展開するために因果関係という視点、援助者としての自己覚知を深める振り返り、現場の抱える課題としての理解も考察記録の要点となるでしょう。

<反省・感想・質問>

実習中の反省（評価できること、見直さなければならないこと）や感想（感じたこと、思ったこと）、質問事項を記述します。この反省を次の課題として発展させ、毎日の実習を有意義なものにしていきます。

<実習指導者からの指導事項>

実習指導者から、記録を通して実習に対してのコメントや助言、指導を受ける欄です。実習中は、実習指導者と対話をする時間が充分に取れない場合もあります。そのような場合、この欄を活用し意思の疎通を図ります。返却後は必ず確認し、その後の実習に反映させます。

3) 記録の書き方について

(1) 準備と提出

その日の実習に入る前（できれば前日）に、表面上部の基本事項と「課題・目標」を記入します。実習後、その日のうちに「時間」「実習事項」「活動の記録」、そして、裏面の「【考察】」「【反省・感想・質問】」を記入し、翌実習日の実習に入る前に実習指導者に提出します。返却後は必ず指導事項を確認し、次の実習に反映させてください。提出方法等について実習先の指示があればそれに従ってください。

(2) 記録の方法

記入は、黒ペン・ボールペンを使用します。間違った場合は次のように訂正を行ってください。間違った箇所に二重線を引き、その上に訂正印を押す。そして、空白の部分に修正の語句を記入してください。ただし、訂正方法について実習先からの指示があればそれに従ってください。訂正を行わないようにするために、下書きの作成が有効です。

(3) メモ・下書きについて

実習に入る前に、メモ帳と下書き用のノートを準備します。

実習中は実習記録をこまめに記入する時間がありません。実習中の出来事を詳細に記憶しておくことも不可能です。そこで、実習中の出来事をメモに取っておくことが必要となります。ポケットに入る程度のメモ帳を準備し、実習中にメモ程度に記入しておきます。実習中の持ち歩きの可否、置き場所、記入のタイミングについては、実習先の指示に従ってください。

実習記録を作成する場合、メモを活用しますが、それをそのまま書き写しても実習記録とはなりません。そこで、「実習記録」の下書きを作成します。メモの内容を取捨選択しながらの下書き作成が、考察を深める作業となります。また、その作業が、援助者としての自分自身の内省となり、自己覚知が深まります。

これらを提出する必要はありません。ただし、メモであっても個人情報が含まれている場合もあり得るので、その取扱いにはくれぐれも注意し、守秘義務を遵守し、自分だけの実習資料としてください。

(4) 記録の要点

①文章作成

誤字脱字：誤字脱字を防ぐために、国語辞典を手元に置き、言葉の意味、漢字表記、送り仮名等の確認に活用してください。また、社会福祉の専門用語を理解し、記述することが求められます。授業で学習した内容を振り返り、各科目のテキストや福祉の用語辞典等を活用するといいいでしょう。

文法：主語や述語を明確にしておくことはもちろんのこと、修飾語の使用方法にも注意してください。また、接続詞の使用や文末の処理にも留意してください。

短文・単文：文章は短く、かつ、一文には言いたいことを一つだけとなるようにしてください。

構成：記録全体を読んだ場合、文章のつながりがわかるように、何を伝えたいのかを意識して、全体の構成を考えてください。

単語→文章→段落→全体という順序で構成を考え、一貫した内容になっているかどうか確認します。

②記述

誰が読んでもその内容がわかるように5W1Hを意識してください。

When (いつ) Where (どこで) Who (誰が) What (何をした)

Why (なぜ) How (どのように)

③客観的記述と主観的記述

客観的記述は記録の基本です。現場をありのままに、情報の過不足なく記述することです。その中に自分自身の判断や主張が、入り込んでしまう場合があります。それは主観的な記述となり、対応の混乱を引き起こす原因となります。主観的記述を排除するのではなく、主観的記述であることを明らかにした上で記録していくことが必要です。

④事実と推測

客観的記述を意識していても、起こっていたことをすべて把握することはできません。そこで、推測しながら援助場面を構成して記録を作成していきます。特に、Whyは自分自身のことでなければ推測として記録しなければならないことが多くなるでしょう。

⑤倫理的配慮

社会福祉の援助は、利用児・者の権利擁護が目的です。実習生が持ち歩く実習記録に利用児・者本人の個人情報記述され、本人と特定されるような内容となってしまうと、権利擁護を目的とした記録としては不適切となります。たとえば、利用児・者の氏名をイニシャルや記号にするなど配慮してください。ただし、その個人情報を記述しなければならない場合は、実習指導者に相談して判断を仰いでください。個人情報の取り扱いやその配慮については、実習先の指導に従ってください。

また、人の尊厳を傷つける用語や言い回しは使用せず、適切な用語を選択し記録するよう意識してください。

4. 実習機関・施設の概要

1) 実習機関・施設の概要作成の目的

社会福祉機関・施設の全体像は、実習期間の体験だけでは把握することが難しいです。そこで、実習機関・施設の概要を作成し、実習先の全体像をとらえていきます。機関・施設の一般的な知識は、文献資料から学ぶことはできますが、この概要は個別の機関・施設に着目し、理解するための記録です。一般的な知識だけでなく、実習先固有の特徴などを把握するための資料となります。

オリエンテーション時や実習中に資料を収集し、実習中に作成します。説明を受けた内容やデータだけを記述するのではなく、考えたことや印象を書いておくと、さらに具体的な姿が浮び上がってきます。

2) 概要の項目

<機関・施設の沿革>

実習機関・施設の設定、事業等の展開の流れを書きます。設定の趣旨や理由、事業展開の背景などを記録するといいでしょう。

<事業内容と特色>

実習機関・施設が実施している事業を整理します。また、特に力を入れている事業や他の同種の機関・施設とは異なり、特色ある活動があれば記録しておきます。

<職種と職員数、業務内容>

実習機関・施設で勤務する職員の職種名称と人数、その職員の業務内容をまとめます。職場の理解、職種の理解を深めていきます。

<一日の生活の流れと利用児・者の特徴>

実習機関・施設の一日の利用児・者の主な生活の流れと機関・施設を利用する利用児・者の状況について記録します。年齢層、人数、利用の動向、利用児・者の特徴などを量的・質的に把握して記入します。当事者の感想や意見を記録しておくと、さまざまな角度から実習先を理解できるでしょう。

<社会資源・関係する機関等>

実習した機関・施設が、地域のどのような機関・施設、団体と連携をとっているのか。どのような内容の連携・協力体制なのかを記録します。

<地域の特徴>

実習機関・施設の設置されている周辺の様子や活動・事業の対象としている地域の特徴をまとめます。

5. 実習生出勤簿

実習生が、規定の実習時間を達成したことの証明書類となります。記入は黒ペン・黒ボールペンを使用してください。実習開始前に「学籍番号」「実習生氏名」を記入し、実習終了後に「実習期間」を記入します。実習先へ出勤したら、その日の実習に入る前に勤務日時を記入し、実習生自らが確認印を押します。印鑑はすべて同じものを使用してください。原則として朱肉を利用する認印での押印です。シャチハタ印は、できる限り使用しないでください。訂正は、訂正箇所には2重線を引き、その上に訂正印を押して余白に正しい事項を記入してください。実習中、出勤簿は指定された場所に

保管してください。実習最終日に集計部分を記入して実習指導者へ提出し、実習評価票等とともに返送を依頼してください。出勤簿の表より下は、実習先にて記入していただきます。

6. 巡回指導記録

実習中に実習担当教員が実習先を訪問し、実習生、実習指導者、実習担当教員の3者で実習の振り返りを行います。また、帰校指導などの形で実習先以外の場所において、実習生と実習担当教員と振り返りを行うこともあります。振り返りの内容やアドバイス、指導事項、気づいたことなどを記録します。

7. 実習の振り返り

「実習の振り返り」は、実習終了後3日以内に作成してください。作成後、実習先へ提出します。

<実習テーマ・課題の達成状況>

実習前に設定した実習計画書のテーマと課題が、実習を通じてどのように達成できたのかを振り返ります。100%の達成でなくても、その程度を自分自身の中で押し量りながら、できたこと、十分ではなかったことを書き出していきます。具体的な実習場面を取り出しながら説明すると分かりやすくなります。加えて、それが達成できた理由、あるいは、不十分となった理由を考えてまとめます。

<実習で学んだこと>

「実習テーマ・課題の達成状況」から、実習を通じて学んだことを総括的に書き出します。また、実習計画書作成段階では気付かなかったが、印象に残り、今後の実践に関係することであれば記録しておきます。その一つに、自分自身についての発見も含まれます。

<実習の反省・感想・今後の課題>

不十分だったことや実習全体を通じての感想を記入します。加えて、「実習テーマ・課題の達成状況」では、達成できた理由と不十分であった理由を書きだしたので、そこから今後学ばなければならないことを整理していきます。

IV. 実習中の留意点

1. 実習態度と心構え

社会福祉機関・施設は、後継者の育成ということで、日常業務に加えて実習生を受け入れてくれています。現場での実習は単位修得のみを目的として受講するのではなく、将来、社会福祉専門職として役立つ実践力を養うため、基礎的知識・基礎的技能の「総合と体験」の場として臨むことが必要です。そのため、次の事項について十分留意し、実習に取り組んでください。

1) 守秘義務

実習中に知り得た利用児・者や家族の情報は、いかなる場合でも他者に漏らしてはなりません。また、実習先に関することも同様です。これは、社会福祉専門職の倫理規範です。日本社会福祉士会が採択している「社会福祉士の倫理綱領」を確認しておいてください。具体的に示すと、実習に関することを実習先以外や学外で話さないこと、SNS 上に書き込まないことです。

2) 実習態度

実習は積極的に取り組んでください。ただし、実習生の判断だけで行動せず、常に実習指導者への報告・連絡・相談を行うようにしてください。出勤・退勤時の実習指導者へのあいさつ、実習内容の確認・報告を毎日行ってください。

実習は学習を目的としているため、利用児・者との個人的な関係は慎んでください。たとえば、「メールアドレスや住所を教えてほしい」、「一緒に遊びに行こう」などの依頼や誘い、金銭や物品のやりとりは、勉強に来ていることを説明し、原則として断ってください。そのような場合の対応について、実習指導者に確認しておいてください。また、依頼や誘いを受けた場合、実習指導者に報告しておくことが望ましいでしょう。

3) 生活・健康管理

寝不足、飲酒等、生活態度を見直し、体調を整えて実習に臨んでください。アルバイト、クラブ活動、友人との約束など実習に支障の出そうな活動は、実習期間に持ち込まないようにスケジュールを管理してください。また、飲酒や喫煙の習慣がある場合、実習期間は慎むよう心掛けてください。

実習中は、利用児・者への配慮を第一に考えて行動してください。体調不良のときは、速やかに実習機関・施設の実習指導者に連絡してください。

4) 服装・身なり等

実習にふさわしい服装や身なりを選んでください。華やかな化粧やアクセサリーの装着は、実習に向きません。実習中の服装については、実習指導者に相談するか、職員の服装で判断してください。実習生といえども、第3者からみると実習先の職員の一員として認識される場合があります。実習先の指示や指導に従った服装を心がけてください。

貴重品は、実習中に管理ができないので持っていかないでください。携帯電話などは、マナーモード設定、あるいは、保管場所によっては電源を切るようにしてください。実習中は持ち歩かず、指定された場所に保管し、緊急の場合以外の使用は控えてください。

服装・持ち物については、実習先の指示に従ってください。

5) 実習中の指導・助言

実習中の指導は、日常的に実習機関・施設の実習指導者の指導や助言を仰ぎます。また、実習担当教員が巡回指導あるいは帰校指導を行います。実習生は、実習指導者、実習担当教員との面接の機会を活用し、実りある実習となるように相談し、指導を受けてください。

(1) 指導や助言を受ける際の留意点

援助の方法や対応について、判断に困る場合はすぐに質問し、指示を仰いでください。

指導された内容や意味がわからない場合は、必ず質問をし、理解しておきます。その場で確認することが難しい場合は、実習記録を通じて質問するようにしてください。

指導・助言を受けた内容はメモを取るなど、記録し、同じ指導を受けないよう注意して実習に取り組んでください。

指導や助言は、実習生の気づき、学びを促すためのものであると認識し、常に謙虚な姿勢で素直に受け止めてください。

(2) 実習担当教員の役割

実習担当教員は、実習生の実習をサポートし実習が円滑に進められるように調整する役割があります。以下の事項を中心に対応します。

- ①実習状況の振り返りを実習生や実習指導者とともに行います。
- ②実習課題の達成状況を実習生や実習指導者とともに評価します。
- ③実習中に発生した問題点等を実習生や実習指導者とともに解決します。

- ④実習生の心身の健康状態などの確認を行い、必要に応じて対応を行います。
- ⑤実習生からの質問・相談に対応します。

2. 実習中の諸注意

1) 緊急の場合の連絡

実習開始時間に遅刻しそうになった場合や体調不良など、実習に支障がある場合は必ず実習先に電話連絡をしてください。

実習日程の変更、疾病等で休まなければならなくなった場合などは、共同研究室、実習担当教員へ速やかに連絡してください。

いずれにおいても実習生自身で判断せず、実習先や大学、実習指導教員と相談の上、対応してください。

2) 実習の中止等について

実習期間中に警報などで出勤が危ぶまれる場合は、「臨時休講」措置（下記参照）の判断を参考に実習先の指示を仰いでください。実習生だけで判断せず、必ず実習先と相談してください。出勤停止の場合、振替実習の日程を各自で調整します。実習期間の変更があれば、速やかに大学へ報告するとともに、巡回指導の調整が必要となる場合もあるので、実習担当教員に連絡してください。

実習先の指示に従わず、実習の継続が不可能と判断されると、実習を中断、中止する場合があります。実習担当教員、実習指導者と連絡・相談しながら実習に取り組んでください。実習中断の場合、その再開は実習担当教員、実習指導者と相談のうえ決定します。

「臨時休講」措置の大学判断基準 「大阪大谷大学授業科目履修規程」より

第5章 臨時休講

(臨時休講)

第43条 午前7時から午前10時までのいずれかの時点において、次の各号にあるときは、1・2時限の授業（定期試験期間における試験を含む）を、午前10時の時点で次の各号にあるときは3時限以降の授業を臨時休講とする。

- (1) 大阪府（大阪市、北大阪、東部大阪、南河内、泉州のいずれか）に特別警報・暴風警報が発令されているとき
- (2) ストライキまたは自然災害等により、以下のいずれかの状況にあるとき
 - 1. 近畿日本鉄道長野線のいずれかの区間において運行停止している
 - 2. 近畿日本鉄道南大阪線(大阪阿部野橋～橿原神宮前間)のいずれかの区間と南

海電気鉄道高野線(難波～橋本間)のいずれかの区間で同時に運行停止している

3. JR 西日本大阪環状線全線、大阪メトロ御堂筋線(梅田～天王寺間)・四つ橋線(西梅田～大国町間)・谷町線(東梅田～天王寺間)が同時に運行停止している

2 前項にかかわらず、午前 10 時を過ぎて前項第 1 号に該当する状況になれば、その時点で臨時休講とする。

3 特別警報や暴風警報のほか、緊急事態が発生し授業に支障があると学長が判断した場合、臨時休講とする。

3) 実習中の事故への対応 (保険について)

実習中の事故への対応として、「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。実習中に事故に遭遇した場合は、速やかに大学、実習担当教員に連絡してください。

補償対象

①賠償責任補償

実習生が実習先やその通勤途上で、第三者(実習対象児・者や実習先の職員)にケガをさせたり、第三者の物品(実習対象児・者の持ち物や実習先の設備を含む)を破損したりして、実習生の責任が問われる場合。

②傷害補償

実習中や通勤途上において学生自身がケガをした場合。

4) 実費負担の清算

給食費、寝具使用料、光熱費等の実費負担の有無と精算の方法を確認してください。

5) 実習最終日に

実習中に日々整頓を行うことはもちろん、使用した更衣室や控室、宿泊室等を必ず清掃して退勤してください。また、借りた物の返却とお礼を忘れないようにしてください。

V. 実習後の学習

1. 実習後の手続き等

1) 最終日の実習記録と「実習の振り返り」の提出について

実習最終日の実習記録等の提出方法について、実習指導者と相談してください。直接提出することが望ましいですが、郵送の指示が出されることもあります。

①直接提出の場合

実習終了後、3日以内に訪問してください。その際、実習指導者が不在の場合もあるので、封筒に入れていくといいでしょう。必ず、職員に手渡しをしてください。

②郵送の場合

実習指導者宛てに送ります。その際、朱書きで「実習記録在中」と表に記載し、鏡文も同封してください。実習記録は個人の記録ですが、実習の公的な書類として扱いますので、簡易書留やレターパックなど、郵送や受取記録の残る方法を選択してください。

2) 実習記録の返却について

実習中に返却されなかった実習記録の返却方法について、直接受け取るのか、あるいは自宅に郵送のいずれかを確認してください。直接受け取りに行くことが望ましいですが、日程の調整が難しい場合は、郵送を依頼してください。

①受け取りの場合

実習終了後3週間以降、4週間を超えない期間に受け取ることができるよう訪問日時を調整します。

②郵送の場合

実習生宛の返送先を明記した封筒を準備し、実習記録を封入したときの重さに相当する金額の切手を必ず貼付し、実習指導者に郵送を依頼してください。実習記録は個人の記録ですが、実習の公的な書類として扱いますので、簡易書留やレターパックなど郵送や受取記録の残る方法で準備してください。また、オリエンテーション時に提出した大学宛の返信用レターパックに同封していただくことも可能です。

3) お礼状

全ての実習記録と「実習の振り返り」を提出したのちに、実習終了後1週間以内に郵送してください。施設長宛に最低1通は送ってください。そのほか、実習指導者宛、職員一同宛、特にお世話になった職員宛等も考えられます。自筆で、封書（白封筒と白便箋）を使用してください。複数で実習した場合でも連名で作成せず、各自が個別に作成し、郵送してください。大学名と実習生氏名を忘れずに記載してください。自宅住所は書かなくても構いません。

2. 事後学習

1) 実習報告の意義

実習中に学んだことをまとめ、以後の学習につなげていくための作業です。他の実習生の報告を聴講することで、自分自身の実習を客観的に振り返り、評価できるようになり、そのことが今後の課題の設定につながっていきます。

2) ソーシャルワーク実習としての自己評価

ソーシャルワーク実習は、実習生自身が立てた実習計画以外に、社会福祉士国家試験受験資格の実習として習得しなければならない知識、技術があります。それらについての自己評価も必要となります。「I. 実習の目的とねらい」の「実習の目標と内容」に示されている内容について、「十分達成できた」「達成できた」「部分的に達成できた」「全く実践できていない」などの自己評価を行い、不十分な場合は、残された課題として明確にしておき、今後の学習計画を作成しておくことが望ましいです。

3. 『ソーシャルワーク実習報告書』の作成

1) 『ソーシャルワーク実習報告書』作成の目的

『報告書』は、実習学生が自分の実習を総括することを目的に作成します。実習機関・施設へのお礼に代えて送付するとともに、次年度に実習を希望する学生に配布します。伝えなければならないことを十分に整理したうえで、実習指導担当教員の指導を受けながら取り組んでください。

2) 『ソーシャルワーク実習報告書』の項目

様式等の詳細は、実習終了後に説明します。

(1) 実習機関・施設別に作成する基本的な事項

複数の学生が同一機関・施設において実習を行った場合、協力して作成します。

<実習機関・施設の種類、名称>

実習先の制度上の種類、あるいは種別や事業名称と実習先の固有名称を明記します。

<概要と特徴>

「実習機関・施設の概要」を参考にして、作成します。基本的な情報と当該実習先の特徴を整理して、簡潔に記述してください。

(2) 実習生ごとに作成する事項

<実習生の氏名>

<実習期間>

実習生出勤簿にて実習期間を確認してください。

<タイトル>

報告の内容に即したタイトルを各自が考えます。

<実習テーマと実習課題>

実習計画書をもとに記述します。なぜ、そのようなテーマ・課題を設定したのか説明するとわかりやすいでしょう。

<実習内容>

どのような実習・体験をしたのか整理し、具体的に記述します。実習内容を分類することで分かりやすくなります。

<実習テーマ・課題の達成状況と今後の課題>

実習計画書で掲げたテーマや課題の達成状況を示します。どのようなことを理解できたのか、気づいたのか、また、それをどのように達成したかを実習中の経験に基づいて記述します。そして、今後どのようなことを学ばなければならないかを整理しておきます。

<実習で学んだこと>

上記の「実習テーマ・課題の達成状況と今後の課題」に書き込めなかった内容を盛り込みます。実習を通じて発見したこと、成長したこと、考えさせられたことなどをまとめる。実習を終えての反省や感想、これから実習に行く後輩たちへの助言を加えてもよいでしょう。

4. 実習記録などの整理

1) 実習ファイルの整理

ソーシャルワーク実習は実習期間だけではなく、前年度の事前学習、見学実習、そして実習直前の学習、事後学習などの学習を積み重ねて臨んだものです。それらの中で作成した資料、配布された資料等も含め実習の記録として、実習記録とともに実習ファイルに整理しておいてください。

2) 実習ファイルの提出

実習報告会終了後、実習指導担当教員に提出してください。

ソーシャルワーク実習ノート

実習先の種別	
実習先の名称	
実習期間	年 月 日～ 年 月 日

誓約書

私_____は、 年 月 日()から貴機関・施設におけるソーシャルワーク実習を行うにあたり、以下の事項を遵守することを誓約いたします。

1. 実習期間中は、貴機関・施設の就業規則・諸規則、実習の注意事項を厳守し、貴機関・施設職員の指示に従い、職務の妨げになることのないように、実習に専念いたします。
2. 実習中に貴機関・施設において知り得た秘密は、将来にわたって決して他には漏らさないようにし、守秘義務の原則を守ります。
3. 実習中は、社会福祉士の倫理綱領を遵守し、社会福祉士の行動規範に基づき行動することを誓います。

以上

年 月 日

大阪大谷大学 人間社会学部 心理・福祉学科 第 学年

学籍番号

住所

氏名

印

ソーシャルワーク実習 実習計画書

大阪大谷大学 人間社会学部心理・福祉学科

機関・施設の種別		氏 名	
設置主体名		学籍番号	
機関・施設の名称		学 年	第 学年
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		

①実習テーマ

②実習課題（具体的に何を学びたいのか。学ぶための具体的な方法について）

③実習に向けて大学で学んだ内容

ソーシャルワーク実習 実習生出勤簿

大阪大谷大学 人間社会学部心理・福祉学科

実習生氏名	印	学籍番号	
実習期間	年 月 日	～	年 月 日

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
実習時間	(曜日) : ～ :						
実時間							
実習生印							
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
実習時間	(曜日) : ～ :						
実時間							
実習生印							
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
実習時間	(曜日) : ～ :						
実時間							
実習生印							
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	集計
実習時間	(曜日) : ～ :	実習日数 日間					
実時間							実習時間
実習生印							時間

年 月 日

実習機関・施設住所

実習機関・施設名

機関・施設長名

印

考察

反省・感想・質問

【実習指導者からの指導事項】

②実習で学んだこと

③実習の反省・感想・今後の課題

ソーシャルワーク実習 実習機関・施設の概要

大阪大谷大学 人間社会学部心理・福祉学科

機関・施設の種別		氏 名	
設置主体名		学籍番号	
機関・施設の名称		学 年	第 学年
実習期間	年 月 日	～	年 月 日

※オリエンテーション後または実習中に記入すること

<p>【機関・施設の沿革】</p>
<p>【事業内容と特色】</p>
<p>【職種と職員数、業務内容】</p>

【一日の生活の流れと利用児・者の特徴】

【社会資源・関係する機関等】

【地域の特徴】

ソーシャルワーク実習 訪問依頼書

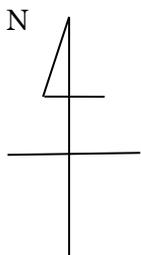
先生

大阪大谷大学 人間社会学部心理・福祉学科

実習生氏名	学籍番号	連絡先	ゼミ担当教員
		電話 メール @osaka-ohtani.ac.jp	
		電話 メール @osaka-ohtani.ac.jp	

実習期間	年 月 日～ 月 日
実習機関・施設名	
所長・施設長名	
実習窓口担当者氏名	
実習指導者氏名	
所在地	〒
電話番号	
最寄り駅	線 駅 徒歩・バス 分
連絡事項等	

最寄り駅からの地図（目印を必ず記入すること）



ソーシャルワーク実習 欠席届

先生

人間社会学部 心理・福祉学科		回生
学籍番号		
フリガナ		
氏 名		

科目名																			
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()																		
欠席日	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">年</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">月</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">(合計 日)</td> </tr> </table>	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日	(合計 日)		
年	月	日																	
年	月	日																	
年	月	日																	
年	月	日																	
年	月	日																	
(合計 日)																			
連絡事項																			

※この届は実習前に当該授業科目の担当教員に直接提出すること。

※記入後、コピーし実習生も保管しておくこと。

※実習生は必要部数を各自でコピーして利用してください。

ソーシャルワーク実習 健康管理表

大阪大谷大学 人間社会学部心理・福祉学科

実習生氏名		学籍番号	
機関・施設の名称			
実習予定期間	年	月	日～
	年	月	日
開始 2 週間前	月	日	終了 2 週間後
	月	日	

※検温は、起床後（朝）の体温を記入する。

※症状がある場合「○」を記入する。その他の症状は具体的に記入する。

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

実習生氏名		学籍番号	
-------	--	------	--

※検温は、起床後（朝）の体温を記入する。

※症状がある場合「○」を記入する。その他の症状は具体的に記入する。

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

実習生氏名		学籍番号	
-------	--	------	--

※検温は、起床後（朝）の体温を記入する。

※症状がある場合「○」を記入する。その他の症状は具体的に記入する。

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

実習生氏名		学籍番号	
-------	--	------	--

※検温は、起床後（朝）の体温を記入する。

※症状がある場合「○」を記入する。その他の症状は具体的に記入する。

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

項目	/	/	/	/	/	/
検温	℃	℃	℃	℃	℃	℃
咳						
息苦しさ						
倦怠感						
味覚・嗅覚障害						
その他の症状						
外出先・接触者						

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
1	特別養護老人ホーム	社会福祉法人関西福祉会 陵東館	大阪府堺市北区長曾根町1210-1	1
2	特別養護老人ホーム	社会福祉法人永寿福祉会 長吉	大阪府大阪市平野区長吉川辺3丁目20番14号	5
3	特別養護老人ホーム	社会福祉法人南海福祉事業会 フィオーレ南海	大阪府泉南郡田尻町吉見326-1	1
4	特別養護老人ホーム	社会福祉法人正武福祉会 さんらく苑	大阪府大阪市住吉区苅田5丁目16番10号	1
5	特別養護老人ホーム	社会福祉法人弘仁会 レインボー今里	大阪府大阪市生野区中川1丁目6番20号	1
6	地域包括支援センター	社会福祉法人大阪YMCA サンホーム	大阪府東大阪市御厨南3丁目1番18号	1
7	児童養護施設	社会福祉法人阪南福祉事業会 岸 和田学園	大阪府岸和田市三田町911	2
8	児童養護施設	社会福祉法人高津学園	大阪府大阪市天王寺区城南寺町1番10号	4
9	児童養護施設	社会福祉法人いかるが園	奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺2丁目12番8号	2
10	児童養護施設	社会福祉法人大阪児童福祉事業会 清心寮	大阪府堺市北区東上野芝町2丁499番地	2
11	児童家庭支援センター	社会福祉法人大阪児童福祉事業会 子ども家庭支援センター清心寮	大阪府堺市北区東上野芝町2丁499番地	2
12	知的障害者更生施設	社会福祉法人関西福祉会 陵東館長曾根	大阪府堺市北区長曾根町713-2	3
13	障害者支援施設	社会福祉法人日本ヘレンケラー財 団 太平	大阪府和泉市伯太町3-13-68	2

ソーシャルワーク実習施設一覧

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
14	生活介護事業所	社会福祉法人いわき学園 住之江木の実園	大阪府大阪市住之江区御崎3丁目2番2号	3
15	障害福祉サービス事業所	社会福祉法人いわき学園 いわき生野学園	大阪府大阪市生野区小路3丁目19番19号	5
16	婦人保護施設	社会福祉法人四天王寺社会福祉事業団 大阪府立女性自立支援センター	大阪府堺市南区域山台5丁1-1	2
17	社会福祉協議会	社会福祉法人 大阪市福島区 社会福祉協議会	大阪府大阪市福島区海老江6-2-22	1
18	障害者更生相談所	大阪府障がい者自立相談支援センター	大阪府大阪市住吉区大領3丁目2-36	2
19	児童相談所	堺市子ども相談所	堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1	1
20	社会福祉協議会	社会福祉法人富田林市社会福祉協議会	大阪府富田林市宮甲田町9-9	1
21	社会福祉協議会	社会福祉法人堺市社会福祉協議会	大阪府堺市堺区南瓦町2-1	1
22	社会福祉協議会	社会福祉法人東大阪市社会福祉協議会	大阪府東大阪市高井田元町1-2-13	2
23	社会福祉協議会	社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会	兵庫県芦屋市呉川町14-9	1
24	特別養護老人ホーム	社会福祉法人永寿福社会 永寿特別養護老人ホーム	大阪府大阪市平野区瓜破南1-2-30	1
25	特別養護老人ホーム	社会福祉法人成和会 喜志菊水苑	大阪府富田林市喜志町3丁目1-33	2
26	特別養護老人ホーム	社会福祉法人富美和会 錦織荘	大阪府富田林市錦織東3丁目4-18	2

ソーシャルワーク実習施設一覧

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
27	特別養護老人ホーム	社会福祉法人邦寿会 どうみょうじ高殿苑	大阪府藤井寺市道明寺3丁目2-2	1
28	特別養護老人ホーム	社会福祉法人育徳園 いくとく	大阪府大阪市阿倍野区天王寺町北 3-18-16	1
29	特別養護老人ホーム	社会福祉法人玉美福社会 高齢者ケアセンター向日葵	大阪府東大阪市玉串町東1-10-20	1
30	小規模多機能型居宅介護	社会福祉法人ライフサポート協会 きずな	大阪府大阪市住吉区帝塚山東5-8- 3	2
31	児童相談所	大阪市こども相談センター	大阪府大阪市中央区森ノ宮中央1- 17-5	1
32	児童養護施設	社会福祉法人若副会 若江学院	大阪府東大阪市西岩田1-2-14	2
33	障害者支援施設	社会福祉法人若草会 障害者活動センター若草園	大阪府東大阪市東鴻池町2-4-33	2
34	社会福祉協議会	社会福祉法人泉大津市社会福祉 協議会	大阪府泉大津市東雲町9-15	1
35	社会福祉協議会	社会福祉法人宝塚市社会福祉 協議会	兵庫県宝塚市安倉西2-1-1	1
36	特別養護老人ホーム	社会福祉法人四天王寺福祉事業団 四天王寺悲田院特別養護老人ホーム	大阪府羽曳野市学園前6-1-1	1
37	母子生活支援施設	社会福祉法人みおつくし福社会 南さくら園	大阪府大阪市阿倍野区阪南町5- 12-24	1
38	障害者支援施設	社会福祉法人奈良県社会福祉事業 団 奈良県障害者総合支援セン ター	奈良県磯城郡田原本町大宇多722 番地	1
39	通所介護	社会福祉法人聖徳会 デイサービ スセンター レューナの家	大阪府松原市阿保3丁目14-22	1

ソーシャルワーク実習施設一覧

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
40	通所介護	社会福祉法人聖徳会 デイサービスセンター田坐	大阪府松原市田井城1丁目177番の1	1
41	特別養護老人ホーム	社会福祉法人大阪YMCA サンホーム	東大阪市御厨南3丁目1番18号	1
42	特別養護老人ホーム	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団 光明荘	和泉市伏屋町3丁目8番1号	1
43	児童養護施設	社会福祉法人四恩学園	大阪市天王寺区逢坂2-8-41	2
44	母子生活支援施設	社会福祉法人みおつくし福祉会 リアン東さくら	大阪市東成区中本4丁目1番21号	1
45	特別養護老人ホーム	社会福祉法人慶生会 瑞光苑	大阪市生野区巽東4丁目11-10	1
46	障害者支援施設	社会福祉法人ひまわり ひまわりの家	奈良県磯城郡三宅町伴堂850	3
47	社会福祉協議会	社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア・市民活動センター	大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内	1
48	社会福祉協議会	社会福祉法人松原市社会福祉協議会	大阪府松原市阿保1-1-1	2
49	特別養護老人ホーム	社会福祉法人光荣会 白水園	和歌山県紀の川市上田井1229-1	1
50	社会福祉協議会	社会福祉法人大淀町社会福祉協議会	奈良県吉野郡大淀町下湊1223	1
51	相談支援事業所	社会福祉法人コスモス ケアプランセンターせんぼく	大阪府堺市南区榎202-9	3
52	居宅介護事業所	特定非営利活動法人ぬくもりヘルプセンターふおれすと	大阪府河内長野市栄町25-37-102 (児童療育支援プラザ内)	1

ソーシャルワーク実習施設一覧

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能 人数
53	児童養護施設	社会福祉法人和歌山県社会施設事業会 こぼと学園	和歌山県和歌山市直川1437	1
54	児童養護施設	社会福祉法人海の子学園 入舟寮	大阪市港区池島3-7-18	1
55	障害者支援施設	社会福祉法人武田塾 高井田苑	大阪府柏原市高井田1020-58	1
56	児童養護施設	社会福祉法人田島童園	大阪府大阪市生野区林寺5丁目11-24	1
57	障害者支援施設	社会福祉法人コスモス 第2せんぼく障害者作業所	大阪府堺市南区桧尾16	1
58	相談支援事業	社会福祉法人ぬくもり 相談支援室れんげのおか	大阪府河内長野市栄町25-37-102	2
59	特別養護老人ホーム	社会福祉法人聖徳会 大阪老人ホームうえだ	大阪府松原市上田8丁目11-11	1
60	児童養護施設	社会福祉法人大阪福祉事業財団 高鷲学園	大阪府南恵我之荘2-6-20	1
61	特別養護老人ホーム	社会福祉法人晋栄福社会 ナーシングホーム智鳥	大阪府門真市北島町12-3	1
62	障害者支援施設	社会福祉法人コスモス せんぼく障害者作業所	大阪府堺市南区檜尾1382-6	1
63	児童養護施設	社会福祉法人高津学園 信太学園	大阪府和泉市太町376	1
64	児童養護施設	社会福祉法人みおつくし福社会 助松寮	大阪府泉大津市松之浜町1丁目3番24号	1
65	障害者支援施設	社会福祉法人永寿福社会 永寿の里若葉	大阪市平野区长吉川辺3-20-14	1

ソーシャルワーク実習施設一覧

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
66	児童養護施設	社会福祉法人東光学園	大阪府堺市中区土塔町2028	1
67	社会福祉協議会	社会福祉法人河内長野市社会福祉協議会	大阪府河内長野市喜多町663-1	3
68	児童相談所	大阪市北部こども相談センター	大阪市東淀川区淡路3-13-36	1
69	児童相談所	兵庫県中央こども家庭センター	兵庫県明石市北王子町13-5	5
70	児童自立支援施設	神戸市立若葉学園	神戸市垂水区多聞町字小東山868-49	2
71	障害福祉サービス事業所	社会福祉法人宝塚さざんか福祉会 宝塚さざんかの家	兵庫県宝塚市安倉西3-1-5	4
72	特別養護老人ホーム	社会福祉法人四天王寺福祉事業団 四天王寺紅生園	大阪市平野区喜連東5丁目13-30	1
73	障害福祉サービス事業所	社会福祉法人富翔会 わくわく富田林	大阪府富田林市喜志町3丁目1-33	1
74	児童相談所	大阪府富田林子ども家庭センター	大阪府富田林市寿町2-6-1	1
75	障害福祉サービス事業所	社会福祉法人障害者福祉事業団 地域生活総合支援センターおんど	大阪府松原市上田8丁目7-16	2
76	児童養護施設	社会福祉法人三ヶ山学園	大阪府貝塚市東山2-1-1	1
77	障害福祉サービス事業所	社会福祉法人宝塚さざんか福祉会 宝塚けやきの里	兵庫県宝塚市安倉西4-1-1	1

【資料 7 実習施設等承諾書】

別添資料として、【資料 6 ソーシャルワーク実習施設一覧】の実習施設の承諾書 77 枚を添付した。

スクールソーシャルワーク 実習の手引き (年度版)

大阪大谷大学

人間社会学部

心理・福祉学科 社会福祉コース

人間社会学部共同研究室

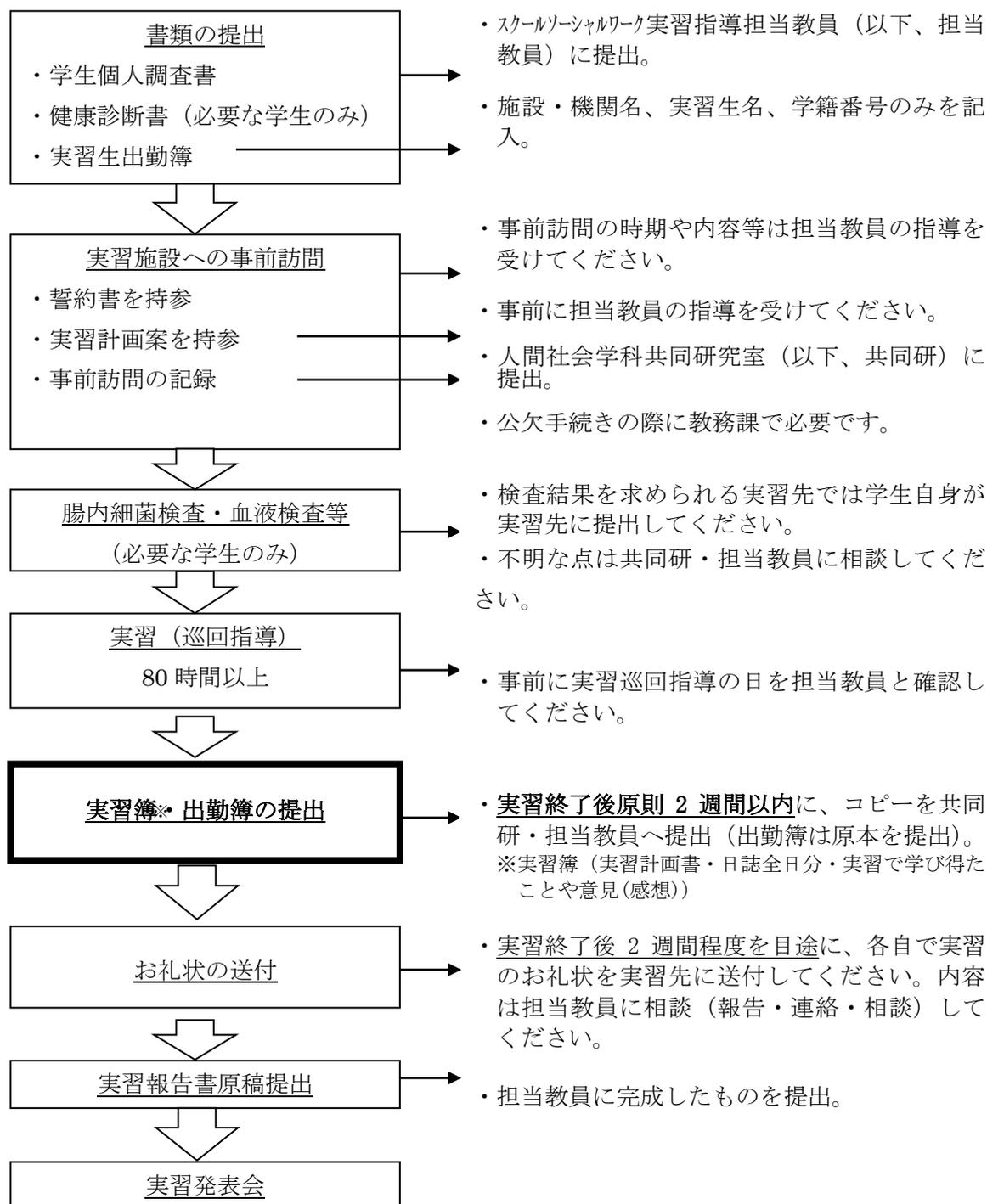
Tel・FAX： 0721-24-1042

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

I スクールソーシャルワーク実習の要領

1. スクールソーシャルワーク実習の流れ

下記は、実習がはじまる学生の大まかなスケジュールです。学生によって実習がスタートする時期、そして各書類の提出日等が異なりますので、必ず担当教員に確認（報告・連絡・相談）をしてください。



2. 実習の前提と心構え

社会福祉士国家資格受験資格取得に必須の「ソーシャルワーク実習」を3年次までに修了し、所定の課程科目を修得していることが条件となります。また、社会研究実習（2年次）、ソーシャルワーク実習（3年次）を踏まえて考えると3段階目の実習にも位置づけられます。いずれにしても社会福祉士国家資格にオプションとされるものであり、かつ教育の現場に特化したソーシャルワーク実習ですので、各自、しっかりと自覚をもって取り組んでください。

3. SSW 実習関連科目の評価について

実習関連科目の評価については、出席状況、授業・実習への参加態度、課題の提出、実習巡回指導、実習帰校日指導、実習先からの評価、実習簿の提出、実習報告書の提出、実習発表会での報告を総合的に評価します。実習関連科目については、実習と実習指導をあわせて実施しなければなりません。

① 出席について

実習関連科目の授業には、すべて出席することが前提となっています。欠席する場合、必ず担当教員に連絡してください。

但し、病気（*場合によっては診断書の提出が必要）などやむを得ない事情のときは、必ず事前に担当教員に相談をしてください。

② 提出物について

提出物、レポート等の課題、実習簿（コピー）、実習報告書などは、提出期限を厳守してください。

③ 実習の取り止めについて

出席不足や提出物の未提出以外にも、学生本人の不真面目な態度等により実習教育を効果的に受けることができない状況になった場合は、実習を取り止めにすることがあります。

④ 授業期間中の実習について

実習の日程が授業期間にある場合、欠席届に実習期間中であることを明記して科目担当教員及び教務課に提出してください。

4. 事前訪問について【参考】

① 事前訪問の準備

・担当教員と時期を相談の上、実習先に連絡します。

《例》☎「大阪大谷大学〇回生〇〇と申します。〇月からの実習でお世話になります。事前訪問の日程のことでお電話いたしました。担当の〇〇様（実習ご担当者様）をお願いいたします。」

↓担当者と電話

☎「大阪大谷大学実習生代表の〇〇と申します。このたび実習生〇名がお世話になります。事前訪問の日程のご相談でお電話いたしました。」

↓ ※上記調整の際、日時・場所・事前訪問時に持参するもの（実際に活動する場合の着替え、履物）等を確認して下さい。

☎「ありがとうございました。では、〇月〇日〇時にお伺いいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。」

- ・事前訪問の日時決定後、担当の教員と共同研の両方へ連絡して下さい。
- ・事前訪問の前日、訪問の確認をかねて担当者へご挨拶のお電話を入れると丁寧です。

② 事前訪問当日

- ・「実習計画案」を担当者へ提出し、内容について相談してください。
- ・事前訪問時に「事前訪問の記録」に沿って記入してください。
- ・実習先から書類（レポート課題・腸内細菌検査・感染症の抗体検査など）の提出を指示された場合は、提出日を確認して各自で必ず提出して下さい。

③ 事前訪問後

- ・事前訪問終了後、各自が社会福祉実習指導室へ「事前訪問の記録」を1週間以内に提出して下さい。

※事前訪問の当日に授業を欠席する場合「事前訪問証明書」が必要です。証明書の項目①～⑥を実習生が記入し、施設・機関担当者の方に署名・捺印をお願いして下さい。

1週間以内に教務課資格係へ証明書を提出し、公欠証明の交付を受け、欠席授業担当教員へ提出して下さい。

わからないことがあれば、担当教員または共同研に相談してください。

5. 健康診断書と腸内細菌及び感染症抗体検査・予防接種について

①健康診断書

提出を必須としている場合は提出してください。また大学の健康診断を受診した学生は、それを利用することで可能です。大学の健康診断を受診していない学生は、病院等で健康診断を受け、診断書を発行してもらう必要がありますので、担当教員・共同研に相談してください。

②腸内細菌検査

- ・実習先によっては、腸内細菌検査が必要な場合もあります。実習先の指示に従って検査項目を確認し、検査を受けてください。
- ・検査の結果については、各自で提出期限までに実習先へ提出してください。
- ・腸内検査が必要にもかかわらず未提出の場合、検査結果が陽性だった場合、実習取り止めとなる

る場合があります。

③感染症の抗体検査、予防接種

下記の感染症について「抗体の有無」及び「予防接種」の確認が必要な場合があります（実習先によって項目を指定される場合があります）。集団感染予防対策は施設利用者やその家族への感染拡大の防止、実習生の安全管理の面からも大変重要です。抗体検査・予防接種など何らかの証明が提出されない場合、実習の受け入れを取り消されることも考えられますので注意して下さい。詳細は担当教員・共同研に必ず相談して下さい。

【対象感染症】

麻疹（はしか）	※ 罹患の場合やすでに抗体検査・予防接種を受けている人は、それを証明できるもの（母子手帳など）を保健室に提出して下さい。それ以外の学生はかかりつけの医療機関に相談して下さい。
風疹（通称3日はしか）	
水痘（水ぼうそう）	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	

抗体確認検査（料金は各医療機関にて要確認）で抗体がない場合は、各自予防接種（料金は各医療機関や自治体にて要確認）が必要となります。上記4つ（または実習先の指定する項目）の抗体が全く無い場合、すべての予防接種を済ませるために数ヶ月かかることもあります。各自計画を立て、実習前までに済ませるようにして下さい。以下は医療機関にかかる場合の流れです。

- ①まずは、かかりつけの医療機関などに相談することをお勧めします。
- ②医療機関の指示にしたがって抗体検査・予防接種を受けるようにして下さい。
- ③医療機関から証明となる書類を受け取り、保健室へ提出して下さい。（抗体検査の結果・予防接種を受けたことが分かる書類など。）

なお、不明な点、その他質問等がある場合は、実習室に来てください。

6. 実習にかかる費用について

実習費について

費用：『履修マニュアル』に当該学年の費用が記載されています。それに準じて、担当教員・共同研の指示に従って必要な費用を納入してください。

実習にかかる経費について

「実習費」とは別に、実習施設への交通費、施設が提供する食事代、宿泊代などは自己負担となります。実習先ごとに必要な経費の内容は異なりますので、事前訪問時に必ず確認して下さい。

7. 実習中の交通手段について

- ・ 実習先への移動手段は、原則として公共交通機関または自転車を利用することとします。車

またはバイクなどの使用は認めません。

- ・ 実習施設までの通勤途中の事故については、入学時に配布された「学生教育研究災害傷害保険」の対象ではありません。「実習の手引き」に綴られている「学研災付帯賠償責任保険」は、対象となります。詳細については、まずは担当教員・共同研まで連絡してください。

8. 台風等による臨時休講について

大学の規則により、定められていますので、大学ホームページ、大学メールを適宜、各自で確認するようにしてください。また不明な点があれば、教務課まで問い合わせください。

実習時の場合は・・・

原則として、上記の規則に従ってください。ただし、実習の形態（宿泊実習、夜勤、早出、遅出）、大阪府以外の地域などによっては、この規則の想定外の場合もありますので、判断に迷う場合は、担当教員または、共同研に早めに相談して下さい。翌日に気象警報が予想される場合は、前日に実習指導者と相談してください。実習施設で定められた規則がある場合はそれに従って下さい。

警報により実習が中止となった場合は、必ず担当教員または共同研に連絡してください。

また、振り替えた実習日は決まり次第連絡してください。

9. 実習中の事故対応について

- ・ 学生は全員、学研災付帯賠償責任保険に加入しており実習も保険の対象になっています。詳細は「加入者のしおり」を読んで下さい。不明な点があれば、担当教員・共同研・学生課へ問い合わせてください。
- ・ 実習中に事故があった場合は、自分で勝手に判断をせずに、必ず担当教員または人間社会学科共同研究室に連絡をしてください。
- ・ 実習中に緊急の場合は、必ず担当教員または人間社会学科共同研究室に連絡をとり指示を仰いでください。

2023 年度

スクールソーシャルワーク実習 学生個人調査書

大阪大谷大学

ふりがな				性別		写真貼付 縦 40mm 横 30mm
氏名						
学籍番号		生年 月日	年	月	日	
現住所	〒 TEL(携帯)					
実習期間中の 連絡先	〒 TEL(携帯)					
実習先までの の 通勤ルート	自宅 →					
趣味・特技			活動内容 (クラブ活動、ボランティア、アルバイトなど)			
専門演習 研究テーマ						
履修した 科目 履修済—○ 履修中—△						
将来希望する 分野・職業						
担当教員	Ⓜ		連絡先	心理・福祉学科共同研究室 TEL:0721-24-1042		
備考						

※ 個人調査書につきましては、実習終了後、実習生或いは心理・福祉学科共同研究室へご返却をお願い致します

大阪大谷大学 スクールソーシャルワーク実習 実習計画書

氏名		学籍番号
実習校		
実習期間		
スクールソーシャルワーク実習の動機と目的		
自己の実習テーマ		
実習テーマに対する事前準備		
実習を通して学びたいこと		
学ぶための具体的方法		

実 習 生 出 勤 簿

施設・機関名

実 習 生 名

学 籍 番 号

	実 習 日 時	実 習 時 間	実習生印	実習指導者印
		時 分		
1	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
2	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
3	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
4	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
5	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
6	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
7	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
8	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
9	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
10	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
11	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
12	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
13	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
14	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
15	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			
16	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分			

実 習 生 出 勤 簿

実 習 生 名

学 籍 番 号

No.	実 習 日 時	実 習 時 間		実習生印	実習指導者印
		時	分		
17	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
18	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
19	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
20	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
21	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
22	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
23	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
24	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
25	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
26	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
27	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
28	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
29	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
30	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
31	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
32	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分				
総 合 計 : (日数) _____ 日 (時間数) _____ 時間 _____ 分					

*合計10日間以上、80時間以上、になっているか、確認のこと。

実 習 生 出 勤 簿

*用紙が不足の場合は、追加のこと。

事前訪問の記録 (訪問後、教員へ連絡のうえ提出のこと)

学籍番号 _____ 氏名 _____ 訪問日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 () _____ 時 _____ 分 ~

実習先・施設名		施設長名： 実習指導者名：
実習期間	年 _____ 月 _____ 日 () ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日 ()	日間
実習形態	a. 宿泊 b. 通勤 c. その他 (_____)	
実習前ボランティア等	あり (日時： _____ 、 _____ 日間) ・ なし	
連絡係となる代表学生 氏名：		

事前訪問の指導内容まとめ		
(1) 予め準備すべき物持ち物、服装など		
(2) 実習に伴う食事・宿泊代等 (実習費とは別にかかる費用)	内訳：	総計： _____ 円
	納入方法：	期限： _____
(3) 各種検査 ※必要な検査項目に○を付けて下さい	①腸内検査	赤痢菌 ・ サルモネラ菌 ・ O-157 ・ 腸パラ菌 ・ 蟻虫検査 その他 (_____) 提出期限： _____
	②その他	 提出期限： _____
(4) 実習先・施設からの課題内容 (レポート・調査書等)	実習前	
	実習後	
(5) 施設の方針および、実習生として特に留意すべき事柄		
備考		

誓 約 書

様

このたび、貴施設・機関において実習させていただくにあたり、次の事項を遵守することを誓約いたします。

記

1. 貴施設・機関の規則及び指示に従い、実習すること。
2. 実習で知り得た秘密は、決して他に漏らさないこと。
3. 実習中の事故の防止に十分注意すること。

以上

年 月 日

大阪大谷大学
人間社会学部心理・福祉学科 年

実習生 _____ (印)

NO	施設種別	実習先名称	所在地	受入可能人数
1	小学校 教育委員会	富田林市教育委員会	大阪府富田林市常盤町1-1	2
2	小学校	大阪狭山市立東小学校	大阪狭山市狭山3丁目2497-1	2
3	小学校	大阪狭山市立西小学校	大阪狭山市今熊1丁目22	2
4	小学校	大阪狭山市立南第一小学校	大阪狭山市西山台3丁目2-1	2
5	教育委員会	河内長野市教育委員会	大阪府河内長野市原町1丁目1-1	2
6	教育委員会	岸和田市教育委員会	大阪府岸和田市岸城町7-1	2

【資料 10 実習指定施設等の概要】

別添資料として、【資料 9 スクールソーシャルワーク実習施設一覧】の実習施設の概要 6 枚を添付した。

	実 習 先	概要	実習のテーマ・内容 受け入れの可否、状況	所在地（連絡先）	受入可能 人数
1	特定非営利活動法人 長野総合スポーツクラブ	幼児・児童を対象とした各種 体育教室及びキャンプなどの イベントを実施している団体	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日クラスへの参加が必須である。 ・加えて、週末のイベント参加が望ましい。 	大阪府河内長野市西代町14-1	5名程度
2	特定非営利活動法人 アスロンジュニア・ス ポーツクラブ	幼児・児童を対象とした各種 体育教室及びキャンプなどの イベントを実施している団体	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇中イベントへの参加は必須である。 ・加えて、土曜日クラスへの参加を推奨する。 	兵庫県芦屋市楠町11-17	5名程度
4	特定非営利活動法人 み・らいず 2	障がい者・不登校児サポートか らまちづくりまでは幅広く活 躍する団体	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局業務から現場（障がい者支援、不登校 児支援、まちづくり等）まで幅広く体験する 事ができる。 ・実習先と関連が深い科目として、「教育心理 学」「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」を前期中に受講 することを推奨する。 	大阪市住之江区南加賀屋 4-4-19	5名
5	子育てサロンぼちぼち	民間学童保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先と関連が深い科目として、「教育心理 学」「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」を前期中に受講 することを推奨する。 	〒583-0861 羽曳野市西浦 3-9-1	5名程度

	実 習 先	概要	実習のテーマ・内容 受け入れの可否、状況	所在地（連絡先）	受入可能 人数
6	カノンの扉	認知症高齢者グループホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者のグループホームでの実習を行う。 ・認知症高齢者とのコミュニケーション、介助を通して、社会福祉学、臨床心理学関連領域の現場を体験することができる。 ・学びを深めるために、関連の深い科目である「社会福祉論」「高齢者福祉論」「福祉心理学Ⅰ・Ⅱ」などを受講している、または今後、受講することを推奨する。 	奈良県生駒郡斑鳩町阿波 3-11-6	若干名
7	少年サポートセンター	非行少年及び不良行為少年が再非行を犯さないような居場所づくりを行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の少年に応じた支援活動の実施。（料理教室・スポーツ活動・ハンドクラフト・音楽活動など） ・教育・司法系の専門職を考えている学生にとって、関連領域の現場を経験する良い機会である。 ・実習先と関連が深い科目として、「教育心理学」「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」を前期中に受講することを推奨する。 	富田林市寿町 2-6-1 (他、複数の市に存在)	若干名
8	ふおれすときっず	民間学童保育施設	小学校と家庭以外に、子どもたちの居場所をつくり、地域で子どもを育てていくことをめざしている。子どもの学習に寄り添うだけでなく、おもいきり子どもと遊ぶことを楽しむことが望ましい。楽しそうな大人子どもに見せることで、「大人になりたくない」という子どもたちを変えたいという趣旨である。	藤井寺市小山 1-8-14 http://forestkids.net/	若干名（同時に実習できるのは2名まで）
9	ふらっとスペース金剛	富田林市・千早赤阪村・太子町からの委託を受けて、子育て支援事業等を行う団体	子どもとべったりの生活から飛び出して、仲間をつくりたい、色々な人と情報交換をしたい、たまにはほっと一息つける時間がほしい、子育ての情報を教えてくれる場がほしい等の声を実現するために開設され、子どもと親の成長を一緒に見守る。	大阪府富田林市寺池台1丁目13-31 https://www.furatto.com	若干名 (人数制限あり)

	実 習 先	概要	実習のテーマ・内容 受け入れの可否、状況	所在地（連絡先）	受入可能 人数
10	金剛病院	富田林市の病院（内科、神経内科、整形外科、外科、肛門外科、リハビリテーション科）	医療事務の実習である。	富田林市寿町 1-6-10 http://www.kongoubyouin.com/hospital/	2名
11	かつら屋	和菓子製造メーカー ※工場内での和菓子仕上げ作業などと販売店舗での接客や運営方法を学ぶ	盆または彼岸の頃の実習となる。	〒584-0013 富田林市桜井町 1-2-37	2名まで
12	富田林市立錦郡幼稚園	体育補助 運動会の準備と当日の運営補助	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時期は9～10月 ・6月下旬に先方と面接を行い、合格後、日程調整を行う。 	〒584-0067 富田林市錦織南 1-2-10	1～2名
13	富田林市人権協議会	富田林市役所と協力して部落差別解消をはじめとした人権問題の解決に向け施策を実施している団体。実習を通じて人権の重要さとそれを守るための活動内容を学ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時期・時間は調整する。 ・実習内容として、事務全般、人権学習補助、配食サービス等福祉事業補助、 ・地域イベント等の補助、地域活動の補助等を予定。 ・「子どもモザイクキャンプ」への積極参加を期待する。 ・人権問題に関心があり、活動的な学生を歓迎する。 	〒584-0024 富田林市若松町1丁目 9-12 富田林市人権文化センター内	2名 希望者には 面接

	実 習 先	概要	実習のテーマ・内容 受け入れの可否、状況	所在地（連絡先）	受入可能 人数
14	とんだばやし国際交流 協会	富田林市の国際交流・多文化 共生団体。実習をつうじて、 異なる文化を持つ人とのかわり がときに困難であるが、 楽しく意義深いことを学ぶこ とができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の実習内容としては、協会の活動を理解するために幅広く協会業務を経験するとともに、①協会のファンドレイジングに関する企画提案、②富田林市多文化共生推進指針を中高生にも分かりやすく解説する授業案作成・授業実施なども考えられる。 ・時期はそれぞれの事情にあわせることが可能である。 	〒584-0036 富田林甲田1-4-31 http://www4.kcn.ne.jp/^ticc/	若干名
15	国際ワークキャンプ	日本国内の地域で2週間程 度、海外から来たボランティア たちと共同生活をし、山の 掃除をしたり、農作業に従事 したり、イベントの手伝いな どを行ったりする団体（詳しく はNICEホームページを参照 のこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・NICEという東京のNPOが主催する国際ワークキャンプ。基本、外国人（日本語は話せない）と日本人でチームを組み、8月後半の2週間程度、活動する。 ・参加には3万円程度の参加費・宿泊費と現地までの交通費が必要である。 ・今の時点での語学力は問わないが、①外国人とのコミュニケーションを積極的に行うという態度を持っていること、②彼らとの2週間の共同生活（自炊。食料は地元の農家から基本的に無料で供与される。自宅からの通いなどは認められない）に耐えられることが条件である。 ・事前に1泊2日のプレワークキャンプに参加して、目標を立てたり、ルールを学んだりすることができる。場所は関西圏（富田林市内や京都・宇治市内）で、交通費の負担が求められる。 ・自身で申し込むことになるので、NICEのホームページならびに活動先情報をよく理解し活動先を選定すること。 	大阪市港区弁天4-5-21 benten LAND	NICEによって セレクション される
16	社会福祉施設：児童 館、高齢者デイサービ ス、放課後等デイサー ビス、障害福祉サービ ス事業所	社会福祉施設等における実 習。利用児・者とのコミュニ ケーション、レクリエーショ ン、介助業務補助等、職員の 指導の下で社会福祉の現場を 体験的に学ぶことができる。 それぞれの実習課題・目的に 応じて実習を進めていく。	前年度に説明会を実施し、希望者には履修面談を受けてもらう。面談内容を受けて、担当者が実習先と実習期間の調整を行う。面談後に実習先調整を行うため、面談未実施者は履修を認めない。実習先によっては、40時間以上の実習時間設定となる場合がある。	富田林市、河内長野市、大阪市等	合計10名程度

	実 習 先	概要	実習のテーマ・内容 受け入れの可否、状況	所在地（連絡先）	受入可能 人数
17	株式会社笑	ファイナンシャル・プランナー（FP）事務所	本学非常勤講師の事務所で、ファイナンシャルプランナーを、資料準備や調査を通じて支援し、実際のFP業務を学ぶことができる。	大阪市西区北堀江1-17-18 堀江パールマンション	若干名 (人数制限あり)
18	飛多朋子税理士事務所	税理士事務所	本学非常勤講師の事務所で、仕訳作業や決算業務などで税理士業務を補助し、簿記科目で学ぶ内容を実地で体験する。	大阪市北区天満1-6-8 六甲天満ビル9F	若干名 (人数制限あり)

大阪大谷大学・大学院定年規程

(昭和 47 年 4 月 1 日 制定)

(目的)

第 1 条 この規定は大阪大谷大学・大学院に勤務する職員（教育職員・事務職員・技術職員）の定年に関する事項を定めたものである。

(定義)

第 2 条 定年とは定められた年令に達することによって、職員としての身分を失う年令をいう。

(定年)

第 3 条 職員の定年は満 65 歳とする。

2 第 1 項に規定する職員の退職時期は、満 65 歳に達する日（誕生日の前日）の属する年度末の 3 月 31 日とする。

(特別任用者)

第 4 条 学園の運営上、理事長が特に必要と認めた場合、学長及び学長代行については特別任用者として、前条第 1 項に規定する年限を超えて再任用することができる。ただし、上記の再任用にあたっては、1 年毎に契約を更新するものとする。

附 則

この規程は、昭和 47 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 51 年 3 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、昭和 61 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 2 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 5 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 8 年 8 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から改正施行する

心理・福祉学科関連学術雑誌リスト

	書名	出版者
1	Journal of health psychology research	日本健康心理学会
2	理科教室 = The journal of science education	本の泉社
3	食べもの文化	芽ばえ社
4	判例時報	判例時報社
5	げ・ん・き	エイデル研究所
6	社会科教育	明治図書出版
7	教育科学. 国語教育	明治図書出版
8	教育科学. 社会科教育	明治図書出版
9	日本児童文学	日本児童文学者協会
10	月刊家庭科研究	芽ばえ社
11	月刊福祉	全国社会福祉協議会
12	体育科教育	大修館書店
13	英語教育 = The English teachers' magazine	大修館書店
14	教育委員会月報	第一法規
15	総合教育技術	小学館
16	特別支援教育の実践情報	明治図書出版
17	臨床心理学	金剛出版
18	思想	岩波書店
19	生活指導	全国生活指導研究協議会
20	季刊福祉労働 : 障害者・保育・教育の総合誌	現代書館
21	部落解放研究	部落解放研究所
22	ジュリスト	有斐閣
23	法律時報	日本評論社
24	初等教育資料	東洋館出版社
25	特別支援教育研究	東洋館出版社
26	季刊教育法	エイデル研究所
27	LD, ADHD & ASD : 多様な学びを支える	明治図書出版
28	社会教育 / 社会教育研究会	一般財団法人日本青年館
29	情報の科学と技術	情報科学技術協会
30	たのしい授業	仮説社
31	新しい算数研究	東洋館出版社
32	日本教育新聞	日本教育新聞社
33	週刊社会保障	社会保険法規研究会
34	児童青年精神医学とその近接領域	児童青年精神医学とその近接領域編集部
35	国語と國文學	至文堂
36	栄養と料理	女子栄養大学出版部
37	体力科学	日本体力医学会
38	日本文学	日本文学協會
39	教育	旬報社
40	化学	化学社
41	食品と科学	食品と科学社
42	日本の学童ほいく	全国学童保育連絡協議会
43	こころの科学 = Human mind	日本評論社
44	スポーツ社会学研究	日本スポーツ社会学会
45	Newton : graphic science magazine	ニュートンプレス
46	現代思想	青土社
47	中等教育資料	学事出版
48	教育と医学	慶應義塾大学出版
49	異文化間教育	アカデミア出版会
50	日本語の研究	日本語学会
51	ソーシャルワーク研究 : 社会福祉実践の総合研究誌	相川書房
52	臨床栄養	醫歯薬出版
53	社会福祉研究	鉄道弘済会福祉センター弘済会館
54	発達	ミネルヴァ書房
55	障害者問題研究	全国障害者問題研究会出版部
56	アジア経済	アジア経済研究所

心理・福祉学科関連学術雑誌リスト

57	日本教育工学雑誌	日本教育工学雑誌刊行会
58	臨床心理学増刊	金剛出版
59	実践みんなの特別支援教育	学研教育みらい
60	教育音楽. 小学版	音楽之友社
61	教育美術	教育美術振興會
62	厚生の指標	厚生労働統計協会
63	保育の友	全国社会福祉協議会
64	生活と福祉	[全国社会福祉協議会]
65	保育情報	全国保育団体連絡会
66	内外教育	時事通信社
67	心理学評論	京都大学心理学評論刊行会
68	食品表示マニュアル	中央法規出版
69	教員免許ハンドブック	第一法規出版
70	発達障害研究	日本文化科学社
71	社会臨床雑誌	日本社会臨床学会
72	すべての人の社会 : 障害者基本計画&アジア太平洋障害者の十年推進のための情報誌	日本障害者リハビリテーション協会
73	切抜き速報. 保育と幼児教育版	ニホン・ミック
74	切抜き速報. 食と生活版	ニホン・ミック
75	切抜き速報. 教育版	ニホン・ミック
76	日本の社会教育	国土社
77	小児保健研究	日本小児保健協会
78	福祉新聞	社会福祉新聞社
79	食品衛生研究	日本食品衛生協会
80	生活文化史	雄山閣出版
81	犯罪心理学研究	日本犯罪心理学会
82	季刊forum教育と文化	労働教育センター
83	月刊実践障害児教育	学研教育みらい
84	眞宗研究 : 眞宗連合學會研究紀要	眞宗連合学会
85	心理學研究	日本心理学会
86	小児の精神と神経	日本小児精神神経学会
87	教育學術新聞	教育學術新聞
88	心理臨床の広場 : forum: a clinical psychology magazine	日本心理臨床学会
89	消費と生活	消費経済公論社
90	親鸞教学	[大谷大学眞宗学会]
91	The community : コミュニティ	地域社会研究所
92	社会教育学研究	日本社会教育学会
93	教育行財政研究	関西教育行政学会
94	心身健康科学	日本心身健康科学会
95	教育研究 = The bulletin of education	大阪大谷大学教育学会
96	特殊教育学研究	日本特殊教育学会
97	教育心理学研究	国土社
98	実験社会心理学研究	日本グループ・ダイナミックス学会
99	教育心理学年報	国土社
100	食生活研究	食生活研究会
101	情報処理	情報処理学会
102	ムジカノーヴァ	音楽之友社
103	日経ヘルス = health	日経BP社
104	Harvard business review : Diamondハーバード・ビジネス・レビュー	Harvard business review : Diamond
105	The big issue Japan = ビッグイシュー日本版	ビッグイシュー日本
106	国語教育相談室. 小学校	光村図書出版
107	国語教育相談室. 中学校	光村図書出版
108	美術準備室 : つくる・みる・感じとる	光村図書出版
109	英語教育相談室 = Mitsumura English teachers' resources COLUMBUS 21	光村図書出版
110	道徳科通信 : きみがいちばんひかるとき	光村図書出版
111	せいかつ探検隊	光村図書出版
112	こころの科学増刊	日本評論社
113	統合失調症のひろば : hiroba	日本評論社

心理・福祉学科関連学術雑誌リスト

114	そだちの科学 : sodachi no kagaku	日本評論社
115	Synapse : 教員を育て磨く専門誌 (シナプス)	ジダイ社
116	日経メディカル	日経BP社
117	日経サイエンス : Scientific American日本版	日経サイエンス社
118	日経PC21 : 日経ピーシー21	日経BP社
119	Posture (ポスチャー) : しせいと生活	姿勢研究所
120	臨床心理学研究	日本臨床心理学会
121	臨床心理	臨床心理学者協会
122	心理研究	心理學研究會
123	体育學研究	日本体育學會
124	East Asian review	Asian Research Institute, Osaka University of Economics and Law
125	Journal of the School of Liberal Arts : JSLA	the School of Liberal Arts, Ohkagakuen University
126	Journal of cultural interaction in East Asia	Society for Cultural Interaction in East Asia
127	Biological & pharmaceutical bulletin	Pharmaceutical Society of Japan
128	New England journal of medicine	Massachusetts Medical Society
129	The Josai journal of business administration	Division of Business Administration School of Graduate Studies, Josai University

学生の確保の見通し等を記載した書類

【目次】

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア	設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	p.2
イ	地域・社会的動向等の現状把握・分析	p.2
ウ	新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	p.2
エ	学生確保の見通し	p.4
A.	学生確保の見通しの調査結果	p.4
B.	新設学部等の分野の動向	p.4
C.	中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	p.5
D.	競合校の状況	p.5
E.	既設学部等の学生確保の状況	p.5
F.	その他、申請者において検討・分析した事項	p.6
オ	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p.6

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） p.7
- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 p.8

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

過去 5 年間の定員、入学者数は【資料 1】に示されているとおりである。この間、平成 30 年度、令和 2 年度においては、全ての学部学科において定員充足率 100%を満たしていた。しかし、令和元年度入試においては、薬学部薬学科、令和 3 年度入試においては、教育学部教育学科、薬学部薬学科、令和 4 年度入試においては、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、人間社会学部スポーツ健康学科、薬学部薬学科が定員充足率 100%に満たなかった。全学部が入学定員を充足していたのは、令和 2 年度のみであり、令和 4 年度においては文学部のみが入学定員を充足した状況であった。これら志願者等の減少の主な要因は、18 歳人口や浪人生の減少、大規模大学を中心とする入学定員厳格化による定員管理がほぼ完了した影響を受けたと考えられる。18 歳人口の減少については、文部科学省・中央教育審議会の答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（以下「グランドデザイン（答申）」という。）においても、18 歳人口は、平成 21 年～令和 2 年頃までほぼ横ばいの 120 万人前後で推移しているが、令和 3 年頃から再び減少局面に突入し、2040 年には約 88 万人まで減少することが予測されている。また、浪人生の減少としては、令和 2 年度を境とした入試制度改革やコロナ禍による経済状況の悪化などが影響していると思われる。さらに、入学定員の厳格化については、平成 28 年度入試から始まった私立大学の定員管理厳格化による定員調整が各大学でほぼ完了したことを意味しており、社会的な背景が大きく関わっていると考えられる。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

ここ数年の大学志願者の動向は急激に変化している。特に、令和 2 年度の入試制度改革を境に、その状況が一変していることは周知の事実であるが、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」において、本学が設置を検討している心理・福祉学科と同系統の学部である、心理学部、社会福祉学部の志願者の動向により、定員充足は可能であると考えている【資料 2】。

心理学部については、入学定員は、平成 30 年度から令和 4 年度までに 805 名増加した。志願者数も、一時的に令和 3 年度は、入試制度改革の影響を受けたものの、令和 4 年度には、増加に転じ、結果的に平成 30 年度から令和 4 年度までに 5,233 名増加した。また、入学者数も志願者数同様に安定しており、直近 5 年のデータでは、入学定員充足率が 100%を下回ることなく推移している。

他方、社会福祉学部については、入試制度改革以前の令和 2 年度をピークに、志願者数、入学者数ともに減少傾向となっているが、本学が設置する学科は、心理学科と社会福祉学科の要素を兼ね備えた心理・福祉学科であることから、両学部の動向を総合的に判断する必要があると考えている。その結果、令和 3 年度以降は、入学定員充足率 100%を若干下回っているが、入学定員、志願者数、入学者数のいずれも増加に転じていることから、心理・福祉学科としては、定員充足は可能であると考えている。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

心理・福祉学科の設置の必要性としては、第一に、昨今の社会的変化から生じる必要性である。日本社会は、2000 年代前後、グローバル化に伴う激しい国際競争の下、雇用の非正規化が進み、(子ども

もを含む) 貧困の顕在化が指摘されるようになってきた。また、人口の減少や高齢化もあり、地域社会の弱体化や人間関係の希薄化、個人の孤立化も加速的に進行するようになってきている。こうした構造的な課題の上に、現在、新型コロナウイルスの流行や、ロシアによるウクライナ侵攻という地政学的危機、デジタルトランスフォーメーションといった諸要因が複雑に絡み合い、人々の生活のさらなる不安定化、それゆえに、メンタルヘルスや社会福祉上の課題の広範化と深刻化が生起している。今後は、より多くの、専門性の高い心理・福祉人材を輩出する必要がある。

第二に、専門性の高い心理・福祉人材のニーズの増加を反映し、心理・福祉人材に求められる学際性の再考とそれを踏まえたカリキュラムを有する学科設置の必要性である。心理・福祉学科の基礎となる人間社会学科は、心理コースや社会福祉コースのほか、社会科学系のコースを有し、これらのコースが連携して学際性あるカリキュラムを提供してきた。しかし、人間社会学科の心理コース・社会福祉コースで学んできた学生による学びは、実際には学際性において一定の制約があった。具体的に言えば、公認心理師や社会福祉士の養成課程として求められる専門教育がボリュームを増す一方で、学際的な学びに関する科目の履修はアトランダムなものになりがちであった。今後は、心理学や社会福祉学を学ぶ学生が得るべき社会科学的知識・スキルを精査し、より系統的な学際性を念頭においたカリキュラムを有する学科の設置が求められている。

第三に、学生ニーズの多様性に対する、より制度化された対応の必要性である。人間社会学科のこれまでの経験によると、心理コース・社会福祉コースの学生が志望する進路は多様である。いずれのコースに所属する学生も、それぞれの分野の専門職として就職を志す者が一定数いる一方、一般企業への就職を志望する者も少なくない。そのため、今後は、心理学や社会福祉学の専門的知見が専門職以外の職業に就く学生にとってどのような付加価値をもたらすのかを踏まえ、非専門職志望の学生に向けた心理学・社会福祉学の専門教育カリキュラムを整備し、それに基づき学習機会を提供することが必要である。

心理・福祉学科の定員設定については、令和3年度までの実績を基に、人間社会学科の心理コース、社会福祉コースの平成29年度～令和3年度(過去5年間)の入学時調査(54.0名)や2年次選択(40.4名)の際の平均値、令和3年度の入学時調査(51名)や2年次選択(48名)等数値を総合的に判断し50名に設定した【資料3】。しかし、令和4年度では、大学及び人間社会学科でも大きく志願者等を減らす結果となり、定員50名の確保が困難な状況と思われたが、単年度の結果であることも踏まえ、新学科設置におけるPR強化及び後述する「大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』受容性調査結果報告書(高校生)」(以下「心理・福祉学科の受容性調査(高校生)」という。)の結果からも、定員設定は妥当であると考えている。

学生納付金については、入学金を320,000円、授業料を910,000円、その他納付金(本学の施設費)を200,000円と設定し、初年度学生納付金の合計を1,430,000円、2年次以降の合計を1,110,000円とした。これは、人間社会学部人間社会学科と同額である。

学生納付金の設定にあたっては、人間社会学部心理・福祉学科における教育研究の実現と大学の健全な運営を継続することを観点に設定している。本学科が競合すると考えられる、近隣競合校の学生納付金と比較してもほぼ同水準の金額となっており合理的な金額設定であると考えている。また、「心理・福祉学科の受容性調査(高校生)」において、本学の学生納付金を「調査票」に明示しているが、調査結果のとおり、入学意向を示す高校生が多数いることから、本学が設定している学生納付金は、

妥当な範囲であると判断している【資料4】。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

人間社会学部心理・福祉学科の設置構想に基づき、第三者機関である「株式会社アンド・ディ」への委託による「心理・福祉学科の受容性調査（高校生）」を実施した【資料5】。

調査対象は、大阪府、奈良県、和歌山県の高等学校30校の合計2,779名であり、「心理・福祉学科の受容性調査（高校生）」は、心理・福祉学科の開設年度である令和6年度に大学1年生となる令和4年度時点での高校2年生を対象としている。調査方法は、調査対象校に事前に調査協力を依頼し、承諾を得た対象校へ調査票を送付。ホームルームなど教室で配布・回収を行った。調査結果については、①大学への進学希望者は、2,004名（全体の72.1%）、②①のうち、学科の関連分野に興味のある者は、1,263名（全体の45.4%）、③②のうち、受験意向者は、360名（全体の13.0%）、④③のうち、入学意向者は、130名（全体の4.7%）であり、入学定員50名を大きく上回る結果（入学定員の2.60倍）となっている。調査結果からも定員充足は十分に見込めると判断している。

他方、本学4学部のうち、薬学部を除く文学部、教育学部、人間社会学部の3学部で外国人留学生入試を実施している。令和4年度入試における入学者は、文学部日本語日本文学科の1名のみである。また、令和4年5月1日現在における人間社会学部の外国人留学生の在籍者数は3名、大学全体でも9名となっている。本学の志願者の殆どが、国内の高校生であることから外国人留学生の受け入れ状況が心理・福祉学科の定員充足に与える影響は少ないと考える。

B. 新設学部等の分野の動向

本学と立地条件が近く、心理・福祉学科と同分野である心理系及び社会福祉系学科を設置する近隣大学の過去3年間の入試状況は【資料6】に示されているとおりである。

心理系の学科については、追手門学院大学を除いては、全体的に志願者の減少傾向が見られるが、定員を充足している、または、定員充足に近い数値を維持している。また、直近の近隣大学5校の志願者合計6,036名に対し、入学者が598名であることから、18歳人口の減少等が進む中でも、近隣地域における心理系学科の需要が存在することを示している。

他方、社会福祉系の学科については、全国的な動向でも明らかなように、令和2年度を境に、志願者数、入学者数ともに減少傾向となっている。直近の近隣大学4校でも志願者合計623名に対し、入学者が295名であるが、本学が設置する学科は、心理学科と社会福祉学科の要素を兼ね備えた学科であることから、近隣大学における両学科の動向を総合的に判断した結果、心理・福祉学科としては、定員充足が可能であると考えている。

なお、前述の(1)のイ地域・社会的動向等の現状把握・分析の項で示した日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」の直近の入学定員充足率は、心理学部が約1.06倍、社会福祉学部が約0.85倍であり、いずれも近隣大学の方が上回っている。

C.中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

グランドデザイン（答申）によると、2040年の大学進学者は、51万人に減少し、2017年の63万人からは、約80%（12万人減少）の規模になると推計されている。本学が立地する大阪府においては、2017年の18歳人口85,687人、大学進学者数47,347人に対し、2040年の推計では、18歳人口が、58,280人（▲27,407人：68.0%）、大学進学者数が、34,683人（▲12,664人：73.3%）の推計となっており、2040年の大学進学者数（2017年比）は▲26.7%の推計値が出されている【資料7】。本学では、前述した長期的な18歳人口と大学進学者人口の減少予測を十分に認識した上で、「心理・福祉学科の受容性調査（高校生）」による高校生の入学意向でも明らかなように、今回設置する心理・福祉学科の中長期的な学生募集と定員充足には支障がないと判断している。

また、本学の文学部、教育学部、人間社会学部、薬学部の全ての学部で社会人入試を実施している。令和4年度入試における入学者は、0名であり、令和4年5月1日現在における人間社会学部の社会人学生の在籍者数は2名となっている。そのことから、社会人の受け入れ状況が心理・福祉学科の定員充足に与える影響は少ないと考える。

D.競合校の状況

前述、B.新設学部等の分野の動向の項で示した近隣大学の中で、主な競合校の選定を次のとおり行った。1つは、立地状況として、本学が位置するのが大阪府の東南部（富田林市）であり、大阪市以外にも、奈良県、和歌山県からも比較的アクセスがしやすいこと、本学の志願者の約6割が大阪府、次に奈良県、和歌山県と続き、3府県で約8割の志願者を確保していること等から、大阪府に加え、奈良県、和歌山県に設置されている心理系学科、社会福祉系学科も本学の競合校の対象とした。さらに、志願者層の観点として、心理・福祉学科の基礎学科である人間社会学部の偏差値の直近上位校を競合校とし、その結果、帝塚山大学心理学部心理学科と帝塚山学院大学人間科学部心理学科を心理系学科の競合校として、また、桃山学院大学社会学部ソーシャルデザイン学科と四天王寺大学人文社会学部人間福祉学科を社会福祉系学科の競合校として選定した。心理系学科の競合校2校については、志願者の減少傾向が見られるが、定員は充足している。また、直近の志願者合計1,511名に対し、入学者が265名である。

他方、社会福祉系学科の競合校2校については、全国的な動向と同様に、志願者数、入学者数ともに減少傾向となっている。直近の志願者合計は、486名に対し、入学者が157名である。両学科の動向を総合的に判断しても、心理系学科及び社会福祉系学科の志願者の受け皿として、本学の心理・福祉学科の入学定員50名は十分に需要があると考えられる。

E.既設学部等の学生確保の状況

令和2年度を境に本学の志願者等の動向は、大きく変化している【資料1】。令和2年度の志願者（2,473名）を100とした場合、令和3年度（1,628名：65.8%）、令和4年度（1,468名：59.4%）と大幅な減少となっている。また、入学定員充足率においても、令和3年度以降は未充足（令和3年度：90%、令和4年度80%）の状態が続いている。そのため、既設学科においても、コース再編や定員調整等を行い、大学全体の教育組織の改革を行うことで、学生確保に繋がりたいと考えている。

他方、心理・福祉学科の定員については、人間社会学部の心理コース、社会福祉コースにおける

平成 29 年度～令和 3 年度（過去 5 年間）の入学時調査（54.0 名）や 2 年次選択（40.4 名）の際の平均値、令和 3 年度の入学時調査（51 名）や 2 年次選択（48 名）等数値を総合的に判断し、50 名に設定した。なお、令和 4 年度では、人間社会学科でも大きく志願者等を減らす結果となり、その影響は、コース調査にそのまま反映されている【資料 3】。しかし、今回の心理コース、社会福祉コースを学科化することにより、新学科設置における PR 強化を図るため、受験生の大学情報検索サイトにおけるヒット件数の増加等が見込め、本学の心理、福祉分野に対する認知度が高まると考えている。また、「心理・福祉学科の受容性調査（高校生）」の結果において、学科化による、心理・福祉学科の関連分野への興味度の高まりも少なからず影響すると考えられ、心理・福祉学科への入学意向者が、入学定員（50 名）を大きく上回る 130 名であったことから心理・福祉学科としては、定員充足は十分可能であると考えている。

F.その他、申請者において検討・分析した事項

本学は、将来の学部・学科等の教育組織の在り方について検討するため、学長、副学長、学部長等で構成する「教育組織将来構想検討会」を設置している。本検討会では、本学の教育目的や特色、社会の変化や学生の志願動向、その他、教育組織の見直しに必要な事項について調査・検討を行うことを目的としている。心理・福祉学科の設置についても、本検討会が中心となり設置に向けた様々な検討を行った【資料 8】。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学では、学生募集の専門部署として、入試対策室を設置しており、入試対策室を中心として、本学を志望しようとする高校生・保護者をはじめ、高等学校・予備校等に対応するため、全学をあげて組織的な学生募集活動を展開している。また、学生確保に向けた主な取り組みとして、オープンキャンパスや進学相談会の開催、高校訪問等を行っている。さらに、大学ホームページ以外にも、大学案内や学部紹介のリーフレットの作成・配布、受験情報誌、受験情報 WEB サイト等の各種媒体への広報も行っている。大学全体の広報活動に加え、心理・福祉学科に特化した広報活動も新学科設置に向けて計画している。また、多様な受験生を確保するために様々な入試制度を取り入れている。

主な学生確保の取り組みの詳細は、以下のとおりである。

・オープンキャンパス

令和 4 年度は、志学台キャンパスにおいて、計 6 回（5/28、7/16、7/17、8/27、8/28、9/25）のオープンキャンパスを開催した。事前予約制で来場者が制限される中、全体で 1,261 名の参加があった。令和 5 年度についても、引き続き同等規模での開催を検討しており、積極的に心理・福祉学科の紹介を行う予定である。本学のオープンキャンパスは、各学部学科の紹介から、特長を活かした模擬授業、保護者からの要望が多い大学概要の紹介や入試説明会、学生が日常的に利用する施設を巡るキャンパスツアー、クラブ・サークル紹介まで、盛りだくさんの企画を実施している。キャンパスツアーにおいては、在学生（CREWS oh!）をガイドとすることで、本学学生と高校生が触れ合う機会を設け、本学への興味、関心を高める取り組みを行っている。

・進学相談会

近畿をはじめ、北陸・信越、東海、中国、四国、九州、沖縄の各地で開催される合同進学相談会に参加し、高校生・保護者に対して、本学の教育・研究内容の紹介や、学生生活、入試制度等について説明するとともに、心理・福祉学科の学びや魅力も伝え、大学全体として、受験生獲得に繋げる。

・高等学校の訪問

高等学校への訪問活動は、入試業務を所管する入試対策室の職員（参事）が中心となって、年間で延べ2,900校以上を訪問し、中でも近隣の高等学校には、多いところで年間5回以上訪問している。訪問した際には、入試概要、前年度の入試結果、本学の教育研究活動の取り組み等、常に最新の情報提供ができるよう努めている。また、継続的な訪問活動により、高等学校の教員との信頼関係を構築している。

・ホームページ等での情報発信

令和4年12月より、心理・福祉学科の概要を掲載した特設サイトを開設し、同学科の教育内容や特色等を広く発信している。また、大学全体としても、SNSを通じた積極的な情報発信や動画を用いることにより、紙媒体では伝えきれない大学、学部等の魅力も積極的に発信する。

・各種媒体での広報

進学情報誌や進学情報サイトに参画し、全国に向けて大学情報の発信を行っている。また、これらの媒体から資料請求してきた受験生等に対しては、大学案内のほか、オープンキャンパス等の各種イベントの案内を発送しており、令和4年度においては、令和5年1月時点で36,259名に発送している。

・多様な入試制度の提供

本学では、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜等、年間で19種類の多種・多様な入学試験を実施し、受験生に多くの選択肢が提供できるよう努めている。その中には、心理学や社会福祉学に関心が高く、高校で関連領域、近接領域を学んだ受験生を対象とした特別推薦も設定している。また、大阪府外からの受験生のための学外試験場についても、公募制推薦（前期）A日程や一般（前期）では、10会場（静岡、金沢、名古屋、京都、和歌山、神戸、岡山、広島、高松、福岡）で行う等、広い地域で多様な受験生に受験してもらえるよう利便性の確保に努めている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人間社会学部及び新設する心理・福祉学科の養成する人材像は、以下のとおりである。

【人間社会学部】

人間社会学部は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、「人と社会」の関係について科学的視点から多角的に研究教授するとともに、グローバル化や情報化の進展に伴う人および社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与する。

【心理・福祉学科】

心理・福祉学科は、人が生涯にわたり心身の及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

・社会的な人材需要

令和2年8月31日時点で、公認心理師として指定登録機関（一般財団法人日本心理研修センター）に資格登録されているのは、35,400名となっている。公認心理師の業務領域は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野及び、その他の分野（私設心理相談機関、大学等附属心理相談施設、大学・研究所など）の多様な分野で働いており、主たる活動分野としては、保健医療分野が約30%、教育分野が約29%、福祉分野が約21%の順であった。また、回答者のうち約45%は複数分野で働いており、公認心理師は多様な分野で働く専門職となっている。また、虐待、発達障害、いじめ、不登校、ひきこもり、自殺、依存・嗜癖、心的外傷後ストレス障害、高次脳機能障害といった、分野を限定しない幅広いテーマ（分野横断的テーマ）に関与した経験を有する公認心理師が一定数いることも明らかとなっている【資料9】。

公認心理師の主たる活動分野として、まず、保健医療分野では、厚生労働省の調査結果によると「精神及び行動の障害」に分類される患者数が、平成26年度523.2万人、平成29年度512.9万人、令和2年度503.1万人と減少傾向ではあるが、依然として500万人以上を維持している【資料10】。

次に、教育分野では、小学校から高等学校、特別支援学校における「いじめの認知（発生）件数」が、令和元年度612,496件、令和2年度517,163件と令和2年度に95,333件減少するが、これは、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発令に伴う減少と考えられ、令和3年度には、令和元年度を上回る、615,351件となった【資料11】。また、小学校から高等学校における児童生徒の自殺者数も、平成30年度333人、令和元年度339人、令和2年度479人と増加傾向となっている【資料12】。このような状況の中、児童生徒等の心のケア、教職員・保護者等への助言・援助等を行うための、スクールカウンセラー等の配置も増加しており、令和元年度29,411箇所、令和2年度29,643箇所、令和3年度30,681箇所（計画）に配置され、公認心理師等の心理職の需要は益々高まっている【資料13】。

福祉分野では、児童相談所における児童虐待相談件数が、令和元年度193,780件、令和2年度205,044件、令和3年度207,659件（速報値）で増加傾向となっている【資料14】。また、平成30年度には、政府より「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」が策定され、公認心理師等が任用される児童福祉司を平成29年度の3,240人から令和4年度までには、5,260人へ増員（2,020人増）、また、子どもへのカウンセリング等の充実を図るため、児童心理司を平成29年度の1,360人から

令和4年度までには、2,150人へ増員（790人増）されることとなった【資料15】。さらに、令和4年12月に開催された「児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議」において「新たな児童虐待防止対策体制総合強化プラン」も決定され、令和6年度までに児童福祉司を1,060人増員、令和8年度までに児童心理司を950人増員することなどが目標に掲げられた。

産業・労働の分野では、メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所の割合は、令和2年度7.8%、令和3年度8.8%と増加している。また、退職した労働者がいた事業所の割合は、令和2年度3.7%、令和3年度4.1%となっている。メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合は令和2年度61.4%、令和3年度59.2%であるが、メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所について、取組内容（複数回答）をみると、「ストレスチェックの実施」が最も多く、令和2年度62.7%、令和3年度65.2%となっている【資料16】。

司法・犯罪分野についても、犯罪加害者の再犯防止や犯罪被害者のケアなど、公認心理師等の心理職が活躍できる余地は十分にあると考えられる。

以上のように、心理に関する専門知識を有する心理職の重要性・必要性は年々高まっていると考えられる。

他方、社会福祉士登録者数は、社会福祉士の資格制度が始まった平成元年に100人台であったが、数年で年間1万人を超える人数となり、令和3年9月末の累計で260,518人となっている【資料17】。また、「社会福祉士及び介護福祉士法」には、社会福祉士とは「専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者」とされており、高齢者支援、障害児者支援、子ども・子育て支援、生活困窮者支援等の幅広い分野で活用されている。また、社会保障分野のみならず、教育や司法などの分野においてもその活用が期待されている。社会福祉士の就労先としては、高齢者福祉関係39.3%、障害者福祉関係17.6%、医療関係15.1%、地域福祉関係8.4%、児童・母子福祉関係8.2%となっており、施設・事業所別では、病院・診療所14.4%、介護老人福祉施設10.0%の順で割合が高かった【資料18】。

さらに、厚生労働省の資料では、2025年には高齢者数が3,657万人（全人口の約30%）におよび、2042年にピークを迎えることもわかっている。このことから、介護・医療関係の諸施設では人手不足がより深刻になるといわれており、社会福祉士の需要もより高まることが想定されている【資料19】。

高齢化社会への問題以外にも、教育現場も様々な課題を抱えている。前述の公認心理師の社会的需要でも示したように、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対して、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いた教育相談体制の整備も進められている【資料20】。

・地域的な人材需要

人間社会科学の直近5年の就職状況は、大阪府を中心として多数の求人実績がある。毎年、1万社を超える求人社数があり、本学の学生に対する地域的な人材需要が高いことが示されている。また、就職希望者に対し、実際に就職した就職者の割合（就職率）も毎年、90%を超えている。2021年度卒業生の就職実績は、卸売業、小売業29.7%、医療、福祉8.8%、製造業9.4%、建設業6.3%、

教育、学習支援事業 6.3%、その他のサービス業 6.3%、公務 6.3%など、多くの業種に就職している。さらに、人間社会学部では、学部学科独自の「キャリア開発支援室」なども設置しており、学生一人ひとりが希望の進路に進めるためのサポート体制も充実している【資料 21】。

・採用意向の調査結果による人材需要

人間社会学部心理・福祉学科の設置構想に基づき、第三者機関である「株式会社アンド・ディ」への委託による「大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』受容性調査結果報告書（企業）」を実施した【資料 22】。

調査は、本学の卒業生の採用実績のある企業等 79 社に対して、調査票を送付し、郵送で回収を行った。回答企業の所在地の殆どが大阪府である（96%）。業種は、「卸売・小売業」が 53%で最も多い。次いで「製造業」（18%）、「建設業」（10%）であった。調査結果において、心理・福祉学科の学びについて、魅力を感じる特徴としては、「ビジネスや情報など、社会科学系の科目の学習の機会がある。」がトップ（77%）であった。次いで、「実習やインターンシップの機会が多い」（63%）、「公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格の取得を目指すことができる。」（58%）であり、9 割以上の企業・団体が、本学が掲げる特徴を魅力的であると感じている。また、前述の就職実績や企業・団体が感じる、心理・福祉学科の魅力は、本学科の養成する人材像「心理・福祉学科は、人が生涯にわたり心身の及び社会的に健康で豊かな生活を送るために、心理学及び社会福祉学を通して必要な知識及び社会生活スキルを修得し、多角的視点から社会に貢献できる人材を養成する。」とも合致しており、卒業生は、多彩な知識・スキルを身につけたうえで、様々な分野で活躍できると考えている。さらに、心理・福祉学科で学んだ学生に対して採用意向ありの企業に、採用見込み人数を尋ねたところ、1 名（45%）が最も多く、以下、2 名（23%）、3 名（12%）と続き、1 社あたりの平均採用人数は、2 名、採用意向人数の合計は、130 名となり、入学定員 50 名を大きく上回る結果となった。このことから、心理・福祉学科には安定した人材需要があると考えられる。

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

- ・資料 1 大学の志願者状況等の推移
- ・資料 2 心理、社会福祉学部 志願者動向
- ・資料 3 人間社会学科コース人数
- ・資料 4 近隣の心理、社会福祉系学部の学生納付金一覧
- ・資料 5 大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』受容性調査結果報告書（高校生）
- ・資料 6 近隣大学の志願者等の推移
- ・資料 7 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（参考資料集）
- ・資料 8 教育組織将来構想検討会等における主な検討事項
- ・資料 9 「公認心理師の活動状況等に関する調査」報告書リーフレット
- ・資料 10 令和 2 年患者調査の概要（統計表）
- ・資料 11 令和 3 年度児童生徒の問題行動等に関する調査結果について
- ・資料 12 令和 2 年児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集
- ・資料 13 スクールカウンセラー等活用事業の予算額及び配置の推移
- ・資料 14 児童相談所での児童虐待相談対応数
- ・資料 15 児童虐待防止対策体制総合強化プラン
- ・資料 16 労働安全衛生調査（実態調査）
- ・資料 17 社会福祉士の登録者数の推移
- ・資料 18 令和 2 年度社会福祉士就労状況調査
- ・資料 19 今後の高齢者人口の見通しについて
- ・資料 20 スクールソーシャルワーカー活用事業
- ・資料 21 就職の状況
- ・資料 22 大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』受容性調査結果報告書（企業）

大学の志願者状況等の推移

学部 学科	入学 定員	項目	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
文学部 日本語 日本文学科	50	志願者数	241	236	280	179	137
		合格者数	84	108	97	77	100
		入学者数	54	60	58	54	56
		入学定員充足率	1.08	1.20	1.16	1.08	1.12
文学部 歴史文化 学科	50	志願者数	204	240	281	191	118
		合格者数	88	94	102	71	80
		入学者数	60	57	56	58	52
		入学定員充足率	1.20	1.14	1.12	1.16	1.04
教育学部 教育学科	230	志願者数	746	680	757	419	320
		合格者数	388	377	387	286	225
		入学者数	251	234	236	164	140
		入学定員充足率	1.09	1.01	1.02	0.71	0.60
人間社会 学部 人間社会 学科	80	志願者数	257	242	323	226	141
		合格者数	150	144	145	139	108
		入学者数	83	93	89	81	57
		入学定員充足率	1.03	1.16	1.11	1.01	0.71
人間社会 学部 スポーツ 健康学科	100	志願者数	279	217	249	190	145
		合格者数	132	139	144	131	117
		入学者数	110	104	110	106	96
		入学定員充足率	1.10	1.04	1.10	1.06	0.96
大学全体 ※薬学部除く	510	志願者数	1727	1615	1890	1205	861
		合格者数	842	862	875	704	630
		入学者数	558	548	549	463	401
		入学定員充足率	1.09	1.07	1.07	0.90	0.78
薬学部 薬学科	140	志願者数	642	474	583	423	607
		合格者数	319	323	350	310	461
		入学者数	144	134	141	123	119
		入学定員充足率	1.02	0.95	1.00	0.87	0.87
大学全体 ※薬学部含む	650	志願者数	2369	2089	2473	1628	1468
		合格者数	1161	1185	1225	1014	1091
		入学者数	702	682	690	586	520
		入学定員充足率	1.08	1.04	1.06	0.90	0.80

・入学定員充足率は、小数点以下第2位（第3位を切捨て）まで算出。

心理、社会福祉学部 志願者動向

心理学部	入試制度改革				
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
入学定員	2,723	2,713	2,968	3,053	3,528
志願者数	23,026	28,076	29,548	24,990	28,259
入学者数	2,935	2,832	3,098	3,146	3,740
入学定員充足率	107.79%	104.39%	104.38%	103.05%	106.01%
社会福祉学部					
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
入学定員	4,174	4,084	3,684	3,649	3,649
志願者数	12,597	14,442	11,735	10,181	9,332
入学者数	3,977	4,009	3,811	3,548	3,132
入学定員充足率	95.28%	98.16%	103.45%	97.23%	85.83%
心理学部と社会福祉学部					
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
入学定員	6,897	6,797	6,652	6,702	7,177
志願者数	35,623	42,518	41,283	35,171	37,591
入学者数	6,912	6,841	6,909	6,694	6,872
入学定員充足率	100.22%	100.65%	103.86%	99.88%	95.75%

・日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」を参考とする。

人間社会学科コース人数

入学時コース調査

コース	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	平均	R4年度
心理コース	43	20	33	42	36	34.8	16
社会福祉コース	20	18	19	24	15	19.2	7
合計（心理+社会福祉）	63	38	52	66	51	54.0	23
他コース	25	18	13	16	15	17.4	12
他コース	30	25	28	18	26	25.4	23
未定	20	23	19	11	9	16.4	12
合計	138	104	112	111	101	113.2	70



2年次選択時 (入学年度)

コース	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	平均
心理コース	19	12	21	30	23	21.0
社会福祉コース	11	18	17	26	25	19.4
合計（心理+社会福祉）	30	30	38	56	48	40.4
他コース	20	7	16	13	10	13.2
他コース	37	44	35	18	19	30.6
合計	87	81	89	87	77	84.2

・転学科・編入・退学分を含めない

近隣の心理、社会福祉系学部の学生納付金一覧

大学	学部	学科	定員	入学金	授業料	その他納付金	初年度計	2年次以降計
本学	人間社会学部	心理・福祉学科	50	320,000	910,000	200,000	1,430,000	1,110,000
		人間社会学科	80	320,000	910,000	200,000	1,430,000	1,110,000
帝塚山学院大学	人間科学部	心理学科	130	250,000	880,000	300,000	1,430,000	1,180,000
大阪樟蔭女子大学	学芸学部	心理学科	80	280,000	870,000	280,000	1,430,000	1,150,000
四天王寺大学	人文社会学部	人間福祉学科	70	300,000	837,000	320,000	1,457,000	1,157,000
関西福祉科学大学	社会福祉学部	社会福祉学科	140	200,000	900,000	200,000	1,300,000	1,100,000

・学生納付金は各大学のホームページ（学則等）を参照。

大阪大谷大学 人間社会学部『心理・福祉学科』 に関する受容性調査

【高校生】調査結果報告書

2023年2月

株式会社アンド・ディ

目次

▶ 調査概要	3
▶ 調査票・呈示資料	5
▶ 調査結果	11
• 回答者プロフィール	12
• <進路検討状況>高校卒業後の希望進路	13
• 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」関連分野の興味度	14
• 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」の学びの特徴について	15
• 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」への受験意向・入学意向	17
• 受験意向あり数・入学意向者数	18
▶ 参考資料	19

調査概要

▶調査目的

- 大阪大谷大学が計画している人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)設置について、周辺エリア所在高校の2年生に受験意向・入学検討意向を聴取し、受容性を確認する。

▶調査対象と性別

- 大阪大谷大学に進学実績がある高校の2年生
 - 調査対象校に事前に調査協力を依頼し、許諾を得た対象校へ調査票を送付。ホームルームなど教室で配布・回収。

▶調査期間

- 学校へのお渡し開始:2022年11月24日(木)~締め切り:2023年1月11日(水)到着分まで

▶有効回答数

- 30校/2,779件(有効回答率61.0%) 38校/4,556票配布に対し

▶調査機関

- 株式会社アンド・ディ

▶調査協力校

- ・ 設置者の内訳:公立(府立・県立) 68.8%、私立31.2%

調査回答高校	2,779
大谷高等学校	107
東大谷高等学校	124
城南学園高等学校	40
大阪府立大塚高等学校	93
阪南大学高等学校	141
大阪府立松原高等学校	59
大阪府立八尾翠翔高等学校	178
大阪府立懐風館高等学校	145
上宮太子高等学校	82
大阪府立富田林高等学校	63
大阪府立河南高等学校	262
大阪暁光高等学校	105
大阪府立美原高等学校	51
大阪府立狭山高等学校	188
大阪府立堺東高等学校	37
大阪府立堺西高等学校	71
羽衣学園高等学校	137
大阪府立高石高等学校	143
近畿大学泉州高等学校	132
大阪府立久米田高等学校	75
大阪府立和泉高等学校	34
大阪府立貝塚南高等学校	72
大阪府立日根野高等学校	34
大阪府立東百舌鳥高等学校	75
奈良県立生駒高等学校	76
奈良県立高取国際高等学校	72
奈良県立五條高等学校	44
和歌山県立神島高等学校	39
大阪府立泉大津高等学校	75
大阪府立門真なみはや高等学校	25
大阪府立枚方津田高等学校	

※大阪府立枚方津田高等学校は集計後の回答となったため集計対象外

<調査票・呈示資料>

送付状

高等学校長 様
進路指導部長 様

大阪大谷大学「人間社会学部 心理・福祉学科(仮称)」設置構想に関するアンケート ご協力をお願い

拝啓 晩秋の候、貴校におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃は本学の教育研究に対し、ご理解並びにご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、このたび本学では、2024年4月に新学科「心理・福祉学科(仮称)」の設置を構想しております。
つきましては、この設置計画の内容を一層充実したものとするため、貴校2年生の生徒の皆様にご意向をお聞かせいただきたく、アンケートへのご協力をお願いさせていただいた次第でございます。
校務ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、アンケートの実施につきまして何卒ご高配を賜りたくお願い申し上げます。
この調査で得られた情報は、新学科の設置構想にかかる統計資料としてのみ活用し、ご回答いただいた個人を特定することは一切ございません。
本調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
末筆ながら、今後の貴校のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具
2022年11月
大阪大谷大学

記

■調査内容 高校卒業後の進路についてのお考え、構想中の新学科への受験意向・入学意向

■調査対象 高校2年生の生徒

■実施方法 貴校ホームルームで実施していただければ幸いです。
リーフレットをお読みいただき、アンケートへのご回答をお願いいたします。
アンケート実施後は、同封の返送用封筒・着払い伝票(返送先印字済み)にてご返送願います。
アンケート返送先 株式会社ジイズスタッフ内「大阪大谷大学アンケート」係
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-8 神田小川町三丁目ビル 3階
電話:03-5217-3131

■アンケート実施期限

誠に勝手ながら、**2022年12月22日(木)**を目途にご返送いただきますようお願いいたします。

※このアンケート調査は、所定の契約を結んだ上、下記調査会社に業務委託しております。

■調査内容・記入方法に関するお問合せは、下記宛をお願いいたします

【調査委託会社】 株式会社アンド・ディ 調査担当:羽生田(はにゅうだ)、信時(のぶとき)
〈社団法人日本マーケティング・リサーチ協会 正会員 No.20143〉
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-5 ビュロー西新橋 2F
メール:post2@and-d.co.jp /電話:0120-09-8401
受付時間:月～金(祝日を除く) 10:00～17:00

■本件に関するお問合せ

大阪大谷大学 学長室大学企画課 担当:森田
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3-11-1
メール:yomorita@osaka-ohtani.ac.jp / 電話:0721-24-0381(代表番号)
受付時間:月～金(祝日を除く) 9:00～17:30

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、テレワークを推進しています。お問合せはメールでお願いいたします。

以上

調査票

大阪大谷大学人間社会学部心理・福祉学科(仮称)

設置構想に関するアンケート

対象:2022年度現在、高校2年生のみなさん

大阪大谷大学では2024年4月より新しい学科として「心理・福祉学科」(仮称)を設置することを構想しています。このアンケートを通して、これから大学進学時期を迎えるみなさんからご意見をお聞きして、新しい学科の構想をより充実させたいと考えております。

なお、このアンケートに回答いただいたみなさんから得られた情報は、大阪大谷大学の設置構想にかかる統計資料としてのみ使用し、個人を特定するようなことはありません。また、回答内容が入学に影響を及ぼすこともありません。

ぜひ高校生のみなさんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いたします。

※このアンケート調査は、大阪大谷大学から委託された第三者機関(株式会社アンド・ディ)が実施いたします。

あなたご自身についてお聞きします。

F1. 性別 (ひとつに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 回答しない

F2. 現在お住まいの都道府県・エリア (ひとつに○)

1. 大阪 2. 奈良 3. 和歌山 4. その他()

高校卒業後の進路についてあなたのご希望をお聞きします。

問1. あなたは、高校卒業後どのような進路を希望していますか。(いくつでも○)

1. 大学(4年制・6年制) 2. 短期大学 3. 専門学校・専修学校
4. 就職 5. その他()

問2. 問1で選んだ番号のうち、最も希望する進路の番号を右欄にひとつだけお書きください。

問3. 進学先で学ぶ分野として、あなたはどの分野に興味を持っていますか。(いくつでも○)

※現時点で進学を考えていない方も、進学する場合を想像してお答えください

1. 人間・心理 2. 福祉 3. 経済・経営・商 4. 社会
5. 文化・地理・歴史・文学 6. 家政・生活科学 7. 外国語・国際関係 8. 法律・政治
9. 情報・コミュニケーション・メディア 10. 教育・保育 11. 理学・工学 12. 看護・保健・衛生
13. 医学・歯学・薬学 14. 農・林産・水産 15. 芸術・体育・スポーツ 16. その他

問3-2. 引き続きお伺いします。進学先で学ぶ分野として、あなたは以下のそれぞれの分野にどの程度興味を持っていますか。(それぞれ、ひとつに○)

			とても興味がある	興味がある	興味はない
a	人間・心理	人間科学、心理学、人間行動学など	→ 1	2	3
b	福祉	社会福祉学、子ども家庭福祉学、高齢者福祉学など	→ 1	2	3

※ 問 1 で 1. 大学(4 年制・6 年制) を選ばなかった方はここで終了です。ありがとうございました。

ここからは、大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)についてお聞きします。

別途お配りしたリーフレットをよくお読みいただき、お答えください。

問 4. 以下は、大阪大谷大学が設置構想中の「心理・福祉学科」(仮称)が今後計画している取り組みや特徴の例です。
あなたが魅力的であると思うもの、他の大学にはないと思うものをそれぞれお選びください。

	a 魅力的 である (いくつでも○) ↓	b 他大学 にはない (いくつでも○) ↓
1 公認心理師をはじめとする、心理学の資格が取得できる。	1	1
2 社会福祉士をはじめとする、社会福祉学の資格が取得できる。	2	2
3 公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格をねらうことができる。	3	3
4 ビジネスや情報など、社会科学系の科目も学習できる。	4	4
5 企業など、専門職以外の進路へのサポートが手厚い。	5	5
6 実習やインターンシップの機会が多い。	6	6

【参考】周辺エリアで同分野の大学との比較 ※各大学の学費・費用は、変更になることがあります

大学名	学部・学科名	初年次				2年次以降
		入学金	授業料	その他 納付金	初年次納付金 合計	納付金 合計
大阪大谷大学	人間社会学部心理・福祉学科(仮称) (社会福祉士・公認心理師両方の取得が可能)	32.0万円	91.0万円	20.0万円	143.0万円	111.0万円
帝塚山学院大学	人間科学部心理学科(公認心理師)	25.0万円	88.0万円	30.0万円	143.0万円	118.0万円
大阪樟蔭女子大学	学芸学部心理学科(公認心理師)	28.0万円	87.0万円	28.0万円	143.0万円	115.0万円
四天王寺大学	人文社会学部人間福祉学科(社会福祉士)	30.0万円	83.7万円	32.0万円	145.7万円	115.7万円
関西福祉科学大学	社会福祉学部社会福祉学科/心理学部心理科学科 (社会福祉士もしくは公認心理師)	20.0万円	90.0万円	20.0万円	130.0万円	110.0万円

※()内記載は取得可能な「社会福祉士/公認心理師の国家試験受験資格」です
※他大学の学費は、各大学ホームページの掲載情報です(2022年10月時点)

問 5. 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)を、あなたはどの程度受験したいと思いますか。
(ひとつに○)

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験したくない

問 6. 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)を受験して合格した場合、あなたはどの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい
3. 併願校の可否によっては入学したい 4. 入学先としては考えない

アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

無関心じゃられない私になる
大阪大谷大学

心理と福祉の 未来を開く 新学科、誕生!

今、求められるのは専門性と多様性

テクノロジーが目まぐるしく進化を続け、私たちを取り巻く環境は日々変化を遂げています。

そして、お互いを尊重し、認めあう多様性の時代が到来しようとしています。

これからの社会において、「心理」「福祉」の専門家に求められるのは、様々な背景をもつ人を幸せに導く力です。

専門的な知識はもちろん、広い視野と教養を身につけて、新しい時代の専門家を目指しましょう。



人間社会学部 | 心理・福祉学科 (定員50名)

2024年4月設置構想中

※内容は予定であり変更する場合があります。

専門的な力と。幅広い知識と。

本学科の特長は、心理や福祉の専門知識はもちろん、社会科学や情報など、社会で役立つ多彩な知識を身につけられること。多様化するニーズに応える力を備え、さまざまな分野で活躍できる「心理」「福祉」の専門家を育てます。

心理・福祉学科の4つのポイント

POINT 01
資格取得も見据え、
2回生から専門コースに
分れて深く学ぶ

公認心理師などが目指せる「心理コース」と、社会福祉士などが目指せる「社会福祉コース」の2コース制。各分野の専門知識を学ぶとともに、資格取得に向けた準備も行います。

**公認心理師と社会福祉士の
ダブルライセンスを目指すことも可能!**

心理コース

学校や病院、会社など、様々な場面で活用できる心理学を学ぶコースです。ストレスマネジメントなど「こころのケア」をはじめ、ビジネスシーンで役立つ産業心理学なども学べます。適応指導教室や医療機関での実習も充実。公認心理師の受験資格取得に対応したカリキュラムを設け、さらに実際の資格取得を目指しての大学院受験もサポートします。

社会福祉コース

育児不安や介護負担、就労困難など、現代の社会では多くの人が生活上のさまざまな困りごとを抱えています。このような人々を援助し、問題の解決にあたる専門職が社会福祉士です。このコースでは社会福祉士の国家資格取得を丁寧サポート。社会福祉現場での豊富な実習科目を通して、高い実践力を備えた社会福祉士を育てます。

POINT 02
資格取得・
就職に向けて
徹底的にサポート

手厚いキャリア支援は、大阪大谷大学の強みのひとつ。きめ細かい指導に加え、学部学科独自の「キャリア開発支援室」「実習支援室」なども設置。一人ひとりが希望の進路に進めるようサポートします。また、多彩な資格が目指せる点も特長です。

目指せる資格

社会福祉士(国) / 公認心理師(国) / 医療管理秘書士 / 保健医療ソーシャルワーカー
※(国)は「国家資格」の略

取得できる資格

社会調査士 / 社会教育主事 / 社会福祉主事 / スクールソーシャルワーカー / 認定心理士 / カウンセリング実務士 / 学校司書資格 / 学芸員資格

主な卒業後の進路*

- ▶ 奈良大学大学院 ▶ 帝塚山学院大学大学院 ▶ 関西福祉科学大学大学院 ▶ 社会福祉法人 鳳と虹 筑後いずみ園(公認心理師法第7条第2号認定施設)
- ▶ 大阪府社会福祉職 ▶ 堺市社会福祉職 ▶ 株式会社エイブル ▶ 株式会社河合塾ナビエ ▶ 紀の里農業協同組合(JA紀の里) ▶ 社会医療法人 大道会 ▶ 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 など

*人間社会学科 心理コース・社会福祉コース 最近の進路実績より

POINT 03
豊富な現場体験で
実践的に学び、
力をつける

教室の外へ飛び出し、地域や企業でアクティブに学ぶ授業を多数設けています。身につけた知識を社会に活かす方法を実践的に学びながら、社会人に必要な力を培い、実際に体験することにより、将来の目標を定める機会としても機能します。

POINT 04
社会科学系・
情報系の学びで幅広い
知識を身につける

ビジネス、情報、スポーツなど、さまざまな分野の科目を履修することで、心理学や社会福祉学の知見を活かしながら、広く企業や市役所などでの活躍を目指すこともできます。

履修できる科目(抜粋)

- 経営学概論
- 国際社会学
- 情報社会学
- NGO・NPO論
- マーケティング論
- スポーツ心理学

心理・福祉学科における 人材育成イメージ



〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-11-1
入試広報課 TEL.0721-24-1031 FAX.0721-24-5120
<https://www.osaka-ohtani.ac.jp>

ACCESS

- 近鉄長野線「滝谷不動」駅から約500m
- 南海高野線「金剛」(急行停車)駅からスクールバス(許可制)約10分
- 近鉄 「大阪阿部野橋」駅から約35分
- 南海 「なんば」駅から約36分
- JR 「大阪」駅から約56分

大阪大谷大学入試情報サイト

CLUB oh!

学部学科紹介や入試情報はもちろん、大阪大谷大学でのキャンパスライフなどを紹介します! ぜひチェックしてみよう!

CLUB oh! 大谷



*デジバスによっては読み取れない場合があります。

<調査結果>

回答者プロフィール

- 回答者の性別は、「男性」が43%、「女性」が53%。
- 回答者の居住エリアは、「大阪府」が89%で最も多い。

●F1 性別 (ひとつに○)

		(単位:%)					
		男性	女性	その他	回答しない	無回答	
全体		(n=2,779)	43.3	53.1	0.6	2.5	0.5
		※「全体」と比較して					
			5pt 以上高い				
			-10pt 以上低い				

●F2 現在お住まいの都道府県・エリア (ひとつに○)

		(単位:%)					
		大阪	奈良	和歌山	その他	無回答	
全体		(n=2,779)	88.9	8.2	2.0	0.2	0.7
性別	男性	(n=1,202)	89.3	8.6	1.6	0.2	0.4
	女性	(n=1,477)	89.5	8.1	2.1	0.1	0.2
	その他	(n= 18)	88.9	-	11.1	-	-
	回答しない	(n= 69)	85.5	7.2	5.8	1.4	-
		※「全体」と比較して					
			5pt 以上高い				
			-10pt 以上低い				

<進路検討状況> 高校卒業後の希望進路

- 「大学(4年制・6年制)」進学希望者が72%。「専門学校」まで含めた「進学希望者・計」は93%。
 - 性別にみると、「大学(4年制・6年制)」は男性80%、女性67%と男性の方が高い。
- 第一希望進路では「大学(4年制・6年制)」が61%。

●Q1N あなたは、高校卒業後どのような進路を希望していますか。(いくつでも○)

		(単位:%)	大学(4年制・6年制)	短期大学	専門学校・専修学校	就職	その他	無回答	進学希望者・計
全体		(n=2,779)	72.1	11.7	32.4	8.5	2.4	1.2	93.2
性別	男性	(n=1,202)	80.0	6.2	24.5	10.2	2.9	0.8	92.3
	女性	(n=1,477)	66.6	16.4	39.5	6.8	1.5	0.7	95.3
	その他	(n= 18)	66.7	16.7	33.3	-	22.2	-	77.8
	回答しない	(n= 69)	66.7	10.1	23.2	14.5	10.1	1.4	82.6

※「全体」と比較して
 5pt 以上高い
 -10pt 以上低い

●Q2N 問1で選んだ番号のうち、最も希望する進路の番号を右欄にひとつだけお書きください。

		(単位:%)	大学(4年制・6年制)	短期大学	専門学校・専修学校	就職	その他	無回答	進学希望者・計
全体		(n=2,779)	60.5	3.6	19.4	4.6	1.4	10.5	83.4
性別	男性	(n=1,202)	68.6	1.0	13.6	5.7	1.8	9.4	83.1
	女性	(n=1,477)	54.8	5.7	24.8	3.9	0.9	10.0	85.2
	その他	(n= 18)	44.4	5.6	11.1	-	11.1	27.8	61.1
	回答しない	(n= 69)	55.1	2.9	11.6	4.3	2.9	23.2	69.6

※「全体」と比較して
 5pt 以上高い
 -10pt 以上低い

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」関連分野の興味度

- 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」は「人間・心理」「福祉」の学問分野より構成される複合的な学問領域であるため、「人間・心理」「福祉」のそれぞれの分野に対する興味度を聴取し、「人間・心理」「福祉」のいずれかに興味がある者(「関連分野興味あり・計」)を集計した。
- 大阪大谷大学の新学科の関連分野である「人間・心理(人間科学、心理学、人間行動学など)」の興味度を尋ねたところ、大学進学希望者では「とても興味がある」は14%。「興味がある」(42%)と合わせた「興味あり・計」は57%。
- 同じく関連分野である「福祉(社会福祉学、子ども家庭福祉学、高齢者福祉学など)」の興味度を尋ねたところ、大学進学希望者では「とても興味がある」は7%。「興味がある」(30%)と合わせた「興味あり・計」は36%。
- 大学進学希望者のうち63%が「人間・心理」「福祉」のいずれかに興味がある。

●Q3S2SFN【大学進学希望者ベース】引き続きお伺いします。進学先で学ぶ分野として、あなたは以下のそれぞれの分野にどの程度興味を持っていますか。(それぞれ、ひとつに〇)

		(単位:%)	人間・心理			福祉			関連分野 興味あり・ 計
			とても興味 がある	興味があ る	興味あり・ 計	とても興味 がある	興味があ る	興味あり・ 計	
		大学進学希望者							
全体		(n=2,004)	14.3	42.3	56.6	6.5	29.7	35.9	63.0
性別	男性	(n= 961)	11.4	40.2	51.6	5.1	25.8	30.5	57.5
	女性	(n= 984)	16.3	44.9	61.2	7.5	33.7	40.8	68.2
	その他	(n= 12)	25.0	41.7	66.7	16.7	33.3	38.9	83.3
	回答しない	(n= 46)	28.3	30.4	58.7	10.9	26.1	30.4	60.9
		※「全体」と比較して	5pt 以上高い						
			-10pt 以上低い						
						※関連分野:「人間・心理」「福祉」			

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」の学びの特徴について

- 【魅力を感じる特徴】としては、「公認心理師をはじめとする、心理学の資格が取得できる」(61%)がトップ。
 - 次いで、「企業など、専門職以外の進路へのサポートが手厚い」(60%)、「実習やインターンシップの機会が多い」(57%)、「公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格をねらうことができる」(57%)
- 大学進学希望者のうち8割程度が、いずれかの特徴を魅力的であると感じている(「魅力を感じる・計」)

●Q4AN【大学進学希望者ベース】以下は、大阪大谷大学が設置構想中の「心理・福祉学科」(仮称)が今後計画している取り組みや特徴の例です。あなたが魅力的であると思うもの、他の大学にはないと思うものをそれぞれお選びください。 a. 魅力的である(いくつでも○)

		(単位:%)	心理学の公認心理師資格が取得できる。心	社会福祉士の資格が取得できる。社	の公認心理師と社会福祉士が、両方	系。の科目や学習情報など。社会科学	の企業など、専門職以外の進路へ	が実習やインターンシップの機会	無回答	魅力を感じる・計
大学進学希望者		全体 (n=2,004)	60.5	53.0	57.0	53.2	59.5	57.1	21.1	78.9
性別	男性	(n= 961)	53.8	48.2	51.0	51.3	53.3	51.5	27.0	73.0
	女性	(n= 984)	67.6	58.2	62.9	55.8	66.2	63.0	14.5	85.5
	その他	(n= 12)	50.0	50.0	41.7	41.7	41.7	33.3	33.3	66.7
	回答しない	(n= 46)	50.0	41.3	58.7	41.3	50.0	52.2	37.0	63.0
進路希望×分野別	大学進学意向者/人間・心理興味あり	(n=1,134)	71.6	57.7	64.7	59.1	66.7	63.2	12.6	87.4
	大学進学意向者/福祉興味あり	(n= 726)	69.7	66.4	67.2	59.6	67.2	66.0	12.3	87.7

※「全体」と比較して
 5pt 以上高い
 -10pt 以上低い

- 【他の大学にはないと思う特徴】としては、「公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格の取得を目指すことができる。」(18%)がトップ。
 - 次いで「社会福祉士をはじめとする、社会福祉学の資格が取得できる。」(16%)、「ビジネスや情報など、社会科学系の科目も学習できる。」(15%)、「実習やインターンシップの機会が多い。」(14%)、「企業など、専門職以外の進路へのサポートが手厚い。」(14%)。
- 大学進学希望者のうち3割以上が、他の大学にはない特徴があると思っている(「他の大学にはないと思う・計」)

●Q4BN【大学進学希望者ベース】以下は、大阪大谷大学が設置構想中の「心理・福祉学科」(仮称)が今後計画している取り組みや特徴の例です。あなたが魅力的であると思うもの、他の大学にはないと思うものをそれぞれお選びください。 b.他大学にはない(いくつでも○)

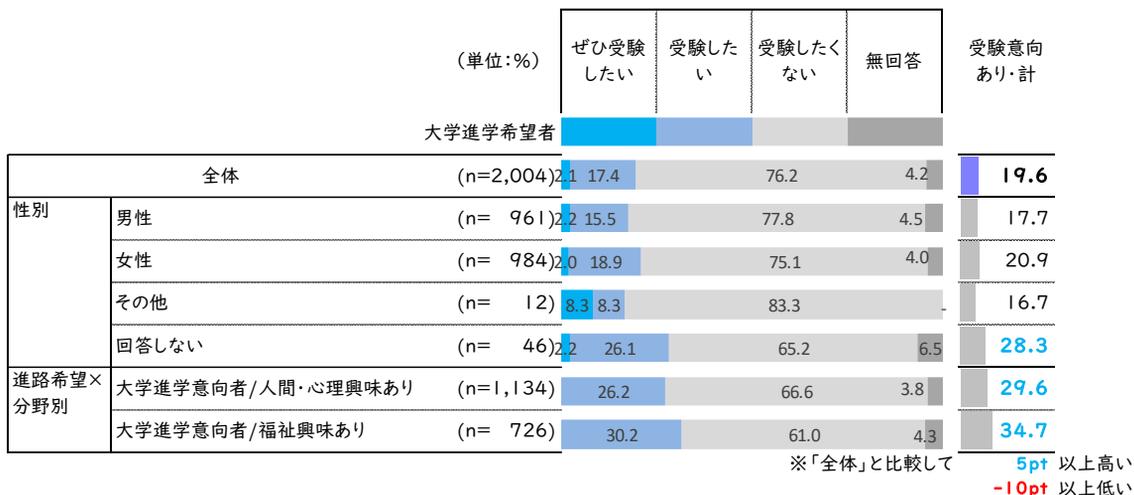
		(単位:%)	理公 学認 の心 資理 格師 がを 取は 得じ でき ると す る、 心	会社 福社 福社 学の 士を 資格 がは じ取 め得 とす る、 社	るの 公認 。国 家心 資格 師と をね ら会 う福 社と 士が 、両 方	系ジ の科 ネ 目ス もや 学情 習報 でな でき る、 。社 会科 学	の企 サポ な ーど 、 が専 門職 以 。外 の 進 路 へ	が実 習 や 。イ ン タ ー ン シ ッ プ の 機 会	無 回 答	他 の 大 学 に は な い と 思 う ・ 計
大学進学希望者		全体 (n=2,004)	13.3	15.6	18.4	14.7	13.8	14.0	67.7	32.3
性別	男性	(n= 961)	17.9	19.3	21.0	17.0	17.3	17.0	64.2	35.8
	女性	(n= 984)	8.5	11.7	15.5	12.1	9.9	10.7	71.3	28.7
	その他	(n= 12)	16.7	25.0	33.3	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0
	回答しない	(n= 46)	17.4	19.6	19.6	19.6	21.7	21.7	67.4	32.6
進路希望× 分野別	大学進学意向者/人間・心理興味あり	(n=1,134)	8.8	13.7	17.2	13.1	10.9	12.1	68.3	31.7
	大学進学意向者/福祉興味あり	(n= 726)	9.4	11.4	15.8	12.4	11.0	11.2	69.1	30.9

※「全体」と比較して
5pt 以上高い
-10pt 以上低い

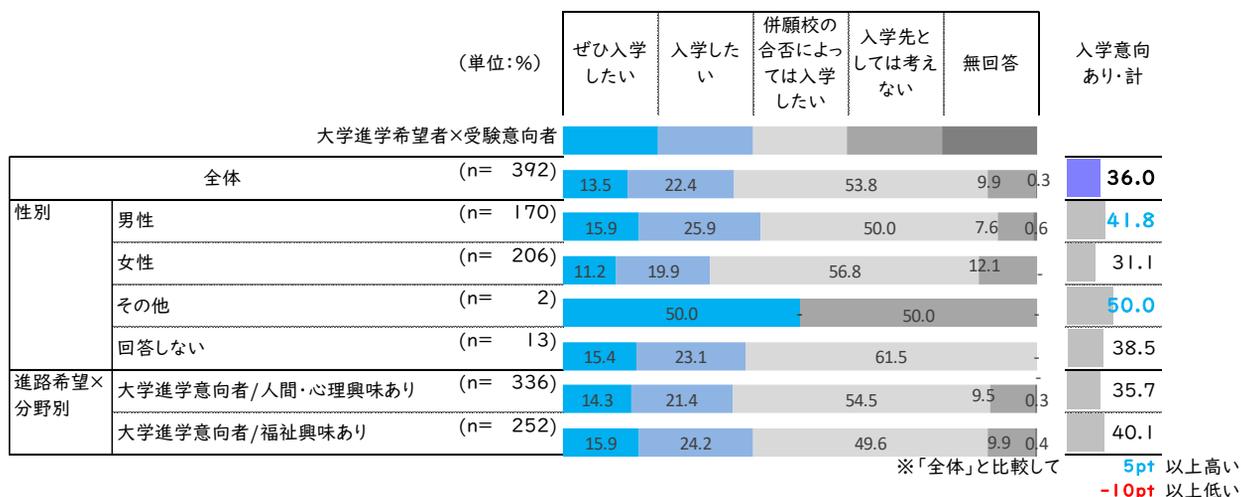
大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」への受験意向・入学意向

- 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)の受験意向を尋ねたところ、大学進学希望者では、「ぜひ受験したい」は2%。「受験したい」(17%)と合わせると、20%が受験意向あり。
- 入学意向を尋ねたところ、大学進学希望者かつ受験意向者では、「ぜひ入学したい」は14%。「入学したい」(22%)と合わせると、36%が入学意向あり。

●Q5SF1【大学進学希望者ベース】大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)を、あなたはどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)



●Q5×Q6SF1【大学進学希望者×受験意向者ベース】大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)を受験して合格した場合、あなたはどの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)



受験意向あり数・入学意向者数

回答者全体2,779人のうち

①大学への進学希望者は	<u>2,004人</u>	全体の72.1%
② ①のうち、学科の関連分野に興味のある者は	<u>1,263人</u>	全体の45.4%
③ ②のうち、受験意向者は	<u>360人</u>	全体の13.0%
④ ③のうち、入学意向者は	<u>130人</u>	全体の4.7%

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」では、入学意向者が予定定員数の50人を上回る。

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」 入学意向者数

関連分野希望者 (人間・心理、福祉興味あり)	1,263人
受験意向者 (受験意向あり・計 = とても受験したい + 受験したい)	360人
入学意向者 (入学意向あり・計 = とても入学したい + 入学したい)	130人
入学定員(予定)	50人

<參考資料>

●Q5xQ6SF2 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)を受験して合格した場合、あなたはどの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

		(単位:人)	受験意向あり・計	ぜひ入学したい	入学したい	入学意向あり・計
		大学進学希望者×分野興味者				
全体		(n=1,263)	360人	49人	81人	130人
性別	男性	(n= 553)	149人	24人	39人	63人
	女性	(n= 671)	195人	22人	39人	61人
	その他	(n= 10)	2人	1人	0人	1人
	回答しない	(n= 28)	13人	2人	3人	5人
進路希望×分野別	大学進学意向者/人間・心理興味あり	(n=1,134)	336人	48人	72人	120人
	大学進学意向者/福祉興味あり	(n= 726)	252人	40人	61人	101人
設置者別	公立	(n= 817)	226人	26人	46人	72人
	私立	(n= 446)	134人	23人	35人	58人
高校所在地	大阪府	(n=1,142)	325人	49人	74人	123人
	奈良県	(n= 100)	30人	0人	6人	6人
	和歌山県	(n= 21)	5人	0人	1人	1人

Q3SF1	【大学進学希望者ベース】進学先で学ぶ分野として、あなたはどの分野に興味を持っていますか。(いくつでも○)	%
1	人間・心理	19.0
2	福祉	7.2
3	経済・経営・商	29.9
4	社会	11.2
5	文化・地理・歴史・文学	15.9
6	家政・生活科学	4.0
7	外国語・国際関係	14.2
8	法律・政治	8.9
9	情報・コミュニケーション・メディア	9.5
10	教育・保育	18.3
11	理学・工学	8.7
12	看護・保健・衛生	14.5
13	医学・歯学・薬学	7.0
14	農・林産・水産	4.0
15	芸術・体育・スポーツ	16.0
16	その他	5.2
17	無回答	3.3
18	関連分野(人間・心理、福祉)興味あり	23.2
	全体	100.0

【心理系学科】

大学	学部	学科	項目	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
追手門学院	心理	心理	志願者数	4069	4236	4313
			合格者数	555	424	701
			受験者数	3998	4097	4141
			入学者数	278	199	252
			入学定員	220	220	220
			志願倍率	18.50	19.25	19.60
			定員充足率	1.26	0.90	1.15
帝塚山 (奈良)	心理	心理	志願者数	1425	1124	893
			合格者数	186	136	114
			受験者数	1298	997	772
			入学者数	118	115	106
			入学定員	100	100	100
			志願倍率	14.25	11.24	8.93
			定員充足率	1.18	1.15	1.06
帝塚山学院	人間科	心理	志願者数	1073	1054	618
			合格者数	214	357	322
			受験者数	1015	963	598
			入学者数	145	168	159
			入学定員	130	130	130
			志願倍率	8.25	8.11	4.75
			定員充足率	1.12	1.29	1.22
梅花女子	心理 こども	心理	志願者数	443	276	173
			合格者数	97	102	87
			受験者数	393	255	164
			入学者数	73	79	54
			入学定員	55	55	55
			志願倍率	8.05	5.02	3.15
			定員充足率	1.33	1.44	0.98
天理 (奈良)	人間	人間関係 (臨床心理 専攻)	志願者数	76	79	39
			合格者数	38	35	33
			受験者数	74	77	39
			入学者数	30	28	27
			入学定員	30	30	30
			志願倍率	2.53	2.63	1.30
			定員充足率	1.00	0.93	0.90
近隣大学 (5校) 合計			志願者数	7086	6769	6036
			合格者数	1090	1054	1257
			受験者数	6778	6389	5714
			入学者数	644	589	598
			入学定員	535	535	535
			志願倍率	13.24	12.65	11.28
			定員充足率	1.20	1.10	1.12
競合校 (2校) 合計			志願者数	2498	2178	1511
			合格者数	400	493	436
			受験者数	2313	1960	1370
			入学者数	263	283	265
			入学定員	230	230	230
			志願倍率	10.86	9.47	6.57
			定員充足率	1.14	1.23	1.15

【社会福祉系学科】

大学	学部	学科	項目	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
桃山学院	社会	ソーシャル デザイン 2022.04. 社会福祉学 科から名称 変更	志願者数	1045	472	347
			合格者数	373	358	273
			受験者数	1015	453	320
			入学者数	88	101	88
			入学定員	100	100	100
			志願倍率	10.45	4.72	3.47
			定員充足率	0.88	1.01	0.88
四天王寺	人文社会	人間福祉	志願者数	252	196	139
			合格者数	113	96	116
			受験者数	244	183	134
			入学者数	78	80	69
			入学定員	70	70	70
			志願倍率	3.60	2.80	1.99
			定員充足率	1.11	1.14	0.99
関西福祉 科学	社会福祉	社会福祉	志願者数	205	194	118
			合格者数	181	167	95
			受験者数	196	188	111
			入学者数	152	143	106
			入学定員	140	140	140
			志願倍率	1.46	1.39	0.84
			定員充足率	1.09	1.02	0.76
天理 (奈良)	人間	人間関係 (社会福祉 専攻)	志願者数	51	33	19
			合格者数	19	18	20
			受験者数	47	33	19
			入学者数	30	31	32
			入学定員	30	30	30
			志願倍率	1.70	1.10	0.63
			定員充足率	1.00	1.03	1.07
近隣大学 (4校) 合計			志願者数	1553	895	623
			合格者数	686	639	504
			受験者数	1502	857	584
			入学者数	348	355	295
			入学定員	340	340	340
			志願倍率	4.57	2.63	1.83
			定員充足率	1.02	1.04	0.87
競合校 (2校) 合計			志願者数	1297	668	486
			合格者数	486	454	389
			受験者数	1259	636	454
			入学者数	166	181	157
			入学定員	170	170	170
			志願倍率	7.63	3.93	2.86
			定員充足率	0.98	1.06	0.92

※志願者数、合格者数、受験者数は、旺文社「大学受験パスナビ入試結果」を参照
(近隣大学は、3年間の入試データが揃う大学のみ掲載)

※「入学者数、入学定員」は大学HPより参照

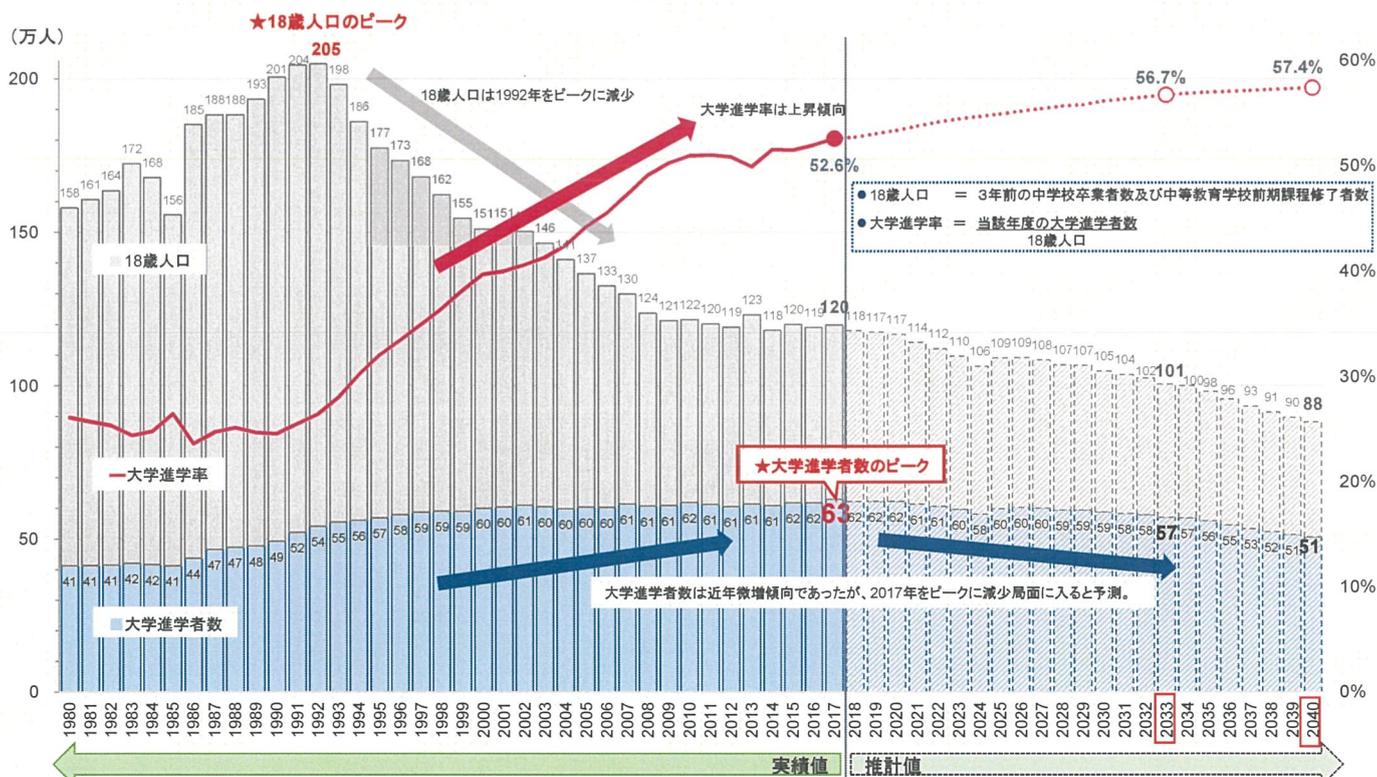
※和歌山県には、心理系及び社会福祉系の学科を設置する大学は存在しない

競合校

大学進学者数等の将来推計について②【推計結果】

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会（第13回）資料2より

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、
④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成(2034年の都道府県比率で案分)
○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)について

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会（第13回）資料2より

● 本資料では、これまで基準としていた2016年を最新の2017年に更新するとともに、国立教育政策研究所による推計(2015年の大学進学率が一定のまま推移すると仮定した場合の2033年の大学進学者数等の推計)ではなく、過去3年間の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を勘案した大学進学率の新たな推計に基づく2040年の大学進学者数等の推計を示している。

《注》

- 18歳人口：各県における3年前の中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 高校等卒業生数：各県における当該年度の高等学校卒業生数及び中等教育学校後期課程修了者数
- 大学進学者数：各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数(過年度卒業生等を含む)
- 大学進学率：各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合(過年度卒業生等を含む)
- 大学進学率(国公私立)：各県における国公私立の「大学進学率」
- 短大進学率：各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合(過年度卒業生等を含む)
- 専門学校進学率(現役)：各県における高校等卒業生数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合(現役進学者のみ)
- 大学数：各県に所在する大学の数(※大学本部の所在地による。大学院大学を含む。)
- 大学数(国公私立)：各県に所在する国公私立の「大学数」
- 入学定員★：各県に所在する大学(学部)の入学定員(※入学時の学部の所在地による。学部内の学科が複数の県にまたがる場合は、入学定員数が最も多い県に集計するなど補正している。)
【例：北里大学獣医学部の所在地は青森県十和田市であるが、1年次(入学時)は神奈川県相模原市のキャンパスで学ぶため、獣医学部の定員340名は青森県ではなく、神奈川県にカウントしている。】
- 入学定員(国公私立)★：各県に所在する国公私立の大学(学部)の「入学定員」
- 大学入学者数★：当該年度に、各県に所在する大学(※入学時の学部の所在地による。)に入学した者の数(過年度卒業生等を含む)
- 大学入学者数(国公私立)★：各県に所在する国公私立の「大学入学者数」
- 県外から流入★：当該大学の所在する県以外の高校等卒業生で当該大学へ入学した者(過年度卒業生等を含む)
- 県内から流出★：当該大学の所在する県内の高校等卒業生で当該県(自県)以外の大学へ入学した者(過年度卒業生等を含む)
- 流出入差(流入-流出)★：「県外から流入」-「県内から流出」
- 自県進学率★：各県における「大学進学者数」のうち、自県に所在する大学に進学した者の数(過年度卒業生等を含む)
- 18歳人口推計[2040]：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に都道府県別18歳人口比率で案分
- 大学進学者数推計[2040]：2040年の都道府県別18歳人口推計×都道府県別大学進学率推計
- 大学進学率推計[2040]：過去3年間(2014～2017年度)の都道府県別の大学進学率の伸び率を延長(※男性は進学率の上昇が著しい県は+5ptを上限とし、女性は同県の男性の進学率の同値を上限)して推計
- 大学入学者数推計[2040]★：2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別大学入学者比率で案分
- 大学入学者数推計(国公私立)[2040]★：2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別・国公私立大学入学者比率で案分
- 入学定員充足率推計[2040]★：大学入学者数推計[2040]÷入学定員[2017]×100(入学定員が2017年と同じと仮定した場合の2040年の入学定員充足率推計)
- 入学定員充足率推計(国公私立)[2040]★：各県に所在する国公私立の大学入学定員充足率推計(2040年)

《出典》上記のうち、入学定員以外：文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」を元に作成、★印は二次利用により得たデータを元に作成。
入学定員：文部科学省調べ(※「学校基本統計」二次利用により得たデータに合わせ、入学時の学部の所在地に再集計。)

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)③

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	
18歳人口【2017】	14,537	24,543	85,687	54,774	14,072	9,998	5,427	6,517	19,189	27,297	13,098	7,159	
高校等卒業者数【2017】	12,884	23,480	75,858	47,201	12,061	8,986	4,881	6,045	17,762	23,780	11,321	6,443	
大学進学数【2017】	7,182	15,884	47,347	30,147	8,016	4,324	2,115	2,650	9,183	14,995	5,069	3,318	
大学進学率【2017】	49.4%	64.7%	55.3%	55.0%	57.0%	43.2%	39.0%	40.7%	47.9%	54.9%	38.7%	46.3%	
(国公私別)【2017】	7.1% 2.9% 39.4% 8.4% 3.9% 52.4% 5.4% 2.7% 47.2% 8.5% 3.8% 42.7% 9.6% 3.9% 43.4% 9.5% 4.0% 29.7% 13.3% 3.1% 22.6% 13.9% 4.3% 22.5% 12.7% 3.4% 31.8% 11.6% 5.1% 38.2% 9.9% 4.1% 24.7% 14.5% 2.7% 29.1%												
短大進学率【2017】	5.7%	5.4%	5.5%	4.4%	5.4%	5.6%	7.3%	6.9%	4.1%	3.8%	5.0%	4.9%	
専門学校進学率(現役)【2017】	16.9%	13.7%	15.0%	13.9%	14.1%	16.7%	19.3%	22.0%	17.1%	11.8%	16.5%	16.6%	
大学数【2017】	8	34	55	37	11	3	3	2	17	20	10	4	
(国公私別)【2017】	2 1 5 3 4 27 2 2 51 2 3 32 3 2 6 1 1 1 1 1 1 1 0 1 2 14 1 4 15 1 3 6 2 0 2												
入学定員【2017】	7,098	32,736	51,582	26,955	4,813	1,605	1,496	1,457	9,670	13,531	4,226	2,983	
入学定員(国公私別)【2017】	950 600 5,548 3,706 920 28,110 4,155 2,776 44,851 2,690 1,792 22,478 730 348 3,735 890 180 535 1,140 276 80 1,157 300 0 2,198 430 7,042 2,338 1,519 678 1,917 959 1,350 1,388 0 1,595												
大学入学者数【2017】	7,498	33,783	54,891	28,060	4,993	1,640	1,591	1,516	9,330	13,547	4,290	2,769	
(国公私別)【2017】	1,023 641 5,834 3,837 979 28,867 4,276 2,916 47,699 2,792 1,873 23,395 786 362 3,845 936 181 523 1,181 320 90 1,195 321 0 2,278 472 6,580 2,466 1,689 392 1,997 1,019 1,274 1,447 0 1,322												
県外から流入【2017】	5,968	25,789	27,862	14,270	3,799	1,148	1,275	1,125	5,279	5,726	3,098	1,506	
県内から流出【2017】	5,652	7,890	20,318	16,357	6,822	3,832	1,799	2,259	5,132	7,174	3,877	2,055	
流出入差(流入-流出)【2017】	316	17,899	7,544	-2,087	-3,023	-2,684	-524	-1,134	147	-1,448	-779	-549	
自県進学率【2017】	21.3%	50.3%	57.1%	45.7%	14.9%	11.4%	14.9%	14.8%	44.1%	52.2%	23.5%	38.1%	
18歳人口推計【2040】	11,375	17,431	58,280	39,050	8,874	6,224	3,994	4,887	13,744	20,268	8,972	4,789	
大学進学者数推計【2040】	6,233	12,868	34,683	22,294	5,452	2,914	1,821	2,127	7,436	11,564	3,623	2,216	
大学進学率推計【2040】	54.8%	73.8%	59.5%	57.1%	61.4%	46.8%	45.6%	43.5%	54.1%	57.1%	40.4%	46.3%	
大学入学者数推計【2040】	5,919	26,287	41,083	21,098	3,691	1,186	1,256	1,201	7,358	10,519	3,419	1,997	
(国公私別)【2040】(※注)	808 506 4,606 2,986 762 22,540 3,200 2,182 35,700 2,099 1,408 17,590 581 268 2,842 677 131 378 932 253 71 946 254 0 1,796 372 5,189 1,915 1,312 7,293 1,592 812 1,015 1,044 0 953												
入学定員充足率推計【2040】	83.4%	80.3%	79.6%	78.3%	76.7%	73.9%	84.0%	82.4%	76.1%	77.7%	80.9%	66.9%	
(国公私別)【2040】(※注)	85.0% 84.3% 83.0% 80.6% 82.8% 80.2% 77.0% 78.6% 80.0% 78.0% 78.6% 78.3% 79.6% 76.9% 76.1% 76.1% 72.7% 70.7% 81.8% 81.5% 88.8% 81.8% 84.7% 81.7% 96.6% 73.7% 81.9% 86.6% 75.4% 83.0% 84.7% 75.2% 75.2% 59.8%												

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)④

H30.2.21中央教育審議会大学分科会
将来構想部会(第13回)資料2より

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	
18歳人口【2017】	9,652	13,586	6,626	48,031	9,058	14,269	17,635	10,921	11,299	16,389	16,978		
高校等卒業者数【2017】	8,662	11,480	6,081	42,435	8,106	12,977	15,622	10,102	10,329	14,765	14,607		
大学進学数【2017】	4,733	6,373	2,685	23,157	3,566	5,471	7,453	4,029	4,267	6,184	6,304	19,041	
大学進学率【2017】	49.0%	46.9%	40.5%	48.2%	39.4%	38.3%	42.3%	36.9%	37.8%	37.7%	37.1%		
(国公私別)【2017】	12.5% 3.0% 33.5% 13.9% 3.6% 29.5% 8.7% 5.7% 26.1% 10.0% 3.0% 35.2% 12.5% 2.4% 24.5% 13.1% 4.5% 20.8% 9.6% 3.8% 28.9% 12.5% 3.7% 20.7% 12.0% 3.9% 21.9% 12.1% 2.7% 22.9% 9.7% 3.0% 24.5%												
短大進学率【2017】	5.2%	5.7%	6.0%	5.1%	5.2%	4.6%	3.5%	7.9%	5.6%	7.8%	3.8%		
専門学校進学率(現役)【2017】	15.5%	18.5%	17.6%	16.2%	15.1%	17.2%	17.7%	20.5%	16.0%	20.1%	25.0%		
大学数【2017】	4	5	3	35	2	8	9	5	7	6	8		
(国公私別)【2017】	1 1 2 1 1 3 1 2 0 3 4 28 1 0 1 1 1 6 1 1 7 1 1 3 1 2 4 2 0 4 1 3 4												
入学定員【2017】	2,184	3,630	1,935	24,675	1,741	4,021	5,902	3,520	2,510	3,700	3,912		
入学定員(国公私別)【2017】	1,239 90 855 1,770 100 1,760 1,075 860 0 4 11 1 970 18,594 1,291 0 450 1,641 690 1,690 1,672 480 3,750 1,070 80 2,370 1,035 300 1,175 2,075 0 1,625 1,547 640 1,725												
大学入学者数【2017】	2,077	3,789	2,045	26,320	1,772	3,921	5,851	3,097	2,329	3,570	4,244		
(国公私別)【2017】	1,279 90 708 1,866 100 1,823 1,131 914 0 4 23 4 2,083 20,003 1,339 0 433 1,687 747 1,487 1,737 525 3,589 1,105 83 1,909 1,064 310 955 2,164 0 1,406 1,589 676 1,979												
県外から流入【2017】	1,256	1,694	1,501	11,191	1,230	2,064	2,503	2,100	1,217	1,490	817		
県内から流出【2017】	3,912	4,278	2,141	8,028	3,024	3,614	4,105	3,032	3,155	4,104	2,877		
流出入差(流入-流出)【2017】	-2,656	-2,584	-640	3,163	-1,794	-1,550	-1,602	-932	-1,938	-2,614	-2,060		
自県進学率【2017】	17.3%	32.9%	20.3%	65.3%	15.2%	33.9%	44.9%	24.7%	26.1%	33.6%	54.4%		
18歳人口推計【2040】	6,712	8,981	4,366	39,997	6,371	9,514	13,828	8,020	8,133	12,605	14,974		
大学進学者数推計【2040】	3,330	4,901	2,049	21,390	2,978	3,907	6,743	3,013	3,414	6,010	5,778	16,724	
大学進学率推計【2040】	49.6%	54.6%	46.9%	53.5%	46.7%	41.1%	48.8%	37.6%	42.0%	47.7%	38.6%		
大学入学者数推計【2040】	1,549	2,907	1,562	23,092	1,519	3,088	5,149	2,512	1,917	3,268	3,807		
(国公私別)【2040】(※注)	954 67 528 1,432 77 1,399 864 698 0 3 715 1,827 17,548 1,148 0 371 1,329 588 1,171 1,529 462 3,158 896 67 1,548 876 255 786 1,981 0 1,287 1,425 606 1,775												
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	80.1%	80.7%	93.6%	87.3%	76.8%	87.2%	71.4%	76.4%	88.3%	97.3%		
(国公私別)【2040】(※注)	77.0% 74.6% 61.7% 80.9% 76.7% 79.5% 80.4% 81.2% 80.4% 82.8% 84.4% 88.9% 82.5% 81.0% 85.3% 89.3% 81.4% 96.3% 84.2% 83.8% 84.2% 85.3% 84.6% 85.0% 66.9% 95.5% 79.2% 92.1% 94.8% 102.9%												

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

教育組織将来構想検討会等における主な検討事項

開催	会議体	検討内容	備考
R4.02.	検討会	2021 年度明け大学群別の志願者動向 2022 年度分野別年内入試の志願者推移 新学科設置に向けた妥当性の検証	
R4.03.	WG	新学科設置に向けた妥当性の検証	
	検討会	募集マーケット全体の傾向把握	
R4.04	検討会	新学科設置構想における学部から意見聴取	
R4.06	検討会	新学科設置に向けたプロジェクトチーム（PT）発足	
R4.08	検討会	既存学部の改革案の検討	
R4.11	検討会	新学科及び既存学部の改革案の進捗状況報告	

WG：検討会のワーキング・グループによる作業部会

公認心理師とは？

文部科学省と厚生労働省による公認心理師法を根拠とした日本初の心理専門職の国家資格です。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの分野で、心理支援等を行っています。

今回の調査結果を公認心理師の活動を理解するためにご活用ください。

2019年生まれの心理専門職の国家資格

公認心理師 その活動と未来

【資料9】

国家資格誕生の歴史

2010年

心理専門職の国家資格への要望がまとまる

2015年

公認心理師法成立

2017年

公認心理師法施行

2018年

第1回公認心理師試験実施

2019年

公認心理師の誕生（登録開始）

公認心理師の 今とこれから

一般社団法人日本公認心理師協会
会長 大熊 保彦

公認心理師は、生涯をかけて職業的発達を目指していく高度な専門性を有しています。今後、必要な地域・施設・機関への配置が徐々に進むものと考えられます。

国民の皆様にとって、また、連携・協働する方々にとって、利用しやすい専門職となるよう活動を進めてまいります。

2019年生まれの心理専門職の国家資格

公認心理師 その活動と未来

2020年12月末時点登録者数

35,529人

公認心理師に関する情報

公認心理師（厚生労働省ウェブサイト）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuni tsuite/bunya/0000116049.html>

一般財団法人 日本心理研修センター
（指定試験機関・指定登録機関）

<http://shinri-kenshu.jp>

本パンフレットは、厚生労働省令和2年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の活動状況等に関する調査」を行った一般社団法人日本公認心理師協会が、心の支援に関する多職種の方や行政関係者の皆様に、調査結果の概要をお伝えするために作成しました。調査の詳細については、下記までお問い合わせください。

一般社団法人 日本公認心理師協会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8

TEL 03-5805-5228

FAX 03-5805-5229

<https://www.jacpp.or.jp>

厚生労働省令和2年度
障害者総合福祉推進事業
「公認心理師の活動状況等に関する調査」

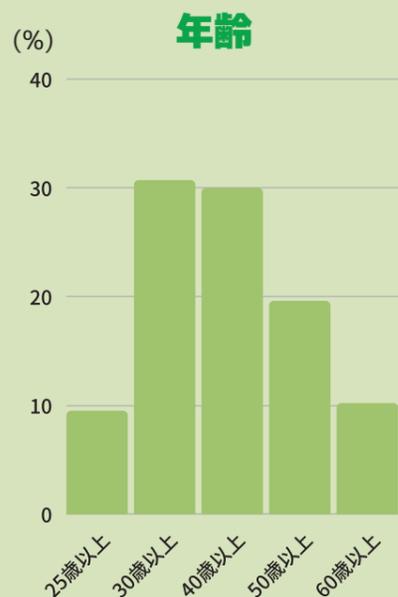


一般社団法人 日本公認心理師協会

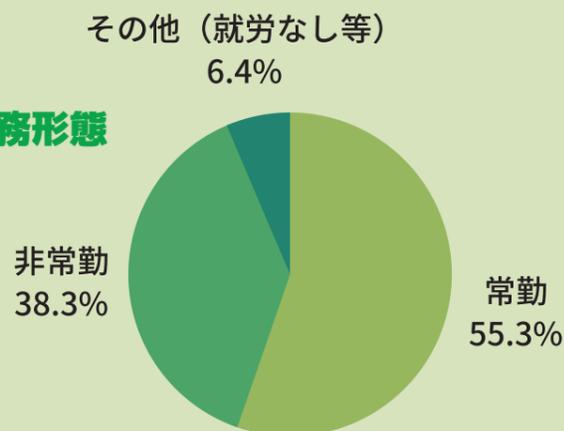
公認心理師

どんな人？

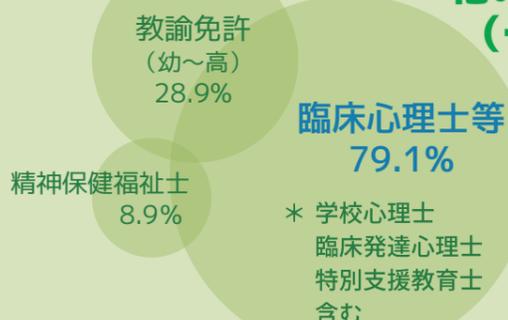
これまでの信頼と実績のある心理専門職の資格保有者が多くを占めています。



勤務形態



他の保有資格等 (一部のみ掲載)



公認心理師の活動状況等に関する調査

調査実施期間：2020年 9月18日~12月10日

調査対象者 35,400人

有効回答数 13,688人 有効回答率38.7%
(女性9,992人 男性3,584人 回答なし112人)

本調査は、公認心理師の活動状況等を明らかにし、国民の心の健康の保持増進のための一助や将来的な

公認心理師制度の適正かつ円滑な運営及び推進を図る資料を得るため実施されました。

* グラフの比率の分母は有効回答者

主な勤務先

* %は勤務している人の割合

保健医療分野 30.2%

- ◆精神科病院
- ◆一般病院
- ◆精神科主体の診療所
- ◆一般診療所
- ◆医療機関併設の相談室
- ◆精神保健福祉センター
- ◆保健所・保健センター
- ◆介護老人保健施設 など

福祉分野 21.3%

- ◆児童相談所
- ◆児童発達支援センター
- ◆障害児通所支援事業所
- ◆障害福祉サービス事業所
- ◆障害者支援施設
- ◆子育て世代包括支援センター など

教育分野 28.9%

- ◆幼小中等学校スクールカウンセラー
- ◆大学・短大・専修学校等学生相談室
- ◆特別支援学校・学級
- ◆通級教室
- ◆公立教育相談機関
- ◆教育委員会 など

司法・犯罪分野 3.8%

- ◆警察
- ◆科学捜査研究所
- ◆家庭裁判所
- ◆少年鑑別所
- ◆少年院
- ◆刑事施設
- ◆保護観察所
- ◆更生保護施設 など

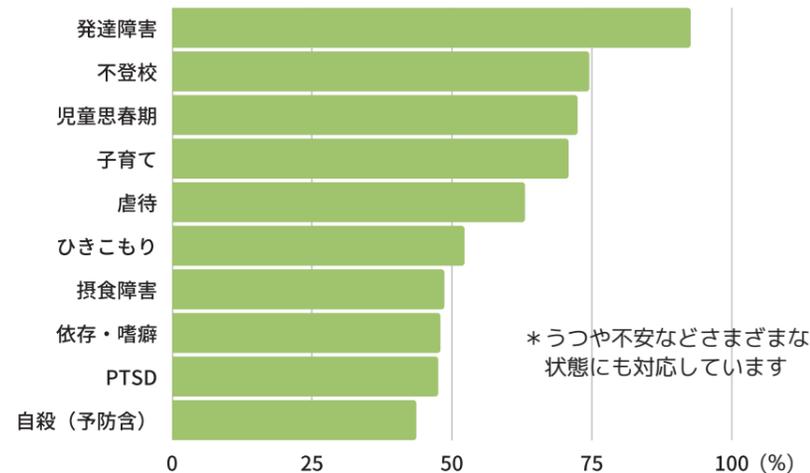
産業・労働分野 6.0%

- ◆組織内健康管理・相談室
- ◆組織外健康管理・相談機関
- ◆障害者職業センター
- ◆障害者就業・生活支援センター
- ◆ハローワーク など

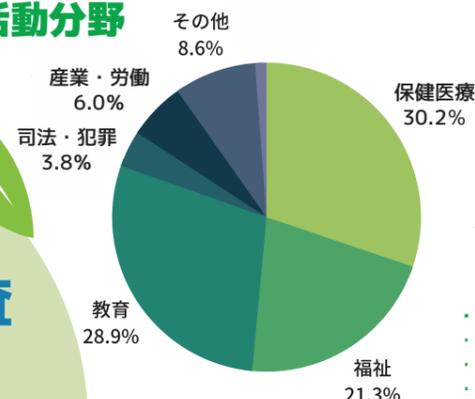
その他 8.6%

- ◆私設心理相談機関
- ◆大学・研究所
- ◆大学等附属の地域向け心理相談施設
- ◆NPO法人 など

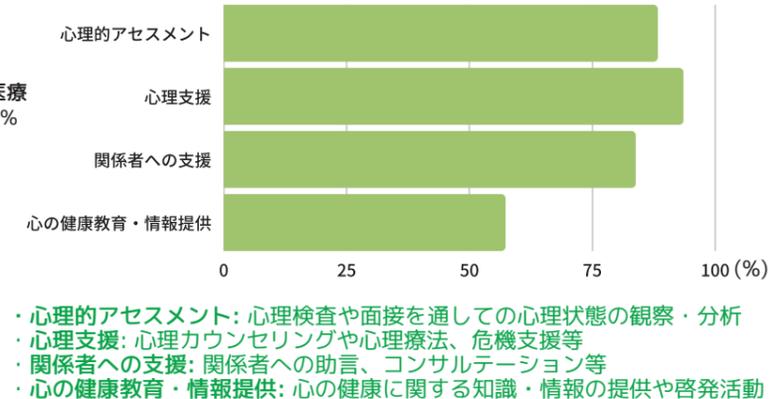
支援することが多い相談内容



活動分野



主な活動内容



公認心理師の活動について

公認心理師は、心理学の専門性に基づいて、国民の皆様の心の支援を行っています。支援を求める方々の心に寄り添いながら、心理学的な視点から心情の理解に努め、解決のための糸口を一緒に考えます。また、ご家族や周囲の関係者・支援者の皆様とも必要に応じて連携し、その人らしい生き方や安心のできる生活への歩みを支援します。

公認心理師は、臨床心理士、学校心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士などの心理専門職の実績に基づいて作られた国家資格です。

未来に向けて

公認心理師は、支援を受ける方の思いや自己決定のプロセスに、真摯に寄り添います。そのために、自らの専門性についての資質向上に日々努めていきます。また他の専門職の皆様との連携も積極的に行ってまいります。それらを通して、国民の皆様にとって、身近な役に立つ心理専門職であることを目指します。

公認心理師は、信頼と実績に基づいた心理専門職の国家資格です。

これから

公認心理師

日本全国の様々な分野の施設・機関で職務にあたっています。

どこにいる？

統計表 2 推計患者数，総数－入院－外来・年次・傷病大分類別

【資料10】

(単位：千人)

各年10月

傷病大分類	総数									入院									外来								
	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
総数	8 810.3	8 318.6	7 929.0	8 555.2	8 257.3	8 601.5	8 557.2	8 503.6	8 348.8	1 480.5	1 482.6	1 451.0	1 462.8	1 392.4	1 341.0	1 318.8	1 312.6	1 211.3	7 329.8	6 835.9	6 478.0	7 092.4	6 865.0	7 260.5	7 238.4	7 191.0	7 137.5
I 感染症及び寄生虫症	247.7	246.3	250.7	254.7	219.2	192.3	194.0	189.6	146.6	35.8	34.4	31.6	27.2	24.6	22.4	20.7	19.8	16.3	212.0	212.0	219.0	227.5	194.6	169.9	173.3	169.8	130.4
腸管感染症	36.8	35.2	38.3	38.0	34.2	34.6	34.2	34.0	23.6	4.4	5.1	5.1	5.0	4.5	3.9	4.1	4.1	3.3	32.3	30.1	33.1	33.0	29.7	30.6	30.1	29.9	20.3
結核	18.8	17.4	12.4	9.2	7.1	5.9	5.1	4.3	3.1	11.9	11.2	8.4	6.1	4.6	3.9	3.4	2.8	2.0	6.9	6.2	4.0	3.1	2.4	2.0	1.7	1.5	1.1
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	39.1	38.6	36.2	44.5	44.5	49.0	59.5	62.3	54.2	2.7	2.4	2.2	1.8	1.6	1.5	1.4	1.6	1.3	36.4	36.1	34.0	42.7	42.9	47.5	58.1	60.8	53.0
真菌症	45.7	48.1	53.2	51.6	47.7	37.7	35.5	39.9	31.3	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	0.7	45.2	47.5	52.7	51.0	47.0	36.9	34.6	39.0	30.6
その他の感染症及び寄生虫症	107.5	107.1	110.5	111.4	85.7	65.1	59.7	49.1	34.3	16.3	15.1	15.3	13.6	13.1	12.2	10.8	10.4	8.9	91.2	92.0	95.2	97.8	72.6	52.9	48.8	38.7	25.5
II 新生物<腫瘍>	361.1	351.2	346.5	374.5	377.3	370.5	376.5	391.6	373.7	168.2	169.3	166.5	169.8	159.2	150.6	144.9	142.2	126.7	192.9	181.9	180.0	204.6	218.2	219.9	231.6	249.5	247.0
(悪性新生物<腫瘍>) (再掲)	261.4	256.7	259.1	285.0	297.8	298.3	300.8	309.8	295.1	134.4	136.8	139.4	144.9	141.4	134.8	129.4	126.1	112.9	127.0	119.9	119.7	140.1	156.4	163.5	171.4	183.6	182.2
胃の悪性新生物<腫瘍>	53.0	46.9	40.1	38.1	38.5	34.1	32.7	32.4	26.4	24.2	22.7	20.0	18.8	17.1	14.9	13.5	12.5	10.2	28.8	24.1	20.2	19.3	21.4	19.2	19.2	19.9	16.2
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	42.0	40.3	39.1	39.4	43.1	43.2	46.9	48.4	44.4	18.4	18.6	18.3	19.2	19.6	19.2	18.9	18.7	17.4	23.6	21.7	20.7	20.2	23.5	24.0	28.0	29.7	27.0
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	26.1	27.2	29.1	33.3	35.0	34.7	34.9	34.9	34.5	17.2	18.2	19.0	20.3	20.3	19.3	18.8	17.8	15.9	8.9	9.0	10.1	12.9	14.6	15.4	16.1	17.1	18.6
その他の悪性新生物<腫瘍>	140.3	142.4	150.8	174.3	181.2	186.3	186.3	194.0	189.8	74.6	77.3	82.1	86.6	84.4	81.3	78.2	77.1	69.4	65.7	65.1	68.7	87.7	96.8	105.0	108.1	116.9	120.4
良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	99.7	94.5	87.4	89.5	79.5	72.1	75.7	81.9	78.6	33.8	32.4	27.1	25.0	17.7	15.8	15.5	16.0	13.8	65.9	62.0	60.3	64.5	61.7	56.4	60.2	65.8	64.7
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	40.9	34.6	32.8	32.3	28.4	28.9	27.9	27.0	23.8	6.7	6.6	5.8	5.9	5.9	6.5	6.3	5.9	5.7	34.2	28.1	27.0	26.4	22.6	22.3	21.6	21.1	18.1
貧血	32.4	26.4	25.8	24.3	19.9	20.1	18.5	18.0	15.3	4.2	4.1	3.8	3.8	3.4	3.5	3.2	3.0	3.0	28.2	22.3	22.1	20.4	16.5	16.6	15.3	15.0	12.3
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8.5	8.2	6.9	8.0	8.5	8.8	9.4	8.9	8.5	2.5	2.4	2.0	2.1	2.5	3.1	3.1	2.9	2.7	6.0	5.7	4.9	6.0	6.0	5.7	6.3	6.1	5.9
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	388.9	391.5	402.0	421.2	397.2	450.5	469.9	475.9	463.1	50.6	49.0	42.6	39.7	36.9	36.0	33.0	33.0	30.0	338.3	342.5	359.5	381.5	360.3	414.4	437.0	442.9	433.1
甲状腺障害	30.4	32.0	28.3	27.6	28.3	30.1	39.9	33.1	33.8	2.4	1.9	1.9	1.4	1.1	1.2	0.9	0.9	0.9	28.0	30.1	26.4	26.1	27.2	28.9	39.0	32.2	33.0
糖尿病	237.4	226.0	219.9	232.7	214.2	232.4	243.3	242.9	230.3	42.6	40.7	34.1	30.3	26.2	23.9	20.9	18.9	15.2	194.9	185.3	185.8	202.4	188.0	208.5	222.3	224.0	215.0
脂質異常症	121.1	133.6	153.8	161.0	154.7	188.0	186.7	148.2	153.7	5.6	6.4	6.6	7.9	9.6	11.0	11.1	0.2	0.3	115.5	127.2	147.2	153.0	145.1	177.0	175.6	148.0	153.4
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	121.1	133.6	153.8	161.0	154.7	188.0	186.7	148.2	153.7	5.6	6.4	6.6	7.9	9.6	11.0	11.1	13.0	13.6	115.5	127.2	147.2	153.0	145.1	177.0	175.6	38.8	31.7
V 精神及び行動の障害	481.5	490.0	529.1	550.7	533.8	503.5	523.2	512.9	503.1	325.9	333.5	328.8	326.2	301.4	282.3	265.5	252.0	236.6	155.6	156.4	200.3	224.5	232.3	221.2	257.7	260.9	266.6
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	264.3	260.1	259.7	261.8	253.9	234.8	235.4	216.2	193.0	216.6	213.5	203.2	198.9	187.4	174.1	165.8	153.5	143.0	47.7	46.6	56.5	62.9	66.5	60.6	69.7	62.7	50.0
気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	60.3	64.0	91.3	104.8	108.8	103.6	112.2	119.5	119.4	22.3	25.5	26.4	27.8	28.7	29.1	28.8	29.9	28.0	38.0	38.6	64.9	77.0	80.1	74.5	83.4	89.6	91.4
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	50.5	45.8	53.1	55.6	54.5	52.9	59.0	65.0	68.3	7.2	7.0	5.8	5.4	4.9	5.6	5.6	5.5	5.8	43.3	38.8	47.3	50.2	49.6	47.4	53.4	59.4	62.5
その他の精神及び行動の障害	106.4	120.0	125.0	128.4	116.5	112.2	116.6	112.2	122.4	79.7	87.5	93.5	94.1	80.4	73.5	65.4	63.1	59.8	26.7	32.5	31.6	34.3	36.1	38.7	51.3	49.1	62.7
VI 神経系の疾患	186.7	184.4	203.5	240.6	238.4	264.7	295.1	291.2	291.5	66.5	72.8	84.2	97.3	105.4	114.9	122.2	126.2	125.8	120.2	111.6	119.3	143.2	133.0	149.8	173.0	164.9	165.8
VII 眼及び付属器の疾患	356.5	356.0	320.9	346.4	279.6	306.0	349.4	370.2	309.1	14.3	15.5	14.7	12.7	10.3	11.9	11.5	11.7	10.2	342.3	340.6	306.3	333.7	269.3	294.1	337.9	358.5	298.9
白内障	130.8	133.9	107.8	109.6	79.2	91.5	85.1	90.8	70.9	9.4	10.5	10.0	8.0	6.2	7.5	7.4	7.5	6.5	121.4	123.4	97.9	101.6	73.1	84.0	77.7	83.4	64.4
その他の眼及び付属器の疾患	225.7	222.2	213.1	236.8	200.3	214.5	264.3	279.4	238.2	4.9	5.0	4.7	4.7	4.1	4.4	4.1	4.3	3.7	220.8	217.1	208.4	232.1	196.2	210.1	260.2	275.1	234.5
VIII 耳及び乳様突起の疾患	141.5	139.3	105.0	117.6	125.0	117.5	103.0	101.8	97.9	3.5	3.7	3.3	3.0	2.7	2.7	2.5	2.6	2.4	138.0	135.5	101.7	114.6	122.4	114.7	100.5	99.2	95.5
外耳疾患	23.9	24.1	17.5	23.2	19.5	18.9	20.8	21.0	28.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	23.8	24.0	17.4	23.1	19.4	18.8	20.7	20.9	28.1
中耳炎	64.5	64.6	45.2	50.5	61.3	49.8	40.7	37.3	27.5	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	63.7	63.8	44.6	50.0	60.8	49.3	40.4	37.0	27.3
その他の中耳及び乳様突起の疾患	18.2	16.9	11.2	10.9	9.3	9.7	6.4	9.4	6.2	0.5	0.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	17.8	16.3	10.8	10.4	8.9	9.3	6.1	9.1	6.0
内耳疾患	15.8	14.4	14.7	13.4	14.2	16.9	14.3	14.8	14.2	1.4	1.5	1.4	1.1	1.0	1.1	1.3	1.4	1.3	14.4	12.9	13.3	12.2	13.1	15.8	13.1	13.4	12.9
その他の耳疾患	19.1	19.3	16.4	19.7	20.8	22.2	20.9	19.4	21.8	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5	18.4	18.5	15.5	18.8	20.0	21.5	20.2	18.8	21.2
IX 循環器系の疾患	1 449.3	1 327.6	1 209.9	1 268.3	1 175.1	1 199.6	1 173.1	1 117.5	1 021.0	326.6	317.1	312.9	318.7	280.3	251.3	240.1	228.6	198.2	1 122.7	1 010.5	897.0	949.5	894.8	948.3	933.0	888.9	822.8
高血圧性疾患	739.4	672.6	607.5	655.8	610.1	670.6	677.8	652.5	598.8	29.1	21.6	13.7	11.6	8.7	7.1	6.4	5.6	4.5	710.3	651.0	593.9	644.2	601.3	663.5	671.4	646.9	594.4
(心疾患(高血圧性のものを除く)) (再掲)	250.2	228.7	200.2	202.8	188.5	192.3	193.9	198.2	188.0	66.4	63.5	59.4	60.2	58.2	58.1	59.9	64.0	58.4	183.8	165.2	140.8	142.6	130.3	134.1	133.9	134.2	129.6
虚血性心疾患	139.1	123.8	100.5	94.6	86.8	77.4	75.0	70.7	65.2	32.3	28.6	24.3	20.9	18.9	16.1	15.3	15.3	11.9	106.8	95.2	76.1	73.7	68.0	61.3	59.7	55.3	53.3
その他の心疾患	111.1	104.9	99.7	108.2	101.6	114.8	118.9	127.5	122.8	34.1	34.9	35.1	39.3	39.3	42.0	44.6	48.6	46.5	77.0	69.9	64.6	68.9	62.3	72.9	74.3	78.9	76.3
(脳血管疾患) (再掲)	389.8	364.9	350.1	356.5	319.3	283.8	253.4	231.9	197.5	215.9	217.6	226.7	233.6	199.4	172.2	159.4	146.0	123.3	173.9	147.3	123.5	122.9	119.9	111.6	94.0	85.9	74.2
脳梗塞	278.8	269.3	257.1	2																							

(単位：千人)

各年10月

傷病大分類	総数									入院									外来								
	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
X 呼吸器系の疾患	917.9	893.6	789.9	836.3	733.1	797.7	759.1	725.8	543.1	66.9	70.8	72.0	78.7	83.8	89.7	90.7	95.9	74.9	851.0	822.8	717.9	757.7	649.3	708.0	668.4	629.9	468.1
急性上気道感染症	347.5	342.6	282.5	287.5	262.1	272.5	249.6	249.8	162.2	2.3	2.6	2.9	2.2	1.5	1.4	1.3	1.2	0.8	345.2	340.0	279.6	285.3	260.6	271.1	248.3	248.5	161.4
肺炎	29.9	30.7	35.4	42.8	46.1	50.3	42.8	43.4	28.1	20.9	23.9	27.3	34.2	37.0	38.3	34.6	35.6	24.0	9.1	6.8	8.1	8.6	9.1	12.0	8.2	7.8	4.1
急性気管支炎及び急性細気管支炎	117.9	114.6	120.5	127.2	102.4	119.4	103.6	93.5	47.1	1.6	2.5	2.7	2.9	2.4	1.9	2.2	2.3	0.7	116.3	112.0	117.7	124.2	100.0	117.4	101.4	91.2	46.4
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	64.1	54.2	45.5	48.6	41.2	41.5	39.9	30.8	23.7	8.9	8.7	7.7	7.5	8.9	9.1	8.3	8.5	6.5	55.1	45.6	37.8	41.1	32.2	32.4	31.6	22.3	17.2
喘息	171.7	167.4	152.8	155.8	118.6	134.0	131.4	124.6	91.8	16.8	14.9	11.6	8.7	5.7	4.4	3.8	3.5	1.9	154.9	152.5	141.2	147.1	112.9	129.7	127.6	121.1	89.9
その他の呼吸器系の疾患	186.7	184.1	153.2	174.5	162.8	180.0	191.9	183.7	190.2	16.4	18.1	19.8	23.2	28.3	34.6	40.5	44.7	41.1	170.3	165.9	133.5	151.3	134.5	145.4	151.4	139.0	149.1
X I 消化器系の疾患	1 599.3	1 374.3	1 286.9	1 373.4	1 318.1	1 364.6	1 375.8	1 359.3	1 331.3	91.6	83.8	75.4	72.0	68.4	64.3	65.9	66.1	60.5	1 507.7	1 290.5	1 211.5	1 301.4	1 249.8	1 300.3	1 310.0	1 293.2	1 270.8
う蝕	314.4	295.3	266.8	315.3	280.7	314.4	283.6	277.1	291.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	314.3	295.2	266.6	315.1	280.5	314.3	283.6	277.1	291.3
歯肉炎及び歯周疾患	236.9	230.4	266.7	318.1	366.8	400.6	444.9	469.2	505.5	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	236.7	230.1	266.4	317.8	366.7	400.5	444.7	469.1	505.4
その他の歯及び歯の支持組織の障害	499.8	396.0	354.7	353.5	319.7	315.9	299.4	273.8	228.7	0.4	0.5	0.4	0.6	0.5	0.7	0.8	0.9	1.1	499.4	395.5	354.3	352.9	319.2	315.2	298.6	272.9	227.6
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	134.0	105.1	85.0	70.2	57.3	44.0	34.5	23.7	14.3	15.4	12.9	10.0	8.1	6.5	5.0	4.3	3.2	2.6	118.6	92.2	75.0	62.2	50.8	39.0	30.3	20.5	11.7
胃炎及び十二指腸炎	138.6	105.8	87.9	85.3	66.8	61.6	74.2	66.6	60.6	3.0	2.4	1.7	1.4	1.1	0.7	0.6	0.6	0.5	135.6	103.5	86.2	83.9	65.7	60.9	73.6	66.1	60.2
肝疾患	110.6	89.5	69.5	60.6	46.0	50.4	40.6	34.3	31.0	22.9	19.6	15.1	12.7	9.8	8.7	8.0	7.4	6.2	87.7	69.9	54.4	47.9	36.2	41.6	32.6	26.9	24.8
その他の消化器系の疾患	165.1	152.2	156.2	170.4	180.8	177.7	198.5	214.6	199.8	49.7	48.0	47.7	48.8	50.1	49.0	52.0	54.0	50.0	115.4	104.2	108.5	121.6	130.7	128.7	146.5	160.6	149.9
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	267.7	286.7	229.0	276.1	265.0	269.8	297.8	315.2	323.5	7.3	8.3	8.6	9.5	12.3	15.8	10.9	11.7	12.0	260.3	278.4	220.4	266.6	252.7	254.0	286.9	303.5	311.6
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	1 036.1	962.4	953.6	1 051.9	1 013.8	1 064.9	947.7	948.6	980.3	76.3	76.3	70.6	68.8	68.5	63.1	69.9	71.3	74.3	959.7	886.1	883.0	983.1	945.3	1 001.8	877.8	877.2	906.0
炎症性多発性関節障害	85.1	76.7	68.6	71.0	65.1	62.5	54.4	54.0	56.5	11.9	11.5	10.3	9.0	7.4	5.3	5.2	4.4	4.0	73.1	65.3	58.3	62.0	57.7	57.2	49.2	49.6	52.6
脊柱障害	540.3	507.4	496.6	553.1	513.3	528.7	481.0	443.2	459.4	34.3	34.4	30.6	28.9	27.7	23.6	26.3	24.4	24.1	506.0	473.0	466.0	524.2	485.6	505.1	454.7	418.8	435.3
骨の密度及び構造の障害	86.6	66.6	65.6	65.6	61.7	56.1	58.0	61.7	66.7	5.4	5.0	3.3	3.0	2.0	1.5	1.9	2.0	1.8	81.2	61.6	62.3	62.6	59.8	54.6	56.1	59.7	65.0
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	324.1	311.7	322.8	362.2	373.7	417.6	354.3	389.6	397.5	24.7	25.4	26.5	27.9	31.5	32.7	36.5	40.5	44.4	299.4	286.3	296.4	334.3	342.2	385.0	317.8	349.1	353.1
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	260.1	248.7	269.7	298.2	336.0	313.6	330.0	371.8	355.8	43.4	44.0	46.9	46.2	47.3	47.6	46.9	50.3	51.5	216.7	204.6	222.8	252.0	288.7	266.0	283.1	321.5	304.3
糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	97.7	102.1	115.8	132.6	170.2	160.5	152.0	188.6	168.5	28.7	29.7	34.0	33.3	34.4	35.2	33.7	35.1	34.2	69.0	72.4	81.8	99.3	135.8	125.3	118.4	153.6	134.3
乳房及び女性生殖器の疾患	78.6	69.5	75.2	69.1	79.4	71.7	81.8	94.2	90.6	3.3	2.9	2.8	2.5	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	75.3	66.6	72.4	66.7	77.1	69.5	79.6	91.8	88.4
その他の腎尿路生殖器系の疾患	83.8	77.2	78.7	96.4	86.4	81.3	96.2	88.9	96.7	11.4	11.5	10.1	10.5	10.6	10.1	11.0	12.8	15.1	72.4	65.6	68.6	86.0	75.8	71.2	85.1	76.1	81.6
X V 妊娠、分娩及び産じょく	44.7	43.8	42.1	33.5	36.6	31.5	33.0	33.4	27.5	26.6	25.4	24.1	19.0	19.4	17.6	18.4	18.3	14.5	18.1	18.4	18.0	14.5	17.1	13.9	14.5	15.1	13.0
流産	3.2	3.2	3.5	2.5	2.8	2.3	2.3	2.2	1.7	1.2	1.0	1.0	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	2.1	2.2	2.5	1.9	2.1	1.8	1.8	1.7	1.3
妊娠高血圧症候群	1.8	1.4	1.1	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.8	1.3	0.9	0.7	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
単胎自然分娩	8.9	7.6	10.4	7.8	7.5	6.9	6.5	7.4	6.4	8.3	7.4	9.5	6.8	6.9	5.7	5.8	6.6	4.7	0.5	0.2	0.9	1.0	0.6	1.2	0.7	0.8	1.7
その他の妊娠、分娩及び産じょく	30.8	31.6	27.1	22.5	25.6	21.8	23.5	23.1	18.7	15.9	16.2	12.8	11.1	11.5	11.0	11.7	10.7	9.0	15.0	15.5	14.3	11.4	14.1	10.8	11.8	12.4	9.7
X VI 周産期に発生した病態	8.5	8.5	8.5	8.2	8.8	9.2	9.6	10.1	9.6	6.7	6.0	6.3	6.2	6.1	6.6	6.7	7.0	6.4	1.8	2.5	2.2	2.0	2.6	2.6	2.9	3.0	3.3
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	20.6	18.7	16.1	17.8	18.7	17.3	20.0	19.8	19.2	7.1	7.2	6.2	5.8	5.7	5.8	5.8	5.7	5.6	13.5	11.5	9.9	12.0	12.9	11.4	14.3	14.1	13.6
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	105.1	92.8	87.2	100.0	105.3	102.3	92.9	93.2	87.0	21.8	22.5	21.3	23.8	18.8	18.6	16.0	14.4	12.5	83.3	70.2	65.9	76.3	86.5	83.7	76.9	78.9	74.5
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	437.0	443.5	400.9	426.4	444.9	442.4	437.8	436.7	423.4	117.2	120.5	118.6	122.5	125.6	124.8	131.3	137.7	134.5	319.8	323.1	282.2	303.9	319.3	317.6	306.5	299.0	289.0
骨折	151.9	160.5	155.5	167.8	179.7	182.3	183.4	196.0	194.2	73.1	77.0	79.2	82.5	85.2	85.6	91.4	97.4	97.4	78.8	83.6	76.3	85.3	94.6	96.7	92.0	98.6	96.8
その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	285.0	283.0	245.4	258.6	265.2	260.1	254.4	240.6	229.3	44.0	43.5	39.4	40.1	40.4	39.2	39.9	40.3	37.0	241.0	239.5	205.9	218.5	224.8	220.9	214.5	200.4	192.2
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	459.4	424.5	444.7	527.1	603.1	754.8	741.4	712.2	1 011.4	17.6	15.8	10.4	9.8	9.9	8.3	9.7	12.1	10.1	441.8	408.8	434.3	517.4	593.3	746.5	731.7	700.1	1 001.3
正常妊娠・産じょくの管理	48.4	41.2	39.4	37.2	40.7	40.1	39.6	35.2	30.1	7.6	7.3	5.7	4.3	3.4	3.6	2.7	2.5	2.2	40.8	33.9	33.7	32.9	37.3	36.4	36.9	32.7	27.9
歯の補てつ	254.1	222.4	246.7	267.5	302.6	313.0	305.7	292.4	246.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	254.0	222.4	246.7	267.5	302.6	313.0	305.7	292.4	246.2
その他の保健サービス	156.9	160.9	158.5	222.4	259.8	401.7	396.0	384.5	735.1	9.9	8.5	4.7	5.4	6.5	4.7	7.0	9.6	7.9	147.0	152.5	153.9	217.0	253.4	397.0	389.0	375.0	727.2
X X II 特殊目的用コード	6.7	2.9	3.8
重症急性呼吸器症候群[SARS]、詳細不明	-	-	-
その他の特殊目的用コード	6.7	2.9	3.8

注：1) 平成23年は、宮城県、石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

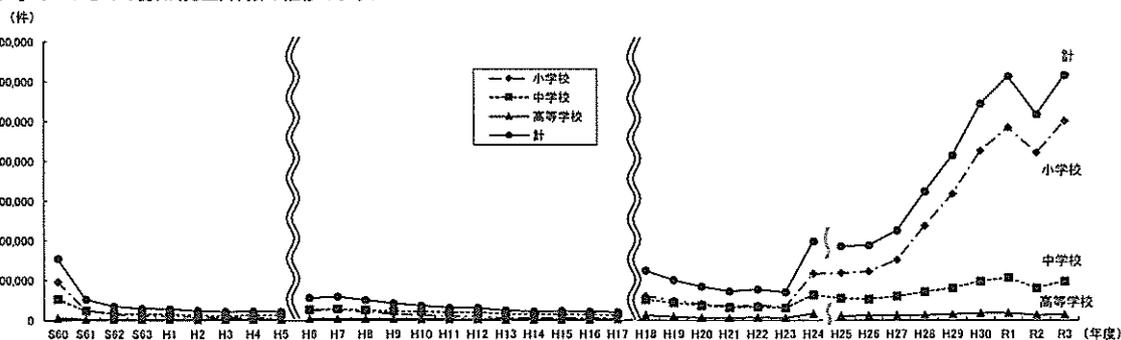
2) 傷病大分類については、平成29年から「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用しており、「脂質異常症」と「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」を分けて表章している。

<参考1> いじめの認知(発生)件数・認知(発生)率の推移

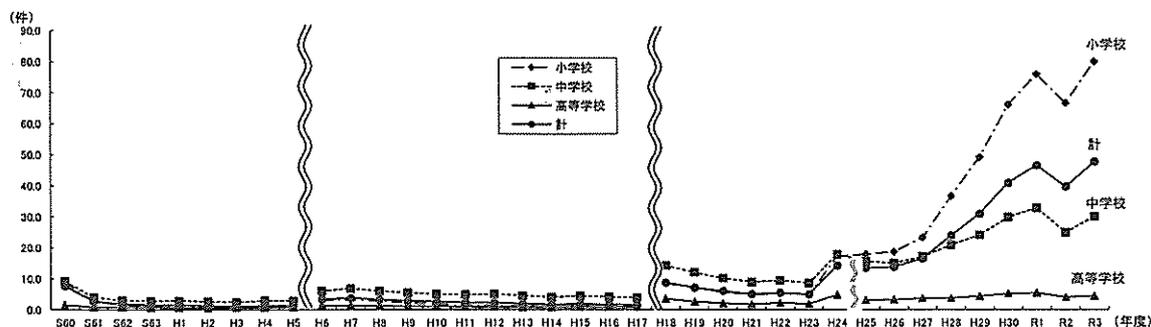
		小学校	小学校	中学校	中学校	高等学校	高等学校	特別支援学校 (特殊教育諸 学校)	特別支援学校 (特殊教育諸 学校)	計	計
		認知(発生)件 数 (件)	1,000人当 たりの認知 (発生)件 数 (件)	認知(発生)件 数 (件)	1,000人当 たりの認知 (発生)件 数 (件)	認知(発生)件 数 (件)	1,000人当 たりの認知 (発生)件 数 (件)	認知(発生)件 数 (件)	1,000人当 たりの認知 (発生)件 数 (件)	認知(発生)件 数 (件)	1,000人当 たりの認知 (発生)件 数 (件)
1985年度	昭和60年度	96,457	8.8	52,891	9.2	5,718	1.5	***	***	155,066	7.6
1986年度	昭和61年度	26,306	2.5	23,690	4.0	2,614	0.7	***	***	52,610	2.6
1987年度	昭和62年度	15,727	1.6	16,796	2.9	2,544	0.7	***	***	35,067	1.8
1988年度	昭和63年度	12,122	1.2	15,452	2.7	2,212	0.6	***	***	29,786	1.5
1989年度	平成元年度	11,350	1.2	15,215	2.8	2,523	0.6	***	***	29,088	1.5
1990年度	平成2年度	9,035	1.0	13,121	2.6	2,152	0.5	***	***	24,308	1.3
1991年度	平成3年度	7,718	0.9	11,922	2.4	2,422	0.6	***	***	22,062	1.2
1992年度	平成4年度	7,300	0.8	13,632	2.9	2,326	0.6	***	***	23,258	1.3
1993年度	平成5年度	6,390	0.7	12,817	2.8	2,391	0.7	***	***	21,598	1.3
1994年度	平成6年度	25,295	3.0	26,828	6.1	4,253	1.3	225	2.6	56,601	3.5
1995年度	平成7年度	26,614	3.2	29,069	6.8	4,184	1.3	229	2.6	60,096	3.8
1996年度	平成8年度	21,733	2.7	25,862	6.1	3,771	1.2	178	2.1	51,544	3.3
1997年度	平成9年度	16,294	2.1	23,234	5.5	3,103	1.0	159	1.8	42,790	2.8
1998年度	平成10年度	12,858	1.7	20,801	5.1	2,576	0.9	161	1.8	36,396	2.5
1999年度	平成11年度	9,462	1.3	19,383	4.9	2,391	0.8	123	1.4	31,359	2.2
2000年度	平成12年度	9,114	1.3	19,371	5.1	2,327	0.8	106	1.2	30,918	2.2
2001年度	平成13年度	6,206	0.9	16,635	4.5	2,119	0.7	77	0.8	25,037	1.8
2002年度	平成14年度	5,659	0.8	14,562	4.0	1,908	0.7	78	0.8	22,205	1.6
2003年度	平成15年度	6,051	0.9	15,159	4.4	2,070	0.8	71	0.7	23,351	1.7
2004年度	平成16年度	5,551	0.8	13,915	4.1	2,121	0.8	84	0.9	21,671	1.6
2005年度	平成17年度	5,087	0.7	12,794	3.8	2,191	0.9	71	0.7	20,143	1.5
2006年度	平成18年度	60,897	8.5	51,310	14.2	12,307	3.5	384	3.7	124,898	8.7
2007年度	平成19年度	48,896	6.9	43,505	12.0	8,355	2.5	341	3.2	101,097	7.1
2008年度	平成20年度	40,807	5.7	36,795	10.2	6,737	2.0	309	2.8	84,648	6.0
2009年度	平成21年度	34,766	4.9	32,111	8.9	5,642	1.7	259	2.2	72,778	5.1
2010年度	平成22年度	36,909	5.3	33,323	9.4	7,018	2.1	380	3.1	77,630	5.5
2011年度	平成23年度	33,124	4.8	30,749	8.6	6,020	1.8	338	2.7	70,231	5.0
2012年度	平成24年度	117,384	17.4	63,634	17.8	16,274	4.8	817	6.4	198,109	14.3
2013年度	平成25年度	118,748	17.8	55,248	15.6	11,039	3.1	768	5.9	185,803	13.4
2014年度	平成26年度	122,734	18.6	52,971	15.0	11,404	3.2	963	7.3	188,072	13.7
2015年度	平成27年度	151,692	23.2	59,502	17.1	12,664	3.6	1,274	9.4	225,132	16.5
2016年度	平成28年度	237,256	36.5	71,309	20.8	12,874	3.7	1,704	12.4	323,143	23.8
2017年度	平成29年度	317,121	49.1	80,424	24.0	14,789	4.3	2,044	14.5	414,378	30.9
2018年度	平成30年度	425,844	66.0	97,704	29.8	17,709	5.2	2,676	19.0	543,933	40.9
2019年度	令和元年度	484,545	75.8	106,524	32.8	18,352	5.4	3,075	21.7	612,496	46.5
2020年度	令和2年度	420,897	66.5	80,877	24.9	13,126	4.0	2,263	15.9	517,163	39.7
2021年度	令和3年度	500,562	79.9	97,937	30.0	14,157	4.4	2,695	18.4	615,351	47.7

(注1)平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。
 (注2)平成6年度及び平成18年度に調査方法を改めている。
 (注3)平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。
 (注4)平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。
 (注5)小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

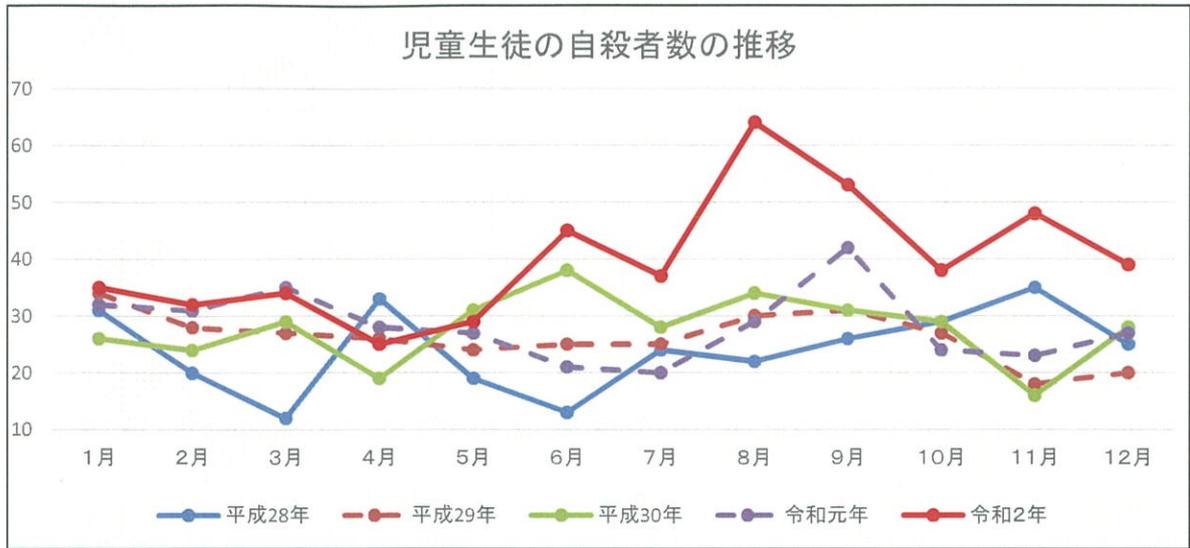
<参考2> いじめの認知(発生)件数の推移のグラフ



<参考3> いじめの認知(発生)率の推移(1,000人当たりの認知件数)のグラフ



厚生労働省の自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移



児童生徒の月別自殺者数の総数(小・中・高)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
令和元年	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
令和2年	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
H28	総数	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
	小学生	3	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1	1	12
	中学生	8	6	3	9	3	2	5	10	5	10	9	11	81
	高校生	20	13	9	23	15	11	17	12	20	18	25	13	196
H29	総数	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
	小学生	1	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	1	9
	中学生	9	9	9	7	6	5	11	10	8	10	6	10	100
	高校生	24	19	17	19	16	19	12	19	23	17	12	9	206
H30	総数	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
	小学生	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	6
	中学生	11	8	7	2	6	7	11	15	11	9	7	15	109
	高校生	13	16	22	16	25	31	17	18	20	20	7	13	218
R1	総数	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
	小学生	0	0	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	6
	中学生	11	7	10	7	5	6	6	10	12	2	9	11	96
	高校生	21	24	22	20	22	15	13	19	29	22	14	16	237
R2	総数	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
	小学生	2	1	1	1	0	1	0	1	2	1	3	1	14
	中学生	12	14	9	7	6	17	9	17	14	9	6	16	136
	高校生	21	17	24	17	23	27	28	46	37	28	39	22	329

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

スクールカウンセラー等活用事業の予算額及び配置の推移

年度	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3 【計画】
配置箇所数 (箇所)	154	553	1065	1661	2015	2250	4406	6572	6941	8485	9547	10158	11460	12263	15,461 の内数	16,012 の内数	15,476 の内数	17,621 の内数	20,310	22,013	24,254	24,661	26,337	26,160	29,411	29,643	30,681
予算額 (百万円)	307	1100	2174	3274	3378	3552	4006	4495	3994	4200	4217	4217	5051	3365	14,261 の内数	13,093 の内数	9,450 の内数	8,516 の内数	3,892	4,113	4,024	4,527	4,559	4,569	4,738	4,866	5,278

- 平成21年度～平成24年度は、学校・家庭・地域の連携協力推進事業の一部として実施。
- 平成25年度から、いじめ対策等総合推進事業の一メニューとして実施。
- 平成29年度から、いじめ対策・不登校支援等総合推進事業の一メニューとして実施。
- 配置箇所数及び配置人数については、平成28年度から緊急スクールカウンセラー等活用事業の活用による配置を含む。

スクールカウンセラー配置校(箇所)数の推移(平成7年度～令和3年度)



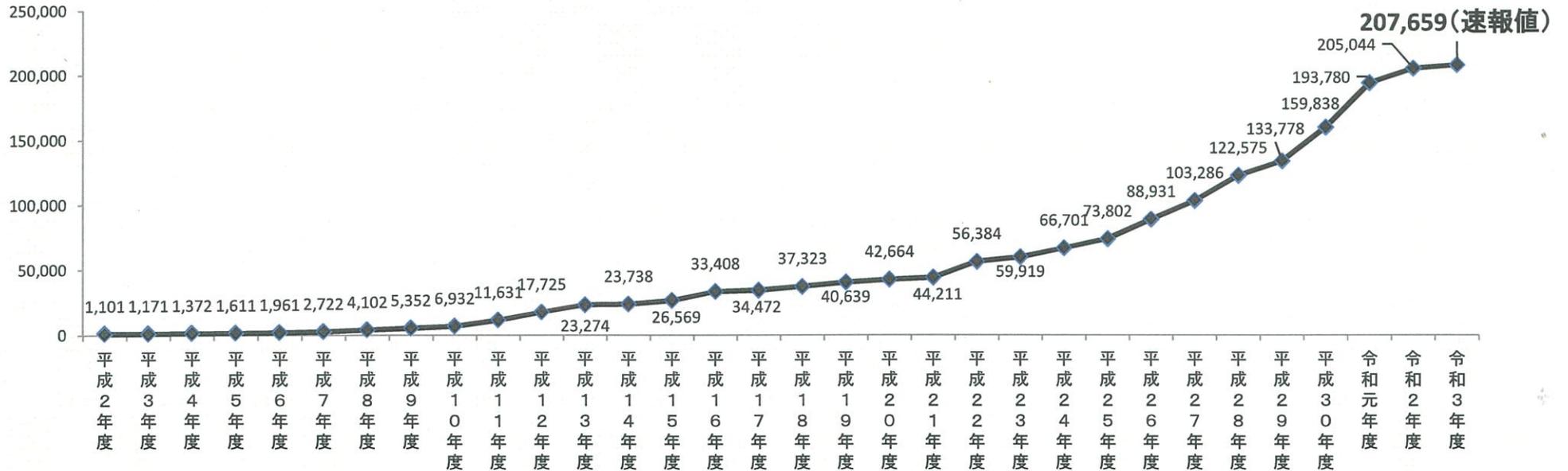
児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

1. 令和3年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

令和3年度中に、全国225か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は 207,659 件（速報値）で、過去最多。

- ※ 対前年度比+1.3%（2,615件の増加）（令和2年度：対前年度比+5.8%（11,264件の増加））
- ※ 相談対応件数とは、令和3年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

2. 児童虐待相談対応件数の推移



年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (速報値)
件数	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,659
対前年度比	+3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%

(注) 平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加（令和2年度：121,334件→令和3年度：124,722件（+3,388件））
- 家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告の増加（令和2年度：46,521件→令和3年度：47,948件（+1,427件））

(令和2年度と比して児童虐待相談対応件数が増加した自治体からの聞き取り)

- 虐待相談窓口の普及などにより、家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告が増加。

児童虐待防止対策体制総合強化プラン

平成 30 年 12 月 18 日

児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議決定

1. 目的

2016 年 5 月に全会一致で成立した児童福祉法等の一部を改正する法律（平成 28 年法律第 63 号。以下「平成 28 年改正法」という。）においては、子どもの家庭養育優先原則や国・都道府県・市町村の役割と責務の明確化など児童福祉法の理念を明確化するとともに、児童虐待に関する対策強化の一環として、児童相談所及び市町村の体制・専門性の強化等が講じられた。

また、児童福祉司等の専門職の配置の充実や資質の向上を図るなど、児童相談所の体制及び専門性を計画的に強化するため、「児童相談所強化プラン」（平成 28 年 4 月 25 日厚生労働省児童虐待防止対策推進本部決定）を策定した。

しかしながら、児童虐待については、児童相談所への児童虐待相談対応件数が年々増加の一途をたどっており、重篤な児童虐待事件も後を絶たないなど依然として深刻な社会問題となっている。

こうした中、本年 3 月に東京都目黒区で発生した児童虐待事案を受けて、6 月 15 日に「児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議」が開催され、子どもの命を守ることを何より第一に据え、すべての行政機関が、あらゆる手段を尽くすよう、緊急に対策を講じることとされた。これを受けて、「児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策」（平成 30 年 7 月 20 日児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議決定。以下「緊急総合対策」という。）が取りまとめられた。

緊急総合対策に基づき、暮らす場所や年齢にかかわらず、全ての子どもが、地域でのつながりを持ち、虐待予防のための早期対応から発生時の迅速な対応、虐待を受けた子どもの自立支援等に至るまで、切れ目ない支援を受けられる体制の構築を目指し、児童虐待に対応する専門機関である児童相談所や市町村の体制と専門性強化について、これまでの取組に加えて、更に進めるため、「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」

(新プラン)を策定する。

児童虐待防止対策の強化に向け、国・自治体・関係機関が一体となって、必要な取組を強力に進めていく。

2. 対象期間

新プランの対象期間は、2019年度から2022年度までとする。

3. 児童相談所の体制強化

(1) 児童福祉司の増員

児童虐待発生時の迅速・的確な対応を確保するとともに、家庭養育の推進、市町村の相談支援体制の強化を図るため、子ども・保護者等への指導等を行う児童福祉司について、次の①及び②のとおり配置標準を見直した上、2017年度の約3,240人から2022年度までに全国で2,020人程度増員する。

① 児童相談所の人口当たり配置標準の見直し

児童虐待相談及びそれ以外の相談を併せた児童福祉司一人当たり業務量が50ケース相当から40ケース相当(注)となるよう、児童相談所の管轄区域の人口を4万人から3万人に見直す。

(注)児童虐待相談における業務量として換算したケース数

② 里親養育支援児童福祉司・市町村支援児童福祉司の配置

- ・里親養育支援体制の構築及び里親委託の推進を図るため、各児童相談所に、里親養育支援のための児童福祉司を配置する。
- ・市町村における相談支援体制・専門性の強化を図るため、児童相談所に、市町村を支援するための児童福祉司を、都道府県の管内30市町村につき1人(指定都市は1人)配置する。

【目標】2017年度 3,240人

→ 2022年度 5,260人(+2,020人程度)

(2) スーパーバイザーの増員

児童福祉司の職務遂行能力の向上等を図るため、他の児童福祉司

の指導・教育を行う児童福祉司（スーパーバイザー）について、児童福祉司の増員に応じて増員する（児童福祉司の増員の内数）。

【目標】 2017 年度 620 人

→ 2022 年度 920 人（+300 人程度）

（3）児童心理司の増員

虐待等により心に傷を負った子どもへのカウンセリング等の充実を図るため、2024 年度までに心理に関する専門的な知識・技術に基づき指導を行う児童心理司について、児童福祉司（里親養育支援児童福祉司及び市町村支援児童福祉司を除く。）2 人につき 1 人配置することとし（2,500 人）、2022 年度までに全国で 790 人程度増員する。また、児童相談所に配置する児童心理司の配置人数に関する基準を法令上に規定することを検討する。

【目標】 2017 年度 1,360 人

→ 2022 年度 2,150 人（+790 人程度）

（4）保健師の増員

子どもの健康・発達面に関する支援の充実を図るため、保健師について、2020 年度までに全国で 110 人程度増員する。

【目標】 2017 年度 100 人

→ 2020 年度 各児童相談所（+110 人程度）

（5）弁護士的配置等

任期付き職員の活用も含めた弁護士の常勤配置などにより、児童相談所における法的対応体制を強化する。

（6）一時保護の体制強化

必要な一時保護に対応できるよう、一時保護所における定員設定や職員の研修等の専門性向上策について、都道府県社会的養育推進計画の策定要領に基づき適切に計画に盛り込み、計画的に取り組を進める。

一時保護所の個室化の推進や、一時保護専用施設（児童養護施設等において、本体施設とは別に、小規模なグループケアによる一時保護を実施する専用施設をいう。）の設置促進、里親など地域における一時保護委託先の確保等により、個別性を尊重した一時保護が行われるよ

結果の概要

【事業所調査】

1 メンタルヘルス対策に関する事項

(1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者の状況

過去1年間(令和2年11月1日から令和3年10月31日までの期間)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者がいた事業所の割合は10.1%[令和2年調査9.2%]となっている。

このうち、連続1か月以上休業した労働者がいた事業所の割合は8.8%[同7.8%]、退職した労働者がいた事業所の割合は4.1%[同3.7%]となっている。

また、メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者の割合は0.5%[同0.4%]、退職した労働者の割合は0.2%[同0.1%]となっている。(第1表)

第1表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者
又は退職した労働者がいた事業所割合及び労働者割合

区 分	事業所計 ¹⁾	該当する 労働者が いた	(複数回答)		常用労働者計	連続1か月 以上休業し た労働者 ²⁾	退職した 労働者 ²⁾³⁾
			連続1か月 以上休業し た労働者が いた ²⁾	退職した 労働者が いた ²⁾³⁾			
令和3年	100.0	10.1	8.8	4.1	100.0	0.5	0.2
(事業所規模)							
1,000人以上	100.0	94.0	92.5	68.6	100.0	0.9	0.2
500～999人	100.0	80.5	77.0	49.3	100.0	0.9	0.2
300～499人	100.0	69.2	65.0	33.2	100.0	0.7	0.2
100～299人	100.0	39.0	36.5	13.9	100.0	0.5	0.1
50～99人	100.0	25.5	22.1	12.9	100.0	0.5	0.2
30～49人	100.0	9.2	8.2	2.9	100.0	0.3	0.1
10～29人	100.0	5.4	4.4	2.0	100.0	0.4	0.2
(産業)							
農業、林業(林業に限る。)	100.0	10.0	6.9	6.1	100.0	0.3	0.2
鉱業、採石業、砂利採取業	100.0	3.1	1.8	1.3	100.0	0.1	0.1
建設業	100.0	5.6	3.3	3.2	100.0	0.3	0.2
製造業	100.0	15.9	13.3	6.4	100.0	0.6	0.2
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	34.8	33.5	6.9	100.0	1.2	0.2
情報通信業	100.0	29.6	26.7	11.7	100.0	1.2	0.3
運輸業、郵便業	100.0	8.6	7.9	2.5	100.0	0.4	0.1
卸売業、小売業	100.0	9.6	8.5	3.9	100.0	0.6	0.2
金融業、保険業	100.0	17.1	15.9	6.3	100.0	1.2	0.3
不動産業、物品賃貸業	100.0	9.5	8.7	2.8	100.0	0.4	0.1
学術研究、専門・技術サービス業	100.0	17.7	14.6	5.9	100.0	0.8	0.2
宿泊業、飲食サービス業	100.0	0.8	0.7	0.2	100.0	0.0	0.0
生活関連サービス業、娯楽業	100.0	5.6	5.4	0.7	100.0	0.3	0.1
教育、学習支援業	100.0	12.0	9.8	6.2	100.0	0.4	0.2
医療、福祉	100.0	10.4	9.7	5.2	100.0	0.5	0.3
複合サービス事業	100.0	23.4	20.6	7.3	100.0	0.8	0.2
サービス業(他に分類されないもの)	100.0	10.9	8.8	4.6	100.0	0.3	0.1
令和2年	100.0	9.2	7.8	3.7	100.0	0.4	0.1

注:1)「事業所計」には、該当する労働者がいなかった事業所を含む。

2)「連続1か月以上休業した労働者」及び「退職した労働者」には、受け入れている派遣労働者は含まない。

3) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、「退職した労働者」のみに計上している。

(2) メンタルヘルス対策への取組状況

メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合は 59.2%[令和2年調査 61.4%]となっている。

メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所について、取組内容(複数回答)をみると、「ストレスチェックの実施」が 65.2%[同 62.7%]と最も多く、次いで「職場環境等の評価及び改善(ストレスチェック結果の集団(部、課など)ごとの分析を含む)」が 54.7%[同 55.5%]となっている。(第2表)

第2表 メンタルヘルス対策の取組内容別事業所割合

区分	メンタルヘルス対策の取組内容(複数回答)									
	メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所計 ¹⁾	メンタルヘルス対策の取組内容(複数回答)								健康診断後の保健指導等を通じた産業保健スタッフによるメンタルヘルス対策の実施
		メンタルヘルス対策について、衛生委員会又は安全衛生委員会での調査審議	メンタルヘルス対策に関する問題を解決するための計画の策定と実施	メンタルヘルス対策の実務を行う担当者の選任	メンタルヘルス対策に関する労働者への教育研修・情報提供	メンタルヘルス対策に関する労働者への教育研修・情報提供	メンタルヘルス対策に関する事業所内の産業保健スタッフへの教育研修・情報提供	職場環境等の評価及び改善(ストレスチェック結果の集団(部、課など)ごとの分析を含む)		
令和3年 (事業所規模)	[59.2]	100.0	25.8	22.0	34.7	34.7	30.5	13.9	54.7	35.5
1,000人以上	[98.6]	100.0	84.5	65.1	82.0	80.8	81.6	53.9	96.8	72.1
500～999人	[99.7]	100.0	74.8	53.3	65.6	68.2	65.1	44.7	89.7	59.5
300～499人	[97.9]	100.0	68.8	42.6	58.1	60.9	57.1	37.7	92.1	49.1
100～299人	[97.4]	100.0	62.1	33.1	50.7	45.8	42.9	23.9	81.4	49.4
50～99人	[92.2]	100.0	55.3	25.9	47.9	39.4	35.8	22.5	77.1	48.0
30～49人	[70.7]	100.0	22.7	20.4	37.5	35.6	30.5	16.0	55.8	35.6
10～29人	[49.6]	100.0	13.6	19.2	27.9	31.0	26.5	9.0	44.6	30.1
(再掲)50人以上	[94.4]	100.0	58.9	30.1	50.1	43.7	40.4	24.6	79.7	49.0
令和2年 (事業所規模)	[61.4]	100.0	35.9	20.7	37.0	33.0	30.9	14.4	55.5	36.0
50人以上	[92.8]	100.0	63.5	32.5	52.8	42.7	39.3	24.2	79.6	50.6
30～49人	[69.1]	100.0	36.2	21.7	40.2	38.8	33.2	14.8	53.0	30.0
10～29人	[53.5]	100.0	26.1	16.2	30.6	28.2	27.4	10.9	47.7	32.3

区分	メンタルヘルス対策の取組内容(複数回答)								メンタルヘルス不調の労働者に対する必要な配慮の実施	その他
	ストレスチェックの実施 ²⁾	職場復帰における支援(職場復帰支援プログラムの策定を含む)	メンタルヘルス対策に関する事業所内での相談体制の整備	地域産業保健センター(地域窓口)を活用	産業保健総合支援センターを活用	医療機関を活用	他の外部機関を活用 ³⁾			
令和3年 (事業所規模)	65.2	24.8	50.2	4.8	4.8	11.8	13.7	50.2	1.7	
1,000人以上	99.1	84.1	93.4	2.5	14.4	23.1	43.2	88.4	3.4	
500～999人	97.0	70.8	85.9	8.0	5.8	27.2	31.7	81.4	3.6	
300～499人	99.2	56.1	79.9	3.8	5.6	22.6	23.8	70.7	1.6	
100～299人	98.3	40.0	64.2	1.4	4.4	17.9	18.5	63.5	1.3	
50～99人	93.7	28.8	54.1	4.9	4.5	17.2	17.4	48.9	0.3	
30～49人	63.3	24.9	52.9	6.8	9.3	12.3	12.6	52.0	2.3	
10～29人	53.7	20.6	45.7	4.6	3.5	9.3	12.1	47.5	2.0	
(再掲)50人以上	95.6	35.4	59.8	3.8	4.7	18.0	18.7	55.9	0.8	
令和2年 (事業所規模)	62.7	24.8	50.7	4.3	3.9	11.3	15.8	53.8	2.8	
50人以上	91.5	34.2	59.3	3.2	5.2	19.9	17.1	59.0	2.9	
30～49人	62.4	25.6	44.0	6.6	3.6	12.2	15.5	57.9	2.1	
10～29人	52.7	21.2	49.4	4.1	3.5	8.1	15.4	51.0	2.9	

注:1) []は、全事業所のうち、メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合である。
 2) 令和2年は、「労働者のストレスの状況などについて調査票を用いて調査(ストレスチェックの実施)」として調査を行った。
 3) 「他の外部機関」とは、精神保健福祉センター、(一社)日本産業カウンセラー協会などの心の健康づくり対策を支援する活動を行っている機関、メンタルヘルス支援機関などをいう。

ページ3: 社会福祉士の登録者数の推移

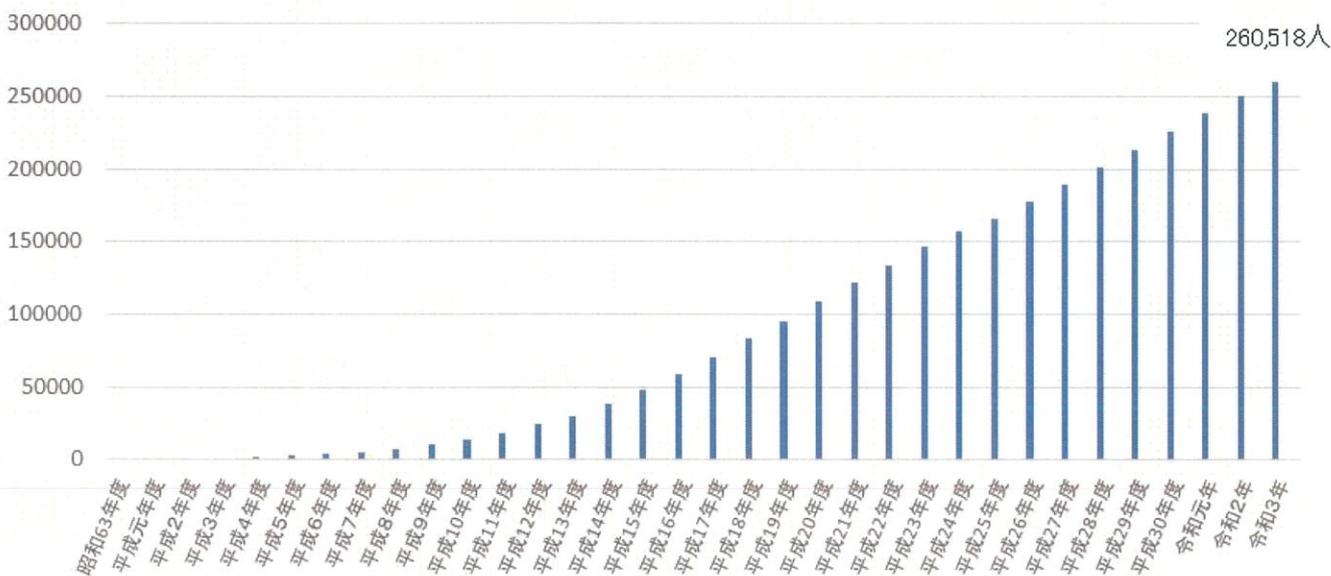
社会福祉士・介護福祉士等

- [ページ1: 社会福祉士の概要について](#)
- [ページ2: 社会福祉士の資格取得方法](#)
- [ページ3: 社会福祉士の登録者数の推移](#)
- [ページ4: 介護福祉士の概要について](#)
- [ページ5: 介護福祉士の資格取得方法](#)
- [ページ6: 介護福祉士の登録者数の推移](#)
- [ページ7: 介護福祉士試験における介護技術講習制度の実施について](#)
- [ページ8: 社会福祉主事について](#)
- [ページ9: 社会福祉主事任用資格の取得方法](#)
- [前のページへ](#)
- [次のページへ](#)

ページ3: 社会福祉士の登録者数の推移

社会福祉士の登録者数の推移

社会福祉士登録者数は、令和3年9月末時点で、26万518人となっている。



社会福祉士

S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
0	168	527	1,033	1,873	2,783	3,801	5,309	7,485	10,267	13,650	18,375	24,006	29,979	38,157
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
48,409	58,952	70,968	83,355	95,216	108,877	122,138	134,066	146,220	157,463	165,494	177,896	189,903	201,433	213,145
H30	R1	R2	R3											
226,283	238,696	250,346	260,518											

※ 各年度9月末時点

II 社会福祉士の状況

1 他の資格の保有状況

他の資格の保有状況を見ると、「介護支援専門員」の割合が37.6%と最も高く、次いで「介護福祉士」の割合が30.7%と高かった。

(n=100,281)	回答数(人)	割合(%)
介護福祉士	30,754	30.7
精神保健福祉士	21,129	21.1
社会福祉士実習指導者	18,635	18.6
介護支援専門員(ケアマネジャー)	37,743	37.6
訪問介護員(ホームヘルパー)	20,932	20.9
看護師、准看護師	3,955	3.9
相談支援専門員	9,978	10.0
保育士	9,214	9.2
行政書士	883	0.9
この中に保有する資格はない	21,010	21.0
無回答	536	0.5

…「社会福祉士」のみ保有とする。

2 資格保有数

社会福祉士以外に選択肢内にある他の資格を複数保有する割合が78.5%であった。

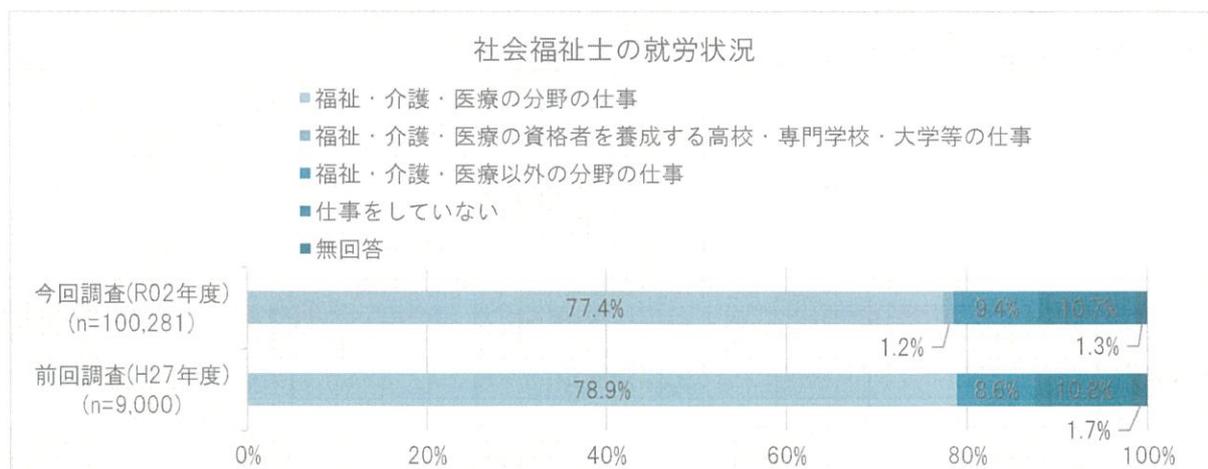
(n=100,281)	回答数(人)	割合(%)
1	21,546	21.5
2	32,016	31.9
3	26,707	26.6
4以上	20,012	20.0

78.5%

3 就労状況

就労状況を前回調査(平成27年度)との比較で見ると、「福祉・介護・医療の分野の仕事」の割合が77.4%(前回調査78.9%)となっており、概ね同じ割合であった。

なお、「福祉・介護・医療の資格者を養成する高校・専門学校・大学等の仕事」は、前回調査にはない選択肢である。



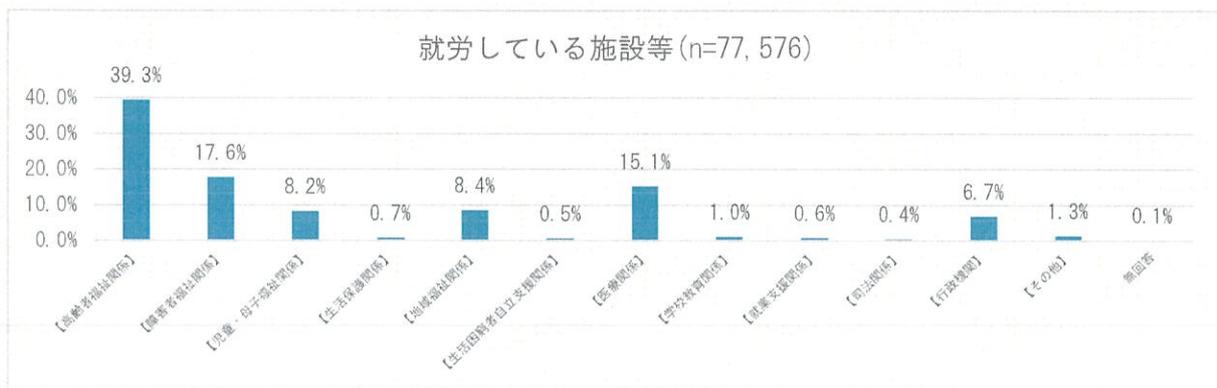
【回答者の内訳】

	回答数(人)	割合(%)
全体	100,281	100.0
現在、福祉・介護・医療の分野で仕事をしている	77,576	77.4
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がある	44,017	43.9
過去に福祉・介護・医療の資格者を養成する学校等で教員として仕事の経験がある	380	0.4
過去に福祉・介護・医療分野以外の仕事の経験がある	13,544	13.5
現在の職場以外で働いた経験がない	18,031	18.0
無回答	1,604	1.6
現在、福祉・介護・医療の資格者を養成する高校・専門学校・大学等で仕事をしている	1,234	1.2
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がある	949	0.9
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がない	219	0.2
無回答	66	0.1
現在、福祉・介護・医療以外の分野で仕事をしている	9,439	9.4
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がある	5,778	5.8
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がない	3,515	3.5
無回答	146	0.1
現在、仕事をしていない	10,778	10.7
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がある	9,284	9.3
過去に福祉・介護・医療分野の仕事の経験がない	1,194	1.2
無回答	300	0.3
無回答	1,254	1.3

4 現在、福祉・介護・医療の分野で就労している社会福祉士の状況

(1) 施設・事業所別の職種・職位の状況

就労状況をみると、【高齢者福祉関係】の割合が39.3%と最も高く、施設・事業所別では「病院・診療所」14.4%、「介護老人福祉施設」10.0%の順で割合が高かった。
また、施設・事業所ごとの職種・職位の構成をみると、「相談員」13.3%、「介護支援専門員」11.4%、「医療ソーシャルワーカー」10.0%の順で割合が高かった。



【就労状況（施設・事業所別、職種・職位別）】

	回答数(人)	割合(%)	経営者	管理者	主任、相談部門の	介護支援専門員	地域の社会福祉士	障害者相談支援専門員	児童自立支援専門員	医療ソーシャルワーカー	スクールソーシャルワーカー	相談員	指導員	ヘルパー(含む)	介護職員(ホーム)	支援員	事務職員	その他	無回答
全体	77,576	100.0	2.4%	9.9%	7.7%	11.4%	5.0%	2.8%	0.2%	10.0%	0.8%	13.3%	3.2%	7.5%	8.6%	7.5%	9.7%	0.1%	
【高齢者福祉関係】 小計	30,510	39.3	2.7%	12.8%	7.0%	27.9%	11.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	14.2%	0.1%	16.8%	0.4%	2.2%	3.9%	0.1%	
介護老人福祉施設	7,755	10.0	1.7%	16.1%	10.3%	10.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.1%	32.5%	0.4%	3.5%	3.4%	0.1%	
介護老人保健施設	2,623	3.4	0.6%	6.7%	13.8%	11.5%	0.2%	-	-	0.8%	-	38.6%	0.1%	20.5%	0.2%	2.9%	4.2%	-	
介護医療院、介護療養型医療施設	186	0.2	2.7%	5.4%	7.0%	17.7%	-	-	0.5%	20.4%	-	10.8%	1.1%	23.1%	0.5%	1.6%	8.6%	0.5%	
居宅サービス事業所	2,607	3.4	6.4%	17.3%	6.4%	24.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	-	16.1%	0.1%	22.6%	0.1%	2.8%	3.6%	0.1%	
地域密着型サービス事業所	2,150	2.8	7.7%	24.0%	5.1%	15.6%	0.2%	0.0%	-	-	-	15.3%	-	28.2%	0.2%	1.2%	2.4%	0.1%	
居宅介護支援事業所	6,206	8.0	3.9%	8.2%	2.6%	82.6%	0.0%	0.0%	-	-	0.0%	0.3%	-	1.7%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	
地域包括支援センター	5,837	7.5	0.1%	7.6%	5.0%	17.5%	60.5%	0.1%	0.1%	-	-	3.5%	0.0%	0.1%	0.2%	0.5%	4.6%	0.1%	

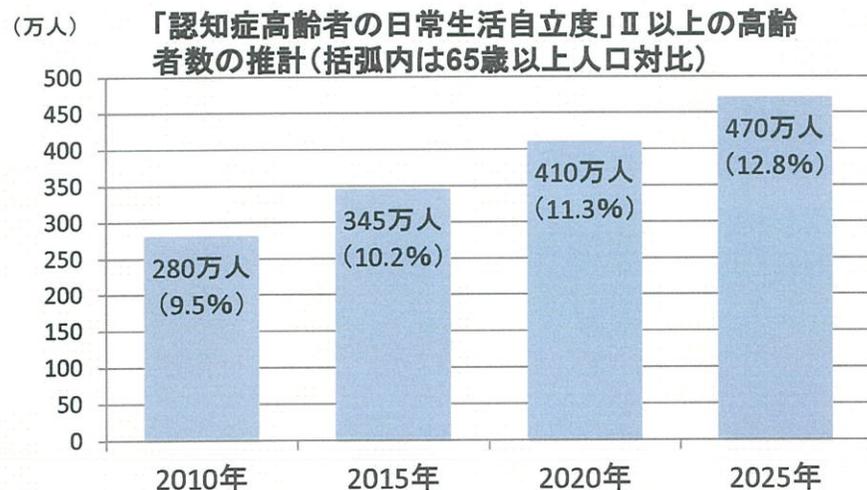
	回答数 (人)	割合 (%)	経営者	施設長、 事務所管	主任、 相談部門の	介護支援専門員	地域包括支援セン ターの社会福祉士	障害者相談支援専門員	児童自立支援専門員	医療ソーシャルワーカー	スクールソーシャルワーカー	相談員	指導員	介護職員(ホームヘルパー含む)	支援員	事務職員	その他	無回答	
その他の高齢者福祉関係	3,146	4.1	3.0%	17.0%	7.8%	8.3%	0.2%	-	0.0%	0.1%	0.0%	21.6%	0.2%	23.0%	1.7%	5.8%	11.4%	-	
【障害者福祉関係】 小計	13,678	17.6	3.2%	15.2%	10.4%	0.1%	0.1%	14.1%	0.1%	0.1%	0.0%	6.5%	4.4%	2.9%	35.9%	2.9%	4.0%	0.1%	
身体障害者更生相談所	37	0.0	2.7%	13.5%	10.8%	2.7%	-	5.4%	-	-	-	27.0%	-	-	8.1%	18.9%	10.8%	-	
知的障害者更生相談所	55	0.1	5.5%	7.3%	10.9%	-	-	3.6%	-	-	-	12.7%	-	-	36.4%	7.3%	14.5%	1.8%	
障害者支援施設	6,203	8.0	2.2%	14.1%	12.6%	0.1%	0.1%	1.3%	0.0%	0.0%	-	2.5%	3.2%	3.7%	54.2%	3.0%	3.0%	0.1%	
基幹相談支援センター	485	0.6	1.0%	8.5%	12.8%	0.6%	-	42.1%	0.2%	-	-	30.5%	0.4%	-	0.4%	2.3%	0.6%	0.6%	
相談支援事業所	2,431	3.1	2.8%	8.4%	6.7%	0.3%	0.1%	66.0%	0.2%	0.1%	0.0%	12.9%	0.1%	0.1%	1.1%	0.6%	0.4%	0.1%	
就労支援事業所	2,290	3.0	4.5%	22.4%	9.9%	0.1%	0.0%	0.6%	-	0.1%	-	3.4%	11.6%	0.1%	40.9%	2.0%	4.5%	-	
その他の障害者福祉関係	2,177	2.8	5.6%	20.3%	8.4%	0.1%	0.1%	1.2%	0.0%	0.2%	-	8.3%	5.7%	7.6%	25.9%	5.8%	10.5%	0.1%	
【児童・母子福祉関係】 小計	6,339	8.2	2.1%	10.2%	8.1%	1.0%	0.1%	1.4%	1.7%	0.3%	0.1%	15.7%	24.9%	0.3%	10.6%	3.1%	20.2%	0.1%	
児童相談所	1,140	1.5	0.1%	2.9%	11.1%	-	-	0.1%	0.5%	-	0.1%	40.4%	8.9%	-	3.1%	3.7%	28.8%	0.4%	
乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設	1,112	1.4	1.2%	9.0%	11.3%	4.7%	0.1%	-	1.2%	-	-	9.5%	39.3%	-	13.1%	2.4%	8.2%	-	
児童家庭支援センター	259	0.3	-	3.5%	8.1%	0.4%	-	0.4%	2.3%	0.3%	0.4%	65.6%	1.2%	-	6.2%	1.9%	7.7%	-	
障害児施設(入所・通所)	1,714	2.2	3.7%	15.3%	7.1%	-	-	0.9%	0.9%	2.5%	-	2.1%	43.4%	0.9%	15.2%	1.9%	8.1%	0.1%	
障害児相談支援事業所	150	0.2	2.7%	6.7%	6.7%	0.7%	-	46.7%	2.7%	-	-	22.0%	6.0%	0.7%	2.7%	1.3%	1.3%	-	
保育所	869	1.1	3.6%	14.8%	6.0%	0.9%	-	-	0.5%	0.5%	-	1.4%	2.3%	0.1%	3.6%	4.7%	61.3%	0.3%	
子育て世代包括支援センター	101	0.1	-	10.9%	4.0%	-	4.0%	2.0%	5.0%	-	2.0%	43.6%	1.0%	-	5.0%	8.9%	13.9%	-	
婦人保護施設	50	0.1	-	6.0%	8.0%	2.0%	-	-	2.0%	-	-	26.0%	8.0%	2.0%	32.0%	-	14.0%	-	
その他の児童・母子福祉関係	944	1.2	2.4%	9.3%	5.3%	-	-	-	5.7%	0.2%	0.4%	12.9%	27.8%	-	16.5%	4.1%	15.3%	-	
【生活保護関係】 小計	514	0.7	0.6%	12.1%	10.3%	0.4%	-	-	0.4%	1.8%	0.8%	19.8%	12.1%	5.4%	19.3%	9.1%	7.6%	0.4%	
保護施設	277	0.4	0.7%	14.1%	13.4%	-	-	-	0.7%	1.4%	0.7%	15.2%	18.4%	9.4%	19.9%	4.0%	2.2%	-	
無料低額宿泊所	37	0.0	-	37.8%	8.1%	2.7%	-	-	-	13.5%	2.7%	16.2%	-	-	16.2%	2.7%	-	-	
その他の生活保護関係	200	0.3	0.5%	4.5%	6.5%	0.5%	-	-	-	-	0.5%	27.0%	5.5%	1.0%	19.0%	17.5%	16.5%	1.0%	
【地域福祉関係】 小計	6,539	8.4	3.3%	9.1%	11.0%	1.4%	1.6%	1.1%	-	0.1%	0.0%	22.8%	0.6%	0.9%	5.2%	25.7%	17.1%	0.1%	
福祉事務所	980	1.3	0.1%	2.1%	6.2%	0.4%	-	-	-	0.3%	0.1%	30.6%	2.0%	-	8.6%	26.1%	23.2%	0.2%	
都道府県社会福祉協議会	397	0.5	0.3%	5.3%	10.1%	0.5%	0.5%	0.3%	-	-	-	13.1%	-	0.3%	3.3%	58.7%	7.8%	-	
市区町村社会福祉協議会	4,698	6.1	0.4%	11.2%	12.9%	1.7%	2.2%	1.3%	-	-	-	22.9%	0.4%	1.2%	4.8%	24.5%	16.2%	0.1%	
独立型社会福祉士事務所	262	0.3	67.6%	3.8%	0.4%	0.4%	-	1.1%	-	0.8%	0.8%	5.3%	-	-	0.8%	1.1%	17.2%	0.8%	
その他の地域福祉関係	202	0.3	7.9%	9.9%	3.5%	0.5%	1.0%	1.0%	-	0.5%	-	22.3%	1.0%	-	8.9%	16.8%	26.7%	-	
【生活困窮者自立支援関係】 小計	410	0.5	1.2%	5.9%	17.3%	0.5%	-	-	0.2%	1.2%	-	61.7%	1.0%	-	7.1%	1.2%	2.4%	0.2%	
ひきこもり地域支援センター	40	0.1	2.5%	10.0%	5.0%	5.0%	-	-	2.5%	10.0%	-	52.5%	-	-	5.0%	-	7.5%	-	
その他の生活困窮者自立支援関係	370	0.5	1.1%	5.4%	18.6%	-	-	-	-	0.3%	-	62.7%	1.1%	-	7.3%	1.4%	1.9%	0.3%	
【医療関係】 小計	11,727	15.1	0.5%	1.4%	6.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	64.3%	0.0%	5.3%	0.3%	1.4%	0.2%	7.4%	12.3%	0.1%	
病院・診療所	11,170	14.4	0.2%	1.2%	6.2%	0.4%	0.0%	0.1%	-	67.1%	0.0%	5.2%	0.3%	1.4%	0.2%	6.6%	10.9%	0.1%	
その他の医療関係	557	0.7	5.4%	6.5%	3.8%	0.2%	0.4%	0.5%	0.2%	9.9%	0.2%	8.3%	0.7%	0.5%	0.7%	23.3%	39.5%	-	
【学校教育関係】 小計	770	1.0	0.4%	0.9%	1.4%	0.3%	0.1%	-	-	0.4%	62.7%	3.2%	3.4%	0.8%	8.7%	1.6%	16.0%	0.1%	
小学校、中学校	389	0.5	0.3%	-	0.3%	-	-	-	-	-	78.1%	2.1%	1.3%	0.3%	12.6%	-	5.1%	-	
高等学校	69	0.1	-	-	2.9%	2.9%	-	-	-	2.9%	65.2%	1.4%	-	2.9%	-	1.4%	20.3%	-	
大学、短大等	54	0.1	-	1.9%	5.6%	-	1.9%	-	-	1.9%	14.8%	7.4%	-	-	5.6%	18.5%	42.6%	-	
その他の学校教育関係	258	0.3	0.8%	2.3%	1.9%	-	-	-	-	-	48.8%	4.7%	8.1%	1.2%	5.8%	0.4%	25.6%	0.4%	
【就業支援関係】 小計	503	0.6	0.4%	7.6%	9.1%	-	0.2%	3.0%	-	-	-	34.8%	4.0%	-	24.3%	2.8%	13.7%	0.2%	
公共職業安定所(ハローワーク)	94	0.1	-	1.1%	1.1%	-	-	3.2%	-	-	-	77.7%	1.1%	-	3.2%	4.3%	8.5%	-	
障害者職業センター	63	0.1	-	1.6%	-	-	-	3.2%	-	-	-	15.9%	3.2%	-	27.0%	1.6%	46.0%	1.6%	
障害者就業・生活支援センター	196	0.3	-	11.2%	19.4%	-	0.5%	3.6%	-	-	-	28.6%	0.5%	-	32.7%	-	3.6%	-	
その他の就業支援関係	150	0.2	1.3%	9.3%	4.7%	-	-	2.0%	-	-	-	24.0%	10.7%	-	25.3%	6.0%	16.7%	-	
【司法関係】 小計	278	0.4	2.2%	3.2%	7.2%	0.4%	0.4%	-	-	-	0.4%	25.9%	2.2%	-	6.1%	6.8%	44.6%	0.7%	
矯正施設	84	0.1	-	-	1.2%	-	-	-	-	-	-	1.2%	32.1%	3.6%	-	10.7%	2.4%	48.8%	-
保護観察所、地方更生保護委員会	52	0.1	-	-	9.6%	-	-	-	-	-	-	1.9%	-	-	-	21.2%	67.3%	-	
更生保護施設	31	0.0	-	9.7%	29.0%	3.2%	-	-	-	-	-	9.7%	6.5%	-	9.7%	-	32.3%	-	
地域生活定着支援センター	48	0.1	2.1%	8.3%	8.3%	-	2.1%	-	-	-	-	64.6%	-	-	8.3%	-	4.2%	2.1%	
その他の司法関係	63	0.1	7.9%	3.2%	1.6%	-	-	-	-	-	-	15.9%	1.6%	-	1.6%	9.5%	57.1%	1.6%	
【行政機関】 小計	5,202	6.7	0.1%	1.4%	4.4%	1.3%	3.8%	0.8%	0.3%	0.6%	2.8%	23.1%	1.7%	0.1%	3.7%	33.1%	22.6%	0.2%	
都道府県庁	437	0.6	0.2%	1.1%	3.7%	0.5%	-	0.2%	3.2%	1.1%	5.5%	24.5%	4.1%	0.5%	5.9%	28.6%	20.6%	0.2%	
区役所(特別区)	778	1.0	0.3%	0.8%	4.6%	1.0%	0.4%	1.2%	-	0.4%	2.6%	28.7%	2.2%	0.1%	7.3%	23.8%	26.6%	0.1%	
市役所、町村役場	3,680	4.7	-	1.5%	4.5%	1.6%	5.2%	0.8%	0.1%	0.4%	2.1%	20.6%	1.2%	0.1%	2.9%	36.9%	21.9%	0.1%	
その他の行政機関	307	0.4	-	2.3%	2.9%	0.3%	1.0%	-	0.3%	2.3%	7.2%	36.5%	2.9%	-	2.0%	17.6%	24.4%	0.3%	
【その他】 小計	1,018	1.3	13.9%	5.1%	3.3%	0.4%	0.1%	0.1%	-	2.0%	0.1%	12.9%	2.2%	1.5%	4.2%	14.4%	39.4%	0.4%	
その他	1,018	1.3	13.9%	5.1%	3.3%	0.4%	0.1%	0.1%	-	2.0%	0.1%	12.9%	2.2%	1.5%	4.2%	14.4%	39.4%	0.4%	
無回答	88	0.1	3.4%	2.3%	1.1%	6.8%	1.1%	1.1%	-	5.7%	-	12.5%	3.4%	4.5%	4.5%	5.7%	8.0%	39.8%	

今後の高齢者人口の見通しについて

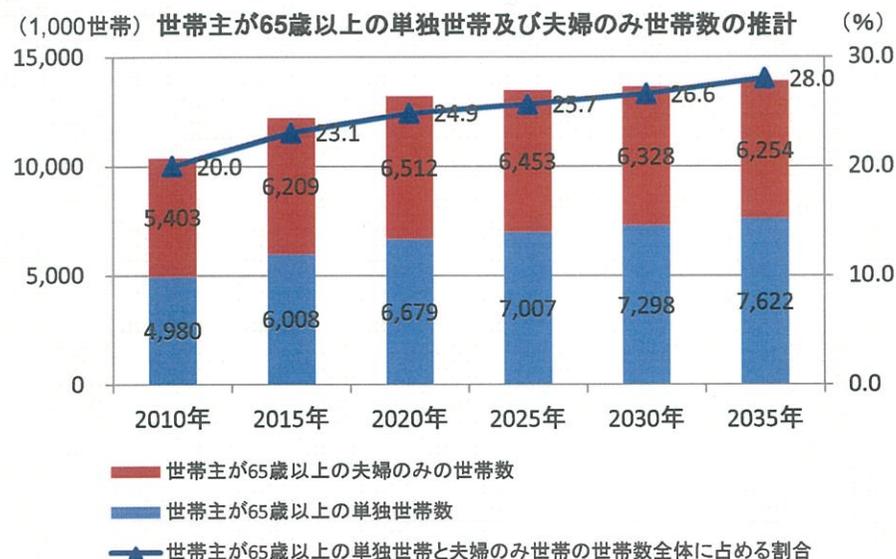
① 65歳以上の高齢者数は、2025年には3,657万人となり、2042年にはピークを迎える予測(3,878万人)。また、75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には、25%を超える見込み。

	2012年8月	2015年	2025年	2055年
65歳以上高齢者人口(割合)	3,058万人(24.0%)	3,395万人(26.8%)	3,657万人(30.3%)	3,626万人(39.4%)
75歳以上高齢者人口(割合)	1,511万人(11.8%)	1,646万人(13.0%)	2,179万人(18.1%)	2,401万人(26.1%)

② 65歳以上高齢者のうち、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者が増加していく。



③ 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく。



④ 75歳以上人口は、都市部では急速に増加し、もともと高齢者人口の多い地方でも緩やかに増加する。各地域の高齢化の状況は異なるため、各地域の特性に応じた対応が必要。

	埼玉県	千葉県	神奈川県	大阪府	愛知県	東京都	～	鹿児島県	島根県	山形県	全国
2010年 <>は割合	58.9万人 <8.2%>	56.3万人 <9.1%>	79.4万人 <8.8%>	84.3万人 <9.5%>	66.0万人 <8.9%>	123.4万人 <9.4%>		25.4万人 <14.9%>	11.9万人 <16.6%>	18.1万人 <15.5%>	1419.4万人 <11.1%>
2025年 <>は割合 ()は倍率	117.7万人 <16.8%> (2.00倍)	108.2万人 <18.1%> (1.92倍)	148.5万人 <16.5%> (1.87倍)	152.8万人 <18.2%> (1.81倍)	116.6万人 <15.9%> (1.77倍)	197.7万人 <15.0%> (1.60倍)		29.5万人 <19.4%> (1.16倍)	13.7万人 <22.1%> (1.15倍)	20.7万人 <20.6%> (1.15倍)	2178.6万人 <18.1%> (1.53倍)



スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー による教育相談体制の充実

令和4年度予算額
(前年度予算額)

77億円
72億円

- ◆ 義務教育段階の不登校児童生徒数は、平成24年度から8年連続で全体の人数・児童生徒千人当たりの人数ともに増加しており、**様々な課題を抱える児童生徒への早期支援、不登校状態にある児童生徒への手厚い支援に向けた相談体制の充実が必要。**
- ◆ また、社会問題化している昨今の児童虐待相談対応件数の急増等を踏まえ、**学校における児童虐待の未然防止・早期発見や、児童虐待発生時の迅速・的確な対応**に向けた相談体制の充実も喫緊の課題。
- ◆ さらに、令和3年6月に成立した「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」や、令和3年5月に取りまとめた「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」報告書等を踏まえ、**児童生徒性暴力等の早期対応に向けた相談体制の充実も課題。**



スクールカウンセラー等活用事業

令和4年度予算額：5,581百万円(前年度予算額：5,278百万円)

補助制度

- ✓ 補助割合：国 1/3、都道府県・政令指定都市 2/3
- ✓ 実施主体：都道府県・政令指定都市
- ✓ 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等

求められる能力・資格

- ✓ 児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する者
⇒児童の心理に関する支援に従事(学教法施行規則)
- ✓ 公認心理師、臨床心理士等

基盤となる配置

- ✓ **全公立小中学校**に対する配置(27,500校)
- ✓ 配置時間：週1回概ね4時間程度

基礎配置に加え、配置時間を週1回4時間加算

⇒重点配置の活用により、**週1回8時間(終日)以上の配置も可能**

重点配置等

いじめ
不登校

- **いじめ・不登校対策**のための重点配置：**2,000校**(←1,000校)

※不登校特例校や夜間中学への配置を含む

- **教育支援センター**の機能強化：**250箇所**

虐待
貧困

- **虐待対策**のための重点配置：**1,500校**(←1,200校)

- **貧困対策**のための重点配置：**1,900校**(←1,400校)

質の向上

- **スーパーバイザー**の配置：**90人**

上記のほか、**自殺予防教育実施の支援**を含む

スクールソーシャルワーカー活用事業

令和4年度予算額：2,132百万円(前年度予算額：1,938百万円)

- ✓ 補助割合：国 1/3、都道府県・政令指定都市・中核市 2/3
- ✓ 実施主体：都道府県・政令指定都市・中核市
- ✓ 補助対象経費：報酬・期末手当、交通費等

- ✓ 福祉に関して専門的な知識・経験を有する者
⇒児童の福祉に関する支援に従事(学教法施行規則)
- ✓ 社会福祉士、精神保健福祉士等

- ✓ **全中学校区**に対する配置(10,000中学校区)
- ✓ 配置時間：週1回3時間

基礎配置に加え、配置時間を週1回3時間加算

⇒重点配置の活用により、**週2回や週3回の配置も可能**

- **いじめ・不登校対策**のための重点配置：**2,000校**(←1,000校)

※不登校特例校・夜間中学への配置を含む

- **教育支援センター**の機能強化：**250箇所**

- **虐待対策**のための重点配置：**2,000校**(←1,500校)

- **貧困対策**のための重点配置：**2,900校**(←1,400校)

※ヤングケアラー支援のための配置を含む

- **スーパーバイザー**の配置：**90人**

就職の状況

学部	学科	平成29年度					平成30年度					令和元年度				
		卒業者数(人)	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数	卒業者数(人)	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数	卒業者数(人)	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数
文学部	日本語日本文学科	56	52	49	94.2	11,907	43	36	33	91.7	12,792	51	44	43	97.7	12,566
	歴史文化学科	44	31	29	93.5	11,852	48	38	35	92.1	12,743	49	40	37	92.5	12,527
文学部計		100	83	78	94.0	11,930	91	74	68	91.9	12,815	100	84	80	95.2	12,576
教育学部 教育学科	幼児教育専攻	119	112	110	98.2	12,050	121	112	110	98.2	13,031	116	107	103	96.3	12,954
	学校教育専攻	80	70	70	100.0	11,873	91	88	86	97.7	12,763	95	84	81	96.4	12,579
	特別支援教育専攻	29	29	29	100.0	11,856	32	30	29	96.7	12,738	34	32	30	93.8	12,579
教育学部計		228	211	209	99.1	12,162	244	230	225	97.8	13,162	245	223	214	96.0	13,012
人間社会学部	人間社会学科	79	68	62	91.2	11,985	80	71	68	95.8	12,871	77	69	63	91.3	12,650
	スポーツ健康学科	113	99	97	98.0	11,881	123	113	113	100.0	12,761	112	105	99	94.3	12,556
人間社会学部計		192	167	159	95.2	12,030	203	184	181	98.4	12,917	189	174	162	93.1	12,697
薬学部	薬学科	103	89	83	93.3	11,918	127	70	68	97.1	12,862	145	99	97	98.0	12,659
薬学部計		103	89	83	93.3	11,918	127	70	68	97.1	12,862	145	99	97	98.0	12,659
合計		623	550	529	96.2	13,470	665	558	542	97.1	14,494	679	580	553	95.3	14,292

学部	学科	令和2年度					令和3年度				
		卒業者数(人)	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数	卒業者数(人)	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	求人社数
文学部	日本語日本文学科	56	50	47	94.0	12,013	49	44	41	93.2	11,408
	歴史文化学科	42	36	30	83.3	11,981	49	44	39	88.6	11,380
文学部計		98	86	77	89.5	12,025	98	88	80	90.9	11,423
教育学部 教育学科	幼児教育専攻	117	109	108	99.1	12,606	126	123	122	99.2	11,933
	学校教育専攻	77	73	71	97.3	12,122	84	77	69	89.6	11,499
	特別支援教育専攻	33	31	31	100.0	12,099	33	32	32	100.0	11,460
教育学部計		227	213	210	98.6	12,709	243	232	223	96.1	12,016
人間社会学部	人間社会学科	76	66	61	92.4	12,203	78	69	64	92.8	11,538
	スポーツ健康学科	110	92	90	97.8	12,036	105	99	92	92.9	11,401
人間社会学部計		186	158	151	95.6	12,264	183	168	156	92.9	11,598
薬学部	薬学科	127	89	87	97.8	11,938	123	78	77	98.7	11,280
薬学部計		127	89	87	97.8	11,938	123	78	77	98.7	11,280
合計		638	546	525	96.2	13,811	647	566	536	94.7	13,036



注意：小数第二位四捨五入のため、内訳の合計は100%にならない。

・就職率は就職希望者に対し、実際に就職した就職者の割合を記載。

大阪大谷大学 人間社会学部『心理・福祉学科』 に関する受容性調査

【企業向け】調査結果報告書

2023年2月

株式会社アンド・ディ

目次

▶ 調査概要	3
▶ 調査票・呈示資料	4
▶ 調査結果	10
・ 回答企業のプロフィール	11
・ <採用状況>これまでの採用者数	12
・ <採用状況>今後の採用方針	13
・ 大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』の学びの特徴について	14
・ 大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』の採用意向	16
・ 採用意向人数	17

調査概要

▶調査目的

- 大阪大谷大学が計画している人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)設置について、周辺エリアを中心とした企業・団体に学科の必要性・卒業生の採用検討意向を聴取し、受容性を確認する。

▶調査対象と調査方法

- 大阪大谷大学の卒業生の採用実績がある企業
 - 調査対象企業に調査票を送付し、郵送で回収。

▶調査期間

- 2022年11月24日(月)～2022年12月22日(木)

▶有効回答数

- 79社(有効回答率39.5%) 発送数200社に対し

▶調査機関

- 株式会社アンド・ディ

<調查票・呈示資料>

依頼状

2022年11月吉日

人事・採用ご担当者様

大阪大谷大学
学長 浅尾 広良
(公印省略)

「大阪大谷大学の新学科等に関するアンケート」実施ご協力をお願い

拝啓 晩秋の候、貴社・貴団体におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、日頃は本学の教育研究に対し、ご理解並びにご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、このたび本学では、2024年4月に新学科「心理・福祉学科(仮称)」の設置を構想しております。
つきましては、この設置計画の内容を一層充実したものとするため、貴社・貴団体の人事・採用の責任者、
担当者の皆様のご意向をお聞かせいただきたく、調査へのご協力をお願いさせていただいた次第でございます。
ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、同封しております「心理・福祉学科(仮称)」の概要をご高覧の上、
アンケート回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。
この調査で得られた情報は、新学科の設置構想にかかる統計資料としてのみ活用いたします。本調査の趣旨を
ご理解いただき、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
末筆ながら、今後の貴社・貴団体のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

記

- 調査内容 貴社・貴団体の概要について、構想中の新学科の新規卒業生の採用意向
- 調査対象 本学への求人実績がある企業・団体の人事・採用の責任者、担当者の皆様
- 実施方法 アンケート用紙とともに、返送用封筒(料金受取人払)を同封し、お送りしております。
ご回答後は、返送用封筒にアンケート用紙を入れ、ご返送願います。

■アンケート返送期限

誠に勝手ながら、2022年12月22日(木)を目途にご投函くださいますようお願いいたします。

※このアンケート調査は、所定の契約を結んだ上、下記調査会社に業務委託しております。

- 調査内容・記入方法に関するお問合せは、下記宛にお問い合わせください。
【調査委託会社】株式会社アンド・ディ 調査担当:羽生田(はにゅうだ)、信時(のぶとき)
〈社団法人日本マーケティング・リサーチ協会 正会員 No.20143〉
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-5 ビュロー西新橋 2F
メール:post2@and-d.co.jp / 電話:0120-09-8401
受付時間:月～金(祝日を除く) 10:00～17:00

■本件に関するお問合せ

大阪大谷大学 学長室大学企画課 担当:森田
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3-11-1
メール:yomorita@osaka-ohtani.ac.jp / 電話:0721-24-0381(代表番号)
受付時間:月～金(祝日を除く) 9:00～17:30

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、テレワークを推進しています。お問合せはメールでお願いいたします。

以上

調査票

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称) 設置構想に関するアンケート

大阪大谷大学では現在、変化する社会において求められる人材育成ニーズに対応するため、2024年4月に新学科「心理・福祉学科」(仮称)の設置を構想しております。

皆様から回答いただいた内容は、文部科学省への新学科設置申請資料として提出するとともに、本学の教育をより充実させるための資料とさせていただきます。皆様から得られた情報は、新学科の設置構想にかかる統計資料としてのみ活用いたします。

業務ご多用の折、大変お手数ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。

誠に勝手ながら、下記期日までにご回答いただきますようお願い致します。

2022年12月22日(木) 当日消印有効

※同封の返信用封筒(切手不要)にてご投函ください。

はじめに貴社についてお聞きします。

問1. 貴社・貴団体の主業種をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|-------------------|------------------|-------------------|
| 1. 建設業 | 2. 製造業 | 3. 情報・通信業 |
| 4. 放送、新聞、出版 | 5. 運輸業 | 6. 金融業、保険業 |
| 7. 不動産業、賃貸業 | 8. 卸売・小売業 | 9. 飲食店、宿泊業 |
| 10. 保健医療・社会福祉関連事業 | 11. 学校・学習支援業 | 12. 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 13. その他サービス | 14. 官公庁・自治体・公共団体 | 15. その他() |

問2. 貴社・貴団体の所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。

都道府県

問3. 貴社・貴団体の従業員規模として、あてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 50人未満 | 2. 50~99人 | 3. 100~299人 |
| 4. 300~499人 | 5. 500~999人 | 6. 1,000~2,999人 |
| 7. 3,000~4,999人 | 8. 5,000~9,999人 | 9. 10,000人以上 |

問4. 貴社・貴団体の本年度2022年4月入社の大学新卒採用状況についておうかがいします。

大学卒の方の採用者数として、あてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|-----------------|-----------|-----------|
| 1. 大学新卒採用なし(0人) | 2. 1~9人 | 3. 10~49人 |
| 4. 50~99人 | 5. 100人以上 | |

問 5. 貴社・貴団体の来年度 2023 年 4 月入社¹の大学新卒採用について、現時点でどのようにお考えですか。
貴社・貴団体の方針にもっとも近いものをお選びください。(ひとつに○)

1. 2022 年度よりも増える 2. 2022 年度と同程度 3. 2022 年度よりも減る
4. 大学新卒採用は行わない 5. 未定・わからない

問 5. で「4. 大学新卒採用は行わない」を選んだ方は、ここで終了になります。ご協力ありがとうございました。

ここからは、大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)についてお聞きします。
別途お配りしたリーフレットをよくお読みいただき、お答えください。

問 6. 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)の学び・取組みには、以下のような特徴があります。

- a) 魅力的であると感じる特徴について、番号をお選びください。(いくつでも○)
b) 他の大学にはないと思う特徴について、番号をお選びください。(いくつでも○)

	a 魅力的 である (いくつでも○) ↓	b 他大学 にはない (いくつでも○) ↓
1 公認心理師をはじめとする、心理学の資格が取得できる。	1	1
2 社会福祉士をはじめとする、社会福祉学の資格が取得できる。	2	2
3 公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格の取得を目指すことができる。	3	3
4 ビジネスや情報など、社会科学系の科目の学習の機会がある。	4	4
5 実習やインターンシップの機会が多い。	5	5

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称)の新卒採用についてお聞きします。

問 7. 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えですか。貴社・貴団体のお考えにもっとも近いものをお選びください。(ひとつに○)

1. 採用対象になる 2. おそらく採用対象になる 3. 採用対象として検討してもよい
4. あまり採用対象にはならない 5. 採用対象にはならない

問 8. 問 7 で、「1. 採用対象になる」「2. おそらく採用対象になる」「3. 採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きします。

何人程度の採用が見込めるか、おおよそで結構ですので人数を下欄ご記入ください。

大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称)卒業生の採用見込み数: 人程度

アンケートはこれで終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

専門的な力と。幅広い知識と。

本学科の特長は、心理や福祉の専門知識はもちろん、社会科学や情報など、社会で役立つ多彩な知識を身につけられること。多様化するニーズに応える力を備え、さまざまな分野で活躍できる「心理」「福祉」の専門家を育てます。

心理・福祉学科の4つのポイント

POINT
01

資格取得も見据え、
2回生から専門コースに
分れて深く学ぶ

公認心理師などが目指せる「心理コース」と、社会福祉士などが目指せる「社会福祉コース」の2コース制。各分野の専門知識を学ぶとともに、資格取得に向けた準備も行います。

公認心理師と社会福祉士の
ダブルライセンスを目指すことも可能!

心理コース

学校や病院、会社など、様々な場面で活用できる心理学を学ぶコースです。ストレスマネジメントなど「こころのケア」をはじめ、ビジネスシーンで役立つ産業心理学なども学べます。適応指導教室や医療機関での実習も充実。公認心理師の受験資格取得に対応したカリキュラムを設置し、さらに実際の資格取得を目指しての大学院受験もサポートします。

社会福祉コース

育児不安や介護負担、就労困難など、現代の社会では多くの人が生活上のさまざまな困りごとを抱えています。このような人々を援助し、問題の解決にあたる専門職が社会福祉士です。このコースでは社会福祉士の国家資格取得を丁寧にサポート。社会福祉現場での豊富な実習科目を通して、高い実践力を備えた社会福祉士を育てます。

POINT
02

資格取得・
就職に向けて
徹底的にサポート

手厚いキャリア支援は、大阪大谷大学の強みのひとつ。きめ細かい指導に加え、学部学科独自の「キャリア開発支援室」「実習支援室」なども設置。一人ひとりが希望の進路に進めるようサポートします。また、多彩な資格が目指せる点も特長です。

目指せる資格

社会福祉士(国) / 公認心理師(国) / 医療管理秘書士 / 保健医療ソーシャルワーカー ※ (国)は「国家資格」の略

取得できる資格

社会調査士 / 社会教育主事 / 社会福祉主事 / スクールソーシャルワーカー / 認定心理士 / カウンセリング実務士 / 学校司書資格 / 学芸員資格

主な卒業後の進路*

▶ 奈良大学大学院 ▶ 帝塚山学院大学大学院 ▶ 関西福祉科学大学大学院 ▶ 社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園(公認心理師法第7条第2号認定施設) ▶ 大阪府社会福祉職 ▶ 堺市社会福祉職 ▶ 株式会社エイブル ▶ 株式会社河合塾マナビス ▶ 紀の里農業協同組合(JA紀の里) ▶ 社会医療法人大道路会 ▶ 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 など

*人間社会学科 心理コース・社会福祉コース 最近の進路実績より

POINT
03

豊富な現場体験で
実践的に学び、
力をつける

教室の外へ飛び出し、地域や企業でアクティブに学ぶ授業を多数設けています。身につけた知識を社会に活かす方法を実践的に学びながら、社会人に必要な力を培い、実際に体験することにより、将来の目標を定める機会としても機能します。

POINT
04

社会科学系・
情報系の学びで幅広い
知識を身につける

ビジネス、情報、スポーツなど、さまざまな分野の科目を履修することで、心理学や社会福祉学の知見を活かしながら、広く企業や市役所などでの活躍を目指すこともできます。

履修できる科目(抜粋)

- 経営学概論
- 国際社会学
- 情報社会学
- NGO・NPO論
- マーケティング論
- スポーツ心理学

心理・福祉学科における 人材育成イメージ

▶ 豊かな協働力

企業や病院、学校など、多様な専門性を有する人材と一緒にチームで、主体的に行動するための資質・能力の向上

人が生涯にわたり健康で豊かな
生活を送るために、

多角的視点から 社会に 貢献する人材

▶ 高い対人援助力

個々の人間に寄り添い、問題の解決に必要な心理学や社会福祉学の専門知識・スキルの修得および倫理観の涵養

▶ 幅広い教養

社会の現状やその変化を読み解くとともに、組織の担い手として活躍するための知識・スキルの獲得



〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-11-1
入試広報課 TEL.0721-24-1031 FAX.0721-24-5120
<https://www.osaka-ohtani.ac.jp>

ACCESS

- 近鉄長野線「滝谷不動」駅から徒歩約500m
南海高野線「金剛」(急行停車)駅から徒歩約10分
近鉄 「大阪阿部野橋」駅から徒歩約35分
南海 「なんば」駅から徒歩約36分
JR 「大阪」駅から徒歩約56分

大阪大谷大学入試情報サイト

CLUB oh!

学部学科紹介や入試情報はもちろん、大阪大谷大学でのキャンパスライフなどを紹介します! ぜひチェックしてみよう!

CLUB oh! 大谷



*QRコードによっては読み取れない場合があります。

<調査結果>

回答企業のプロフィール

- 所在地は、「大阪府」が96%。
- 回答企業の業種は、「卸売・小売業」が53%で最も多い。
 - 次いで「製造業」(18%)、「建設業」(10%)。
- 従業員規模は「100~299人」が最も高く、34%。
 - 次いで「50~99人」(17%)、「300~499人」(15%)。

●Q2SFN 貴社・貴団体の所在地(本社・主たる事業所等)をお答えください。

		(単位:%)	東京都	大阪府	愛媛県	無回答
全体	(n= 79)		1.3	96.2	1.3	1.3
従業員規模別	100人未満 (n= 16)		-	100.0	-	-
	100~499人 (n= 39)		-	100.0	-	-
	500~2,999人 (n= 18)		5.6	83.3	5.6	5.6
	3,000人以上 (n= 6)		-	100.0	-	-
採用意向別	採用意向あり・計 (n= 75)		1.3	96.0	1.3	1.3
	採用意向なし・計 (n= 4)		-	100.0	-	-

※「全体」と比較して 5pt 以上高い
-10pt 以上低い

●Q1N 貴社・貴団体の主業種をお選びください。(ひとつに○)

		(単位:%)	建設業	製造業	情報・通信業	運輸業	卸売・小売業	飲食店、宿泊業	社保健医療・社会福祉関連事業	その他サービス	官公庁・自治体	その他
全体	(n= 79)		10.1	17.7	2.5	5.1	53.2	1.3	1.3	3.8	1.3	3.8
従業員規模別	100人未満 (n= 16)		-	50.0	-	-	43.8	-	-	6.3	-	-
	100~499人 (n= 39)		15.4	10.3	2.6	5.1	59.0	2.6	-	2.6	-	2.6
	500~2,999人 (n= 18)		11.1	11.1	5.6	5.6	44.4	-	5.6	-	5.6	11.1
	3,000人以上 (n= 6)		-	-	-	16.7	66.7	-	-	16.7	-	-
採用意向別	採用意向あり・計 (n= 75)		9.3	16.0	2.7	5.3	54.7	1.3	1.3	4.0	1.3	4.0
	採用意向なし・計 (n= 4)		25.0	50.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-

※「全体」と比較して 5pt 以上高い
-10pt 以上低い

●Q3 貴社・貴団体の従業員規模として、あてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

		(単位:%)	50人未満	50~99人	100~299人	300~499人	500~999人	1,000~2,999人	3,000~4,999人	5,000~9,999人	10,000人以上
全体	(n= 79)		3.8	16.5	34.2	15.2	12.7	10.1	3.8	2.5	1.3
採用意向別	採用意向あり・計 (n= 75)		4.0	14.7	36.0	14.7	13.3	9.3	4.0	2.7	1.3
	採用意向なし・計 (n= 4)		-	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-

※「全体」と比較して 5pt 以上高い
-10pt 以上低い

<採用状況>これまでの採用者数

- 本年度の大学新卒採用者数は「1~9人」が53%で最も多い。
 - 以下「10~49人」(33%)、「50~99人」(6%)。

●Q4 貴社・貴団体の本年度 2022年4月入社の大学新卒採用状況についておうかがいします。大学卒の方の採用者数として、あてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

		(単位:%)	大学新卒 採用なし (0人)	1~9人	10~49人	50~99人	100人以上
全体	(n= 79)		3.8	53.2	32.9	6.3	3.8
従業員規模 別	100人未満 (n= 16)		12.5	87.5	-	-	-
	100~499人 (n= 39)		2.6	61.5	35.9	-	-
	500~2,999人 (n= 18)		-	22.2	50.0	16.7	11.1
	3,000人以上 (n= 6)		-	-	50.0	33.3	16.7
採用意向別	採用意向あり・計 (n= 75)		4.0	50.7	34.7	6.7	4.0
	採用意向なし・計 (n= 4)		-	100.0	-	-	-

※「全体」と比較して **5pt** 以上高い
-10pt 以上低い

<採用状況>今後の採用方針

- 来年度の大学新卒採用方針は、「2022年度と同程度」が60%と最も多い。
 - 以下「2022年度より増える」(28%)、「2022年度より減る」(6%)。

●Q5 貴社・貴団体の来年度2023年4月入社の大学新卒採用について、現時点でどのようにお考えですか。貴社・貴団体の方針にもっとも近いものをお選びください。(ひとつに○)

		(単位:%)	2022年度よりも増える	2022年度と同程度	2022年度よりも減る	大学新卒採用は行わない	未定・わからない	無回答
全体		(n= 79)	27.8	59.5	6.3	-	5.1	1.3
従業員規模別	100人未満	(n= 16)	31.3	50.0	12.5	-	6.3	-
	100~499人	(n= 39)	17.9	66.7	7.7	-	5.1	2.6
	500~2,999人	(n= 18)	38.9	55.6	-	-	5.6	-
	3,000人以上	(n= 6)	50.0	50.0	-	-	-	-
採用意向別	採用意向あり・計	(n= 75)	26.7	60.0	6.7	-	5.3	1.3
	採用意向なし・計	(n= 4)	50.0	50.0	-	-	-	-

※「全体」と比較して **5pt** 以上高い
-10pt 以上低い

大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』の学びの特徴について

- 【魅力を感じる特徴】としては、「ビジネスや情報など、社会科学系の科目の学習の機会がある。」(77%)がトップ。
 - 次いで「実習やインターンシップの機会が多い。」(63%)、「公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格の取得を目指すことができる。」(58%)。
- 9割以上の企業・団体が、いずれかの特徴を魅力的であると感じている(「魅力を感じる・計」)。

●Q6AN 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)の学び・取組みには、以下のような特徴があります。a) 魅力的であると感じる特徴について、番号をお選びください。(いくつでも○)

		(単位:%)	公認心理師をはじめとする、心理学の資格取得できる。	社会福祉士をはじめとする、社会福祉学の資格取得できる。	公認心理師と社会福祉士とができる。両方の国家資格の取得を目指すことができる。	ビジネスや情報など、社会科学系の科目の学習の機会がある。	実習やインターンシップの機会が多い。	無回答	魅力を感じる・計
全体	(n= 79)	55.7	55.7	58.2	77.2	63.3	8.9	91.1	
従業員規模別	100人未満	(n= 16)	43.8	62.5	50.0	75.0	68.8	12.5	87.5
	100~499人	(n= 39)	43.6	46.2	59.0	71.8	51.3	10.3	89.7
	500~2,999人	(n= 18)	77.8	61.1	55.6	83.3	72.2	5.6	94.4
	3,000人以上	(n= 6)	100.0	83.3	83.3	100.0	100.0	-	100.0
採用意向別	採用意向あり・計	(n= 75)	57.3	57.3	60.0	78.7	64.0	8.0	92.0
	採用意向なし・計	(n= 4)	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	75.0

※「全体」と比較して
 5pt 以上高い
 -10pt 以上低い

- 【他の大学にはないと思う特徴】としては、「公認心理師と社会福祉士、両方の国家資格の取得を目指すことができる。」(29%)がトップ。
- 3割以上の企業・団体が、他の大学にはない特徴があると思っている(「他の大学にはないと思う・計」)。

●Q6BN 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)の学び・取組みには、以下のような特徴があります。b)他の大学にはないと思う特徴について、番号をお選びください。(いくつでも○)

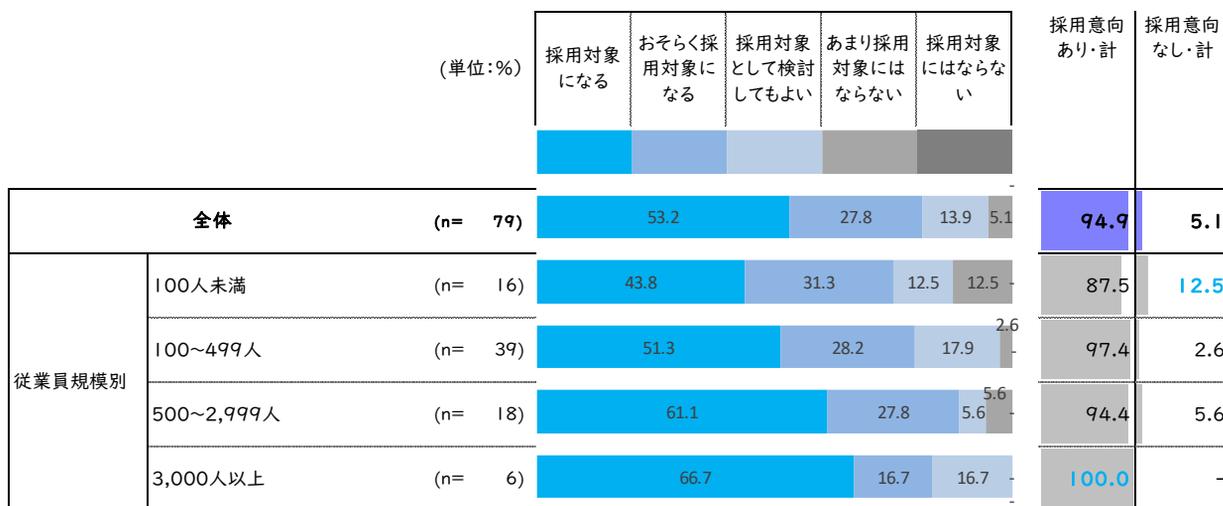
		(単位:%)	格公 が取 得心 理師 をは じめ とす る、 心 理 学 の 資	の社 会 福 祉 士 を は じめ とす る、 社 会 福 祉 学	格公 の取 得心 理師 と社 会 福 祉 士 が 得 とす る、 両 方 の 国 家 資	のビ ジ ネ ス や 情 報 な ど、 社 会 科 学 系 の 科 目	実 習 や イ ン タ ー ン シ ッ プ の 機 会 が 多 い。	無 回 答	他 の 大 学 に は な い と 思 う ・ 計
全体	(n= 79)	6.3	6.3	29.1	7.6	2.5	64.6	35.4	
従業員規模別	100人未満	(n= 16)	6.3	-	18.8	6.3	-	75.0	25.0
	100~499人	(n= 39)	10.3	7.7	33.3	10.3	5.1	59.0	41.0
	500~2,999人	(n= 18)	-	11.1	33.3	-	-	66.7	33.3
	3,000人以上	(n= 6)	-	-	16.7	16.7	-	66.7	33.3
採用意向別	採用意向あり・計	(n= 75)	6.7	6.7	30.7	8.0	2.7	62.7	37.3
	採用意向なし・計	(n= 4)	-	-	-	-	-	100.0	-

※「全体」と比較して
5pt 以上高い
-10pt 以上低い

大阪大谷大学人間社会学部『心理・福祉学科』の採用意向

- 大阪大谷大学「心理・福祉学科」で学んだ学生に対する採用意向を尋ねたところ、「採用対象になる」企業は53%、「おそらく採用対象になる」(28%)、「採用対象として検討してもよい」(14%)まで含めると、合計で95%が採用意向あり。

●Q7N 大阪大谷大学人間社会学部「心理・福祉学科」(仮称・構想中)で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えですか。貴社・貴団体のお考えにもっとも近いものをお選びください。(ひとつに○)



※「全体」と比較して
5pt 以上高い
-10pt 以上低い

採用意向人数

- 採用意向ありの企業に採用見込み人数を尋ねたところ、「1人」が45%と最も多く、以下「2人」(23%)、「3人」(12%)。

採用意向人数の合計は

130人

1社あたり平均人数は

2.0人

・「0人」の企業を除いた平均値

- 採用意向人数の合計が予定の定員数(50人)を上回る。

●Q8SFT IN 「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」を選んだ方にお聞きします。何人程度の採用が見込めるか、おおよそで結構ですので人数を下欄ご記入ください。

		(単位:%)	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6~9人	10人以上	未定・不明	無回答	採用意向人数あり	採用意向人数(合計)	1社あたり平均人数
採用意向企業															
全体	(n= 75)		1.3	45.3	22.7	12.0	-	4.0	-	2.7	9.3	2.7	86.7	130人	2.0人
従業員規模別	100人未満 (n= 14)		7.1	57.1	14.3	-	-	-	-	-	21.4	-	71.4	12人	1.2人
	100~499人 (n= 38)		-	63.2	21.1	10.5	-	-	-	2.6	-	2.6	97.4	62人	1.7人
	500~2,999人 (n= 17)		-	11.8	35.3	23.5	-	11.8	-	-	17.6	-	82.4	36人	2.6人
	3,000人以上 (n= 6)		-	-	16.7	16.7	-	16.7	-	16.7	16.7	16.7	66.7	20人	5.0人

※「全体」と比較して
5pt 以上高い
-10pt 以上低い

※1社あたり平均人数:「0人」の企業を除いた平均値

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	アサオ ヒロヨシ 浅尾 広良 <平成29年12月>		博士 (文学)		大阪大谷大学 学長 (平成29.12～令和5.11)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
（人間社会学部心理・福祉学科）													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学科 長)	コニシ ヒロユキ 小西 宏幸 <令和6年4月>		博士(社会学)		新入生セミナー 基礎ゼミⅡ(研究入門) 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 基礎コミュニケーション演 習 感情・人格心理学Ⅱ 心理的アセスメント 心理演習Ⅱ 心理実習 認知行動療法論 臨床心理学総論	1前 2通 1前 3通 4通 4通 1前 2前 3通 3後 4通 3前 4通	1 2 0.1 4 4 4 0.5 2 1 1 0.5 1 0.8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平21.4)	6日	
2	専	教授	タザワ ショウコ 田沢 晶子 <令和6年4月>		修士(心理学)※		新入生セミナー 基礎ゼミⅡ(研究入門) 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 心理学的支援法 公認心理士の職責 心理演習Ⅰ 心理実習 精神力動論 臨床心理学総論	1前 2通 1前 3通 4通 4通 1前 2後 3前 4通 3前 4通	1 2 0.1 4 4 4 2 2 1 0.3 1 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平17.4)	6日	
3	専	教授	ハタ ヤスヒロ 秦 康宏 <令和6年4月>		修士(学術)※		新入生セミナー くらしと社会保障 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会B※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 社会福祉概論※ 高齢者福祉論 ソーシャルワークの理論と 方法Ⅰ ソーシャルワークの理論と 方法Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ ソーシャルワーク実習 社会福祉調査論 社会福祉演習Ⅱ	1前 1前 1通 2通 1後 1前 3通 4通 4通 1前 2前 2前 2後 3後 3通 3後 4通	1 2 2 2 0.5 0.5 4 4 4 0.6 2 2 2 2 1 8 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (合5.4)	6日	
4	専	教授	フナモト ヨシユ 船本 淑恵 <令和6年4月>		博士 (社会福祉学)		新入生セミナー 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会A※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 社会福祉概論※ 社会福祉政策論 障害者福祉論 ソーシャルワーク実習指導 Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅴ ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導 Ⅱ ソーシャルワーク実習指導 Ⅲ 社会福祉演習Ⅱ 社会研究実習(事前事後の 指導を含む)	1前 2通 1前 1前 3通 4通 4通 1前 2後 2前 2通 3後 3通 3前 3後 4通 2通	1 2 0.3 0.2 4 4 4 0.7 2 2 3 1 8 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平19.4)	6日	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
5	専	准教授	アサノ ヒロコ 浅野 浩子 <令和6年4月>		博士 (臨床心理学)		新生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会B※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 基礎コミュニケーション演習 社会・集団・家族心理学A 教育相談の理論と実際 心理演習Ⅱ 心理実習 臨床心理学総論 社会研究実習(事前事後の指導を含む)	1前 1通 2通 1後 1前 3通 4通 4通 1前 2前 3前・後 3後 1 4通 4通 2通	1 2 2 0.5 0.1 4 4 4 0.5 2 4 1 1 0.3 0.2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	白鳳短期大学 総合人間学科 准教授 (平28.4)	6日
6	専	准教授	イデ サオリ 井手 沙織 <令和6年4月>		専門職 (臨床心理修士)		新生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会A※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 心理・福祉総合演習 臨床教育・学校心理学 心理実習 障害者・障害児心理学 臨床心理学総論	1前 1通 2通 1前 1前 3通 4通 4通 3後 3後 4通 4通 3前 4通	1 2 2 0.3 0.1 4 4 4 1 2 0.3 2 2 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (平29.10)	6日
7	専	准教授	ウエキ ナオ 植木 是 <令和6年4月>		修士(社会学)		新生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 基礎コミュニケーション演習 ソーシャルワークの基盤と 専門職Ⅰ 介護概論 ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と 専門職Ⅱ 医療福祉論 社会福祉演習Ⅰ ソーシャルワーク実習 精神保健の課題と支援 スクールソーシャルワーク 論※ スクールソーシャルワーク 演習 スクールソーシャルワーク 実習指導 スクールソーシャルワーク 実習 課題発見・解決演習(地域 コミュニティ編)【隔年】	1前 1通 2通 1前 3通 4通 4通 1前 1後 1後 2前・後 2前 3後 3通 3通 3後 3後 3後 3後 4通 4通 1通	1 2 2 0.2 4 4 4 0.5 2 2 4 2 2 2 8 2 1 0.5 1 2 2 0.7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (平29.4)	6日
8	専	准教授	ウエニシ ヒロユキ 上西 裕之 <令和6年4月>		博士(文学)		新生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 臨床心理学概論 福祉心理学 心理学文献講読 心理的アセスメント 心理演習Ⅰ 心理実習 健康・医療心理学 キャリア心理学演習 臨床心理学総論	1前 1通 2通 1前 3通 4通 4通 1前 3前 2前 3通 3前 4通 2後 3後 4通	1 2 2 0.1 4 4 4 2 2 2 1 1 2 2 0.3 2 0.3 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (令4.4)	6日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
9	専	准教授	ヤスタ マサル 安田 傑 <令和6年4月>		博士 (教育心理学)		新入生セミナー キャリアデザイン 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会B※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 心理学概論 学習・言語心理学 感情・人格心理学Ⅰ 教育心理学 心理学実験Ⅱ 心理学研究法 キャリア心理学 キャリア心理学演習 臨床心理学総論	1前 1通 1通 2通 1後 1前 3通 4通 4通 1前 2前 1後 2前・後 3後 3前 3前 3後 4通	1 2 2 2 0.5 0.1 4 4 4 2 2 2 4 1 2 1 1 1 0.4 0.2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (平27.4)	6日	
10	専	講師	カワサキ トシヒロ 河崎 俊博 <令和6年4月>		博士(心理学)		新入生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 基礎コミュニケーション演習 産業心理学 心理実習 人間性心理学 メンタルヘルスマネジメン ト演習 公認心理師の関係行政論 キャリア心理学演習 臨床心理学総論 社会研究実習(事前事後の 指導を含む)	1前 1通 2通 1前 3通 4通 4通 1前 3前 4通 2前 2後 3後 3後 4通 2通	1 2 2 0.1 4 4 4 0.5 1 0.3 1 1 1 2 0.3 0.2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都橋大学 健康科学部 助教 (合3.4)	6日	
11	専	講師	タニ トシヒデ 谷 俊英 <令和6年4月>		社会学修士		新入生セミナー 基礎ゼミⅠ(学習技術) 基礎ゼミⅡ(研究入門) 人間と社会B※ 心理・福祉学入門※ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究 社会福祉概論※ 心理・福祉総合演習 子ども家庭福祉論 ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導 Ⅰ 社会福祉演習Ⅰ ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導 Ⅱ ソーシャルワーク実習指導 Ⅲ スクールソーシャルワーク 論※ スクールソーシャルワーク 演習 社会研究実習(事前事後の 指導を含む)	1前 1通 2通 1後 1前 3通 4通 4通 1前 3後 2前 2前・後 2通 3通 3通 3前 3後 3後 2通	1 2 2 0.5 0.2 4 4 4 0.7 1 2 4 3 1 8 2 2 1 0.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 講師 (合2.4)	6日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
12	兼任	特任 教授	イワイ アキコ 岩井 晃子 <令和6年10月>		修士(教育学)		教職総合ベーシックⅠ 教職総合ベーシックⅡ 教職総合アドバンスⅠ 教職総合アドバンスⅡ	1後 1後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪大谷大学 教育学部 特任教授 (令2.4)		
	兼任	講師	イワイ アキコ 岩井 晃子 <令和7年4月>				教職直前対策 教職教養対策 教育インターンシップⅠ 教育インターンシップⅡ	3前 3後 2通 3通	0.6 0.6 0.5 0.5	1 1 1 1			
13	兼任	教授 (学部長)	オカジマ カツキ 岡島 克樹 <令和6年4月>		開発学修士		自治体研究 採用研究(公務員)※ 海外研修A(英語圏) 海外研修B(英語圏) 人間と社会A※ 現代社会学概論※ グローバル社会体験実習 国際社会学A 国際社会学B 地域社会体験実習(市役所) 資格・検定認定(複数型) 資格・検定認定(上級型) 課題発見・解決演習(子どもイベント編)【隔年】 課題発見・解決演習(地域コミュニティ編)【隔年】	3前 3前 1後 1後 1前 1後 2通 2前 2後 3通 1前・後 1前・後 1通 1通	2 0.5 2 2 0.3 0.6 1.5 2 2 2 1 4 4 1 0.6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平16.4)		
	兼任	講師	オガワ ノブユキ 尾川 信之 <令和9年4月>				キャリア概論 ロジカルシンキング ロジカルコミュニケーション 社会教養基礎 数学教養基礎 インターンシップ入門 就活力Ⅰ 就活力Ⅱ 採用研究(民間企業) 採用研究(公務員)※	1前 1前 1後 2前 2後 2前 3前 3前 3後 3後 3前	1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
14	兼任	特任 教授	オガワ ノブユキ 尾川 信之 <令和6年4月>		薬学博士 (東北大学) 経営学博士 (法政大学)		教育インターンシップⅠ 教育インターンシップⅡ	2通 3通	1 1	1 1	大阪大谷大学 教育学部 特任教授 (令2.4)		
	兼任	講師	オクノ ミドリ 奥菌 みどり <令和8年4月>										
15	兼任	特任 教授	オクノ ミドリ 奥菌 みどり <令和7年4月>		教育学士		簿記入門 経済学概論A 経済学概論B	1前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平17.4)		
	兼任	講師	オクノ ミドリ 奥菌 みどり <令和8年4月>										
16	兼任	教授	コンドウ アツシ 近藤 篤俊 <令和6年4月>		修士(経済学)		防災入門	1後	2	1	大阪大谷大学 教育学部 教授 (平24.4)		
17	兼任	教授	ジゲ マユミ 地下 まゆみ <令和6年10月>		博士(理学)		教職直前対策 教職教養対策 教育インターンシップⅠ 教育インターンシップⅡ 学校教育演習Ⅰ 学校教育演習Ⅱ	3前 3後 2通 3通 3後 4前	0.7 0.7 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 教育学部 特任教授 (令2.4)		
18	兼任	特任 教授	シバモト テツヤ 芝本 哲也 <令和7年4月>		工学士		海外研修A(朝鮮語圏) 海外研修B(朝鮮語圏)	1前・後 1前・後	4 4	2 2	大阪大谷大学 文学部 教授 (平2.4)		
	兼任	講師	スズキ トシカズ 鈴木 利一 <令和8年4月>										
19	兼任	教授	スズキ トシカズ 鈴木 利一 <令和6年4月>		文学修士※		生活科学	1前	2	1	大阪大谷大学 教育学部 教授 (平24.4)		
	兼任	講師	トミナガ ミカ 富永 美香 <令和6年4月>										
20	兼任	教授	トミナガ ミカ 富永 美香 <令和6年4月>		学術博士								

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
21	兼任	教授	ナカミチ アツコ 中道 厚子 <令和7年4月>		学術修士		スポーツキャリアデザイン	2前	2	2	1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (昭59.4)	
	兼任	講師	ナカミチ アツコ 中道 厚子 <令和8年4月>										
22	兼任	教授	ナカムラ マサシ 中村 雅司 <令和6年4月>		工学修士※		現代科学論 コンピュータ技術基礎Ⅱ 人間と社会A※ 情報学概論 多変量解析の方法 質的な調査と分析の方法※	1後 1後 1前 1前 2後 2後	2 2 0.4 2 2 0.7	1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平8.4)		
23	兼任	教授	ナガセ ヨシコ 長瀬 美子 <令和6年4月>		教育学修士※		課題発見・解決演習(子どもイベント編)【隔年】	1通	1	1	1	大阪大谷大学 教育学部 教授 (平4.4)	
24	兼任	教授	ニシナカ トオル 西中 徹 <令和6年4月>		博士(薬学)		自然科学への誘い※	1前	0.1		1	大阪大谷大学 薬学部 教授 (平18.4)	
25	兼任	教授	スキナ コズル 貫名 譲 <令和6年10月>		文学修士※		仏教学 いのちを共に考える	1後 3通	2 1	1 1	1 1	大阪大谷大学 文学部 教授 (平24.4)	
26	兼任	教授	フカイ ミホ 福井 美保 <令和8年10月>		博士(医学)		人体の構造と機能及び疾病	3後	2		1	大阪大谷大学 教育学部 教授 (令3.4)	
27	兼任	教授	フジワラ タカシ 藤原 崇 <令和6年4月>		博士(経営学)		人間と社会A※ 経営学概論 マーケティング論 社会研究実習(事前事後の指導を含む) 企業研究Ⅰ 企業研究Ⅱ	1前 1後 2後 2通 2前 3前	0.3 2 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (令4.4)		
28	兼任	特任教授	マツシタ ヒロノブ 松下 廣伸 <令和7年4月>		教育学士		教職直前対策 教職教養対策 教育インターンシップⅠ 教育インターンシップⅡ 学校教育演習Ⅰ 学校教育演習Ⅱ	3前 3後 2通 3通 3後 4前	0.7 0.7 1 1 1 1	1 1 1 2 2	1 1 2	大阪大谷大学 教育学部 特任教授 (令4.4)	
	兼任	講師	マツシタ ヒロノブ 松下 廣伸 <令和9年4月>										
29	兼任	教授	ヤマウチ アキヒロ 山内 章裕 <令和7年4月>		経営学修士※		スポーツ経営管理学 スポーツ社会学	2後 2前	2 2	1 1	1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平23.4)	
30	兼任	教授	ヨシカワ マユミ 吉川 眞由美 <令和6年4月>		医学士		人間と社会A※	1前	0.3		1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平23.4)	
31	兼任	准教授	コバヤシ ミキヨ 小林 未季代 <令和6年4月>		修士 (スポーツ科学)※		人間と社会A※ スポーツ心理学 スポーツコーチング学Ⅰ	1前 1後 3前	0.1 2 2	1 1 1	1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (平27.4)	
32	兼任	准教授	マイルズ グローガン Myles Grogan <令和6年10月>		博士 (外国語教育学)		英米文化を学ぶ 現代社会学概論※ 質的な調査と分析の方法※ 社会調査実習Ⅰ 社会調査実習Ⅱ	2前 1後 2後 3前 3後	2 0.7 1.3 2 2	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 准教授 (令4.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
33	兼任	准教授	スズキ コウヘイ 鈴木 幸平 <令和6年4月>		博士(学術)		英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション) 英語A(総合) 英語B(総合)	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 教育学部 准教授 (令3.4)	
34	兼任	准教授	タケトシ ケンイチ 竹歳 賢一 <令和6年4月>		修士(教育学)※		数学への誘い	1前		2	1	大阪大谷大学 教育学部 准教授 (平25.4)	
35	兼任	准教授	タクモト アキラ 竹本 晃 <令和6年 月>		博士(文学)		考古学	1前		2	1	大阪大谷大学 文学部 准教授 (平28.4)	
36	兼任	准教授	タナカ タカシ 田中 高志 <令和6年4月>		博士(医学)		自然科学への誘い※	1前		0.2	1	大阪大谷大学 薬学部 准教授 (平20.4)	
37	兼任	准教授	ナカジマ コウスケ 中島 悠介 <令和6年4月>		博士(教育学)		海外研修A(英語圏) 海外研修B(英語圏)	1後 1後		2 2	1 1	大阪大谷大学 教育学部 准教授 (平29.4)	
38	兼任	准教授	バタ ヒヨソン 朴 炫宣 <令和6年4月>		薬学博士		自然科学への誘い※	1前		0.5	1	大阪大谷大学 薬学部 准教授 (平30.9)	
39	兼任	准教授	ベー シュウキョー Beh Siewkee <令和6年4月>		修士(教育学) 京都大学※		海外研修A(英語圏) 海外研修B(英語圏) 英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション)	1前・後 1前・後 1前 1後		4 4 1 1	2 2 1 1	大阪大谷大学 教育学部 准教授 (平30.4)	
40	兼任	准教授	ムラタ ヒロコ 村田 裕子 <令和6年4月>		修士(家政学)※		文化人類学	1前		2	1	大阪大谷大学 文学部 准教授 (平25.4)	
41	兼任	准教授	ワタナベ イサム 渡部 勇 <令和6年4月>		博士(理学)		自然科学への誘い※	1前		1.1	1	大阪大谷大学 薬学部 准教授 (平30.9)	
42	兼任	講師	イズミ ケンスケ 泉 健介 <令和6年4月>		修士 (スポーツ科学)		社会研究実習(事前事後の 指導を含む) 課題発見・解決演習(地域 コミュニティ編)【隔年】	2通 1通		2 0.7	1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 講師 (令3.4)	
43	兼任	講師	イトウ ダイキ 伊藤 大貴 <令和6年10月>		博士(文学)		日本史学	1後		2	1	大阪大谷大学 文学部 講師 (令5.4)	
44	兼任	講師	クボヤマ リキヤ 久保山 力也 <令和6年4月>		修士(法学)※ 修士(教育学)		日本国憲法 法学 現代社会学概論※ グローバル社会体験実習 法と社会A 法と社会B 社会研究実習(事前事後の 指導を含む) 地域社会体験実習(市役所)	1前 1後 1後 2通 2前 2後 2通 3通		2 2 0.7 1.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 講師 (令2.4)	
45	兼任	特任 講師	ベイリー フィリップ Philip Bailey <令和7年4月>		修士(TESOL) (イギリス)		英会話A 英会話B	2前 2後		1 1	1 1	大阪大谷大学 教育学部 特任講師 (令5.4)	
46	兼任	講師	ヤマダ ケイタ 山田 佳太 <令和6年4月>		薬学博士		自然科学への誘い※	1前		0.1	1	大阪大谷大学 薬学部 講師 (平26.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
47	兼任	助教	マエダ ヌウスケ 前田 裕介 <令和6年4月>		修士(社会学)※		コンピュータ技術基礎 I	1前	2	1	1	大阪大谷大学 教育学部 助教 (令1.10)	
	兼任	講師	マエダ ヌウスケ 前田 裕介 <令和9年4月>										
48	兼任	講師	アオヤマ ゴウイチロウ 青山 剛一郎 <令和7年4月>		修士(文学)※		中国語会話A 中国語会話B	2前 2後	1 1	1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平29.4)	
49	兼任	講師	アキヨシ ヤスハル 秋吉 康晴 <令和6年4月>		博士(文学)		メディア論	1前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
50	兼任	講師	アサイ ヨシヒロ 浅井 義弘 <令和8年4月>		文学士		教職基礎社会	3前		2	1	大阪府立東百舌鳥 高等学校 教諭 (平31.4)	
51	兼任	講師	アラサキ クニヒロ 新崎 国広 <令和6年4月>		学術修士		福祉教育論	1前		2	1	大阪教育大学 教育学部 特任教授 (平29.4)	
52	兼任	講師	イド ユキ 井戸 有紀 <令和6年4月>		文学修士		中国語入門A 中国語入門B 中国語会話A 中国語会話B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平17.4)	
53	兼任	講師	イノウエ シンコ 井上 新子 <令和6年4月>		博士(文学)		文章表現	1前・後		4	2	大阪大谷大学 文学部 准教授 (令4.4)	
54	兼任	講師	イノウエ ミチコ 井上 美智子 <令和6年4月>		博士(学術)		宇宙・地球・生命の歴史 ヒトと環境	1前 1後	2 2	1 2	1 1	大阪大谷大学 教育学部 教授 (平19.4)	
55	兼任	講師	イワモト ユウタ 岩本 雄太 <令和6年4月>		学士(芸術)		音楽	1前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平27.4)	
56	兼任	講師	ウエダ アヤコ 上田 文子 <令和6年4月>		文学修士※		TOEIC Prctice A TOEIC Prctice B	1前 1後	1 1	1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平2.4)	
57	兼任	講師	ウエダ サキコ 上田 早記子 <令和7年4月>		修士 (人間福祉学)※		ソーシャルワーク演習IV ソーシャルワーク実習	2前・後 3通	4 8	2 8	2 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
58	兼任	講師	オオヤマ タカヒロ 大山 高弘 <令和6年4月>		修士(歴史学) (韓国)		朝鮮語入門A 朝鮮語入門B 朝鮮語会話A 朝鮮語会話B 朝鮮文化を学ぶ	1前 1後 2前 2後 2前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平25.4)	
59	兼任	講師	オカダ アキヒコ 岡田 章彦 <令和7年4月>		教育学修士		ことばの科学	2前		2	1	大阪大谷大学 教育学部 准教授 (平24.4)	
60	兼任	講師	オカダ タカシ 岡田 高志 <令和6年4月>		修士(文学)※		日本文化 日本文学 昔話研究	1後 1後 1前・後	2 2 4	1 1 2	1 1 2	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
61	兼任	講師	オカザキ マサヒロ 岡崎 昌宏 <令和6年4月>		博士(文学)		文章表現	1前・後		4	2	大阪大谷大学 非常勤講師 (平20.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
62	兼任	講師	オギノ カツユキ 荻野 勝行 <令和6年4月>		修士(文学)※		宗教学A 宗教学B 社会学概論A 社会学概論B 社会調査法A 社会調査法B	1前 1後 2前 2後 2前 2後		2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (平25.4)	
63	兼任	講師	オザキ ヨシコ 尾崎 好子 <令和7年10月>		米国ワシントン州 立シアトルコミュ ニティカレッジ 日本校 (米国)		医療福祉システム論Ⅰ 医療福祉システム論Ⅱ	2後 3前		2 2	1 1	一般社団法人 医療教育協会 理事長 (平21.3)	
64	兼任	講師	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		東洋史学	1前		2	1	天理大学 文学部 教授 (平21.4)	
65	兼任	講師	オノ シロウ 小野 史郎 <令和6年4月>		医学博士		生命科学入門※	1前		1.2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平27.4)	
66	兼任	講師	カミガウチ トシユキ 上垣内 俊行 <令和6年10月>		薬学博士		くらしと化学	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
67	兼任	講師	カワイ マサオ 河合 将生 <令和8年4月>		政策科学修士		NPO・NGO論	3前		2	1	NPO組織基盤強化コン サルタント office musubime 代表 (平23.7)	
68	兼任	講師	カワモト リエ 川本 理絵 <令和7年4月>		言語文化学博士		朝鮮語会話A 朝鮮語会話B	2前 2後		1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平14.4)	
69	兼任	講師	キン(カネハラ) レンカ 金(金原) 蓮花 <令和6年4月>		博士(文学)		中国語入門A 中国語入門B 中国語会話A 中国語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平22.4)	
70	兼任	講師	クマダキ ユウキ 熊懷 祐樹 <令和6年4月>		修士(文学)※		英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション)	1前 1後		1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平29.4)	
71	兼任	講師	クラモト アツシ 庫本 篤 <令和7年4月>		博士(工学)		情報社会学A 情報社会学B	2前 2後		2 2	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
72	兼任	講師	コダマ コウセイ 児玉 公正 <令和8年10月>		体育学修士		スポーツコーチング学Ⅲ スポーツコーチング学Ⅳ	3後 3後		2 2	1 1	大阪大谷大学 人間社会学部 教授 (昭62.4)	
73	兼任	講師	サカイ ヒトミ 酒井 仁美 <令和7年4月>		修士 (学校教育学)		司法・犯罪心理学	2前		1	1	兵庫教育大学大学院 非常勤講師 (令3.6)	
74	兼任	講師	サカウエ カヨコ 坂上 加余子 <令和6年4月>		文学修士※		英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション) 英語A(総合) 英語B(総合)	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (昭59.4)	
75	兼任	講師	サカタ タツヒコ 坂田 龍彦 <令和7年4月>		法学士		社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ 福祉経営論	2前 2後 3後		2 2 2	1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
76	兼任	講師	スクスエ(ハラダ) ヒトミ 祐末(原田)ひとみ <令和8年10月>		修士 (スポーツ科学)		スポーツコーチング学Ⅱ	3前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配年	当次	担当単位数	年間講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
77	兼任	講師	タカイ リュウ 高井 龍 <令和6年4月>		博士(学術)		中国語入門A 中国語入門B	1前 1後		1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
78	兼任	講師	タカノ ヤスオ 高野 保男 <令和6年10月>		文学博士		倫理学	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
79	兼任	講師	タナベ メグミ 田辺 めぐみ <令和6年4月>		博士 (美術史学)		フランス語入門A フランス語入門B フランス語会話A フランス語会話B 西洋史学 美術史	1前 1後 2前 2後 1前 1後		1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
80	兼任	講師	チョウ ジェイ 趙 在毅 <令和6年4月>		修士 (国際関係学) ※		朝鮮語入門A 朝鮮語入門B 朝鮮語会話A 朝鮮語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
81	兼任	講師	テラダ トモユキ 寺田 知行 <令和6年4月>		博士(薬学)		生命科学入門※	1前		0.8	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
82	兼任	講師	ドイ タカシ 土居 隆 <令和6年10月>		修士 (学校教育学)		発達心理学	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
83	兼任	講師	トモダ ジロウ 友田 次郎 <令和6年4月>		文学修士		ドイツ語入門A ドイツ語入門B ドイツ語会話A ドイツ語会話B ドイツ文化を学ぶ	1前 1後 2前 2後 2前		1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平22.4)	
84	兼任	講師	ナカ イクコ 中 郁子 <令和6年4月>		修士 (外国語教育学)		TOEIC入門A TOEIC入門B TOEIC A TOEIC B	1前 1後 2前 2後		2 2 2 2	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
85	兼任	講師	ナガイ イヅミ 永井 泉 <令和8年4月>		博士(学術)		教職文章表現	3前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
86	兼任	講師	ナカオ マサヒロ 中尾 将大 <令和7年4月>		博士(学術)		行動分析学 心理学実験IA 心理学実験IB 心理調査概論 心理学統計法 知覚・認知心理学 神経・生理心理学	2後 2前 2後 2前 2後 2後 2後		1 1 1 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平20.4)	
87	兼任	講師	ナガタニ マイコ 永谷 麻衣子 <令和7年4月>		修士(文学) ※		ドイツ語会話A ドイツ語会話B	2前 2後		1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平7.6)	
88	兼任	講師	ナカノ コウキ 中野 晃希 <令和6年4月>		修士 (言語文化学)		英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション) 英語A(総合) 英語B(総合)	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
89	兼任	講師	ナカムラ (ニシオ) ナナ 中村(西尾) 奈々 <令和6年4月>		文学修士※		フランス語入門A フランス語入門B フランス語会話A フランス語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
90	兼任	講師	ニシダ チヒロ 西田 千裕 <令和6年10月>		修士(教育学)		体育(講義を含む)	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令2.4)	
91	兼任	講師	ハシグチ ショウジ 橋口 昌治 <令和6年10月>		博士(学術)		経済と社会	1後		2	1	大谷大学 社会学部 任期制講師 (令4.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
92	兼任	講師	ハマダ タケシ 濱田 武士 <令和6年4月>		博士(社会学)		社会学入門 現代社会を学ぶ	1前 1後		2 2	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
93	兼任	講師	ハヤカワ サトミ 早川 智美 <令和6年4月>		博士(文学)		朝鮮語入門A 朝鮮語入門B 朝鮮語会話A 朝鮮語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平25.4)	
94	兼任	講師	ハヤカワ ハナヨ 早川 華代 <令和7年4月>		博士(文学)		日本の歌謡	2前・後		4	2	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
95	兼任	講師	ハヤシ ススム 林 進 <令和6年4月>		文学修士※		ドイツ語入門A ドイツ語入門B 比較文学	1前 1後 2後		1 1 2	1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
96	兼任	講師	ハラグチ ミサヨ 原口 美佐代 <令和8年10月>		政治学士		司法福祉論	3後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平23.4)	
97	兼任	講師	ヒガシ マサノリ 東 昌紀 <令和6年4月>		文学修士※		哲学	1前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平23.4)	
98	兼任	講師	ヒグチ タカコ 樋口 尊子 <令和6年4月>		言語教育情報学 修士		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本文化を学ぶ	1前 1後 2前		1 1 1	1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
99	兼任	講師	ヒョウ ジュンコ 兵 純子 <令和8年4月>		修士 (臨床心理学)		臨床産業・組織心理学	3前		2	1	三菱マテリアル 株式会社 三田工場 非常勤心理士 (令2.4)	
100	兼任	講師	ヒラノ ユウコ 平野 裕子 <令和7年4月>		博士(学術)		保育の心理学	2前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令5.4)	
101	兼任	講師	ヒロセ ミチヨ 広瀬 美千代 <令和7年4月>		博士(学術)		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2前・後		4	2	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
102	兼任	講師	フクシマ タカシ 福嶋 尊史 <令和7年10月>		学士 (スポーツ学)		障がい者スポーツ指導論	2後		2	1	大阪市舞洲障がい者ス ポーツセンター スポーツ指導員 (平20.4)	
103	兼任	講師	フジサワ シュウヘイ 藤澤 秀平 <令和6年4月>		文学修士※ D. E. A. (高等教育免状) (フランス)		フランス語入門A フランス語入門B フランス語会話A フランス語会話B フランス文化を学ぶ	1前 1後 2前 2後 2前		1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平19.4)	
104	兼任	講師	ベップ ヨウコ 別府 陽子 <令和6年4月>		文学修士※		ドイツ語入門A ドイツ語入門B ドイツ語会話A ドイツ語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平30.4)	
105	兼任	講師	マユカワ アツシ 前川 敦 <令和8年4月>		教育学士		権利擁護と成年後見論 ソーシャルワーク実習	3後 3通		2 8	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平22.4)	
106	兼任	講師	マエシマ ヒロシ 前嶋 弘 <令和7年10月>		修士(学術)		貧困に対する支援	2後		2	1	社会福祉法人みなと寮 救護施設こうせいみな と 施設長 (平29.10)	
107	兼任	講師	マツオカ トモコ 松岡 とも子 <令和6年4月>		博士(文学)		朝鮮語入門A 朝鮮語入門B	1前 1後		1 1	1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単位数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
108	兼任	講師	マツムラ ノリコ 松村 徳子 <令和6年4月>		文学士		同和教育※	1前		1.3	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平25.4)	
109	兼任	講師	ムカイ (イノウエ) ユリコ 向井 (井上) 有理子 <令和6年10月>		文学修士※		統計学Ⅰ 統計学Ⅱ 社会・集団・家族心理学B	1後 2前 2後		6 4 2	3 2 1	公益社団法人 国際経済労働研究所 研究員 (平24.10)	
110	兼任	講師	ムラオ トシヒコ 村尾 敏彦 <令和8年4月>		文学修士※		メディアの英語	3前		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
111	兼任	講師	ヤスタ サチコ 安田 幸子 <令和6年4月>		文学修士		英語A(コミュニケーション) 英語B(コミュニケーション) 英語A(総合) 英語B(総合)	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (昭58.4)	
112	兼任	講師	ヤマウチ タカシ 山内 貴 <令和6年4月>		修士(文学)		中国語入門A 中国語入門B 中国語会話A 中国語会話B 中国文化を学ぶ	1前 1後 2前 2後 2前		1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平24.4)	
113	兼任	講師	ヤマシタ コウ 山下 仰 <令和8年4月>		理学修士 医学博士		精神疾患とその治療	3通		2	1	やまもとクリニック 医師 (平13.10)	
114	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年10月>		教育学修士		体育(講義を含む)	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平10.4)	
115	兼任	講師	ヤマモト ヒロシ 山本 浩史 <令和6年4月>		修士(文学)※		中国語入門A 中国語入門B 中国語会話A 中国語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平28.4)	
116	兼任	講師	ヤシ チョウナチャ 梁 千賀子 <令和6年4月>		学士(文学)		同和教育※	1前		0.7	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平31.4)	
117	兼任	講師	ユタニ ヨシノリ 油谷 佳典 <令和8年4月>		経営学修士		ソーシャルワークの理論と 方法Ⅲ ソーシャルワークの理論と 方法Ⅳ ソーシャルワーク実習	3前 3前 3通		2 2 8	1 1 1	社会福祉法人桃林会 障がい事業部長 (令3.6)	
118	兼任	講師	ユシ ミヨンファ 尹 明花 <令和6年4月>		修士(文学)		朝鮮語入門A 朝鮮語入門B 朝鮮語会話A 朝鮮語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平22.4)	
119	兼任	講師	ヨシダ ヌウイチロウ 吉田 祐一郎 <令和7年4月>		修士 (社会福祉学)※		地域福祉論Ⅰ 地域福祉論Ⅱ	2前 2後		2 2	1 1	四天王寺大学 教育学部 准教授 (平31.4)	
120	兼任	講師	テレンス ランカシャ Terence A. Lancashire <令和6年10月>		博士(文学)		日本文化	1後		2	1	大阪大谷大学 非常勤講師 (令4.4)	
121	兼任	講師	リュウ テイ 劉 亭 <令和6年4月>		修士(文学)		中国語入門A 中国語入門B 中国語会話A 中国語会話B	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	大阪大谷大学 非常勤講師 (平28.4)	
122	兼任	講師	ワダ マサシ 和田 匡司 <令和7年10月>		博士(工学)		自然科学史	2後		2	1	大阪府立環境農林水産 総合研究所 主任研究員 (平29.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	修士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	専門職 (臨床心理 修士)
	修士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
講師	博士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合計	博士	人	人	3人	3人	人	人	人	6人	
	修士	人	人	1人	2人	1人	人	人	4人	
	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。